東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102 岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1959年3月15日（隔月発行）



説教

共に祈る訓練

―マタイ一八の二〇―

戸田伊助

なぜ密室の祈りの外に祈禱会は持たれるのか。もたれねばならないのか。この間をもう一度発してみよう。

× × ×

祈禱会につどう動機にはいろ〳〵あると思う。教会に行って祈りたくなったからとか祈りの雰囲気にふれたくてとか、その他いうにいわれぬその時その時の個人的理由があろう。そうした個人的臨時的の理由は別として、教会においていつも祈禱会がもたれ、またもたれねばならないのには、そこにもつと基本的な理由があるのである。少くとも二つはある。

× × ×

その第一は、「我らの祈り」をするということである。あらゆる祈りの基準である「主の祈」の後半は決して「私にあたえ給え」「私の罪をゆるし給え」「私を救い給え」とは教えていない。「我らに」「我らの」「我らを」である。信仰は勿論「私と神との対話」を究極的なもの、最後の決心の場所としてもつことである。しかし、その私は単なる孤立した私ではなく、我らという広がり、交りに連り、責任をもち、関わっている私であるそうでない私というものが考えられている時にはその人は堕落しているのである。だから、密室にある時でも、我らに、我らの、我らを、と祈らないようなエゴイズムの祈りはききとどけられないと考えるべきだろう。

さて、この「我ら」という言葉と意識は誰もいないところで一人で口にされる場合、例外はあるが多くの場合は真実性にうすく観念的になる傾向がある。この言葉は「共にある場」で口にされてこそ真に生きた言葉として経験される共通の課題のために真に一つとなつて祈る祈禱会が信仰生活になければならない一つの理由がそこにある。

× × ×

第二の理由は、我々は一緒に神の前に裸になる必要があるということである。本来、祈りとは神の前に裸になることである。ありのまゝの自分を投げ出して祈ることである神の前ではかざりや気どりやゼスチヤや、また立派でなければならないというような意識もある必要もなければ、あつてもならない。

さて、誰もいないところでならそのようになつて祈れるが、人のおるところでは出来ない、というなら、その人はまだ裸になる事に徹していないんだと私は思う。（私自身もまだ〳〵その一人）人間は人の前で裸になれてこそ、真に裸となつているのであつて、人の前でなれないなら、その人は神の前にまだ〳〵大いに着こんでいるのである。我々は祈禱会においてこそ真に神の前で裸になることを求められているのだ。一人だとすなおに祈れるが、人の前では祈れないというのは、自意識にとらわれているのである。自由となつていないのだ。誰といる時でも、一人でいる時と同じように神の前に裸でありたい。そうした祈りが出来るものでありたい。

そして、水泳の訓練が水中でなされるように、このような真の祈りの訓練は祈禱会でこそなされる。二、三人我が名によつて祈れ、と命じられる時、私たちはこのような祈りの訓練をされているのである。祈禱会はまさに道場でもある。

このようなことが行われているか、それとも目ざされているかしている時、初めて私たちの交りは真実さと緊密さを加えられるのだと思う。互に神の前で裸になつて一緒に祈れない交りの中には、まだどこかにかざりがあり、うそがあるように思う。

以上二つの点に祈禱会の神学的基礎と必然性を私は考える。

なお、祈禱会の中にある二三の誘惑についてのべたかつたが誌面がないので省略する（蕃山町教会牧師）

公告

東中国教区定期総会

日時　三十四年四月十四日（火）十二時半より
　　十五日（水）十二時まで

会場　鳥取市西町六二　鳥取教会

教区規則第十五条及び第十六条により右の通り本教区定期総会を開催致します。

規則に基いて各教会より代議員の御出席をお願い致します。

くわしいことは後報致します。

昭和三十四年三月八日

教区総会議長　壺井正夫

目次

◇ 説教…共に祈る訓練 ……戸田伊助 (1)
◇ 受難週の日日 ……飯清 (2)
◇ 聖句随想 ……長坂龍太郎 (2)
◇ 宣教百年を迎えて ……壺井正夫 (3)
◇ 随筆…いばらと百合 ……高杉三四子 (3)
◇ 放射能 …… (3)
◇ 再建伝道報告 …… (4)
◇ 教区内ニュース …… (4)

キリストと偕に歩む
受難週の日日

飯清

三月二十二日（日）
棕梠の聖日

この日から受難週が始まります。私達は祈りと聖書拝読とそして冥想の中に、キリストと共にこの一週を歩もう。

主イエスはこの日、群衆が棕梠の枝を打ち振り、衣を道に敷いて「ホサナ、ホサナ」と歓呼する中にエルサレムに入城された。聖なる神の都ではない。「預言者たちを殺し遣された人たちを石で打ち殺す」罪人の町である。

マルコ十一・一—十一を読んで祈ろう。

「主よ罪人なる私の魂の中にも入城して下さい」

三月二十三日（月）
宮潔めの日

「愛と恵に充ちた主」と対遮的に、これは余りにも峻厳なイエスの姿を見出すのがこの「宮潔め」である。

十字架は「神の義と愛のあえるところ」（讃二六二）と唱われているが、贖罪の赦しと恩恵に浴する前に、審かれ潔められねばならない。葉ばかり茂って実をもたぬ無花果は枯らされる。

マルコ十一・十二—二六を読んで「主よ、私達の内なる宮も潔めて下さい」と祈ろう

三月二十四日（火）
教えと論争の日

宮を潔め給うたキリストは今日再び帰って来て群衆と私達を教えられる。批判的なパリサイ人やサドカイ人の妨害にも拘らず「大ぜいの群衆は喜んでイエスに耳を傾けていた」と福音書は伝えている。

私達も聴く耳を持って御言を学ぼうではないか。この日の記事はマルコ十一・二七—十三・三七にある。

「主よ、カイザルのものを捨て、神のもののみを以て神に仕えるものにして下さい」

三月二十五日（水）
ベタニヤの一日

祭司長や学者たちの策謀の荒び猛っている時に、主は静かな一日をベタニヤで過して居られた。マルタ、マリヤ、ラザロの姉弟たちとの楽しい語らいや癩病人シモンの夕餐への招待があった。ナルドの香油が惜しみなく主に注がれたのもこの日であった。

喧騒より離れて、私達も主と偕にベタニヤに静思の一日を過したいものである。マルコ十四・一—十一がこの日の記録として残されている。

「主よ、私達の携えた香油を惜しみなく凡て御前に献げ得る者として下さい」

三月二十六（木）
洗足木曜日

あのエルサレムの二階座敷で主は自ら生命のパンを劈き契約の血を流し給うた。洗足の行事で始まったこの夕は、ゲツセマネの祈でその頂点に達する。

マルコ一四・一二—四二

「主よ、御意のまゝにと従い得るものとして下さい」と目を覚して祈ろう。

三月二十七日（金）
受苦日

主イエスの捕縛、審問、そして十字架の死——それは正に人類の最悪の日であった。然し断じてキリストの悲劇ではない。十字架は愛の勝利の日である。

マルコ一四・四三—一五・四七を読んで、主の勝利の十字架を唱おう。（讃一三七）

三月二十八日
暗黒土曜日

主は墓に葬られ悪は一時のはかない勝利を誇っていた。

三月二十九日（日）
復活節

「夜はよもすがら泣き悲しむとも朝には喜びうたわん」（詩三〇・五）それは正に輝ける朝であった。主は今や死と罪とを滅して甦られた。

私達も永遠の生命と救いの確信を新にしながら、この朝のイースター礼拝に出席しよう。

（倉敷教会牧師）

句想　聖随

主のわざに励みなさい

長坂龍太郎

「堅く立つて動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい」（第一コリント・一五ノ五八）

今から三十数年前の話で私がまだ中学の可愛い生徒の頃である。住んでいたMと言う町のいとも小さな教会に近江ミッションの本部のある八幡から毎土曜日から日曜日にかけて武田先生は五、六時間を要して自転車で出張して来られた。数名いる信者達も、不親切でもなかったのであろうが毎度の事とて出迎える者もなく食事のお世話をする者とてなく、夕方中学生達がよく勝手な事をしに教会へ往って見ると六十才前後かと記憶される先生が御自分で疲れた体を休める間もなく、夜の伝道集会前の一二時間を用いてコンロに火をおこして夕食の仕度をしておられるのを見た。生意気ざかりの学生達は「猪乎」という先生の名前を「チョの平ノ—」とかげて呼んだその後数年にして先生は病死されたがその臨終はさすがは牧師さんだと医者や看護婦から言われる程の立派なものだったと伝え聞いた。先生は所謂、名説教家や偉大な教会政治家ではなかったが私には忘れられない本当の牧師の一人である。

その名もなき教会の当時の小さな群から牧師や牧師夫人が出た事を想うと、矢張り先生は全力を注いで主のわざに励まれたのだなあと教えられる。先生は田舎町の教会から冷遇されても身をすりへらしても、その働きの結果が仲々あがらないでも堅く立って動かされなかった人である。

主にあってはその労苦が決して無駄になる事はないと確信して、いつも全力を注いで主のわざに励んだ先生の如く私もありたいと願う。「いつも」と言う事は仲々むずかしい事だが、むら気であってはならない。都合のいゝ時だけではいけない。調子のよいときも悪い時にもである。

（岡山信愛教会牧師）

元売発売
明色クリンシン・クリーム
明色ソフト・アストリンゼン
桃谷順天館の
アルミック！
G11配合の新強力殺菌剤
アセモ・タダレを治すと共に
ヒフ病を防ぎます　定価 60円・80円

"いばら"と"百合"

高杉三四子

随筆

基督のいばらは三月四月の頃深紅色の花を開く。此のかわいそうな植物は旧約聖書以来いい場面には少しも登場していない。荒廃と空虚、焼失等の引合に出されている。そして新約聖書では十字架に死に給うイエスの王冠として編まれている。ロマの兵士たちが「ユダヤ人の王」として嘲笑するために編んだいばらの王冠に、深紅の花が一つ、二つひっそりと咲いていたであろうか。重い十字架を、クレネのシモンに支えられ、ヴィアドロロサを、再び辿らない道を往き給うイエスの頭に一滴の血とまがう深紅の小さい花が匂っていたのであろうか。イエスの着物は、くじで分けられた。いばらの王冠はどうなったであろうか。宝石や黄金に輝く王冠の行方を探ねる者は多いが、いばらの冠、キリストの王冠については人はたずねない。アイザック・ワッツは、「いばらは、まばゆき冠と輝く」(讃一四二)とうたっている。

甦りの朝、どんなに太陽が輝かしく照らしていたとしても、墓場を訪れる女達の心を支配していたのは生々しい十字架の暗黒と血の記憶であったであろう。女達をイエスの墓にゆかせたのは、愛であったに違いないと思う。しかし人間の愛は甦りを正しく捉える事が出来なかった。女達は墓場で、おどろき、おそれ悲しみ嘆いたのである。

上よりのみ告げと、イエス御自身の顕現がなかったら、甦りを信じる事は出来ないのだ。十字架と復活は連続した自然的な出来事ではない。復活は神のたまものである。いばらから百合が生じたのである。イースターリリイと呼ばれて欧米の教会の復活祭の講壇を飾るのは日本の農園で栽培された鉄砲百合である。

(笠岡教会牧師)

☆ ☆

教区修養会

教区総会直前
三朝渓泉閣で

教職信徒修養会は教区総会に先立って、四月十三日(月)午後三時より十四日午前十時半まで、佐伯倹牧師を講師に迎えて開かれる。総員伝道の神学的基礎づけを主題とするこの全体修養会の成功が期待されている。

「主の御委託に、こたえて ゆこうではないか」

——宣教百年を迎えて——

壺井正夫

宣教百年の記念の年を迎え「教会総がかり伝道」を開始して早や二カ月余りを過した一月三日以来十八日まで、児島、玉野、玉島以西、倉敷周辺、岡山以東、鳥取県、伯備線沿線、津山美作、の七地区において総員伝道発足の宣言大会(地区別宣教会議)を開き、合計六〇四名が集って先ず気勢をあげたが、これからが実戦である。教団も、教区も、各教会も、その総力を挙げて伝道を実施するというのであるから、そして更に宣教第二世紀への前進を計ろうというのであるから、いまだかつてなき気力と決意とを以て総員が相和して立ち上らなければならない。一名の傍観者もあってはならない。各教会に属する全信徒が各々の教会伝道所で、自ら進んで仕事を見つけ出して積極的に活動してゆく。勿論教師も信徒も一つとなって、いまだなきほどの収穫と前進の成果をあげたい。このために絶えず「祈りをはげみ」ながら救主キリストの十字架の恵みを受けて先ず各自の教会・伝道所に奉仕を致したい。「コイノーニア」(信徒の交わり)の喜びを経験しつつ進んでゆきたい。教区は出来る限りの相互援助をおしまない態勢を取っている。

全教会・伝道所よ、全信徒・兄弟姉妹よ、共に共に、奮起しようではないか早や四月は目睫にあり、「収穫」をもちよる十一月の教団主催の宣教大会も目前に迫っている。遅延はゆるされない。「総がかり伝道」は実戦に入っている。

教団では毎日正午に祈禱会を開いて祈っている。正午に祈っている教会は多くあるであろう。

思えば、私どもの群は小さく、資金も弱く、戦術も、計画も貧困である。けれども祈りに答え給う活けるキリストの御臨在を確信しよう。そして宣教百年のこの世代に召されて信徒とされた主の御委託に、こたえてゆこうではないか。(教区総会議長、岡山教会牧師)

編集委員会
飯清、長坂龍太郎
斎藤道雄、高杉三四子
戸田伊助

放射能

▼第一回の編集委員会は、編集責任者の決定をめぐって難航したが、この欄の常設と名称の決定とは簡単にきまった。名づけて放射能▼委員はみんな、放射能の浸透力に、共鳴したらしい。「社会大衆への福音の浸透」のため、心を痛め悪戦苦闘しているせいかもしれない。▼アメリカの原子爆弾の放射能は、非戦闘員を殺した。しかし、福音の放射能は、人間を生かす。前者を繰返してはならないが、後者は日日キリスト者の生によって証しされねばならない。▼そういう証しをもったキリスト者を世におくるのが、今日の教会にとって大きな使命であろう。浸透力の強い福音に生きるダイナミックな人間を。▼閑話休題、放射能といえば、すぐ原子力だとかウランだとかを連想する。そのウランの鉱脈が、鳥取県と岡山県とを人形峠で結んでいることは先刻ご承知の通り。▼それで、教区報のこの欄を放射能と名づけたのだなと推理する方もありましょう。教区報がウラン鉱となりうれば、幸いである。

水野歯科
水野浩四(誉山町教会員)
岡山市門田屋敷37
電話②3028

教会便り

鳥取教会（常田牧師）
明年三月に迎える創立七十周年を前に、記念事業が計画されている。教会堂の拡張もその中の一つ。組会活動や個人伝道が成果をあげつつあるのは頼もしい。

玉野教会（丹羽牧師）
「收穫と前進」との標語を掲げて倍加達成を目標に、伝道戦線の統一と拡張を目指している。伊藤栄一牧師を迎えての聖会は延べ二三〇名の盛会。明年の秋には新会堂の建設を計画する。

高梁教会（寺崎牧師）
昨秋教会堂内外の改装をなし、面目を新たにした。工費八五万円。次は納骨堂建設が予定されている。地味な伝道が次の一大飛躍を期待させる。

天城教会（山村牧師）
創立七十五周年を迎え、教勢倍加や特別伝道集会のために強力な計画が進められている。教友原田邦男兄を農村伝道神学校におくつて意気さかんである。

米子教会（加藤牧師）
集中伝道は感謝のうちに、幕を閉じ、余勢をかつて総員伝道に突入。最近の礼拝出席平均三七名、伝道会二〇名祈禱会一七名。ここでも会堂増築の話題がある。

倉敷南伝道所（滝口教師）
三月で滝口教師辞任、四月には兵庫教区より岡本加都夫教師が着任する。第二種教会となる日も近い。

倉敷教会（飯牧師）
祈りの中にレントの特別集会が続けられている。連続の説教や聖書講義によつて強められ、立ちあがろうとしている。受難週には祈禱会聖餐式、音楽礼拝が守られる。

用瀬教会（エルダー宣教師）
本年度は躍進の年であつた会計面では二倍の飛躍、四名の受洗者を与えられ、三十五年には専任牧師を招聘するまでになつた。自立と伝道への意欲をもやしているのは心強い。文書伝道、個人伝道に特に力を入れているよし。

旭東教会（斎藤牧師）
四月に全体修養会を開く計画があり、各部の有機的活動を期している。多難な年であるが、希望を失つていない。

津山教会（古河牧師）
昨秋古河治牧師を迎え新しい歩みがなされている。

津山城西教会（中島教師）
最近教勢とみに上昇。感謝と希望のうちに、前進への祈りを一層深めている。

玉島教会
現在無牧中で、倉敷より脇本牧師の応援をうけているが、近く専任教師が着任する筈。

再建伝道を感謝して

再建伝道報告

昭和二十六年一月、三十年来の惰眠から醒め、漸やく立ち上つた古くて弱い教会です。復興以来、限りなき上よりの御恩寵により、前進の一歩を踏みだしたが、思いもよらず、その後烈しい悪魔の打撃を受け、教会内の困難相重なり、牧師は去り、会員は離散し、遂には聖日の礼拝も守り得ない程になつたが、かゝる嵐の吹きすさぶ中にも、少数のしもべはひたすら、主の憐憫を信じて祈りつづけていた。あゝ、感謝すべきかな、三十一年春、突然、教区の先生方の御尽力により、教団の再建伝道地としての指定を受け、有力なる援助を得、同時に、荒谷牧師を迎えたのであつた。以来、見えざるに見給う主の御恩寵と牧師の有力な指導とにより、教勢次第にとゝのい、受洗者も増し、転入者も加わり、教会内の信徒の交わりも次第に深められ、会堂内外の諸設備も漸次整備し、再建伝道三ケ年を終ろうとする今日、教会の基礎、漸やく固まり、その自給独立も今一歩という処である。ハレルヤ。更に、来年度は、新しい伝道計画を進め大いなる幻を見んものと、一同祈り且つ励んでいる。

（薬師寺富雄　美作落合教会長老）

青年部ニュース

岡山県KKS大会
主題・時代を生きる神の民
講師・教団青年専門委員会協力宣教師
R・A・ディヴイス
日時・三月二十三日（月）
十時半—四時
場所・蕃山町教会

編集後記

▼「伝道ニュース」よりバトンを受け、「東中国」を創刊しました。親しめる教区報にしたいものです。ご意見をおきかせください。（M・S）

有賀鉄太郎著
歩みは光のうちに
第一部　福音・教会・世界、第二部　道、著者自身の学問と人生、信仰と思索を通じてキリスト教的人生観、世界観について語つた親しみやすく、豊かな味わいのある「建徳的説話」であります。
価三〇〇円　〒三二円

A・リチヤードソン著　小黒　薫訳
福音書における奇跡物語
本書は、聖書の神観、すなわち神の存在と力への信仰によつて書かれた奇跡物語の宗教的価値と意義について、手堅い手法で説明した、奇跡物語に関する代表的な名著であります。
価三〇〇円　〒三二円

J・フオスター著　芦名直道訳
エルサレムから始つて　クリスチヤン・ブックス　10
十七世紀にわたる、興味深いキリスト教の伝道の歴史は、読者に新鮮な感動と宣教に対する勇気を与えます。総員伝道が叫ばれている今日、全信徒に読まれるべきものであります。
価一二〇円　〒一六円

J・マーチン著　石島三郎訳
イエスは復活したか　クリスチヤン・ブックス　12
キリスト教信仰のすべてがかけられているイエスの復活の真実性を新約聖書本文の周到な研究によつて裏づけ、この比類のない奇跡の意義をあまさず明らかにした好著。復活祭にあたつて必読のものです。
価一二〇円　〒一六円

岡山教会へ　又は直接に御注文下さい
日本基督教団出版部
東京都中央区銀座四の二
振替　東京一八三二九

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1959年5月15日（隔月発行）



ファン・ゴッホ　樹陰の小さな教会1884

説教

神のみ

―第一コリント三ノ一～九―

常田二郎

「神さま」と呼ぶ時私どもは神様は人間のために存在し、人間を幸福にして下さると直感します。そこで、人は神様の能力や効能を見極めてから信ずるという。そこには、人間の願いを、神を利用して実現しようとする思いあがつた心があるのではないか。徒党を組んだり虚栄に走るコリント教会に書き送ったパウロの手紙を読んで、私はこの訴えと警告をいつも強く感じます。「あなた方の内に信仰が植えつけられるまでに私達は何度飢え渇き、裸にされ鞭たれ、又罵られて来たか。いや私達の労苦ではない。イエス様の労苦。主は十字架の恥と苦難を、あの責め苦を忍ばれたのです。あなた方の信仰の背後に血の雫の如き汗を流して祈られたイエス様の痛みのあることを忘れているのか。この様な愛の陣痛があなた方の信仰の背景にあるのに、教会の中で党派に分れたり、虚栄心に支配されたり、何という思い上った信仰か」私は烈しく責められるものを感じます。神に聞き神に従うよりも自分の徳を建てる為に徒党を組み、神を屈服させようとする暴力はないでしょうか。

礼拝という言葉には真実をさゝげるという意味があります。

私どもの信仰の中心は礼拝で真実を神にさゝげることであるのに党派を組んだり虚栄の心をもつたり何という背反行為でしょうか。自分は神に喜ばれるより人に喜ばれようとしているのではないか。神に忠実である為に世のくずの様にあしらわれるより、人に喜ばれる方が楽ではないかとパウロは思い悩みました。予言者エレミヤもそうです。彼は真理がゆがめられる時に深い痛みをもって真実を叫び、その為に友を失い苦境に立ち生涯孤独と悲哀の中にあつて「あなたは私をあざむいた」と神に訴え悩む姿が浅野順一著「真実」の中で述べられています。

しかし彼はこの悲痛な訴えとともに「私はあなたに私の訴えをお任せします」と云ってひれふしています。これが彼の礼拝であります。

私どもはキリストにあざむかれたのです。不真実な人間が真実なる神に欺かれて、看板を塗り替えたのです。今更虚栄心をもって人の御気嫌をとり、党派を組んで自己を有利にしなければならないのですか。不真実と不信仰に対して強い抵抗を感じます。そしてその為に孤独と敗北感に襲われ「神様、あなたは私をあざむきました」と嘆き訴えます。そして不思議なことにその時に「私は私の訴えをあなたにおまかせします」と自分を神に明け渡す真実感に満されます。この悦び、この強さを私達は礼拝以外のどこで経験しようというのですか。私どもは礼拝に出席して少しも恵まれない不満を感ずることがよくあります。説教に満足しないためでしょうか。

初代教会の礼拝は説教と聖餐が固く結ばれ、しかも後者の比重が非常に大きかつたとクルマンはいいます。今日の礼拝は説教にのみ偏して、講演でも聞く様な気分に満されてはいないか。「主に従い行くは如何に喜ばしき」と子供の頃歌いました。しかし今は主に従い行くことは苦しみです。「あなたは私を欺きました」と泣き伏して訴える礼拝そこで神に自分を明け渡して大事なのはあれでもなくこれでもなく、私を欺いた神のみでありますと告白したいものです。

（鳥取教会牧師）

声明

「伊勢神宮の国家保護」に関する件

最近、政府与党の一部において、伊勢神宮を宗教の外に置き、国家が特別の保護を与える法的措置を講じようとする動きがあると報道されている。かかる動きは、憲法の規定する政教分離の原則に反し、かつ信教の自由をおかす危険がある。よって本教区総会は、かかる動きに対して断固反対を表明する。

昭和三十四年四月十四日

日本基督教団　東中国教区総会

目次

◇説教…神のみ …… 常田二郎 (1)
◇礼拝について …… 高塚勝醇 (2)
◇聖句随想 …… 播磨醇 (2)
◇放射能 …… (2)
◇礼拝の心得 …… 加藤後行雄 (3)
◇礼拝の前と後 …… 斎藤道 (3)
◇教区内ニュース …… (4)

13
40
520

礼拝について

高塚勝

真の礼拝とは何か？という問を前にして連鎖反応的に思い浮ぶことは、〃教会生活の中心は礼拝であり、その礼拝の中心は説教である〃という私共にとっては常識ともなっている解答である。

ところがこの説教中心ということであるが、確かに礼拝形式の中では中心を占めている。けれどもよく考えてみると、少し説教が長くなると会衆は全く無関係のことを夢想したり居眠りをしたりする。教会からの帰途、最大の話題が〃今朝の説教はよかった〃とか、〃つまらなかった〃とかいうことであったりするようだ。

確かに礼拝の中心は説教であるともいえよう。しかし中心だけが鮮明に前面に浮び出て、前後のものが無関係にかすんでいてよいはずはない。説教以外の部分は、説教の附属品であるかの如く。

それならば、聖書朗読の方法を、讃美歌の歌い方を少し研究したら……という意見もあろう。けれども礼拝の問題は決してそのような技術的なことではないと思う。

当然のことながら、このことは聖書から学ぶべきだといえよう。旧約聖書では、レビ記、エゼキエル書などから、新約聖書では特に聖餐式に関する個所などを。

いうまでもなく祭司法典より成立するレビ記には、祭司的なもののみ方が、エゼキエル書には予言者的もののみ方が礼拝問題についても示されている。一方が伝統的、回顧的、保守主義に立って神に仕える祭り、儀式に全心を打ちこんだのに対して、他は神の国の幻を将来にのぞみつゝ前進し、神に犠牲を捧げるよりも、人に正義を行うことを重要視した倫理的立場が主張されている。

しかしこの両者が実は、イスラエルの礼拝儀式のうちでは交流し、錯綜し、会堂礼拝に神殿礼拝にと具体化され、更にイエスの時代へと両者が強調されたり、軽視されたりしながら進んでいった。

イエス自身の立場は、私どものよく知っているように、予言者的なものに支配されていた。事実イエスは当時の祭儀主義者、律法主義者から反感を買い、十字架にかけられるに至ったことからもうなづけると思う。

けれどもイエスは決して祭儀的なものを拒絶していたとは考えられない。（マタイ五・一七）又、原始教会の会堂礼拝にも多分に予言者的なものを見出すが、他面イエスの事蹟から「パンをさくこと」又主の晩餐を取り入れていることは、彼等の礼拝要素に祭司的なものの混在していたことを示すといえよう。更に彼等が次第に一定の式文形態のものを用いたことも明らかなことといえる。

要するに礼拝の問題は決して技術のことでなく、聖書に立脚し、歴史を検討して論ぜられるべきであろう。

クルマンが原始教会の礼拝の特徴を「自由と拘束の調和」といっているが、実に原始教会の礼拝には、予言者的なものと祭司的なものが相即し み霊の自由な働きと一定の式文使用とにより調和を保っていたことをおもう。

礼拝がサーヴィスといわれ神への奉仕であるならば、いま少し神の栄光をほめたゝえ己を無にして、神を一切とする供犠の面も検討されてよいのではないかと思う。

（玉島教会牧師）

聖句随想

〃燻んだランタン〃

播磨醇

「神の御名はあなたがたのゆえに、異邦人の間で汚されている」（ローマ人への手紙二・二四）

ブルンナー博士が国際キリスト教大学教会の送別説教で〃私自身が「燻んだランタン」である。私の周りには濃いペンキでゴテゴテ「エミールブルンナー」と大きな文字が書かれている。この様に、私はキリストと人間との間に大きく立ちはだかって、キリストの光をおぼろならしめている。私にとって一番残念なことは、自分が多くのキリストに帰ってゆく人々の躓づきとなっていることである。……申訳ない、誠に申訳ない〃と謙虚に会衆に詫びられたということである。

宣教百年の歌声は大きいがしかし日本の教会教勢は依然として低調である。そして、今日その不振の原因がいろいろと議論されるのであるが、何時も行着くところは同じようである。端的に言って、教会の燻んだランタンにあるといっても決して過言ではあるまい。

講壇が燻み、牧師も信徒もキリストと多くの人の間に大きく立ちはだかっているために、キリストの光がボンヤリとしているのではないだろうか。

牧師も信徒も、やはり神の御名を汚す者であり、神の重荷にすぎないことをもっともっと謙虚に認め、この深い恐れとおののきの中で、それにも拘らず私達の不信と罪とを自ら背負い給う主イエスの十字架をしっかりみつめるべきであろう。そして更に、このような私達を選び、このような私達を通してだけ神が働き給うのであるという深いめぐみと愛とを憶えて生きるべきである。

ブルンナー博士が帰国に際して「若し私が日本人であったらキリスト者になるかどうかは甚だ疑問である。毎日キリスト教論争にあけくれている神学者達や少しも生気のない教会、性急にキリスト教をふりまこうとする宣教師、果して、これがキリストの光を正しく伝えているのだろうか」と。私達も深く反省をしたいと思う。

（光明園家族教会伝道師）

放射能

▼教区総会も終った。第二次壺井内閣が出発したことになるが、人選は終始難航。▼総会書記は総会終了後二回も常置委員会を開いてやっと決定に至った。▼伝道部でも委員長、書記推薦に辞退が続き、決定までに一悶着。▼世間では選挙と云えば自薦他薦の候補者が目白押しだが、これは又正反対。然し、必ずしも謙遜や不適任からの辞退と言うわけではなさそうだ。▼反乱や不協力、自己主張や格落ち不満の表現に役職固辞の手段をとったとすれば迷惑至極。▼貴重な時間を空費して、充分伝道問題を協議出来ぬ様では神様に対しても申訳けのないこと。▼宣教百年の記念すべきこの年、小異を捨てゝ大同団結し、小我を滅して大義に就くようでなければ、総員伝道も空念仏に終るだろう。▼折角選ばれた委員方、どうか祈りつゝ頑張って頂きたいもの。委員でなければ協力しない、負担金も納めない等と島国根性を出さぬよう、皆で協力したいものである。▼いいかげんに他人の揚げ足取りや、自慢話を止めて本筋に帰りたい。▼「たゞ神の栄光のために」私達の徹力が結集せられ、祈りが燃え上り伝道心が高められるよう望むこと切なるものがある。

（E）

礼拝の心得

—加藤俊行—

教会生活の中心は聖日礼拝であることを皆様はご存知でしょう。然し理想的な礼拝がなされているでしょうか。少しでもそれに近づかせるため反省してみましょう。

一、礼拝の対象は神です。一切のプログラムが神に向ってなされているのですが臨在を意識しているでしょうか。

二、聖なる者の御前に立つ罪人として赦罪の恩恵を感謝し讃美する心で捧げてますか。

三、公けの礼拝に出る聖なる義務を覚え、何事に先立って務めているか。

教会の礼拝は恐怖や功利的取引や人間の宗教的感情の満足のためでありません。

次に礼拝の態度に就いて。

一、万難を排して出席するように、仕事、時間を考慮する。やむを得ず欠席する際には届出るようにしたい。

二、自宅に於いて祈り心備えして出席する。

三、服装は華美ならず質素清潔でありたい。

四、遅刻はやむを得ないにしても常習犯は見苦しい。

五、会員は礼拝準備の責任がある。掃除、片付け、窓の開閉、照明、新来者のための受付け聖書讃美歌の世話。遅く来てガサ〳〵したり、高声で挨拶したり、内輪話するのは禁物。模範を示して前の方から着席し黙禱するなり週報を読むなりして静かに開会を待つ。

六、主の祈り、信条、交読文など早からず遅からず唱和し私語しないこと。

七、説教はする方にも、聞く方にも責任がある。今神は私に何を語り給うかとの期待をもって聞くべきです。

八、献金は私共の献身、感謝奉仕の気持によってなされる大切な礼拝行為です。

九、礼拝後、牧師に短く挨拶して帰る。用件あるときは後にする。新来者を牧師に紹介する。

右の心得をもって聖日礼拝を皆で守るとき大きな祝福を受けることが出来ましょう。

もし欠席した日は何かの方法で神の前に静まり霊性を養うことが大切です。

（米子教会伝道師）

☆ ☆ ☆

礼拝の前と後

—斎藤道雄—

戦争中という状況下で、礼拝を守ることは決して生易しいことではなかった。その頃、礼拝式の直前に国民儀礼と称して、君が代斉唱、皇居遙拝、武運長久を祈願して一分間の黙禱などが行われたのは、礼拝の堕落を意味すると同時に必死で礼拝を守ろうとする信仰的（？）工作でもあったろうか。牧師は、神学の勉強もできず訪問も思うにまかせなかった。それどころか、彼も例外なく飢えていたのだから、整った説教などできる筈がなかった。なまなましい、しかし、疲れ切った説教を聴いた印象が残っている。

次にその頃、民衆は、飢えと戦火におびやかされて、毎日が命がけであった。クリスチャン・ホームも、米軍の爆撃目標から、はずされることはなかった。だのに、スパイのようにののしられたこともある。キリスト者ばかりが、命がけで生きていたのではない。みんな生活の危険にさらされていた。

そんな中で私たちの家庭では、夜間、空襲警報のときに家族揃って讃美歌を歌った。慰めであった。一家の心が一つになっていると感じた。幸福でもあった。来る日も来る日も、続いたので下手くそながらどうにか四部合唱ができるようにまでなった。聖日を忘れることもなかった。だのに、父は東条のつくった翼賛壮年団に加わっていたし、家人は外でキリストのキの字も口にしなかった。

礼拝と生活とに命をかけても、聖日と週日との関係そのものに命がかけられなかったキリスト者の堕落と弱点が、そこにある。

今日は事情が違っている。果してそうだろうか。礼拝の前と後とは、聖日を中心にした週日のことである。

（旭東教会牧師）

教区役員きまる

教区総会で選ばれた新役員は、

総会議長　壺井正夫
〃副議長　常田二郎
〃書記　飯清

常置委員　三役の他に
長坂龍太郎　高杉三四子
斎藤道雄　鎌谷幸一
戸田伊助　新達治
大橋公夫

各部委員長の紹介

伝道部、新薬を手離さぬ程健康に注意している**長坂龍太郎**も、神への報恩とあれば、あえて重荷を負う。何事にも積極的な**荒谷恒喜**の農伝担当は、うってつけとの評がある独断的な**斎藤道雄**は**職伝**をどこまで普遍化するかが課題となろう。委員長に自薦まではしなかったと称する**戸田伊助**は**青年部**になかなか積極的、教団青年専門委員会の三原則を教区において具体化するのが願い。**婦人部**はやっぱり高杉三四子、時流に敏感な女史が婦人部の主体性確立をめざす。**飯清**は結局**教育部**を担当本能寺に乗りこむか。過去の冷遇を決して忘れぬ**更井良夫**は**社会部**の伝道面を強調する。**財務部**は**大橋公夫**、唯一の信徒ご苦労さま。（編）



魅力の男性美を作る
画期的な新化粧水！
●カミソリ負けを防ぐ
●肌アレを防ぐ
●石けんのアルカリ性を中和して健康肌を作る
200円
明色 新発売
男性 アストリンゼン
桃谷順天館

水野歯科
水野浩四（香山町教会員）
岡山市門田屋敷37
電話②3028

教会便り

倉吉教会（鎌谷幸牧師）
鎌谷牧師の健康も次第に回復。高校生会などの若い人たちの働きが活潑である。

岡山教会（壺井牧師）
スクーターを買って、牧会に機動力を加えた。新任の堀川勝愛伝道師を得て、青年層が動きだしている。八十周年記念事業の会堂改築に着工する日も近いよし。

岡山聖心教会（永倉牧師）
昨年度礼拝最高は二四二、本年度の目標は一五〇名財政面では、一五八万円の予算が計上されている。教勢と財政の平均のとれた教会形成に前進している。

鳥取西部伝道所（無牧）
中村昭伝道師を失ったが、会員一同は結束して健在。

高屋、井原教会（森教師）
今春、大阪教区扇町教会より森喜志夫伝道師を主任者として迎え、新しい活動を展開している。

玉島教会（高塚牧師）
高塚勝牧師の着任によって職場集会の拡張が計画されている。名誉牧師河野進先生の健康も殆んど回復。

岡山博愛会教会（更井教師）
岸本羊一伝道師を京都に送って、あらたに中村博伝道師の就任をみた。また、最近博愛会は門田屋敷の電車通りにすばらしい病院を建築完成した。

琴浦教会（佐敷牧師）
個人伝道の成果は益々快調だが、佐敷牧師の健康すぐれず。快癒が待たれる。

倉敷教会（飯　牧師）
中堀仁四郎伝道師（旧姓河合）ご結婚。

旭東教会（斎藤牧師）
同志社大の遠藤彰教授を講師に迎えて、去る五月十日宣百の教会修養会を持ったその内容は、礼拝、愛餐会主題講演、伝道協議会、聖餐式と続く一日修養会であった。

津山教会（古河牧師）
四月に、新案のアシュラムを教会でひらき、好評であった。

玉野教会（丹羽教師）
職域伝道部の特別伝道教会に指定をうけ、劃期的伝道の具体化を進めている。

岡山信愛教会（長坂牧師）
本年度も各部の活動目標を決定し、着実な歩みを続けている。

蕃山町教会（戸田牧師）
ペンテコステ総員伝道と称して、五月十七日以降一カ月間、聖日礼拝において十名の信徒の証しがなされる

西伯法勝寺教会
田賀今治氏の教団補教師転入を申請中。家庭集会に特に力を入れた伝道がなされている。

教区修養会より

信徒分団の発言をひろって「総員伝道における信徒の責任」をめぐっての協議の大要を報告しましょう。

何としても信徒は総員礼拝を守ることに責任を感じたい（信愛、津山）。個人伝道と家庭礼拝の厳守（琴浦）。地区別責任者をつくって牧師に協力したい（鳥取）。信徒の家庭の子供を次代の信徒とするよう適切な指導がなされる必要がある（倉敷西）。明治時代にすでに四百人の会員を擁していたというような古い教会には、独特な信徒の責任があるのではないか（岡山）。教会財政の強化も信徒の責任月定献金を全会員がすることと、礼拝献金の増加が望ましい（旭東）。要するに総員伝道は牧師に全員協力すること（倉吉外多数）。

報告者　丹波甚八

青年部ニュース

岡山県青年大会
主題・時代を生きる神の民
講師・教団青年専門委員、岸和田教会牧師　村上銑弥
日時・五月二十四日（日）午後二時
会場・蕃山町教会
なお鳥取県へは戸田委員長が巡回して主題の徹底をはかる。

婦人部ニュース

教区婦人部修養会
主題・聖書と私
講師・教団婦人専門委員　青山学院教会信徒　古坂つぎ
倉敷教会牧師　飯清
日時・六月二日（火）～三日（水）
費用・七百円（滞在費）
旅費約片道程度補助
会場・三朝、溪泉閣
申込・五月二十日まで。

編集後記

▼総員伝道には礼拝するということが新しく認識される必要がある。礼拝特集をだす所以　▼一部五円程度の寄附を教区会計までおよせ下さい。（M・S）

最新刊
C・E・レイヴン著　大和久泰太郎訳
キリスト教と科学
現代の宇宙論、生物学、心理学、人類学などを考えれば、これに対応して信仰を形造るための新鮮な神学の手引が必要である。本書は現代人が最もよく神を理解し、礼拝できるかを見いだそうとするものである。
価一二〇円　〒一六円

最新刊
D・T・ナイルス著　新見宏訳
現代人と聖書
聖書は、私たちに親しみの薄い言葉や、思考法を多く用いているが、どうしたら、その聖書を現代のわたしたちに語りかける神の言として、読むことができるか。それを試みたのが本書である。
価一二〇円　〒一六円

—中売発評好—
J・ベイリー著　新見宏訳
朝の祈り夜の祈り
本書に書かれた個人の朝夕の祈りは、今の時代に祈るにふさわしく、またきわめて信仰的で、読む者の心を清め、高めるものを持っている。
＜由木康氏評＞
価一六〇円　〒二四円

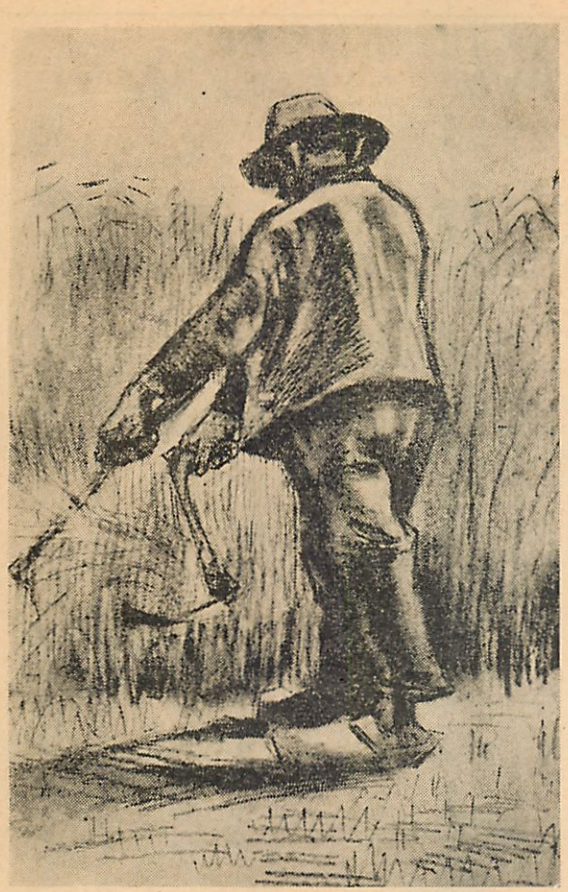
A・M・ハンター著　小黒薫訳
新約聖書神学入門
現代神学の研究成果や、おもな学者たちを手ぎわよく紹介し、堅実に批判した本書は、多忙な教職や、神学生にはもとより一般信徒にも、必読のものである。
価二八〇円　〒三二円

日本基督教団出版部
東京都中央区銀座四の二
振替　東京一八八三二九

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1959年7月31日（隔月発行）



とうもろこしの刈入れ　フアン・ゴッホ

説教

摂理の神

―ロマ八の二八―

中島幸一郎

クリスチャンには「偶然」というものはなく、凡ては摂理の中にあります。即ち、私共は個人の、家庭の、団体の民族の発生と歩みに神の目的と守りとを認め、「私には、嬉しくもつらくとも、常に神の許し給うたことのみが起っている」「神は常に私個人に対し、いつくしみ深き御目をとめて、支え教育し導き用いてい給う」と信じる信仰に生きている者達です。而して、何故にそれが信じられるかといえば、それは「キリストの十字架の故に」です。

クリスチャンは、その誕生と、生長の段階とに於て「我が為の聖苦しみ」を繰り返し繰り返し経験してゆくのですが、ペンテコステによって使徒達が一変した如く、聖霊によって、キリストの十字架が私の為であると信じられる時私共はそこで実に大きな力にふれます。神に対する認識を深め、罪人なる己の自覚を深め、「それでも赦す」と宣う神の愛を経験する事によって利己的な、疑い深く信じにくい私共が、一歩一歩、より深い信仰、献身、服従に導びかれてゆくのです。そして、遠い将来を想うにも、近い計画をたてるのも、日常茶飯事の中にも、四六時中「私は、私の凡てを神の為に用いよう」との意識の中に生きる者とせられます。

或人々は之を窮屈と批評するかも知れない。然し、之を経験する者自身にとっては、此の時ほど己を尊く思う時はなく、此の時ほど「我生けるしるしあり」と感じる時はありません。「摂理の神の恩寵」を語るに当って、パウロが先ず「神を愛する者」と云ったところには、こうした意味があります。摂理の神はこういう種類の人に対して、活ける神の恵と力をより深く体験させるのです。

パウロは更に、私共がかく「神を愛し」ているのは、とりも直さず「神の永遠の御計画によって召されているからなのだ」といいます。信じないのみかは、神の事など考えてもみなかった時代より、悩み、苦しみ、救いを求めたことも、凡て主の導きの中での事柄だった。喜びのみかは、悩み苦しみさえも、今の、此の解放の喜び、此の神と共なる光栄感を増し加える為の神の配剤であったと知るときにお互は「此の神を信頼し抜くことによって私は生涯絶対に確かな道を歩み通せるのだ」との確信に導かれるのであり之が摂理の信仰です。

罪があり、誤解があり、苦難があって、孤高を志してもなお、多くの困難に遭わねばならぬ人生ですが、摂理の神の信仰は、凡ての事を感謝に変えます。何故かならばそれは、第一、私共は己が罪より救われてあり、第二、日々受ける苦難の多くは他を祝福するものとせられ（ルターは之を小十字架と呼んだ）第三、十字架の主は私共を助けて、万事が私自身にも益となる様に変えて下さることを体験させます。かくして、摂理の神に結ばれたクリスチャンの生涯は、一つの無駄もない満ち満ちたものとせられるのです

最後に、摂理の神はまた奇蹟の神で在すことを付け加えたい。四福音書には、少しのパンと魚で（之は一人分の食糧であると云われる）数千人を養われた主の奇蹟が記されてあります。求道者から之について質問がある場合、私はあまり説明をしませんが、私自身にとっては、之は日々の生々しい経験です。規律正しい教会生活を継続している方々は、凡て御経験のことゝ思います。信仰によりて、主と堅く結ばれ、摂理の神を、力強く証示しゆく生涯でありたいものです。

（津山城西教会教師）

★　★　★

剣をもって刺すようにみだりに言葉を出す者がある。
しかし知恵ある人の舌はいやす
真実を言う唇はいつまでも保つ
偽りを言う舌は唯まばたきの間だけである。
―箴言一二ノ一八、一九―

目次

◇ 説教……摂理の神……中島幸一郎 (1)
◇ 見事な八年……高杉三四子 (2)
◇ 聖句随想……戸田　伊助 (2)
◇ 放射能……(2)
◇ 思ひ出づる事ども……林　源十郎 (3)
◇ 教区内ニュース……(4)

見事な八年

高杉三四子

私の教会学校には校外生がいる。一人は家が遠いために両親も子供も希望があり乍ら来られない、市内に店を持つ魚屋さんの子供、小学三年女子、通信による生徒である。

一人は六月廿一日に七年十一カ月の地上の生命を終えた小児麻痺の男の子、彼の生涯は見事であった。教会員である九十才を数える曽祖母さんや、お祖母さんを訪問する時麻痺した下肢を支えるために作られた椅子にかけて、にこやかにいつも彼がいた。一年に一度、クリスマス祝会にお祖母さんに負ぶさって、彼の姉たちや妹が演じる降誕劇を見たり、歌や幻灯やお話の上手なCSの先生を一生けんめい味うために教会に来る。彼は先生の声を覚えている。ラジオから、歌声が流れてくると、あゝ、あの先生ではないだろうかという。

学校生活の出来なかった彼は、家で両親や祖母や姉たちや、ラジオや雑誌によって、小学四、五年程度の知識をもっていた。いつ訪れても、筆箱やノートや少年科学の雑誌等が彼の手のとゞく所にあった。僕は学者になると言っていた彼が、自分の病気の実際から学び、家庭の環境から吸収した真の知恵によって、小児麻痺をなおす医者になる。開業はしないが、自分のような子供をなおす医者になる。と、言うようになっていた。

彼をめぐる肉親の配慮は誠に病気の後遺症とのたゝかいであった。肉体への配慮と同時に家庭の中にある父祖代々の信仰が、彼の上に見事に結晶していたように思う。

いつ訪れても、にこやかなおだやかな下肢の動かない男の子等というものはめったにあるものではなかろう。彼には人生の大いなる目的があった、僅に八才の彼に。この希望が彼をにこやかにし、未知の来訪者に打とけた純真な美しさを、魂のかゞやきをみせたのであろう。

此の世の人は考える。あの子がいなくなって、本当にかわいそうだけど、これであの家の重荷がなくなった。とあの子も生きていてもこれから先きさぞかし苦難の道を歩むことだったろう。だから、このことは悲しいけれど、そうわるいことではない、と。

どういってみたって、あの子は死んでしまったのである生き返っては来ない。しかし肉体にさゝったとげが、とり去られたような、ほっとしたという気は起らない。むしろこれから彼がどのように苦難にたちむかい、見事に目的を達成するか、見ていたかったと思うのである。毎日の苦しみや忍耐をともにしない第三者の気楽な発言として言っているのではない。

地上八年の生命でも、そして肉体的な自由をうばわれている子供でも、人生に希望を持ち、他者のために生きる熱情をもつことが許されることは、神の聖名はほむべきかなである。

見事な八年である。足が自由なら当然、毎日曜日、教会学校に来てた彼。私たちは彼を教会学校生徒として葬式を営んだのである。

（笠岡教会牧師）

「神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、のがれる道も備えてくださるのである。」（コリント第一・一〇の一三）

聖句随想

御言に賭ける

戸田伊助

この聖句をよむと思い出す。昭和二十七年の秋、まだ熊本にいた頃の事だ。ある日曜日、夕拝のために私は教会に行った。すると、そこに一人の見知らぬ婦人が五才位の男の子をつれて座しているのをみた。年の頃は四十、色の黒い、がっちりした体格の中年婦人だ。何かわけがあるようだ。集会がすんだ後、聞いてみて私は困惑してしまった。その婦人は家出をして来たのである。家は熊本から汽車で一時間ほどの大牟田、その人はある寺の年とった住職の後妻だった。熊本にでれば何とかなると思って出て来たものの、身よりはたよれず、身知らぬ人に世話される時は、変なところばかり、子供はすっかりおびえきってしまってすでに一週間、望みもたえて、疲れはてて死に場所を求め、教会の前を通りかかった。助けていただけるものならと入ってきた、というわけである。

私はこの時、何とかかんとか説諭して追出したら、ほんとうに死ぬだろうと直観した。かといって、この二人の生命を責任をもって救う具体的な手が私にあるか。ない。全く困ってしまった。

その時だった。ふと私の脳裏に浮んだのが、この聖句である。そうだ、御言にかけてみよう。それ以外にない。私に命ぜられた道はない。こう決心した私は、その人を教会にねかせ、下宿にかえって一晩中考えた。すると、ルーテル教会の婦人宣教師がやっている社会施設のあるのを思い出した。よし、あそこにたのもう。私はねむった。

翌朝、予備工作としてルーテル教会の某牧師の紹介状をもらい、二人をつれて出かけた。途中で教会の山隈婦人長老がその宣教師と大変親しい間柄にあるのを思い出した。そこでまず助力を求めた。「私がまず会ってみましょう」というので見てもらった。すると何と「私のところにおいてみましょう」とこういわれるではないか。私はすっかり驚いてしまった。きけば山隈さんの家では丁度小児マヒの孫の子守が帰ってしまって困っていた所だったということだ。

神はやはり真実だった。神の答があまりに早すぎたので私は気抜けがした位だった。

（番山町教会牧師）

放射能

▼夏である。修養会シーズンとばかりに、教区でも各教会でも、海に山に種々の計画がたてられている。▼キリストは自ら実行されただけでなく弟子達にも「人を避け寂しい所へ行き、しばらく休め」と（マルコ六・三一）、祈りと休養の時をしばしば持ち、天父よりの力を得て伝道戦線に復帰された。▼社会の喧騒を避けて、ひたすらに霊交の時を持つのは大切である。寧ろ必要と云う可きであろうか。▼勿論年毎に主題も講師も慎重に選ばれ、準備もされはするが習慣化すると形式に流れるおそれがある。▼必要不可欠のプログラムも、余程注意して導かぬと、非生産的な集会に終ったり、逆に修養会ボケをつくることになりかねない▼座禅を組んで自ら悟りを開いたり、山岸会式に一方的な指導原理を叩き込むのが目的ではあるまい。▼何よりも帰ってから働く意欲と力が湧き起るようにしたいものである▼適当な緊張と適当な休養をもって、プログラムを生かしたい。

（K）

思ひ出づる事ども

林源十郎

七月一日私は京都の息子の家の一室で目を醒ましましたこの七月一日は私にとって、忘れ得ぬ一日であります。即ち倉敷教会の設立の日でありますが、……私の父は昭和九年古稀に達したのですが、其前年あたりから店舗の改築の計画がありまして、愈々七月一日から旧屋の取払ひにかかることになって居ました。父は以前から健康が勝れなかったのですが、其日だけは是非共店に来て長年此家によって生活をして来たことを神に感謝すると共に家に対して感謝を捧げたいと云って居ましたが、此朝になって急に持病が悪化して倒れたのでありました。病床でどんなにか悶々の心を懐いて祈って居るだろう父を思ひながら、田崎先生によって集会を終へたのであります。恰も私も今年古稀に達したその七月一日であります早天独り此五十余年神がいかに倉敷教会を愛し給ひ、豊かに御祝福を賜はりしかを思ひめぐらして感謝し、世相益々困難な時代に教会が、更に重要な役割を果し得るようにと熱禱したのでありました。

私は七十年の過去を回想致しまして、今は故人となられた多くの方々が、私一人の信仰のために惜しみなく指導し又祈って下さったかを追想して感謝に堪えないのであります。わけても、浅野義八、木村和吉翁、石井十次先生、炭谷小梅女史、尾野田伊之吉先生、小野田鉄弥先生、等々の方々は最も忘れ得ぬ人でありますが、中でも私の生涯で最も大切な十七、八才から二十二、三才までの間を石井先生に私淑することが出来たことは、私の最も大きな感謝であります。

当時石井先生は東洋伝道会を組織し、又一方自ら先頭に立ってマタイ伝伝道をやって居られ、極く地味な紺絣に白木綿の兵古帯で、時に街頭に立ち、又岡山教会でもマタイ伝の講義をせられて居り、私はそれに出席したのをよく覚えて居ます。又時によると、私達青年に宮崎に於ける捕縛事件、荻原百々平国手に指導せられて岡山に来、医学校をやめて岡山孤児院を創立せられた経緯等、独特の口調で話して聞かされました。石井先生の印象は実に数々ありますが、中でも東北地方に未曽有の大饑饉があったのも其頃でありました。東北三県宮城、岩手、福島は最も甚しく、食ふに一粒の米麦もなく、親が子を売り、或は置き去りにして逃亡する者が相次いで起りました。先生は病軀を押して実地を踏査し、内務省で三県の知事と会合し、救助を決心せられました。其頃在院児は四百名位でありましたが、その二倍八百名の貧孤児を六回に分けて収容されました。国家の補助があるではなし、一般国民の社会事業に対する関心のない時に、唯熱心な祈りによってのみこれを敢行せられ、在院児の数は一挙に千二百となったのであります。

しかも神様はこの一人の篤信な先生の熱禱に答へ給うて社会の情勢が好転して、数百の児童を再び東北に帰すまでこれ等千二百の孤児を一日たりとも餓えしめ給はなかったのであります。私はこの事実を親しくこの眼で見ました。静かに瞑目すると東北から着いた特別列車から降りた、数百の児童が岡山駅から電車に乗りを上ノ町、中ノ町を経て京橋を渡って院役者や岡山教会の人達に守られて歩く行列が今も髣髴として目に浮びます極めて薄信な私でありますが五十余年前ハッキリこの眼で神の御恵を見ることが出来てどんなに心が弱り、志がくずおれんとする時もこの事実を思ひ起す毎に新なる力を感じるのであります。

（倉敷教会長老）

本年度の

「教区デー」は九月十三日（日）

—教区内一斉講壇交換—

一斉講壇交換一覧表

教会名	教師名	教会名	教師名	教会名	教師名	教会名	教師名
岡山	河野進	玉野	笠岡島 寄	佐敷重雄	赤磐 光明園家族	永田実	藤岡友幸
番山町	播磨醇	笠岡島 寄	中堀仁四郎	鳥取 鳥取西部	井殿園	有田実	鳥取新生
岡山信愛	高杉三四子	井原屋	W・エルダー	脇本寿	鳥取東部	村島宏	鳥取信和頭
博愛会	中島幸一郎	吉備田	中村博	倉吉青谷	古河治	高塚勝	西伯法勝寺
倉敷	鎌谷幸一	総社	壺井正夫	米子 倉吉東部	常田二郎	今村源三郎	境港町
倉敷平和	更井良夫	高梁 中国宇治	太田琢治郎	米子錦町	今村源三郎	鎌谷庄平	日野
倉敷西	絹田元吉	有漢 見	山村好美	境港町	清水良太郎	清水良太郎	八頭 瀬
鴨方駅前 倉敷南	堀川勝愛	新見作	岡本加都夫	尾熊利一	原田季夫	加藤俊行	用瀬
天城	荒谷恒喜	高梁 世山	尾熊芳子	原田季夫	尾熊芳子		
津山	寺崎遥	有漢 見					
高倉 美作	森喜志雄	新見作					
津山城西	戸田伊助	落合					
児島	飯浦清	久世					
琴浦	長坂龍太郎	勝山					
玉島	布下耕読	旭東					
十文字平和	徳木武二	三石 和気					



魅力の男性美を作る
画期的な新化粧水！
●カミソリ負けを防ぐ
●肌アレを防ぐ
●石けんのアルカリ性を中和して健康肌を作る
200円
新発売
明色 男性 アストリンゼン
館天順谷桃

社会部ニュース

◎例年軽井沢で開かれていた基督教保育夏季大学を今年は八月十八、九、二十日と大山高原ホテルで教団保育所専門委員会、保育所同盟、教区社会部との共催であるが教区内の保育所に殆んど全員参加するので愉快である。これには社会事業施設の職員も参加して百名を越える盛況である「詳細は教団新報五月二十三日号参照」講師陣の中からキュツクリヒ女史や真鍋頼一先生はこの機会に教区内の伝道のお手伝いが出来る筈。

◎少し涼しくなって昨年の如く各教会の社会奉仕委員を三カ所（山陽、山陰、美作）に集合して頂いて現任訓練を兼ねた協議会を開く予定。約半数の未回答の教会から至急委員の氏名を報告されたい。

◎教区内の社会事業施設（保育所を含む）内及びその地域社会への伝道は教区伝道部から応援されているがなお活潑に宣百伝道の線で協力が望まれている。

◎日本キリスト教奉仕団の救援物資の活用が低調であるがこれを全教会がフルに活用されるように社会部は推進さすれる。

◎基督者平和を守る会は岡山県では普及したが鳥取県を目標にこの運動を進める（東井）

青年部ニュース

1 KKS修養会

○時・八月十八日（火）——二十一日（金）三泊四日
○場所・岡山中央公民館
○主題・「私たちはどう生きたらよいか」
○講師・前教団青年専門委員会KKS委員・東京本所緑星教会牧師、入江義伸先生
○会費・七六〇円
○旅費・往復三〇〇円をこえる分補助
○申込〆切・八月五日

例年四〇名程の高校生があつまる。岡山県側と鳥取県側と殆んど同数位。大変いい修養会だと評判がいい。それは高校生自身の希望によって今年から三泊四日と一日長くしたことによってもわかる。しかしあつまる教会は全教区に及んでいない。各教会の牧師及父兄にはこの修養会のよさがまだ十分に理解されていないむきがあるようだ。今年はこぞって送り出されたい。

2 教会青年指導者研究会

○時・九月二十四日（祭日）
○所・岡山市内まきび荘

教会青年会の運営と使命を実際的に研究する会。会長は今から出席を準備されたい。

教育部ニュース

教会学校教師講習会
○時・八月十二日（水）——十四日（金）二泊三日
○会場・高梁教会
○講義・礼拝の実際、分級教授法の実際、プロテスタントの信仰の本質、心理学、等。
○講師・前教団教育委員長木村義夫牧師他教区内牧師、○特別講演・伊吹希三氏、松本要氏。
○会費・五〇〇円

この講習会では、公認教師適任証単位修得の便があります。本年は岡山、鳥取両県合同の講習会でもあるので、鳥取県下のCS教師の出席が特に期待されています。

農村伝道部ニュース

本年度に入って早々、岩塚富次郎牧師を中心に伝道ティームを組んで巡回、七月の農村青年大会は予想以上の成果をおさめ、積極的に活動してきた。夏季計画として、教団農村専門委員長松本広牧師による伝道ティームが八月三日より十四日まで七教会、伝道所を巡回することになっている。秋季には、農民福音学校が計画される。

教会便り

鳥取信和伝道所（無牧）
内藤仁美兄の献身を中心に積極的伝道を展開、秋季特伝計画も具体化している。

鳥取西部伝道所（エルダー宣教師）
エルダー師の夏季休暇に伴い、同志社神学部より石黒季吉兄を夏季伝道師として迎え、伝道に新局面を開拓している。

倉敷平和教会（小沼牧師）
小沼牧師七月末　岡山博愛会病院を退院された。

倉吉東部教会（村島教師）
七月十九日、常田教区副議長の司式により、村島宏教師の就任式を執行。八、九の両月谷本清、安倍豊造、清水良太郎牧師を迎えて特伝集会を持つ。

光明園家族教会（河野牧師）
好善社団とアメリカン、レポーゼ、ミッションの好意による新教会堂建設工事進捗中。

智頭伝道所（有田牧師）
用瀬教会と合同で夏季伝道師を迎えた。

西伯法勝寺教会（無牧）
八月中、伊沢記念男、真鍋頼一両牧師による特別集会を計画。

青谷教会（吉田牧師）
女子青年会の強化育成をはかるため、八月より毎月、倉吉より鎌谷滑子師の応援をうける。

久世、勝山教会（荒谷牧師）
同志社の女子神学生石田姉を夏季伝道師に迎えた。

八頭教会（鎌谷庄牧師）
同志社の女子神学生山本爽起子姉を夏季伝道師として迎えた。

岡山教会（壺井牧師）
恐らく教区唯一の伝道キャラバンを結成、八月二三日より二七日まで、智頭、用瀬、鳥取西部、青谷、倉吉等で集会をもつ予定。

倉敷教会（飯牧師）
ハイドン一五〇年記念音楽会として、七月二十二日、同大聖歌隊による「天地創造」を演奏。聴衆三八〇名、もう一つの音楽の夕は、八月二日同志社ホザナ・コーラスを迎えた。音楽愛好の倉敷市民におくる二つのミュージック・ヴェスパーは好評であった。白神章道神学生が夏季伝道師として奉仕している。

天城教会（山村牧師）
九月に、田崎健作牧師を招いて特別伝道。十一月には田中伊佐久牧師を招く。

琴浦教会（佐敷牧師）
佐敷牧師の健康回復、小橋神学生を夏季伝道師として迎えている。

倉敷南教会（岡本牧師）
こゝでも、夏季伝道師を迎え、伝道夏の陣を張る。

梅花学園
クリスチャン キャラバン巡回
豊中市の梅花学園（学園長民秋重太郎氏）では、宣教百年記念として、キャラバンを編成し、八月中、山陽各教会を巡回する。宣教活動と文化活動とのプログラムを組んでいる。岡山県下では、八月二十二日、三石、旭東教会で子供会、翌日は玉野、琴浦両教会で子供会。両日共夜は岡山天満屋葦川会館で一般公演する。

編集後記

▼本号は予定通りに発行できず、責任を感じています。編集の仕事をして、チーム・ワークの効用を実験しました。一人でできる仕事とそうでない仕事とがあるものです。▼教区の活動は、どうしても力を合せることが必要のようです。もちろん、各自の持ち味を活しながら。▼本号は読みものと報道を主体にして編集いたしました。しかし、資料が集まらず、不満足な点も多いのですが、いく分でも教区活動のお役に立てばと思います。▼最後に、編集子のよき協力者家野四郎兄に感謝いたします。（M）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1959年12月10日（隔月発行）



説教

「クリスマスの悲劇味」

壺井正夫

神は、むかしは予言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、神の御計画の時が満ちて、御子キリストによって、わたしたちに語られ、わたしたちに愛を啓示され、そしてその御子キリストを十字架の受難に至らせて神御自身の御意志を成就し給うた。

神御自身の御意志とは「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされたのかたによって、わたしたちが罪に死に、義に生きることができるようにしてくださった」ことです。（コリント第二、五・二一、ペテロ第一、二・二四）即ちわたしたちは罪を知らないかた、御子キリストの十字架の死、その「罪のあがないの死」によって、罪あるものが、神のみ前に赦され「義」とされて、わたしたちを生きるようにして下さった。ここに神の愛、キリストの恵みが存在する。「あなたがたの救われたのは、実にこの恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である」（エペソ、二・八）この神の賜物の中心は「神の御子キリスト」ですこの神の御子キリストが、わたしたちの救いのために神より「わたしたちにおくられた」これがクリスマスですね。そうすると、このクリスマスは御子キリストの十字架の受難が計画されているのですから、全世界の最大の喜びのクリスマスは、実は神の人類になし給うた荘厳にして最大の悲劇ですね。

神がむかしより予言者たちによって予言された救主とは「受難の僕」でした。即ちイザヤ書五三章に語られているように「彼はわれらのとがのために傷つけられ、われらの不義のためにくだかれ、みずから懲らしめを受けて、われらに平安を与え、その打たれた傷によって、われらは医やされる」「彼はあなどられて人にすてられ、悲しみの人で病を知っている。まことに彼はわれらの病を負い、われらの悲しみを知り、その悲しみ、悩みをになって下さる。彼は神に打たれ、たたかれ、苦しめられて、その彼の傷によってわれらは医やされる。」

予言者のこの「言」の通りに神の御意志は成就し、歴史の主であり、「時」の支配者である神は、その御子の十字架の死によって人類の救いの御業をなしとげ、その御業が永遠に「生命」有るものである証拠としてキリストを栄光の主として復活せしめ、「彼の傷によってわれらが医やされる」と言う救主の御業が永遠に続くものとなし給うた。

クリスマスは世界の喜びであり、今日では全世界の最大の祭典です。世界のすみずみにまで喜びの歌は響くのですけれどもそのクリスマスは神の愛の啓示であり、わたしたちへの救いの恵みではありますが、その故に御子キリストが「悲しみの人」「悩みの人」「病を負う人」「苦しみをになう人」となり給うことであり、クリスマスが十字架の死と直接に結びついているという処にクリスマスの悲劇的な面があり、このクリスマスの悲劇味を味わっていただくところに福音の妙味が会得できるのです。

最初のクリスマスの夜、野宿していた羊飼いに天の使いが神の愛とその恵みとをもたらす大讃美を以てキリストの御誕生を告知したのですが、羊飼いは貧しい農家の馬屋のなかの飼葉おけにねかしてある御子を「さがしあてた」。東方よりの三人の博士は救主の御誕生のために、憎悪と恐怖と嫉妬に満ちたヘロデ王に教えられ、指図をされてエルサレムより更にベツレヘムに旅をしたのですが、既に御子は御誕生のその時より受難裡に生れ給うている。けれどもマリヤは「これらのことを、ことごとく心にとめて、思いめぐらしていた」（ルカ、二・一九）まことにクリスマスの悲劇的な面のうちにゆかしい味と美しさとが示されている場面ではありませんか。

御子は人間のために「悩める僕」「受難の僕」、苦しめる人、人間のために傷ついた「悲しみの人」ですが、その御子は永遠に活きて働き給いつゝある私どもの救主です。

その「彼」の「傷」によって私ども一人一人の「傷」はいやされ、身も心も救われるのです。まことに不思議な事実ではありませんか。

（岡山教会牧師）

目次

◇ 説教 …… 壺井正夫 (1)
◇ 聖句随想 …… 脇本寿 (2)
◇ クリスマスに思う …… (2)
◇ 放射能 …… (2)
◇ 戦いの跡 …… 水野浩四子 (3)
◇ 沓がなる伝言 …… 高杉三四子 (3)
◇ 教区内ニュース …… (4)

聖句随想

とりかえしのつかないこと

脇本寿

「叫び泣く大いなる悲しみの声がラマで聞えた」（マタイ福音書二章一八）

戦時中、宗教々師の勤労動員で川崎の工場に割当てられ先輩の牧師と一緒に朝鮮人徴用工の寮監を命ぜられた。徴用工は愛国の名の下に強制徴用で送り込まれて来たのであるが、衣食乏しく、又民族的差別と蔑視が彼等を必要以上に僻ませたり反抗的にさせたりした。その上戦局が不利になって彼等が空襲や最悪の場合を考えて落着がなくなり逃亡者も増した。（逃亡者は特高の手に移された）

そうした或日一人の徴用工が工場の引込線の貸車で足をひかれたという知らせで病院にとんで行った。少年は麻酔で眠っていたが足首はダラリと垂れ下っていた。私は立合人とされ、足首は切り落す外ないという事を承認した。医師のハサミが僅かに繋がっている肉とも皮ともつかないものを切り、足首がボールに重たい音を立てゝ落ちた時、致し方がない事とはいえ取返しのつかないことをしてしまったという悔恨と悲しみと怒りの様なものが胸を衝いた。かけ替えのないものが失われたという悲しみを強く刻みつけられた最初の経験であった。

それから数ケ月して終戦になった。私には戦争が終ったという実感も喜びもなく眠られないまゝ夜中に外に出た。祈りも声にならなかった。空には星が一杯に輝いていた。天地は変らないしかしこの国は亡びたのだと思うと急に悲しみがこみ上げて来た。そしてあの少年の足首が切り落された瞬間が目の前に浮びもう取返しがつかないと思った。

私はクリスマスが来るとクリスマスに関係もないとるに足りないこれらの出来事を思い起す。

私がとり返しがつかないと一途に考えたのはウブであったという外はない。取返しのつかない事というものはそうざらにあるものではない。取返しのつかない事というのは人の生命にかゝわる時であろうか。

本当にとり返しのつかない事を取返すために、神はとりかえしのつかない事を降誕に於て敢えてなし給うたと冥想するのである。

×　×　×　×　×

（アンケート）

クリスマスに思う

—宣教二世紀への私の決意—

長坂龍太郎

一、聖書と取り組む教会形成
二、教会中核体の強化（長老婦人会、青年会役員、教会学校教師を意味する）
三、教会をあげて青少年伝道に使命を感じ、祈りと工夫をもたらすこと。
四、説教と家庭訪問に力を入れること。

（岡山信愛教会牧師）

新達治

日本宣教第二世紀を迎えた今年のクリスマスは何か意義深いものとしたい。私はクリスマスを祝うこと四十二回目になるが、クリスマスの変り方には驚かされる。特に戦後のクリスマスは、巷の祭と化し、商店の宣伝材料となり、もはや「見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいる」（ピリピ一の一八）と言っておれない有様、ここ米子市では各教会連合で大公会堂に於てモデルクリスマスを行い、市民を啓蒙せんと計画打合せ中ねがわくは主これを嘉し給え

（米子教会員）

戸田伊助

「クリスマスでなく全くクルシミマスです」とこんなことがCSの教師たちの間でよく言われる。私はこれがユーモアであることを望む。

クリスマスとは神の子イエスが馬小屋に生れた記念日である。もし神の子が苦しむことをいとうたとしたら、この日は無かったであろう。クリスマスとは実に神の子のクルシミマスである。

だから、すべてのクリスチャンにとって、この日は人のために苦しむ日であらねばならない。自分が楽しむのでなく、人が楽しむために労苦する。そこにクリスマスを見出す。そんな経験をしたいものである。そうするなら、クリスマスのよろこびは一人から二人へと広がる。子供達、喜びの乏しい隣人、面倒くさがらないで彼らのために何かをしよう。（蕃山町教会牧師）

高塚勝

しっかりした礼拝を持ちたいと思います。勿論集会中心の考え方は転換されて行くべきでしょうし、各人の生活の場で福音がうけとられ、活かされていくべきでしょう。

いままでは「きく」ことが耳でのみなされ過ぎていたと思います。各人が真に主体的にきき、日常生活で応答するような礼拝を持ちたいのです

打上げ花火のような——運動——集会ではなく、ヨブの告白したような耳でなく目で（ヨブ四二の五）主に従う教会となりたいと思います。

（玉島教会牧師）

大島捷六

五ケ年計画で出発した宣教百年記念事業も今年を最後に新しい第二世紀への歩みを前にして早くもクリスマスが訪れようとしている。教勢の綜合的倍加、曰く福音の社会大衆への滲透とどれもこれも赤字だらけで終りそうである。

一億総懺悔と言う言葉を戦後耳にしたことがあるが残念ながら我々も今総懺悔して新しい教会形成のために真剣に切実な祈りをなさねばならぬ時に立たされていると思う。

昨年の教区総会で我教会が提案した謝恩献金（全信徒が月定献金に十円を加えるもの）が実施されるよう決議された。

第二世紀に入るに当って益々この謝恩の問題を全信徒に訴えると共に後顧の憂なく諸先生方が伝道活動に粉骨砕心されんことを祈る次第である

（児島教会員）

放射能

▼「馬槽の聖子」等と呼べば劇か小説の題としては美しいが、何と考えてもみじめである。▼私の子供にはこんな悲惨な揺籠を与えたくない。私の誕生日としても嫌である。▼然し、救主キリストには此処しかなかった。「客間には彼らのいる余地がなかったからである。」▼全く忙しい現代の人々にはキリストのことなど考える余地はない。▼いや世間の人だけではない。教会人でも同じである。余地がなさすぎる。▼私の教会の仕事で勢一杯で、教区や教団の事など考える余地はない。私の教会の教勢拡張には努力もするが、弱い教会の事など援ける余地はない。▼社会事業へ愛の手を差し伸べる余地など全くない。▼キリストは今日も扉の外に立ち、矢張り馬小屋に休まれるであろうか。▼どうせ恵まれないのだ、信徒大会には行かない方がよいと或る牧師が語ったそうだ。▼どうせ恵まれないこの連中の為には祈ってあげる余地もないようだ。協力し得る余地もないのであろう。▼全く余地のない心である。全く余地のない客間である。▲クリスマスを迎えて私の客間に余地もなく充ちているのは何であろうか。省みたい。（I）

戦いの跡

水野浩四

岡山県信徒会の戦いの跡を振りかえってみて、それが讃美歌の二八八番の二節によく表現されていることを感ずる

ゆくすえとおく見るを
ねがわじ、
主よ、わがよわき足を
まもりて、
ひとあし、またひとあし、
みちをばしめしたまえ。

岡山県信徒会は、会員の自主的伝道意欲が盛り上り、大なる自信のもとに多くの望みを将来にもって、力強くはなやかに立ち上ったというものではない。

教区の要望に応え、教区の保護と援助のもとに呱々の声をあげ、処女のごとく静かに弱く、見栄のしない足どりで出発したものであるが、年ごとに行く道を示されて今日に及んでいる。

印象深かった戦いの跡三つを紹介する機会の与えられたことは感謝である。

高梁教会での大会

高梁教会の信徒大会の前日を特に選んで教区主催の教職者の修養会を開催され、翌日の信徒大会に教職者の御出席が十六名あった。これは教区が信徒会の育成に示された親心の一端で、このため大会を感激と和やかな雰囲気で充たし、前年の玉島教会の大会の出席八十名より一四五名へと急速に前進した。

赤磐教会での大会

赤磐教会は設立以来日浅く会員も少く、大会当日の出席は十二名であったが、ここに集った他教会員はその十倍の一二〇名であった。信徒会設立以来九年間にいつとはなしに培われていた友情がここに反映した姿を見て、互いの信頼感を深め意を強くされた。またこの席上の礼拝献金の中に千円札が三枚あった。それは一人でなされたものでなく三人により各々一枚ずつなされたもののようである。

出席者の増加率に比して、献金意欲のこれに伴わないのはもの足りない感じがする。

高屋教会での大会より

旭東教会での大会へ

一昨年の旭東教会の岡山県信徒大会は立錐の余地のない程の盛況であった。ここで信徒大会に包含されていた信徒会総会を大会から分離して、次の年から信徒大会と信徒総会の二つの会を一年にもつまでに成長した。前年の高屋教会の大会に一四九名の出席のあったものが、二四三名の大会に飛躍したことにより、次年度の岡山市の大会には五百名の大会を持ち得るとの自信と見通しが与えられて、その目標のもとに計画をたて、準備が進められ、ほぼその目的を達成した。

設立総会と第二回大会の出席者はいずれも三十名内外の少数であったが、それが僅か十年余りの間に五百名の大会を運営し得るまでに会員の訓練、団結力、能力、気魄と風格が養われていた。この御恩寵を讃美するものである。

イエスは、天国は一粒のからし種のようなものだとおっしゃった。天国の成長の姿をまざまざと今日の岡山県信徒会に見るのは欣快である。

岡山県信徒会がここまで発展したのは、信徒各位の多年に亘る祈りと涙と奉仕と、ここに打ち込まれた信仰が祝福されたからである。

中でも元の信徒会の理事、原元次氏は高屋教会の大会に病軀を押して出席された。その痛々しい姿を今も見るような心地がする。四十年間イエスと共に歩まれた原さん、倉敷教会の役員として、また教区常置委員として多年奉仕される中に洗練された彼の信仰と信徒会に捧げられた情熱は信徒大会の席上で倒れることを本望とせられたのである。この原さんの心境を読んだ会員各位の信仰が燃やされ、力づけられたことが次の年の旭東教会の大会に爆発して飛躍的の大会となったと信じいてる。

ゆくすえ遠く見るを願わなかった我らの弱き足を主はまもりて、ひとあしまたひとあし、みちをば示し給うた。次に信徒会に与えられるものは何か。それは学会と、七、八年前に今田理事より提案されてまだ実現していない信徒会の経営する福音学校（土曜学校）の設立である。これは夢ではない。大都市には設立されている。岡山県信徒会にも設立を迫られている明日の課題である。（前信徒会会長、蕃山町教会員）

沓がなる伝言

高杉三四子

昭和十六年三月、老鮫で帰来されるミス・ボールドウインに付添って南洋群島から日本に立寄れたミス・ウイルソンを横浜港からアメリカに送った時、私は早春のすみれの一束を彼女の胸につけた。大輪の花ばかりの南洋群島から日本に帰って一年足らずだった私のさゝやかな感傷であった。去りゆく船上で日本見おさめの老宣教師の横で彼女は胸からとったすみれの束を何時までもにこやかに振っていた。あれから十八年、私は宣教百年記念行事のおかげでウイルソン先生に再会することが出来た。東京と西宮で。彼女は南洋の太陽にやかれて赤くなっていた。髪は美しかった金色が、白に変っていた。二十年使わない日本語を少しも忘れていなかった。先生お年はいくつですか？　私の誕生日は明治節ですから、アメリカ流に言って丁度六十八才ですと。戦争中の五年間カリフォルニヤにいて、鳥取にいたミス・ファーニングが癌で死なれるのをみとられたと聞いた。戦後アメリカ海軍の船でマーシャル群島にわたりヤルートを根拠地として教育と伝道の生活が再開された。三年前ものすごい台風で、この建物と第六モーニングスター号が海の底に沈んだ。根拠地はメジュロ島に移された。第七モーニングスター号が手に入り離島間の伝道に南太平洋の波をたてゝ走るようになりニッパ椰子でふいた教会と学校が出来上って彼女を多忙にしている。六十八才の彼女は二十七日にハワイにむけて出航する。来年三月、再びマーシャル群島に帰り、二年間、カロリン群島マリアナ群島方面まで、洗礼、聖餐を司り、教会と教育の仕事に携わるという。十六日、聖和女子短大前学長ホワイトヘッド先生の感謝送別会があった。兵庫県知事や西宮市長が来て壇上の先生に日本政府からの勲章等を贈ってチャペルは拍手に湧いた。一般席に座ったミス・ウイルソンのにこやかな拍手の姿と白髪を感慨深くうしろの方から私は眺めていた。ホワイトヘッド先生の働きは、聖和の壮麗な建物と、日本女性のチャーチワーカー養成コースとしていつまでも残るであろう。ウイルソン先生の働きは、台風で海底に沈んだまゝ今も見える船やニッパ椰子の建物と土人相手の仕事等である。旧神戸女子神学校長を別とすれば神の教会には種々の人があり、色々の働き方があるものである。

ウイルソン先生から、アイザックとメリーからあなたによろしく、と伝言があった。昭和十五年私の生徒だった彼らは卒業式の日、結婚した。今は医者であると言う。

（笠岡教会牧師）

¥7,000—

社会部ニュース

㈠先般二回の台風被害地の救援作業は教区内各教会が一致して協力され深謝しています他の宗教団体が救援しなかった中にキリスト教だけが今日迄引続いて黙々と奉仕しているさまは有難いことです。

㈡社会問題ゼミナールを社会部の主催で開きます（一月か二月）。予算のワクがありますので全教会に案内できぬのは残念ですが近く具体的計画を発表します。講師は代議士長谷川保氏（遠州教会）西村関一氏（堅田教会）で目時交渉中です。

㈢八頭教会附属保育園に教団保育専門委員会より二十万円の融資が決定しました。社会部主唱で十一月二十九日号の教団新報紙は「社会事業号」となりました。御熟読下さい近年教会の社会関心が高まりつゝあることはうれしいことです。石井十次、アダムス、山室軍平、冨岡幸助の諸先輩を出したこの教区は格別に社会的行動に関心を持って頂きたい。

㈣いつものこと乍ら「日本キリスト教奉仕団」のSOS物資の利用活用度がこの教区は低いのです。教会内やその地域社会で生活困窮な人々にこの物資を以て賑わして差上げないですか。奉仕団ニュースを御購読になれば教会内外の社会奉仕精神は振起されましょう。（更井）

農伝部ニュース

一、関西五教区農村伝道者協議会。十二月一日—三日。於飯盛野農村センター。主題「説教」。本教区より七名参加

二、関西五教区農村教会役員協議会。同じく明年二月中旬飯盛野センターで行われる予定。

三、教区内農民福音学校。明年三月頃実施予定。具体的な要項は未決定。開催希望教会は農伝部委員会まで申し込んで下さい。

職域伝道部ニュース

労働福音学校

主題「職域伝道の課題」

講師　甲陽園教会牧師・関西学院大学神学部助教授　藤井孝夫先生

日時　明年二月初旬

日曜日　夕七時—夕拝

月曜日　朝十時—夕三時

教師会（信徒有志）

夕七時

水島地区集会

火曜日　夕七時

玉野集会

水曜日　岡山市内集会

各地区で講師と膝を交えて話し合い導きを受けたいと計画しました。尚ウエーバー著「信徒、教会、社会」を二部教区内回覧の予定。

その他

○岡山県信徒大会　去る十一月二十三日、倉敷教会に於て三十七教会、三百二十七名の多数の出席のもとに開かれ、講師関学大神学部相浦忠雄教授の説教と講演、信徒有志の立証がなされ、一同に深い感銘を与えた。席上献金は二一、六〇〇円。

○鳥取県宣教大会並びに青年大会。同じく二十三日、鳥取教会に於て開かれ盛会であった。尚、加藤牧師の按手礼式が同大会に於て行われた。

○教育部と伝道部の協力によって、宣百記念最後の収穫伝道の為に、吉野丈夫牧師が次の日程で応援された。

十一月二十四日—二十七日　米子、倉吉、青谷、鳥取

智頭

二十八日—十二月三日　岡山信愛、旭東、玉島、三石、高梁、新見

○讃美歌委員会では次の各地教会へ讃美歌の抜刷を配して「クリスマス・カロルを唱う夕」を応援する。

鳥取、岡山、倉敷、笠岡、

○財務部より

年末が近ずきました。教区負担金などの納入について一段と御協力下さい。

振替岡山一六三七四号

教会便り

美作落合、久世、勝山教会（荒谷牧師）

四年前落合教会が再建伝道地の指定を受け、荒谷牧師を迎えて三教会の密接な協力のもとに伝道を進めて来たが、この程落合教会の自給独立にいたり、第一種教会として教会種別変更申請中。尚、久世、勝山には新年度より伝道師を迎える予定。三教会にもう一人の伝道者をという年来の望がかなえられてよろこびに満され、更に伝道の決意を新たにしている。

光明園家族教会（播磨教師）

十二月十三日（日）午後一時半より主任教師河野進牧師司式のもとに献堂式を執行。

十四日夕、関学神学部松木教授を迎え「人間の運命」と題し献堂記念特別伝道講演会を開催。会堂建設整地に対し、教区よりおくられた献金と励ましに深く感謝しておられる。

岡山教会（壺井牧師）

十二月六日故上代淑先生の追悼礼拝を執行。二十四日には午前九時三十五分より五十分まで、NHK第一放送より同教会の聖歌隊が放送する。なお、その夜七時より「クリスマス燭火礼拝」が執行される。また十三日より二十七日までクリスマスセールをバザーに代えて計画している。

倉敷教会（飯牧師）

十一月二十七、八、九日にわたり、倉敷出身の太田俊雄教授（聖書神学校）を迎えて特別伝道を持ち、大いに恵まれた。殊に農村地帯に新しい求道者決心者が多く与えられた事は初めての事である。

▼個人消息▲

上代淑先生（岡山教会長老）

岡山市名誉市民、山陽学園校長の同先生は去る十一月二十九日御永眠になり、十二月五日岡山市及び山陽学園の合同葬が同学園淑徳館に於て執行された。会葬者数千名。壺井牧師が一切の司式をされ、飯牧師が奏楽の奉仕を、長坂牧師が教団を代表して弔辞をのべられた。京都の牧野虎次博士の式辞、星島二郎氏の追悼の辞、故先生の令孫知夫氏のショパンの葬送行進曲の演奏もあった。

加藤俊行牧師（来子教会）

正教師の検定試験に合格された同氏は去る十一月二十三日鳥取教会に於て教区総会議長壺井牧師の司式で按手礼を受けられた。

斎藤道雄牧師（巣鴨ときわ教会）

多年旭東教会の牧師として教区のために尽力して下さった同牧師は東京巣鴨ときわ教会の牧師として御転任になり、去る二十九日に就任式を挙行された。

脇本寿牧師（旭東教会）

斉藤牧師の後任として旭東教会牧師に御就任、去る十月十八日就任式を挙行された。

編集後記

▼本号は宣教第二世紀に入るクリスマスのための特集にしました。アンケートはその反映の一つです。

▼限られた紙面の「東中国」がすべての期待を満すことはできません。しかし巾ひろく活用させて頂きたく願ってやみません。

▼その楽しさ、華やかさの故に自己に甘く信仰の歩みの休息の時となりやすい。クリスマスを新しい出発点、自己誕生の時としたいものです。牧人達　博士達に救主礼拝の態度を学びつつ。

▼よきクリスマス、新年をお迎え下さるよう祈りつゝ。

（I）



東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1960年3月10日（隔月発行）



ルオー　呪われた王　大原美術館蔵

説教

善きサマリヤ人

ルカ一〇章　二五―三七

河野　進

強盗におそわれ半殺しにされて、道の傍に倒れていた人があった。そこへ祭司が通りかかったが、この人を見ると向う側を通って行った。次に来たレビ人も彼を見ると向う側を通って行った。祭司もレビ人も神殿や聖書に関係する人として、尊敬されていた。職業によって尊敬され、また軽べつされるのは古今東西変りがない。けれども主イエスは否と強く言う。祭司やレビ人は瀕死の人を見捨てた。彼らは答える「私はあの人とは何の関係もない、私には大切な仕事がある。その係の人が世話をすればよい。そのために税金を払っているのだ」。私たちもそれを避けようと思えば、いくらでも理由を見出すことができる。そして私たちは現実から目をそむけようとする。

彼らは律法に忠実であったかも知れない。「それらのことはみな、小さい時から守っております」「あなたのする事がまだ一つ残っている」主イエスと富める青年の問答のように、彼らも一つを欠いていた。しかもそれは重要な一つであった。

次にサマリヤ人が通りかかった。ユダヤ人たちは彼らを異邦人として交際をしないばかりか、その土地を通ることさえ避けた。だからこのサマリヤ人は半殺しにされたユダヤ人の向う側を、通りすぎても当然であった。けれども彼は手厚く看護をした。祭司やレビ人とこの善きサマリヤ人との間に共通点はない。悉く正反対である。にもかかわらず祭司やレビ人は、自分は正しいと思っているところに問題がある。「神よ、わたしは他の人たちのような貧欲な者、不正な者、姦淫をする者でなく、この取税人のような人間でもないことを感謝します」と誇っているパリサイ人のように。

律法を自己満足のために利用すれば、これほど重宝なものはなく、律法によって神と対決しようとすれば、絶望の淵に追い込まれる、「わたしは何んというみじめな人間であろう。誰がこの死のからだから救ってくれるであろうか」と苦悶したパウロのように。けれども律法の真意はそのどちらでもない。「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」ということである。隣り人とは肉親だけでなく、隣家だけでなく、同胞だけでなく凡ての人である。愛は機性である。いくら捧げても、捧げ切れない思いで尽すことである。

善きサマリヤ人はこれだけしてやったのだから、もうこれでよかろうと言わないで、「費用がよけいにかかったら帰りがけに私が支払います」といった。半殺しにされた人の費用を、何んの関係もないサマリヤ人が代って支払う、滅ぶべき罪人のために、神の独子イエスが、十字架にかかって、救の業をなし、信ずる者を神の子とし、永遠の命を与えた。主なる神を愛するとは、イエスを信じて、新しい命を与えられ、凡ての人を隣人とすることである。アルベルト・シュヴァイツアーは言った「わたしが医者になろうとしたのは、しゃべらずにすむからであった。年来ことばの中に身をゆだねたが、来るべき仕事を愛の宗教についての説教の形で考えることはできなかった。ただその実践をのみ乞い願った」と長島愛生園で十五年間、医官として勤務していた犀川一夫博士は、「ただ医者として患者の治療をするだけでは、人生の意義がありません。霊肉共に救いたいと、家族同伴ちかく台湾の医療伝道に赴くことに決意いたしました。物質的には恵まれませんが、牧師先生方のことを思えば、何でもありません。こうして主の栄光を現わすことができれば、必らず後に続いてくれる人があることを信じます」と語った。

わたしたちもまた善きサマリヤ人になろうではないか。

（富田教会牧師）



公告

東中国教区定期総会

日時　三十五年五月四日（水）午後二時から
五月五日（木）午前十時半まで

会場　笠岡市横島　岡山県青年の家

教区規則第十五条及び第十六条により右の通り本教区定期総会を開催いたします。
規則に基いて各教会より代議員の御出席をお願い致します。詳しいことは後報いたします。

昭和三十五年三月二日

教区総会議長　壺井正夫

追伸　代議員の任期は二か年ですから目下その任期中ですが、第一種教会で代議員の変更がありますの節は至急教区事務所まで御通知下さい

私の通った幾つかの点

米子教会　加藤俊行

この度正教師となるに当って、今日あるために通った幾つかの点を思い起します。

第一には、私は大正十四年に玉野市に於て牧師である両親の下に生まれました。三才の夏海水浴の帰りに食べた桃があたって疫痢となり、姉は一足先に息を引きとり、私もその後を追いつゝあった状態からいやされました。その際の父の祈り「願わくはこの子を生かし御用のために用い給え」との言葉を後で聞き、深く思わしめられたことは「私は使命のゆえに生かされている」ということです。

第二は、昭和十五年祈り求めて救いの確信を与えられ、大いなる喜びと平安とを得たことです。

第三は、満洲に於て航空機関士、入隊、ソ連軍捕虜としての生活より帰国して、背けるペテロを棄てず、迷えるトマスを導き、放蕩息子を迎えた父の聖書の物語りは、自分に対して今も現実であったことを知らされたことです。

第四は、右のような恵に押し出される如く、伝道に励んだ自らの中に、深い罪の自覚を与えられ、主の再臨について不安を抱いている際の聖餐式のさ中、私の罪を負うて十字架より私を視つめ給う眼差しとその愛に迫られて、只主を仰ぎその愛に信頼する者とせられたことであり、「主の霊我に在す」との御言を得たことです。

第五には、召命の確かさを疑い躊躇していた際、ロマ十二の一とピリピ二の十三、十四の言を信じて神学校に入ったことです。

第六は、昭和三十年に卒業して牧会伝道していますが、私の喜びは、神は私をも御自身の業のために用いようとしていて下さることです。

「これでよいのか」

倉敷南教会　岡本加都夫

私が正教師に任ぜられるのは、たゞ神が聖霊をもって私を召し給うのである事を知り感謝いたします。それと共に今まで私を導き、答打ち、又なぐさめ下さった諸先生、諸先輩に厚くお礼を申します。

いよいよキリストの役者として、主のからだたる教会に力を尽して務めん事を誓うものであります。

私はこの式にのぞむにあたって、岡山の先輩石井十次先生の「二つの祈りの石」を思います。石井先生は祈りの人と言われた方ですが、特に密室での祈りには二つの石を手にもって自分の脚を、たゝいて、「これでいいのか」と反省なされたと聞いてます。先生がお亡りになった時に、先生の脚の骨が、がくがくにくだけているのを知り、こんなにはげしく自分を打ちたゝいて祈られていた事が解ったのです。聖書に「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない」(コリント第一九章二七)とあります。今私は「これでいいのか」この様な生活をしている私が按手礼を受けていいのかと言う反省であります。本日の浅野順一先生の説教に「若い教職者に言いたい、マジメな聖書の勉強、マジメな牧会をやりなさい」とおすすめ下さいましたが、私は反省をすると共に、自分の務の重きを知り、マジメな勉強と牧会をせんと決心するものであります。神の御手の導きを願うと共に今後とも皆様の祈りの支えと、はげましを願います。

仕えるために

三石和気教会　井殿園

今日の按手礼の喜びの時を迎えることができたのは、周囲にあって多くの方々が絶えず励まし、導き、援けて下さったことによるものであると信じ、厚く感謝を申し上げます。

今、牧師に任ぜられるにあたって、教職の職務について新たに考えさせられます。言うまでもなく私達キリスト者は互いに恩寵により年令、性別、地位、才能の区別なく共にひとしく神を礼拝し、神の言を聴くために召し集められた者です。又同時に隣り人に対して愛をもって仕え、伝道をするために散らされた神の民です。神と人とに「仕える」ことが私達の責任です。この責任の中で、牧師はすべての信仰者と共に同じ場に立っていますが、一つの「秩序」上、教会の第一義的な営みである礼拝に於て、御言の宣教と聖礼典の執行に当る者として、主の権威によって特別な働きの場をあたえられています。

(エペソ四の十一)(四頁下段へつづく)

聖句随想

「命にいたる門は狭く、その道は細い」(マタイ七の一四)

狭い門

佐敷重雄

開拓九年を迎えて種々考えさせられる。昭和二十七年と言えば、猫も杓子も教会に押し寄せたブームがまだ地方の土地には残っていた。第一年の受洗者は多かった。第三年目まで受洗者数はふえて行った。しかし考えてみると開拓早々の信徒に脱落者が多く、最近の信徒にそれの甚だしく少いのはどうしたことか。

たやすく信じようとする人々を未熟なまゝでうけ入れてもそれでは教会の真の意味の形成にはならん。恥かしいことだ。三ケ月一度の報告書を提出せねばならなかったが、三ケ月で地方教会の会員数、献金、受洗数に変化があるはずがない。そんな神経の細さで困難な地方の伝道ができるものではない。統計で神経の細い伝道者はつい数にこだわりてしまう。余り未熟なものに洗礼をさずけて、数で満足していると教会内の霊的調子が低くなって信者がみな風邪をひいてしまう。

どうも我々には統計だけで教会をみる癖がある。礼拝数だけで礼拝をはかるのも変なことだがどうもそういう傾向がある。二〇〇名の礼拝がめぐまれた礼拝で五〇名の礼拝が貧弱な礼拝であると考えるのもおかしい。量ばかり多いが温度が低くて中にいる者が出るに出られないような教会では大変だ。五十才を過ぎた男が今頃こんなことを考えているかと思うと恥かしくなる。もっと神経を太くもってしっかりした教会形成をしたいと思う。

(琴浦教会牧師)

質を忘れる危険がある。

クリスト者は風呂に入っているようなものである。水ばかり多く入れても火をたく者の少いときは、せっかくいゝ湯加減の湯までさ

現代の教会に期待するもの

私のねがい

林　昇

私は日曜学校に通っていた子供時代より考えますと、今日では実に六十五年余の信仰生活になります教会をその出席者数から見ますと随分浮沈がございました。もし着々と栄えて行ったとするならば実に堂々たる大教会になり得たと考えられますが、なかなか左様になりません。その罪は私共が負うものです。それには教会自体や信徒やその他いろいろな変化によることもありましょう。

主を信ずることは神を信ずることで、人を信ずることではありません。しかし世の人の信仰心の中には左様な気持が混じっています。そこで私共は自分の信仰のみに止まらず、たとえ伝道が上手でなくても身をもってその信仰を示すといった真剣さがなくては駄目です。

従いまして、信者自体が伝道ノイローゼにならないで、信仰に忠実で熱心であり、社会的に信用を傷つけないようにクリスチャンとして真面目な日常生活を続けることが最も大切であり、このことを第一に現代の教会に期待してやみません。

信徒の方々で、多忙のため礼拝に出られない方がありますが、そのことを内部的に批評などせず、ともかく時に触れ、折を見て誘うことです。一番よいのはその家で家庭集会をして、互に祈り合うことです。祈りは涙をもって真剣に祈るようになります。これが第二の期待です。

それから私の教会では青年が少ないので何か活気が乏しいようですが、活動性に富む青年会を作らなくてはいけないと祈っています。そして市町村に於て先導的に活動をしなくてはいけないと思いますこれが第三の期待です。

（天城教会長老）

×　×　×

教会に希む

小畑峯子

先日、文化講演会を聴きに行き、肩すかしを受けたことがある。出版社の何周年記念とやらで、多分に宣伝をかねて著名人を揃えたのであるが皆、踊らされた人形のようにきれいごとを述べたてて引込んでしまった。聴衆はあきらかに失望を拭い切れず、暗い面持で帰途についた。

個人の辿る、又、国や民族の進むべき方向を、求め探る真剣な眼をこのように会場に溢れさせながら、この講演者ひいては企画者たちは、人々の信頼に対して責任を感じないのであろうか。

古来あらゆる文化、宗教を摂取し消化して来た日本人はキリスト教に対しても未だ決して確固たる礎を築いていない。日本の風土と国民性に密着した必然的な受け入れを小さな所から、長い期間をかけてしむけてゆかなければならないと思う。

現在、教会の直面している問題は色々あると思うが、特に私の希求するものは左のごとき点である。

1、教会は実質的に愛の実践に心傾け、小さな島国根性を捨てること。政治、社会人間と遊離した神秘性を追わないこと。

2、対非キリスト者との問題よりも先ずキリスト者同志の連体性を重視したい。馴れあいや義理人情、階級感情が教会内部の機構、人間関係を支配してはいまいか

3、教会の自主性を保ちたいがために世と妥協し、権力に頭を下げることをしないでいざという場合に力を合わせて立ち上る神の御国を建設する僕たることを確認しよう。

教会は常に、人々の希望と信頼を失ってはならない。

（岡山教会員）

欠乏を回復するキリスト

山崎尚士

ヨハネ伝二章を読むとイエスが婚礼の宴で、飲むべきぶどう酒が欠乏した時、水をぶどう酒に変えて最初のしるしを行い、その栄光をあらわされたことを記している。

一月の教師の友で私は次のことを示された。即ち聖書の此の箇所は、我々現代人の生活を象徴している。多くの人々は科学の進歩を謳歌し、文化生活に酔い、或者は流行を追い、他の者は金もうけに血まなこになっている。それは丁度結婚式の宴で喜び騒いでいる人々と同じである。宴会になくてはならない大切なぶどう酒が欠乏していることを知らずに飲み食いしているように、我々人間の生活になくてはならない大切なものが欠けている。それは正しい望みであり、正義の力であり、敵をも愛する愛であり、永遠に変らない真実である。そしてこれらのものの欠乏がどんなに重大なことであるかを知らずにいる。又たとえ宴会の主催者のごとくその大切なものの欠乏していることに気がついた一部の人々も、その破局をどうするすべもなく全く絶望的になっている。

しかし主イエスキリストは新しい創造のできる方であり絶望的な欠乏を回復し給う方である。足りなくなったぶどう酒をあり余るほど提供して下さる方である。主イエスキリストの愛と真実に触れる時我々は新しくせられ、我々の生活に欠けている大切なものが回復される。

私はこのことを教会学校の生徒達に平常にない熱意をこめて話した。これこそ私がキリスト教に期待するものであり、このことの証しのために更に、更に信仰生活に精進したい。

（岡山信愛教会員）

放射能

▼かつて賀川豊彦が十人の信者が十分の一献金を本気ですれば牧師の生活を支えることができると言ったことがある▼赤岩栄の上原教会は五、六人の東大その他の大学生達が親元から送られて来る学資を持寄って先生を支えて共同生活をしたことから始まったとその中の一人、今は九大農学部の沢田教授から彼の東大生時代に聞かされて感心したことがある。このように牧師を支えてゆく信徒がふえたら日本の宣教は進展するのではあるまいか。▼銀座教会の牧師三井勇が死んだ時その告別式当日は銀座教会附近の靴磨きも屋台店のおかみさん達も商売を休んで涙ながらに参列した。常日頃の牧師の愛の業に感動していたからである。▼しかし牧師をして、しかなさしめ得た背後に幾人かの立派な信徒がいたことを私は知らされている。「先生、神様の御用のために御自由に用いて下さい」と差出された金がいつも彼のポケットの中に入っていたのだ。▼旧態、教会員が「臨時収入がありましたので」と言葉を添えて受取り易いように数千円を贈ってくれた。喜びを教職に分とうとするその優しい心に感動し私も亦幾人かの貧しい聖徒達にそれを分ったことである。

（長坂）

教会便り

米子教会（加藤牧師）
一月十四日十五日、講師長坂龍太郎先生を迎えて新年聖会を開催し、四、五十名の出席者のもとに宣教第二世紀を迎えた教会の教勢の伸展、財政の適正化を目指す決意と、信徒の信仰生活の成長について良き指導とを与えられ、相互の親睦を深めつゝ大いなる益を受けました。これを機会として壮年会の発足をなし、今後の活躍が待たれています。

玉島教会（高塚牧師）
昨年夏より七十五万円の予算で計画されていた教会集会室の増築が完成されました。

十文字平和教会（溝手牧師）
農村教会自給援助金を受けた同教会は教団より乳牛を入手。その飼育管理人布下恒三氏は去る一月生れた牝仔牛を献納されました。これは同教会員土師美津子姉が飼育管理される予定です。着々その自給独立への歩みを進めておられます。

美作落合教会（荒谷牧師）
同教会はこの程第二種教会から第一種教会になったので、近日中に教会建設式が行われる予定です。

岡山教会（壺井牧師）
同教会は本年が創立八十周年に当るので、教会堂の増改築の完成及び諸種の記念集会を計画中です。

鳥取教会（常田牧師）
三月二十日、鳥取教会創立七十周年記念式典が挙行され、その記念礼拝に於て、壺井牧師が説教をされます

◇個人消息◇

堀川勝愛教師（岡山教会）
去る二月十四日、平野慶子姉と岡山教会に於て、壺井牧師の司式により婚約式を挙げられました。

犀川一夫医官（長島愛生園）
今度教団海外伝道委員会より台湾に医療伝道のため、派遣されることになりしたその壮行会が有志によって一月二十七日岡山市三好野会館で行われ、癩療養所関係に優れた医療宣教者を送り得ることを共に喜び、主の導きと力とが豊かに与えられるよう祈りを共にしました。

斎藤盛三氏（旭東教会）
昨年九月大阪津守病院事務長として御赴任なさいましたが、三月には御家族もお移りになることになりました。大阪市西成区津守町西五の七四。尚御長女緑さんは去る二月十一日脇本牧師司式により大西英爾氏と御婚約なさいました。

井殿園牧師（三石、和気教会）
岡本加都夫牧師（倉敷南教会）
一月二十五日、岡山信愛教会に於て教区総会議長壺井牧師司式のもとに按手礼をお受けになりました。

壺井正夫牧師（岡山教会）
長坂竜太郎牧師（信愛教会）
去る二月二十二日から二十四日まで天城山荘に於て行われた宣教基本方策研究協議会に御出席。尚壺井牧師は二十四日から二十六日まで教団第六回常議員会に出席されました。

岡本加都夫牧師（倉敷南教会）
去る二十四日男児を与えられ「春実」と命名されました。

中村博伝道師
岡山博愛会教会を辞され、関東教区長岡教会に今年早々に御転任になりました。

農村伝道部ニュース

○農民福音学校
美作落合、久世、勝山の三教会合同で三月二十七日から一泊二日の予定で湯原に於て開催されます。

○農村伝道神学校インターン制度
農村伝道神学校では二ケ年の学習の後三年目を一年間実習として農村教会に派遣し、教会の伝道を応援させる制度を、三五年四月より実施することになりました具体的には本人の学校より教会までの往復旅費及び一ケ月二千円を小遣いとして本人に学校より支給、受入れ教会は滞在費のみを見ていただいて一年間実地に伝道にあたらしめると言うことです。三十五年度は九名の該当者があります。以上の件についての御問合せは教区農伝委員会までお尋ね下さい。

青年部ニュース

○岡山県KKS大会
三月二十八日（月）午前十時から午後五時まで。岡山教会に於て。兵庫教区青年部委員長甲東教会牧師芹野後郎先生を迎えて開かれます。多数の教会高校青年の参加出席を期待します。

職域伝道部ニュース

◇松本美実委員長、向井芳男書記を迎え、職伝の懇談会が一月十九日船越姉宅で開かれた。教区からは職伝委員外数名の方に御出席願った。職伝の理解の浸透のための語り合いで日本の労働者の構造に対してどのように入って行くか「働く人」の編集に対する意見が交され、キリスト者の立場から書かれた論説等を各教会でも活用して頂きたい、教区の職伝の働き等について検討する。

◇労働福音学校
関西学院神学部助教授の藤井孝夫先生を講師として迎え、次の日程で行われます。
三月七日、教職会。「職域伝道の課題」の主題で倉敷教会に於て。同日夕、水島地区集会。
三月八日、玉野教会職伝集会
三月九日、岡山市内連合職伝集会。

社会部ニュース

前号で予報した「社会問題ゼミナール」は講師に長谷川保代議士を迎えて、二月十五日午前十時から午後九時まで岡山教会に於て開かれました山陰地方からも多数出席者があり総数三十二名の盛会でした。「日本の当面する社会、経済、政治の問題と基督者の責任」について三回にわたって講演があり、平素聞くことのできない問題について深く広く学ぶことができたのは大きなよろこびでした。講師を中心に親しく熱心な質疑応答が続けられました。

夜笠病院は去る一月七日炎上し十六名が死去しました。教団は百五十万円支出して犠牲者慰問金としました。各教会の協力寄附金を期待しています。

今夏の西日本キリスト教保育夏期大学は、京阪神の三区で引き受け、近畿地方で開催されます。

安保反対の運動は教団全体で動きつゝあります。教会は政治に関与せずなどの迷言をはかずに決断を迫られている情勢を認めて欲しいです。

（更井）

（二頁よりつづく）

教会が真実に神と人とに仕えるために、神は牧師を召され、教会に属する者がすべて仕えて生きるために、牧師を教会に「仕える者」として立て給うのであります。

牧師は全面的に宗教的天才ではあり得ません。唯、神が語りかけ給うところを信じてのみ、そして特別なる神のゆるしと教会に「仕える者」として神が押し出し給うことを信じてのみ、多くの人間としての弱点、欠点を超えて働くことができるのです。

よき羊飼いとして立ち給うイエスの御言に従いながら、謙虚にして真実に、教会に於て生きた対話を互いに交しつつ歩んで行きたいと願っています。

編集後記

遅くなりましたが第五号をお送りします。第二面は今回受按された三人の先生の信仰告白を特集しました。レントを有意に過されましょう。

（I）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1960年5月31日（隔月発行）



空を見よ　田中忠雄

説教

もう一つの電波

使徒行伝　二。一―四

鎌谷幸一

最近の親はテレビに悩まされている。私もその例外ではなく、テレビの前から子供達を勉強机の前につれて来るのに一苦労をする。そのくせ、プロレスやプロ野球の番組の時にテレビの前から動かないのは外ならぬ私であるから、親としての権威がないのも無理からぬことである。電気の知識の乏しい私は、テレビを見る時にいつも、何百里も離れたところで行われている事柄を居ながらにして見ることができるのを大変不思議に思う。目に見えないが私達の囲りを無数の電波が駆け回っているらしい。私達がラジオとかテレビとかで、その電波をとらえると、それが音と変えられ光と変えられて、私達の感覚でとらえられるようになるらしい。不思議なことだ。

その電波の他にもう一つの電波のようなものが私達の上にそそがれている。それはいかに精巧なラジオでもテレビでも捉えることはできない。その発信者は現在神の右に座して居給う主イエス・キリストである。その電波の如きものは聖霊と呼ばれ、それを受けとめるものは信仰である。

ペンテコステの日に弟子達のうけたのはこの聖霊であった。弟子達の囲りに居た人々はたゞあっけに取られたと聖書は私達に告げている。聖霊の存在、又降臨は信仰の無い人々には理解されないことがらであり、たゞあっけに取られるような事柄である。でも目に見えなくても電波があるように、聖霊は厳然として存在する。その聖霊を受けとめるのは信仰である。私達は時に信仰的に感情の高まりを経験する。けれども私達の感情は有限であるが故に、いつしかその感情は弱まり低まって来る。感情の高まりが即ち聖霊が強く働く結果であると考えることは大変危険である。何故ならば、そのような考えの下では感情の低まり、即ち聖霊の働きが弱まった結果であると考えられ、何とか感情を高めようと努め、他の理由で高められた感情をも聖霊の働きであると誤信し、そこに満足を求めるようになるからである。聖霊を受け止めるのは、私達の感覚ではない。私達の信仰なのである。聖霊は感ぜられるものではなく、信ぜられるべきものである。

鳥合の衆にすぎなかった弟子達に、ペンテコステの日に聖霊がそゝがれたときに統制が与えられた。即ちキリストが支配し給う教会が生れた。その教会はキリストの身体であり、キリストの霊を宿す聖霊の宮である。それ以来教会は聖霊に動かされて、世界の歴史の中に救済の戦いを展開して来た。聖霊は教会を創り教会を動かして来た。私達一人〳〵に働く聖霊は教会を通して働くのである。神は聖霊のルートを教会以外に持ち給わない。主が「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、又わたしがその人と実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と語り給うたが、今日におけるぶどうの木はキリストの身体である教会である。私達はどんなことがあっても教会から離れてはいけない。教会から離れることは聖霊を拒否することになる。

強力な電波を出している電波探知機の前を通った技師が電波に刺し殺されたと云うニュースが外電によって伝えられている。電波は時に人を殺す。しかし聖霊は人を生かす。エゼキエルは、枯れた骨が神の息によって生き返えることを預言している。意気消沈していた弟子達は、聖霊の降臨によって打って変って生き生きと宣教活動を開始した。聖霊は罪に打ちひしがれて、死ぬべき私達に新しい生命を与えて立上らせる。

子供が喜んで見るテレビの番組に〝鉄人二十八号〟と云うのがある。怪力を持つ鉄で作られたロボットが遠隔操作による電波に動かされて活躍すると云う筋である。私達に生きる原動力を与える聖霊もその電波に似ている。しかし電波はロボットをたゞ消極的に動かすだけだが、聖霊は私達を根本的に創り変えて積極的に主の為に生きる能力を与える。聖霊は能力である。「聖霊があなたがたにくだる時あなたがたは力を受けて、……地の果まで、わたしの証人となるであろう。」と約束したもうた主が、その約束の聖霊をくだし給うたときに、弟子達は本当に力を受けて主の証人として生命がけの宣教に当った。それ以後の福音の歴史に於ても多くの信仰の先輩達が同じ聖霊の力を受けて、主の証しをなしつゞけて来た。

宣教第二世紀をむかえて、いよ〳〵祖国の救いに邁進しなければならない私達に必要なものは、聖霊の力を受けることではないだろうか。

願わくは主よ、我らにも聖霊を与えて、力強き宣教の戦いを展開せしめ給え。

（倉吉教会牧師）

目次

◇説教…もう一つの電波……鎌谷幸一(1)
◇座談会〝伝道・その反省と方向ずけ〟…(2)
◇放射能……高杉三四子(2)
◇聖句随想……エルダー(3)
◇教区内ニュース……(4)

伝道・その反省と方向ずけ

座談会

出席者
壺井　正夫（岡山教会牧師）
長坂龍太郎（岡山信愛教会牧師）
佐藤　重雄（琴浦教会牧師）
高杉三四子（笠岡教会牧師）
戸田　伊助（蕃山町教会牧師）
エルダー（宣教師）
加藤　俊行（米子教会牧師）
井殿　園（三石教会牧師）
岡本加都夫（倉敷南教会牧師）

今日は「伝道の諸問題」についてお話しあいをしていただきます。

先づ現在私たちの教会に於て伝道をはばんでいるいろいろの要素を取り出して話して行っていただきましょう。

G　牧師自身の側に反省しなければならない点（例えば神学的研さん、説教、真面目な信徒訓練など）がありますが役員自身も牧師を援け、協力し、大きな伝道の幻を抱いて行かなければならないと思います。これが欠除していないでしょうか。幻がないと自分の小さな範囲や教会の中だけのことしか考えないで、広い地域の伝道や教会員の一致にも欠けるし、将来に対する計画も出て来ないでしょう。牧師がほんとうに働きよい状態を教会が作り出すことが必要でしょう。

C　役員会をどうこうしようと思っても駄目だ。それよりは伝道的情熱に燃えるグループから実際に始める。その中次第に大きくなって行く。やはり実際伝道の尊い体験の中から具体的な生きた伝道方策が生れて来る。講師を迎えたり、ビラをはったりの特別伝道集会よりは、牧師が信徒を伝道に向って具体的に手をとって訓練することが大切だ教会が伝道的に結束していないし、組織をもっていないことは大きな欠陥ですよ。

F　私は時々思うのだけれど教会に於ても階級斗争（言い方が悪いが）が入って来ている。牧師が経営者で、役員が組合員の代表者という感じがしますね（笑声）いつまでたっても伝道なんかできませんね。

結局、教会は何であるか、又教会の存立使命と意義は何であるかがはっきりしていないからではないかな。

D　それは一般信徒にとって大事なことです。婦人部では今年は教会について勉強します。例えば婦人会には出るけれども礼拝には出ないという人が案外多いのではないでしょうか。

B　私のところでも婦人会は礼拝することの目的や意義について学びます。礼拝を守るということがどんなに大切か、案外わかってないですよ

C　教会は単に信者同志が慰め合ったり、親睦したりするところではない。神の召によって選ばれた人達がそれに応えて行くところです。もっと伝道に対して戦斗的でないといけない。私のところではふさわしくない各部委員や役員はよく話し合った上で解任して行くんですよ。



F　口よりも実行することは本当に大切ですね。失敗してもやっている間に伝道態勢が生れて来ます。先ずあるものから手近かに伝道を始めて行くことですよ。

C　牧師にこうした点で大きな責任がある。教職が信徒の指導や伝道に於て、具体的な方策を持ってない。やろうと考えているだけでは一番いけない。訪問伝道の組会ができるのにうちでは五年かかった。ここから家庭集会が生れ教会全体の伝道方策が育ってきた。

F　文書伝道をしても、又訪問伝道をしても、その人を救いたいという熱意が無ければ何をしても駄目です。牧師に言われたから訪問しましたビラを配りましたでは何にもなりません。大切なのは、救いたいという「魂に対する愛」です。

B　私はね、今日の教会には牧師にも信徒にも「危機感」が非常に少ない。即ちあの人は、この国はこのまゝでは滅びてしまうという「危機感」が稀薄だと思う。

もう一つは教会への確信—教会の外に救いはないというような確信—や教会観が薄弱であり、微弱ですよ。

この二つから伝道が進展しない。これは説教に原因がある。僕なんか反省してみて、ほんとうに生死の境をさまよっている人には、あっても無くてもよいような説教をしていることが多い。

C　こういうと残念ですが僕は旧組合教会の信徒はわがまゝで教会観がはっきりしてないと思いますね。

C B　組合に限らないですよ修養と信仰を混同してる。

D　それをどういうようにして福音的なものに変えるかこのことのみに牧師は追われている。真面目な人は倫理的なものだけをキリスト教の信仰からとっている。そこから一歩も出られないで、結局その時代に迎合している。

C　海老名弾正の信仰からしてそうなんですよ。キリスト教は武士道よりは一寸ましだと思っている。そこには信仰的な飛躍がないんです。

A　啓蒙的な時代に於けるそういうものしか受けていないんです。「贖罪信仰の確立」というものはなかったと思う—これは一寸言いすぎかも知れないが……。

D　それは厳密に言えば日本の精神的風土の中に恥の観

（三頁へつづく）

—放—射—能—

▼泰山木の花がもうすぐ咲く大きな真直な幹と固い長いつやのよい葉　真白な大きな花好きな花だ。これが校花といわれていた校舎が移転して泰山木は校庭に葬えず、学校にあったのは唐変木ばかり、即ち教師と生徒、「この唐変木の群れが自分を養った」と大阪梅花学園長民秋先生が唐変木の同窓会で語られた。▼省みて教会はあまりに常識的になりすぎて、世俗社会と寸毫も変らないので誰をも養わないのではないかと心配になって来た。▼しかしバッジをつけた唐変木は御免である。▼世間と違っていることを売物にするのは世俗主義の変形であり、その裏返しである。▼売物でなければ秘密結社だ。▼主イエスの教会は秘密結社ではない。▼銀座四丁目も常置委員会も公開されている。▼現在信徒の問題が、伝道ということを中心に論議の対象になっている。▼信徒とは福音を信じて、そのことの故に生きているクリスチャンのことだ。▼牧師であろうと、平信徒であろうと、本質的には同じである。▼牧師のできそこないみたいな信徒が教会の優等生であったり、証といえば現世利益に翻訳しないと感激できないのは困りものだ。

（高杉）

念はあるけれども罪の観念はない。だから罪ということはわからないですよ。それは聖書を学ぶことによって初めて愛とか赦しがわかるのであって、実際に聖書を学ばないではわかりません。それが私は伝道のむつかしさだと思います。

C　神の方から人間へという方向はないですからね。

D　人間が形をととのえて神の前に出るということはわかるけれど、神から人間にという方向はわかりにくいですね。

C　結局日本人が一番つまずきやすいのは贖罪論ではないですか。私はそう思う。

D　そういう時代に育った人達が今も役員をしている人に多い。だから困るんですよ。

F　それで人々に福音を宣べ伝える必要を感じない。教会には来る必要を感するが、魂の救いを求めて礼拝に出るのではない。だから人を救おうという愛もなければ熱意もないあく迄教会形成そのものが自己目的となってはいけない。教会でも「自分の命を救おうとするものはそれを失う」。私たちは教会の生命を救おうと思ったら失いますね。教会は自分の生命を捨てて、伝道奉仕に自分の生命を捧げる時に生きる。又そういう教会はほんとうに成長する。させなくても自然と成長しますよ。



C　私は教団が能率を上げるような伝道をすすめていると思う。能率の上らないような伝道の中にもほんとうの伝道をしている人はあるのです。どうも数字で教会をはかる傾向が非常に強くなった。

I　伝道の成果は神の力によってなるものであって　いくら努力しても小さいところは小さい。伝道の成果を神の力によることとは思わず自分の力だと思うことは間違いです。

B　小さいところで一人救われたということは都市の相当の教会員をもっているところで二十人救われたことと同じですよ。

ほんとうに救われることを目指して行くなら、或る場合は乗らないように何年間も教育しているからね。（笑声）

F　神の力に対する期待が少ない。自分の力を計って、これだけだからこれだけしか出来ないというのはどうかと思うね。幻を持ってやれば、神は不思議な業をなし給うという期待がどうもないのではないかと思う。

B　とにかくやってみることですね。速効性がないのが我々の仕事だ。忍耐をもって気長にやることですね。それから資本主義的な言葉だけれど伝道に対する投資が少ない伝道の仕事は、余程のことがない限りプッシュした方がよい。又やったことに対して、「後仕末」がない。反省がない。やりっぱなしになる。果してどれだけの人が導かれるようになったかということは余り考えないからね。

いつか同志社の大下さんが言っておられたことで考えさせられたのだけれど「この町をキリストに導こう」という大きな幻がないね。この町が救われるために私たちの教会はどう仕えて行こうかという幻がない。ただ教会は出席者や財政の数を問題にして、こうした点は考えていない。一人の魂を求めることが必要であると同時に、この町がどう導かれているかということは私たちがいつも考えてなけれ

（四頁五段へつづく）

恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから」列王紀下第六章一六

聖句随想

神の力の見える人

エルダー

この言葉は夜中にスリヤの大軍に囲まれたことを知って恐れおののいている若い召使に言ったエリシャの言葉です。日本にある主の教会の私達に意義深い、注目すべき言葉だと思います

私達も敵に囲まれています。永いキリスト教弾圧の残響、他宗教、物質を追求して止まない社会の忙しさこれに対して教会の声は小さい、数は少ない、財力は乏しい。エリシャのごとく大軍に囲まれている。この中にあってエリシャのようではなく、その若い召使ある。

失います。エリシャのごとく自身を囲んで支えている神の力が見える人こそ真の信仰の目を持っている人である。

私達は頭の中で神の力を制限する。自分の力を計ってそれによって神の国の成長を定める。神が大いなるわざをなすことを期待しません。とにかく自分の場においては。これは教会に於ける献身的な熱意の乏しいことの一つの説明かもしれない。

しかし私達の神は単なる哲学的な思想ではありません。唯一の真の生ける神であります。大いなるわざをなす神であります。無から有を創造する神、死からよみがえらせる神、敵の手から救い出す神、行き詰りを打開する神であります。自分の教会を生み出して絶えずそれを浄め、支え導く生ける神であります。

に似ている時があまりにも多過ぎる。私達を囲んで逆らって来る勢力がはっきり見えるのでその方に目を奪われてしまい、神の力を見

教会便り

美作落合教会（荒谷牧師）
五月十五日、常田副議長司式のもとに第一種教会建設式を挙行されました。

岡山信愛教会（長坂牧師）
会堂の増改築が計画され、近日中に着工される予定です。

玉島、笠岡、寄島教会
去る十五日、合同野外礼拝を笠岡市青年の家で行い、相互の交りを深められました。

琴浦教会（佐敷牧師）
今程、教会堂の修理を完了されました。

▽個人消息△

飯清牧師
三月末日をもって倉敷教会を辞され、東京霊南坂教会に御転任。五月二十二日、同教会に於て就任式が行われました。新住所、東京都港区赤坂霊南坂町十四、霊南坂教会内。

中堀仁四郎教師（倉敷教会）
今程、同教会主任担任教師代務者に就任されました。

高塚勝牧師（玉島教会）
教区総会に於て、教区書記に選任されました。

壺井正夫牧師（岡山教会）
過労のため一時静養を必要とされているようでしたが間もなく回復され、平常通りに活躍されています。

佐敷重雄牧師（琴浦教会）
去る十六日、軽度の失語症の失患により岡山日赤病院に御入院加療されていますが快方に向っておられます。

寺崎暹牧師
今回高梁教会を辞され、小樽公園通教会に転任され、五月二十五日出発されました。

河野進牧師（富田教会）
六月上旬、沖縄の癩療養所その他を問安、伝道のため出発される予定です。

服部愛子教師（岡山聖心教会）
かって倉吉東部教会で活躍されていたが、四月から同教会担任教師として働らいておられます。

関雅人教師（玉野教会）
五月四日教区総会に於て壺井総会議長司式のもとに准允を受けられ、同教会担任教師に就任されました。

土井龍也教師（久世勝山教会）
教区総会で壺井総会議長の司式により准允を受けられ両教会担任教師に御就任。来る六月八日就任式を挙行される予定です。

武用志芸教師（倉敷西教会）
五月二十日、召天され、二十三日午後告別式が教会葬として執行されました。

青年部ニュース

教区KKS夏期修養会
日時　八月十日～十三日（三泊四日）
会場　笠岡市横島　岡山県青年の家
主題　「神と人生」
会費　約七百円
多数の教会高校青年の参加出席を期待しています。おすゝめ下さい。詳細は追ってお知らせします。

伝道部ニュース

五月二十日第一回委員会を蕃山町教会に於て開き、教職研修会を八月末に持つこと、その他伝道案大綱を具体化するため協議した。

婦人部ニュース

東中国教区婦人部修養会
日時　六月二十八日（火）午後一時より二十九日（水）午前十一時三十分まで
会場　倉敷市酒津　観光ホテル
主題　「聖書を通して教会を学ぼう」
講師　教団婦人部委員長、信濃町教会副牧師、渡辺紀子先生
詳細は各教会婦人会宛追って御案内いたしますが、得難い講師をお迎えすることではあり、近くの教会の方は通うこともできますので、どうか今から日時を繰り合せて多数御出席下さい。（婦人部委員）

教育部ニュース

委員長飯牧師辞任により、佐敷重雄牧師が委員長になった。尚委員として藤岡友幸教師（児島教会）が選任された

財務部ニュース

去る教区総会に於て、本年度予算が承認され、各教会負担金等の納入額が決定した。各教会が納入に御協力下さるよう期待している。

農村伝道部ニュース

第六回農村教会青年協議会
日時　七月四日～五日
場所　湯原町　湯原館
主題　「世にある信徒」
講師　関東教区農伝部委員長　小出教会牧師　桜井乾一郎先生
費用　三五〇円

社会部ニュース

㈠第二回キリスト教保育夏期大学が来る十七日～十九日奈良県吉野町で開催されます。本教区内の諸教会に属する保母全員参加されるよう今から御用意願います。詳細は後報します。

㈡先日の大津波の被害は甚大です。各教会は義捐金を募って教区会計へ御送金下さいませ。

（三頁よりつづく）

ばならない。その点が弱いと思っている。

F　こうした点でラジオ伝道や文書伝道も必要です。教会のないところで求めている人には、そういう方法は重要です。いつも「日本をキリストへ」と考えて進みたいですね。こういう幻はほんとうに教会の置かれている地域に対する認識と責任感から生れて来るものですが……。

I　牧師は土地の砂となるべきです。

B　町で起るいろいろの痛ましい出来事――例えば酒をのんで人を殺すとか一家心中など――が起るのは、やはり私たちの宣教活動がいいかげんであったからだ、どうしてもこの町が福音化されなければならないという意識が稀薄だったと反省したい。

F　僕はクリスチャンは毎朝新聞を読んで悩むべきだと思うね。そこにのっている罪が自分の罪だという意識が教会には欠けてるね。ほんとうに。キリストの愛をもって生きているなら、大いに責任を感ずるね。

B　そういう考えがなくて牧師は説教をするから、宣教に力が出て来ない。

G　時々町全体を見渡して教会はこれに対してどれだけのことをしているか反省し、祈るべきでしょう。自分はここに使命を与えられた者としてどれだけのことをしているか反省することです。

B　私は非キリスト教的ないろんなところに牧師は出かけて行く必要があると思う。それをしない。ただ教会に来るのを待っている。やはり私はいろんな批判があるが、全体的に言って牧師は社会にもっと出て行かなければならないと思っている。牧師はあまりに内にとじこもりすぎる。

もう日本に於ては、キリスト教を他にしては駄目だね。他の宗教ではどうにもならない。だから我々がいいかげんになってしまっては終りだ。

編後集記

▼ペンテコステ特集号をお送りします。座談会は去る五月十三日、岡山市東山の伊賀氏宅において開いたものです。その中から要約しました。魂への熱愛と大きな幻を持って伝道したいものです。

▼この「東中国」を育てゝ行くために御意見や原稿をお送り下さい。

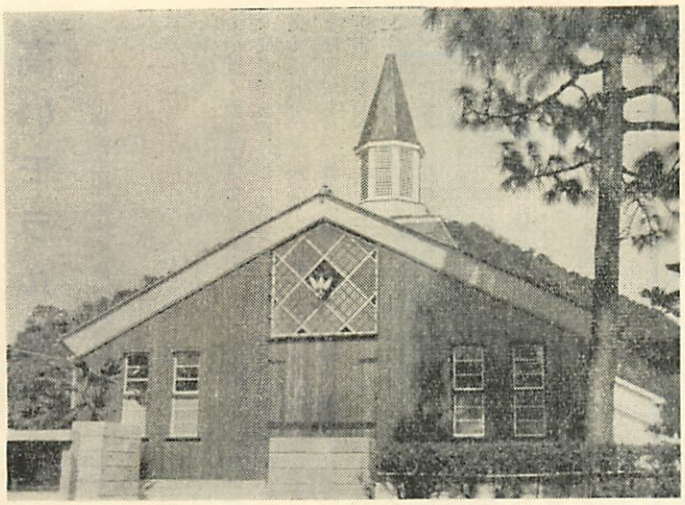
▼誌代一部五円を教会でまとめて教区会計へ寄付して戴きたく望んでいます。

▼よい夏の行事計画が今からたてられますよう祈りつゝ

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1960年 8 月21日（隔月発行）



創立70周年を迎えた鳥取教会

論説

信徒・教会・社会

脇本寿

昨年わが国を訪ずれ、その講演と著書を通して、大きな波紋を投じたスイスの神学者ハンス・ウェーバーの「信徒教会、社会」の解説を誰にでも分るように書けということである。誰にでも分るようにとは、神学的用語を使わずにというだけでなく、正しく噛み砕いて書けということであろう。そんな芸当ができる訳がない。とすると勉強させてやろうという親心であろうかおかげで文字通り汗だくである。夏の研修会や今年度の教会の方向付けの参考になればという編集氏の意図に沿い得れば幸である。

既に教界の雑誌や新聞（朝日にも）等に書評が出ていて今更の感がするが……。

ウェーバーの著書は短い三つの論文を集めた一〇〇頁程のものである。即ち「宣教の教会の性格」「新しいキリスト者の生き方」「家にある教会」である。この三つの論文は互いに密接な関連をもってかゝれている。つまり今日教会は体質の改善を迫られている。それは信徒の位置と役割について根本的な検討を試みることによって可能であるという。今少し詳しくウェーバーの言うところを聞いてみよう。

最初の論文「宣教の教会の性格」はウェーバーの教会観の骨子をなしているもので、教会は「この世に仕えて、キリストと共に働く教会」へと改革されようとしている。その時従来の教職によって宣教の任務が果され、信徒は教職を助けて働く単なる手足のように考えられた教職中心主義が破られねばならないと言う。聖書の見解もエペソ四章十一、十二にはキリストが予言者、伝道者、牧師、教師をお立てになったのは、聖徒（信徒の意）達をとゝのえて奉仕の業をさせ、キリストの体を建てさせるためであるといっている。ウェーバーは聖職にある者が第一ではなくて聖徒、平信徒、会衆全員が第一であると言いきっている。（註、がそれは奉仕の働きの上のことで教職に何らの権威はなく、単なる使用人であると言う意味では決してない。）

更に平信徒の真の役割はいわゆる教会内の奉仕の業をすることではない。信徒達が生活しているあらゆる場所で奉仕することである。教会の第一線の戦士は平信徒であり、その日常生活こそ働きの場所なのである。聖職にある者はさしずめ食事当番である。もっとも参謀本部をも兼ねているが、（彼のユーモアを解してほしい。）

教会は本来「集められた教会」と「散らされた教会」の両面を持っている。これまでとかく集会している時を教会と考え、世俗社会の中に散って行ってそこで働いている信徒がまた教会であるということが見失われていた。信徒の真の任務は「集められた教会」よりもむしろ「散らされた教会」に於て発揮されると言う。（このことは集会がその意義を失うということの反対であろう。）

第二の論文「新しいキリスト者の生き方」に於てウェーバーは新しいキリスト者の一つの型としてデイトリッヒ・ボンヘッファを紹介し、キリストに従って生き、世俗社会の真只中に身を挺したあの「服従」こそ今日の我々の生き方を示しているという。「万人祭司主義」を打出したプロテスタント教会に於いてすら正しく認識されなかった信徒の位置が今や新しくうち建てられようとしている。それはこの世から退く聖徒でなく、日常生活の中に生きる聖徒である。この章で教会についてのより深い理解を強調し、教会の本質と機能を正しく把握しないで、世に奉仕するキリスト者は生れないといっていることは注目に値する。

第三の論文「家にある教会」に於て著者は、ロマ郊外のごく貧しい家で守られた生活とじかに結びついた印象的な礼拝について語り、この自発的な共同体が制度主義や形式的組織に置きかえられはしないだろうかと危惧している。今日の教会の無感動と無力を救う道は教会が新約のいうオイコス（家）でなければならない。オイコスとは人が実際に住みまた働く場所の意味である。「家の教会」とはどのような教会であろうか。伝統的な制度や先入観を抜きにして探さねばならない。小さなサークル、グループ、細胞、共同体等さまざまの形態で地域社会に浸透してゆき、交りを作り出して行かなければならない。これが福音伝達を可能にするし、宣教の教会を建てる一つの道であると。

ウェーバーのこの論文は相当に革命的な異常な教会観、信徒論に見えるが、「実はわれわれの正常でない教会生活に対する素朴な聖書的問いかけなのである」という。教会の固定化と失われていた一面に対する変革ののろしであると思う。

しかし歴史の浅い日本の教会では一つのブームに終ったり、一面的な受取り方をする危険性は十分にある。又「信徒」の自覚が教職との対立の型や代用品に成り代ることがないように勉強して行かなければならない。

神の言が正しく宣べ伝えられ、聖礼典が正しく執行される教会を造り上げてゆく努力の中で、それと共にウェーバーの忠告を受入れて行かなければならない。ウェーバーの主張は確かに真の教会の否定ではなく、建設への一つの重要な提言であると思う。

（旭東教会牧師）

× × ×

高いモラルを

—教区主催全体役員修養会を前にして—

戸田伊助

十年近く教会役員をして来た一長老がある時こう言った。「長く長老をして来たが、長老とは何であり、教会の中で何をするものなのか、まだほんとうにはわかっていない。教えていただかなければなりませんね。」

昔から『長老学』なる言葉がある。ところがそれは言葉のみであって、いまだかつてその長老学について研究も講義もされたことがない。せいぜい、常識論或いは散文的な経験談があるにすぎない。

教会役員に就任して何年もなる方も、選挙されて役員になったばかりの人も、役員の本質と職責についてちゃんと教えられた方が果しているだろうか。

牧師になるためには長い訓練が課せられ、また牧師になった後でも、絶えず『牧師』ということについてかえりみる時をもたしめられている。しかるに、牧師と並んで、教会の重要な地位にある役員が『役員であること』について学び、考え、反省することなくして、果してその任に忠実であるといえるであろうか。

ある教派では、（例えば日本基督改革派教会）長老になるためには、牧師と同じように試験をうけ、その信仰と召命観と知識を吟味されて、それに合格しなければならないしくみになっている。その位長老の地位と職責を重んじている。

わが日本基督教団はこの点について甚だ怠慢であり、ルーズである。ということは、教会役員なるものがそれだけ軽視されているわけである。

わが教団は監督制でなく、各個教会の自主性を重んずる教会である。これは非常によいことである。しかし、このよき政治形態は、しばしば堕落して、当教会の牧師の独裁乃至は、ある役員の陰然たる実権掌握という悪しき現実をひき起すことがある。教会には少しも出ないで、しかも教会を左右する実力をもっている役員の存在について時々きく。また、教会にはよく出、よく働くが、その根本思想が的はずれなために牧師を困らせているという役員の話もきく。役員が伝道の障害になっているという声もきかないわけではない。こうした堕落をふせぐ唯一の道は、わが自主性を重んずる教会にあってはただ教会員全体の、特に、牧師、役員の高いモラル以外にはない。教会は最後的にここにかかっていると私は思う。

モラルとは、まず教会はキリストの教会であって、人間によって支配されることのゆるされないところだという教会に対する畏敬の念である。この教会に対する聖なるおそれがなくなると教会は人間によって支配されるようになる人間の横暴と世俗化がおこる『祈りの家』でなくなる。教会の指導権をにぎる牧師、役員は、この聖なる畏敬にぼけていてはならない。

今度、教区主催の下に、役員研修会が開かれるに至ったことを私は喜び、大いなる期待をかけている。この会は協議会ではない、勉強をする会である。役員としての内的資格を充実さすための研修会である。今後、毎年この会は開かれる予定であるが、教区内教会の全役員が互いに謙遜と熱心をもって、いわば再教育を受ける心持で、毎年交替でも参加されることを望んでやまない。

（蒜山町教会牧師）



「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした」。
エゼキエル書三章一七

聖句随想

「看視人」

藤岡友幸

親しくしている近所のAさんのところには一本の桃の木がある。今年は私も手伝い、袋かけや色々と世話をしたためか、五〇個あまりの実がとまった。

ところが枝の一本は柵を越えて道にはみ出し、幾つかの実がそこにもついた。たまたまそこは子供達の通学路に当っており、彼らの注目の標になったことは当然だ。一昨年も数個の実をつけたが後一日で食べようと云うところで見知らぬ誰れかの口に入ってしまったAさんはその経験より今年こそはと看視に一苦労だ、だが既に幾つかが消えて行った。番をすると云うことは仲々に大変である。

予言者エゼキエルはイスラエルの人々のための見守る者としてつかわされた。見守る者とは今日で云う看視人のことであり、見通しのきく高処にあって見張りをする者のことである。従って看視人職務は全体をよく見渡し又遠方を見て危険な出来事に対して人々に警告を発し注意することを怠ってはならぬ。キリスト者はいつもこのエゼキエルと同じ看視人として時代を見守り警告の発せられるものであることを要求せられている。社会がどのように混乱して行っても「わたしに代って」警告をせよと。その場合、見張り所に立つことは決して自分の立場を絶対とすることでない「わたしの口から言葉を聞くたびに」と云っている様に、いつも神に聞ける態度であり且つ聞いていてこそ、人に向って時代に対して警告し得るのだ。（児島教会教師）

放射能

▼修養会・キャンプ・夏期学校……忙しい上に暑いのはたまらない。夏は休養の時期として過したいものです。惰眠を貪ると言うのでなく、秋の伝道に備え、平素の仕事・雑事を打捨て適当な勉強をやりたいものです。或は山や川を訪ね、神の美しき作品を賞でるも良し。その意味で大山で開く予定の教師研修会はクリソヒットなり▼日々「多忙」充実した生活と考えがちだが忙しいとは、心を亡ぼす、心を忘れると書く。即ち充実どころか、事実は疲労し、自分の本当にやりたい生活から益々遠ざかっている▼「聖書の短かい一句と取組んで、否それに親しんで離さず、道行く時も家に在る時も、それを見つめ、それを口ずさみ、徐々に示される神の聖言の真理を感謝する」こうした充実した生活を送りたいものです▼修養会・キャンプと夏の諸計画はいかゞですか。本当に出席してほしい、本当に修養し研修してほしい方々は、いつも欠席とあっては計画する側も精が無い▼耳と舌だけ、つまり信徒は聞くだけ、牧師は言うだけ天国と言うのでなく夏の修養の種を秋には、全身で立派に育てましょう。お体を御大切に。（O）

昭和三十五年度

教区伝道計画案大綱について

表題の件について重点的に説明をなし各個教会の理解と協力とを要望したい。

第一項は「教団との緊密な連絡の下に教区内の有望な土地に新しい教会を開設すべく努める」有望な土地というのは発展性のある土地で既設の教会が一つもないというのが一応好ましいが、相当の人口を有する市に一個或は系統を同じくする教会が二個存在しているという場合、まだ宣教の機関が他にあってよい筈である。三万、四万と人口のある市にたった一個の教会が、どんなに組織がよく、勢力をフルに使って見たからとて宣教の責任が果せる筈がない。X という市に Y 市の或る教会が宣教の基盤をなすような会員を有し、その家庭が開放されて定期の集会をもち、教区も援助を惜しまずしてこれを育成し、今一つ教会がその市にできれば宣教が活潑になって誠に幸なことであると思う。既設の教会は狭い心で、教区は教団の教会を見殺しにするのか、苦境に落すのかなどとかこつべきでない。それよりもコンミュニズムや誤まてる新興宗教に市民が毒せられて行くことを怖るべきである岡山市のことを考えて見れば理は明白である。岡山組合教会が八十年前に設立されて以来、日基、メソジスト、ホーリネス、ナザレンなどと次々に設立されていった。しかし、それによって既設の教会が被害をうけたなどということは絶対にない。以上のような観点より我々は有望な土地を考えて、新しい教会を開設すべきである。

第二項は「各個教会の充実は教職の研修と共に役員の研修の必要を痛感する故、両者の実現を計りたい」此の案は周知の如く大山に於ける教職のもの、湯原に於ける役員のものが、それ〳〵準備委員を挙げて懇ろに計画、実施されるに至ったことは感謝であるこれを更に徹底せしめるために各個教会が役員の研修会を主体的に計画して欲しい。伝道委員会は要請に応じて講師として教区内牧師を派遣援助することを惜しまない。なんといっても教職と役員が高められることはその教会にとって最大な幸である。

第四項は「巡回伝道費を活用し教区内諸教会への問安と応援とに努めたい」教団綜合伝道委員会は新しい試みとして各教区に巡回教師を設けて各個教会の牧会に助力をなさしめることとなった。これが予算として教団は十四教区に対して均等に年額三万五千円を助成することになった。教区も本来はこれに呼応して何程かの予算を計上して、教区内教職中より最適な人を選任し、充分此の牧会的相談役の職責を果たさすべきであるが現実的にはなか〳〵その人をうることが困難である。誰れ彼れを問わず、自分の教会の牧会だけでも手一杯である。しかしこれを等閑に付する訳にもならないし、たしかに大切な御用であるから教区伝道部委員会は慎重審議の結果、一年間を期限として壺井、常田、戸田、長坂の四牧師に能う限りにおいて労苦を取ってもらうことにした。どうか各個教会が、又教職が此の制度を活用して頂きたい。要請に応じて、一切の費用を教区もちで四人の中のだれかが問安し、教職のよき相談相手となり、或は役員研修会の指導などに当たらせて頂ければ幸なのである。

伝道部委員長
長坂龍太郎

昭和三十五年度 東中国教区 定期総会報告

昭和三十五年度東中国教区定期総会は、五月四、五日の両日、最近開所された岡山県青年の家（笠岡市横島）を会場として開かれた。例年総会前に教職、信徒の修養会が開かれていたが本年は総会のみが単独で開催された。

出席者正議員五三名、准議員八名。

第一日

午後二時半、高杉三四子牧師の司会により開会礼拝。教団問安使、白井慶吉教団総会議長は「日本伝道の要求するもの」と題して説教され、次いで教区総会議長壺井正夫牧師の司式により次の両名の准允式が行われた。

○受允者
土井龍也氏（久世主任）
関　雅人氏（玉野主任）

佐敷重雄牧師が受允教師に対して祝辞を呈し、一同感謝のうちに総会礼拝献金（四二三七六円）をささげた。

午後四時五分、組織会に入るに当り、最近教区内に転入された服部愛子教師（岡山聖心担任）並びに鳥取教会に奉仕される大前幸正氏が議場に紹介され、続いて前教区総会書記飯清牧師の後任に選任された高塚勝牧師（玉島）が紹介された。後直ちに点呼により組織会を終り、午後四時二十八分議長は開会を宣言した。

議事は執行順序に従い、補助書記に中島幸一郎教師（津山城西）を選任、選挙、詮衡両委員の選出につづいて教団総会議員の選挙がなされた。

選挙の結果は次の通り。教職、信徒各六名。

○教職
壺井正夫　長坂龍太郎
常田二郎　佐敷重雄
高塚　勝　永倉義雄

○信徒
大橋公夫　新　達治
船越澄江　藤原正夫
丹波喜八　新谷正一

教団を代表して白井問安使は東中国教区が極めて教団に協力的であることを感謝しつつ、次の点について報告し、かつ挨拶された。(イ)教団内部の一致。(ロ)宣教第二世紀の伝道基本方策。(ハ)教憲改正案の検討。(ニ)海外伝道。

次いで教区の教勢並に各部の報告には、それぞれ若干の質疑応答がなされて承認されたが、特に財務関係に於て、新年度の負担金額の予めの内示、互助伝道献金についての要望などの発言があった。

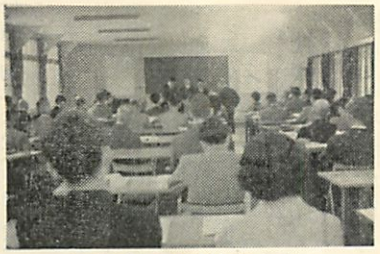
午後七時二十分議事を閉じ一堂に会して食卓を回み、交歓をなす。午後八時二十分議事を再開し、伝道部より本年度の教区伝道案大綱が説明され、引きつづき鎌谷幸一牧師の司会により「伝道協議会」を開く。席上、白井教団総会議長は伝道精神の振興を求める講演をなされ、議場また熱心なる討議を重ねて午後九時三十分第一日の行事を終了した。

第二日

午前七時播磨醇教師の司会により礼拝。八時三十分より十時まで「教団教憲改正案」について、教団総会議長、教区総会議長の解説により説明会を開く。教区の教会性及び権能の行使などについて意見が多く開陳され、活潑なる一時をもつ。

午前十時議事を再開。伝道案大綱中、教職、役員の研修会、宣教研究機関の設置、教

（四頁五段へつづく）



教区総会に於ける准允式

教会便り

岡山教会（壺井牧師）
現在教会堂を増改築中。高くそびえる塔が印象的。十月十六日に八十周年記念式典を行うので準備中である秋を迎え、九月十八日に山陽学園視聴覚教室を借りて総員礼拝が行われる。なお今年も大学生有志をもって組織する伝道キャラバンが八月二十四日から水島大輸教会、倉敷南、倉敷、倉敷平和、有漢、高梁の各教会で奉仕する予定。

蕃山町教会（戸田牧師）
品川教会牧師佐伯俊先生を迎えて今月末特別集会を計画中です。

岡山信愛教会（長坂牧師）
教会堂の後方に集会室を増築、今程完成した。

琴浦教会（佐藤牧師）
去る七月より三島康男教師を担任教師として迎えられた。

旭東教会（脇本牧師）
小修理援助金を受け、昨年秋の台風により傷んだ箇所講壇の壁ぬり、塔の外壁、大屋根の修理、塗料ぬりを終った。

笠岡教会（高杉牧師）
今程二ケ年の予定で会堂の増改築を計画された。

三石教会（井殿牧師）
教会堂の増改築が八月完成した。

久世教会（土井教師）
今回会堂裏の牧師館を改造修理され、見違えるようになった。

用瀬教会
エルダー宣教師が去る六月辞任され、常田牧師が兼務主任担任教師として就任された。

青谷教会（吉田牧師）
今回小修理費の援助を受けて会堂の修理を終えられた

西伯法勝寺教会（絹田牧師）
見事な会堂が今程完成、去る八月四日、壺井総会議長司式の下に献堂式を挙げられた。

▽個人消息△

内潟はる教師（岡山聖心教会）
御病気御静養中のところ今程全快されました。

中堀仁四郎教師（倉敷教会）
六月二十八日長女御誕生、光世と命名されました。母子ともに御健在です。

布下耕読牧師（日野教会）
今回日野教会の主任担任教師を辞され、引退教師となられました。なお自宅に於て従来通り十文字平和教会を応援されます。

小沼邁牧師
近く御引退される由。先日教会の近くに御転居されました。

藤岡友幸教師（児島教会）
今回御病気にて児島市民病院に入院され御静養中です

佐敷重雄牧師（琴浦教会）
御病気御快方に向っておられます。

徳木武二牧師（新見教会）
息女とも子姉御病気の由、御全快を祈ります。

大前幸正教師（鳥取教会）
四月より鳥取教会の伝道師として活躍しておられます

青年部ニュース

○岡山県教会青年会代表者協議会
日時　九月二十三日
　　朝十時から夕五時
会場　岡山市門田
　　まきび荘
会費　百円　弁当持参

各教会青年会から二人以上の代表者を送って下さい。申込みは九月十五日までに蕃山町教会戸田宛に。

職域伝道部ニュース

勤労キリスト者懇談会
十一月五日（土）岡山市内
　六日（日）児島教会
　七日（月）倉敷教会
主題「働く喜び」

働くキリスト者の苦しみは会社で、工場で、店頭で、家庭で、常に起る一般的事務的事柄ばかりでなく、根強くもつれ、からみ合っている人と人との信頼され得ない悩みと信頼し切れない不安ではないでしょうか。

勤労キリスト者懇談会は貴方の今の問題を講師を通して整理し、更に新しい示唆を頂き、又皆んなで励まし祈り合って前進して行く群です。

どうか貴方の御参加を！

社会部ニュース

㈠ チリー地震津波被害地救援義金は十六教会で金一六一五二円。九州雛職者救援金は一教会三三五〇円でした。教区内の大きな教会が応募されず比較的弱小と思われる諸教会の救援金の多いのはどうしたことだろうか。大教会は御再考願いたい。

㈡ 昨年大山高原ホテルで開催した第一回西日本キリスト教保育夏期大学は今年は奈良の吉野で開催され本教区から九保育園から三十名近く参加する予定。（八月十七日から）

㈢ 今年頭岡山教会で開いた社会問題ゼミナールは盛会でしたが山陰側の参加が少数でしたので今秋には鳥取教会で開催します。教職だけでなく信徒も多数参加されて教会の直面している社会問題の研修をして下さい。講師は中央に依頼中です。

㈣ 各教会に社会奉仕委員をお選び下さい。教会内や教会の所在する地域社会の問題を発見し、診断して下さい。福音は生きて証としてその地域社会に活動します。

㈤ 日本キリスト教奉仕団のSOS物資を御利用下さい。岡山県側は昨今総合ヴィタミン（米国製剤）五〇〇錠を申込みに応じて配給中です。一錠は日本製十二円もするのです。

（更井）

伝道部ニュース

○教職夏期研修会
とき　八月二十九日（月）
　　三十一日（水）
ところ　鳥取県大山
　　高原ホテル
主題　「信徒論」
講師　関西学院神学部
　　小林信雄先生

（三頁よりつづく）

区デー及び新規開拓伝道地問題などについて質疑応答がなされて可決。つづいて会計監査、財務審査を経たる教区歳入、歳出、決算及予算案が可決され、本年度の教区財務は一七一万円をもって運営されることが決定した。財務部より前年度未納教会は一教会にとどまったとの感謝の報告と共に今年度負担金額が表示され、各種委員会の報告の承認の後、「宣教師招聘に関する件」「新祝祭日案に関する件」の二建議案が上程、可決された。かくて重要案件のすべての審議を終了した。

正午常田総会副議長司会の閉会礼拝により、一同主の選びと召しとの前に再びおそれと感謝とをもって再献身をちかいつつ閉会した。

追記
教団総会議員に当選された永倉牧師及び新谷正一氏は辞退されたので次点者戸田伊助牧師、平原光治氏が当選、後佐敷牧師が御病気のため辞退されたので次点者高杉三四子牧師が当選されたことを付記する。

編集後記

○全体役員修養会の前に発行する予定でしたが大変遅くなりました。編集者の責任です。おわびいたします。

○第一面の写真は最近増改築された鳥取教会の正面ですこれから次々と教区内の各教会の写真をのせて行きたいと考えています。よい写真をお送り下さいますよう

○次号は十月中に発行の予定です。「新しい時代の教会と信徒」という主題のもとに有志の方々で座談会をしそれを御紹介します。御期待下さい。

○誌代を各教会ごとにまとめて教区会計へお送り下さいませんか。一部五円程度。

○この教区報に対してひろく御意見やニュースをおよせ下さい。何よりも大きなはげましですから。

（I）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1960年11月10日（隔月発行）



新築された西伯法勝寺教会

説教

愛に根ざして

エペソ三章四～二一

森喜志雄

第十五回国連総会が九月二十日から開かれた。アフリカの新しい独立国は政治と経済の平安は国連に加入して初めて確保できると信じて、続々と加盟するのが特に著しい傾向であった。第二次世界大戦前は自国が不利になってくると一方的に国連から脱退し、国交を断絶して戦争を勃発させた。しかし現今では尚多くの戦争の危機を孕みつゝも、何れの国家も脱退せず、あくまで国連に属し、それを根底として世界平和を樹立せんとする気構えを持っている。これは国家も社会も家庭も個人も、何かに根ざし、基盤を持たなければ生きて行けないことを明白に示している。

×　×　×

一体私達は何に根ざし、何を基盤とすればよいのか。今日の重大な問題である。

×　×　×

大切な第一のことは、エペソ書三の十五に示されるように、神を仰ぎ、神と交ることである。『こういうわけで、わたしはひざをかがめて、天上にあり地上にあって、「父」と呼ばれているあらゆるものの源なる神に祈る』ことである。こゝに神が父として表現されているが、神は父親的心遣い、思いやりの原型を持っておられるからこそ父なる神と呼ばれ　どんな親不孝な息子でも常に父親的配慮をもって接近され、絶対に見棄てられない。その神に祈るのである。

自分を見つめていると大穴だらけで不足、不満、愚痴、自己破壊的なものが次々と出てくるが、神を仰ぎ、祈りに於て交りをもつ時、『どうか父がその栄光の富にしたがい御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように』（エペソ三の十六）と祈る時、月や星、山や海などの自然の被造物が私自身のものとされ、心は清く澄んで神に啓発される。そして最後に神の力なる御霊が私達の奥深く働らき、倦怠した人生、錆びついて古くなった頭来る日も来る日も書類と数字に追い廻される会社の生活、計器と機械の従僕のような職場生活に張り合いが生じてくる。人生の歯車が生命と愛に満ちた音をたてながら、「喜びよろこび」と語りかけ、動き始める。

×　×　×

大切な第二のことは、私達の生活の歯車が神の愛の歯車と接触し噛み合うことである即ち、「信仰によってキリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活する」（エペソ書三の十七）ことである。

時計は幾多の歯車からできている。カチカチ音をたてゝ動いているが、決して独力で動くのではなく、動かされている。即ちゼンマイの歯車が回転するとそれに接続する歯車が自動的に動かされる。一つの歯車が他を次々と動かして、秒針、長針を回転させつゝ時を刻んで行く。根源となるゼンマイの歯車が廻ると全体が動くように、私達の人生の歯車が神の愛の歯車に接しかみ合っておれば、よろこびと平安、生命と愛のエネルギーが創造される。

イタリヤ映画「甘い生活」は神を否定するものは同時に愛をも否定することを描いている。主人公は豊かな教養をもった知識人であるにもかかわらず、狂気じみた快楽に身を沈める。最後に救いの天使を象徴する少女と細い川で向い合うが、彼は身を起し、少女に接近しようともせず、絶望の闇の中に消えて行く。神を信じない、愛に基をおかない人生が如何に満されないものか、非惨であるかを示唆している。

『しかしまだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって神は私達に対する愛を示されたのである』（ロマ書五の八）。

神は飼犬に手をかまれても人にどんなに裏切られても、神は一度も人をかみ返さないし、裏切らないで赦しをもって常に父親的配慮をもって、死人が復活するよう、絶望者が希望を抱くよう、罪の生活に別れを宣告するようにと祈っていて下さるのである。

最近のコンゴ動乱での黒人軍隊の乱暴ぶりはひどく荒っぽい。着の身、着のまゝで本国へ帰ったベルギー人の住宅には種々の財産や貴重品が残されていた。植民地政策で虐げられた無学の黒人は復讐するのはこの時と考えられるのに、略奪や強奪を行わなかったと報ぜられている。全く不思議である。その理由は黒人部族間の統一が厳しかったこともあるが、今一つの理由はキリストを信ずる人々が存在していた事実である。まさに暗黒の心が神の愛の歯車と結合した精神生活をしていたしるしであり、神の愛が如何に人知で理解されない程深く高く、重く、広く長いかを示している。

神がこの苦悶する世界、罪と慾でうずまく人間世界の真只中にキリストをたてて救いの業をなしておられるから、私達は何があっても先ず、固く神の愛に根をはり、キリストの十字架の愛を基として神の栄光のために生きようと新しく決定したい。今一度、決定しようではないか。

（井原、高屋教会牧師）

×　×　×

座談会

新しい時代の教会と信徒

教会に於ける信徒の訓練

—その実状と訓練の場所—

出席者
戸田　伊助（蕃山町教会牧師）司会者
長坂龍太郎（岡山信愛教会牧師）
高杉三四子（笠岡教会牧師）
エルダー（鳥取地区宣教師）
岡本加都夫（倉敷南教会牧師）
井殿　園（三石教会牧師）
桑内　成郎（高梁教会信徒）
蔵知　毅（岡山教会信徒）
河野　通男（倉敷平和教会信徒）
松本　純郎（蕃山町教会信徒）
船越　澄江（岡山信愛教会信徒）
波戸　一郎（琴浦教会信徒）
大橋　公夫（倉敷教会信徒）

戸田　「新しい時代の教会と信徒」というテーマですが、先ず、信徒の訓練についての問題から始めましょう。桑内さんから御意見をどうぞ。

桑内　私が訓練されていないからなのですが、役員や信徒やその子弟の教育と訓練がもっと重視されるべきです。今はそのどれもが十分ではないでしょう。牧師は役員を、役員は信徒を、そして更にその子弟を訓練するだけの実力を持たせることです。その意味で必要なら一教会に最少二人の伝道者が居ることが望ましいですが……。若い教職が年輩の信徒の訓練を遠慮していらっしゃるんではないですか

戸田　信徒のスタッフが確かに必要ですね。この教区には最近若い教職が多くなって来ていますが——。

大橋　若いことが問題ではなくて、それを援けて行く役員の自覚と決意が大切と思います。

蔵知　私は教会で訓練への組織化が必要と考えます。教会学校でも一貫したプランと方向が必要なように、教会全体の伝道や訓練のプランにも言えることじゃないですか。私のところもこれが欠けているので研究中です。

　それに信徒もみんな忙がしいですね。教会でほんとうに働いてほしい人達が特にそうです。その忙がしさをよく知って訓練してほしいです。牧師は信徒の属する階層、職場のさまざまな動き、その中心になる問題が何であるかなどもっと知ってほしい。その不足から説教と実生活とが次第にくい違って来る。

　古い人はいゝが、新しい若い人はこのくい違いに悩むんではないですか。

桑内　要するに「優秀なる信徒」の養成がほんとに大切です。一人の優秀なる信徒が生れることによって教会は生きて来ますね。

高杉　私は訓練するとかされるとかいう行き方には反対ですが、教会員の訓練という場合にやはり信仰の問題が中心になってきます。それは礼拝の時や聖書を通して牧師も信徒も「共に訓練される」ということが大切で、それができたら他は解決されると思うんです。

　特定の優秀な信徒に依存する行き方が教会を弱体化してはいないでしょうか。どの人も自分の持っているものが生かされるような教会の在り方を目指したいです。

桑内　それはむつかしいことです。やっぱり実際は優秀な人に頼らざるを得ない現状でしょう。

高杉　それは牧師の責任だと反省します。どこで訓練されるかといえば、自分で聖書を読んで、そこから自分で信仰的判断が出来るようになってくる。……

桑内　そういう信徒はどうして生れますか。

高杉　だから聖書講義と説教の二つしかないと思うんです何時でも誰かに世話になっているような段階はもう卒業してよい頃でしょう。

松本　訓練には自己訓練と教会の組織の中での訓練の二つがあります。しかし一番大事なのは自分一人になっても動くことのない信仰を持つことで、忙がしくなって教会に出席するのがむつかしくなっても自分をちゃんと持ち続けれるホームタスク的な自分の家で自分の信仰を磨けるような勉強の方法を指導してほしいものです。いわば一人立ちのできる自己訓練です。これには牧師に頼るだけではなくて中心的なリーダーの組織の中での訓練も必要でしょう。

蔵知　忙がしいので集会に出席しにくいし、仕事に疲れると日曜日は休養したい。日本では日曜日でも仕事がある程ですし、互いに疲れてますよ。こうしたことを牧師はよく注意して頂いて信仰訓練をしてほしい。この年令でこの仕事ならこれ位のこととよく知って指導して頂きたい。

エルダー　たまには牧師抜きの集会もいいですね。アメリカではCSの中に、壮年会、老年会のクラスがあって、そこには牧師が出席せず、信徒お互いが励まし合って、勉強や研究をしています。お互いがこうすることによって恵みを確信していいですね。

波戸　私の町は学生服を作っている工場が多いので、教会もそこで働く工員さんが来るわけですが、彼らの仕事は大体夜七時半頃迄で、それからでは集会に間にあわないんです。そこで訓練は、信徒同志の交りや生活を通して助け合う中で致します。特に私達は組合や班会の組織を作り、そこで訓練しています。

河野　優秀な信徒が出ると他の人は引っ込む、その人が後継者を作ると自分は引っ込むバトンの渡しばなしになって一人で重荷を負って困ることがよくあります。やはりお互

（三頁へつづく）



放射能

　牧師は礼拝説教や集会の奨励でよく信徒を叱ったり、熱意をもって改めてほしいことを訴えるが（祈りの中で説諭する牧師もある）その時には大てい聞いてほしい信徒や役員は欠席している。

　東中国教区教会役員研修会で「研修してほしい役員が来ていない」という慨嘆の声が多かった。何処も同じである。

×　×　×

　研修会の協議懇談中に、教会会計に関する話題が多く出た。そして教区伝道委員会にこれが反映して、具体的に会計指導講座を地区別に開く気運が生れて来たことは感謝である。

　教会経済の貧困は伝道の不振に通ずるのだから教会はもっと財を生む方策を講ずべしと云うあり。いや、経費の必要を充たすために益金を生んだり計画献金をしたりすべきでなく、純粋な献金で宣教すべしと云うあり。異論続出。

×　×　×

　寄附帖簿の前の方をめくって見てから自分の寄附額を決定するような常識で自分の献金を決することを恐れる。

　十一献金こそまことの献金であるとの主張もある。然しそれよりも個性のある献げ物を精一杯したいと私は願う。

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1960年12月25日（隔月発行）



新会堂に於ける創立80周年記念礼拝　（岡山教会）

説教

インマヌエル

マタイ一章一八～二五

常田二郎

「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。

我らの主イエスの誕生は予言者イザヤのこの予言の成就であるとマタイは云います。紀元前七三五年から凡そ二十年間、南方ユダの民は北方ユダの攻撃を受け、おびやかされ、不安と恐怖の中にありました。殊にスリヤとエフライムの同盟軍の来襲を聞いて、王の心も民の心も風に動く林の木のように動揺した時、イザヤは南方ユダの王アハズを励まして云いました。「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる」と。

「おとめ」はイザヤが単に若い夫人と云う意味で用いたことばで、未婚、既婚とは無関係だと言語専門家は云います。それなのに「おとめ」にこだわってマリヤを礼拝するような迷信的信仰になったり、処女降誕に求道者がつまずいて信仰に入れなかったりすることがあります。私は「おとめ」にこだわる前に、イエスの別名であるインマヌエルを基督教信仰の重要な問題として取り上げたいのです。

インマヌエルとは、愛の神が肉体をもって世に降り、人と共に住むものとなり給うたと云うことです。

ヨハネ福音書のクリスマス物語はマタイやルカのそれに比して誠に殺風景で、ただ「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」と云います。これは簡単な表現ではありますが、大事なことを云っていると思います。

私は今日まで、ことばにならない言によってどれだけ大きな感動を受け、又真実に触れて来たか知れません。愛とか真実とか言うものは、ことばにならないことが多いのです。その働き、その力は、口のことばには到底盛り切れないもの、肉のかたまりになって相手に迫って以外に道がないと言うようなものだと思います。

クリスマスとは、神の言が私どもに肉迫して来て、私どもの間に宿った記念日であります。「宿ったとは、あのベツレヘムのロマンチックな光景を想起してヨハネが「宿る」と言っているのではありません。宿るとは幕屋を作ってそれに住み込むということですから、通りがかりの一夜の宿で過すことではありません。「すき間をうめる」という意味もこの「宿る」ということばにはありますから、イエスはそむき　乱し、破る者の間に宿り給うたのです。溝をその肉をもって埋めるために来られた有様を、使徒パウロは「おのれをむなしうして僕のかたちをとり」給うたといいます。

私どもの運命、最も悲惨な運命を共に担うものになったと言うのです。又パウロは「わたしの肉の中には善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志はあるが、それをする力がないからである」といって、神の前に自らが失格者であると考えています。然もこの失格者の中に入り込み、住み込み、運命を共に負わんとし給う。

思えば私どもは他者をだけでなく自分で自分を裏切って不真実なものとなり、己が腹を神となして神の真実をドロ靴で踏みにじり、自ら破滅の道を歩んでいるのです。

私は国立西洋美術館で、ロダンの「地獄の門」という彫刻を見て、生涯忘れられない印象を受けました。ダンテの神曲の地獄篇に想を得たロダンが、死に至るまでの三十七年を費した畢竟のこの大作は「罪の払う価は死である」と言うことをまざまざと見せてくれて戦慄を覚えずにおれません。

我々の不真実、不服従、不信仰の前に置かれた死、破滅から救うものは誰ぞ。この失格者、破壊者の中に宿って、その責任と受くべき結末を己がものとなし給うイエス以外にあるでしょうか。みじめな末路にある反逆の子に望みをかけて、自らいやしい僕の形をとって我々の中に入り込んでくれるものがイエスの他にあるでしょうか。気まぐれではなく、永遠に住み込んで。

インマヌエルは自分の力、体力の保てる間、私どもの味方で私どもと共に住んで支えてくれると言うことではありません。自分に最大のピンチが襲いかかり、死が迫って来てもこの不真実な信仰の失格者を手放し給わないのです。実に主は私どもの中に宿ったのです。神の言が私どもの生命の根源になったのです。

助け合いがどんなに大切であるかを私はよく知っています。平常の怠慢を恥じながらクリスマスには急に思いついたようにあわれみの心を起します。

そして同時に人の助け合いが、他者をきわみまで愛することも他者の中に永遠に宿ることもできないものだという悲哀を感じます。

プレゼントやパーティに忙がしいクリスマスも「インマヌエル」（神われらと共にいます）の喜びを見失うほどに心せわしいものであれば、全く無意味であります。

（鳥取教会牧師）

× × ×

一月から三月までを教会はどうおくるか

戸田伊助

クリスマスがすぎ、年の暮がきても、昭和三十五年度はまだ終っていない。三月まで続くのである。一月から三月まで、この谷間のような三ケ月を教会はどうおくるべきだろうか。

この期間は教会にとって年中で一番ひまな、一息つく時期のように思われる。四月はイースター、総会、五月はペンテコステ、七・八月は修養会シーズン、秋は行事のシーズン、暮はクリスマス、実に一月に入って初めて落着けるというわけである。伝道・牧会の多忙さから開放されるのを私は感謝したい。

しかし、休息は冬眠のために与えられるのではないことを忘れてはならない。丁度、日曜日が仕事から開放されて主にきく礼拝日であるようにマルタのように忙しくたち働く日から開放されてマリヤのようになる日であるように、教会はこの時期こそ伝道にいそしむマルタの教会から、主の足下に座してじっと耳を傾け考えるマリヤの教会となる時であろう。

比喩なしに具体的にのべよう。

この時期は、まず第一に、牧師にとっての退修の時である。特別集会をやったり、伝道の戦線をひろげたりせず、うんとひまを作って勉強し、思索したい。

第二に、信徒にとってもよい退修の時である。静かな、しんみりした、内容の高い一日修養会や勉強会をしてはどうだろうか。特に教会の基本的なテーマ、例えば、聖餐、信仰義認、或は、聖化といった信仰を深め確立してゆくテーマをとりあげるなどはよいのではなかろうか。今日の信徒はこういう面で少し弱いのではあるまいか。いつも初心者向や実際的のテーマばかりを取りあげるのは信仰の進歩に役立つまい。

第三に、この時期は来る新年度のための準備の時期であることを銘記したい。四月近くになって、今年はどうやったらよかろうかなどということでは、泥縄である。この時期のうちに祈りつゝ、考えつつ、根本方針とその方策をよくねりにねり、につめあげてゆきたい。

今度の教団総会で、二十九年度からの五ケ年間の宣百記念伝道の結果が発表された。その目標は、教勢の総合的倍加ということであった。その一覧表には、会員数、礼拝者数、献金総額など十割以上増加、五割以上増加の教会名が発表されていて、当教区内のものっている。私はこの宣百伝道なるものを殆んど意識せず、特別に張切った者ではなかったが、これを機会に今までの自分の伝道牧会のやり方に大きな反省を与えられた。我々の伝道のやり方は、今までのでよいのだろうか。まだ小手先の伝道、余技的伝道、或は、単に古いやり方を踏襲しているのにすぎない伝道ではなかろうか。本腰を入れて方策をねる必要があるのではなかろうか。

こうしたことで、できれば教職の伝道牧会方策の研究会がもたれればと祈る。なににしても一人ではよい考えはうかばないからである。

第四に、新年度の会計をどう立てるか、役員会あたりで十分に検討しておく必要がある。このための参考にとて、伝道部では、教会財政に関する半ば研究的、半ば講習的な役員研修会をやる計画である。ここで、教会財政の立て方の基本をしっかりつかんで在来の常識をこえてキリストの教会らしいセンスをもった会計が立てられるように革新してほしい。

以上、もし、何らかの参考になれば幸である。

聖句随想

心をつくして尋ね求める

岡本加都夫

「ユダヤの王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。」
マタイ　二章二節

私達の倉敷南教会では、今年の正月、祈禱会で、詩篇一一九を学び、その聖句に教えられていることを、本年の信仰生活の目標としました。即ち、九節以下の「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。……わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。……心のうちにみ言葉をたくわえました」の聖句で、特に開拓教会として若い私達は、真剣に聖書を読み、本気で求道しようと誓ったのであります。しかしこうした願いが十分果せないまゝ早や一年は過ぎクリスマスが来ました。私は反省すると共に「東から来た博士たち」の生涯に思いをはせるものであります。彼等は、まさに心をつくしてイエスを尋ね求めた人でした。博士たちは、異邦人でしたが、み言葉を豊かに読んだ事でしょう。星の導くまゝにイエスを尋ね旅に出たのであります。

私は神学生の時、淡路島に旅をしました。或る村に信徒がおられるとの話を耳にし、その方を訪ねました。榎本様と言い七十近い老人でした。私が玄関で神学生である事を告げるや否や、老人は奥より聖書を小走りに持って来て、矢つぎ早に質問を始めました。やがて質問が全部すむと、ほっとした様にニッコリされ今迄忘れていた挨拶をされたのであります。此の老人又博士たちに負けない様、私達もイエスを心つくして尋ね求め、み言葉を豊かに心にたくわえようと、此の降誕節に新しく決心するものであります。

（倉敷南教会牧師）

放射能

▼キリスト、ベツレヘムに千度生れても、汝の中に生れざれば、汝は永遠に救われず。とは有名な中世紀の宗教詩人アンゲルス・シレシウスの言葉である。

▼馬槽の中のみどりごを最初に訪問した東の博士達は、異邦人であった。彼らは不思議な光を発する星が、異国の書（旧約聖書）にメシヤの降臨の予徴であることを知り、ほんの数行の言を真実として、すべてを捨てて、行く先も知らぬ旅立をした。

▼己れの手にする書に約束されているみどりごの誕生を待ちもせず、訪れもしない律法学者は、日々読み、日々人に教えていた。

▼後なるものが先に、ではないが知りすぎていることは恐ろしい。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない、ことはおそろしい。

▼来る年ごとにクリスマスを祝い、東に行ってはメシヤの誕生を語り、西に行っては教会にいらっしゃいと誘い、伝道しなければと仰言るのはよいけれど、あなたの中にキリストが生れていなければ…。

▼キリストが千度ゴルゴタの丘をのぼられても、あなたが十字架を忘れて教会生活をしては……。

第十一回教団総会は——我々にどう影響するか

教団総会は教団の最高会議で、その議決結果は遠からず最前線にある各個教会に潮のようにうちよせて影響を与えてくるものである。こゝに、当教区及教会に直接関係の深いと思われる議決事項を報告し、各位の注意を喚起したいと思う。

一、教団総会議長、副議長は共に向井慶吉氏、大村勇氏が再選された。但し、書記は東方信吉氏に変った。総務局長も丹羽巌氏再選。常議員は二、三人の新人が加わったのみ。また東京中心であることも変りなし。

二、例の教憲改正案は、今総会最大の議案で大変にもめた。問題となったのは教区の位置づけ、即ち第六条の『本教団はその権能行為及教務遂行のために教区をおく』という一条である。本改正案はその前に、教会としての権能を行使する主体は、各個教会と共に教団であると明記されているので、従って教区は教団がその権能を行使するための教団の出先機関であり、その限りにおいて力をもつというわけである。ここが問題となった。反対側の意見は、教区は教団から、即ち上からその権能を賦与されて始めて教会性を獲得するというより、地方の各個教会の実質的教会会議乃至共同体であるから、この下からの線で教会性をもつ。即ち教団に対しても自主性をもつ。教区は現在、この線で強化されつゝある。この線を前進さすべきだ。各個教会の直接的連りのない遠い存在である教団が、今以上の権能をもつことには危惧を感ずるし、教団の実質的進歩を阻害するという主張であった。もめにもめた。冷静な懇談の時も設けられた。そしてついに議場採決をせず取下げて、更に二年間再検討という結論になった。この討論の結果は今後の教団の方向をかなり明確にしたと思われる。教区が各個教会の地方的全体教会とし、法的にも教会となるのはそう遠いことではないだろう。実質的にはどんどん強化されて来つゝあり、現に三十六年度伝道計画案には、教区伝道の自主的活動を強めるために教区に委ねるものは大巾に委譲する、とうたわれている。

三、教区強化の線に沿って教区総会議員規定が改正された。主任担任教師及信徒代表は第二種教会も第一種と同様全員正議員となり、また伝道所の主任、担任教師も全員正議員となる。これで教区総会は一層血の通ったものとなる。

四、教団総会も全教会の教師、信徒代表をもってせよとの議案が出されたが、その精神は可としても、実際的に尚研究の余地ありとのことで常議員会に付託し継続審議となった。これは将来の大問題となろう。

五、伝道関係の教規改正であるが、教団の綜合伝道委員会は綜合なる文字がとられた。しかし、実質は同じで、農伝、職伝、婦人伝道、青年伝道の各専門委員会がこの中におかれる。これと対応して教区では、部は伝道部、教育部、社会部、財務部となり、農伝、職伝、婦伝、青伝などは部でなくなって伝道部の中の小委員会となった。この教区でもたちまち関係するからよく考えておかれたい。

六、常設委員のメンバーがかなり変り、古い人や有力者が除外されて新人が多く入ったことが目立った。

（宣教研究委員会書記 T）

鳥取県教会青年大会

今春、県連合発足以来、初めての大会を去る十一月二十二日夜七時より二十三日午後四時まで、鳥取教会に於て開催した。

「礼拝としての生活」の主題のもとに、戸田委員長を講師として、県内教職の協力を得て行われ、十三教会より約九十名の出席で、あいにくの悪天候にかかわらず盛会であった。

この大会の計画、準備、運営の殆んどが青年達によって自主的にすすめられたことは連合の成長を如実に示すものであろう。

戸田委員長による「キリスト教的神礼拝の基本精神」、「聖なる供物として」と題しての講演及び説教。常田牧師による祈禱会奨励。大前教師による「礼拝プログラム及び会堂様式」の講演。何れも有意義なものであり教えられるところ多大であった。



四分団になり行われた協議会も、主題に基き、或は青年会の現状に対して深い反省と今後の在り方につき、熱心な協議がなされた。

引続き、閉会祈禱会の後に労をとられし諸先生、特に長期にわたり大会のため黙々と尽して下さった常田先生と鳥取教会に感謝の意を表した。

大会を機に初参加の法勝寺教会は青年会発足するとのことだが、大会の及ぼす影響の大なるを覚え、尚一層の成長発展するよう祈りたい。（K）

第十五回 信徒大会を顧りみて

倉敷教会 大橋公夫

去る十一月廿三日第十五回岡山県信徒大会が岡山山陽学園で開催されました。心配された天候も神の御恵みにより好天気に恵まれて意義深い大会を持つことができましたことを感謝致します。

講師吉野丈夫先生の御講演は（基督の使者・マタイ一〇ノ十六）我々信徒の進むべき方向を指し示された含味すべき良きお話を承り感謝でした。

本年度大会の特色は第一に超教派信徒求道者の集りを持つことができたこと。第二に光明園家族教会の兄弟姉妹をお迎えして立証を聞くことができたことであります。

立証の中にもありましたが、全国の療養所の中でも初めての企てでありまして、誠に感慨深いものがありました。殊にこゝに至る迄の御指導と御援助を惜まれなかった播磨先生及び諸先生の御骨折とに対し万腔の敬意を表するものであります。

私は信徒大会が、たゞ単に年一回の年中行事として終ることなく、熱心な兄弟姉妹の御奉仕による定時（二ケ月に一回）集会を持ち、教会・信仰・社会・其他いろいろな生活上の問題と取り組んで研究話し合いをし又、弱い所を御助けし、励まし合って、常に力強く希望をもって立上る力をわかち合うことができる交りの団体として、即ち我々の身近かに感じられ、利用できるものに築き上げる者にどしどし活潑な建設的な御意見や御希望を御寄せ下さいまして常に生き〳〵とした前進する信徒会となりますよう一層の御協力を賜りますよう御願い致します。

教会便り

個人消息

岡山教会（壺井牧師）
同教会は新会堂を与えられ去る十一月六日午後一時半より献堂式を挙行され、壺井牧師が司式をし、大下角一博士が式辞を述べられた又二十六日には秋のバザーを行われた。なお明年一月八日に新会堂感謝会を行われる予定である。

岡山信愛教会（長坂牧師）
十一月十三日（日）に教会創立五十周年記念感謝会を行われ、多数の教区内教職も招待され、出席した。

蕃山町教会（戸田牧師）
秋の教会バザーを十一月十九日開かれた。

倉敷南教会（岡本牧師）
CEC開拓伝道地である南教会のために、教団は今程特別の配慮をもって水島地区に二百坪の土地を購入した。近く新会堂建築の業を推進されることになった。

津山教会（古河牧師）
去る十一月二十日（日）教会創立七十周年記念礼拝を教区総会議長壺井牧師の司式のもとに挙行された。なお十九、二十日と同志社大学神学部長山崎亨教授を招いて記念講演会を開かれた

堀川勝愛教師（岡山教会）
去る十二月五日、壺井牧師司式のもとに、平野慶子姉と御結婚された。

河野通男兄（倉敷平和教会）
十一月十三日、末次邦子姉と倉敷教会に於て御結婚された。

大前幸正教師（鳥取教会）
十二月六日午後一時半より岡山教会に於て教区総会議長壺井牧師の司式のもとに准允式を受けられた。

服部愛子教師（岡山聖心教会）

森喜志雄教師（井原、高屋教会）

播磨　醇教師（光明園家族教会）

中島幸一郎教師（津山城西教会）
右の四教師は今度正教師試験に合格された。追って二月十二日（日）岡山教会に於て按手礼式が行われる予定である。

常田二郎牧師
十二月限りで鳥取教会を御辞任、明年より京都洛陽教会牧師に就任される。

高杉三四子牧師（笠岡教会）
御病気のため、今程、日赤病院に御入院中。御全快を祈ります。

永田　実牧師（吉備伝道所）
御病気のため岡山大学附属病院に御入院。御全快を祈ります。

伝道部報告

○教会単位役員信徒修養会
九月二十日宮崎明治先生の集会を皮切りに、上野光隆、岩塚富次郎、船本坂男の諸先生によって教区内の殆んどの教会を巡回頂き修養会の主旨に沿った集会が守られ、各個教会共、多大の教示と刺戟を受け、教会形成の意慾を強められた。宮崎先生は八日間で一四教会を、上野先生は八日間で一〇教会を、岩塚先生は七日間で一四教会を、船本先生は七日間で七教会を応援頂いた。

○教会役員研修会開催
主題「教会財政強化に関して」この研修会は単に会計役員丈でなく出来る限り多くの役員の出席を希望している。
鳥取県側　一月十五日(日)午后
岡山県側　二月十二日(日)午后
旅費　片道補助

婦人部ニュース

世界祈禱日婦人大会開催
とき一九六一年三月一七日
場所岡山市東中山下岡山教会
世界祈禱日はレント（大斉節）最初の金曜日に全世界の主にある兄弟姉妹と心をあわせ一つの主題、同じプログラムのもとに父なる神に祈りをさゝげ、み名をあがめまつる真に聖別された日でございます。この祈禱日をむかえること、今年で八十三回、百三十余ケ国の国籍、人種、教派一切のものを超えて、たゞキリストによって一つに結ばれた教友たちにより守り続けられて来ました。この日、太陽の昇るところ南太平洋でまず祈りの第一声があげられ、最後に日附変更線を東に距ること三十マイルのアラスカの沿岸のセントローレンス島でこの祈りの日りは終ることになっています。とかく一教会、一教区程度に信仰的視野がとじまり勝ちの私共が一年一度のこの祈禱会に参加することによって、全世界の教友と結ばれ、核武装の脅威や権力の対立の不安におのゝく時代の嵐の中に、今も生きて働きたもう復活の主を仰ぎまつる感謝と喜びを偕にしようではございませんか。

（婦人部書記　河田文子）

社会部ニュース

十二月四日が教団の社会事業奨励日となっていましたが有効適切に御奨励下さったことゝ存じます。社会事業に献身者を募る丈けでなく平素の日常生活に於て信徒の社会活動を促進したいのです。テキストは教団宣教研究所発行の「キリスト者の社会的行動の指針」を御使用下さい。これは十月七日社会部主催の社会問題ゼミナールで同大の島田啓一郎教授によって講義され（三回の講義で盛会でした殆んど全教区より参会されました）今後もこの運動を継続します。

キリスト教奉仕団の救援物資の活用をおすゝめします。これを利用したい教会は教区では僅かですが、尚一層の活用を願います。

近く教団と内外協力会の協同主催で教区か他の教区合同で、教区役員とキリスト教学校、社会事業施設責任者との懇談協議会が開催され、宣教第二世紀の協力方策を議することになりました。教区内の保育所や施設に御案内のあることゝ存じます。

保育所保母研修会を今年度中に開催したく聖和短大の山川学長に交渉中です。

来年のキリスト教夏季保育大学は琵琶湖附近で東西合併で開校しますから、そのお心算で御用意下さい。

倉吉教会の保育園融資十五万円決定しました。

今後保育園舎や社会事業施設に災害其他で被害のあった時には至急更井まで通報して下さい。修理費其他の御世話を致します。教会員の多数が集団的に被害を受けた時も同様です。

財務部ニュース

年度末も近づき各種負担金等の納入状況報告を先般いたしました。よろしくご協力下さい。

編集後記

▼クリスマス、おめでとうございます。どうにか間に合せることができてほっとしています。あわただしい中での編集でした。意にみたないものを覚えつゝも校正を終え、あとがきを書く時はうれしいものです。

▼第二面に特集した「一月から三月までの教会」のあり方については、役員会で討議し、じっくり味わっていただきたいものです。

▼例年のごとく、十大ニュースの発表が行われていますが、今年を顧りみて、あなたの教会の十大ニュースは？。新しい年の歩みの方向ずけがそこからできると思います。

▼編集の実務をO先生と交替します。新しい感覚で、二月に発行されることでしょう。

▼どうぞ御要望や御意見をお寄せ下さい。

▼よい新年をお迎えになりますようお祈りしつつ。

（I）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1961年4月2日　（隔月発行）



三石教会正面

教説

「主の復活」

ルカによる福音書　第二四章一三―五三

古河治

イエスの十字架のそばにはイエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。（ヨハネ十九章）

若しも我々の肉親が絞首刑になるために手錠をはめられ目隠しをされて十三階段を登らせられるとするならば、我々はどういう気持がするだろうか。苦しみと悲しみで恐らく心臓が止るかも知れない。長時間に亘って死の苦しみをされるイエスを見上げる母マリヤ及び姉妹達の気持はどんなだったことか想像に余りがある。激しい心臓の鼓動、波打つような苦しい呼吸、したたり落ちる血潮。マリヤの頭髪はこの日、一日で一ぺんに白髪となったであろう。

「すべてが終った」と主イエスは言われ、首をたれて息をひきとられた時、マリヤ達にとってそれは悲劇のどん底を意味し、人生に於ける大きな行き詰りであった。しかしそういう暗黒の中に主イエスは死を亡して復活し給うたのだ。弟子達にとってどんなに喜びであり又驚きであったことか。

我々は現実生活の中でいろいろ苦しい体験をするし行き詰ることもある。耐えられないような悲劇の中に泣くこともある。しかしゴルゴタの丘を見上げよう。主イエスの十字架の御苦しみをしのべば我等はどんな苦しみも耐えられない筈はない。しかも復活の主は弟子達に顕われ給うたごとくに現在の我々にも活きて働いていい給う。

エマオに向う二人の弟子に主イエスは近づき親しく語りかけ給うた。彼等の眼がさえぎられて、イエスを認めることができなかったが、一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼等に渡しておられるうちに、彼等の目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼等は互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったときお互の心が内に燃えたではないか。」（ルカ二十四章）

今日も復活の主イエスは我我に語りかけてい給うのではないか。悩みの中に聖書を通して、或いは自然の草花を通して、時には人の交わりを通して。

ある姉妹がこう言うことを私に言った。「人間の世界にはどんなに醜いものがあっても、どんなに腐敗が生じていても眼を大自然に転ずると、そこには春が来れば花が咲くし秋が来れば実がなるではないか」と。私はこの言葉に大いに慰めを感じた。

我等の周囲にどのような嵐が吹いていても我等には十字架のイエスがある。復活の主はこの現在眼には見えないけれど、活きて働いていい給う。そこに我等の希望があり、喜びがあり、現実に耐えしめ、更には現実を打破して行く原動力があると思う。

受難週を迎え、復活節を望んでいる我々一同。どうぞどんな辛いこともキリストの十字架と復活の故に希望があることを覚えて、どこまでも積極的に主と共に前進しようではありませんか。

（津山教会牧師）



公告

東中国教区定期総会

日時　昭和三十六年
五月二日（火）午後三時三十分より
五月三日（水）午後四時まで

会場　高梁市柿木町二六　高梁教会

教区規則第十五条及び第十六条により右の通り本教区定期総会を開催いたします。規則にもとずいて各教会より代議員の御出席をお願い致します。
（代議員は教団教規の改正により各教会及び伝道所の主任者並に各教会の信徒一名又は二名です）。
詳しいことは後報いたします。

昭和三十六年三月二十六日

教区総会議長　壺井正夫

信仰告白

播磨醇

すべてが主によって備えられて来た、というのが、今日までの私の偽らない実感であります。

それは私がクリスチャンホームとミッション・スクールの中で育って来た、というだけではなく、キリスト教に対して烈しい反感を懐くまでになったこの私が、結局、キリストに捕えられ、伝道者としての備えをなさしめられたこと。

そして、不可能と思われて来た療養所の伝道が、困難な中にも、今日まで、主によって道が開かれて来たこと、等を思う時に、「アドナイ・エレ」を身をもって感じる。

赴任して三年の今日、伝道の困難さとその使命の重大さとを、一層深く感じるのであるが、「主備え給う」と信じて、進んで行く以外に、私の道はない。

（光明園家族教会牧師）

森喜志雄

どう考えても神のみ心をふみ倒し、キリストを裏切ってきた私が、今選ばれて伝道者にされる事実に、神の全能を感じます。

人生半ばで、逃げるに逃げられない神の巨大な力に捉えられた私は、人生の曲り角ですばらしい先生に出会い、導いて下さった働きに神の全愛を信じます。死に至るまで、一生涯与えられる伴侶と共に主キリストの十字架を身に負いつつ、毎日生れ変り、神の愛に生き、喜んで死んで行きたいと決心しています。

そして天国で、神様に〝森君、お前は何もしなかったではないか。あれ程言ったのになんだ。滅亡の世界へ行け〟と叱られるのでなく、〝お前は失敗ばかりしていたが、本当によく誠実をもって戦ってくれた。ありがとう。御苦労であった〟との神の声を聞きたい。

神様に喜んでいただけるよい報告と、一言〝一切はあなたのお陰です〟と主キリストに御礼が言える勝利の信仰生活を送りたいと祈っています。

（井原・高屋教会牧師）

中島幸一郎

昭和二一年秋、敗戦の混乱に巻き込まれて生きるに息切れをおぼえ、前途に光明を失った少年の上に、天父は導きの手を垂れて求道生活を始めさせ、翌二二年四月復活節の朝洗礼を領させ給いました。

霊の指導者として永倉義雄先生を与えられたことは筆舌に尽せぬ感謝です。

救いの確信を得、生涯の業を祈り求めるうちに寮室に於て使徒行伝七章三節の聖言を受け、伝道者としての召命と信じて献身し、永倉師に導かれつゝ献身者としての数年を送りました。

昭和三〇年九月、自らの中になお醜い利己のあることを強く示され、その事の上に新らしく十字架を信じました。

昭和三一年三月、現津山城西教会主任担任教師として招かれ、未熟を歎きつゝ兄姉達と心を合せて戦っています。

服部愛子

十代で伝道者として召されましたが、肉親の愛情の手綱と、長年の望みとを断って従うことは辛く、召命を逃れましたが、それは更に苦しく、最早逃れることができなくなり、十字架を負い、献身を決意いたしました。

母は意外な決意に驚きましたが、独り子を献げ、召しを全うするように祈りつゝ間もなく天に帰りました。従う者の厳しい生涯は、財と肉親を失った時から始まり、時には神様の愛の教育を厳しく感じましたが、みずから選んだ道でなく、選ばれ召されたとの召命の事実に支えられ、一筋に献身と服従の道を参りました。

按手礼にあたり、なきがごとき者を尊い使命に召して下さいました主の前に献身を新たにし、忠実に主に仕え、役立つ器でありたく願っています。

（岡山聖心教会牧師）

「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」

ヨハネ伝一二章二四

聖句随想

一粒の麦に生かされて

関雅人

（玉野教会牧師）

幼い時から聖書を与えられ信仰深い環境に育ちながらも、表面はともかく、心のうちでは疑いを持ち、クリスチャンを軽蔑していたようである。

そのような時、中風を病んでいた祖父が、イースター間もなく死んだ。尊敬もせず、好きでもなかった彼ではあったが、生前の信仰生活を思い出したりしているうちに、初めて信仰の偉大さに目を開くことができた。彼の死は「一粒の麦」であり、私の献身の一番大きな動機となったことを思うのである。最初に暗誦した聖句であった。私のもらった聖書の中ただ一ケ所、赤い傍線が引いてあった。それだけの理由で……。

高校の時ナザレン教会の牧師の息子が同級にいた。ある世界史の時間、私たちを意識してかしないでか、使徒達はキリストがよみがえったという幻影にとらえられて伝道した……との講義をきいて、隣りに坐っていたその友達は、抗議しようとしきりに私をつつくのである。ちょっと恥かしかったが、二人一緒でならと手をあげたことを覚えている。一人ではとうていできなかったであろうが、良い友を神様はそなえ、勇気を与えて下さった。そのことが、私の信仰生活にどれ程役立ったことか。クラスでしかも授業中、初めてキリストの証しをしたのであるイースターが近ずくと、この二つのことを思い、今まで守り導いて下さった神様に感謝を捧げるのである

放射能

▼教区報の放射能、何かよいものが書けたか、鉛板でないと防げないようなガンマー線的なものよりも、まあ紙の程度で防げるアルファー線的なものの方が害が少い、早く書けと編集子から催促をもらった。困ったことに測定器が故障を起して修理工場に入っていたのだ。その時の感想を一言。

▼皆がどんな具合か見に来られる。大部屋に転がっている私の所へ、他のものには目もくれないで真直に来る人、入口で他のものに声をかけ、皆が入って来た人を安心して眺められるようにしてから私の所へ来る人、種々でたのしかった。

▼前者はおおむねインテリではにかみや、後者は世間智を身につけた世俗人、此の世の受け入れやすいのは後者であろうかと思わされた。どうも教会人には前者が多いように思うがどんなものだろう？

▼修理工場にいて考えたもう一つのこと。

▼各個教会の牧師も信徒も、後生大事と自分の教会のことばかりに閉ぢこもっていると却て自分の教会の本当の姿が見えなくなる。教区主催の役員研修会等に出られて、皆の発言を聞くことが自分の教会を拡げ、高めてゆくことになるのではなかろうかと。（T）

「教会総会を画く」

長坂龍太郎

教会総会のシーズンを迎えた。多くの教会では四月中或はおそくとも五月上旬に開催されるのが通例と思う。私の教会では毎年イースター礼拝に引続いて復活の喜びと力にみたされて開催する慣わしをもっている。

総会のためには先ず役員会が真剣に祈り、具体的な準備をしなければならない。特に新年度に実施すべき伝道案がよく準備されなければならない。「この方針」と「この方策」で教会活動がなされるという基本線が強く打ち出されるために役員会は神の啓導と衆知を結集しての協議を必要とする。

次に伝道案と教職の待遇に重点を置いた年間予算案が準備されねばならない。本年は特に物価倍増への急傾斜にある時、役員会は教職謝儀改善のために充分の配慮をもって欲しい。教職謝儀こそは伝道費なのだと識って欲しいものである。と言うのは「謝儀が此の程度で教職がよき説教のため本も買え、見聞もひろめ新しい分野への交際による宣教進出もできるのか、どうか」をよく冷静に、客観的に考察し、思い切って予算案にその配慮を盛って貰いたい。それがためには役員たちが率先して非近代的献金額から「キリストの体なる教会のために我が身をもてキリストのなやみの缺けたるを補う」犠牲的献金額へと切換えをやることが望ましい。

更に役員の改選がなされる場合（私の教会は任期が二ケ年の故に隔年選挙である）には、役員会に於て十二分の選出の運ばせ方に対する協議と祈りが必要である。原則として投票によって選出せらるべきである。選挙なしで重任などは好ましいことでない。選挙後、落選した者の悪あがき等はつゝしむべきである。新役員会も動じてはならない。選ばれた者も落ちた者も謙遜な礼拝者として美しい、奥ゆかしい姿を神と会衆の前に示すべきである。

日本基督教団発行による信徒必携の中に「教会総会は教会の最高決議機関で教会員は責任をもって出席しこれを軽視するようなことがあってはならない。総会の発言はとくに注意し、静かに意見をのべ同一議題については度々発言することのない様にしたい。教会の徳を建てるよう、謙遜な態度で建設的でありたい。出席者の中には入信まもない人のいることを覚えたい。……」とあるが誠に簡にして意を尽していると思う。教会によっては時々非教養的な人やノーマルでない、しかも教会ずれのした者がいて、総会中言わずもがなのことを非協力的に言ったり、甚しきに至っては牧師への個人攻撃を平素の憤まんを此の際とばかりにあびせかけたりする者がいるが、みにくいことである。絶対にあってはならないことである。総会に臨む者は牧者も信徒も凡て「此の議場に牧者の大牧者であらせ給う見えざる復活の主イエス・キリストが臨在し、みそなわし給うことを意識し、おそれおののきつゝ、しかも感謝と喜びに充たされつゝ議事が進められるべきである。

報告も論議も決議も主イエス・キリストへの献げ物でなければならない。教会総会は悔改めと「かくの如き罪深き者たちへの宣教の委託に対する」感恩感謝による力強い教会活動への再出発の日であるべきである。

鳥取県役員研修会報告

鳥取教会信徒　政田二郎

鳥取県役員研修会は、「教会の財務」を主題として去る一月十五日、米子教会新達治長老の御手配により、倉吉沢タク本社広間を会場として開催された。

長坂牧師（教区伝道委員長）**講演要旨**

全国的にも又当教区でも、礼拝出席者数・授洗者数は年を追うて漸減し経常会計面での伝道費も減少し又牧師謝儀のごときは余りにも貧弱である共々にキリストの体である教会の存在意義について考え、自分こそが責任の主体であることを思うべきではないか。又教会行政面にもっと多くの若い人を起用し、斬新且つ創造的な運営を図るべきであろう。



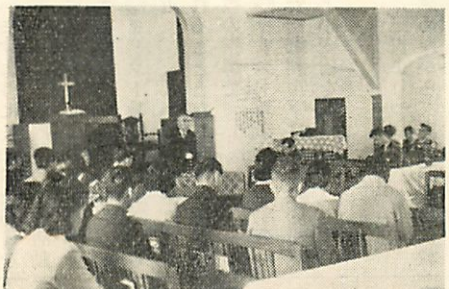
戸田伊助牧師講演要旨

1　教会の諸経費は月定などの献金によって賄われるべきで、奉仕を本来の主旨とするバザーなどの事業収入に依存するのは正しくない。

2　献金は報いの前提としてのものでなく、神の祝福に対する応答であり、その感謝を行いと真実のしるしとしての富をもってするものであることは、「レプタを献げた婦人」の例を待つまでもないことである。

右の講演を中心に、具体的問題について分科会で討議し最後にエルダー牧師による閉会式をもって幕を閉じた。

岡山県教会青年会連合結成大会



信仰による一致・日本伝道の自主性・各個教会の充実を目標に去る三月二十一日（春分の日）、岡山教会において東中国教区岡山県教会青年会連合の結成大会が行われた。

此の日、県下各地から集る青年男女十六教会七〇余人。尚、特に大阪よりはるばる全国組織委員の楠見倫彦兄が列席し色々助言を頂いた。

信愛教会の長坂牧師の説教による開会礼拝につづいて、総会がもたれたまず規約審議の中で、激しい論戦かありつづく行事計画案・予算案審議、運営委員選出等、皆真剣に討議し、感謝のうちに結成を終った。新委員長には岡山信愛教会の山崎尚士兄、書記は蕃山町教会の正保文男兄、会計は岡山教会の宮岡光広兄その他、備前、備中、美作の各地区より一名ずつの委員が選ばれた。

教区内では、鳥取県がすでに連合体を組織し、又、全国的に着々とこの種の動きの見える折から、遅ればせながら岡山にも連合組織の出来たことは喜ばしい限りである。

青年伝道の重要性は誰しも

（四頁三段へつづく）

教会便り

倉敷教会
飯牧師御転任の後、ながらく主任者を欠いていた同教会は今回彦根教会牧師田井中純作氏を主任牧師として迎えることに決定した。

鳥取教会
常田牧師御辞任の後、今程同教会主任牧師として、尼崎教会牧師永田善治氏を招聘され、(三月二日御赴任)来る四月十六日(日)牧師就任式を挙げられる。

高梁教会
昨年五月、寺崎牧師御辞任の後、永らく牧師を欠いでいた同教会は、今回三石教会牧師井殿園氏を主任牧師として迎えられ、来る五月二日牧師就任式を挙げられる。

個人消息

堀川勝愛氏(岡山教会)
三月末日をもって岡山教会伝道師を辞任され、兵庫教区但馬日高伝道所主任担任教師として赴任せられる。

内潟はる氏(岡山聖心教会)
今回正式に同教会の副牧師に就任された。

三島康男氏(倉敷平和教会)
二月末日をもって琴浦教会伝道師を辞任せられ、三月より倉敷平和教会に就任された。

永田実氏(吉備伝道所)
御病気御入院中のところ、御全快され、今程御退院。

土井龍也氏(久世勝山教会)
過日、御長男が与えられ、龍一と命名された。

橋口政巳氏
高梁教会の無牧中、同教会を応援されていた同氏は、今回京都教区舞鶴青葉教会の招聘を受け、四月より同教会に赴任せられることとなった。

清水良太郎氏(鳥取新生教会)
御病気御療養中、御全快をお祈りします。

柳沢菊代氏(鳥取信和伝道所)
昨年より同伝道所に御赴任になった。今回第二種教会設立の申請を提出されている。

吉田輝子氏(青谷教会)
過日御夫君を喪われた。心より哀悼の意を表し、天父の御慰めを祈ります。

壺井正夫氏(教区総会議長)
邑久光明園では毎年慰霊祭を各宗派により執行している。今回はキリスト教式をもって三月二十日行われたそのため壺井牧師は司式、説教を担当され赴かれた。壺井牧師と共に邑久光明園の慰霊祭に出席された。

職域伝道部ニュース

労働福音学校開催
二月二十一日(火)から二十三日(木)まで倉敷、津山、鳥取の三地区で開かれた。
講師は大阪教区職伝委員長高石教会牧師村山盛敦先生で「職域伝道と教会形成」の主題(夜は「職場のキリスト者」)の下に勉強する機会を得た。三地区の集会共昼夜二回の集会が持たれた。

婦人部ニュース

世界祈禱日婦人大会報告
二月十七日午前十時半から午后二時半まで、世界中の主に在る友と心を併せての集会を岡山教会に於て開催、出席者十六教会六十一名だった。
午前は講演会でエルダー先生から『日本の教会婦人に望む』という題で真にキリストの教会を受け嗣ぐものとして子女の信仰についての関心、若い母親の教会出席についての工夫、教会の公同性についての考え方の欠げを発題的に熱心に話され、私共も改めて学び反省決心させられるところ実に多かった。これらの諸問題と本気で各人が取組み活きて働くパン種となりたいものである。午后は世界共通のプログラムにより各教会もれなく祈った。奨励は長坂先生で、主の祈について懇切なおすゝめを頂いた。高杉先生もすっかり健康を恢復されて御出席誠に感謝。教団の機構改革により婦人部が伝道部の中の小委員会となったので、今後の働きのため各個教会婦人の自主性と内容ある発言の大切な事を御報告を通して思い、今後の婦人部のため心から祈らずにおれない。(K)

青年部ニュース

○岡山県KKS大会
四月三日(月)午前十時から午後五時まで。倉敷教会に於て。関西学院神学部助教授城崎進先生を講師に迎え開かれる。
多数の参加をのぞんでいます。

社会部ニュース

◎前号で保育所のために聖和短大の山川道子女史を招聘して講習会の予定と報しましたが女史の都合つかず来年度に延期しました。
◎関西学院大学教授竹内愛二氏によるゼミナール開催を三月末にしようと計画し、教団からその費用を送金されましたが、受難週なので、これも亦延期しました。春季の行事として今から御計画のうちにおいて下さい。先生は我国に於けるカウンセリングの権威で、教会人のために格別に用意された題目で、午前中二時間、午后三時間の名講義がなされる筈であります。会場は今度は岡山教会です。牧師及び各教会の社会奉仕委員、社会事業施設の従事者、保母、経営者、教区社会部委員は全員御出席下さい。
◎各教会に以前御願い申していますように社会奉仕委員を選出して教会内外の奉仕活動に活躍されるように御指導下さい。
◎キリスト教社会事業学会も近く、支部がこの教区に生まれることと存じます。竹内教授の指導で。
◎キリスト教奉仕団の配分物資を御利用下さい。脱脂粉乳と小麦粉を配給しています。(東井)

(三頁よりつづく)

認めながら、実際には各個教会でもてあましている青年の問題を、視野を拡げて、互いに横の連絡をとりながらすすめてゆこうという試みで、年間行事としては、春の青年大会、秋の指導者協議会、四月の総会の他に各地区毎の集会機関誌の交換等が計画されている。
午後からは、徳島兄弟教会長老で徳島大学工学部長の石黒美種先生による「青年キリスト者と今日の問題」という感動的な記念講演が延々二時間に亘り、エルダー宣教師に導かれて閉会祈禱会をもってぎっしりつまった一日の行事をとどこおりなく終えた。(小畑)

編集後記

▼主のよみがえり、およろこび申し上げます。
復活の事実の偉大さと、それを受け入れる自分の信仰の小さいこと。この間に立って考え悩むのは毎年のことです。
▼毎号のことですが、期日に間に合わせるのにやっとです。おゆるし下さい。
▼第二面には、去る二月十二日岡山教会で按手礼をお受けになった四人の先生の信仰告白です。短かい文章の中から、献身までの長い歩みと、深い信仰を伺い知っていただきたいと願っています。
▼第三面には、それぞれ、教会総会を前にして、心がけなければならない事柄について、経験豊かな長坂先生に記して頂きました。
▼岡山県教会役員研修会の報告は次号に廻させていただきます。
▼次号はペンデコステ特集になると思います。
そして五月初旬行われる教区総会の諸報告をのせる予定です。
▼編集委員に少し異動があると思いますが、又、新しく紙面で御挨拶いたします。
▼どうぞ御意見や、諸ニュースをお送り下さい。(I)

（二頁よりつづく）

いが重荷を負い合い、協力者を育てる意味で後継者の養成をしなければならないです。

戸田　具体的に信徒訓練をどうすればよいかですが、私の教会では礼拝後数グループに分れて座談会をしてます。そこで自分の問題を話し合い、又体験を教えられたりしています。

長坂　どんなグループがありますか。

戸田　求道者、一般信徒、大学生、女工員などの組です。いろんな内容にしたいと思ってます。

長坂　時間は？。

戸田　礼拝後二十分位。そう決めています。



蔵知　時間をはっきりさすことは大切です。教会の集会の終りの時間がはっきりしていない。それがわかると出席しやすいです。時間の訓練はぜひ……。

松本　そうしたことで私達はラジオ放送を学ぶべきです。無駄がない。例えば十五分の解説でも実に内容のあることを語っている。牧師さんの説教は……。（笑）

長坂　私どもの教会は、反対に時間を訓練しすぎて、礼拝は十一時に終るものと思ってます。もし礼拝後に座談会を持ったら皆帰ってしまうでしょう。（笑）

私たちの信仰内容の訓練

—特に聖書研究を中心に—

戸田　訓練について具体的に学べましたが、新しい時代に於ける信仰内容の訓練についてはいかがでしょう。

エルダー　信徒は自分は何を信じているのか、はっきりしていますか。信仰の自覚がなくては証もできない。今日その自覚が欠けている。そこで座談会の形式で、信徒同志が自分は何を信じているかを話し合うべきですね。信徒の前で証しができなければ、外の人にはなお証しは無理ですね。

大橋　同感です。先日役員研修会に出て、つくづく感じたことですが、私の聖書理解がいい加減です。求道者の気持になって勉強を初めからやり直し、はっきりした自覚を持ちたいと決定してます。

波戸　聖書が第一というのは当然ですが、忙がしいし、又むつかしいところもありますそこで知らずしらずの中に聖書を読み、親しめるようにと私達の教会では、「日毎の糧」を使用しています。

戸田　従来は牧師が聖書研究をして教える。信徒は唯聞くだけというのが普通ですが、今日では一人一人の信徒が聖書と取り組み、互いの交りの中でそれを語り合い導き合って、各自の信仰も深まるというものです。

エルダー　確かにホームタスク的に、始めに勉強の仕方を教えて、よりしっかり自分で信じてもらいたいものですね（笑）

高杉　聖書を互いに自分の問題と照し合わせて読み、話し合う会が教会の中にほしいですね。又皆忙がしい、忙がしいと言っても新聞は読んでるんですから、聖書の一行も読めないなんてことはないと思います。私は一行でもいいと言うのです。それを一日中考えるということは大したことですよ。

長坂　牧師がみ言を取りつぐという意味に於て、牧師自身がもっと聖書研究をしなければいけないと思う。これが抜けてしまって、おとぎ話みたいな説教しているから集まらないし、信徒も本気で聖書研究をやらない。先ず牧師が一生懸命にならなくては……。

戸田　そうした点で、教会でも本格的な聖書研究の発表できる場を作ってほしいと思います。むつかしい話でもノートを取りながら一生懸命聴くという空気がほしいですね。

高杉　やればその場は作れます。私は伝道教会の根本は聖書講義ということに於てやってます。数は多くならないけれど、本当の人ができて来ます。

長坂　礼拝に集まらないといけないと牧師は言うが、聖書研究会、祈禱会に集まらないと恵まれないと確信をもって言う牧師はおりませんよ。牧師はよう言いません。私も。

（笑）

蔵知　先生方も雑用が多いですね。雑用はできるだけ引き受けて、牧師に時間をあげるべきですね。

長坂　聖書研究より雑用の好きな牧師も多いですよ。（笑）

波戸　私のとこでは、聖書講義も夕拝も牧師の話を聞くだけに終ってますが、皆さんのところではいかがですか。

桑内　私は聞くだけの聖書研究でしたが、一生懸命ノートを取りました。私は若い時にそうして学んだガラテヤ書が今でも私の信仰生活の基礎になってます。

戸田　ノートを取るような人

（四頁へつづく）

「たとえイスラエルの子らの数は浜の砂のようであっても救われるのは残された者だけであろう」
ロマ書九章二七節

この聖句は、パウロがイザヤ書十章二二節から引用したものである。

私が同志社に入学した時は二五名であった同級生のうち、卒業したのは九名、うち八名は牧師に、一名は牧師夫人になった。卒業前のクラス会で、エーテールと云う小誌をクラスの連絡のために発行することを申し合せ、過去八年間に七号まで出ている。

このエーテールと言う言葉はヘブル語で「残された者」と訳されている。これは予言者達がイスラエルの罪に対して、神の審判の下ることを告げた時代に生れた特有の言葉である。予言者達の宣告は、神の審きが全滅を意味するかの如き印象を与えるが、実はそうではなくて、あるものは審きに耐えて生き残るであろうことを意味するのが、この言葉である。

どのような人達が残されるのかについては、予言者達はふれていない。ただ、はっきりしていることは、この残されたものは、審きに耐え、やがて神に帰るであろうと云うことである。

聖句随想

残された者

荒谷恒喜

残されるのは、パウロがロマ書十一の五に云うようにただ神の恵みの選びによるのである。やがて彼らは深い神の計画とあわれみによって滅びより逃れ、万民に神を知らせるものとして回復されるのである。

キリスト者はまさに、この、神のあわれみの故に「残された」少数者として、ひたすら、神の前におそれおののいて自からの救いを完うし、そこから更に、万民に主の福音をたずさえゆくものである。

（美作落合教会牧師）

（三頁よりつづく）

が多いと説教も一生懸命になりますね。

高杉　私は桑内さんが、ガラテヤ書が今でも基礎とおっしゃったことは本当だと思います。私自身一生懸命に研究し正しい基礎があると本当の説教が出来ます。聖書研究をしない信者は賜物を持ってない信者のような気がします。

教会の財政
—その確立と献金をめぐつて—

戸田　さて、アメリカの財政的援助に対して、第二世紀の日本伝道は独立しなくてはならぬという声が、かなり教団より出てますが、これについてエルダー先生はどうお考えですか。

エルダー　私の発言すべき問題じゃないでしょう。独立して日本から外国に、沖縄に援助することはいいです。しかし、教会の第一の目的は財政的独立でなく、伝道することです。独立はしたが伝道はやれないという状態になりはしないでしょうか。

　どうですか。これ以上献金は出ないですか。（笑）

松本　出す気になれば出ますよ。

桑内　例えば今高梁教会は年間予算三十六万円です。少くともその十倍は。……そうすると少くとも教会財産が一千万円はないといけません。それだけあれば年少くとも五百万円の利潤があがる（笑）それに教会献金百万円を加える。これで伝道を考えてゆく。特別献金は別途に積み立てる方がよいでしょう。少くとも牧師生活費は基本財産でまかなうことです。月定献金が牧師の生活費になると言われないようにしたい。

エルダー　しかし大ていの教会の献金は殆んど牧師給になっている。だから牧師は献金について話しにくい。

船越　私は基本財産は持たないで、必要なだけは皆で心から献げたらよいと思います。必ず与えられると信じてます。

桑内　そういうように今迄は余りにも神様にまかせすぎていた。もっと事務的に処理すべきはちゃんとすべきじゃないですか。

高杉　私は牧師が献金について話しにくいという気持は全然持っていません。会計役員は献金の信仰的意味について時折は指導すべきであると言っていました。

桑内　神様に与えていただけるとか、このまゝで何とかなるという安易な考えがあるから、教会は財政的に苦しくなるので、もっと会計がその実状を明らかにする努力が必要でしょう。

エルダー　献金は少ないものだという考えが当り前になってる。よく感謝の祈りで「このほんのわずかの、つまらないものを……」と言いますがあんな虫のよい祈りはないですよ。（笑）

長坂　財政が豊かでないことは、やはりその教会がマンネリズムに陥って、幻を持っていないことに原因がある。経常維持のためのみに使われている。税金のように考えているところに問題がある。

　この町の救霊のために乗り出していることをみんなが知ることです。

松本　そういう意味で我々の教会の予算に夢がもり込まれなければならないし、その予算を教会員に十分のみこんでもらう必要があるのです。

長坂　それが欠けてますね。せいぜい年に二、三回伝道集会をするための伝道費でしょう。教会予算が増えるのは毎年牧師給を上げる時で、その程度しか増えない。申し訳ないと思ってますが……。

松本　その意味でエルダー先生のおっしゃった日本の教会の独立ということは、いまだ先のことですね。

桑内　教会予算が増えたら減ることはないのですから、必要ある機会にうったえることですね。

エルダー　一体献金はどういう意味があるのか。祈りの中で全身全霊を献げるためと言うが果してほんとうにそれが自分の体を献げるしるしになっているかどうか。十円とか二十円とか。もし自分にそれだけの価値しかないと言われたら怒るんでしょうが……。（笑）そこに根本問題があると思うのです。

藏知　みんな入信の時はきりわかっているのだから、少ない時は少くて苦しいと正直にうったえることです。

松本　その点が割合控え目ではないですか。

長坂　教会財政の増すような献金のアッピールはしない方がよろしい。信仰のためならよいが、とてもつまずく人が多い。僕は今でもよくつまずかせている。

高杉　日本で儒教の精神からか、どうも金銭をいやしめる傾向が強いです。殊に宗教家は清貧に甘んずるのが偉いと思ってる。金銭についてのキリスト教的な考え方が確立されるべきであり、勉強する必要がある。相当古い信徒の中にこの傾向が強いですよ。

松本　私の教会では財政不足になると有力な長老におんぶしてしまう悪い傾向が長い間あります。それの克服が今の願いです。赤字はみんなで考えるようにしたい。

高杉　昔からよく「誰か有力な信者がおれば、こんな問題はすぐ片附くのに」と言うけれど、そんな人が居ないところがよいのではないですか。

大きい教会・小さい教会
—地の塩としての教会—

河野　いつの時代でも、小教会は教会が発展して行く途上に生れてくるものと思いますが、もっと小教会独自のスタイルがあってよいのじゃないですか。「地の塩」としての教会の使命が自覚されるべきです。教会の中だけが教会という考えや大教会的スタイルを何か理想的教会のスタイルとして追い求めすぎる傾向が強くて、そこから地方の小教会と大教会との差が益々大きくなっていると思われます。

戸田　大教会になることよりも社会とのつながり、社会へどのように奉仕するかが大切ではないですか。

井殿　小さい教会を二つ持っていて考えさせられるんですが、財政的に自立でき、礼拝出席者が増えることばかり望んでいる。大きくなることが目的になってしまっている。このような考えが教会員の中に残っているんです。僕達の教会は小さいながらもしっかり活動して行くのだという意識がもっとほしいです。

高杉　大きくなることより、教会活動することが目的ですそれで私は食うや食わずの牧師をあちらこちらにおいて、いつまでたっても独立できない形自体に問題があるのだと思います。もう少し小教会がそこに立てられている意味がはっきりするような方策が立てられたらよいのですが、伝道所や第二種教会は第一種教会になることが目的になっている。地方の教会はいつも置き去りにされている意識がある。そういう教会に専任の伝道者や会堂が必要かと考えます。

　倉敷南のような所には大金を投じて土地を買い、会堂や幼稚園を建てゝ集中的に活動できればよいですね。言い方が悪いですが、会堂をたてても仕方がないだろうと思われるところもあります。要は、教会活動がはっきりなされておればそれでよいと思うんです。内容がないのに形だけ整えようとするところに疑問を持っています。

エルダー　教会を大きくさせるために活動すると地の塩としての使命を失いますよ。ほんとうにこの世に対する奉仕と福音を宣べ伝えることに徹底すれば自然と成長するでしょう。

井殿　教会が大きくなることばかり考えていて、まだ一人前でないと思いこむのはいけません。どこの地にあっても自分がそこで教会の代表であり、自分が教会を背負っているのだという意識を持ちたいものです。そこから大きい教会に成長して行くんだと思います。

戸田　二、三人集まれば、そこにキリストの教会があるのですから、小さくても誇りと自信を持つことですね。

大橋　数で教会を測るのは信仰的に内容ができていないからですよ。一人一人がしっかりしていることですね。そうすれば社会に出て証しをする力ができます。

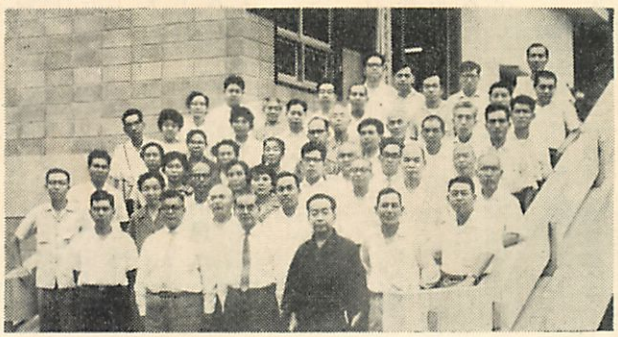
（五頁へつづく）

成功だった——全体役員研修会

去る八月二十三日、二十四日の両日、湯原桃李荘に於て開かれたこの会合は、出席者五十三名（役員四五、二十教会、牧師八）、集った役員は八十才を最年長、二十五才を最年少とし、五十代四十代が圧倒的に多く、また役員年数も四十一年を最高、五ケ月を最低として二十年以下、十年以下、五年以下が多く、たのもしい陣容であった。古いものも新しい者も、教会役員のあり方を新しく学ぼうという態度でまる一日、研修の時をもてたことは、この教区では初めてのことであった。

講師の話が非常によかった。わかり易くかつ有益で、刺戟され教えられたところ多大。講師は特に役員は教会員の模範たるべし、役員会は、ただありきたりのことを処理するのでなく、福音を広めるためにどうすればよいかという企画力と創造力をもたねばならない。「生ける神があるのなら幻がある筈、幻があるなら計画が与えられる、計画があるなら実行力が与えられる」とのラクーアの言葉を引用して、教会は今しばし数のことを忘れよ、まず今いる信徒に生ける信仰を与えよ。このまゝの人数にいくらふえても何もならぬ。まず我々の信仰をほんものにせよ、と激励された。また、役員の光栄はその責務を果してみてわかる。怠けていてはわからぬ、といわれたのは印象深かった。

分団、全体の協議会をへて互いに具体的な問題を考えあったのであったが、アンケートによると、指針を与えられると答えた人は返答者三二名中二七名、来年もこのような会を希望しますかというところは全員「する」という結果をおさめたと認めえた。



今後も毎年開かれる筈であるから、今年出れなかった役員及教会は来年は是非出席できるように今から心組んでおいていただきたい。ただこの会には各教会の役員だけで牧師も一緒に講演をきいて役員と役員会のあり方を勉強するということがなかったので、今後各教会で反映してゆくのには困難があろうと思われる私は一緒に勉強し、一緒に革新を誓いあう会でありたいと思った。来年はできれば、そうしたらどうだろうか。

最後に、この会のために教区内の二十数名の方々が二万円の特別寄付をして下さったことを報告し、感謝の意をあらわしたいと思います。

（戸田）

教職研修会報告

中国区東教

八月二十九日、三十日、三十一日の三日間、大山桝水原高原ホテルで開かれた。いつも岡山県側に御世話になるので此度は鳥取県側でその労をとろうという次第である。

折柄の颱風により危ぶまれたが、続々と雨をついて三十五名も出席され、盛会であった。

急病で来られない常田先生に代って長坂先生の開会礼拝をもって始まった。

講師、小林信雄先生は主題の信徒論と聖書的根拠、歴史的神学的意義、実践的牧会的展開と三回に分け、よく準備された講演をされた。

その後、二分団に分かれ、戸田、脇本先生が座長となり協議がなされ、綜合協議を高杉先生が座長となって行なった。

引続いて、壺井先生による閉会礼拝をもって予定通り終了した。

その間、古河、森両先生の信仰職制委員会による夏期教師講習会出席の報告がなされた。

この全期間を通してエルダー先生が、朝拝、晩禱を指導されたが、これにより修養会が一段と有意義になったことは特記せねばなるまい。

気ずかわれた天候も次第に好転し、三日間には眼下に日本海、中海、遠く島根半島、背後をめぐる中国山脈の素晴らしい展望を見せた。

二日目の午後は有志十名が山頂をきわめ、続いて尾根を縦走して帰り、「よかった」を連発し、他を羨ましがらせた。

宣教第二世紀の神学としてこの「信徒論」を各教会に持帰っていかにその実践的展開をするかが重大な課題である教職の権威については明確な限定はなかったが、古い型の牧師像が打破され、役員は召命観と責任をもつようになり、信徒は社会の只中で活動する者となり、教会の正しい体質改善がなされることが今後期待される。

（K）

新しい時代の教会
—教会と社会—

（のりよつ 4頁つづき）

戸田　主題の「新しい時代」ということを考えながら、今後どういう面でどのように教会は日本の歴史に貢献し、社会に活動して行けばよいでしょうか。

大橋　それはやはり教会が社会と絶えず「つながり」を持ち続け、社会の問題がどこにあるかを自覚していることが大切だと思います。

岡本　ということは、週間の生活がほんとうは大切だということでしょうね。

桑内　昔はキリスト教が社会でリードしていた点が多かった。今日社会福祉の面でも相当に進んで教会の入る余地はなさそうです。一体教会はこれから社会に対して何をすればよいか考える時でしょう。

桑内　その通りです。教会学校にしても、昔は寺小屋式だった。果して今日、どれだけ進歩し、整然としたカリキュラムを持っているだろうか。結局信仰的な交りだけに止まっているんじゃないか。

岡本　反対に、僕は信仰的な交りだけということに希望を持ってます。そういうものに社会の人々があきたらなくなって教会に信仰的な交りを求めて来ているんです。だから職場でも家庭でも信仰的よろこびをもって生活することが大切でしょう。

桑内　結局こういうことではないですか。例えば次々と大病院が立つ、それと別に内科の医師が特技を持って小さいながらも開業する。人々はそこに集まる。それと同じように、大病院のような大教会になるか、小さくても特色のある小教会になるかということです「小さくてもデラックスに」ならなければいけませんよ。

松本　私はほんとうの人間尊重、そして神をおそれ人を愛する基本に立って人間関係を確立する。そのことだけで教会はその使命を果していると思います。青少年問題の急増男女関係の乱れなど考える時聖書の教える人間の尊重に立って青年子女を養育し社会で彼らが立派に働けることが実証されたら素晴らしいです。

エルダー　その点が一番欠けてると思います。民主主義の形はできてるがその根底の人間を人間として尊ぶことが欠けている。物としかみてないですよ。これをはっきりさせることが大切です。

松本　この人格の尊厳はキリスト教を通じてしか確立できないのだということを知るべきでしょう。

船越　私は保護司をして、一度悪の道に入った人を正しい方向に引き戻すことの困難さを思うと教会の使命の重大さを痛感します。生きる目標とよろこびを失った人達。神によって生きることを教えることはほんとうに大切です。

（六頁へつづく）

教会便り

岡山教会（壺井牧師）
八十周年の記念事業の最たるものとしての新会堂は十月十日に竣工した。新しくオルターを設け、正面に十字架が置かれて赤いカーペットがよく調和している。八十周年の記念礼拝は十月十六日に執行され、新会堂の献堂式は十一月六日に挙行された。

岡山信愛教会（長坂牧師）
十一月十二日（土）十三日（日）に創立五十周年記念会を挙行される。明治学院大学教授園部不二夫先生が応援に来られる。尚、会堂裏の記念館が新しく竣工した。

倉敷南教会（岡本牧師）
CEC開拓伝道地である同教会は、本格的な会堂建築の必要に迫られている。工業都市として近来著しい発展をなしている同地区の土地を速やかに入手しなければ伝道の基盤を逸するのである。教区教団は何とか善処したいと協議中である。

玉野教会（丹羽牧師）
現在の場所に新会堂を建築すべく計画中であって、目下積極的に募金運動が展開されている。

光明園家族教会（河野牧師）
第十六号颱風で長島の海岸に面して立てられている新築間のない同教会堂は、甚大なる被害を受けた。播磨教師並びに患者である信徒達が日夜涙ぐましい復旧につとめられた。国有財産の故に教団よりの援助ができないのが遺憾であるが有志の物心両面の同情を切望してやまない。

▽個人消息△

永倉義雄牧師（岡山聖心教会）
北海教区の依頼を受けられて去る九月一日から二十五日間にわたって二十教会を巡回応援された。

藤岡友幸教師（児島教会）
今程御病気全快、児島市民病院を退院された。

佐敷重雄牧師（琴浦教会）
去る八月末御退院、快方に向っておられる。

常田二郎牧師（鳥取教会）
十月一日から十五日まで、北海教区旭川六条教会を始めその他の諸教会を応援された。

岡山県教会青年会
代表者協議会

去る九月二十三日（秋分の日）、岡山市まきび荘を会場として、県下の二十数教会から四十名の代表者が集まり、青年会連合体の結成を目指してその意図、必要性、重要性について戸田委員長の講演を聞き熱心なる協議の後、来る十月三十日にその第一回準備委員会を開き、第一歩をふみ出すことを決定した。



開会礼拝では高杉牧師により、聖書から新たに教会の在り方を教えられたことは一同特に味わい深いものであった同時に昨年の如く、各教会青年会の具体的問題について協議をなし、それぞれ青年会の当面している問題や現状について語り合い、年間プログラムの交換、教会青年会の教会に於いて占める位置とその特質について真けんなる論議が交された。今後の動きが期待されるよい会であった。（I）

KKS
夏期修養会報告
八月十日～十三日

会場を例年の県中央公民館の山から笠岡の県青年の家と海辺に移した。場所が海辺と言うためか六十四名の多数が参加。「神と人生」について戸田先生の三回の主題講演を中心に、大いに語りあった。特に高杉、森両先生の朝拝応援もあり、又新鋭の大前先生の歌とゲームの好指導も加って、一同若い魂に、新しい誕生をおぼえた。さて問題は、今後教会生活にどう反映するかであるが、例えば倉敷地域（倉敷平和、南）は九月十三日エルダー宣教師を迎え、小KKS修養会を持っている。各教会のそれぞれの活躍のうわさも聞いている。終りに特



筆すべきことは、KKSの集会は、高校生自身が計画を考え、運営していることである自主的に活動していることを委員一同心から喜んでいる。（O）

鳥取県青年大会

十月二日午後委員会を倉吉教会に於て開き次のことを決定した。

青年大会を十一月二十二日夜から二十三日にかけて、鳥取教会で開催する。講師は青年部委員長戸田牧師にお願いする。他に教区内教職に協力を求める。詳細なるプログラムは目下検討中である。（K）

岡山教会大学生会による
C・S奉仕キャラバン報告

八月二十四日、二十五日の二日間、一行十一名は、水島韓国教会を口火に、倉敷南、倉敷、平和、有漢、高梁と各教会で楽しい子供会を持った特に韓国教会では百五十名の韓国の子供達は、はじめて日本人が、教会に来て子供会をしてくれると大喜びであった一同は朝鮮語の讃美歌を教えてもらったり、又青年達が作ってくれた朝鮮料理（トガラシのからいものだったが）に一同舌づゝみを打った。韓国教会への橋渡しをしてくれたことを感謝したい。さてこのキャラバンの持っている最大の芸は、一同で製作した「絵ばなし」である。話は既にテープにとってあって、音楽、擬音も適当に入ったものである（このテープを岡山教会建築中の会堂横で取ったため、大工の音や声も入っているのはケッサクである。）（O）

（五頁よりつづく）

キリスト者が社会とのつながりを積極的に持つということは、礼拝に出席するのが精一杯という実状ではまだまだ先のことに思えてなりません

戸田　できるだけ数多くの集会に出席することが模範的なよい信徒であるという感じを持っている。牧師は信者が教会に来ないと、何か悪いことでもしてるんじゃないかと心配しちゃう。（笑い）信者が一人であっても、社会で証しとしての生活がなされているという意味の信頼が足りないです。世にあってよき証しのできるよう牧師や他の信徒が理解し、祈り、支えることですね。

長坂　今の話で重要なことは牧師が信徒の診断を誤らないことでしょう。

戸田　それではこの辺で。

編集後記

▼選挙の秋。希望のもてる政治が行なわれることを期待してやみません。動きのはげしい内外の状勢ですが、その中で読み、考えうる人は幸いです。

▼座談会は九月十三日夕、岡山信愛教会で行なったものからの要約です。御出席下さった皆様にここで御礼を申し上げます。

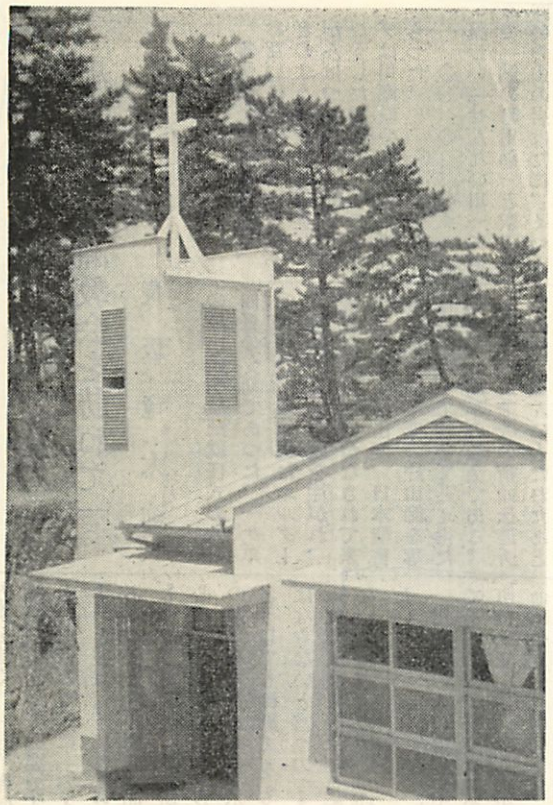
▼紙面の都合で十分にその内容をお伝えできないのが何としても残念です。

▼次号はクリスマス特集の予定です。（I）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1961年7月10日　（隔月発行）



光明園家族教会

説教

『人間を作り出す教会』

コリント第二・五の一七

田井・中純作

五月初、私は本年度教区総会出席のため、初めて高梁教会に赴いた。高梁川の清流と緑の山々に囲まれて、落着いた市街も印象的ではあったが、会場に到着して由緒ある教会堂に面した時の深い感銘を忘れることが出来ない。入口の掲示板は、遠く先達の苦斗の歴史を物語る如く、左の様に記されて居た。

日本基督教団高梁教会々堂
昭和二十八年十月三日、岡山県重要文化財（史跡）として指定さる。明治十二年秋、高梁にキリスト教初伝道、同十五年四月高梁教会設立同二十二年九月、教会堂竣工現在の高梁教会堂、是なり。

以来、当教会より綱島梁川、留岡幸助、山室軍平等、幾多斯界の英才を輩出せり。と

保守的な地域共同社会に在つて、新しい福音に生きることは恐らく、いのち掛けであつたろう。教会堂に投ぜられたと云う有名な迫害石に象徴される信仰困難の時代を貫いてこの山間の一教会は、宣教百年の日本教会史にとつて、忘れられぬ役割を果して居ることに驚きと感激を新たにせざるを得なかつた。富士見町や霊南坂などと云う日本の代表的教会に劣らない尊い歴史がそこにある。其は幾多すぐれた偉人を生んだと云う事が称賛に値するのではない。迫害の中にも小さき群が、キリストの福音に従う人間を生み出して行つたことが大切なのである。日本の各地に在る教会が同じ歩みを続けて来たことであろうが、私はそこに此世に対するキリスト教会の一つの使命を見出すのである。

× × ×

宗教の生命とする処は、教義や組織ではなく人間である。その宗教を信ずる人間が如何に生き、更にどの様な人間が生み出されているかと云うことにかゝつていると言える。

現代は人間喪失の時代だと指摘されてより久しい。然し最も重大なことは、真の人間とは何かを、今日誰も示すことが出来ない所にあるのではないか。如何なる時代にも変らぬ聖書の宗教の使信が尚一層力強く証しされて行かねばならぬと思う。

神が真の人間となり給うたことに由つて、人は真の人となることが出来るのである。キリストを信じ、キリストに従う時、眞に「新しい人」の誕生が与えられる。キリスト者は、社会に於て特別な人間なのではなく、神の前に真の人間となることに他ならぬのである。随つて社会に対するキリスト教のメッセージは、人間の尊厳と霊性の自覚にあつたと云える。この信仰がやがて奴隷を解放し、封建制度を打破り、自由と平等の社会建設へのエネルギーとなつたのである。

× × ×

明治のキリスト教の貢献は封建道徳に永く縛られて来た日本の社会に、真の人間の新しい目覚めをもたらせた所にあつた。そこでは教会が形成されて行くと共に、云わば真の人間誕生が与えられ、政治や教育等社会の凡ゆる場に送り出されて行つたのである。

そこに明治期キリスト教の若々しい創造力があつたと云える。教団出版部発行「五人の先生たち」（女性と生活シリーズ）には主として信仰に由る女性教育の為に一粒の麦となつた五人の先輩の信仰と生活が生々と描かれて居るが、これはその現われだと云える

嘗て新島襄先生同志社設立の趣旨を述べて曰く「一国を維持するは決して二三英雄の力に非ず、一国の良心とも云うべき人民の力に拠る。凡そ一国文化の源となる者は決して一朝一夕に生じたる者に非ず。……一年のはかりごとは穀を植え、十年のはかりごとは木を植え、百年のはかりごとは人を植えるにあり」と。人間を作ることは永い祈なしには出来ない。教会は数学的教勢によつてのみその働きを云々する時代は過ぎたことを知るべきである。今日の世界と歴史が要求している真の人間を――英雄崇拝・利己主義・出世主義の再現をしてはならぬ――真実に人を愛し、世界を愛することの出来る新しい人間像を確立し、そう云う人物を此世に送り出す事が教会の重要な使命となるのではなかろうか。

宗教改革の指導者カルヴインは、「神が父にいます者らには、教会がまたその母である」と云つて居る。「云わば教会は神に生きる人間を生み出す母体なのである。」

私は又嘗て心にとめた言を思起す。即ち「教会は、文化を作り出す人間をば生み出すものである。」（原意を正確に伝えるために英文を引用する。（マカイ博士の講演中）Church is the Creator of civilization 教会が直接に文化を創造し、国家を指導することは困難であるし又為すべきではない。教会の根本的使命の一つは、神に生きキリストに従う人間を社会に送り出す所にある。このことによつて社会の死に向つている状況が新しく生命を見出し得ることを祈りつつ今や家庭迄も社会のマス集団化の勢に押流されて行きつゝある時、教会こそ一人の人間を愛し抜き、真の人格を生み出す家であり母でありたい。

その町にとつて教会自身が如何に小さなものに見えようとも、我等は屈することなく、確固たる愛と祈りを持つてこの教会の果すべき使命を全うして行こうではないか。

（倉敷教会牧師）

I用瀬教会伝道計画案—

「恵まれた用瀬教会を訪ねて」

長坂竜太郎

◇　◇　◇

各個教会の伝道計画を、お互いに学ばうではないかどのように牧師が信徒が、がんばつているか知りたいこうした意図のもとにトツプは用瀬教会に登場してもらつた。

◇　◇　◇

美しい「せんだい川」に沿うて「鮎の町用瀬」と駅の真向いの山の岩はだに、くつきりと如何にも印象的に書き出されている。三度目の用瀬教会訪問の時を持つたのは新任の片山義明教師就任式の六月四日の夕刻であつた。一ケ年の休暇で帰米されたエルダー宣教師が近年心血を注がれ、堅実な教会形成がなされて来たが、本年目出度、日本聖書神学校今春卒業の片山師を専任教師として初めて迎え得た創立十一周年の教会である。

就任式が兼牧の智頭伝道所と合同で盛んにもたれたあと、美しく窓も修理された会堂二階の牧師住宅としての広い座敷で片山師夫妻を前に伝道方策を聴く。「君、今何が一番教会にとつて必要ですか」との筆者の質問に「バイクです」と彼は言下に答えたのである。伝道圏の構想を明確にもつて、用瀬町、智頭町を中心に八頭郡西部十ケ所に伝道の触手を本年から伸すのに、どうしても機動力をもたねばならないと言うのである。（此の教会には未だ自転車もない。篤志家の援助を切望したい）。

用瀬町の人口は約二五〇〇であるのに、伝道未開の河原町は一五〇〇。この町を本命に今夏七月中旬より一ケ月神学生の応援を得て、伝道キヤラバンを各地に送つて伝道の足掛りを得たいとの果敢な伝道計画である。彼は岡山県立工業を卒業後、呉の工廠や大阪日商KK山口支店に勤務中山口教会にて受洗、献身して金井師の神学校に学んだだけに今後の新しい宣教活動に見るべきものが大きいと期待が出来る。用瀬教会の現住陪餐会員は男子五名女子廿二名計廿七名、片山教師は伝道圏への果敢な伝道のためには先ず此の少数の会員訓練に力を入れ、一騎当千の基督者にしたい、それがためには先ず月に一回は聖餐式を執行したいと所信を語る。大切な要点である。又教会十一周年を記念して機関誌を創刊、欠席、他行会員との連絡を画し、教会学校を強化、組織化し、美成分校の育成にも中学生の持駒を活して力を入れて行きたいとの話しである。語る彼の目は美しい。態度には落着と信念がみちている。傍には夫君をいたわり助けてゆこうとする美しい夫人が、しとやかにひかえておられる。こんな教師夫妻を東京から迎え得て、帰米されるエルダー師も安心であり、用瀬、智頭の両教会も本当に恵まれていると感じた。

（岡山信愛教会牧師）

聖句随想

「生きているもの」

土井龍也

「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。…神の御子を信じる信仰によつて、生きているのである。」ガラテヤ書二章二〇節

神学生の頃、教会の信者の人から「あなたが特別に感銘を受けられた聖句は…」と訊ねられた事があつた。私はその時この聖句を何時も文語で暗誦して、その信者の方に答えては少々得意になつていた。元を正せばこの聖句は私の出身教会の牧師の大好きな聖句であり、私も高校生の頃、その事を教えられて以来、「牧師が特別に推選している聖句だから、自分の聖句としてどこに出しても恥かしくない」と思つて借用したものであつた。何んでも一時借用したものは借用したもので、仲々自分のものにはなり難い。だから頭の中を特急で走つて、流れて、流暢に口に出て人に自分の知識を誇張するもつぱら対人用宣伝文句であつたようだ。

しかし去年の四月より、久世、勝山に伝道して以来一変した。この聖句が私のものとなり、血となり、私の肉身にしみとおつて来たのだ。「自分の聖書の知識と教養だけでは伝道出来ないキリストが私と一心同体になつてはじめて私は伝道出来るのだ」と一年間の伝道の体験を通して、知つていた事をあらためて骨身に感じて知つたのであつた。だから私が今この聖句を口にする時は以前の私ではないのだ。私の生活の中で生きて動いているものとして口に出しているのだ。パウロがこの言葉を書いた時のそのまゝの心境になつて伝道者の立場としたいと思うのである。

（久世・勝山教会教師）

本を読みましょう

基督教新報

日本基督教団の公式の機関誌。四月から新編集委員会の手により、センスが新しくなつた。今日の教会の問題に即した論説、説教、教団の各委員会の動行、教区紹介、研究的教養的文章、随筆、教会紹介、図書紹介、それに内外の教会ニュースなど、十二頁にわたつてのべられている。牧師のみならず、各教会の役員も、広い視野から教会の事情や問題をつかむために、是非目を通しておられることをすすめたい。某教会では役員全員がとつている。一部十五円（〒共）週刊。（T）

福音と世界

新教出版社発行の月刊雑誌で日本における最高レベルの基督教雑誌。基督教習性の結集といつてよい。毎月特集しているが、例えば、三月はキリスト教的禁欲、四月は世の光キリスト。主題に関する論文、座談会、その他説教、聖書講解、教理解説、小説、時事問題のとらえ方などあり、時には論争の場となつたりして興味をそそることがある。現在四五〇〇部位出ているらしい毎月七〇円。（T）

月刊キリスト

毎号たのしんで読める「キリスト者家庭雑誌」。ニューエイジを改めて現在の題名になつてから数年。毎日新聞社からNCC文書事業部へ編集が移つてからキリスト教的色彩は更に強くなつたが、やはり幅広い内容を持ち続けているのは大きな魅力。伝道説教聖句をめぐる座談会、信仰に生きる人の紹介、キリスト教入門、人生相談室、創作童話そして佐古、椎名の連続執筆もその内容を豊かにしている。特に読者の声を取り入れる努力をなし「読者の生活記録」などは注目してよい。

求道者にも安心してすゝめられる。六月号より六十円になる。

兄弟

久山康氏の詩調高い編集の為か、静かな慰めに満ちた月刊雑誌なり。又関西学院大学神学部教授連による聖書共同研究は味があり、又座談会の多いのも「兄弟」としての交わりを強調し面白い。小型と頁数の割に充実した内容をもつ。四〇頁二五円（〒）

昭和三十六年度 東中国教区定期総会報告

五月二日・三日　於高梁教会

岡山県伝道史上忘れることの出来ない大迫害をうけた高梁教会に於て、五月二日・三日の両日に亘り東中国教区総会は開かれた。

総会に先立ち、明治十七年七月投入された迫害石を記念せる会堂において、井殿園牧師の就任式が厳かに行われ、ついで岡山県信徒会総会が開催された。

総会第一日——午後四時より高塚勝牧師の司会により礼拝がささげられ、鳥取教会永田善治牧師は、「主の愛に迫られて」と題して力強く一同を励まし、新たに伝道の戦線に加えられる片山義明氏（用瀬・智頭両教会担任）の補教師准允式が教区総会議長壺井正夫牧師の司式により執行された。エルダー宣教師の司式により一同主の聖餐にあずかり、世界の主イエス、キリストのめぐみを共々に感謝した。

壺井総会議長、高塚書記、席につき議事に入り、教団教規改正に伴なう教区規則の改正案が審議承認され、教区役員の選挙に入る。議長に壺井正夫牧師三選され、副議長に永田善治牧師が、書記に高塚勝牧師が両選された。

続いて教区規則改正による各部委員の選任につき、特に伝道部委員の選任方法に関して活潑な論議が展開され、自由選挙五名を選出することに決定した。

午後九時、晩禱をささげ、それぞれ、高梁教会信徒宅などに分宿すべく散会した。

総会第二日——午前八時半西中国教区総会より昨夜おそく到着された教団副議長大村勇牧師より「教会の使命」に関しての講演を一同感銘深く拝聴。午前九時三十五分より議事に入り常置委員の選挙が行われ次の通り決定した。

長坂竜太郎、戸田伊助、鎌谷幸一、永倉義雄、田井中純作（以上教職、但し後に永倉氏辞任の為脇本寿氏当選）大橋公夫、新達治（以上信徒）の七名。

引つづき伝道部委員の選挙を行い長坂竜太郎、戸田伊助脇本寿、永倉義雄、鎌谷幸一（但し後に永倉氏辞任のため永田善治氏当選）の五名が選任され、これに教区総会議長及び宣教師が加わつて組織され新たな機構のもとでの伝道が推進されることとなつた。

午後、議事に先立ち、教団を代表して大村勇副議長より挨拶がなされ、特に第二回宣教基本方策協議会開催への意図、教憲改正案の進行状況について説明などがあり、全体教会への自覚を強くされた。

更に議事は続き、伝道計画案並びに財務については活潑な論議が集中され、特に、教区内伝道において、相互応援の強化と人的資源の活用が強く要望された。同時に各個教会の強化、特に教区内の中教会を充実強化させ、現在の壁を破るための長期の努力が払われるべきことが検討された又教区財務の審議にあたり、教団謝恩献金の現状が赤裸々に報告され、「献財精神」について徹底的な反省がなされるべきであることが強く発言された。

建議案として①「祝祭日に関する建議」（提案者、鎌谷幸一）が承認され、広く関係方面に要望されるとともに、教区内に署名運動が展開されることに決定した。②「教職の生活に関する建議」がエルダー宣教師を提案者として提出され、困難な宣教の業にたずさわる同労者を相ともに援けるのにはどうすべきであろうかとの同宣教師の発言は、今更のごとく国境をこえた主にある交りの発露であり、新年度の重要な課題として可決された。

議事のすべてを終り、永田副議長より、主にある一致を保ち、世の果てまでキリストを宣べ伝えようと示されて、午後四時十五分閉会した。

新しい機構のもと、新しい陣容を共々に支え合い、主の御委託に応えるべく、聖霊のみちびきをうけ、先達の迫害を受けし地よりそれぞれの召されしところへと別れをつげた。

とりわけ、全教区内の教師信徒により総会の保たれるようになり、まことに血の通りを味うことが許されたのは感謝であつた。

（書記高塚）

★　★　★



写真は総会議場

教会財政の強化

桑内成郎

頭の痛い事だが教会財政に関しては、免も角役員会が全責任を持たねば成らぬ。戸田先生の資料を眼の前にして、未だに教会財政の殆んどが教師謝儀であり、それすら充分に出せない教会が沢山あるのを見ると誠に申訳ない気持である。せめて第一種の教会は教会々計は維持献金のみで賄い、礼拝献金は他の小教会、伝道所等に捧げたいものである。所がその第一種の教会にして現状維持組が多い状態である。

献金額の増加しない原因の中に、①献金はあく迄自由献金で誰にも指示されるものでないと云う考へ　②献金額は発表しない習慣　③神様は必要なものは与へ給うと云う考へがある。此れ等は一種の通念として教会員を支配し、献金に対するタブーを形成している。

困難であつても此の通念を破る事が役員会のすべき事である。大阪女学院の西村院長の云われる様に、求道者であつても話し合つて教会維持費を出して貰い、同時に会員にも大幅に増額すべき事を訴へたら良いのである。感謝の応答である献金が財布の底に迄届かない限り真実でないと云われた戸田先生の話には恥づかしかつた。

西村院長は金は信仰以前のものだと話された。教会は金がかゝり過ぎると云う事だけで躓く会員はあるまい。金でも買へない、私達が生涯を預ける教会であれば、金で済む所はお互い役員がもつと責任を持つて片附けて行かうではないか。（高梁教会員）

放射能

教会総会で、心配され苦慮されたものの一つは、教職謝儀がメチャクチャに低い事であつた。

昨年の教団の教職謝儀月額平均は九千八百円で、当教区は八千五百円で、関東教区に次いで低いのから二番目である。一番高額と言つても一万二千三百円の大阪教区である教職が保護家庭以下の生活費でくらしをたてているのは奇蹟でなくして、生活費を得る学力を用いているアルバイトによつている。即ち教職は宣教以外の仕事にエネルギーを消耗し、宣教は全くつかれきつた半身不随の状態でやるため、まず敗北に終るのは当然である。

教区で、教職の互助又周囲の慈善的配慮がなされているが、各個教会に於てこそ、教職の生活について、今一度お考えねがいたい。

★　★　★

教会便り

倉敷教会
田井中純作牧師を迎えられて、その就任式を四月三十日に、壺井教区総会議長の司式で挙げられた。

倉敷平和教会
三島康男教師を迎えられて、その就任式を五月二十八日に、壺井教区総会議長の司式で挙げられた。

玉野教会
教会堂新築のため、教会員一同募金に尽力なさっている。

笠岡教会
高杉牧師を京都洛南教会に送つた後、無牧中のところ玉島教会高塚牧師が応援なさつている。

高梁教会
井殿園牧師を迎えられて、その就任式を五月二日に、壺井教区総会議長の司式で挙げられた。なお七月二日戸田牧師を迎えて、役員研修会を開催された。この夏には夏期伝道師を迎えられ若々しい活気ある集会が計画されている。

中国宇治伝道所
所在地を高梁市宇治町一七六〇に変更された。

和気教会
井殿牧師辞任の後、当分三島教師が応援されることになつた。なお三石教会の応援も目下考えられている。

光明園家族教会
播磨醇牧師が主任牧師になられたので、牧師就任式を五月二十一日に、壺井教区総会議長の司式で挙げられた。なおこの式に、岡山教会青年会諸兄姉三十九名が出席し、その式を盛大なものとせられた。

前牧師河野進先生は、名誉牧師として今後も奉仕されることになつた。

鳥取教会
永田善治牧師を迎えられて、その就任式を四月十六日に、壺井教区総会議長の司式で挙げられた。

鳥取信和教会
今回第二種教会となり、柳沢菊代牧師を迎えられて、その第二種教会設立式と、牧師就任式を六月二十五日に、永田教区総会副議長の司式で挙げられた。

鳥取西部伝道所
主任者に有田実教師を迎えられた。

用瀬教会・智頭伝道所
主任者に、本年三月日本聖書神学校卒業の片山義明氏を迎えられ、その就任式を六月四日に永田教区総会副議長の司式で挙げられた。

虫明伝道所
主任者に、原田季夫牧師を迎えられ、その所在地を岡山県邑久郡邑久町虫明一五〇一とされた。

≪個人消息≫

森喜志雄牧師（井原・高屋教会）
今回東京ベテル教会副牧師の招聘を受けられ、六月下旬に就任された。なお六月二十七日に、大阪扇町教会にて、中路牧師の司式のもと、満丸恵子嬢と結婚式を挙げられた。

小寺昌良牧師（日向福島教会）
今回御家庭の都合により、井原市西方町八一八に転住せられ、森牧師の後任として、井原、高屋教会の牧師として招聘を受けられた。

高杉三四子牧師
京都洛南教会牧師として就任せられた同牧師は六月四日に就任式を挙げられた。

荒谷恒喜牧師
群馬県甘楽教会牧師として就任された。

小島勇牧師（福井キリスト教会）
荒谷牧師の後任として、美作落合教会に就任された。

播磨醇牧師
今回教団の内地留学生として六月より半年間、関西学院大学神学部で学ばれることになつた。なお当期間中の住所は、西宮市北口町二〇六

ウイリアム、エルダー宣教師
アイリン、エルダー夫人

鳥取地区で六年に亘つて宣教師として活躍されたが、去る六月下旬帰米された。なおアメリカでの住所は、

William Elder
c/oMrs.W.F.Nix2925 Koepke C Orpus Christi, Texas, U.S.A

各部ニュース

伝道部ニュース

信徒伝道要員紹介表をすでにお送りしましたが、これらの信徒の方をお用ひになる場合教区伝道部（長坂牧師又は脇本牧師）に必ずお申込み下さい。

農伝部ニュース

教区農村教会青年協議会
日時　七月十八日（火）
　　七月十九日（水）
会場　湯原・桃李荘
講師　農村伝道神学校
　　木俣敏先生
主題　「これからの農村と教会青年」
費用　会費三百円（旅費往復三百円を越える分を補助）
申込　七月十五日までに久世教会、土井宛

教育部ニュース

一、各地区教会学校々長会
六月十二日鳥取地区（鳥取）
〃十三日倉敷地区（倉敷）
〃十九日美作地区（津山）
〃二十日岡山地区（信愛）
〃二十日米子地区（米子）

二、野田市朗牧師巡回応援ケンちゃん人形（腹話術）を連れて野田市朗牧師応援は七月三日——七日迄十五教会を巡回される。今回は全要望に応えられず、機会を改めて今後再計画の予定。

四、教育部バス募金については、いずれ教区教育部より目標とお願を申上げます。

◇　◇　◇

その他**社会部**は五月十一日関西学院大学竹内愛二教授を迎え「社会問題ゼミナール」を岡山教会で開催し、竹内教授のカウンセリングのすばらしい講義があつた。**又婦人部**は七月四日天野八重子牧師（教団婦人専問委員）を迎え、信愛教会で岡山地区婦人大会を開催した。**又職域伝道部**も、永田新委員長により新しい活躍が計画されている。

教区書記報告

総会の時に御約束しました報告をします。尚該当してない教会は記載してありません。

昭和35年度教区内教会入会者調

教会名	受洗	転入
頭瀬頭寺	9	3
八用智西	1	1
伯法勝	2	1
漢取生和部子町吉部谷	1	1
新信西錦東	3	2
取取取子吉	1	3
有鳥鳥鳥米倉倉青	1	1
〃〃〃〃〃〃	1	1
屋梁治見社合前族町磐	1	6
宇落駅家	1	1
国園屋	3	6
高高中新総美鴨光茶赤	4	1
城	1	1
山	1	1
津津高玉玉富笠旭児琴	6	5
山町愛心会城敷西和南	18	4
山信聖愛	11	3
山博	27	1
山山山	1	1
敷平	1	1
敷敷	7	1
岡蕃岡岡岡天倉倉倉倉	2	1

編集委員スケッチ

◆田んぼの井戸の中で、純粋に作られたと自己紹介する田井中新委員長。見かけに反しどうしてなかなかソツのない都会的な紳士。そのニコヤカな明るさが紙上に反映されることを期待したい。

◆教区報の実権を握つているのは主筆。実際の苦労を負うのも主筆、ユーモアのあるアツタカイ、タツチで編集する岡本委員。

◆前主筆の怠慢の責を感じて自称副委員長の座に降りた長坂委員。「だけンどね」で始まる重みのある意見と洞察は今後も委員会の中心。

◆教区の戸田から教団の戸田へと誰かが言つた。気になる言葉。教区報の神学的バックボーンは戸田委員がいる限り先ずは安心。

◆多くの責任ある教区の仕事の他に、新しく編集に加わつた高塚委員。その牧会はきわめて着実。フレッシュなセンスが大きな魅力。

◆連日多忙。そのため委員会に遅れることもある。「スミマセン」と長坂前委員長に大きな体を小さくしてあやまる壺井委員。温情ある教区的配慮が教区報を「血の通つた」ものにすることだろう。なくてならぬ人。（井殿）

—編集後記—大変遅くなつたことをおわび申します。又今迄編集の労をとつて下さつた井殿牧師にあつくお礼申します。（O）

東中国

教区報

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1961年11月15日　（隔月発行）



前進する玉島教会

説教

『新しき人生の誕生』

ヨハネによる福音書ヲ三章一節——十五節

岡本加都夫

夜は、自分の事が静かに考えられます。ユダヤ人の指導者ニコデモは、夜イエスを訪ね、新しい人生の生き方について質問をしました。この話より学びましょう。

私達は度々生れ変つたような、言わば新しい誕生と言つた経験をします。それはこの本を読んだためにとか、あの方と出逢つたからとか、又自分に振りかゝつてくる様々な体験を受け取ることによつて起こります。

しかしイエス・キリストに出逢つた事により与えられる程すばらしく且高尚な誕生はありません。このことについて多くの意義がありましょうが、本日は三つの点について学びましょう。

㈠　生きている
㈡　ゆるされている
㈢　死への勝利

◇　◇　◇

㈠　生きている

キリストに出逢つて先づ気になるのは今迄の生活です。自分の生活を再発見致します。じつくり自分の生きている事を考えるようになります。健康な間は、体の事について考えもしませんが、病気になると、健康の有難味が解ります。詩人リルケは「失われていくものは考えさし、当然の事が不思議だ」と申しました。健康と言うものを味わうと、普通のあたり前の事が不思議に感謝され、又平凡に一日一日と終つていく人生が考えさすものです。こうした人生に対する新しい目と、感謝の心はキリストに出逢う事により与えられます。

私は中学生の時、盲、聾、唖の三重苦を一身に背負つたヘレンケラー女史の講演を聞きました。女史は喜びを顔いつぱいにし「神様は私に三つの宝を賜つたことを感謝します」と話しました。講演は盲人の方も、聾の人も、唖の人も多数集つて聞いておられたが、三重苦は神より与えられた宝だと感謝している女史の姿を見て、どんなに力強い支えをおぼえた事でしよう。信仰生活の基礎は「生きている事の感謝」です。神の栄光を証しするように、神の作品として自分が造られたのだと確信出きましたら、人生は大切になつてきます。さて自分の生命が大切に考えられると、自然に他人の生命も大切になつてきます。「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」と言う心もこうした事より生れると思います。まず自分の生きていることをしみじみと味わつて下さい。

㈡　ゆるされている

私の父が三年前高血圧で倒れ、医者は駄目だらうと言いました。病床で、父は廻らない口で一生懸命まわりの人に聞いてました。「私はこれでいいのか。このまゝ死んでもいいのか。私は世の中にめいわくをかけて生きていたのではないでしようか」。年老いて道なお遠しと言う言葉を思おこします。父は四十余年教師生活をなし、側から見た生活は立派で高尚であり多くの人から尊敬されてました。しかし父自身だけはそう思はなかつたのでしよう。キエルケゴールが「道徳生活の終局は絶望だ」と言つてますが本当にそう思います。私は幸せな事は沢山あると思いますが、自分の心が他人に見えない程幸せな事はないとよく思います。一寸した事件に思いがけない事を言つたりして、他の人に心の姿を見られてしまつたと思う事がよくあるのですから、心が全部見えるようになつてはたまりません。しかもこの世では、こうした罪の心をゆるし合う事はありません。

しかしイエス・キリストだけは、こうした罪のまゝの私達を愛し、十字架の恵みにより、ゆるされる資格のない私がゆるされている。病床の父は聖書を読み、イエスにゆるして下さいの祈りをするようになりました。父の顔から苦しみの姿は段々消え去りました。ゆるされてこそ人生は歩けるものです。

㈢　死への勝利

急流に掛つている一本丸太の橋を渡る時、急流をみると恐怖で落ち、たゞ向う岸のみを見て橋を渡る時、恐怖はなく渡れると聞いてます。

人生で一番恐ろしいのは死です。しかし死と言う急流を見ては、恐怖と不安だけです。死の向う岸、即ち死に勝利し給いしイエス・キリストを信じてこそ、死は解決出来ます。

聖書から、同じ人物が、同じ場所で、同じような事件に出逢つて全く違つた人物になつた処を学びましよう。その人物はペテロで、イエスがつかまり、大祭司の中庭に連れられ、裁判にかけられた時、ペテロはこつそりなりゆきを見てました。しかし人々に「あなたはイエスと一緒だつた」と問われて三度も知らないと打ち消しました。（マタイ伝二六章）このペテロが、その日から二ケ月もしない内に同様な大祭司の中庭で役人、長老、律法学者たちに尋問された時、力強く「イエス・キリストの御名による」と告言しました。（使徒行伝四章）この様にペテロを変えてしまつた二ケ月の間に何があつたのか。

イエス・キリストの死への勝利があつたのです。ペテロはこの「復活の主」を確信し驚くべき力強き人物になつたのであります。

◇　◇　◇

以上三つのことを学びました。私達はそれぞれの人生コースで、キリストにより新しい高尚な生き方を与えられますが、いつもこの三つの教えをおぼえ、神の作品としての自分を大切にし、神の栄光の為一生懸命働き、又隣人を愛し、そうした生活の中でも、死からも勝ち給うたイエスが、私達の主であるとの確信をもつて、いつも望みをもつて、力強く生きていただきたいものであります。（倉敷南教会牧師）

『教区デー安問記』

会堂建築を目指す玉野教会

九月十日交換講壇で玉野教会へ赴く。駅頭に平原長老のお出迎えを受けて車で教会の極く近くの旅舘の二階座敷に通される。会堂建築を目前に控えた教会はC・Sの子供達で所狭く聖日の朝は客を通す余地もないとの説明を受ける。此の教会は終戦後間もなく吉野勝栄牧師を迎えるまでの一年間筆者が代務者を兼ねたなつかしい教会であり、平原、秋山、大西、藤丸諸兄姉は其の時以来の旧知で、平原秋山両家には度々泊めて頂いた想出をもつ。此等の方々は戦中、戦後に亘つて、ホーリネス教団へのきびしい弾圧の中に教会を護り貫き、職を奪われ衣食住に事欠くに致つた幾多の教職を擁護した篤信の聖徒たちである。当日の礼拝はこれらの至宝を先頭に五九名の列席者であつた。会衆の中に主任教師丹羽先生の柔和なお顔と文字通り玉をころがす様な益田泉女史の美声が印象的であつた。礼拝も厳粛に守られ、説教の聴き方も上々であつたと言える。教区デーが善用されて聖餐式も執行されたのであつたが、惜むらくは之れが執行方法には今一段の工夫が必要ではないかと考えさせられた。礼拝後、益田女史が美味しく拵えて下さつた午餐を平原夫妻も加えて戴く。まことに楽しい一時をもつて私は玉野教会へ遣わされた事を感謝したのであつた。老錬な丹羽師、働きざかりの関師、全国的に著名なレーマン・プリーチヤー益田女史を有する此の教会はまことに恵まれていると言わざるを得ない。

人口七万の此の市に教会はスエーデン・ミツシヨンのそれと僅かに二つである。一日も早く壮麗な会堂が百年二百年に亘つて悔なき様に建設されて、玉野市民の救霊センターとしての使命を愈々活潑に展開して頂きたいと望んで止まない。先き頃来、療養中の秋山兄が癒されて教会活動の第一線に復帰される日の一日も早からん事を祈るも又切である。

（R・N）

聖句随想

「わが助けは」

小寺昌良

詩篇一二一・一—二

戦争の終り近く、私は陸軍の軍人で南太平洋の小島にいた。上陸して半年ほどたつた時、訪れたある小部落で島民の牧師に会つた。マローというその牧師は既に頭は半白、小学校長をかねていた。彼は数時間しか滞在しない私のために、わざわざ六キロほど先の田んぼから馬をとばして帰つて来ると、小さな祈禱会を開いてくれた。マロー夫妻と若い伝道師兼小学教師と私の四人であつた。

私はまだマレー語が片言ほども話せないでじれつたい限りであつたが、彼等の話から日本軍の進駐が恐ろしかつたこと、土民のキリスト者がスパイ扱いされて苦しんだことなどを理解し得た。私は本当に申訳ないと思いつつ、知つている限りの単語をならべ変えならべかえして、日本軍に代つてお詫びする、赦してほしいという意味をしやべた。私自身伝道者を志しながら軍人となつていることを主の前に申訳ないと思つていること、私たちの力でこの大きな悪の力をどうしようもないこと、など。

みんなは私の知らないさんびかを歌い、マロー牧師が聖書を読みはじめると、そのマレー語だけはすぐ分つた。詩篇一二一篇であつた。その初めの二節は清水のように私の心にしみ通つた。牧師は続けて語つた。人間や地上のことだけを見ていると失望とおそれのみがつきない、しかし私たちは目を上げて主なる神を仰ごうではないか、彼は全能にいまし、彼は私たちを棄て給わないのだから。……牧師のこの言葉もふしぎに私によく理解できた。マレー語はほとんど覚えていないけれども、その時の詩篇ほど印象深く聞いたことはない。「わが助けは、天と地を造られた主から来る」

十万の救霊に燃ゆ米子

山陰の西の要、米子の地には創立五三年をへた米子教会が、その永い伝統と歴史を主に祝福されて立つている。

民家を改造した会堂は、天井が低く、細長で疊じき、おそらくはじめての説教者はよほど発声に留意しないと、頭上通過になりかねない。

しかし半世紀に亘る教会の歩みは、こゝに忠実な信徒を数多くみのらせ、新進気鋭の加藤牧師をたすけて、こゝ数年の間に静かなる飛躍をとげている。

ちなみに教団綜合伝道委員会の作成した宣教百年記念伝道の成果表によれば、日曜礼拝、経常収入、月定献金、礼拝献金ともに十割の増加、現住パイ餐会員五割増加を達成しているのである。

いかに牧師が教会員一人一人への魂への配慮を（これこそが牧会であらうが）ねんごろにし、又どれ程会員一人一人が教会の首なるキリストへの応答に励んでいるかが、この一事を以つても分らうというものである。

教会の体質改善、信徒論、等々多くが最近論ぜられる、しかしそういう論議の中で、狭い殻に閉じこもることをせず、米子十万の救霊のために真剣に祈り、ひとあしひとあしをそれらの戸口に運ぶことの出来ている米子教会は、まことに「めぐまれたものの群」と言えよう。

現在の会堂は必ずしも地の利を得ているとも言へず、狭さも感じられる為、改築などが夢みられている。米子市民の一人一人に「福音を伝えねば」と燃ゆるこの群を、主は必ず祝してこの計画をも実現に至らせたもうことと確信する。

（M・T）

蕃山町教会　問安記

とても、他を批評出来るような自らでないことを承知しているが、編集子が「そんなことわかつている。けれども書け」と云うことなので、筆をとつた。

此の教会で礼拝を守る者は誰しも「静かな教会」と云う感じを抱くであろう。会員の女子学生（大学）の言葉によれば「私達はじみな教会」である。

よく考えることを訓練されている点は此の教会の非常な強みであろうが、その裏を言えば、よく祈る訓練のなされていない教会と云うことになろう。聖霊に満たされた霊的な教会であろうとするよりは、知的であろうとする教会である。此処に、現代教会に共通な長所と短所を見る。

今や、「維持の教会より伝道の教会へ」のモットーを掲げて「伝道の教会である為には？」と考えはじめているが、今後に期待したい。

毎日曜日礼拝後、KKS、有職青年、大学生、一般と四つのグループに別れて標語にそつた懇談協議の時をもつている外、ウイークデーにも様々な集会がもたれている。

毎月の第一日曜には、礼拝聖餐式の後、その月に誕生した人々を祝福して愛餐会がもたれているが、之は会員相互の親睦に役立ち、多忙な牧師の訪問の欠けを補う為にもずい分役立つていると思う。

牧師は会員を愛し、会員は牧師を尊敬し、と云う、カツチリした教会の様に見受けられた。

（K・N）

岡山県信徒会の歩み（上）

水野浩四

最初の岡山県信徒会がいつごろできたかは不明であるが明治四十年頃石井十次先生などが主唱者となり、岡山教会員が中心となつて、二三の教会に呼びかけ、信徒会を結成して伝道活動を開始した。

そうして軍資金として百円を募集したのが始めだろう。

その後大正時代と思われる。旧組合派の教会によつて岡山信徒会をつくり、遠く大阪の信徒大会へも出席したことが、あつたように聞いているが、いづれも規模は小さかつた。

それからしばらく時がたつて、昭和十六年日本基督教団が結成され、中国教区内に、岡山県支部が設置されたころときの岡山県支部長の斉藤庄一牧師のあつせんのもとに、岡山県信徒会が発足した。

その時の理事長は高梁教会の伊吹岩五郎氏であつた。

その頃は、戦争が熾烈で、灯火管制があり、警戒警報も度々あつて、理事会を開催するにも、中々容易のことではなかつた。

現在の岡山県信徒会の設立されるまえ、すでにこのように、約四十年の準備があり、その間に注がれていた、先輩の信仰の遺産は、見えざる力となつて、いまも信徒の中に生きている。その遺業に感謝しつつ、岡山県下のあちらこちらに、天国の種を播き続けているのが、今日の岡山県信徒会なのである。

昭和二十一年日本基督教団が、信徒に呼びかけ、信徒伝道団を組織して、信徒の伝道活動を要望したので、時の東中国教区長布下牧師の肝いりで、鳥取教会でなされた、東中国教区総会の開期中に、日本基督教団東中国教区信徒伝道団として、ココの声をあげた。参加者は二十八名であつた。

岡山県信徒会の前身東中国信徒伝道団の設立は、信徒の自主的伝道意欲が、盛り上つて設立されたものではなく、教区の要望に応えて立ちあがつたものである。

岡山、鳥取の両県の信徒をもつて、組織されてはいるが両県の信徒間の交渉は、従来からほとんどなく、東中国信徒伝道団としての運営はむつかしいので、岡山県だけの信徒大会を開催していた。

その後東中国教区と、西中国教区が合併して、中国教区となつたので、東中国教区は解消した。自然東中国教区信徒伝道団も解消したものとみとめて、昭和二十七年十一月香登教会で、岡山県信徒大会が、開催されたときに、岡山県信徒会と改称した。

日本基督教団東中国教区信徒伝道団を母胎としているから、岡山県信徒会の設立の年月は、東中国教区信徒伝道団の設立された、昭和二十一年十月としている。今年十六年目になる。これが岡山県信徒会の歴史である。その間の信徒会の歩みを回顧して、今日の岡山県信徒会になるまでのいきさつと、神の導きを語ることにする。

岡山県信徒会の前身、東中国教区信徒伝道団は、教区の要望に応えてたち、教区が産婆役となつて誕生したもので信徒会としての主義綱領を具体的に宣言するほどの持ち合せはなかつた。

ただそのころの理事者の肚の中にあつたもの、語りあつたことを、綜合してまとめると次のようなことになる。

㈠ 従来の岡山県内に生れた、信徒会はいづれも短命であつたから、永続する信徒会をつくることに、重点をおき色々のことを考え、いろいろの方法を採用しているとともに、永い歴史をつくる中に神の恩寵の加わることを待望した。

㈡ 派手な大会を開いて、一時に勢力を消耗しては息切れがして、倒れる心配があるので、会を発展させため人為的に、余り技工を弄しないようにして、自然の成長に委ねた。種を播いて、自然の発芽をまくにしても、水注ぐ労作はいる。信徒会に水注ぐ労作とは、ささやかながら年一回の大会を開きつつ、時を稼ぐことで、ここに神の祝福をうけて、今日の岡山県信徒会に成長した。

㈢ 信徒会が弱体化し、また潰れたりする大いなる原因は、人の声が盛んになり、信徒会の中心であるべき、神の言、イエスの福音に遠ざかるような、会の運営をすることである。それを未前に防ぐため、信徒会の筋金として、まづ礼拝を守り、神の言の語られる説教に聴従してから、事を行うように努めてきた。

㈣ 岡山県下の各個教会を強めるには、教会と教会との交りを深めることで、その結果は県下の教勢をあげることになる。教会と教会との交りが深められに従つて、信者間の友情が盛りあがる、これが大切である。それに拍車をかけるために、県下の各地で大会を開催してきて、今までに十カ処におよんでいる。

（次号につづく）

（信徒会顧問、蕃山町教会長老）



本年度
岡山県信徒大会講師
武藤富男先生

（講師紹介）

現職 キリスト新聞社長、教文館社長

略歴

昭和二年 東大法科卒
昭和四年 東京地方裁判所判事
昭和九年 満州国司法部刑事科長
昭和十年 全国務院法制局参事官
昭和十四年 全国務院弘報所長
昭和十八年 日本政府情報局第一部長退官
昭和二十年 賀川豊彦を助けてキリスト新聞を創刊
昭和二十三年 日本基督教団補教師試験合格
昭和二十五年 全日本ラクーア音楽伝道を実施
昭和二十九年＝昭和三十四年 ラクーア特別伝道に協力
昭和三十一年 教文館専務取締役就任
昭和三十四年 教文館社長就任
昭和三十五年 賀川豊彦召天によりキリスト新聞社長に就任

放射能

十月二十三日、全世界の世論に反してソ連は超大型水爆実験を始めた。アメリカも又その用意があると云う。更に再び相手側と同回数迄核実験を行う権利ありと主張する。恐るべき悪循環の終結はいずこへ行くのであろうか。歴史の舞台に建設と破壊を繰返して来た人間は、又もやその何れを選び取ろうとするのか。

◇

十月二十三日より三日間、第二回宣教基本方策協議会が行われた。やがて詳報されようが、教団ははげしい生みの苦しみをして居ると云える。各個の教会も夫々の場所にて、困難の中に様々に苦労して居る。問題は、私共めいめいがその遭された場で、本当にこの苦しみをにない戦つて居るかということだ。凡てはそこにかゝつて居るのではなかろうか。此世に於ける信徒の使命を深く反省する時、信徒大会の意義とその奮起を願つてやまぬ。

（編集後記）信徒大会特集号が大変遅くなりおわび申します

第十六回 岡山県信徒大会お知らせ

日時　昭和三十六年十一月二十三日（祭日・木曜日）
場所　倉敷市旭町　倉敷教会
登録　午前九時——九時五十分
一、開会礼拝（一〇、〇〇——一一、三〇）
　聖餐式執行
　礼拝説教「永遠の家」キリスト新聞社長　武藤富男先生
　聖餐式（司式）東中国教区総会議長　壺井正夫牧師
一、信徒大会議事（一一、三五—一二、一〇）
一、昼食休憩（一二、一〇—后一、〇〇）
一、講演会（后一、〇〇—后二、三〇）
　講演「最も大いなるもの」　武藤富男先生
　合唱　倉敷教会
　電気オルガン独奏　大橋和子
一、立証会（后二、五〇—后三、三〇）
　愛生園曙教会、蔵知毅、久宗壮
一、聖別祈祷会（后三、三〇—后四、〇〇）
　奨励　田井中純作牧師
一、閉会
　何卒当日は多数御出席下さい。

岡山県信徒会
理事長　大橋公夫

按手礼式案内

今般左記の通り按手礼式を執行することになりました岡山県信徒大会の当日につき、何卒、多数御出席下さいまして厳粛にして盛大なる、式典を挙行致し度、この段御案内申上ます。

日本基督教団東中国教区
総会議長　壺井正夫

敬具

記

日時　十一月二十三日（木）午前九時～十時
（岡山県信徒大会は十時より始ります）
式場　倉敷市旭町　於　倉敷教会
受按者
藤岡友幸氏　児島教会主任担任
三島康男氏　倉敷平和教会主任担任
中堀仁四郎氏　倉敷教会担任
尾熊利一氏　倉敷西教会主任担任

教会だより

岡山教会（壺井牧師）
都市計画の実施により、牧師館の移転及び別館・記念室の一部を除去せねばならなくなり、十月二日より着手された。
また壺井牧師御就任満十年を記念し礼拝を十月一日執行され、其後感謝の愛餐会を持たれ同牧師の労を犒われた。なお去る十八号の台風により教会堂屋根が破損したが、修理を完了された。
また各地で好評を博している大学生会伝道キャラバン隊八名は、八月十九日信愛教会を皮切りに、鳥取・用瀬・湖山・浜坂・三尾・香住・日高と山陰方面に子供会の奉仕をして八月二十四日岡山に帰ってこられた。
なお十月二十一日・二十二日の両日高屋・井原・笠岡の諸教会に奉仕をされた。

倉敷南教会（岡本牧師）
教会堂新築計画が進捗中であり、積極的な募金運動に教会員一同励んでおります
教区皆様の御援助を請う・
なお当教会の連絡先は全て倉敷市水島寿町三丁目二九
諸岡　茂方
日本基督教団　倉敷南教会
であります。

笠岡教会
無牧中のところ高塚牧師が応援なさっているが、近日中に後任の牧師が決定されるであらう。

鳥取教会（永田牧師）
十八号台風により、教会の塔及び牧師館・幼稚園に被害を受けられた。なお十一月益田泉女史を迎えて特別伝道を催される由。

倉吉教会（鎌谷牧師）
十一月浪花教会三井久牧師を迎えて特別伝道を催される由。

米子錦町教会（絹田牧師）
今秋長野飯田知久町教会木村八郎牧師を迎え聖会を催される由。

西伯法勝寺教会（同）
同じく木村八郎牧師及び水海道宝町教会伊沢記念男牧師を迎えて特別伝道を催される由。

青谷教会（吉田牧師）
十八号台風により幼稚園舎に被害を受けられた由。

≪個人消息≫

壺井正夫牧師（岡山教会）
岡山教会へ御就任満十年に当り教会は感謝の記念会を開催し、同牧師の労を犒われた。

小川政雄氏（岡山教会長老）
今回多年の念願であつた新居を、岡山市網浜七三六に新築された。

大平昌彦氏（岡山教会執事）
御母堂大平みさを氏を失しなわれ、去る九月二十七日九州警固教会に於て告別式が執行された。

長坂政代氏（長坂牧師夫人）
御健康を損こなわれ、御静養中御快復をお祈りします

竹中みつ氏（倉敷教会長老）
御病気の為岡山博愛会病院に御入院中、御全快をお祈りします。

丹羽かめ牧師（玉野教会）
牧会五十年を感謝し、その記念式を七月二十七日玉野教会で挙げられた。

佐藤重雄牧師（琴浦教会）
御病気御快復になり、去る八月東京・大阪方面に旅行されました。

小寺昌良牧師（高屋・井原教会）
九月三日、その就任式を教区総会議長壺井牧師の司式で執行されました。

徳木武二牧師（新見教会）
御夫人・御令嬢共に御健康を損こなわれました。御全快をお祈りします。

村島宏牧師
去る十月二日東京教区小松川教会にて、江幡京子嬢と御結婚なさいました。新スタートに豊かな神の導きがございますようお祈りします。

藤岡友幸教師（児島教会）
三島康男教師（倉敷平和教会）
中堀仁四郎教師（倉敷教会）
尾熊利一教師（倉敷西教会）
以上四教師は、今秋正教師試験に合格なさいました。
十一月二十三日に倉敷教会で按手礼式を執行されます

鳥取県教師会だより

台風一過さわやかな秋晴れの九月十八日、浜村に参加者十一名をもつて伝道者会を開催。テーブルを囲み「台風はどうでしたか」となごやかに挨拶。十時半定刻を少し遅れて吉田先生司会による開会礼拝。十一時より永田先生司会による読書発表。トウルナイゼン著「牧会学」を三人で分担。その後加藤先生司会で次期伝道者会について協議し、又教会のそれぞれの報告もなされ、閉会の祈祷を以つて終つたのが午后三時であつた。一同充実した喜びに満たされ再会を約し散会。

（K）

教区伝道部ニュース

三次教会草川巌牧師（九月十九日～二十六日）、神戸聖愛教会内藤忠雄牧師（十月三日～十日）、京都洛北教会斉藤文明牧師（十月十二日～二〇日）、教団巡回教師石川四郎牧師（十月三日～二十二日）以上四講師を迎え、各個教会単位の信徒研修会をもたれている。既に集会の終つた教会もありますが、よく御準備下さつて有意義な信徒研修の機会と御利用下さい。なお集会報告（日時・種類・会場・人数及び反響）を書記脇本牧師迄お送り下さい。

財務部ニュース

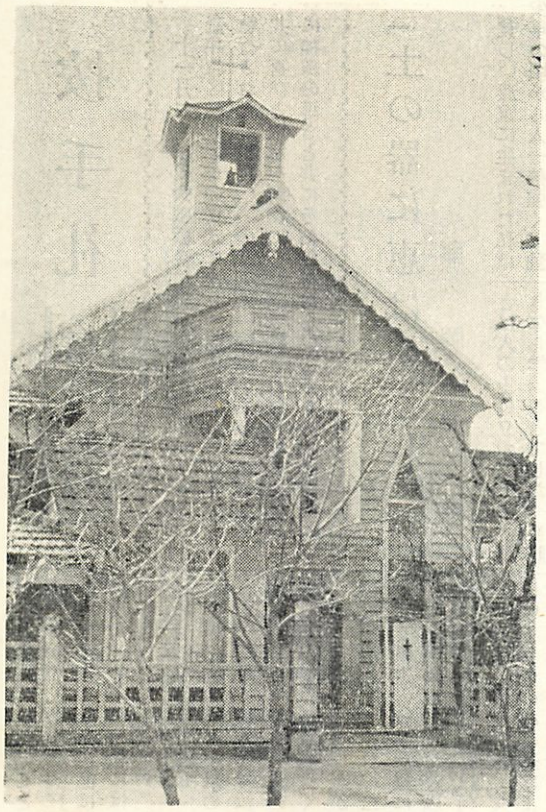
教区会計も下半期に入りました。各種負担金などの納入に御協力を感謝します。近く上半期の納入状況一覧表をお送りします。

教区報

東中国

No.13

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1961年　12月25日



来春、創立八十年を迎える高梁教会

説教

「クリスマスのよき おとづれはあなたの 救いを成就さすために」

更井良夫

日本を知らない外国人がクリスマスの季節に来朝したら日本は基督教国だろうと早合点する如き街や百貨店、商店や各家庭のデコレーションで誤解するに違いない。ラジオもテレビも新聞雑誌迄十二月中下旬はクリスマス一色に塗りつぶされ、ジングルベルのメロデーは街に溢れる。これ程普及したクリスマスのコンマーシャリズムに対して教会は何をこの社会にメッセージとして与へて居るだろうか。日本人の寛大さの故だろうか宗教的無関心のためだろうか例へば歳末はクリスマスを盛大に祝ふと称して騒ぎ、正月には初詣りの神社仏閣参りが賑々しく行はれる。我国民の異教的要素の中にクリスマスの魅力あるアピールは出来ないのだろうか。頭脳で信ずるに非ず、文字で信ずるに非ずペツレヘムの馬小屋は今日あなたがたが体験しないなら、クリスマスの救ひは成就しないし、クリスマスの喜びは讃歌とならないし、隣人は馬鹿騒ぎのクリスマス丈けしか判らない。

敬虔な博士が三つの宝を献げてキリストの前に跪く態度が私共にありますか。心の砕けた謙遜な魂を以て、無学な牧羊者の如く（学者の如くならず）私共の心の「馬小屋」にキリストを迎へませう。このキリストこそがすべての全人類のための救主であり、旧約により約束された最大の予言者、この世を贖ふ最大最後の祭司である証しをしなければ私共は基督者とは申されない。キリストはその体として地上に残された教会の主として、この世を支配されるべき君として降誕されたことを今一度新らたに悟りこの福音を宜べ伝へなければならない。

「彼は私達の罪のための贖の供物である。たゞ私達の罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである」（ヨハネ第一書二・二）との御言葉通り、基督は全人類のための救主であり、あなたの救主ですと隣人に迫つて行ける信仰と勇気が欲しいものです。

毎年クリスマスを迎へる度毎にコリント人への第二の手紙第五章一七―一八を読みたい。この聖句は基督を信ずる者が新しい人となるのみならず、新しくなつた私共を使つて基督は全世界を基督と平和ならしむる、即ち全世界が神のものとなり、救が完成されると云ふことである。私共もその一端に携さわらせて頂ける光栄に浴せられるのであります。教会の使命は福音を伝へ、基督の愛を実践し、信仰者を養ひ、遂ひに全世界を神のもの、基督のものとすることであります。教会は教会のために存在せず、この世の救ひのために存在します。宇宙の中心である基督を讃めたゝへ乍ら歓迎するクリスマスの意義を一般に教へなければならない。

神はそのひとり子を賜わつたほどに、この世を愛して下さつた。この世とは全世界のこと。教会は、基督がこの地上の政治経済社会の凡ゆるものの支配者でいまし給ふことを強く宣言し、基督に反するものは必ず亡びざるを得ないことを明白にすることが教会員の大切な役割であります。基督中心の家庭も、基督中心の産業も、学校も、団体も、基督中心の政治も必ず祝福をうけて成功することによりて証明されなければなりません

受くるよりも与ふるは幸なりの御言葉もこの季節に味はいたいのです。クリスマスには贈物をいたゞける。友人親族家族同志で互に贈物を交換することも勿論よろしい。然しそれ以上に大切なことは、日曜学校讃美歌にある如くに「うたげの座につどうとき、貧しき友わするなよ。餓うる孤児寡婦にまで恵みあれと祈れかし」の心を以てクリスマス祝会の周囲の人々に、特に基督の名に於て贈物の出来る信徒の訓練をこの季節に忘れてはならない。与へるクリスマス。与へる喜びを感謝するクリスマスを教会員に教へなくてはならない。基督の愛の幾分でも真似ること。真似ていると何時とはなしに本物になるし、基督と共になる。「愛ある者は神より生れ、神を知る。神は愛なればなり」愛の神に一致出来るスタートがクリスマスにされるよう心掛けたい。

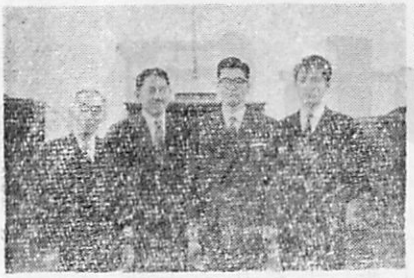
基督の降誕は十字架、復活なしに考へられません。贖罪の基督、これのために私共も救はれる。これが私共の日常生活の中に生かされる筈、そこにクリスマスの真の喜びがあります。私共の心に基督の誕生が体験される必要がある所以です。基督を見失つたクリスマスを祝つてはならない。私共の救を完成さすこの機会を無為に過してはならない。基督の降誕は歴史の完成者として来臨したのです。基督がペテロやマリヤを愛されたがそれが世界大に拡まつてこの東中国教区にも拡大されつつあるこの時期に、降誕された基督の愛が、人類愛としても、平和のためにも、宣教の進軍のためにも私共の身命を捧げることが要求されるのではないだろうか。三人の博士の謙虚な姿に似せて私共も私共の持てる最大最貴のものを捧げて基督の前に脆まづかねばならないのではありますまいか。あなたの救を成就さすために。

（岡山博愛会教会牧師）

按手礼

信仰告白

十一月二十三日倉敷教会に於ける岡山県信徒大会当日壺井教区総会議長の司式に由り四名の教職の按手礼式が執行された。二七〇名の参列者一同深い感銘と祈を以て共に喜びと決意を新たにした。受按された先生方の前途に神様の導きと共にその御健斗をいのるものである。



按手礼を了て決意に
あふれる四名の先生方
＝左より尾熊、藤岡、三島、中堀各教師＝

『土の器に恵はあふれ』

藤岡友幸

貧しい農家に生まれた私は少年の頃から人一倍強く、独立心と頑固さとを持っていました。その心はやがて、一番近道な立身出世を軍隊に夢みたのです。然し日ならず敗戦を知らされた時、一度は失望しました。でも次に考えたことは勿論考えられないことでした。しかし神の手は実に不可能に思えることを可能になさいます。その時の私には実際不可能に思えたのです。夜学校の師二神喜十先生は「先ず神の国と神の義とを求めよ、さらばこれらのものは汝らに加えらるべし」と、人の手からは何一つ保証されなくとも、神の言葉に勝る保証があるだろうかと励まされ、二十六年春それ迄の夜学を昼に切替えて進学致しました。以来六年神学校の間弱い私は何度か「神様もう私を見逃して下さい」とヨナの様に逃げようとしましたが「もう一度やってみなさい」とその度にペテロに網をお打たせになった主は決して私を見離されませんでした。勿論その間多くの良き先輩や恩師の暖かい励ましのあったことは忘れられません。今正教師としての受按に際し、今迄これ程にまでお導き下さった主は必ずやこれからも更に励まし、僕の非力を助けて下さることを信じつゝ「この土の器」にもられたあふるゝばかりの宝を感謝をもつて最後まで守り抜こうと決心するものであります。

（児島教会牧師）

とは人の上に立つために、働き乍ら学ぶことでした。当時一つだけあつた夜間の中学に野心を抱いて入学したのは翌年の春のことです、以来卒業まで六年間私に与えられたものは私の野心とは遠いものだつたのです。神の遠大な御手は既に入学した時から働いていたのでしょう、夜毎学業の前に歌つた「み神と共に進めよ」との讃美歌は、そのまゝ私の道となつたのです、それのみか私の様な傲慢な人間を御言に仕える者にまで押出されたのです。最早自分の思いで止まることの出来ないところへまでした。卒業期が近くなつた時、伝道者となるべく進学を考えました、熱心な仏教徒で、しかも経済的に全く予裕のない家庭、その上病気で長年寝たまゝの父からはキリスト教の牧師になるため学校へやつてもらうと言うことは、とても苦痛であつたのです。友人が召命感の確かさを喜びをもつて語つている中で、これという強い召命の体験もない私は一人取り残された様に感じたものです。この熱くもなく冷たくもない状態は学校を終える迄続いて来た様に思います。

しかし今、この倉敷教会での三年余りの御奉仕の後、私の歩んで来た道をふり返つてみる時、長い時間の間に私が豊かに恵み私の弱さの故に又無力さの故にこそ導いて下さつていることを知るものであります。私はこの御恵みの故に、又これによつてのみ立たしめられることを信じ、それが身に余る光栄と又重大な責任と苦難を伴うものである伝道者の生涯に、全てを捧げて歩み出したいと決意をしているものであります。

（倉敷教会副牧師）

『ただ御恵みにより』

中堀仁四郎

私は伝道者としての生涯の歩みに入らしめられようとするこの時にあたり、まず私の上に働き豊なる御恵みの御手をもつて導き給う神に心より感謝を捧げるものであります。

正教師試験が終つて今日まで、伝道者としての自分と云うことについて真剣に考え、反省をなし、新たなる決意を与えられたことを感謝しております。牧師の任務と云うことを思いみます時、それは光栄に満ちたものであると思います。しかし又それだけに重大であり、多くの困難を伴うことであると思います。既に牧師としての道を歩んでおられる方々の姿を見るにつけそのことを深く考えさせられます。そして自からを省みる時その務めには耐え得ざる自分を見出します。信者の家庭に育ち、高校二年生で受洗、そのままこれと云う変化もなく同志社神学部に学んだ私は、その信仰の危機を既に献身を決意したはずの神学校時代に経験致しました。ある時は自分の欲から又ある時は自分の非力無力の故に何度か反抗し学校を中止しようとした様なものです。人の前に立つて語ることの出来なかつた私には御言を語り伝えて行くということはとても苦痛であつたのです。友人が召命感の確かさを喜びをもつて語つている中で、これという強い召命の体験もない私は一人取り残された様に感じたものです。この熱くもなく冷たくもない状態は学校を終える迄続いて来た様に思います。

しかし今、この倉敷教会での三年余りの御奉仕の後、私の歩んで来た道をふり返つてみる時、長い時間の間に私が豊かに恵み私の弱さの故に又無力さの故にこそ導いて下さつていることを知るものであります。私はこの御恵みの故に、又これによつてのみ立たしめられることを信じ、それが身に余る光栄と又重大な責任と苦難を伴うものである伝道者の生涯に、全てを捧げて歩み出したいと決意をしているものであります。

（倉敷教会副牧師）

『持たされた笞と杖』

尾熊利一

第十六回岡山県信徒大会が倉敷教会に於て開催されます。誠に幸なる此の日を卜し先づ私達の上に正教師按手礼式を厳かに執行戴きますことを心より感謝いたします。

お命じにより私の些な証詞告白をさせて戴きます。私は十七歳の春、福山の日本基督教会にて洗礼を受けました。当時の私の信仰は、人間始祖が犯したこの原罪のことについては、充分に判つて居らずそのまゝ過ごして行きました。二十七歳の夏他人の過ちから私は橋から自転車諸共に墜落し顔面を負傷し、一時無意識でした。二十日間入院し未だ充分癒えぬまゝで退院しましたが、数日の後、チブスに罹病し遂に腸出血にて無意識となり危篤状態に陥りました。然し全能なる神のお憐みにより奇蹟的に四ヶ月の後に全癒を戴きました。顧来私は四十年経過した今日も斯く健康に保たれて居ますことは感謝の極みでございます。斯く死線を越えて私の信仰は聖書を通して神のみ意の深さに徐々に進達しつつあるように感じます。私は創世記第二十二章のアブラハムとイサクに学びたく思います。アブラハムは神のみ声に直ちに従い神より約束によつて賜わりた世継ぎなる独り息子に燔祭の薪を負わせてモリヤの山に登り。イサクは父の命に素直に従い燔祭の壇の上に我が身を横たえた。この父と子の全き服従に習う者とされたく希つています。神様のみ助けにより、この牧者としての職が完うされますように兄姉さまのお祈りを切にお願いいたします。

（倉敷西教会牧師）

三島先生の証言は都合で次号に廻させて頂きます。

（編集部より）

岡山市国富二六一
山崎尚士
（岡山信愛教会）
クリスマスおめでとうございます。
よき新年をお迎え下さい。

クリスマスの祝福を送ります
新しき年に神の恵を祈ります

番町料理教室
河田文子
岡山市四番町二三
（番山町）

倉敷市水島寿町3丁目29
日本基督教団 倉敷南教会
牧師 岡本加都夫
役員一同
平素の御加禱を感謝いたします。会堂建築のために、皆様方の御協力と御援助を何卒よろしくお願い申上げます

岡山日赤病院（番山町）
喜多島慎一
濤江
岡山市門田九八三

岡山教会
牧師 壺井正夫
役員一同
岡山市東中山下102　電②8074

岡山信愛教会牧師
長坂竜太郎
この弱い兄弟のためにもキリストは死なれたのである

「真の義と聖とをそなえた神にかたどつて造られた新しき人を着るべきである」
エペソ四ノ二四
（岡山信愛教会）
江口毅

（岡山信愛）
関幸子
岡山市大供一七三
電③一〇三三
私は歌をもつて神の名をほめたゝえ感謝をもつて神をあがめます。

（岡山信愛）
福島貴美子
岡山市大供五八
電②四八八五
有力な働きの門がわたしのために大きく開かれている

食事・会合に
御利用下さい
禁酒会館
岡山市城下
電②6297
（岡山）

倉敷教会
牧師 田井中純作
副牧師 中堀仁四郎

倉敷教会
林源十郎
詩二三篇

（倉敷教会）
天野宗明
倉敷市酒津
倉敷レイヨン北社宅

倉敷市新川町（倉敷）三九三
大橋公夫
神は愛である。愛のうちにいるものは神におり、神も彼にいます

水野歯科医院
水野浩四
岡山市門田屋敷37
電②3028
（番山町）

船越小児科医院
岡山市七軒町四
船越澄江
TEL③0360
愛には恐れがない、完全な愛は恐れをとり除く　（岡山信愛）

新建材専門店　（岡山信愛）
光田商店
岡山市柳川交又点角
電③6940
信仰の働き、愛の労苦、望みの忍耐

わたしを強くして下さるかたによつて何事でもすることができる（ピリピ書4の13）
岡山市上伊福171　済生会病院前
永沢歯科医院
電③8342
（岡山信愛教会）



衣料の綜合デパート
＝洋装ならなんでも揃う＝
楽しいお買物はセルフサーヴイスで
福屋
（岡山）　岡山市中之町　電②5514

岡山博愛会
更井良夫
美子

（美作）
久宗壮
岡山県久米郡久米町中北上
秋には立体農場の栗拾ひにお越し下さい

岡山YMCA英語学校
岡山YMCA
理事長　更井良夫
理事　同一
主事　鷲見昌太郎
〝これみな一つとならんためなり〟

岡山市厳井三門二丁目五四四（番山町）
同仁医院
遠迫克美
電③三七八二

玉野工務所（岡山信愛）
橋本佐三
岡山市難波町七四
信仰こそあらゆる知識の極致

高梁教会
井殿園
高梁市柿木町二六

高梁教会員
小倉章蔵
高梁市新町一丁目

高梁市松山2050
桑内耳鼻咽喉科医院
桑内成郎
（高梁）

地高梁市柿木町20番
尾島眼科医院
尾島英之
（高梁）

鳥取教会
永田善治
孝子
鳥取市西町一ノ四二五
電三〇四四

倉敷市石見町（倉敷西）
尾熊俊夫
植える者も水をそそぐ者もともにとるにたりない。大事なのは成長させて下さる神のみである。

米子市角盤町4丁目90番地
タクシー株式会社米子営業所バス部
電話代表3131番
営業所長　新達治
（米子）

倉敷市大内（倉敷西）
梶谷佾代

玉島教会
牧師　高塚勝

日本基督教団 東中国教区

総会議長　壺井正夫
副議長　永田善治
書記（兼会計）　高塚勝
常置委員　長坂竜太郎
戸田伊助
鎌谷幸一
田井中純作
脇本寿
大橋公夫
新達治

伝道部

委員長　長坂竜太郎
書記　脇本寿
職域伝道委員長　永田善治
書記　中堀仁四郎
農村伝道委員長　井殿園
書記　土井竜也
婦人伝道委員長　船越澄江
書記　河田文子
青年伝道委員長　戸田伊助
書記　中島幸一郎
教育部　委員長　田井中純作
書記　藤岡友幸
社会部　委員長　更井良夫
書記　古河治

財務部

委員長　大橋公夫
書記　高塚勝
CEC及会堂建築委員長　壺井正夫
書記　高塚勝
会計監査委員長　井殿園
宣教研究委員会　委員長　戸田伊助
書記　中島幸一郎

聖書事典　再版出来

初版は予想外の売ゆきのため長い間御迷惑をおかけしました。
唯今再版発売中であります
この機会にぜひお近くの書店に御注文下さい旧約聖書略解・新約聖書略解と共に長くあなたの聖書研究に役立つものであります。

クロス装　一、七〇〇円
背皮装　二、〇〇〇円

福音書による
パレスチナ絵地図　発売中
教会学校の教材として、家庭での聖書研究に誰にも一目でわかるすばらしい絵地図ができました。〝家に一枚ぜひお備え下さい。
大きさ62.5×88cm七色刷袋入　八〇円

新刊
グリーン・ブックス
聖書の読み方　加藤常昭著　一三〇円
グリーン・ブックス
友情と恋愛　岩浅農也著　一三〇円
関屋綾子
女性と生活シリーズ
母を語る　関屋綾子・斉藤文子・山室民子・佐波薫著　一五〇円
礼拝と音楽と信徒　J・クローキー訳　一二〇円
西邨辰三郎著

日本基督教団出版部
東京都中央区銀座四の二
振替東京　一八八三二九

聖句随想

『キリストの富』

永田善治

「主は富んで居られたのにあなたがたのために貧しくなられた。それはあなたがたが彼の貧しさによって富む者になるためである。」コリント第二・八ノ九

主イエスはまさしく富んで居られた。いや、富むなど、云うはおろか、天地の創造主であり、一切に於て欠けることのない神御自身であつた。その神が人となつてこの世に来られた。これがクリスマスの事件である。

然かも僕の様をして、貧しい極みの姿をもつて来臨され狐や鴉ほどにも宿りと休息の場所を持たず、ひたすらに仕え、多くの人の贖いとして己が生命を与えられた。

それは我々を富ましめるために他ならなかつた。己が腹を神となし、自己を絶対化することによつて神の怒りの下破壊と苦悩と貧しさにある我々の救いのために主は来たりて、貧しくなり、苦しみを受け、十字架にかけられ、我々の贖い、我々の義となられたのである。

炭坑で爆発事故が起ると額に坑内を照らすライトをつけた同労の人達が現場まで降りて行つて救出する。

我々が誤まり、苦しみと嘆きと、ほろびの中に有る時、神の高きに在つてこれを哀くに終始し給うのでなく、人となつて我々の許に降り、我々と等しく凡てに於て試みられ、人にあなどられ、捨てられ、最后には十字架に死に給うた。主は我々の位置に身を置き、我々の受くべきみ怒りを代つて受け給うた。

そのお蔭で我々は赦され富む者にされた。それも尋常一様のことではない。神の子となる力を与えられた。貧しいようであるが多くの人を富ませ、何も持たないようであるが凡ての物を持つ者とされ、独り子と共に、万物を持つことをゆるされる身となつたのである。

「教会に行つて何のお蔭があるか」時々求道の兄弟達にこの様な質問をする人があるという、入信直ちに病気が癒つたり、大金持ちになつたり、効験あらたかというわけには行かないかも知れないがキリストのお蔭で我々はキリストと共に天地万有の相続人とされたのである。

キリストのお蔭で道を示され、真理を悟り、永遠の生命にあづかることをゆるされたのである。

これら凡てが、キリストの富める身が貧しくなつて我々に与えられたものであることを思う時に徒らに受けた恵みと富に安閑として居るわけには行かない。

我々も亦キリストを手本にして、世の貧しさと苦悩の人々の所に身を置いてその悩みに仕え、キリストの富と慰めを頒たねばならないのである。

（鳥取教会牧師）

岡山県信徒会の歩み（中）

水野浩四

⑤　教職と信徒との親しさを加えるため、礼拝説教は、県内の牧師先生にお願いしたとくに岡山県に新しく赴任された牧師に多く依頼した。

⑥　信徒会の伝道に要する費用は、自己負担の手弁当と云うことが、設立当初の合言葉であつた。したがつて教区から信仰指導は受けるが、財的援助はうけないことにした。

岡山県に赴任して、日のまだ浅かつた、T牧師は岡山県信徒大会の内容は真につまらないものであるが、どこに魅力があるのか、不思議に多くの人が集まる。教職としてその集まる理由、あつめられる点を学ぶ必要があると述懐された。

そのわけは簡単である。永い伝統と、ここ十六回の大会ごとに恵みを頂いた経験をもつているからである。その恵みのかず〳〵を、ひとまとめにして語りたいと思つているが、紙数に制限があるので、その中の一つについて申上げることにする。

岡山県信徒会が、設立されてから、岡山市で開催された大会は合計五回ある。第一回目（第二回大会にあたる）の大会は岡山教会において、倉敷教会の東方牧師をお招きして開催した。出席者は僅か三十数名であつた。昭和三十三年十一月の第十三回岡山大会は、四回目で、その大会には四百八十三名が集まつた。

神の国の成長の姿を表現するのに、さかんに数字が用いられて目ざわりになるが、聖書に記載されているから、遠慮なく使つてよい。

パンの奇蹟の恵みを頂いた五千人、四千人、一日三千人の入信者、復活のイエスは五百人以上の兄弟に同時にあらわれ給うた。百二十名ばかりがともに集つたなどそれである。しかしあまり数にのみ拘泥して、天国の発展の姿をその大小に応じて割切つてはその姿を見失う危険がある。

岡山市における四回目の大会に比し、二年後に開かれた五回目の大会の参加者は、その半分の二百四十数名であつた。数において五回目の大会は四回目の大会に比して非常に少なかつた。

しかし大会の内容は素晴らしいものがあつた。

すなわち岡山県信徒大会は唯日本基督教団所属教会の求道者、信徒に限定せず、他の教派の人々にも開放してその参加を求め超教派的大会の色彩をおび、また内容に異彩を放つたのは、長島愛生園癩療養所で癒やされた数名の人を招待したことゝ、そこに至るまでの教区長、山陽学園当局信徒会理事者の愛情に満ちた心使いがあつた。

招待をうけた中の一人Tは小学校のとき発病し長島癩療養所の斗病生活十七年になるが、二百数十名の会衆に向つて、堂々たる証をして深い感銘を与えたのは、彼の苦難の人生の途上でつかんだ信仰とイエスの福音に励まされて得た教養と学問に基くものである。ある人は彼を秀才と呼ぶが、彼を秀才ならしめた力は彼の証したその福音である。

その他この大会での収穫は前回の大会に比し、岡山市内五教会の足並の揃わなかつたことが指摘され、それを反省して再びくり返さないことが誓われ、将来岡山市で開催される大会の運営には新しい構想のもとに行うことが約束された。

神の国の成長の姿を数によつて示されることが、大体の標準ではあるが、もちろん絶対的のものではない。パン種のように見えないなかに、気のつかないところに、大会の後退したと思われるときにも大に成長しつゝある姿を把握して欣快にたえない。

今年開かれた第十六回岡山県信徒倉敷大会にも多くの恵を頂いた。

信仰生活の興味と歓びは毎年〳〵新記録をつくることである。信徒大会の歓びもそうであつて、こゝに人を集める魅力ができる。今年の倉敷大会の恵みとは、ここで四つの新記録がつくられたことである。

一、信徒大会の当日四人の教職の按手礼の式典の挙行されたこと。

二、東京から大会の講師を招聘したのが二回目

三、礼拝の席上献金の新記録

四、信徒大会の席上で聖餐の式典の挙行されたこと。

明年の岡山市における大会にはどんな新しい記録がつくられるか楽しみである。

（以下次号）

（信徒会顧問蕃山町教会長老）

教区開拓伝道のために教区内皆様方の御支援協力をおねがい申上げます。

水島の倉敷南教会会堂建築資金のために

岡山南部の百万都市建設計画の中心地である水島にどうしても教会堂を建築して、活潑な宣教活動をせねばならぬとの願いが南教会はもとより教区にも、みなぎつております。その為に教団は水島に於ける住宅地の最適な場所に会堂用地二百坪を購入し、会堂建築の道を開かれました。既に教会は会堂建築に取掛りましたがその途上資材物価の暴騰、その他の理由により、左記予算の如く是非とも百万円を今後の募金として必要な事態に直面するに至りました。

収入の部
一、自己資金　一三〇万円
一、教団援助金　七〇万円
一、今後の募金額　一〇〇万円
　合計　三〇〇万円

支出の部
一、会堂建築費二七〇万円
一、会堂備品其他三〇万円
　合計　三〇〇万円

岡本牧師を中心として、教会員一同全力を注いで募金に努力しておられますが教区の開拓伝道教会として教区内諸教会の御協力により全国的に重要な地、水島に新会堂建設が与えられる様、御援助を何卒よろしくお願い申上げます。

東中国教区
総会議長　壺井正夫
総会副議長　永田善治
伝道部委員長　長坂竜太郎
協力牧師　田井中純作
倉敷教会牧師

教区宣教基本方策研究協議会予告

去る十月、日本基督教団宣教基本方策決定に伴い当教区に於ても、この大切なる問題につき協議会を開催しみなさまと御一緒に研究致し度、目下準備中です。只今より特にその日を御用意下さい。（詳細後報）

記

日時　昭和三十七年二月八日(木)九日(金)午後一時より午後一時まで一泊二日

場所　岡山市門田屋敷まきび荘

講師　教団伝道委員会委員長品川教会牧師　佐伯倹先生

参加者　①教職　②信徒

費用　旅費・宿泊費・教区負担（委員会推薦）

この会に於て宣教基本方策及び教団の十ケ年伝道案等を研究協議し、教区の伝道方策等を研究致し度いのです。

なお、この会の後に、宣教研究委員会の主催で「原始福音会、（神のまく屋）についての研究発表及び教区で新しく考究している「信仰問答」等についての協議会があります。

東中国教区協議会準備委員会　委員長い壺井正夫

特別依頼

全国的に教職謝儀の問題につき熱心に考究されて居るので当教区に於ても、特別な委員を挙げて目下研究中であり、過日教区当局より書面を以て依頼を申上げたが、各教会に於かれても此点に付き充分な御考慮を煩わしたい。

教会だより

≪個人消息≫

藤岡　友幸牧師
三島　康男牧師
中堀仁四郎牧師
尾熊　利一牧師

以上四牧師は十一月二十三日倉敷教会に於て、壺井総会議長司式により、按手礼を受けられた。

更井良夫牧師（岡山博愛会教会）

十一月三日文化の日に、多年社会福祉事業に貢献された故を以て岡山市より表彰を受けられた。

林　昇氏（天城教会長老）

十二月一日、御夫人阿佐野姉を喪われ、三日天城教会に於て告別式を行われた。

天野宗明氏（倉敷教会役員）

今秋より玉島レイヨン工場長に就任された。

古河治牧師（津山教会）

芦屋浜教会副牧師の招聘を受けられ、去る十一月二十六日津山教会を辞任、同教会に赴かれた。

高塚節子氏（玉島教会牧師夫人）

去る十一月十二日右腕火傷のため目下岡山日赤病院に入院加療中、御全快を祈る

播磨　醇牧師（光明園家族教会）

十一月末日を以て関西学院大学に於ける内地留学を終えられて、同教会に帰られた。

鳥取信和教会（柳沢牧師）

宗教法人格を得るために、目下申請中

倉吉東部教会（村島牧師）

倉吉市上井地区に会堂建築の用地を得られ、その計画進捗中

岡山教会（壺井牧師）

都市計画実施に由る牧師館の移転及会堂の一部改装を完了された。

旭東教会（脇本牧師）

都市計画のため、会堂及牧師館の移転並びに改装を計画中

高梁教会（井殿牧師）

明年四月、創立八十周年の記念行事を計画中、また同教会の八十年史が脱稿され近日出版の運びとなる予定

倉敷南教会（岡本牧師）

十二月十日新会堂建築の定礎式を行われ、牧師宅を倉敷市水島常盤町一丁目三宅進方に移された。

光明園家族教会（播磨牧師）

新会堂献堂三周年の記念として関西学院大学印具教授を迎え、十二月十日特別礼拝を行われた。

成羽伝道所

波多野慶太郎氏宅に於て去る二十五年より伝道所を開設して居られたが、此度都合により廃止された。尚同氏は高梁教会に所属し居られる、

虫明伝道所（原田牧師）

同伝道所の建物購入のため光明園家族教会及長島暁教会の教会員有志が熱心に祈つて居られる。

倉敷市内教会連合だより

本年度信徒大会には市内教会連合にて準備と奉仕に当り、恵まれた盛会で感謝であつた。恒例の如く新年連合集会を行うことゝなり十二月七日市内教師協議会にて次の如く決定した。

新年連合礼拝
一月七日(日)午前十時十五分より（於　倉敷教会）
当日の司会中堀副牧師。説教田井中牧師。聖書及祈禱岡本牧師。聖餐式司式尾熊牧師三島牧師。祝禱山村牧師。当日の礼拝献金は南教会々堂建築のためにさゝげる。

新年連合年頭祈禱会
一月九日(火)后七時（於天城教会）（証言）西教会（奨励）山村牧師一月十日(水)同（於西教会）（証言）平和教会（奨励）尾熊牧師一月十一日(木)同（於南教会）（証言）倉敷教会（奨励）岡本牧師

教区伝道部ニュース

一、鳥取県教会連合
「訪問伝道講習会」が一月十五日(月)米子教会に於て行われる。
講師は中路鳴雄牧師の予定
一、冬季の教会内部充実と研修のため、教区巡回教師を大いに御活用下さい。
（申込は伝道部委員長、長坂牧師迄）
一、さきに紹介しました信徒伝道要員の働きを大いに御活用下さい。（申込同右）
要員は左の方々です。
那須　衛一氏（岡山教会）
蔵知　毅氏（　同　）
水野　浩四氏（蕃山町教会）
江口　毅氏（岡山信愛教会）
山崎　尚士氏（　同　）
大橋　公夫氏（倉敷教会）
天野　宗明氏（　同　）
栗原　正氏（旭東教会）
大島　捷六氏（児島教会）
波戸　一郎氏（琴浦教会）
小倉　章蔵氏（高梁教会）
桑内　成郎氏（　同　）
政田　二郎氏（鳥取教会）
新　達治氏（米子教会）
長谷川英雄氏（　同　）
益田　泉氏（玉野教会）〔特別〕

財務部ニュース

十二月十日現在各種負担金納入状況一覧表をお手許に届けました。未納分について何卒よろしくお願い申上げます

教育部ニュース

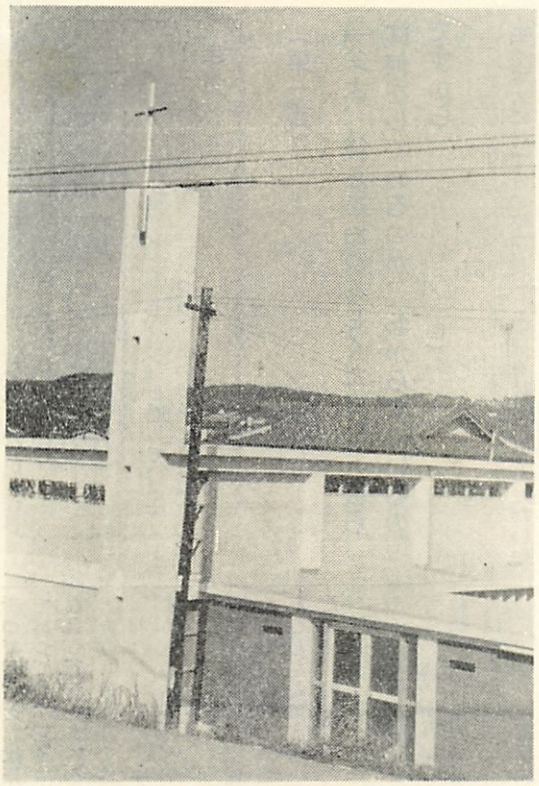
来冬、地区別教会学校教師研修会のため講師派遣が決定。
山陽、山陰何れか地区開催予定　小池文雄牧師（甲南教会）
二月十七日(土)——十九日(月)
樋口和彦先生（同志社神学部）
二月二十四日(土)——二十六日(月)

編集後記

クリスマスおめでとう存じます。十三号は賑やかになりました。教区内諸教会の生きた交わりのために「東中国」が活用される様、願つて居ます。取材に出向く余裕がありませんので、各教会のニュースなど、どしどしお送り下さい。

（次号発行三月の予定）

教区報
東中国
No. 14
発行所　岡山市東中山下102 岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1962年4月10日



岡山博愛会は1891年(明治24年)アメリカンボールド宣教師アダムス女史によつて創立され六年前女史を記念してこの会堂が献げられた。名付けてアダムス記念教会堂

イースター説教

『世の果てまで』

高塚　勝

イースターの朝は、私共キリストの教会に連らなる者にとつて、もつともよろこばしい朝であります。

「神、人となりたまえり」というあのクリスマスの朝以上に、よろこばしい朝がイースターの朝です。

なぜかといえば、「神、人となりたまえり」ということをもつとも具体的に知ることが出来た朝こそイースターの朝なのですから。

キリスト教の全体は、「キリストは死人の中からよみがえつたのである」（第一コリント一五・二〇）という事実に基づきます。使徒パウロが今朝も又、私共に語るように「もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、わたしたちの信仰もまたむなしく、わたしたちはいまもなお罪の中にいることになるのです」

まことに復活節の朝こそ、イエスが神の子であることの疑う余地もなく証明された朝なのです。イースターの朝こそ、「死者と生者との主」なるキリストが顕わにせられた朝なのです。この朝こそ、死と墓に勝ちたもうたキリストの勝利が、私たちを「新たに生れさせて生きる望みをいだかせてくれるのであります」

マタイによる福音書には、マグダラのマリヤとほかのマリヤに向つて御使が「あなたがたが十字架におかかりになつたイエスを捜していることは、わたしにわかつているがもうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらんなさい。そして急いで行つて、弟子たちにこう伝えなさい。「イエスは死人の中からよみがえられた。……女たちは恐れながらも大喜びで急いで……走つて行つた。さらに復活のイエス御自身が彼らに現われて「行つて兄弟たちに、ガリラヤに行け……」と告げていられます。

よろこびの朝、それは暗い涙の谷、苦悩の十字架のあとに訪れた復活の日の朝、弟子たちに、女たちに、もとめられたのは、イエスが死人の中からよみがえられたことを「行つてのべつたえる」ということでありました。この朝なすように求められているのは実に「よみがえりたもうた」「方」への奉仕であり、その「方」への服従であります。

それは「地の果てまで」「世の終りまで」この地上のあらゆる人々の最後の一人にまで「よみがえりたもうた方」をのべつたえるということへの奉仕であり、この世のすべての者が「よみがえりたまえる方」へ服従するようにとの奉仕であります。

ヨハネ福音書は、復活の主とペテロとの出会いを「何か食べるものがあるか」との問いかけをもつてはじめています。そうして彼らの答は「ありません」という答であつたと述べています。

まことに「よみがえりの主」が伝えられる時、そこで人は己れ自らの立つている現状を検討させられるのであります。生活をささえ、ゆたかに養つてくれると考えて、ひたすらに追求していたものが、全く無価値であることをそこで私共は知るのであります。

多くのものを持つていたはずの私共が、実は何一つとして決定的に己れを養い育て得ないことに目覚めさせられるのであります。

よみがえりの主はペテロに「舟の右の方へ網をおろしてみなさい」と教え、彼らはその言葉に従つて大いなるよろこびにふれることが出来ました。

よみがえりの主こそ、私共にまことの生き方を指向して下さる方であります。この方こそまことに、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるためによみがえらされた方なのです。この方を通して私たちは、充実した、生きがいのある人生へとかえられて行くのです。

よみがえりの主との出会いこそ、私共に正しい反省と悔改と更新と新しい出発とをもたらしてくれるのです。

このよろこびの音信の伝えられる朝、私共は肉親に親しい友に、決して誰れにも取りのぞかれることのない人生への勝利の力を告げなければなりません。

「イエス、キリストは、きのうもきようも、いつまでも変ることがない」「みよ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」

このお約束を、このお約束を語りたもう方によつて活かされているものが、世の果てまでものべつたえて行くことにより、この方への奉仕と服従に活きなければならないのであります。

のべつたえるものがないならば、救われるものはありません。活かされるよろこびに溢れる私たちこそが、この責任を負い行く一人一人なのではありませんか。

（玉島教会牧師）

願わくは、われらの主イエスキリストが、その手とわざとをあなたに示し、愛をもつてあなたの心に喜びを与えられるように。

願わくは、主にのみ喜びを見出すまであなたが主のみを見、主のみに聞くようように。

アーメン　（ルターの祈）

受難週の聖想

受難週の七日間、十字架上の七言を通して、主イエスのお心を深く学びつつ、主の歩みに従って生きたいと思う。

（第一言）

「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのですから」（ルカ二三ノ三四）

河野進

主イエスに対する、祭司長はじめ群衆の非道な仕打ちに神の怒りを痛感したのは、イエスだけであった神に近くいる者ほど、神のみ心に敏感であり、そして誰も知らない人の心を知る「イエスは初めから、だれが信じないか、まただれが彼を裏切るかを知っておられたのである。」（ヨハネ六ノ六四）予言者は誰もきくことのできない神の言葉をさいて、人々に伝えた。

誰も知り得ない人と国の運命を警告した。「君子は世の憂いに先きだつて憂う」という東洋思想との間に、根本的なへだたりがある。

イエスのこの祈りは神の側からと、人の側からの祈りであり、わたしたちの祈りと本質的にちがっているだからステパノが石で打ちかかる迫害者のために、「主よ、どうぞこの罪を彼らに負わせないで下さい。」（行伝七ノ六〇）と祈つても、それは崇高な懇願であつても、主イエスのような自ら罪を犯さざる神の子のとりなしの祈りではない。

わたしたちは十字架を以てする主イエスのとりなしの祈りによつてのみ、罪ゆるされ神の子として、永遠の命をあたえられる、いや私たちは祈ることさえ知らないのに、みたまは、絶えず私たちのためにとりなしていて下さるのである。その意味で主イエスの十字架上の祈りは、今日もなお続けられていることを忘れてはならない。

（富田教会牧師）

（第二言）

「よく言つておくが、あなたはきよう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。」（ルカ・二三の四三）

加藤俊行

ひどい雪降りの日、お昼から婦人会があるので準備をしていると、玄関が開いた。

来意を伺つて一寸戸惑つたが、直ぐ刑務所の護送車に乗り込んだ。一瞬戦時の弾圧投獄時代の父を思い出した。やがて車は街を通り抜けて目指す刑務所に着いた。

所長より、我子二人を絞殺し自殺未遂に終つた若い母親の教導を依頼された。何でも再び自殺する恐れがあるらしい。別室で小さい火鉢をつに一見平凡なヤセギスの女と対座して一時間程語つた。

幼き頃は、CSに通つたのだが長じて離れて了つたそうだ。続いて信仰を持つていたらこうはならずにすんだろうと共に悔いたが、も早詮なきこと。

「こんな大罪を犯した私が今更神に救つて頂くことは卑怯だと思います。」

彼女は伏眼勝ちに同じことを言つては黙つた。

「然うです。あなたの言う通りですよ。あなたは神に救つて頂く資格はありませんよ。あなたの罪は正しく審かれねばならないのは当然です。」

「然し又どうか次のことを良く考えてみて下さい。

神はそのあなたを救い度いのです。主イエス様は十字架上で何と祈られましたか。その傍らの犯罪人をどうされましたか。明日と言わず遠き将来と言わず今日わたしと一緒にパラダイスにいるであろうと言われたでありませんか。

主の十字架の犠牲の恵みを空しくしてはなりません。お互に愛と真実が通わないことは苦しいことですね。神の折角の御好意を拒むことは却つて御心を痛めまつるのですよ。」

「あなたも主に一切を告げて赦され新しく主と共に生きなさい。辛いことも主に慰さめられて、一日々々と感謝して生きて下さい。……。」

「ハイ。わかりました。」私は再び車中の人となり帰つた益々雪はひどくなつたが祈り心は静かに燃えた。「あなたは今日」と言われる主の恩寵が豊かに臨むようにと。

（米子教会牧師）

（第三言）

「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。」「ごらんなさい。これはあなたの母です。」（ヨハネ十九ノ二六―二七）

尾熊芳子

十字架上の主イエスは苦痛のきわみの中で、母マリヤをかえりみて、愛弟子ヨハネにマリヤを託して「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。」又ヨハネに「これは、あなたの母です」と親子の関係を結ばれました。主イエスのこの聖言の中に深い神の御配慮を思います。キリスト教は愛の宗教であるといわれますが、それは私達が神の愛を受けて交りを与えられることによつて、信徒相互の間に交わされる兄弟愛の事実であります。霊的家族として交ることが出来るとは何と幸いでありましよう。キリスト教の告別式に列席された人から「真実で心が通つている」とよく云われますが、心が通い合うということは、キリストにある交りの中から自然ににじみ出るものでありましよう。人間生来の情愛は自己本位の気まぐれで、しばしば分裂状態におちいります。私達の周囲に破れゆがめられた人間関係に苦しむ人々の、いかに多いことでしう。全人類が真の愛と平和を渇望してやまないのに、人類の歴史は戦争を繰返し、国は国に、民は民に敵対し分かれ争つています。真の交りを失つた人間の悲劇は、人の力で終らせることは出来ませんそれは唯一人一人が神の前に立ち、十字架によつて結び合せられることによつてのみ人間の失つた真の交りを回復することが出来るのですかつて一人の女がイエスの母マリヤを羨やましく思つて、「あなたを宿した胎、あなたの吸われた乳房はなんと恵まれていることでしよう」と思わず叫びました時、主イエスは「いや、恵まれているのはむしろ神の言を聞いてそれを守る人達である」と地上の関係にまさる天的関係の幸いを教えられました。ヨハネは主イエスの言に従つてマリヤを自分の家に引きとり深い交りを続けました。そして主イエスの御生前には無理解であつた主の兄弟も信仰の交りに加えられました。私達も神の家族が加えられるよう、神の秩序の回復を祈りましよう。

（総社教会牧師）

のお言葉を、口ずさみながらどれほど多くの人が、み国に召されたことでしよう！

私は今日まで、主にあつて死んだ多くの人々を見ましたが、全く一つの例外もなく、安らかで美しい顔をしておられました。私の今の最大の願いは、生きている間、霊をみ手にゆだねて日々を過すことはもちろんですが、死に直面した時、これら信仰の先輩と同じく十字架上のイエス様のみ言葉、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」と言つて召されたいことです。やがて必ず経験する死が、よき信仰のあかしになりますようにと、祈つているのです。

（天城教会牧師）

（第四言）
「エロイ・エロイ、ラマ・サバクタニ」

（マルコ・一五の三四）

原田季夫

聖書に記された人類世界に書き留められた一言一言珠玉の輝きを持つ十字架上の七言の中、これはまた何という悲痛な叫びであろう、血の汗したたるゲツセマネの祈りに於てはなお「アバ父」の親しき信頼の呼び名を以て、上よりの御顔の光を仰ぎ得たもうた主は、ここには全地をおおう正午より午後三時に及んだ闇黒のさ中、天父より愛の慈顔をそむけられ、「わが神わが神どうしてわたしをお見捨てになつたのですか」と心腸よりほとばしり出る叫びを発し給うたのである。

私は満四年前虫明の地に移り住んで長島の病者伝道に従事する様になつたが、「兄弟たちの為だから許して呉れ」という言葉の下に産みの親から文通だに断つことを余儀なくされた人の告白を、親しく本人より聞かされた。親が子を捨てるという事ほど世の中に悲痛なことは又とないであろうしかしそこには「たとえ父母がわたしを捨てても、主がわたしを迎えられるであろう」（詩二七ノ一〇）という慰めが残されている。

神に見捨てられることの怖ろしさを罪ある人間は知らずただ聖き神の独り子のみ堪えがたき悲しみを以てその真実の意義を感得し、身の毛のよだつ戦慄を以て地獄の亡びに対局し給うたのである。

使徒信条の「十字架につけられ陰府に下り」という言葉は、陰府がルカ福音書一六章のラザロの譬話に於て、もはや越えわたり得ぬ深い淵によつて遮断せられた姿にえがかれている事に思いくらべて一入の意味を覚える。「この門をくぐる者は一切の望みを捨てよ」と言われた地獄の子らを救うべく、主は罪の呪いを身に負い、神に見捨てられ陰府にまで下り行き給うたのである。

「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」神の独り子の絶望の叫びにより、人間の絶望は医やされるのである。

（虫明伝道所牧師）

（第五言）
「わたしは、かわく」

（ヨハネ一九の二八）

片山義明

このみ言を耳にするたびに思いは七年前にさかのぼる。当時、わたしは肺切除の身を郷里にかこつていたのであるが、三年にわたる療養生活のために、職業は勿論のこと、何もかもすつかり失つてしまつていたそれでも受洗していたので集会には、自転車四十分の距離も厭わず出席していたが、心の中は生の絶望感に荒涼として渇ききつて、切角講壇から語られるみ言も抽象的な気休めの言位にしか聞くことができなかつた。生活は切実であつた「死にゆく者は渇く」といわれるが、こうしたどん底の生活が次第に霊性をむしばみ、ついには、イエスを見失うまでに至つて行つたことはいうまでもない。

にも、かかわらず、主は、わたしを見失われなかつた。

幾多の辛酸はあつたが、主のおん愛に奇蹟的に立直つたわたしは、みちびかれて、今や、一人の伝道者として、み言に切に生くる者として、この世に立たされている。神のみ名は奇しくして、ほむべきかな！というより外、ことばを知らない。こうした体験もあつてか、わたしには、主イエスの十字架上の「わたしはかわく」との肉体をもつ者としてのひそかなるみ言は決して他人事とは思えないわたしのかわきは人の子イエスのそれであり、ひるがえつては、神の子イエスのわたしへのかわき即ち悔改への招きとなつて迫つてくるのである。ここに神のかたちをとらず、あえて僕のかたちをとり給いし罪を贖う者のみ姿がみられる。

主は、今日も脇のみ傷を示されて、わたしたちの家庭の中に、生活の中に訪い給い「わたしは、かわく」とのたもう。

（用瀬教会牧師）

（第六言）
「すべてが終つた」

（ヨハネ・一九の三〇）

小島勇

今考えると汗顔の至りであるが、私は学生時代牧師夫人に適する人を探した。

そしてある人と一年近く交際し、かなり親しくなつてから結婚について語り合つたが、彼女は牧師夫人には絶対にならないと断言したその夜は眠れなかつた。これからどんなに親しくなつても私の意図に反する結果になるのであれば深く心が傷つけられないうちに断念しようと思い翌日手紙を書いた。失恋という感情ではなかつたが、別離の悲哀というべき寂しさは拭いきれなかつた。ポストに投函した後で「すべてが終つた」という感じを初めて経験した。主イエスがこの世に来たり給うたのは、父なる神の深い御意志によるものであり私たちはそのことを聖書を通して深く理解するのである。人間は神の意志に反逆し、罪の中に、死に至る道を歩んでいるが罪の支配から脱出する事を望んだとしても、私たちの自力ではどうする事も出来ない主イエスは、罪の奴隷である人間を死から解放し、永遠の生命に入らしめるためにどうしてもなねさばならない手続きを実現する必要から、この世に来られたのである。主イエスの地上での生活はこの目的を実現するために準備されたものであつた。私たちの想像を絶する十字架上の苦しみも、主イエスには絶対に避けられない出来事であつた。

私の「すべてが終つた」という言葉の内容はセンチメンタルな響きをもち、それ故に時が経てば蒸発してしまう軽さしかない。しかし主イエスの「すべてが終つた」という、言葉には一大決戦で勝利した英雄のたくましい「勝利の宣言」に似た力強さがあり時が経つにしたがつてますます重さが加わりいくように思われるこの世に生活する誰にも成し遂げられない唯一の出来事を血みどろになつて達成した者の無限の安らかさが主イエスの厳しくな姿の中に感じられるのは私だけであろうか？そうでないように思う。

（美作落合教会牧師）

（第七言）
「父よわたしの霊をみ手にゆだねます」

（ルカ・二三の四六）

山村好美

イエス様は、十字架の上から、声高く「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」こう言つてついに息を引きとられた。或る時、イエス様は、弟子たちと共に小舟に乗つて、湖を渡つておられると、激しい暴風が起つて、舟は波にのまれそうになつた。ところがイエス様はぐつすり眠つておられた。そこで弟子たちはそばに寄つてきてイエス様を起し、「主よ、お助けください わたしたちは死にそうです」と言つた。イエス様は、その霊を常に父なる神のみ手にゆだねておられたので、どんな場合にも心安らかに、お眠りになることができになりました。十字架の刑は、たいへんむごたらしい死刑の方法です。人は十字架にかけられると、何時間かの後、悶絶するのだそうです。イエス様はそのお苦しみの中にあつても絶対の愛にまします父なる神のなさることは、最善であると信じてお従いになり「わたしの霊をみ手にゆだねます。」と言つてついに息を引きとられました。

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます、イエス様のこ

（以下2頁最下段に続く）

岡山県信徒会の歩み（下）

水野浩四

信徒会設立以来十六年間に将来それをより大なるものにするに必要なる、色々の経験と信仰の鍛練に基いた自信をつけられている。

友情

昭和二十九年十一月、瀬戸町の赤磐教会において、第九回岡山県信徒大会が開催された。

岡山県における最も小さな教会の一つである教会でなされたことには、ある事情があつて、H理事はそれは冒険であると語り、N牧師はそこでの大会の開催に不安をもたれた。

当日地元教会員の出席者は僅か十二名であつたが、全県下からそこに押し寄せた信徒はその十倍の百二十名で、合計百三十二名と空前の盛会となつた。これは岡山県の信徒の交りの深さの端的に表われたものであつて、それ以来友情は年毎に深さをましているその上今では岡山県信徒大会には、日本キリスト教団所属教会員以外の他の教派の信徒との親しみを志し、協力と参加を求めている有様で、これからの出席者の増加が期待されている。

講師を県外に求める

昭和三十一年高屋教会の大会以来講師を県外から招へいしている。ここに重大な意義のあることは、そのために多額の経費を要するが、それを喜んで負担して、神の言を聞く熱心な態度になつたこととそれによつて大会の雰囲気を真剣なものにした。

本年の大会の講師として、東京から招へいすることに、去る三月二十一日の信徒会の総会で決定し、謝礼と旅費（汽車一等）を合わせて二万円の予算が計上された。遠来の講師をねぎらう志の向上したのは、微笑ましいことである

数

信徒会の設立総会（第一回大会）と、第二回岡山教会における大会の出席者は、何れも三十名内外であつたものが昭和三十二年十一月第十二回の旭東教会の大会には二百四十三名で、教会堂は立錐の余地のないほどの盛会となつたここで自信をつけられて、翌年岡山で開催される大会には五百名を目標にして準備を整え、ついに四百八拾名を得てほぼその目的を達した。このことによつて、将来岡山県信徒大会に千名を集めることは夢でないことの確信を把握するようになつた。

財力

信徒会の会計は、最初の頃は一年二百円に足らなかつたものが、赤磐教会の大会の礼拝の席上献金の中に、千円札が三枚あつた。そうして年毎に財力が成長して、今年は八万円以上の予算を立てている

また岡山県の信徒の献金意欲もそう低調のものとは思えない。K氏は生命保険の受取人を所属の教会にしている。あるものは所属教会の会堂建築献金に、四十万円近くを集めている。また岡山県におけるギデオン会員は十九名でこれらの人々のギデオン会の本部に納める献金は毎年十万円以上である。

これらの献金の実績を眺めると、岡山県信徒会の会計が一年三十万円、五十万円になるにはそう長くはかかるまい五十万円の財力をもつて一年一回の岡山県信徒大会に、一千人を集めるのは難事ではない。クルセードの岡山版作製の野心位はあつてもよい時代である。大会を盛りあげる工作として、前夜に宗教音楽の集いをもつのは好ましい。この種の大会が日本の各県にもたれるようになると、日本の伝道は一大飛躍をする。

将来

理想としては、全国都道各府県に、凡ての教派の信徒をもつて組織された信徒会ができて、足なみをそろえて、伝道戦線に駒を進めることであるが、まだその時機がじゆくしていない。

岡山県信徒会には、二三年前からその気運が動いている日本基督教団岡山県信徒会から脱皮して、各教派の信徒をもつて運営される岡山県信徒会の設立を目指して進むところに岡山県信徒会の将来への希望がもてる。

（岡山県信徒会顧問、蕃山町教会長老）

第四回岡山県信徒総会を顧みて

大橋公夫

三月廿一日玉島教会で第四回信徒総会を開催代議員及び陪席者三十数人集まり井殿牧師から教会の構成と其働きにつき「調和した全体」の説教でエペソ四一四―一六を引用され感銘を受ける礼拝を守り続いて総会に移り田井中牧師より今後に於ける信徒の奉仕の在方につき現実的に発動すべき時期に到達したとの適切なる御奨励を頂き一同反省の時を持ち、三十六年度決算、三十七年度予算案の承認を得て総会を終り玉島教会会員の心からなる御接待で和やかな昼食の交はりの内に話に花が咲き丹波兄の作州地区に於ける信徒の楽しい交わりの話から年一度牧師先生御夫妻を御招待申上げて共に懇談の時を持つ様に計画を立てる事に話が発展し思わぬ企画が飛出した楽しい交わりの時を持つ事が出来たのは望外の喜びでありました。

午後は水野、桑内、大島、栗原諸兄の発題により各々歴代教会牧師論、教会会計、伝道圏、教会の礼拝について周到に準備された論旨と之に対する活潑な討議がなされ、又之に対して壺井教区長より適切な御説明がなされ各々に持つている疑問が解明された事は感謝でありました。其中で特に禁酒禁煙と信徒の立場について活潑な意見がたたかわされ緊張の内に壺井先生の個人的御意見の開陳即教職は絶対禁酒禁煙であるべきで信徒に対しては之を指導して禁酒禁煙に迄導く事が必要であるとの見解が述べられ一つの解決が与えられた事は有益でありました。又礼拝の問題については現在の礼拝の不振は㈠教会観が明確でないこと。㈡礼拝、祈禱会を尊重する観念がうすい事、特に教会の交わりが欠けている為に教会内で話合い解決すべき問題を教会外の人達に相談解決を求める気風のある事は悲しむべき事でありこの様な問題について互は積極的に悔改め反省してお行く態度が此の際是非共必要であるとの論旨には全く同感でありました。

此の総会で今迄になかつた真剣な問題の討論がなされた事は感謝であり今後此様な集会にもつと多くの人達が集つて互に意見を交換し交わりを深

岡山県信徒会会計報告　昭和36年度決算

収入の部		支出の部	総会分	大会分	その他
総会席上献金	3290				
大会席上献金	22780	講師謝礼		10442	
有志献金	22300	接待費		3928	研修会
水野さんより	2000	会場費		4695	5000
繰越	19275	教職者旅費		4110	
		通信費	925	1725	会報代
計	69645	印刷費	800	4770	6000
		会議費	850	2040	
37年度へ繰越	24360	計	2575	31710	11000
				総計	45285

昭和37年度予算案

（収入の部）		（支出の部）	総会分	大会分	その他
総会席上献金	3000	講師謝礼	1500	20,000	
大会席上献金	30000	接待費	1000	5000	研修会
大会有志献金	25000	会場費	3000	13,000	5000
繰越	24360	教職者旅費	1500	5000	
		通信費	1000	2000	会報代
計	82360	印刷費	1000	8000	6000
		会議費	1000	3000	予備費5,360
信徒会会計	桑内成郎	小計	10,000	56,000	16,360
		総計		82,360	

教区各部の歩み

年度末を迎え、教区各部一ケ年の歩みの反省と展望をごく短かく記して頂いた。詳しくは教区総会に報告されるが、蔭にかくれた一年の御奉仕と労苦を感謝と共に覚えたい。

（原稿到着順のため順序不同）

伝道部

今年度から伝道部は組織の上において婦人、青年、職域農村の四委員会を包含する部として発足した。今までも伝道委員会は各部委員長を事実上は含んでいたが、より積極的な綜合の態勢がとられたわけである。第一年目は従来よりも連繋が密になつた程度であろうか。今年度活動の主なものは次のようなものである

集中伝道委員会の組織

教会強化費による経済的援助についての反省として、経済援助丈でなく伝道の計画と実施の面において援助すべきであるという考えに到達し、一二の教会を集中伝道教会として認め、主任教師と役員及び伝道部が推薦する協力委員（二、三名）とによつて集中伝道委員会を組織し、伝道の推進をはかることとした。今年度は開拓伝道地の倉敷南と美作落合、用瀬智頭が選ばれた。次年度には集中伝道教会を希望する教会の申し出を期待している。

信徒伝道要員の選任

教区内相互応援のため、人的資源の活用がまたれていたが特に信徒の資源開発につとめ伝道要員として応わしい信徒を詮衡して全教会に紹介した無牧の教会、教師の留守の講壇、又立証会、家庭会等に相当な働きがあつた。

第二回全体役員研修会

八月二一、二二日鷲羽山ユース・ホステルで長谷川初音先生を講師として開かれた。この会の詳細な報告書は会の書記中島幸一郎先生の御苦労によつて全教会に送られたかどうか御精読御活用くださるよう。会場からの景観は全く素晴らしく国立公園瀬戸の海に乗り出したような恰好で洒脱な講義を承わる。夜のユース・ホステルは蒸風呂のようで殊に二階にお泊りの御婦人には誠に申し訳ないことであつた。出席六〇名

教会単位信徒研修会

九月十九日より十月十九日迄の間に早水、内藤、斉藤、石川の四先生の巡回によつて行われた。石川先生が途中御不快で中止になつた教会には御迷惑をかけた。応援の教会は教区内の先生が後日応援した実施教会三九

プリーチングミツション

カナダ合同教会の献金による特別集会の計画は春に実施の予定であつたが講師との折衝がつかずのびのびになつている。三十七年秋に倉敷、岡山鳥取を会場として有力な講師陣で開かれる予定。

（伝道部書記、脇本寿）

婦人伝道委員會

婦人部は突然の高杉先生の御転任にとまどいつつ、覚束ない歩みの一年を御前にまことに申訳ない思でいます。五月箱根に於ける全国委員講習会に五名出席。主題は、「聖書に於ける信徒」これを地方別協議会主題として大会を持ちました。七月四日五日、講習天野八重子先生、恒例を破り岡山、鳥取に分け、旅費負担、一日修養会としました。協議会が主点、時間的に無理な総会協議を省き、記録を整理し、各教会婦人会年中行事表と共に後送しました。内容は大別して、「信徒としての生き方」「婦人会のあり方」「婦人会を魅力あるものにするには」「地域社会に於ける教会婦人のあり方」「他宗教に対しての態度」其他地域的に連合の集会が持たれるようとの要望もありました。

八月二十四日、岡山三好野会舘にて牧師夫人会。教区先生方の御移動があつたため御顔合せの意味とふさわしい講師を得られた幸にこのを会しました。お喜び頂けたこととは思いますが、今後は婦人部主催のこの会は持たないこととし、牧師夫人方の自主性ある会合の御計画があれば婦人部は喜んで御奉仕させて頂きます。

三月九日、世界祈禱日、今年は地区別にこの日を守り、献金は集計してN・C・Cに送りました。内伝後援会費は目標に達せず残念でしたが、リーストコイン献金はかなり浸透したようでした。年度を終りその反省と共に、新年度に期待し、婦人部十ケ年計画案に踏出す時、主の御支え、御守りのもと、教区先生方の御指導と会員皆様の御協力を切にお願いいたします。

（婦人委員長　船越澄江）

青年伝道委員会

今年度の最大の行事は、来る五月二日大阪女学院に於て開催される全国教会青年協議会創立総会に教区内青年を代表して四名おくり、正式に全国的な連りに入ること（代議員はすでに決定している。

山崎尚士△岡山信愛教会△野田康之△津山城西△藤井良△米子◇中尾恭治◇鳥取◇）と、つづいて五月三日（祭日）にもたれる第一回全国教会青年大会に参加することである。総会代議員派遣のためにはすでにカンパをおねがいしているが、大会は自由参加なので距離も大阪であるから近く費用も少額ですむのであるから、教区内の青年が数多くこの大会に参加し、全国的な空気をすつてこられることを望んでやまない。

第二の仕事は岡山・鳥取の両県にある二つの都会青年会連合の強化充実である。岡山の方は去る三月二十一日総会をもち新しい役員や行事計画が立てられた。委員長山崎尚士（信愛）書記正保文男（蕃山町）会計宮岡光広（岡山）委員、野田康之（津山城西）委員、野田康之（津山城西）更に倉敷より一名、曽我洋一（琴浦）。鳥取の方は五月に改選になるかもしれないが今のところでは委員長藤井良（米子）書記中尾恭治（鳥取）会計山本欣次（米子錦町）である。

次にKKSは岡山の方は順調にいつているし、鳥取の方も新しい動きがみられ今年は楽しまれる。今夏のKKS修養会も新しい活気が入るだろう。

最後に当委員会は新しくワーク・キャンプの研究と立案にのり出そうとしている。このため、岡本・播磨の両委員は全国ワーク・キャンプ指導者講習会（四月二日―七日）に参加するため御殿場に出張した。更に、青年指導の原理的技術的研究に着手しようと考えている。これが今年の展望である。

（青年伝道委員長、戸田伊助）

教育部

教育部の一ケ年を振返つて、特別に活発な活動をしたとは言い得ない。教区内各教会教会学校の実情と問題を、より適確に知ることが第一と思つて居る。全国的に教会学校教勢の著しい不振が報ぜられて居る時、各教会C・Sのお働きと、又悩みに対して、少しでも御奉仕出来ればと願つて居る。その意味で各C・Sの御希望や意見などは、何時でも大いにお聞かせ下さるようお願いしたい。

本年度教団年鑑に由つても当教区教会学校教勢は、校数、教師数、生徒出席数、幼稚園数に於ても最小である。（教会数、担任教師数、信徒数ではそうではない。）統計偏重の考え方は不必要だが、私達の教区の実情にふさわしい働きを皆様と共に生み出したいと思つて居ます。

本年度の主な行事を列記する

六月十三日―二十日　地区別教会学校々長会

鳥取、米子、倉敷、美作、岡山五地区（平均出席二一）

七月三日―七日　野田市朗牧師に由る、巡回応援（一二教会、一七集会）

③C・S教師講習会は全体集会とせず、山陽、山陰の地区別集会とし、夫々成果を得た。

二月二十四日―二十六日、倉敷、岡山、児島教会てに「先生生徒論と教授法」樋口和彦

二月十六日―十八日、米子、鳥取地区講習会

（講師）小池文雄先生

新年度も大体この方針で進みたいと思う

①C・S教師研修会は地区別開催の希望が多い。

②教区より講師派遣のお世話を出来る丈行いたい。

③校長会に由る話合い

④中学生大会（岡山、鳥取）

⑤教会附属幼稚園の会

⑥基本方策の委託に由る勉強を始めたい。

（教育部委員長・田井中純作）

職域伝道について

職域伝道というのは、此度の教団宣教基本方策の前文にある、「すべての人への宣教の責任を果す教会の形成」という趣旨をもつて始められて来たものである。

我が邦プロテスタント教会の歴史が誰も云うように武士階級に信徒を見出すことから始まつて以来、国内の中産知識層に主として伝道されているという階層的偏向に対する反省と、政治、経済、社会の近代化と共に激増する勤労大衆、特に組織をもつて社会の一つの勢力となつて来ている働き人達が教会に全く関かわりのないという事実にして何らかの近附きをして行こうという願いから生まれたものである。

それには働き人の居る所に伝道がなされねばならない。職場にある信徒が仕事と交りと生活と言葉に於て、その置かれた場所に於て主を証しすると共に職場の集会が強化されねばならない。

教区職伝部は先づこのことに主力を置いて職場集会の調査、研究をし、又協議会を開いて、情報を交換し、励まし合い、これが推進に努めている。

昨年六月に教区内の職場集会の実態を調査した。その結果は次の如くである。

集会数
職場の種類　繊維工業七　重工業　二　病　院（従業員一）

出席者数　男三五　女一〇一

これで見ると繊維関係が多く岡山県南部に集中しているので特にこの職場伝道の方策について継続的に研究協議を進める方針である。

この他に働く人の職場に於ける証人として問題を出し合い語り合う職種別集会も計画している。

どの教会の会員も世では職場の働き人である。働きの場に於て、主を証し、福音にふさわしく生きることは、凡ての教会の課題であり、本伝部

（主題）「説教について」

（資料）①五月八日教区総会前、教師会に於て福田正俊牧師により、「説教について」の講演をうかがう。

②キリスト教新報誌上説教、四月二十一日号、四月二十八日号、五月五日号の説教三篇を参照されたい。

（発題者）前記資料②の批評を中心とし　脇本寿牧師

（一般的に）説教について　中島幸一郎牧師

当日の昼食費百円自弁のこと多数御出席下さるように。

もその探求と確立に使命と責任を覚えている。

（職域伝道委員長、永田善治）

社会部

委員会で部費を消費する愚を避けて会合は一回だけ、他は文書決議で行事を決定しました。文書協議で四回、ニュース三回発行し社会部活動を推進しました。

社会問題ゼミナールは五月十一日岡山教会で関西学院大学竹内愛二教授を講師としてカウンセリングの講義で有効なプログラムでした。今後この種の計画がしたいが新年度はベネツト集会のために社会委員会にゼミナールの予算がとれぬのは残念。

この年度は美作地区丈けで各教会の奉仕委員の現任訓練をしましたが新年度は山陰、山陽両地区でしたいもの。

クリスマス献金を始めて教区各教会に要請して十九教会から一万千四百五十三円恵まれ、支出では低収入教職家庭と長期療養教職へ金壱封を贈り、教区内社会事業施設十ケ所の従事者七十二名に教区の名でプレゼント出来たおよろこびをお頒けしたいのです。気は心で、志のあるところに感激があります。これは今後共続けてゆきたいことです。災害の多い年でした。三陸大火、台風第三号、第二室戸台風等で教区内各教会に救援を訴えましたが無災害教区教会の無関心には（特に大教会の無関心は寒心させられた）残念でした。それでもこの大火に六教会五、〇八二円、六号台風九教会一〇、三三〇円第二室戸台風には五教会で四九五一円です。御反省願いたいです。

六月にジョンベネツトの教会と社会と題する研修会が軽井沢で開かれます。教団の体質改善の一つのエポックと相成れば感謝です。そう祈るものです。

宣教研究委員会

当委員会は昨年発足したばかりであるが、早速に仕事に着手し、いくつかのテーマととりくんできた。その主なものは「原始福音会の研究」と「伝道的信仰問答の作成」である。前者は播磨委員の実地検証をふまえた努力により、すでに慎重な研究発表が行われたが近く文書にして公開する予定である。後者は、戸田、田井中両委員によつて着手され、現在尚進行中であることは周知の通りである。今年中には教区内教職信徒の十分な検討をへて、ものにし各教会での用心たるものにしたい。

新年度の新しいテーマとして宣教基本方策協議会教区具体案によつて、当委員会に研究の委託を内定したものがいくつかあるので、今年度の予算の可能な範囲で着手したい例えば「金光教の伝道及び信徒の訓練の研究」「カトリツクにおける伝道と信徒訓練の研究」「創価学会の研究と対策」「無教会の研究」「日本における伝統的習慣行事の摂取について」その他である。これからは委員のみでなく広く教区内の教職信徒の最も適当な方々に研究を委嘱する予定である。

（宣研委員長、戸田伊助）

編集の記

★第十四号は、受難週復活祭特集と致しました。主の御受難と復活を改めて深く味い、その恵みを受けたく存じます

★今年度の年度末号でもあり次年度への発足号でもあります。教区各部の短信を通して、その働きに一層の御協力をお願する次第です。

★信徒会の会報代りに、記事を本誌上に掲載することにして居ます。岡山県信徒会の記事のみで恐縮ですが、鳥取県のニュースや原稿も大いに頂きたく思います。それと共に鳥取県信徒会の発足を願うものです。

★本年度の発行予定は、次の如く年四回位の計画です。

①六月十五日（教区総会後）
②九月十五日（教区デー前後）
③十二月二十五日（クリスマス）
④三月十五日（レント、年度末）

大体発行予定日の十日前が最終原稿締切日となります教区報を皆様のものとするため、どしどし原稿をお寄せ下さい

（編集事務所まで）

皆様の御協力なしには「東中国」は育ちません。今迄の所原稿遅れと不足で少々難産気味です。

◇委員は左の通りです。御意見、御註文大いにお聞かせ下さい。

委員長　田井中純作
主事　岡本加都夫
委員　長坂竜太郎
壺井　正夫
戸田　伊助
高塚　勝

（編集事務所は一応倉敷教会気付にして居ります。）

◆基本方策の中に、弘報強化が示されて居ます。「東中国」はその働きと共に、皆様の良き話合いと交わりの場になりたいものです。

◆色々な手違で発行予定より大変遅れて申し訳ありません

◆各教会の力強い復活の歩みをいのりつつ。

（係）

「信徒の立場から憶う」

――教会の体質改善について――

丹波甚八

平信徒の私達が誌上を汚す事を憚れて常に遠慮勝ちですが、今回大胆に私の長い間の体験を通して近頃浮き上がつて来て居られる新しき問題を皆さんと共に考えて見たいと思う。

現在の日本の教会はどこにいつても金の問題で悩まされて居る、先づ金さえあれば」と溜息歎息と云う姿が私達の頭上にて、一種の行き詰りを感せしめられている。教会の内外にこの声を聞くと貧乏人は気易く教会に行かれないと云う先入感も働くために現在教会にはインテリ性とか大衆性とか云う事を聞かねばならぬ。これが第一の問題であつて次ぎは時の問題半世紀も昔と比較すれば社会状勢や一般生活のため先づ働かねば生活が出来ぬ故に教会の集会等には行く時間がない」と云うのである。主婦は一週間に一度の日曜日は洗濯が沢山ある、主人は日曜こそ少しは体の休養をとか平素の集積している要件を片附けるとか、理由はいくらでもある。然らば夕の集会は時間がとれる筈なるも何れの教会も夕の集会は絶滅同様で各教会の集会統計でも判る、さてこの例は限りなき程いくらでもありますが、一体教会のこの不振をどのように解決しようとするか、教団も教区も具体策は定まつて居ず、只今の処教職も信徒も研究とか委員会とかを強化して云々と云う段階のようですが、私達の立場から憶うにこう云う事を何年つづけても益々教会は老化して疲れ果て益々会議のため大切な金と貴重な時間を要し容易に結論は出ないと思うのです。

私達はいつも溌剌たる活気に満てる若き新しき教会を勇気のある指導者によつて創造されたい。先づ何者にも恐れない信仰と勇気の持てる指導者が起つて教会の役員も信徒も一時は受け容れ難い場合があつても必ずこの教会を死守すると云う計画性と覚悟をもつ方が欲しいのです。これは今の時無理だと申されるかも知れないが決して神様はこの指導者等を餓死させる事は絶対ないと信じる。私は数十年の体験を通して憶うにいつの時代にも牧師はほんとうに気の毒と思う人が多かつた。この様な場合信徒も忘けて又気の毒であつた。牧師が強く恵まれている時は信徒も必ず恵まれている。若し牧師が悩む時は信徒も悩むと云う事は当然である。教会は金のみの問題ではなく家庭が多忙と云うのが問題でない。信仰の正否からこの問題が解決されると思います。現代の教会全部が行き詰つてはいない。行き詰つている教会は良き指導者が与えられていないと云う事になる。教区も教団も教会と共に速かに考えて頂き度いのは良き指導者を指導する事でありましょう。初代教会から学ぶ新しき教会と共に新時代に適応する聖書から教えられる一致を見出し（わたしの心は楽しみ、わたしの舌は歌う、わたしの肉体も望みて生きる）使徒2の26、を実現せしめ度いため祈る。

教会の体質改善は先づ信徒個人の恵まれし信仰指導が絶対急務であると要望するものである。（津山教会役員）

くの会員の方々に皆様により心からなる感謝を捧げるものであります。

（倉敷教会役員・岡山県信徒会理事長）

めて行く様になれば教会の発展と信仰の復興は期して待つべきものがあると確信させられたのであります。

此総会の為に御奉仕下さつた玉島教会の高塚先生を始め多

按手礼

――信仰告白――

「主の導きを信じつつ」

三島康男

私は多くの先輩や教会の方々に見守られながら按手を受けさせて頂いたことを心から喜んで居ります。そして伝道者としての召命を新たに強く感じさせられています。誠に至らない者が今日迄御国建設のため奉仕することを許され伝道者としての歩みを続けることが出来たのは、ただ主の御導きと多くの方の厚い祈りによるものと感謝しております。これ迄にも様々な喜びと苦しみがありましたが、一切がよりよき僕となすための愛なる神のはげましであつたと思つています。

今後どの様な困難があつても今日迄私を育てて下さつた神を信じ希望と幻を失わず戦い続けて行きたいと思つています。

さて伝道者として私が歩む道はイミタチオ・クリストでなくてはならないと思つています。

第一に祈るキリストに学びたいと思つています。私も今年正教師試験を受けなかつた同窓の友のことを想い出しています。彼は充分試験準備をして受験地に向つたのであるけれど途中で「どうしても霊感がわかないから恩師の墓前で祈りたい」と言つて途中下車しました。このことから私は牧師となるためには先づ神の導きにあづかり霊感に満たされていなくてはならないということを教えられ、如何に神と密接な深い交りに生きているかということが生命でなければならないということを考えさせられました。

第二に尋ねるキリストに学びたいと思つています。キリストの伝道は尋ねて行く伝道であつた様に思います。尋ねるとはただ訪問するだけではなく、もつと大切なことは魂えの配慮ということであると思います。一つ一つの魂を愛し、いつも覚えて真剣に祈る者になりたいと思つています。

第三に十字架のキリストに学びたいと思つています。キリストは罪ある私のために尊い血潮を流していて下さる救われた私は御国建設のため生命をなげうつて働く決心でいます。十字架の愛に徹した奉仕の生活をしたいと願つています。

以上私は今後伝道者としての在り方について考えていることを簡単に述べさせて頂きましたが、これをもつて信仰告白に代えさせて頂きます。

（倉敷平和教会牧師）

（一九六一年十一月二十三日）

岡山県教師会について

二月九日まきび荘に於て、長坂牧師、戸田牧師、田井中牧師三名の委員が選ばれ、更に一名藤岡牧師を推薦、四名の委員によつて、三月二十七日懇談し、いよいよ岡山県教師会を発足することになつた。何れ、詳細な御案内と連絡もあることゝ思うが、誌上をかりて取敢えず要点だけを御報告申上げる。

（構成）会長　戸田伊助牧師
書記会計　藤岡友幸牧師
岡山県全体を含み、教職全員加入とする。（役員の任期は教区総会に準ずる。）

（定例会）隔月一回とする。

（原則として奇数月第三火曜）

（会費）月額一〇〇円
原則として教会々計より負担して頂く。（教区教師会費年額二〇〇円はこの中より支弁する。）

例会の旅費は全額補助。

（例会の内容）

①実践神学の研究協議。説教、牧会、伝道、礼拝（礼典）教会運営などの問題

②アカデミツクな研究。研究発表、読書会など。

③講師を中心とする集会。神学、社会問題其他適宜

尚宣教研究委員会の発表の機会を、岡山、鳥取両県教師会例会席上に於て、与えてほしいとのことである。

第一回発足例会

（期日）五月十五日（火）午前十時より午后三時まで

（以下六頁最上段に続く）

《公　告》

東中国教区定期総会

（日時）昭和三十七年五月八日（火）午後六時半より
五月九日（水）午後五時まで
（会場）岡山市東中山下一〇二岡山教会

教区規則第十五条及び第十六条により右の通り本教区定期総会を開催いたします。規則に基いて各教会より代議員の御出席をお願い致します。詳しいことは後報いたします。

昭和三十七年四月十日

教区総会議長　壺井正夫

尚代議員の任期は二ケ年ですから目下、その任期中ですが、代議員の変更があります節は十六日中に至急教区事務所まで御通知下さい。

追伸　例年の通り各教会より教区総会の礼拝献金を代議員に託して同総会礼拝の節に献げて頂くことになつて居りますからよろしくお願いいたします。（袋は後送致します）

教会だより

倉吉教会
八年間牧会に当られた鎌谷幸一牧師を三月末日を以て明石教会（兵庫教区）に送り、四月より上下教会（西国教区）の滝口勝牧師をその後任として迎えられた。

倉敷南教会（岡本牧師）
かねて建築中の会堂及牧師館は、四月中旬竣工の見込みで、同教会水島の住宅地区に於て偉観をそえつつある。尚目下建築資金を鋭意募金中である。

津山教会
古河牧師を芦屋浜教会に送つた後、後任牧師の決定まで代務者を迎えることになり、去る三月二十三日壺井教区総会議長が議長となり同教会の臨時総会を開催し主任担任教師兼務代務者として戸田伊助牧師を招聘した。

笠岡教会
高杉牧師を洛南教会に送つた後、無牧中であつた同教会は、二月中旬より倉敷教会副牧師中堀仁四郎氏を牧師に招聘した。尚同教会は教会堂の大修理に着手した。

高梁教会（井殿牧師）
教会創立八十周年記念式を来る四月二十九日挙行せられる。

光明園家族教会（播磨牧師）
教会創立五十周年記念礼拝を四月八日挙行せられた。

虫明伝導所（原田牧師）
会堂兼牧師館に適当なる家屋を、苦心の結果購入され、教団特別財産として登記された。

琴浦教会（佐敷牧師）
佐敷重雄牧師就任満十年記念祝賀会を来る四月二十七日午後五時より行われる。尚四月より、伝道師として小橋孝一氏を迎えられた。

倉敷教会（田井中牧師）
四月より、伝道師として広沢和人氏を迎えられた。

個人消息

鎌谷幸一牧師
四月より、明石教会牧師として赴任された。尚教区常置委員及伝道部委員を辞任された。

滝口　勝牧師
鎌谷牧師の後任として、四月二日倉吉教会へ着任された。

河野　進牧師（富田教会）

小寺昌良牧師（井原・高屋教会）
四月八日光明園家族教会の創立五十周年記念礼拝に奉仕された。

井殿　園牧師（高梁教会）
四月一日、壺井牧師司式の許に、岡山教会員歳安福江姉と結婚式を挙げられた。

中堀仁四郎牧師
二月十五日より笠岡教会牧師に就任された。

壺井正夫牧師
昨年十月、岡山教会就任満十年の記念として贈呈を約束された同牧師の肖像画は布下満氏に由つて完成されたので、近日中に贈呈式が行われる。

長坂政代氏（岡山信愛教会牧師夫人）
御病気のため川崎病院に御入院中、御全快を祈ります。

水野浩四氏（雲山町教会長老）
二月九日、喜寿及受洗五十年記念　祝賀会を行われた

大橋公夫氏（倉敷教会役員）
二月十二日、御母堂朝乃姉を哀われ、十四日倉敷教会に於て告別式を行われた。

渡辺敬之氏（津山教会役員）
去る三月一日、御永眠になり、三日津山教会に於て戸田牧師司式の許に告別式が執行された。

教職子女奨学金の申請について

中学、高校、大学生の子女にして、新しく奨学金を申請されます教職は、至急教区事務所へお申出下さい。

鳥取県の教会

永田善治

山陽、山陰とはよく云つたものである。中国山脈を境として南の陽の当る所と、陽の当らぬ地帯とに分れた、それが交通の便不便と相俟つて産業立地条件に影響して鳥取県は経済開発もおくれ、人口の他府県への流出度も高く、全体的には教会の伸びは良好とは云えない。

併し宣教は外的条件よりは御霊の力によることで主の真実のあるところ必ず手ごたえはある。今、帰国中のエルダー師は嘗つて、こういうことを云われたことがある。鳥取というところは日本一の気候の悪い所だが、日本一の人の気質のよい所だと聞いて来たが、その通りに思う」と。

一年の内九月から翌年三月までは、シベリヤからの北風は山の壁に当つて雨となり雪と化し、月平均二〇〇から二五〇ミリの雨量となる多雨多湿の地帯である。けれどもこゝに住む人々の心は素朴で純真であたたかい。その故にであろうか。従来多くの伝道者を輩出している。

教会は鳥取東部地区として市内に、東部、西部両伝道所と新生、信和、鳥取の三教会この他、八頭、用瀬、智頭の教会があり、中部地区には、青谷、倉吉、倉吉東の三教会西部地区には、米子、米子錦町　境港、法勝寺、日野の諸教会がある。坂長伝道所は今は活動を休止している。

教職の交りは、鳥取県伝道者会という名称で米子の加藤俊行牧師が会長、三ケ月に一回の会合を守つている。弁当持参で旅費は会より支弁する会場は三地区の教会廻り持ち会費は月百円である。最初は教職の間の横の連絡が無いのでこれを何とかしようというエルダー師の提唱の下に親睦伝道問題の懇談ということで始まつたが、最近は読書会というプログラムも取り入れようと、エルダー師の最近問題になつている伝道牧会の書物の紹介、鎌谷、加藤、片山三師によるツルナイゼン、「牧会学」の紹介、村島師による山本和「現代教会論」の問題提出的紹介、田賀師のヘロデ大王に関する研究紹介などがあり続いて教区の各部の活動や、その他伝道問題について語り合つた。一回は浜村のたばこや旅館で行なつたし最近は鳥取で信和教会に於いていつもの集会を守つた後有志と云つても教師の大部分であるが、会費制で丸茂という温泉旅館で明石に移られる鎌谷幸一牧師夫妻の送別会を行つた。

この様に教師の間にはよい交りと連絡が保たれているが信徒の間にも何らかの交りの組織がなされて岡山に於ての信徒会に歩調を合せることができたらというのが今の念願である。



東中国

教区報

No. 15

内所 教会事務所 102 岡山市下中山
発行所 岡山教区教団 東中国教区 岡山市東山中町
日発行日 1962年7月1日



教区開拓伝道の祈に由り、新会堂を与えられた倉敷南教会
(表門及塀は間もなく完成)

説教

御名による仕え合い

エペソ書五章八—二一

永田善治

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている」八節

基督者は、闇から光へ、死から生命へ、絶望から希望へ古い人間から新しい人間へと徹底的に造り変えられた者である。体質改善などというが改善とか改良とかどころか、全く人間の変革である。

キリストに出合う以前は自己が絶対であった。自己が宇宙の中心であった。自己の欲望を充たし、自己をよろこばせることが第一であった。人間はひとつの自律性を持ち、人間の能力は窮極的なものと過信し、自己の判断と評価は絶対的なものであった。

この様に絶対化された個我は、互に主張し、競争し、離反し、万人は万人に対して敵であり、狼であるというような修羅場を往々にして現出した。時に共通の利害のため団結し、一致することがあるにしても、人格的な真の交りは失われ、真に孤立し、レジャー・ブームとか消費ブームとか、遊んだり、たのしんだりすることが多くなっていてもその反面、一抹の空虚感を覚え、今日職場の生活に望みがなく生き甲斐を感じ得ない人々が多くなっていると聞いている。職場に於ては機械化や非人間化が更にこのことに拍車を掛けていることであろう一実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろそれを指摘してやりなさい」一一節

キリストに出合いキリストによる罪の赦しと死の克服をたえられ、人間性の回復をゆるされ、やみより光りへと移された者は、世のやみを照らし、人間の問題性を指摘し、やみをなくする予言者の使命と責任がある。

それは、現実から遊離して独善であったり、孤高を誇ったりすることではない。又わが国では、基督者の数が少ない、その発言も力も世間では全然顧みられない。この様に考えて、自分達だけの群れに閉じこもり、信仰は教会、生活は世俗と割り切って別々の原理に従つて歩み結局は、世俗のままに流され、味を失つた塩の様になり果てて了う傾きがある。

世俗も、神の創造し、支配し給う世界であり、世の人々はこのことを理解せず、又人々の不信と自己絶対化は、神の御旨を蔽い、或は歪めてはいるにせよ尚神の世界である主イエスはこの世の救いのために、世に来たり給うたのであり、我々が世から選び分たれて、神の民として立たしめられているのは、即ち世の救のために遣わされていることである。

人間に対する神の愛は今も働いている。その働きのために我々は召され、そして派遣されている。この世は、神にとつてその独り子を賜う程の限りない愛の対象である。キリストの十字架と復活という神の愛と力の決定的な出来事によつて古きに死なしめられ新しきに生かしめられている我々には、この時代に働く神の愛のみ業の一端に与らしめられているのである。

「主キリストの御名によつて父なる神に感謝し、キリストに対する恐れの心をもつて、互に仕え合うべきである」二〇節二一節

一切の善は神に感謝する所にはじまり、一切の悪は感謝しない所に生まれる。

キリストに於ける神の愛に迫まられて生命を賭しての宣教の業があり、兄弟のために己が生命を捨てる愛がある。信仰と感謝こそ活き〳〵した主に在る積極的な生活と行動の原動力である。

それは仕える生活である。これまでは他者を支配し、仕えさせることを求め、利用することをはかつて来た。「消費者は王様だ」などと持ち上げて業者は売らんかなの宣伝につとめている。慾望充足と他者支配の手段として金銭は絶大なる価値を有していた。

然し今は違う。仕えられるためでなく仕えることをなし私のあがないとして、その生命を与え給うたみ子イエスによつて造りかえられ、仕えられることをでなく仕えることを第一に求める者とされたのである。

仕え合うことは教会の群れから始まる。御身体なる教会に於て一つの肢が苦しめば全体が痛みを覚え、これを助けるために力を合せる。自分の慰めと、よろこびと満足と平安と利福だけが問題になつて他者の苦悩と救いが問題にならないなら、主よ主よと云いつつも主のみ言に生きていないことである。

更にこのことは教会の壁の中に閉じ込められていてはならない。御言の再受肉と云われる教会はまさしくみ子キリストと等しく世を神と和らがしめるつとめを与えられている。世の光りたる使命を有している。唯一の教主たるキリストを宣揚すると共に、世の苦悩と問題に心を開き、その解決に奉仕するものでなければならない。個人も教会も自己絶対化を砕かれて、外向きの姿勢を取つて、世の政治と経済も含めてその救いに仕えるものとなるべきであろう。

(鳥取教会牧師)

目次

◇ 説教 御名による仕え合い……永田善治 (1)
◇ 聖句随想……柳沢菊代 (2)
◇ 証示……有田道子 (2)
◇ 負われるものから負うものへ……高塚勝 (2)
◇ 倉敷南教会開安記……長坂竜太郎 (3)
◇ 第10回教区定期総会報告…… (3)
◇ 教区内ニュース…… (4)

聖句随想

体質改善の原動力

柳沢菊代

「ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」
使徒行伝一章八節

宣教第二世紀を迎え、教団の宣教基本方策として、体質改善という言葉が、地方の弱少教会にまで浸透し考えさせられるようになつてきた。

さて一教会にせよ、一信徒にせよ、その体質改善の原動力は何処にあるのだろうか。

昔弟子達はガリラヤ湖畔で網打つていた一介の漁師であつたが、主イエスに見出され「私についてきなさい、あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう」とのお言葉により、一切を捨ててイエスに従つた。

それより三年半彼等は、最もよき師であり、主であるお方に教えられ、導かれて、ある程度の体質改善が出来たのである。然しあの恐ろしい、暗黒の力、十字架の前にもろくも砕かれ破れてしもうた。

御復活の主は、惨々たる彼らに度々現はれ、最後御昇天まぎわに「エルサレムから離れないで…父の約束を待つているがよい……ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて…」とお命じになつた。

五旬節の日、俟望める彼らの上に約束が成就せられてその日以来彼らは一変、生来の何ものでもない、上よりの能力を着せられ、ダイナマイトの如き能力を、うちに頂いて、初代教会は発足した。瀰来二千年間、聖徒達はこの能力を受けつつ、火の中、水の中をも恐れず、証人として使命を果された。

さて今日、重大な使命を担わされ又光栄ある使命に召されたる者として上よりの能力に満さるる事こそ先決ではなかろうか。

（鳥取信和教会牧師）

同行二人の旅

有田道子

アメリカの大学でシエイクスピヤを勉強する事とイギリスに彼の生れ故郷を訪ねる事、この二つは卅年来の私の宿望であつた。それが二つともかなえられて私は心から満足と感謝をもつて再びロンドンへ帰つて来た。所がここで思いがけない二つの難問題に出くわしたのである。一つは旅費の未着であり、今一つはジエツトの切符紛失である。

昨年の夏中私は欧洲旅行の不足額を補う為にアメリカの組合教会本部主催の青少年キヤンプで働いたが、ニユーヨーク出発を俄に変更したので謝礼金が間に合わず止むなく友人に一部を立て替えて貰つてロンドンへ飛び立つた。その後三日目にスコツトランドの宿で本部からの郵便が廻送されたのを受取り期待以上の為替を見て安堵の胸を撫で下した。更に奥地を一週間旅しつづけてエンジンバラに着くなり銀行へ出かけた所旅行者の現金払いは元の銀行へ問い合せた上になるから十日程かかるという事である。チエツクを持つている安心感から私は秋冷えに堪えかねて既にコートやスエーターを買つていたので財布の中は軽くなつていた。絶対絶命もう一度チエツクをニユーヨークの本部へ送り返し現金電報でロンドンへ返送依頼した。五日目に帰つた所電報が未着だつたのである。月曜の朝には欧洲大陸へ渡るスケジユールが出来ている。その上悪い時には悪い事が重なるもので重要書類を入れた紙入れに入れた筈のパリ・東京間のジエツト切符が紛失している事に気が付いたのである。長旅につみ重なつた疲労は瞬間的記憶喪失を畳みこんでいるらしい。がつかりした抽子に今迄張りつめていた神経の弓がプツツリきれた。茫然自失の耳許にふと響いて来た聖言は、「四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。」であつた。

「そうだ」と、私は最後の一滴のエネルギーを絞り出した。英国航空会社の受付の青年は早速パリのパンアメリカンに手紙を出してくれてから私の萎れた肩をポンとたたいていつた。「こんな事はよく起りますよ。さあ安心して欧洲旅行を楽しんでらつしやい。」

お茶をのむ事も節約して欧洲四ケ国を十日間で馳足旅行してパリに着いた時、待つていた現金電報は直ちにドルに引きかえられた。

イエス様はいつも私と共に旅をして苦楽を分けあつて下さつた。

（鳥取西部、智頭両伝道所
有田実牧師夫人）

負われるものから負うものへ

高塚勝

過般、教団の宣教研究所が内外協力の方法についてのアンケートを募集していた。

いわゆる海外教会の援助に背負われている教団の現情をどのように改善していくかとの問いが問われたのである。

しかしこの同じ問いは、今私共自身の信仰生活にも当てはめて考えることが出来ようのみ。自然、ぬるま湯の中のように感激も感謝も消え去つて行く。

こんな生活が私共の教会生活でなければ幸いであるが。

時間の余裕がない。生活は手一杯。いつの間にか教会に連つているとはいうものの名

主イエスは「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」「仕えられる人ではなく仕える人に……」と教えられた。

知りぬいている程、知つていることは、愛されることではなく愛することが、仕えられることではなく仕えることが求められていることである。

だが現実の主にある交りの中では、愛されることを欲し仕えられることを欲しているとすれば災いなるかなである。

耳ざわりのよい、自分勝手な好みにまかせての歩みではなく、たとえ、ゆだねられている能力は少くとも、それをみ言に従つて活用するものたちでありたい。

負われていることを当然とするのではなく、負うものたちへと変りゆきたい。

奉仕が、献財が、キリスト証言の日々が、他のものによつて果されていくことを黙視するなら、その人こそ一タラントをかくしおいた悪い意情なしもべといわれねばなるまい。

（玉島教会牧師）

土器に宝を盛る

（教会に仕えて50年）

水野浩四著

ともしび社版

¥150　〒40

蕃山町教会長老、前岡山信徒会長、元教区常置委員の水野さんが信仰生活五十年を記念して出版します。みなさまの必読を期待します。（取扱は教区事務所、蕃山町教会）

新築成つた倉敷南教会

問安記

長坂竜太郎

六月十三日、婦人会員十六名同道、新築成つた倉敷南教会を訪問する。列車を倉敷で降りて駅前から市営バスに乗る事十五分、弥生駅前で下車、東へ約半丁で美しい赤瓦の新会堂が目に這入る。丁度前が福田第四小学校なので極めて解り易い。周囲は広々とした田園、葡萄園や緑の並木が点在して絵心があつたら立派に絵になる風致である。

ここの主（あるじ）が青少年指導のベテラン、文学のわかる青年牧師岡本加都夫である。此の教会は元々倉敷教会が牧師東方信吉、田口重良時代に伝道を開始した水島伝道所で昭和三十四年四月倉敷教会伝道師滝口勝が初代の主任教師として就任、倉敷教会の飯清の協力援助のもとに教勢が急速に進展したが、滝口は父親の牧する広島県上下教会より切望されて一年にして去り、その後任に同大神学部同期の岡本が推されて、三十四年四月就任、全年六月第二種教会となつたもので倉敷教会との親子関係は非常に深いものがある。その後、教区長壺井正夫の斡旋と懇切な協力のもとに岡本は精魂を傾けて会堂建築に従事、幸にして土地二百坪は教団の特別な計いで与えられ、建築費三百万円（中設備費三十万円）は従来所有し使用して来た家屋を売却し、教団からの援助もあつて内外募金にも諸教会教職、信徒の同情を得て大半の見透しがついたのであるが、中六十万円は尚これからの残された大仕事だときく。此の教会は岡山県の人口百万都市構想の中心となる大工業地帯の将来性に手をうつて出発した教団教区の開拓伝道教会なのであるから、当該教会の責任は勿論ではあるが、教区内外の積極的援助が日本伝道の見地からも又互助精神の具現化からも大いに必要なのである。

牧師の話によると募金のために並々ならない労苦をした信徒たちもあり、高学教会の教会学校福島学級の如きは数年に亘つて生徒たちが主の御用のためにと貯えて来た貯金箱をそのまま献げてくれたのですと岡本牧師の瞳は輝く。

此の教会の現勢は現在四十名、礼拝は信徒十五名求道者十名計二十五名の出席、教会学校は百名を越える盛況。

今後の伝道方針は職域伝道、中高生伝道、地域社会の生活指導を目指してなされる由、それがためには会堂の落成に安住する事なく、少数の現教会員で小さくかたまる事なく、雄大な教会形成の構想をもち、先ず隣接の土地を一日も早く購入、教育会館等、第二次第三次の建築に前進して欲しい。更に此の地区には、随分各地からの教会員が勤務の工場関係で移住して来ている筈であるから全国の教会から紹介して貰える様、早急にPRして人材を糾合すべきである。そのためには借金をしてでも大いに伝道資金を投入して天下に名声高き牧師或は世間に通りのよい著名な信徒を用いて大伝道をなし教会の存在を広く紹介すべきである

問安当日は牧師、婦人会員方の懇な歓待を受け、礼拝と午餐を共にし、立派に出来上つた会堂や牧師住宅を見学、そのあと雨に煙る海岸地帯をハイヤー四台を走らせて、思い出深い初夏の一日を楽しく過し得た事を感謝したい。

（岡山信愛教会牧師）

昭和三十七年度 東中国教区定期総会報告

東中国教区総会に先立ち、五月八日午後二時より岡山蕃山町教会において教団宣教研究所長、山谷省吾氏を迎えて教師会が開かれた。

山谷省吾氏により「教憲改正案」の意義につき詳細なる説明がなされた。多くの案件と時間的制約に縛られる総会内で、この重要な課題を単に説明されて終ることなく、十分の時間をかけ腹蔵のない意見の開陳がなされた。

尚、同氏により「現代の説教」なる特別講演をうけ、一同晩餐を共にした。

教区総会は先年、会堂新築され都市計画にともなう牧師館その他の移転改修を完了した岡山教会において行われた総会は脇本寿牧師の司会で開会礼拝が行われた。教団問安者、教団総会書記、東方信吉氏が「復活と宣教の使命」と題する力強い説教があつた後、教区総会議長壺井正夫牧師の司式により補教師准允式が行われた。受允者は広沢和人（倉敷担任）小橋孝一（琴浦担任）白神章道（倉敷担任）の三氏。つづいて副議長永田善治牧師の司式により聖餐式が行われた。

正議員九七名中七〇名、准議員一二名中六名の出席をもつて総会は成立、午後八時十五分から議事にはいる。

補助書記選任、仮執行順序承認、定例の選挙、詮衡、会期中特別委員などの選任がなされた。本年は役員改選期ではないので教団総会議員としてと詮衡委員会より十八名の信徒候補者があげられ選挙がなされた。

教区の教勢教務、伝道部報告がなされ午後九時半、笠岡教会中堀仁四郎牧師により晩禱がささげられ第一日終了。

第二日

倉吉教会に新任された滝口勝牧師により「我等の姿勢」について教えられ、午前九時三五分議事再開。

第十二回教団総会への教区選出議員十二名が次の通り選ばれた。

○教職

壺井正夫、長坂竜太郎、永田善治、田井中純作、戸田伊助、高塚勝、（次）脇本寿、永倉義雄

○信徒

大橋公夫、新達治、船越澄江、藤原正夫、丹波基八、河田文子（次）尾崎米、尾熊俊夫、

この後、教団問安者、東方信吉氏から、まことに適切なすゝめの言葉と同氏往年の任地たりし当教区伝道活動によせる幻が示された。

つづいて山谷省吾氏によつて「教憲改正案」の説明がなされた。すでに牧師会において協議された要旨を反復の上信徒議員より活発な質疑がのべられた。

ついで「平和憲法を守る建議案」（四頁参照）が緊急上程され満場一致可決したことは特筆すべきであろう。改正阻止への具体的措置は常置委員会に一任されたが、早急に善処されることが期待されている。

今回の総会における議案の中心は「教区宣教基本方策具体案」及び「教区伝道案」である。特に教区の宣教基本方策の具体化のためにはすでに全教職及び信徒による協議会並びに教区内十地区においてなされた協議会を経て成文化されていた具体案が承認された。

教区新年度予算もこれを推進すべく計上されており、この具体案の浸透と活発な実践とが期待されている。

伝道計画は教会の体質改善に重点を置いて今年は前進するべく立案された。すなわち①宣教の基礎理論の確立と研修、②全階層、職域への教会の責任 ③信徒の育成 ④教会の連帯性、等。

教区宣教研究委員会は、すでに伝道用の「信仰問答」書の作成に鋭意努力中であり、今年中に完成する予定である

教区の伝道のため、伝道講演、立証などに奉仕する信徒十六名も前年度より「伝道要員」として制度化しており有効な奉仕活動がなされてきたが今年度は更にその増員、強化が計画されている。

また昨年度総会において可決された「教職の生活に関する建議案」に基ずき新設され

た教職謝儀特別研究委員会より報告がなされ積極的な意見が議場よりのべられた、同委員会より一応の目安が示されたことは画期的なことではあるが、更に公式の決定が早急に樹立されることが期待されている。しかしながら教会の謝儀最低基準の設定にあたっては教会援護対策、互助体制連帯意識の向上、献財精神の振興、等幾多考慮すべき問題のあることが痛感される。

昭和三十六年度会計決算、昭和三十七年度予算案をそれぞれ承認可決し、各部諸報告が承認され、次年度総会開催地を山陰に移したいとの議場希望がのべられ、九日午後五時半総会を終了した。

総会をかえりみて、相当の準備と努力が積み重ねられたにもかかわらず、矢張り時間的制約をうけて十分な審議と協議をつくしえない感があつた。しかし教区内のすべてのものが一つになつて宣教への使命を謙虚に反省し、力づけられたことは感謝のかぎりであつた。

終始心のこもつた歓待をよせてくださつた岡山教会に心よりの感謝をささげたい。

平和憲法を守るための建議案

現行憲法は平和主義と民主主義と国際主義との上に立つており、大体に於てキリスト教の政治的主張と合致している。故にこれを擁護し、改正を阻止するために、本教区総会が適当な措置を講ぜられることを要望する。

右建議する

昭和三十七年五月八日

提案者　議員　戸田伊助　他十三名

社会部ニュース

如何に立派な理論を打ち立てるかにエネルギーを消耗するよりも、少しでも多く実践に移す努力をして見たらどうですかと助言する社会部なんです。実践に短く理論に長い教区のやり方に抵抗を感じます。神学過多で非実践的な教会の対社会の生活態度に挑戦したい年でありたいです。

教区総会でとり上げられた平和憲法を守る建議案を全教区内教会に浸透して行きませう。教区内の三つの教会立保育園が休廃止した事実は何を語つているのでせうか。紙上で公表を遠慮したいような事実です。残つている施設を守り抜きたいです。そのために保母や園長の研修会を計画しています。それに併せて教区内の社会事業施設の協議会も開催します。昨年度は美作地区だけ開催しましたが今年度は山陰、山陽地区で教会奉仕員の現任訓練をしましょう。

今からお願いしたい二つの提案は災害が起きた時はよき隣人愛の精神で相互援助の手をのべて下さい。昨年は三回の災害に僅か延二十の教会が救援金を送つたのです。五十八教会の僅か十一パーセントしか動かなかつたこと、而も大教会は不成績でした。第二は今年もクリスマスに教区の名で昨年通り低収入教職の家庭や保育所、養護施設の働き人等にプレゼントしたいのです。昨年は十九教会より一万三百三十円頂戴しましたが今年は倍増して頂きたいのです今から御計画のうちに入れて下さい。キリスト教奉仕団のSOS物資の活用は岡山県は全国でも好成績ですが鳥取県は不振です。愛の奉仕に少々手数がかかつてもこれを嫌つたり横着をしてはキリスト様に叱られますぞ。（更井）

宣教研究委員会ニュース

新しく次のような研究に着手した。（　）内は研究者

①金光教における伝道と信徒訓練（高塚・中堀）

②カトリツクにおける伝道と信徒訓練（永田）

③創価学会とその対策（潘磨・脇本）

④日本における伝統的行事の摂取について（小寺）

尚昨年より研究継続中の日本原始福音会の研究は近日中に文書発表の予定。また、信仰問答の作成は今年度中に完成の予定。

青年伝道委員会ニュース

○教団青年専門委員会幹事・村田豊恒先生巡回

七月五日（木）鳥取地区、六日（金）倉吉地区、七日（土）法勝寺、八日（日）米子地区、九日（月）——十一日（水）岡山県下

○教区青年協議会

日時・八月二十日（月）二一日（火）一泊二日

場所・岡山市まきび荘

主題・現代教会青年の生き方

三分団に分れ、平和、恋愛結婚、職場の問題を取上げる

○第八回教区KKS修養会

日時・八月中旬

場所・大山

教会だより



倉敷南教会（岡本牧師）

六月二十四日午後二時から教区総会議長の司式により献堂式を挙行した。新教会住所は倉敷市福田北畝三三七。尚建築資金は目下継続募金中ですから教区の皆様の御援助を期待します。

倉吉教会

滝口勝牧師を迎えられて、その就任式を六月二日に教区総会議長の司式で挙げられた。

尚同夜、教区総会議長を講師として牧師就任記念大伝道集会を開催、大変祝福された。

笠岡教会

かねてより会堂大改修中でしたが五月末完成。さきに就任された中堀仁四郎牧師の就任式を七月十五日挙行の予定。

＜個人消息＞

広沢和人、白神章道両氏

それぞれ倉敷教会担任教師として御就任になりました

小橋孝一氏

琴浦教会担任教師として御就任になりました。

有田　実氏

智頭伝道所兼務主任者に御就任になりました。

片山義明氏

智頭伝道所の兼務者を御辞任の上、用瀬教会専任となられました。

中堀仁四郎氏（笠岡教会牧師）

次女和世ちやんを六月五日与えられました。

脇本　寿氏（旭東教会牧師）

御病気のため西大寺市津下病院に入院され手術をうけられました。経過良好。

長坂政代氏（岡山信愛教会牧師夫人）

ひきつづき御病気のため川崎病院に御入院中、御全快を祈ります。

＜教区書記報告＞

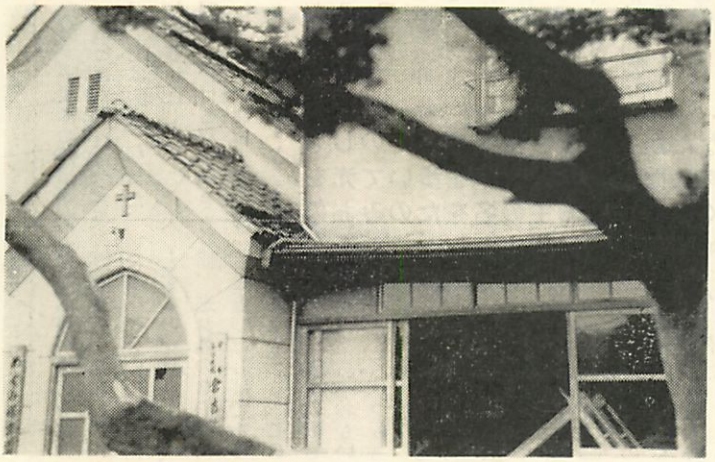
教区総会に於て要望された昨年度の教区内教勢について下表の如く御報告します。ごらんのように残念乍ら、教勢はかんばしくありません。停滞状況というより若干の降下現象を示しています。しかし現住陪餐会員（信徒数）の減少は別帖会員への移動の多かつたこと。信徒増減の低かつたことは転出会員の多かつたことが原因です。

昭和三十六年度教勢伸長一覧表

	信徒数 現住陪餐	信徒数 不在陪餐	信徒数 小児	信徒数 合計	受洗者大人	受洗者小人	信徒増減	会集 祈禱会	会集 日旺夕拝	会集 日旺朝拝	教会学校 教会数	教会学校 教師数	教会学校 出席生徒	主要収入（単位千円） 経常収入計	主要収入（単位千円） 月定献金	主要収入（単位千円） 礼拝献金	主要収入（単位千円） 特別献金	主要支出 経常支出計	主要支出 単位千円 伝道費	主要支出 単位千円 牧師謝儀
教区	3066	1074	93	4233	175	0	+55	459	434	1302	64	257	1803	14234	8233	2079	3123	11717	1011	7144
前年比	−79	−39	−28	−146	−27	−2	−100	−30	−26	−53	−5	−35	−248	+1758	+1137	+155	+430	+1324	+105	+952
岡山県	2449	941	86	3476	135	0	+40	369	309	1034	47	206	1405	11419	6702	1549	2433	9448	793	5696
鳥取県	617	133	7	757	40	0	+15	90	125	268	17	51	398	2815	1521	530	690	2269	218	1448

教区報 東中国 No.16

発行所 岡山市東中山下102岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日 1962年10月20日



鳥取県中部の伝道をにない、躍進を期待される
倉吉キリスト教会及保育園（階下園舎）

説教

恵と使徒の務の責任

ローマ一・一〜一七

加藤俊行

現代の特徴の一つは責任感に弱いことでしょう。権利とか利害に関することなら大いに主張致しますが、義務とか責任となると人の自由を束縛するものとして人気のない言になりました。

然し、責任を怠ることはやがてその責任ある立場を失うという事態を招来致します。

先日、九州の豊肥線である機関士が酔払って乗務し、列車が千鳥足を繰返し数回停車し、乗客が将棋倒しとなる次第で遂に他の機関士と交替しました。

当局は多数の生命と財産を預る者としての責任を問い、厳重処分するそうです。

クリスト者である私達は他の永遠の生命にかかわる大切な責任ある立場に居る者との自覚を持っているでしょうか。

五節に「わたしたちはその御名のために、すべての異邦人を信仰の従順に至らせるようにと、彼によって恵みと使徒の務とを受けたのである」とパウロは申して居ります。

私達は主より恵みと同時に務とを受けて居るのであってその二つは別のものでなく一のもの、表裏一体なるものです。

ある米国の司教が多くの教会員の霊的力のないのを知り、その原因を調べるため各教会を回りました。教会の役員CS校長、青年指導者、婦人会長など数百人と個人的に又は数人のグループの集で親しく会いました。その結果「多くの教会の役員は殆ど他の人の救に関心をもっていないのを発見した。」と非常に強い言をもって報告したそうです。

日本の教会のお互は如何でしょうか。

ある有名な精神病医が「精神病が癒ったかどうかを見るには、その人がどれだけ思いやりの心があるか、どれだけ愛の行為が出来るかということで判断する。」と申しているとのことですが、お互は霊的精神病者の域を脱していないということになりますまいか。

この点さすがにパウロは霊的偉人でした。その幻も責任感も世界大でした。五節のすべての異邦人、八節の全世界、十四節ギリシヤ人にも未開の人にも、賢い者にも無知な者にも、とあるようにあらゆる国民にあらゆる階層に責任を感じているのです。

自分のような者が恵に与かり救われたということは、とりもなおさず福音は全世界の誰であっても信ずれば救われるということであり、それを伝えるのは先に恵みを蒙った者の当然の責務と覚えたのでありましょう。

宇宙時代に入ったと云われる今日、地球は格段と狭くなりましたが、私達は世界に対してどれだけの福音の自負を感じていましょうか。アジヤと云わず祖国日本の救のためだけでもどれだけでの痛みを持って居りますか。否々、我が市我が町の救の為にさえ祈ることを怠っは居ませんか。

役員会の議事もその背後に大きな幻と責任感に貫かれたものでなければ禍です。

或は責任の重大さを自覚しているとしても自分の能力と比較して、到底その任に堪えないとあきらめて投げ出す方も居られます。

或は協議会や大会に集って長い時間を費し「決議」や「声明文」を作ることによって根本的キリスト者の活動の代りにしているのです。

或は教会での他人に対する批判、つぶやきに自分の責任の転換をしているものもあるようです。

あゝ願くは今恵と共に使徒の務とをお互が頂いているのをもう一度確認致しましょう。

パウロに致しましても自分にその責任達成の能力が充分にあると自負して居りません。

彼はよく一個の人間の能力の限界、弱さを知る人でした。

それ故、絶えず祈って上よりの力と導を求めたことは九、十節にみられる通りです。

そして又、行く機を得たとしてもそこで直に大成果をあげるとは申しません。

「あなたがたに霊の賜物を幾分でも分け与えて、力づけたい。」（十一節）「あなたがたの間で幾分かの果を得るために」（十三節）と申しています。

「幾分でも」お役に立つならどんな労も犠牲も金銭を費しても惜しくなかったのです。又彼は効果の有無よりも伝えることを責務とし願いとしていたことも思われます。

何れにせよ、払うた労苦や金銭に比し、「伝道してもそう効果がないから……。」という生気のない消極主義からは何も良きものは生れて参りません。

幾分でもと労したパウロを通して神は偉大な御業を歴史の上に進められました。

此の夏、訪問伝道全国講習会に機を得て出席致しました。讃美に祈りに証しに生命が溢れ、聖霊の御働き豊かなるを覚え感謝致しました。か弱い信者であっても現実に戦う所に聖霊が御業をなさるのです。福音宣教は知識に非ず、議論に非ず生命に非ず具体的実践にある。

願くは皆さんの置かれた場の只中で自分のなすべきことを考えて下さい。

主は今日もそのような人、そのような教会を通して御自身の業を進められ、全世界に勝るという尊い魂を増し加え給うでありましょう。

責任を果す努力なき人又教会はやがて果なき無花果の木の運命をたどるのであります。

（米子教会牧師）

聖句随想

「あなたがたのうち主を恐れそのしもべの声に聞き従い暗い中を歩いて光を得なくとも、なお主の名をたのみおのれの神に頼る者は誰か」

（イザヤ書50章10節）

村島宏

主が十字架におかかりになったとき太陽は光を失い、全地は暗くなった、と福音書は記している。天も顔をそむける程の暗さと苦しさ、あらゆる人間苦の固まりが十字架となった。

我に従う者は暗き中をあゆまず、という言葉の真実さは疑うべくもないが、人間的に言うならば光はなお遠く、暗きなかをあるいて光を得ないのである。内には自らの悩みがあり生活の重荷があり、外にはいわれのない敵意や不理解、又だれかが弱っておるのに自分も弱らずに……というさまざまな心配事があとをたたず、万身瘡痍、難民の群にも似たるをひきいて事に当らんとするのを思うとき、暗憺、逃れ場のない気持になることしばしばである。

このようなとき私のおもいはいつも「暗い中を歩いて光を得なくともなお……おのれの神に頼るものは誰か」という言葉に行く、そして幼児と無心にたわむれ、空の鳥と和してうたえる時がこれから、生涯来ずとも、自分の十字架を直視し、主の行かれた途を……と言う意志が湧いてくるのである。

（倉吉東部教会牧師）

═教区デー問安記═

例年の如く九月第二聖日（九日）教区デー聖日を守り、諸教会に於て一斉講壇交換を行い、数々の恵を与えられた。ここに問安記の一、二をお送りする

高梁教会を訪ねて

小寺昌良

濃い緑のひだ—深みどりのカーテンをはりめぐらしたように、美しい山々が目近く高梁の教会を一町をかこんでいる。

KKSには女子ばかり十四名。月曜から実力テストなので、男子はもう他の事は手につかないんです、と説明して下さった女子は落ち着きはらっていた。めったに来ないと思うと、つい話が長くなる。キャンプソングなど歌い終ると、二時間近くもたっていた。

礼拝には、なるほど、年配の方が多い。歴史の重みが、どの断片にも見られるようだ。礼拝がすむと、その歴史の厚みのような方々が進みよって、説教についてもの静かに感謝して下さった。一人のおじいさんは八十才、他のおばあさんは七十六才とおっしゃったと思う。

「お年よりが多くて……」という声もちらほら聞えたが、礼拝後のさんびか練習や昨日のKKS、またCSの充実した姿を見ていると、そんなに教会全体が老化しているなど、とうてい思えない。何よりも井殿牧師夫妻がお若いのだ。その井殿牧師が、夏季伝道師の北垣先生といっしょに釣って来て下さったというすばらしい鮎（御夫人の塩焼きの腕もすばらしかった）の味には、若さだけでなく、日本の古さへのよき理解と調和が滲み出ていた。

バスは宇治まで一時間かかる。途中、山峡に乗り入れるとトタンに空気が冷くなり、半そでは失敗だったかなと一瞬思ったほど。峡谷がつきると、思いがけない高原のひろがりがあった。

夜の集会八時半からという案内に、実際の開会は九時半くらいではないか、などということさかおそれをなしていたら、時間きっかりに始められた。

この「家の教会」を、一家をあげてお世話下さっている福井兄の気はくと行届いた実践の実りなのだ。

こんな田舎に珍しい古い大型のオルガンが美しい音を出した。中学の音楽の先生をしているという求道者の兄弟が、小さなさんびかを時々片手でおさえながら弾いて下さった。十人をわずかに上廻る出席だが、ピリツとパンチのきいた集会。井殿牧師が一時間のバスを物ともせず、時には単車を駆って、疲れをいとわずこの避地に深く鋤を入れておられるのも、この集会の喜びがあればこそとうなずかれる。福井兄の息子さんは、今年同志社の神学科に入学された。

お宿して下さる仲田姉妹のお宅のすばらしさも、この宇治の魅力の一つなのだと、心にかみしめながら翌朝山を下る。（井原、高屋教会牧師）

津山教会を問安して

岡本加都夫

初めて行く教会ですので、教会の所在がすぐ解るかなと思いながら、国鉄津山駅で下車したら、丹波基八氏が駅迄迎えにきて下さっていた。有難い。タクシーで教会迄。偶偶運転手さんが「田町のキリスト教会」の所在を知らなかった。先日水島の私達の教会の献堂式の際、水野氏はタクシーでこられたが、運転手さんが、「教会の所在を知らないと」おっしゃった事をふと思い出す。

初めて拝見した教会は古い大きい建物でした。しかしとてもよく掃除がいきとどき、礼拝の準備がよくなされているのに感心する。無牧との事ですが、教会は、何か心の琴線に触れるものがあり、又信徒のあたゝかい姿は、自分の教会と比べ、やはり歴史のある教会は違うなあと思う。礼拝は霊の充たされたものでした。礼拝堂のお隣りの部屋で聾唖の方々が同時に礼拝を守っておられるのが、講壇から見えました。礼拝後、信徒の方々に昼食を御馳走していただき、しばし懇談。広い牧師館はうらやましい。こんな広い部屋で、ごろと昼寝でもしたらいいだろうなあと思う。

津山の後、高倉教会に行く筈であったが、特別集会があるとの事で中止になった。教区デーも足並みはそろはない。又車で送っていたゞいて津山でのあたゝかいもてなしを心一ぱいにして去る。

（倉敷南教会牧師）

編集者より

◇十日初発行予定の第十六が約一ケ月遅れになってしまい、誠に申訳ありません。特別に難産であったわけでもないのですが、怠慢と手違をおわびします。

『アメリカの教会、日本の教会』

＝一ケ年の滞米より帰って＝

ウイリアム、エルダー

私はアメリカにある兄弟に付き又その兄弟の目を通して眺めた日本の教会について簡単に書きたいと思います。先ず日本という国に、又日本の伝道に関心が深いことです。而し日本の社会については割合に詳しく知られているのに教会については大ざっぱな印象しか持たず、あまり詳しいことが知られておりません。結局日本の教会には活気がないという印象が強いようです。

私達にも責任があると思いますが伝道の伸悩みを強調し過ぎて全然成長がないという間違った印象を与えたようです。教会は私達が望む程伸びてはいないが矢張り成長している、生きていると話したら大変喜んで貰えました。又伝道の困難については、こういう忙しい物質的に生活向上の精神に覆われている社会の中での伝道の困難を話したら理解し同情してくれました。アメリカにも似たような問題があるからです。而しもう少し教会のやっている事や成長しているところを皆に知らせたらいゝと思いました。

援助資金を沢山貰う為ではなく兄弟が悩みを共に悩むと同時に喜びを共に喜ぶことが出来る為にです。

向うの教会を訪問してよく聞かれた事は日本の教会の献金に付いてでした。外国からの資金に頼る事の危険を認めている人が案外多かった。日本の教会が全力を尽した上で不足を補うのであれば問題はないが。而し実際に現状を知らないという人が多かった。之に対しあまり大きなことは云えなかったが内国伝道献金、海外伝道、十億献金運動について話したら喜ばれ、成績の如何よりもそういう方面に力を尽していることを始めて聞いた人が多く大変喜ばれました。

特に日本の教会は海外の伝道に責任を感じていることは大変好評でした。之はまだほんのしるしと云わねばなりませんがそのしるしは大変意義深いものです。

最後に私は昨年一つの宿題を持って帰国したのですがそれは一昨年アイゼンハワーの訪日中止後IBCの援助資金が沢山きたがそれは反共の為に日本の教会を強める目的で至急に送られたのではないかという話が公には出なかったが影にあったようだ。IBC責任者の中ではそういうことはあり得ないと知っていたが信徒の中にそのつもりで献金したものがあったどうかという宿題でした。ア訪日中止について度々質問を受けた。それに答えてから私の方からそういう質問をすると不思議そうな顔ばかり。ア訪日中止の為に献金しなくなった人が少しはあったようです。それまでやってきた献金の信仰的根拠に付いて疑問を持たれるが大多数の兄弟が伝道の為の献金とそういう事件とを切り離して考えているようです。

教会の会計年度が五月に終る。向うでも負担金や協力資金を月々に送らないで年度末にあわてゝ送る教会がある為に丁度その時期に協力資金が沢山入ったという平凡な説明しかないようです。

この度強く感じたことは、向うにある兄弟が世界伝道の協力について、時々思われているよりも素直な態度をとっているということでした。「お互のことをもっと詳しく知るべきです。同じ主の兄弟だから。」

（東中国教区宣教師）

新たに教区駐在宣教師として岡山に着任されたポール・グリーシイ宣教師御紹介

（略歴）

一九三三年三月北米アイオワ州ベルモンドにて御出生

一九五五年ミネソタ州カールトン・カレツヂ御卒業

一九六〇年エール大学神学部御卒業

一九五五―五七年同志社高校にて英語教師をされカールトン大学、代表者をされた。

一九五九年アメリカン・ボード宣教師として任命さる。

一九六〇年北米会衆派教会に於て按手礼を受領された。

一九六〇年―六二年京都にて日本語を学習された。

（写真は次号に掲載いたします）

特に青年及学生伝道のために御奉仕されるが、その清潔なお人柄と若々しい覇気は、青年の良き指導者として活躍されることであろう。

予告

第十七回

岡山県信徒大会

日時　十一月二十三日（金・祭）

午前十時―午後四時

場所　岡山市後楽園内鶴鳴館

講演及講師

「科学と信仰」

東大教授・物理学者、理学博士

日本基督教団豊島岡教会牧師

昭和三十六年朝日科学奨励金受賞

西川哲治先生

「文学とキリスト教」

文芸評論家

二松学舎大学教授

日本基督教団中渋谷教会役員

佐古純一郎先生

独唱　神戸女学院教諭

松本勝代先生

▽西川講師は講演後、質問を受けて下さいますから、予めお含みおき下さい

以上の通り開催致しますので一人でも多くお誘合せの上、御出席下さいますよう御案内申上げます

岡山県信徒会

教区デー聖日礼拝出席及献金表　（未報告教会は省略）

教会名	礼拝出席	献金
山	101	4,000
岡山町	39	1,500
岡山信愛	80	10,000
岡山博愛会	22	2,120
天城	25	800
倉敷和西	121	5,000
倉敷平	16	400
倉敷	35	1,500
倉	24	1,100

教会名	礼拝出席	献金
山野	20	1,000
津島岡東	55	3,000
玉	39	3,000
笠岡	26	1,500
児島人	35	1,500
浦（婦人会）	28	2,445
高屋	18	1,000
井	14	（後報）
	13	（〃）

教会名	礼拝出席	献金
梁	48	（後報）
中国	12	650
新	18	700
総吉和	15	500
久勝寄	13	300
島	9	500
見社備気世山	13	600
治	9	500
宇	8	580

教会名	礼拝出席	献金
鴨方駅前	19	1,000
十文字平和	34（子供20）	550
赤	12	600
有	10	500
鳥	94	3,000
鳥取生協	17	1,180
鳥取新東部	10	780
鳥取信和	16	500
鳥	37	2,335

教会名	礼拝出席	献金
米子錦町	33	1,000
倉吉東部	9	410
境	19	300
港	16	630
用瀬頭野	13	（後報）
日吉勝寺	13	450
伯法明	30	900
西倉吉	23	962
伯	13	700

教区伝道部ニュース

秋の収穫期を迎え各教会に於いて、夫々伝道活動を力強く進めて居られることと存じます。報告と連絡申上ます

一、本年度教区デー一斉講壇交換は、去る九月九日に行われました。（三面参照）

二、講師派遣伝道は、九月十一日—十八日まで本田清一牧師を迎え十教会、九月十四日—二十七日まで常田二郎牧師を迎え十教会にて行われました。加藤常昭牧師は急病のため御来援いただけず、準備された教会には御迷惑をおかけしたことをおわびします。

三、昭和三十八年度教団集中伝道教区として、中部教区と共に指定されました。具体的計画を協議検討中であります。大きな幻と計画を以て次年度の教区伝道活動を進めたく思います。（来年一月中旬このための臨時総会開催される予定であります）

四、さきに信徒伝道要員表をお届けしましたが、各教会で大いに御活用下さい。伝道部委員長宛交渉の上お進め下さるようお願いします。又実施後は必ず御報告下さい。

五、教区巡回教師（壺井、長坂、永田善、戸田四牧師）について、各教会はどうぞ積極的にお申出の上お用い下さるようお願します。

（讃美歌委員会報告）

十月二十八日（日）午後二時より六時まで岡山教会にて岡山地区教会オルガニスト講習会

（講師）聖和女子短大教授　柳原豊彦氏

多数御出席下さい。

（尚当日午後七時より宗教改革記念音楽礼拝が行われグリーシイ宣教師指揮にて市内有志連合聖歌隊の合唱がなされます）

農村伝道委員会

関西五教区

農村教会教職協議会

主題　地域社会に於ける教会

日時　十一月五日（月）～十一月七日（水）

会場　兵庫県飯盛野

関西農村センター

会費　会費五百円（教区より補助）旅費二等実費（センター補助）

申込　十月末までに教区農伝委員長まで。

講師　教団農村専門委員　相沢良一牧師

詳しくは後日案内します。

青年伝道委員会

夏の諸集会報告

◇第八回教区KKS修養会

八月九、十、十一日二泊三日間、大山理観院にて。参加者四七名。受洗以前の高校生が大部分。霊的飛躍の与えられた会でした。

◇教会青年協議会

八月二十、二十一日一泊二日、岡山まきび荘にて。参加者三十名。平和、結婚家庭、職場における人間関係の三分科会に分れて極めて充実した会をもった。

（秋の集会予告）

◇鳥取県青年大会

十一月二十二、三日　鳥取教会にて



中学生大会礼拝（於岡山教会）

教育部

岡山県中学生大会。初の試みとして六月十七日に岡山教会で開催「光の子らしく歩きなさい」と小寺昌良牧師の説教で始められ、岡本、白神両牧師のゲーム指導により一同笑いの渦となった。一三五名の出席者に会場も小さく見え、小さい予算は忽ちはみ出し委員をあわてさせた。尚鳥取地区での開催も考えられている。

地区別CS教師講習会は明年一、二月に開催予定。別に各地区教会で希望があれば長坂、小寺、岡本、田井中の各牧師を巡回教師として依頼してありますのでお願い出来ます、教育部まで。

以上の活動のために近く特別寄附をお願い致しますが、是非御協力をお願い致します。

社会部

一、教区内保育所保母のための夏季研修会を八月十三日から二日間、津山教会で開き約三十名参加、教区派遣のチャプレン戸田牧師の霊的指導の下にデボーショナルな二日間で他の講師は岡山県中央児童相談所奥山典雄氏のほか更井、辻井の実際問題についての教導あり津山教会田町保育園の諸先生の懇切な御世話は感謝でした。恵まれた記録です。

二、九州、近畿、中部地方の水害見舞金有難うございます。

三、クリスマス献金を今からお願ひ申し上げて置きます。

四、保母、看護婦の志願者（来春入学）を今から御用意下さい。奨学金の特典があまります。

教会だより

岡山博愛会教会（更井牧師）

この度東京教区より篠原貞雄、同せつ両氏を担任教師として迎えられた。

虫明伝道所（原田牧師）

くすしき導きのもとに家屋を購入し、改造の上これを会堂として、去る九月三十日教区総会議長壺井牧師司式のもとに献堂式を挙行された。尚去る十四日本田清一牧師を迎えて特別伝道集会を挙行されてそれぞれ五十名の出席者があった。

《個人消息》

長坂政代氏（岡山信愛教会牧師夫人）

かねて御療養中であった同氏は去る八月十八日永眠になり翌十九日密葬が行なわれ、二十六日午後二時より同教会に於て告別式が執行された。会葬者五百、尚告別式は木村蓬伍牧師が司式をされ同教会及び二葉幼稚園の合同葬として執行された。

篠原貞雄、せつ両氏

船橋教会を辞され八月中旬より岡山博愛会教会担任教師として就任された。

脇本寿氏（旭東教会牧師）

津下病院より退院せられ目下自宅にて療養中御全快を祈ります。

藤岡友幸氏（児島教会牧師）

去る九月十日次女を与えられ「ひかり」と命名された

太田静湖氏（太田琢次郎牧師夫人）

今回「獄舎より宮殿へ」を出版された。尚同氏は毎月「わがよろこび」を発行されておられる。

ポール・グリーシイ氏

教区の駐在宣教師として（特に青年及学生の伝道のために）岡山に住居されることとなり、去る八月二十九日着任された。近く住宅が決定する運び。同氏に連絡の向きは教区事務所迄御一報下さい。

イマイ・ヒサコ氏

社会事業関係の宣教師として岡山博愛会に奉仕されることとなり、九月三日赴任された。住居は博愛会内である。

鎌谷襄氏（八頭教会副牧師）

米国オベリン大学に留学中であった同氏は帰国され、同教会を辞し、京都同志社女子中高聖書科教師として赴任された。

加藤俊行氏（米子教会牧師）

去る六月十七日、次男御出生「栄嗣」と命名された。

村島宏氏（倉吉東部教会牧師）

七月十一日長女を与えられ、「仰」と命名された。

三島康男氏（倉敷平和教会牧師）

健康上の理由のため、十月十四日を以て倉敷平和教会を辞任され、笠岡に帰って当分静養される。

本田清一牧師

常田二郎牧師

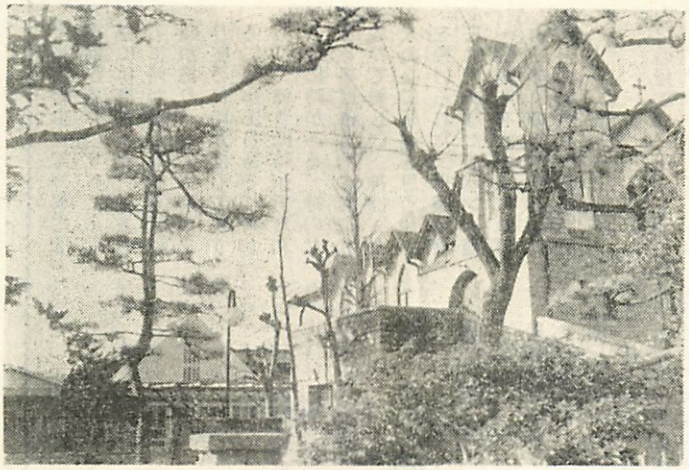
本教区の秋期伝道講師として、九月中旬より下旬にかけ各教会の集会を応援された。

東中国

No. 17

教区報

内会務所　102 岡山教会 岡山教区事務所
発行所　102 岡山教会 下山中東教団 中東中国教区 東中基督教会 東山市本町
発行日　1962年12月25日



及堂会教敗倉ある史歴
舎園稚幼たされ築増

説教

『愛の降誕』

ルカ・二の一〇

藤岡友幸

クリスマスを迎える時、誰れもが色々とその為の備えと反省とを致します。その時にふと、とらわれ易いのが「クリスマスは宗教的な行事なのだ。信仰を持たない人々には関係のないことだ。」そうしてとかく、巷でのにぎわいに対して教会だけはと批判の目を向けたくなるものです。

確かに神の御独り子イエスキリストの御降誕を祝うのですから、イエス様を信じる教会に於てこそ……と。しかし、こうした考えの裏には多くの場合誤つた（選民意識）があるものです。

主イエスは私達だけのもの、私達の教会のためにだけ来られたのですと。本当にそうでしょうか。

最近、私は一人の方から「私は無信仰です。宗教は信じたくありません」と牧師であることを承知で云われました。その理由は「信心をする人々があまりに身勝手で、何がしかの献金でもつて実に多くの事を願うからです。若しその神様が祈る人の前に生きて面と向つていたらどうでしょう。恐らく相手にもしてくれないで出直して来いと云われるでしょう。私はそうした信仰は持ちたくないのです」と云うのがその大要でした。多分この人は世間に多くある新興宗教を指して云われていたと思います。しかし、私はこの言葉によつて本当に考えさせられました。〃私達の信じている神様こそ本当の神様だ〃この信仰こそ本物なのだ〃と云い乍ら一体私達は本当にこの人の言葉じやないけれど、生きた神と面と向つて生活しているであろうかと。

今私達は主イエスの降誕を迎えようとする時、私は皆さんに向つて卒直に「皆さん、クリスマスお目出度う」と誰れに向つても云いたい。巷でこの日を利用しようとする人々にも、又は主を否む人達にもこの日は「すべての民に与えられるこの大きな喜び」として来られたのですから。

今日、だれもが充分に満足な生活を営んでいるとは云い難いでしよう。たえず満されたいと願いつゝ、何かに手がかりを求めているのです。それが時に多くの人を誤つた道に導くのです。

こうした皆が等しく求めつゝ日々をあえぐ姿の中に、お互い根本的に欠けている何かを感じないでしようか。

私はそれを今日に欠けた最も大きなものとして「愛」があると思う。あらゆる悲惨な出来事の根源を探るとき、そこにはいつも「愛の欠点」を見出すからです。〃もつと何とかならなかつたのだろうか〃と歯噛みする様な出来事が起る度に考えさせられる。真実の愛があれば解決される問題、真実の愛こそが解決のきめ手となる問題ばかりなのです。イエス様が来られる前の時代は暗黒の時代だと云われています。政治的に、社会的に、経済的にそして宗教的にも、光の少い時代でした。その原因の最大のものは、ローマ帝国の圧政にあつたと云えるのであります。それは愛や正義とは遠く、特権階級の人々が富むための政治であつたからです。根本に愛の無い政治はみじめです。どうして民が幸福になり得ましよう。そして宗教までが権力の片棒を担ぐ様になつてしまつては、もはや光はどこにもないのです。時代が変わり、背景は変つても今日と云う舞台に演じられているものゝ底にあるものはやはり同じものです。刀や弓がピストルや機関銃に或は水爆に変わつただけで、それは文化的になつたと賞讃するわけにはいかないのです。現代と云う世界も、やはり愛によつてではなく、力によつて支配されている限り、そこには真の光はないのです。

ヨハネはキリストの誕生を愛の誕生と見ています。そしてこのキリストこそ世の光、暗黒に住む民を照らす世の光だと宣言しています。又イエスの全生涯を見究めて「主は、私達のために命を捨てて下さつた。それによつて、私達は愛と云うことを知つた」と云い、又同じことをヨハネ第一の手紙四の十では「こゝに愛がある」とイエス様の真の姿を示しています。それだけでなく福音書では、ここに生れ出た愛がどの様に生きて働き私達にもたらされた意味についても深く証言してやまないのです。真実の愛はあらゆる問題を解決し、そこに光を投じてゆくのです。それがあまりに強いとき、私達はその事の理解に苦しみ、或はそれを奇跡とすら呼ぶのです。しかし、そのことは逆に云えば私達が如何に愛のないものであり、愛のない世界にあるかを示すものでないでしようか。私達の愛は真実の愛を理解出来ないほどに不真実なものであつたのです。

主イエスの誕生は、そうした私達の故にこそなされた出来事ではないでしようか。不真実は必ずしも教会の外だけでないのです。教会の置かれている此の世全体がそうなのです。

「すべての民に与えられるこの大きな喜び」は、実にそうした私達の時代のためにも光として与えられたものでないでしようか。

生きた主イエスを、本当に私の生活の中に、又私達の時代に迎えるクリスマスであれば、私は本当に声を大きくして「皆さんクリスマスお目出度う」と云わずにおれないのです。

又主イエスの降誕に於て真実の愛を知つたのであれば、私は謙虚にこのキリストの前にひれ伏し、先ずその愛に満され、その愛に生かされて、その喜びを力一杯に歌うものでありたい。

（児島教会牧師）

クリスマスのおもいで

クリスマスは、わたしたちの魂のふるさと——
誰の心にも、温いクリスマスの思い出は、数々あろう。ここに、ユニークな各地のクリスマスを語っていただいた。わたしたちがほんとうのクリスマスを祝うために——

田舎町のクリスマス

戸田伊助

私の郷里は福島県会津の小さな田舎町です。人口七千位。私はそこで生れ、そこで入信しました。戦後、神学校に入つてからも、休みには必ずといつてよい程、毋教会にかえり、何かと手伝いをしたものです。

ここでのクリスマスで、思い出すのは『町民クリスマス』です。これは、牧師がクリスマスは教会だけのクリスマスであつてはならないといつて、町の公民館や民生委員会の協賛をえて、生活保護者への愛の運動としてその募金も含めてやつたクリスマス祝会でした。計画、プログラム、運営など一切教会で受もち、新富座という町唯一の劇場を借用して、華やかに、といつては少し誇張がありますが、とにかく、町の一般人を約七、八百人あつめて開催いたしました。

短いメツセージから始まつてCSや青年会が準備した劇やら歌やら遊戯やら、今から考えると、誠に田舎くさい、幼稚なだしものではありましたが　とにかくにぎやかに幕をあけ、成功裡に幕をとじました。私も一役かつて、たしか童話をやつたと覚えています。

それ以来、この町民クリスマスは町のかなりの人気をえて、毎年続けられ、多分、今でも続いていると思います。

クリスマス、シーズンは何といつてもキリスト教会のシーズンで、これは一般人も認めている所です。この時をのがさず、町の中へと舟をのり出して網をはる程の大きなスケールをもつて臨んだ牧師の構想は、たいしたものだつたと今も思つています。

（葦山町教会牧師）

シベリヤでのクリスマス

益田いずみ

クリスマスを祝日としない国となつたソヴイエツトに四年間囚人生活をしていたのは、今から十三年も前の事である。

一九四九年シベリヤの森の女囚ラーゲリにも、うつかりすれば生命をうばう零下五十何度と云う冬が、のしかゝつていた。八百人もの各年令層の女囚—思想犯—が強制労働にあえいでいた。神を否定する政治は、神を信じている者達を容赦なく、思想犯罪人として、十五年から廿年という刑をきせて北の果のかこいの中に放り込んでいた。

社会にいると、祈ることも信仰の話をする事もビク〳〵しなければならぬが、此の囲いの中の住人は出来る丈け祈り又信仰の話をして明け暮れている。クリスマス前々日（ロシヤ暦故一月五日）各重労班は労働の帰りに、看視兵の許可を得て、樅の木（二米位の）を雪の上をひきずつて帰つて来た。特別許可で獄門を通過して各バラックに運ばれた。家族から来た手紙の用紙などが薬や粘土の液で染められ、色々なものが作られていつた。自由社会では、価なきホゴに過ぎない。樅の木は心のこもつたホゴから生れたデコレーションで飾られた。労働から帰つた彼女達は、コツプ一杯の水で顔や首を拭いツリーのまわりに並んだ。

ウクライナ人の二三人が式禱をとなえ、皆それに唱和した。ミサを詠じている彼女達の顔は、どんな時よりも美しい。或人達の頬はぬれていた。自分の子らの顔が胸に拡がつているのだ。そして彼女達には再び得られないであろうムードの様々が頭の中に甦つているのだ。

思へば昔主イエスは、厩に生れ給うたのだ。そして間もなくパロの刃を逃れて、ナザレに旅し給うたのだ。

罪より我らを救う「道」として生れた給うたのだ。彼を信ずる者には、獄の中でも、不幸の中にも生命の光が輝いている。

楽しい、温いクリスマス、ムードの中で、いつも私の心には獄のクリスマスが尊く思出されて来る。

「重荷を負いつゝ世の旅路に悩める人々　頭をあげ栄あるこの日を頌え歌う楽しき歌声　きいて憩え」いづこにも響き溢れん事を。

（玉野教会員）

聖句随想

時と永遠

原田季夫

天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生まれるに時があり死ぬるには時があり、泣くに時があり笑うに時があり、黙するに時があり語るに時があり、戦うに時があり和らぐに時がある。神のなさる事はみなその時にかなつて美しい、神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた（伝道の書三章）あなたのパン（糧・穀物）を水の上になげよ、多くの日の後あなたはそれを得るからである（同一一ノ一）

人生の帰趨は、あせらず、怠らず、神の時に正しく歩調をあわせる所にあり、信仰の要諦は時を跳躍板に永遠への飛躍冒険をあえてすることにあるという事が、この伝道書の味わい深い聖句から私達の汲みとり得る事柄であろう。

私達は往々にして、神の時より先に飛び出して焦躁にかられるかと思うと、どうせなる様にしかなるものかと投げやりの態度となり、進みゆく神の御経綸より遙かに遠く脱落してしまうことは、目先きの事だけで生きている者にとつては愚かな無駄事である。然し信仰より生ずる愛の奉仕とはこの様なものであり、讃美歌五三六番には「報いをのぞまで人に与えよ、こは主のかしこき御旨ならずや、水の上に落ちて流れし種も、いずこの岸にか生いたつものを」と歌われている。

「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはなお一粒のままである。しかしもし死んだら豊かに実を結ぶようになる」と語られた御子キリストの十字架において、人生最大の冒険はついに達成せられ、この福音の勝利によつて、甦りなくば我らは凡ての人の中にて最も憫むべき存在であると叫んだパウロの永遠を賭けての生涯が始まり、朽ちる者でまかれ朽ちないものに甦り、卑しいものでまかれ栄光あるものに甦るという確信が生まれたのである（Ⅰコリント一五章一九、四二—四三節参照）

所詮、自己にしばられ時につながれた人間は、どの様にしても神に立帰り永遠に達することは不可能であつて、受肉のロゴスにより神が人となり永遠が歴史の時の中に入り来り給うた事により、始めて時は永遠となつたのである。

（虫明伝道所牧師・長島聖書学舎教授）

倉敷市福田北畝337（四福小学校前）
日本基督教団 **倉敷南教会**
牧師 岡本加都夫
役員一同
教区開拓伝道教会として、会堂建築のための御協力を感謝いたします。尚募金中でございますので、よろしくお願申上げます。

クリスマスの祝福を送ります。
新しき年に神の恵を祈ります。

鳥取市西町三丁目五一一
ウィリアム・エルダー
すべてをあらたにする主にあって新年を迎えられることを共におよろこび申し上げます

東中国教区宣教師
ボール・V・ゲリーシィ
岡山市上伊福絵図町三七〇ノ三
電話④一〇九〇番
心の清い人たちは、さいわいである。彼らは、神を見るであろう。

岡山市門田御成町一一四九
電②七二六一
二葉幼稚園
園長 長坂龍太郎
新しき歌を主にむかってうたえ

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つゝ走ろうではないか。」
ヘブル人への手紙十二ノ二
岡山信愛教会
江口毅

岡山信愛教会
関幸子
岡山市大供表町一丁目一七三
電③一〇三三
光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかつた。

食事・会合に
御利用下さい
禁酒会館
主事 今田吉助
岡山市城下
電②6297
（岡山）

岡山教会
牧師 壺井正夫
役員一同
岡山市東中山下102　電②8074

岡山教会の書籍取次部を御利用下さい。
（聖書、さんびか、書籍の取次をいたします）

楽山学院
習字及び珠算教授　（信愛）
桂華 岡本慶夫
岡山書道院理事
習字教室誌総務兼支部長
岡山珠算振興会会員
いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい
（テサロニケ人への第一の手紙5：16-18）

クリスマスで生れ変つたようなお互いさまであるように
岡山市花畑三七
社会福祉法人岡山博愛会
更井良夫 美子
電②七四一七

脇本寿
西大寺市川崎町
病臥中の御加祷、講壇の御応援、数々の御厚情感謝します

実兼又八
（旭東）
西大寺市渡場町
満九十才を迎えました

家野猛之
（旭東）
西大寺市浜

岡山市門田屋敷三七
水野浩四
（蕃山町）
しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持つている。（コリント人への第二の手紙四ー七）

岡山市七軒町四
（電②〇三六〇）
船越小児科
船越澄江
（信愛）
わがたましいよ、主をほめよ、そのすべてのめぐみを心にとめよ。

琴浦教会
牧師佐敷重雄
伝道師小橋孝一
御心配かけました病気も殆んどよくなりました

永沢歯科
（信愛）
永沢正矩
岡山市上伊福今町一七一
電③八三四二
わたしを尽くして下さる方によつて何事でもする事が出来る

新建材の店
光田商店
岡山市柳川交叉点角
TEL ③6940
信仰の戦いを立派に戦いぬいて永遠の命を獲得しなさい。　（岡山信愛）

倉吉教会
滝口勝日出子
倉吉市仲之町七四二

皆さまの暮しに奉仕する店
福屋
FUKUYA CHAIN
中之町店　地着服肌メード／婦人レディメード
栄町店　雑貨品／洋品寝具
奉還町店　洋品料／食料
岡山・TEL
中之町店 ②5514
栄町店 ②4884
奉還町店 ③6496
（岡山）

高屋・井原教会
小寺昌良
和子
井原市西方町八一八

司法書士行政書士（蕃山町）
田辺楠太栄一
岡山市弓之町八一（電②七五五三）

岡山YMCA英語学校
岡山YMCA
理事長　更井良夫
理事　同一郎
主事　鷲見昌太
"これみな一つとならんためなり"

児島教会
藤岡友幸
シゲ子
羊子
ひかり
児島市味野錦町二八七六

児島教会
大島捷六
達子
児島市味野

倉敷教会
牧師田井中純作
伝道師広沢和人
伝道師白神章道

倉敷教会
林源十郎
詩篇二三篇

倉敷市新川町三九三（倉敷）（電一〇九）
大橋公夫
子たちよ。キリストのうちにとどまつていなさい。
（ヨハネ第一・二の二八）

倉敷教会
天野宗明
倉敷市酒津倉敷レイヨン北社宅

倉敷教会
三並弘文

倉敷教会附属
竹中幼稚園
園長竹中みつ
主任神崎玉枝
昨年十一月、創立四十年記念式をいたしました。

高梁教会
井殿園
福江
高梁市柿木町二六

耳鼻咽喉科（高梁）
桑内成郎
高梁市松山2050

岡山県高梁市柿木町二〇番地
尾島眼科医院
尾島英之
（高梁）

久宗壮
美加
（美作）
岡山県久米郡久米町中北上
電話坪井五一番

智頭伝道所
鳥取西部伝道所
有田実
細川美代子
役員一同

米子市角盤町4丁目
沢タク観光バス営業所
TEL 米子代②3131
沢タクハイヤー営業所
TEL 代②2105（駅前）
②2283（角四）
②5656（皆生）

新春を迎え、皆様の上に主の御恩寵を祈ります
米子教会
新達治

栗原小児科
栗原正
（旭東）　西大寺市市役所前
TEL 362

クリスマス特価提供

▼クリスマスが近づきました。当出版部では平素のご利用を感謝して、左の三点に限り、特価提供をいたします。
▼特価　定価の一割引
▼期間　十一月二十日～十二月末日
▼教会員の皆様に御推薦下さいますようお願いいたします。

日本基督教団出版部
聖書事典　三版
▼堂々二三〇頁にわたる"総説"
▼豊富な図版と貴重な年表類
▼三千数百に及ぶ中、小項目
クロス装　特価　一、五三〇円（定価一、九〇〇円）
背皮装　〃　一、八〇〇円（〃　二、三〇〇円）

口語
旧約聖書略解　十一版
クロス装　特価　一、一七〇円（定価一、三〇〇円）

口語
新約聖書略解　十三版
クロス装　特価　九〇〇円（定価一、〇〇〇円）

C・ブルームハルト著　加藤常昭訳
タベの祈り　〈最新刊〉
著者は南ドイツで家の教会と呼ばれる共同体を指導し、トウルナイゼン、バルト、ブルンナーらに大きな影響を与えた。本書は第一次大戦の前後の混乱の中で、ひたぶるに祈つたその記録であり、信仰とは何んであり、祈りとはいかなる行為であるかを、深く示すものである。　A6判　価三八〇円　〒50

日本基督教団出版部
東京都中央区銀座四の二
振替東京一八八三二九

教区の臨時総会を開催する理由

壺井正夫

教区規則第十五条に依り来る一月十四日、十五日に臨時総会を開くことを常置委員会に於て決定し、既に議員の方々へはその通知を差上ておりますから御承知頂いていることゝ存じます。今回は二つの案件が議せられます。その一つは「教団の伝道資金並に教団基金募金に関する件」で教団は三十八年度より向う五カ年間を第一期として四億五千万円を右の資金並に基金として募金する計画をたて更に四十三年度より向う五カ年間を第二期として同額四億五千万円を募金する計画をたて、去る十月開催された第十二回教団総会はこの募金案を可決したのです。可決した第一期募金額のうち、「東中国」はその引受額を二百七十万円という目標のもとに教区内のみなさまより御献金を御依頼することゝなりました。この目標額の最高の教区は「東京」で六〇七〇万円、最低の教区は「奥羽」で二三〇万円です。

わたくしどもはこの二百七十万円を向う五ケ年間に於てどのような方法をもつて募金を実施したならばよろしかろうか、を各教会を代表される議員のみなさまと共に御協議申上たい。二百七十万円を五ケ年に於ての募金ですから平均して一ケ年五十五万円ということになります。

去る教団総会に於てこの案件が可決をみるまでには既に基督教新報に依つて報道されたように賛否両説、なかなか激しい議論がたたかわせられました。

もともとこの案件は二年前第十一回教団総会に於て「教団の伝道基金および資金募集に関する件」（第十一回教団総会議事録五一頁参照）として可決承認されその具体化は常議員会に付託されたもので、今秋の総会に於てはその募金の具体化された計画案が報告され、その報告を総会が承認したならばその立案によつて募金は実施されてもよいとの見解がなされていたのです。私はたまたま今秋の総会での報告審査委員会の委員長に選任されましたので、この募金の件は、ただ報告にとどまつて議せられるものでなく改めて議案として議場に提出の上、論議をつくして決定すべきであると提案し、議場もまた分科会もこの提案に賛成。その線にそつて改めて本件が議案として上程され、論議の後、可決されたものなのです。またこの案件はもともと信徒の献財運動として建議提案されたもので信徒が中心となり信徒の「たまもの」をもつてなされる宣教活動の一つとして理解されるものなのです。教団総会に於て慎重論を述べたものは主として教職達でした。結局この募金の目標の額が満たされるか否やは天父の加護におすがりして「わたくしどもは宣教への熱意を披れきする精神運動として実施し努力しよう」という強い信徒側の熱望によつて教団総会はこの案件の可決承認をみたのです。

故にこの募金は決してやさしいものではないことを覚悟の上で、敢えてわたくしどもの信仰により頼みて実施しようとするのです。

どおか来る臨時総会に於てみなさまより充分、建設的な御意見をうけたまわり、わたくしどもの教区の募金活動を進めたいと願いますし、また本件に関して御承認と御協力とをお願い申し度いのです。

ちなみに三十七年度に於いて教区より既に御依頼申上ておりますものは、この募金と同一ではありますが前記第一期計画に入る前に信徒有志を対象として募金する六百万円のうちの御依頼で、教区の募金委員会は三十八年度にそなえて三十七年度の教区の募金額を三十万円として御依頼中です。この件もよろしくお願い致します。

次に「三十八年度の教区に於ける教団集中伝道案に関する件」ですが、教団伝道委員会はかねてより伝道十カ年計画を提唱し本年より既に実施しております。これもまた第十一回教団総会に於て第二回宣教基本方策研究協議会の開催が議決を見、三十六年十月にその協議会が開催されて宣教基本方策の樹立をみたのです。その線にそつて伝道十カ年計画がたてられ、そのうち三十八年度の伝道計画に「教区別集中伝道の実施」というのがあり、この集中伝道が「東中国」と中部教区に実施されるのです。

この集中伝道は大きな一つの目標をもつています。それは小教会の強化をはかり自給教会の形成を推進し、教区の着目する地区に新伝道地を開設するというのです。これが具体案については教区内の各地区に於て協議中ですが、それらの希望を基礎にしてまとめた計画案を臨時総会に於て検討し、併せて特別会計による集中伝道費予算案を御審議願い度いのです。

これらの重要な案件のために臨時総会が開催されるのですから教区内各教会、伝道所は議員を派遣されることはもちろん、その節、教師、役員研修会も同日に行なわれ、これらの二件も充分御話合いの下さる機も作つておりますので、どおかみなさま御出席下さいまして、教区のため、また御教会のために御協議下さい。お待ち致します。

（教区総会議長）

第十七回信徒大会を顧みて

大橋公夫

本年の大会を顧みて特に目立つた事は若い学生青年の人達や家族ぐるみで御出席された方々をお見受けしてほんとに主にある大家族集会の気分が旺溢した楽しい集会であつた事だと思います。此事は信徒大会が段々自分自身の身近かに感じる様になつて来た現われではないかと思はれまして（会場が後楽園であつた関係もありますが）感謝と喜びの気持で一杯になりました。礼拝は小寺牧師の神国の食卓と題して我々が一人でも多くの人に聖餐にあづかる喜びに導き入れなければならないとのすゝめを頂き続いて聖餐の式を持ち主の最後の晩餐をしのびつゝ礼拝を終り続いて行事に移り其中で郷土出身でアメリカのデンバーで長い間信仰生活を通し活躍されて久し振りに日本に帰られ偶々大会に出席出来てほんとに感謝ですとの植田姉妹の御述懐には信仰者でなければ味へない真の喜びを我々一同も感じとる事が出来一層感銘を深うさせられたのであります。又水野顧問の信仰体験記の発刊の御祝をかねてかけつけられた堺教会の斉藤牧師の奨励の飛入りがあり異色ある活気にみちた午前中の行事を終り午後からはプリーチングミッションの講師庄古純一郎先生の「現代に生きるクリスト者」と題しての中で最近昇天された正宗白鳥氏の信仰に言及され先生がクリスト者としての最後を立派に現はされた事を承り励ましを与へられ感謝でありました。続いて西川先生の「信仰と科学」と題して日本にキリスト教が這入つて来た当時間違つた観念で（自然神学論）受入れた為に今日の信仰と科学の対立を来している大きな原因である理路整然とときあかしされ大いに教へられる処があり釈然とする事が出来て感謝であつた。最後に高塚先生の祈禱奨励には時間が大分経過し時間の都合で帰られた人が大分あつて先生には失礼を寛え御ゆるしを頂かねばならなかつたが御奨励には我々大いに反省し又玩味するものがあり一人でも多くの人に聞いて貰い度い気持でした。要之するに本年の大会はバラエテイに富み且有益な内容を持つ事が出来て感謝でありました。之も皆教区の諸先生の御理解ある御指導と御援助に加へ皆様方の信徒会へ寄せられる愛と特に岡山市内教会の皆様方の献身的な御奉仕とによりまして成功裡に終る事が出来ました事を紙上をかりまして厚く御礼申上げる次第です。

尚申遅れましたが、当日の出席者は二八〇名有志献金及礼拝献金共に目標達成を与えられ感謝でありました。

（岡山県信徒会理事長）



公告

東中国教区臨時総会

教区内
各教会・伝道所御中

教区規則第十五条に依り、左記の通り臨時総会を開催致しますから、何卒議員の方々が御出席下さいますよう、この段御通知申上げます。

昭和三十七年十二月十二日

東中国教区
総会議長　壺井正夫

記

一、日時　昭和三十八年一月十四日(月)午後六時より一月十五日(火)午後四時三十分まで
一、会場　笠岡市横島一九五三　於　岡山県青年の家
一、議案　(一)昭和三十八年度本教区に於ける教団集中伝道案に関する件
(二)教団の伝道資金並に教団基金募金に関する件

○議員の方々へは既に御案内致しました。
○十五日は「役員研修会」も同会場で開かれますので議員でない方々も多数御参加を歓迎致します。

教会だより

倉吉東部教会（村島牧師）かねて同市上井地区に新しい伝道地を求めて居られたが、十二月一日より倉吉市上井字板橋五三の三に移転して礼拝を始められた。

光明園家族教会（播磨牧師）癩園教会創立以来最初の全国癩園教会々議を十一月二十四日より三十日迄同教会を会場として開催され、関西学院大学神学部長松村克己氏他二名を講師とし、全国癩園より一九名の代表者を迎えて、癩園教会の一致を図つた。

尚十二月九日関西学院大学神学部松木治三郎教授を迎えて、新会堂献堂三周年記念礼拝を守られた。

吉備伝道所（永田実牧師）待望のオルガンを購入される由。

旭東教会（脇本牧師）都市計画により、会堂の一部改修と牧師館の新築工事に来春早々着手される由。

玉島教会（高塚牧師）プリーチング・ミッションによる来岡を機に、十一月二十五日西川哲治氏を迎えて特別礼拝を守られた。

倉敷南教会（岡本牧師）同右により、佐古純一郎氏を迎えて特別礼拝を守られた。

天城教会（山村牧師）今秋、教会堂老朽箇所の一部を修理された。

倉敷平和教会（牧師）無牧中教区伝道要員其他の応援を受けつつある同教会は、近く後任牧師を迎えられる由。

岡山教会（壺井牧師）去る十二月二日同志社大学神学部長高橋虔氏を迎え、主として信徒の教育面を目標とした朝夕連続の聖書講演会を開催された。

倉敷教会（田井中牧師）去る十一月四日、附属竹中幼稚園創立四十周年記念式を、前任飯清牧師を迎えて行われた。尚同園は記念事業として保育室及炊事室を新築された。



原牧師と播磨牧師　虫明伝道所の庭にて

≪個人消息≫

ウイリアム・エルダー氏（教区宣教師）旧聞に属するが、去る八月下旬一年間の休暇を終えて帰国され、従前の通り鳥取に駐在し活躍して居られる。

ポール・グリーシイ氏（教区宣教師）新住居を岡山市上伊福絵図町三七〇の三（電④一〇九〇）に定められ、活躍して居られる。尚同氏は料理、家事一切の世話を依頼出来る家政婦（住込可）を求めて居られる。

小畑峰子氏（教区青年伝道委員・岡山教会役員）去る九日岡山教会に於て、片山淳氏と結婚式を挙げられた。尚同氏は先般詩集「檻の中で」を自費出版され、斯界に於て好評である。

小川政雄氏（岡山教会役員）去る十一月十四日、岡山県に於ける私学功労者として県知事より表彰を受けられた。

水野浩四氏（蕃山町教会役員）同氏は「土器に宝を盛る」を出版されたので、去る十四日竜正堂に於て出版祝賀会を行われた。（四十名出席）尚同書は教区事務所に於て取扱われて居る。（一五〇円、〒三十円）

正保文男氏（蕃山町牧会役員）去る十月十四日、蕃山町教会に於て亀井栄子氏（広島教会員）と結婚式を挙げられた。

松浦晋也氏（倉敷教会役員）去る十一月三日、倉敷教会に於て三上小波氏（同役員）と結婚式を挙げられた。

脇本寿氏（旭東教会牧師）当分の間、岡山市門田文化町八二七（電③二八六六）に住居されることとなつた。

竹中みつ氏（倉敷教会役員）大正十一年九月一日、竹中幼稚園を設立されてより、四十周年を迎え、去る十一月四日その記念式を行われた。発足以来四十年間園長として尚健在に活躍して居られる。

原田季夫氏（虫明伝道所牧師）去る十一月二十九日、全国癩園教会々議開催中、同師生涯の念願であつた長島聖書学舎、献堂を見た。尚同学舎には八名の学生が勉学中である。

田賀今治氏　多年にわたつて西伯法勝寺教会の専任信徒伝道者として奉仕された同氏は、九月末を以て鳥取の御家族の許へ帰られた。

文化講演と音楽の夕

岡山集会の印象

二十四日(土)夜、天満屋草川会館のソフトな感じのする会場に、定席八〇〇大体一杯になつて幕が開かれた。始めに、ポールグレシイ宣教師指揮による市内教会連合聖歌隊の合唱があり、会の前奏的役割を十分に果した後、開会の挨拶、聖書朗読、祈禱、本論に入つてまず佐古純一郎氏の講演となつた。非常にきまじめな緊張を感じさせるかと思うと、思わぬ爆笑がわくようなユーモラスな場面もあり、聴衆をたくみにとらえつつ、神の創造としての人間の尊さや、人間関係の問題など諄諄と説いて、私たちを納得させた。

次の松木勝代氏の独唱がよかつた。美しい音質、豊かな音量、見た目も美しく、特に最初に荒城の月という一般によく親しまれた曲をうたつたりして、会場をいいがたいしんみりした雰囲気に導いたのは、この講演会にふさわしく、演出効果万点。

西川哲治氏は、科学者の立場から、科学の限界をとき、科学が人間より優越している今日の状態を誤りとし、人間や宗教の重要性をとき、最後に聖書の奇跡解釈の問題にまでふれて、その静かな口調と共に人々を納得させた。文芸方面よりと異つた、科学方面からのこの問題へのタッチは多くの人々に開眼を与えたようである。

一言で云つて、いい会だつた。みんなそういつている。この会を成功させる為に市内の教会は約六万五千円というかなりの金を作つて協力した。これも成功。伝道圏伝道のよい試金石であつた。

（戸田記）

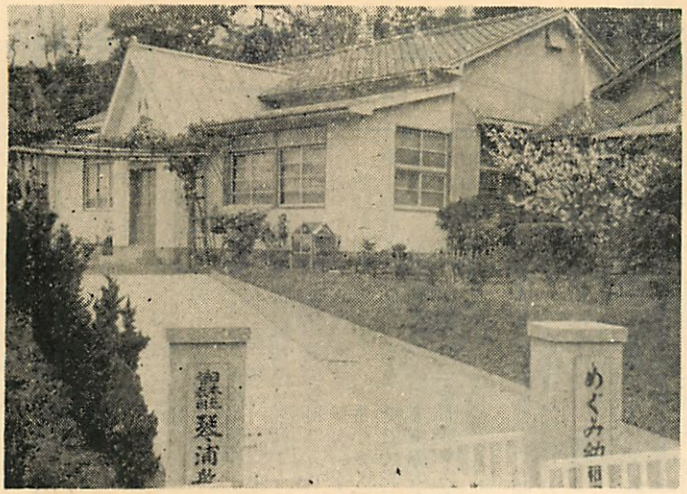


虫明伝道所献堂式にて（九月三十日）

編集後記

◇クリスマスおめでとうございます。
◇名刺交換は賑やかになりました。交わりのために大いに御利用頂きたいです。
◇年度末号（第十八号）は来年三月末に発行予定です。三月半ば迄に各教会ニュースや地区の模様など広くお知らせ下さい。教区各部ニュースもお寄せ下さるよう今からお願します。
◇良きクリスマスと新年をお迎え下さい。

教区報
東中国
No.18
発行所　岡山市東中山下102岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1963年3月31日



（琴浦教会及びめぐみ幼稚園舎）

説教

真の悔改め

ルカ一五・一―三二

戸田伊助

一

この放蕩息子の譬はよく知られた悔改めの物語であるが悔改めるとは一体どういう状態からどういう状態に変ることなのだろうか。

もし、ここで、それは放蕩という道徳的ふしだらの生活からまともなきちんとした道徳的生活に転向したことだ、と理解するなら（いかに多くの人々がそう理解していることか）その人はイエスのいわれた悔改めという事の真の意味を全然理解していないのである。

一体、この譬話は誰れに向ってなされた説教だったのだろうか。一節から三節をみよ。相手は遊女、取税人、罪人らではなく、律法学者、パリサイ人であった。つまり、この説教は遊女、罪人らのいわゆる悔改めを必要とする不道徳な人間たちへの悔改め説教ではなく、学者、パリサイ人ら道徳的生活者への悔改めの説教であったのである。

人々は問うだろう。どうしてまじめな生活をしている人々に悔改めの説教が必要なのか。イエスは相手をまちがえたのではあるまいか、と。しかし、まちがえてはいない。我々はここで、悔改めとは何であるか。もう一度根本的に問い直してみる必要に迫られるのである。

二

もう一度、あの放蕩息子の話をよみ直してみよう。弟は堕落して放蕩に身をもちくずしてしまった。しかし、よく考えると、放蕩という不道徳生活は一つの現象面、皮膚の表面に出たふき出物であってそれをふき出した原因は彼が恵みにみちた父から離れ、自力独力の世界を求めて出ていったということであることがわかる。

この父は実に恵みと赦しにみちている父である。失われた子の帰りを待っている父であり、自分の方から走りよってだきしめ、最上の装いを与え、楽隊をやとって死んだ者が生きかえってきたことを喜ぶ父である。父の世界は恩寵の世界である。

弟息子は父なしに、恩寵なしに生きようとした。その時本能に負けみじめになったのである。そして彼は悔改めてかえってきた。道徳的世界にか、否、恩寵の世界に。恩寵と、死人の甦りに己れをゆだねたのである。彼は恐らく今後新しい生活をするだろう。彼らしい、彼なりの実を結ぶだろう。しかし、何よりもそこには自由があり、悔いて砕けた魂がある（詩五一）

三

一方、兄息子はどうであろうか。実は彼も彼らしく堕落していたのである。彼は空間的には父と共にいた。しかし魂は遠く離れていたのである。その証拠に彼は弟の帰郷を父と共に喜べなかったし、かえって父の態度に非常な不平をすら抱いた。彼には自分は弟とちがい父の子としての十分な資格をそのまじめな生活によってかちとっているという自負心がある。そのためにその道徳的生活に解放された喜びがなく、自由がない、だから、他人をうけ入れ、共に喜ぶ広さがないのである。彼はまじめだ、しかし冷いエゴイストである。

こういう人間はいつも自分の事しか考えていない。どうしたら自分は俯仰して天地に恥じない者でありうるか。ひのうち所のない生活でありうるか。汲々として自己の道徳的完全にのみとらわれて生きている。道徳という呪文に縛られたせまい人間である。このような人は、その傍に助けを必要とする人が現れた時、こう自分に問う人である。

「この人に愛の手を差しのべるのは私の義務である。クリスチヤンであるからにはそうしなければならない」と。このように彼はただ自分への関わりからのみ行動する人間である。自分がクリスチヤンだろうがなかろうが、そこに助けを必要としている人があるなら、その人自身の救いの為に自分との関わりなしに手をのべるべきではないのか。しかし、こうした無心なことができない。こういう自意識にみちた個人倫理でしか行動しない人間と、あの父とを同一視出来るだろうか。このような人間こそ、まさに悔改める必要があるのである。

兄は弟と同じように父から離れている。そしてその病気が弟とはちがって道徳的エゴイズムという形をとってふき出ているのである。彼もまた悔改めて父のもとに自分を解放する必要がある。

四

一、貴きみかみよ
　悩みの渕より
　呼わるわが身を
　　顧みたまえや
　み赦しうけずば
　きびしき審きに
　たれかは堪うべき

二、世にある人みな
　力のかぎりに
　いそしみ励みて
　　正しく生くとも
　聖なるみかみの
　　恵みをうくるに
　たれかは足るべき

三、おのれの業には
　　少しも頼らず
　ひたすら恵みの
　　力をたのみて
　みことば畏み
　　疑うことなく
　のぞみてゆるがじ

四、わが罪あやまち
　　限りもなけれど
　底いも知られぬ
　　恵みの御手もて
　イスラエル人を
　　救いしみかみは
　げにわが牧者ぞ
　　（讃美歌二五八）

これは宗教改革者ルターの歌である。彼は若い時から極めてまじめに生きてきた人間であった。彼にはいわゆる道徳的な意味での罪を犯した覚えがなかったという。つまり弟息子のような放蕩の過去などない人間である。しかし、ここで彼が歌っている内容、その気持は、深い渕から出てきた人間のそれのようである。彼はほんとうに罪とは何であるか、神からの堕落とは何であるか、従って、救い、解放、悔改めとは何であるかを知っていた人である。彼はほんとうに恩寵の前に自分を投げ出していた人であった。

このルターの歌が心から歌えるような心の状態、それが真に悔改めている状態である。

（蕃山町教会牧師）

座談会

主題『明日の教会』

出席者

永田善治（鳥取教会牧師）
長坂竜太郎（岡山信愛教会牧師）
戸田伊助（蕃山町教会牧師）司会者
W・エルダー（鳥取地区宣教師）
壺井正夫（岡山教会牧師）
江口毅（岡山信愛教会信徒）
松本純郎（蕃山町教会信徒）
栗原正（旭東教会信徒）
佐藤仁之（笠岡教会信徒）
難波徹（児島教会信徒）

教団の14教区の中で、一番小さくて、まとまっているというのが、東中国教区の評判である。そこで三月四日、岡山まきび荘で、五人の教職と、六人の信徒が集って主題のもとに、お互いに考え話しあいました。明日への伝道教会を形成するため、お互いが血の通う教会となりたいものです。

教会役員のあり方と訓練

―役員の内実と奉仕訓練―

戸田＝「明日の教会」という主題ですが、先づ役員のあり方という問題から始めましょう。永田先生から御発題をどうぞ。

永田＝使徒行伝二〇章二八節に、役員は牧師と同じように教会員を訓練し、指導しなければなりません。教会の事務をする事だけが役員の仕事ではありません。牧師の教会から、役員も信徒も共に伝道する教会と成ってほしい。万人は祭司です。役員は神から召命をうけ、教会の伝道の業に携わっているわけです。ですので、こうした尊い役員の任務をはっきり意識していただくよう、教区か又地区で連合の研修会をやらなくてはなりません。

戸田＝お若い役員として難波さんいかゞですか。

難波＝若いわりに長い間役員をやってきましたが、どうも事務ばかりで。（笑）…すみません。

永田＝教職がもっぱら祈と御言のご用に奉仕できるよう（使徒行伝六章三）役員は教職の雑務を手伝う事は大切な用事ですし、又こうした配慮をして下さい。

難波＝自分の教会を反省するに、無牧中は役員は一生懸命伝道の業をしました。ところが牧師が赴任なさると安心してしまって、牧師に全部まかせてしまいました。確に、役員は協力して、少くとも牧師の教会から、役員と共なる教会にしなくてはいけませんね。

エルダー＝その協力という事に問題がある。協力というのでは、やはり牧師が先頭で一人でやっているのを助けるという感じはありませんか。これは逆ではありませんか。共に。……

難波＝そうですね。私の教会で感心な事は、役員の集会出席はほゞ百％です。しかし時間には遅れてくる。先日牧師に、集会時間に遅れてどうなるか。もし求道者がこれを見てどう思うかと注意されました。やはり役員は教会の指導者であり、模範者ですね。

松本＝役員が模範であり中心となるべきだ、その通りですが、働き手の役員程、他の仕事も多忙です。出席するだけでも大変な努力がいります。こうした事はよく牧師も知ってほしい。又教会とは無関係のような労働時間短縮問題でも、教会の集会を守るという事から大切なことです。こうした事にも関心をもってほしい。私は日頃考えている事ですが、労働組合に専従の幹部がいるように、教会役員が十人いても、一人位専従役員がいてもいいのじゃないかと思う。牧師の雑用をしたり、連絡とか、無理に牧師が出席しなくてもいい会に出たり。…そのため教会は、その人の生活費を或る程度出して働いていたゞいたらどうでしょうか。

永田＝同感です。さしあたり書記のような仕事をして下さる人がほしいですね。

戸田＝アメリカの教会では、このような役員がおりますか。

エルダー＝最近そういう役員を置いている教会がふえましたね。経済事務に明るい人で有給です。しかしアメリカの教会は、千人以上の教会員を持ってますから、これを直接日本に適応できますか疑問に思いますが、何らかの方法は考えたいものですね。

戸田＝役員の意識は、共に伝道するとか、又協力するとか又重役のような気持でしょうか。

松本＝重役のような気持もありますが、例えば牧師転任という問題がおこりますと、私達役員が中心になってやらなくてはなりません。ですのでやはり心の底ではいつも役員は教会の中心だと考えてます。

江口＝役員がよい意識をもち、よく働くかは、牧師の私達への指導によります。牧師がよく牧会して下されば、私達も充分働けます。

長坂＝重役役員が沢山いても困るが、つい教会財政が楽になると、一緒に働くというより、金を出す事によって教会の業をしたと思うようになる人もありますね。しかし役員はやっぱり、お茶をくんだりしなくては。―（丁度松本氏がみなさんのお茶を配られていたので一同大笑）―そこの点が、他の集りと違う。こうした気持が教会の大切な役員の意識と思います。又役員が三ケ月位交代で、会計のご用をする。すると教会の事情は解るし、自分の働きもよく解る。役員の中でも、ものすごく働く人と、何も働かない人の差はちゞめなくてはいけませんね。しかしこれは牧師の牧会の責任ですが。

エルダー＝そうです。役員はみな少しでも働く。教会員も少しづつ働く。これは「明日の教会」の大切なエネルギーです。

戸田＝役員会の組織は。

長坂＝役員会や教会で決めた事が、なかなかできないが。

松本＝できないにも二通りあると思います。なまけてできないのと、努力しても、その人が多忙で不可能な場合と。確に他の仕事が多すぎてできないこともありますが。

佐藤＝なまけるどこか、役員に選ばれて、礼拝にはほとんど出席しない人もあります。

江口＝ですので、なによりも大切な事は信仰です。信仰者としての役員です。礼拝出席をしなくて、役員会だけ出席しても駄目です。信仰こそ何よりも大切です。

永田＝出席しないため、何も知らない役員じや困るね。牧師が役員会で一つ一つ説明しなければ解らないなんて。教会のことはさっぱり知らん役員は本当に困るね。

エルダー＝お互いが教会のことを知り、教会全体が動かなくては。……

栗原＝本当にそうです。教会は一つの家族のように、お互いがよく知り、又全体で動かなくてはいけません。

長坂＝役員がマンネリになることがある。注意しなくては。たえず役員の霊的指導が必要です。

永田＝どうしても役員の訓練をしなくては。ぜひ必要です。

松本＝役員が転動して他の教会に転入すると駄目になる人が多い。どこに行っても充分役員として働ける人を教団、教区は考えておいてほしい。

永田＝転会すると信仰迄おとろえる人は確にあるね。

エルダー＝それはその人の教会観の問題であり、信仰の基本的なことですから、よく牧師は役員を指導すべきです。

戸田＝ある教派では役員は按手が必要とされている。しかも役員となったものはどこの教会でも通用する。

長坂＝いづれにしても、霊的指導の欠けたところに問題が起るようです。

―牧師へのあり方―

戸田＝ここらで牧師について話しましょう。江口さん御発題下さい。

江口＝牧師が充分伝道牧会に励めるよう教会員は一致して牧師に協力すべきです。体質改善の教会とはこうした生き生きした教会のことを言います。又待遇も世間並はしなくてはなりませんし、小さい教会への援助、教区、教団への援助も忘れてはなりません。

戸田＝なにか待遇改善で打開策はありませんか。

佐藤＝全教会が謝儀を負担金

のように教団に出して、教団から一律に渡す方法は。……

戸田＝プール制ですね。

エルダー＝教会員が自分とこの牧師を雇っている気持では駄目です。これを無くす意味に於てもプール制はいいです。

永田＝しかし実際にプール制は監督制度でないと無理です。今日のように招聘制度では。

エルダー＝監督制度でなくても若干の任命はいりますね。

戸田＝私は考えますのに、大教会の牧師でも公務員以下の待遇です。ですので全体を上げる献金の奨励運動を起こさなくては。或る所で聞いた話ですが十億献金運動と言うよりも、牧師待遇の倍増献金をしよう。……その方が十億献金よりなっとくができ、献金しやすいというわけですが。

松本＝同感です。又田舎の教会で育った教会員を都会の教会はもらってます。ですので都会の教会は田舎の教会に、謝儀をあげる義務があると思う。都会の教会は、自分のと又教区のためと謝儀を両方いつも考えていかなくてはならない。これなら監督制度でなくてもできますが。

永田＝そうした意味の負担金を集め、一定基準に達しないところに補っていく。教区でできそうですね。

エルダー＝自分とこの牧師のためしか献金しないのは、献金の主旨を知らないからですね。いつも自分の教会だけでなく、日本のために伝道することを考えて献金すべきです。

栗原＝日本伝道を考えないわけではありませんが、つい自分の教会すら満足にできませんのでつい弱気になります。その上今おっしゃった負担金が増すとなると、とてもかなわないです。（笑）しかしなんとか大きい、明日への教会を夢みてがんばりましょう。

長坂＝一般に日本人は金を出すのに、目に見えないことには出さない。持ってないのじやなくて、直接自分の生活に関係することしか出さない。

松本＝いい意味での寄附行為がありませんね。

戸田＝教会でも、本当に自分の教会の財政を心配している教会員は少ないですよ。

松本＝せめて牧師待遇は高校の先生程度でないといけません。これ位でいいだろうという考えは困るね。最低が高校の先生位でないと。

エルダー＝生活の貧しさにたえられるから牧師は立派なのだと言う考えもあるね。（笑）

松本＝牧師が御自分をそう考えられてもいいが、信徒はそんな考えをもってはいけない。

エルダー＝小さな教会は、伝道の事でとても苦労している。その上に生活の苦労をさしては伝道は駄目になってしまう。

難波＝待遇以前に、献金そのものが少ない。自分の生活費の三〇の一を捧げれば、教会員三〇人で充分いける。しかるに毎年増額が言われているのに、月定献金五〇円、百円の人がいる。映画一回行っても二、三百円いりますのに。

長坂＝教会には、そうしたごまかしがある。勿論これは献金教育をしない牧師の責任である。なんでもきれいごとにすまし過ぎて、かえって不公平を作ってしまっている。

佐藤＝私は月定献金三ケ月を前納してます。その三ケ月一生県命働き、献金に応じるようにがんばります。痛みを感じる献金をしようと常々努力してます。

長坂＝これは直接待遇というわけではありませんが、教会員が牧師を喜ばすような事を時々なさっては。他の教区で聞いたのですが、教区の信徒有志が協力して、牧師を御馳走し大いに労をねぎらったそうです。いい話ですね。

栗原＝教会学校の父兄八名から、教会学校教師を慰労して下さいと金一封いたゞきました。早速岡山の竜正堂で慰労会をしましたが、みんな大感激でしたね。

長坂＝私とこの青年会は、定期の集会で、牧師を御馳走し、牧師を激励する会をしてくれます。うれしいですね。

戸田＝牧師や、又家族全員を慰安して下さることは、とてもいいことですね。

江口＝近々県信徒総会が開かれますので、牧師家族の慰労と言ったことを、本年の運営行事として話ししてみましょう。

—伝道の教会となるために—

戸田＝今までの話しあいの中で「明日の教会」について大いに語られてきましたが、最後に伝道の教会となるためにどうしたらいいでしょうか。

難波＝日曜以外に週休がありますみなさんとこではこうした時の集会はどのようにしておられますか。

松本＝教会以外の色んな政治団体や、青年会活動も、なんとか集会をやらうとがんばってます。教会もそれ以上にやらなくては。社会に対しても何をすればよいか考える時でもあります。

日曜日以外の週休制について集会を守るには、色々な意見が出た。しかしまき び荘にお約束した午后八時半の時間が近づいたので残念ですけれども、以上で、座談会をおわることにした。

戸田＝終りに壺井先生になにかおねがいします。

壺井＝みなさんがよくお話しになりましたので、この上私は何も申上ることはありません。ただ一言申上ますと、教区内の牧師の待遇が全般的にあまりにもひくいのに驚きます。牧師数四六名中教団が参考として示めして来た謝儀基準より以下の方が二九名、二三名を除くほかの残りはすべて最底線上の方ばかりという現状です。高校卒業生でも初任給一万三千円位が普通ときます。「世の人々の知らない食物」が私どもにはあるのですが、このような現状では

新しき歌を主にむかつてうたえ。
主はくすしきみわざをなされたからである。
その右の手と聖なる腕とは、おのれのために勝利を得られた。
（詩篇98篇1節）

聖句随想

神の手

宗宮進

説教する者は、説教批判の矢面に立つことは必然であるが、一年も前のこと、長老会の席で、わたしの説教が問題になった事がある。ひとりの長老が説教に私情が入っていると言い出して、それが論点になった。しかし、その時、H長老が、そのころなされた説教の中の一言を憶えておられて、その印象深いことを話された。それが、この聖句を主題にした説教だった。わたしが、その説教の中で言ったことは、こんなことだった。

わたしたちの信仰の理解は、神がいまし給うことを、単に、知っているということであると考え勝ちだが、およそ神についてのどんな知識をも、信仰と考えられてはならない。神のみ手のうちに、わたしたちがあり、神がわたしたちに対して、どんな意志を抱いておられるかを知ることだ。

H長老は、このことを忘れることは出来ないといってその後も何度か、わたしに話してくださった。このことがしっかりと受けとめられたとき、人間を謙虚にし神への信頼へとわたしたちを導くと思う。

神のみ手という言葉は、神の保護と導きと矯正とを示唆する。その点、旧約聖書のなかで、含蓄のある言葉の一つであるといえるだろう。この神のみ手は、天地創造、この世の救い・そして審きを司どりたもう手である。この手こそ、キリストの手である。癒すために伸され、祝福において挙げられ、カルバリにおいて釘づけられた手である。

「だれも父のみ手から、それを奪い取ることは出来ない」（ヨハネによる福音書10の29）

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」（ルカによる福音書23の46）

といわれた。その神のみ手の中に、わたしたちがいるのだという神の深い配慮を信じているだろうか。

自分の手をじっとみていると、その仕ぐさの複雑なことに驚く。この手に人間の感情が流れている。「神のみ手」それはどんなだろうか。

語った者が、それを聞いた人から教えられた。神の言葉は、生きていて鋭いことを感ぜざるを得ない。

（津山教会牧師）

牧師は伝道に支障を帯びるのやもなきに至りますね。

それから基準が示めされたと言いますけれど、それは「最底」の基準のことですから…ね。大阪の或る教会では牧師謝儀を三万円程度から一躍五万円にされたときますし、この教区内でも慣例を破って一躍一万円の増額を予算化された教会もあります。

財政の困難な教会のことはよくよく知っております、が教区がいつもお願いしているように年間十五ケ月分の謝儀の計上をぜひ実現して下さいませんか。

教区臨時総会を開催

教区は臨時総会を、去る一月十四日（月）午后六時から十五日（火・成人の日）午后四時三十分まで、笠岡市横島・岡山県青年の家で開催した。

臨時総会開催の理由は、㈠明年度実施される（三十八年度）教団の教区集中伝道案の検討、㈡教団伝道資金並びに教団基金（十億献金）募金に関する協議のためであった。

特に両議案ともに、上からの指示伝達によって成功するような性質ではなく、あくまで伝道の第一線に立つ諸教会の十分な認識と理解と熱禱と協力なくしては達成できないものであることを常置委員会は認めているので議案の解説と協議のために多くの時間を設けた。

また、㈠集中伝道計画案については、昨年来あらゆる機会を用いて原案作成のために広く意見を収集してき、（教師会・各地区協議会などで）㈡十億献金についても、再三募金委員会を開催の上、原案が提案されたのである。

幸い教区役員研修会が同所で併せ開催されていたため、広く諸教会の代表者が相会し十五日午后一時より三時までは議案の協議会をもつことが出来、参加者が胸襟を開いてひたすら上よりの召しに真剣に応へる道を探求することが出来た。

集中伝道計画は、明年度はじめて中部教区と共に実施する新計画であり、期待される成果を満全に果したく、予定される集中伝道地区を中心に激しい意見の交換がなされた。

このため教区は三十五万円または四十万円の資金調達を必要とし、現地諸教会のこのための伝道費を合せ考えれば五十万円以上が要求される上に、十億献金も同時に募金しなければならない。またこのような集中伝道計画によってのみ伝道の成果は期待されるものではない、など幾多考慮すべき発言が積みかさねられた結果、原案を更に常置委員会において検討し、もっとも緊要度の高い地区に重点的に集中することと、小教会への経済的重荷を極力さけることとの修正意見が可決された。

尚十億献金については、教団より森里忠生牧師の応援をこい、同氏より懇切丁寧な解説をうけ、募金委員会より一応の募金方法についての説明がなされてその推進が承認された。

閉会式は長坂伝道部委員長の力強い奨励により閉じられた。（教区書記　高塚）

追記

常置委員会に於て修正した「集中伝道計画」は既に各教会に対し、また教区総会議員に発送ずみですから御了承をお願いします。

「教団の伝道資金並に基金募金」については着々と進捗中ですが、各教会の教職、並に教区総会議員の各位はどうか各個の教会に於て充分この募金の主旨を理解徹底せしめて下さるようお願い致します。

公告

東中国教区定期総会

日時　一九六三年五月二日(木)午後〇時三十分より
三日(金)午後三時まで

会場　鳥取市西町一丁目　於鳥取教会

教区規則第十五条及び第十六条により右の通り本教区定期総会を開催致します。

規則に基いて各教会より代議員の出席をお願い致します。

くわしいことは後報致しますし、議案は代議員の方へ後便致します。

一九六三年三月二十日

教区総会議長　壺井正夫

教区主催教師会通知

日時　五月一日(水)午后三時
～五月二日(木)午后〇時迄

会場　鳥取県国民宿舎砂丘荘

会費　四百円

主題

「伝道を阻んでいるもの」

副題

―牧師自身の問題―

特別な講師はありませんが二日に教団総会議長大村勇牧師の講演があります。なおこの会には通例のようなプログラムを組んでません。お互いが裸になって牧師自身の問題について語りあいたく思います。くわしい案内は別送します。岡山発午前八時三十分が便利です。

教会だより

蕃山町教会
戸田牧師の御辞任に伴い内藤留幸氏（四国教区善通寺教会）を後任牧師に迎えられることが決定した。

倉敷平和教会
無牧中であった同教会は、去る一月より大阪教区初芝伝道所片岡健吉氏を後任牧師として迎えられた。

津山教会
無牧中であった同教会は、去る一月より中部教区金城教会宗宮進氏を後任牧師として迎えられた。

玉野教会
新会堂建築が進み、近く献堂式の予定。

総社教会
土地を購入され、新会堂建築計画が進められいる由。

個人だより

壺井正夫氏（岡山教会）
邑久光明園設立以来の永眠者春期慰霊祭の為三月二十五日司式の御奉仕をされました。

戸田伊助氏
五月中旬をもって蕃山町教会を御辞任の上、中部教区名古屋教会牧師に就任されることに決定した。

田井中純作氏（倉敷教会）
御病気にて倉敷中央病院御入院のところ、去る三月二十八日御退院になり、自宅で御静養中。

白神章道氏
倉敷教会伝道師を御辞任の上、霊南坂教会伝道師の招聘をうけ、三月二十一日に赴任された。

北垣俊一氏
此春同志社神学部大学院卒業の同氏は、四月より鳥取教会伝道師として就任された。

片山義明氏
用瀬教会辞任の上、東海教区軽井沢教会の招聘をうけこの四月任地に向かわれた。

小橋孝一氏
此度琴浦教会伝道師を御辞任の上、京都教区舞鶴青葉教会の招聘をうけ、四月に赴任される。

各地区連合だより

岡山市内教会連合
十月二十八日（日）夕、宗教改革記念讃美礼拝。
十二月九日（日）夕、クリスマス讃美歌練習の夕。
四月十四日（日）夕、N・C・C合同イースター讃美礼拝。いずれも、グリーシー宣教師指導。

倉敷市内教会連合
一月六日（日）朝、新年合同礼拝（聖餐式執行）。
四月九日（火）夜、受難週讃美礼拝（岡山連合聖歌隊参加）。

岡山県西部伝道協議会
十一月二十六日（月）午後笠岡教会にて伝道協議会。

プリーチング・ミッション
（文化講演と音楽の夕）
十一月二十二日（木）夕、鳥取市内教会連合集会。
十一月二十四日（土）夕、岡山市内教会連合集会。
十一月二十五日（日）夕、倉敷市内教会連合集会。

合同市民クリスマス
十二月二十二日（土）夕、米子市ギリスト教連盟主催（於籾子市公会堂）
尚、鳥取市内教会連合によっても行われた由。
〔連合記事大いに送って下さい〕

編集後記

編集長及主筆の都合と怠慢により、年度末号の発行が大変遅れ申訳なく存じます。各教会総会の時期、座談会の記事を御活用下さい。教会の前進を祈りつつ。

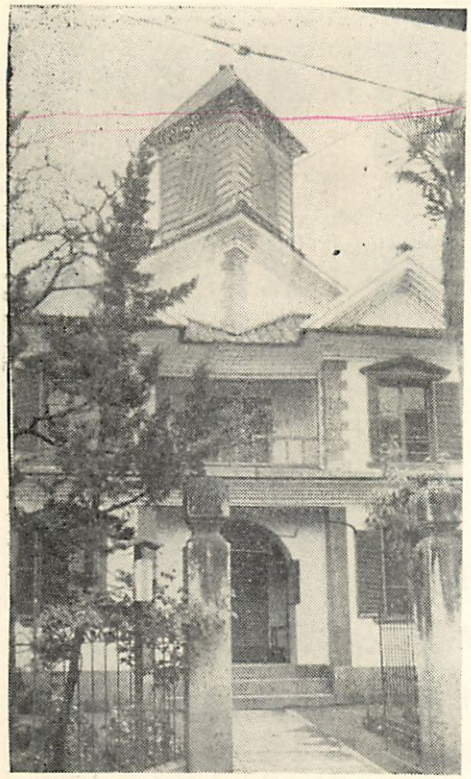
教区報

東中国

No. 19

発行所 日本基督教団東中国教区事務所
岡山市東中山下102
岡山教会内

発行日 1963年6月25日



創立八十年を来春に控え大修理がなされた笠岡教会

教区内

愛兄姉への手紙

—コリントⅡ一・一八—二〇—

壺井正夫

去る五月二、三日一九六三年度の教区の定期総会が開かれ、重ねて教区総会議長として教区のために仕える身となりました。どうぞよろしく御協力をお願い致します。

私は教区の仕事は一教会を牧会すると同じ心構えを以て「牧会」することであると確く信じております。牧会の心得の一つは教会員のささいな感情や、つまらないと思われる気持でも決して軽視してはならないし、また人の弱点につけ込んではならない、そしてできる限り行き届いた親切心と丁寧さとを以てすべての人に接することであると常に自らを戒めております。

教区に対する私の「牧会」もまた同じ心構えなのですが未熟の故にその務めを果し得ず、心苦るしい次第ですが、御寛恕をお願いします。

多忙さというものは人の感情を破壊するもので、私はしばしば無意識に「おこる」そおですが決して悪気があるわけではありませんから御遠慮なく何ごとでも御相談下さい教区事務所は私の多忙さの故にみなさまに御迷惑をかけないご配慮からその執務日を月火金の三日間に定めました。月曜日には教区書記の高塚先生も事務所で執務して頂くよおにしていますから何ごとでも万相談をお受け致します。

本年度は教区に教団の宣教基本方策の産物として集中伝道を実施する年ですね。そのためには去る一月臨時総会を開いてその実施を決議し、回を重ねてその具体案を練り、五月の定期総会に於て中間報告をした通り、担当主事も決定し目下活発な活動が続けられています。この集中伝道のために特に各教会より負担金の御醵出をお願いしお気書に在じます。教区には集中伝道を実施しない地区もあることですから教区には教区全体の「伝道計画案」があり、教区伝道部は集中伝道委員会と緊密な連けいを保ちながら手落ちなく各地区に諸計画を推進展開して行きます。

教区の伝道計画案といえばその主眼の一つは教会の体質改善ということで、教会の体質改善の原案は各個教会が福音の真理にきびしく立つということでしょう。その故に礼拝と祈りと聖書の学びが深められ重んぜられ、わけても教職が主キリストの恵みによる聖化の恩寵をもってなし得る脱皮とその体験とに確く立つて救霊への熱意を自覚して示めし続けるということです。教職の一人として教会の体質改善の原素は先ず教職自体にあると堅く信じ私は自からを鋭く鞭打ちます。

今一つの教区伝道計画案の主張は教会の連帯精神の強化ということで、そのことが伝道圏伝道の具体化を促進するということにもなりますね。わけても教区の責任として六年前より開拓伝道を実施中の倉敷南教会（水島）のことが総会の議場で論議されましたが、教区はこの伝道計画と援助とを打切ることはできません。継続致します。不幸にして担当牧師の転任をみましたが、その一事をもって水島地区の開拓伝道が失敗であるなどとは毛頭考えてもおりませんし、連断してもいけません誤解がありますならば解いて頂き度い。教区の責任としても内外協力伝道委員会（教団）と直結して開拓伝道をなしつつある教会は教区内では倉敷南教会のみです。その宣教の方策は教団として最初のケースとして試みた教会の実力が満つるのを待たないで土地を購入し会堂を建築するという挙に出て、わが国屈指の工業地帯である水島の宣教にふみ切ったのです。この方策の可否については論議がありますし反省もあります。そして今後の日本宣教の資料とせねばなりませんが、担当牧師の転任ということが伝道地の失敗であるとは毫も思いません。勿論それは転任をしない方がよろしいでしょう。けれどもその批判は時の推移にまつべきです。

目を転じて昨年五月の総会に於て可決された教区の宣教基本方策もそれが一時的なものではなく、方策はそれぞれ各委員会に委託してその推進を研究中であることは既に本年の総会に於て報告された通りで、わけても宣教研究委員会に託したその課題と成果は特筆すべきです。そのうち二カ年を継続して研究脱稿をみた伝道用「信仰問答」は近く出版の運びになるよう鋭意準備中です。

その他教職の謝儀基準の問題、また積極的な宣教態勢をとるための教会種別の再検討教職謝恩金制度の改正、通称十億献金即ち去る一月臨時総会を開いてその募金の具体化の実施を議決した教団の伝道資金並に教団基金の募金等教区は多くのなさねばならない問題を持っており、ことごとく宣教への大任と結びつくものです。私は思います、教区当局が単なる事務連絡局となるならば「のろわれよ」。私どもは絶えず力を伴う希望と幻とを教区内の諸兄姉に示し活ける主イエスがキリストとして常に私どもに臨み居り給うていることとそのキリストは決して「しかり」と「否」との混合ではなく「しかり」が主イエス・キリストに於て実現されることを確信して牧会伝道にまたそれぞれの事業にはげみ度いのです。

教区内の五十八の教会伝道所の上に、み栄えあれ。五十名の教職、約五千名の信徒の上に、み恵みあれ。活ける主が主のみ旨にかなう悉くを可能（しかり）となし給うのですから。

「神が御手を以て働かれないならば、人間は何事も成し得ない。」

「神は歴史の中では、必ず人間を用いてその働きを進められる。」

なかい聖書の歴史は、様々なことを通して、この二つのことを語っていると見ることが出来る。特にその事実の顕著なのは使徒行伝である。

福音書の続篇といわれる使徒行伝は、イエスが復活昇天の後、約束の聖霊を送り教会を通してその働きを継続された記録であると言える。在りし日、自ら愛の生涯を歩まれたキリストは、今や弟子達を用いて、その働きを進めておられる。この委託と召命が教会、使徒達に与えられた日、教会が又その自覚と応答を以て歩み始めた日―それがあのペンテコステの日であったここにあるペテロとヨハネの二人は、この教会の信仰の姿を代表しているといえるであろう。

「金銀はわたしには無い」教会は未だ少数の微力な群であった。社会的に、経済的に全く無力であった。それにもかかわらず、彼等の大胆な信仰と宣教の確信を見よ！これは二千年の遠き昔にとどまるであろうか。

教説　わたしにあるもの

使徒行伝　三の六（一―一〇）

田井中純作

板であってはならぬ。教会に若し伝道に必要な充分な財政がないならば、それは私共信徒の責任に他ならない。「金銀は充分あるが、それによって人は救われるものではない」ともいえるようになるべきである。昔から謙譲の美徳を受けつついでいる私共日本の信徒はとかく「ない」ものを数えがちである。教会には実力がない、私には体験がない、その資格がない…などと。まことに、世の人々の求めるたからや富は教会には無い。言うまでもなく、現世利益や一時的解決を与えることは教会の使命ではない。しかし今や誤解を恐れず言うならば、教会はこの言葉に自己満足しているべきではないと思う。金銀のないことがいつまでも教会の看を与えられているのである。自らの弱さを知りつつも主を誇ろうではないか。

「わたしにあるものをあげよう」―わたしどもの内に何があるのか。私共のような者がキリストによって救われていることこそたしかに聖霊を受けているしるしではないか。何物にも比べられぬこの喜びと力を、もっと大胆に声を大にして誇らないならば、人はここに来ようとはしないであろう。人々は私共が何をより所とし、何に由って歩んでいるかを知りたいのである。伝道は決して方策や技術の問題ではない。聖霊自身の働きを、私共が確信を以て証し、伝えて行くことに他ならない。私共自らがこの時代に、イエスキリストの名によって力強く歩むことに他ならない。

「わたしにあるもの」は何なのか。（倉敷教会牧師）

推進されつゝある集中伝道

教区臨時総会を開催して以来、すでに半年。田井中純作牧師を委員長に迎え教区内の諸意見を傾聴しつつ集中伝道計画は推進されつつあります。

当初の計画は若干修正され教区内五地区に重点的伝道応援がなされると共に、各部委員会と緊密な連絡を保ちつつこの一年総合的有機的な伝道活動がくりひろげられます。

これがため教団より四十五万円の援助をうけますが同時に教区内諸教会よりも十五万円の協力献金を仰ぎ、五地区もまた同額程度の伝道費をそれぞれ準備することになっています。

宣教百年記念伝道への反省集中伝道というようなとかく総花化しやすい計画への警句一地区たかだか十万円前後の援助で何が出来るかとの批判などさまざまの声をきき

しかしすでに現地では（五地区、教区内各部委員会など）、この計画のために連合の祈祷会が重ねられ、必要な資金を得るために全会員が毎月献金をささげ、集伝ニュースを発行するなど活潑な活動が開始されています。

すでに開かれた訪問伝道研修会は延四五〇名が相会し、千葉伝道総幹事を迎えての伝道は教会創立以来の集まりとなったりなど、熟い祈りと周到な準備か、更に全信徒のひたすらなるみ言えの奉仕の業があらわれつつあります。

集中伝道計画は単に大集会の立案と実施であったり、協議会や研修会に終始したりではなく徹底的に教会がいま存在する処の人々への救霊のために苦斗する伝道でありますすでに伝道えの斗いは推し進められはじめています。地味ではあってもイエスがキリストでいますことをのみ伝えることを積み重ねることによって生れるようこびを味おうとしています。全教会の御協力と御加祷を期待します。

（高塚記）

トピックコーナー

琴浦教会のくみかい伝道

佐敷重雄

いかという疑問が起るだろうがそういうことは無い。時々〇〇会の集中伝道をやるときに他の組会が応援するということをして居る。組会は小さく別けてもそれなりに教会としての機能を発揮しているのでなければならないと思う。それには中心となる家庭を選ぶという事が大切である。しかも近所で評判のよい家庭である事も大切な事である。それと伝道委員長は今では全部役員が占めて居る。その下に伝道委員が数名居る。毎週の週報も土曜日中に各組会毎に配布する。教会に求道者が来られなくても近所の家庭の集会には来るという場合が多いそれで組会を媒介として教会に導くのもいい方法である。現在我教会で洗礼を受ける人々の中大部分は組会から出た人である。礼拝で求道者を紹介するときも組会から生じた方々が多いのである。それで必ず組会の名を云い組会伝道委員に紹介する　こうしたならば牧会が徹底してうまく行くのである。又牧師の気が付かない事でも組会の伝道委員長がそっと牧師に告げてくれることがある　こうした組会が地方の伝道に是非必要だと思うのである　名簿も組会別で作る。各組会がうまく行くときは教会がうまく行く時である。私はこの牧会を過去十一年間やって来たのである。琴浦開拓は組会作りであったと云ってもよい。

その組会の中心人物を伝道委員長と呼びその下に数名の伝道委員が居り、一つの組会としての働きをしているのである。何でも組会中心にするようにしている。例えば教会で伝道講演会をするときも、組会でポスターを作り、ビラを配りその地区で人を誘って来ることになる。牧師の牧会の目の届かない所まで届くようになってくる。それから組会別々になるという危険がなく

然し五つの地区に分けてはじめから家庭集会が開かれたのではなかったのである。はじめは私の頭の中で五つの地区を分けて考えて、そこに信徒が生れ中心になる信徒が出来てはじめて組会が生れたのである。

教会の信徒の交りという点を考えても、教会々計が献金袋を返すときに、顔と名前が一致しないという事では、問題であるので、教会を五つの地区に分けて、それぞれの地区に於て、交りを密にしその地区で伝道する事を目的として組会を組織したのである。

38年度 教區定期総会 報告

ライラックの香る鳥取教会において教区総会が五月二日・三日の両日開催された。

＜第一日＞　五月二日午後一時二〇分より高塚書記の司会により開会礼拝が守られた教団総会議長大村勇氏が「教会の喜び」と題して感銘深い説教をされ、その後補教師准允式が教区総会議長の司式により行われ北垣俊一氏（鳥取教会担任教師）が准允をうけた。聖餐式はW・エルダー宣教師の司式により守られ引つづいて教区に新しく着任した宣教師（P・グリーシイ、及びミス・ヒサコ・イマイ両氏）の受け入れ式が行われた。

今回の総会において海外の同労者を主にあって受け入れることの出来たことはまことに感謝すべき一事であった

組織及び議事

正議員九七名中六六名、准議員一〇名中三名の出席で総会成立。補助書記に広沢和人氏が指名され議事を開始。

教区役員選挙は議長に壷井正夫氏が副議長に永田善治氏が再選され、書記には高塚勝氏が再び指名された。

常置委員（信徒）の増員に関しての動議が提案されたが協議の結果、現状のままとなり投票、次の諸氏が選ばれた

（教職）長坂龍太郎、田井中純作、脇本寿、永倉義雄、W・エルダーの五氏。（但し永倉義雄氏は総会後辞任、次点井殿園氏を補充）

（信徒）大橋公夫、新達治の両氏。

午後五時から鳥取市内教会連合の晩餐会に一同招待されあたたかいもてなしに感謝のひと時を持った。

午後七時、議事再開に先立ち教団問安使大村勇氏の挨拶がなされ、その後各部委員会の報告に引つづいて、教団集中伝道案の報告並びに教区伝道案の審議がなされた。臨時総会を開催してすでに決定をみた集中伝道計画は、その後援助金の変動（減額）計画の修正など幾多の波乱をへたがその中で着々と実施えの祈りと努力が積み重ねられ、担当主事に高塚勝氏が今回選任された。集中伝道とはいえ教団の援助金四十五万円、同額の教区募金に頼るものであり社会の高度成長経済と比べれば誠に微々たる資金ではあるがそれでも尚現地諸教会は経済的重圧を覚えるのが現状であり、その上十億献金の募金もあるから相当の困難を感ぜさせられるが、聖霊の新しいみちびきを祈り求めて積極的に前進することを議した。

教区伝道案に関しては、開拓伝道地の実状について激しくきびしい反省が求められ今後の歩みの上に天来のみちびきの必要を切実に感ぜさせられた。午後九時十分議事終了

＜第二日＞　五月三日、午前九時より宗宮進牧師の司会奨励による礼拝、議事再開。

前日の選考委員に付託した次の各部委員が発表された。

◎宣教研究委員会――（長）田井中純作、（書、会）中堀仁四郎、永田善治、播磨醇、小寺昌良の五氏。

◎教育部――（長）小寺昌良（書、会）篠原貞雄、滝口勝小島勇、村島宏、栗原正、山崎尚士、（幼稚園担当）長坂龍太郎の八氏。

◎社会部――（長）更井良夫（書、会）藤原正夫、山村好美、清水良太郎、片岡健吉、瀬崎正夫、藤野とりの七氏。

◎財務部――（長）大橋公夫高塚勝、新達治、江口毅、桑内成郎の五氏

伝道部委員は選挙の結果次の五氏が選出された。

教職（長）永田善治（書）井殿園、小寺昌良。信徒、小川政雄、益田泉。尚委員会は教区総会議長、W・エルダー宣教師及び加藤俊行（農伝）脇本寿（職伝）船越澄江（婦人）藤岡友幸（青伝）の四伝道委員長をもって構成する。

集中伝道計画実施の重要な年度に伝道部委員長が山陰より選出され、各伝道委員長も一新されたことにより、全く異る状況の下での伝道への歩みが大いに期待される。

次期総会を岡山信愛教会よりの申入に従い決定し、午后三時十五分全日程を終了。（高塚報）

鳥取県東部 集中伝道の動き

永田善治

教区集中伝道の鳥取県側に於ては米子市を中心とした西部地区と、倉吉、上井を中心とした中部地区、鳥取市を中心とした東部地区の三地区に於て行われることになった。

東部地区協力牧師は高塚勝師、責任者は永田善治牧師、書記北垣俊一、有田実両教師会計は新生教会の平田滋晴長老。

この地区に属する教会は市内では、鳥取、新生、信和、の三教会に、東部、西部の二伝道所、これに八頭、用瀬、智頭、青谷の四教会が加わり合計八つである。各教職並に代表委員を出して第一回の委員会は一月二八日鳥取教会に於て開かれた。夕七時より県東部伝道協議会の名で集まり五月始め鳥取で教区総会を開くについての受入れ態勢についてと、集中伝道のことについて協議した。次いで二月廿五日、三月十一日、四月八日と会合を開き前記の委員を定め、計画の大綱を樹てた。

基本方針としては

一、信徒の伝道力を強化する
二、青少年伝道に力を入れる
三、地区全体の諸教会のより密接な連絡と協同。

の三つに留意することにして計画を進めることになり、その働きとして左のようなことを行うことになった。

一、訪問伝道研修会
二、中学生修養会
三、高校生修養会
四、特別伝道集会
五、伝道キャラバン

恰も教区の伝道部の計画として蕃山町教会の水野浩四氏と脇本寿牧師のお二人が来られ、鳥取県全体の信徒伝道協議会が四月三日夕鳥取教会に於て開かれた。伝道要員活動の積極化や、信徒伝道の振起信徒証言などについての勧めがなされた。県下各教会の教職、役員その他の指導者約五十名の集りで、集伝の準備集会にもなった。

五月十四日、十五日の二日間横浜清水ケ丘教会倉持芳雄牧師に大阪扇町教会員、渡部清数氏御夫妻が来援され、訪問伝道研修会、第一夜五十名第二夜は七十名の集会、官庁の建物での開拓伝道から現在二百数十名の礼拝出席の教会に仕上げられた倉持牧師の体験に即しての話は感銘深く、忙しい仕事の最中、訪問の奉仕活動をしておられる御夫妻のすすめは心に強く訴えた。

六月五日夕、エルダー師の解説と操作により、色彩映画「復活の力」を映画伝道として上映、約百名の出席であった。

八月五日より七日まで、鳥取砂丘「青年の家」に於て県下の連合中学生修養会を行う予定。

委員は村島宏教師を長として北垣俊一伝道師、松田晃幸教諭等で着々と準びがすすめられつつあります。今のところ主題講演者として小寺昌良牧師におねがいすることになっている。

教職研修会で学ぶ

ウイリアム・エルダー

グループダイナミックスは福音に何も付け加える事ではありませんが主に捧げられた器として適切に用いれば主にある交りを具体的且深く現わす方法だと信じます。福音を体験的に人に伝える為にも役立つと思います。私は、教職研修会では三つの分団の一つしか知りませんが時間が短かかった割合に有意義な話ができたと思います。自分を正直に見せたからでしょう。

この度、人から学ぶことも出来たが何よりも有り難く思つたのは兄弟が自分にに対して鏡となってくれたことです。一寸辛い経験でもあるが牧師にとっては実に大切なことです。自分の個人的生活を反省させられ人に与える影響と反応を知らされればどんな立派な講演では得られない得があると思います。

（教区宣教研究委員会編）

いよいよ出版!!

信仰問答　キリスト教　その問と答!

昭和三十六年五月より着手し教区内数職信徒有志のアンケートをとり、教職による逐条審議検討の末、二年有余の労作を経て、いよいよ脱稿!七月中出版の運びに至る!作成委員戸田伊助、田井中純作両牧師の労苦に加え、文字通り全教区の祈りと知恵を結集した合同の力作であります。教会の信徒必携として、信徒伝道の武器として、また信徒訓練、求道者指導の手引として、或いは青年会婦人会のテキストブックとして、各教会で大いに御活用下さい!特に教区集中伝道の年、必ずや良き助けとなりましょう。

―（内容目次）―

第一部　人生と信仰（九問）
第二部　神と人間（一一問）
第三部　救い（二一問）
第四部　聖書と教会（二一問）
第五部　信仰生活（三三問）

――以上　全九五問

（一部頒価実費七〇円の予定）

各教会の購入予定部数未申込の教会は倉敷教会田井中純作宛出来るだけ予約申込下さい（現在予約数七五〇です）

岡山県信徒会便り

本年度第一回岡山県信徒会理事会を六月十六日江口毅兄宅にて開催。

議題は次の通り。一、十一月廿三日信徒大会の件。

講師は今治教会牧師、榎本保郎先生に交渉する事に決定す。

会場　倉敷市旭町倉敷教会

二、事業

（A）結婚相談所開設。
（事務所、倉敷市新川町三九三　大橋公夫方）
詳細については、次回紙上にて発表の予定。

（B）岡山県盲人信徒会発足と其運営の援助。

（C）教職夫人懇談招待交歓会の会催（年一回十月）。

（D）各教会毎の信徒職業別名簿作成（趣味、特種技能電話番号記載を含む）。

（E）十億献金募金の理解と促進の為、教区に側面的協力を推進して行くこと。

三、次回理事会開催日時場所
八月十八日（日）午後二時
倉敷市旭町、倉敷教会。

出席理事は江口、桑内、西原小林、阪本、新見（次回より阪本氏と交宮庶務担当）、大橋以上七名であった。

（大橋公夫報）

教会だより

岡山教会

五月二十六日青年会が旭川療育園（身体不自由児）を慰問し園児達と楽しい半日をすごした。

蕃山町教会

六月末をもって戸田伊助牧師転任にともない、内藤留幸氏が就任された。

倉敷平和教会

五月二十日片岡建吉氏の主任担任教師の就任式が教区総会議長の司式により挙行された。同夜壺井牧師による特別伝道が行われた。

津山教会

六月二日主任担任教師宗宮進氏の就任式が教区総会議長の司式により挙行された

津山城西教会（中島幸一郎氏）

電話開通　津山局二〇六七

玉野教会

玉野市役所前に新会堂を建築されその献堂式を六月三十日挙行の予定。尚阪西直和氏を主任担任教師として大津東教会より近く迎へられる由。

旭東教会

都市計画にもとずく会堂の移築と牧師館の新築を近く完了の由。

新見教会

四月江口毅氏（岡山信愛教会役員、教区伝道要員）を五月千葉伝道総幹事を迎えての両集会を通して、近来にない盛会を得、集中伝道の期待にそうべく奮斗中。

総社教会

既報の如く新しい会堂建設地を与えられ、会堂建設協力を期待します。

虫明伝道所
（原田季夫氏）

電話開通　虫明局一一五

倉吉東部教会（村島宏氏）

今回教会名を上井（あげい）教会と変更。同時に電話開通　倉吉三四七二呼

▽各部ニュース△

伝道部

本年度は、集中伝道ということで、伝道部の働きの大きな部分はその方でやって行く事になると思います。それ以外の事で大切だと思われることを取り上げて行きたいと願っております。

第一は教職信徒の研修会であります。何よりも先ず教職が強められねばなりませんし教区宣教基本方策にもうたわれているように「全信徒が伝道力のあるものとなるよう」努めることが肝要であろうと思っています。

尚、伝道圏構想を明かにしその具体化を図りたいし、視聴覚伝道も進めたいと願っています。教区巡回教師の問安ということも円滑にすすめたいと思っています。

又今年度も教区信徒伝道要員として次の十六名の方にお働き願うことになりました

応援を希望される教会は集会の日時、内容等を希望講師に直接連絡をとり、決定して下さい。尚集会終了後は必ず教区事務所まで御報告下さい。

那須　衛一（岡山）
小川　政雄（岡山）
水野　浩四（蕃山町）
江口　毅（岡山信愛）
山崎　尚士（岡山信愛）
大橋　公夫（倉敷）
天野　宗明（倉敷）
栗原　正（祖東）
波戸　一郎（琴浦）
桑内　成郎（高梁）
久宗　壮（美作）
政田　二郎（鳥取）
新　達治（米子）
長谷川英雄（米子）
益田　泉（玉野）
平原　光治（玉野）

転域伝道委員会

今年度の主なる活動

一、労働福音学校
来年一月頃開催予定。その折、県別教師会と連合の教師会を計画。

二、「働く人」（主として織維関係）の協議会。

三、前項と関連して職域の信徒との協議会を継続して数回開く。

四、協力伝道

○婦人部、「働く婦人の会」協議会。　岡山市　六月

○青年協議会

農村伝道委員会

前委員会立案によるものにしたがうことになるが、次の事に重点を置きたい。

一、福音学校、青年協議会、役員研修会など、やる気のある地区、教会にはどしどし援助したい。

二、働きはするが、金の巡りの悪い青年部に近ずいて、その筋から援助も共催もしよう。

三、七月と秋か来年に専門委員会よりの派遣講師を交渉中。希望の向きは申出て下さい。

婦人伝道委員会

一、教区別婦人会開催。
とき　七月二日（火）
場所　倉敷教会
主題　今日の教会
―連帯性にいきる―
講師　婦人専門委員
伊藤好子氏

二、五月一四日―一六日天城山荘に於ける全国婦人伝道委員講習会の講演（東大附属学校教諭、岩淺農也氏）のテープを各地におまわしいたします。御利用下さい。

子女の教育について、母親の自覚にうったえた、非常に力のあるお話しです。

申込は岡山市七軒町四、船越澄江宛。

四伝道委員一覧

農村伝道委員会（長）加藤俊行、（書、会）小島勇、山村好美、徳木武二、土井龍也

職域伝道委員会（長）脇本寿（書、会）広沢和人、中堀仁四郎、関稚人、村島宏、長谷川英雄。

婦人伝道委員会（長）船越澄江、（書）河田文子、篠原せつ、池田純子、抑沢菊代、松島八枝子、林原孝子。

青年伝道委員会（長）藤岡友幸、（書、会）宗宮進、播磨醇、北垣俊一、岡本加都夫P・グリーシイ、滝口勝、宮岡光広、中尾恭治。

＝個人消息＝

片岡健吉氏（倉敷平和教会牧師）当分の間倉敷南教会の兼務主任担任教師として奉仕される。

丹羽かめ氏（玉野教会牧師）玉野教会新会堂の献堂式ののち隠退されることとなりました。

関　雅人氏（玉野教会担任教師）近く京都教区大津東教会主任担任教師として御転任される予定の由。

岡本加都夫氏　倉敷南教会を辞し、四月中旬琴浦教会副牧師に就任された。

井殿　園民（高梁教会牧師）五月二十八日長男を与えられ「基」（もとい）と命名御家庭の上に祝福を祈ります。

塩沼英之助氏（長島愛生園医官）六月十六日「信仰の遺産」と題して岡山教会で講演された。

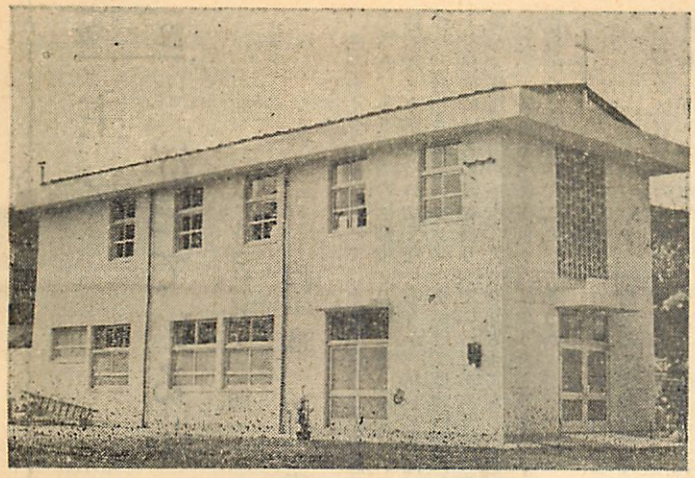
教区報

東中国

No.20

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所

発行日　1963年10月15日



今年9月新築なった玉野教会

新しいつながりを求めて

高塚勝

「日本基督教団」は各地域における教務を遂行するために現在十四の教区を定めています。

私共の属する「東中国教区」は岡山県と鳥取県から成り、十四教区のなかでは地域的にも、実質的にも比較的小さい教区の一つといわれます。

岡山県は十三市六九町十六村、一六七万人、鳥取県は四市三二町五村、六三万人より成るといわれますから両県の比重はほぼ三対一と考えられます。（三六年十月の国勢調査による）

教会数は岡山県側四一、鳥取県側一七、合せて五八。この内、岡山県は第一種教会二一、第二種教会一四、伝道所六。鳥取県は第一種教会七、第二種教会五、伝道所五、となっています。――第一種教会というのは現住陪餐会員四十名以上を有し、教会の諸経費その他を支弁し得る教会をいい、第二種教会は二十名以上の現住陪餐会員を有し……という区分です。――

教会数は鳥取県側に比して岡山県側は二、五倍ですがその実情は前記のような教会種別より成り立っており、信徒数に至っては七五七名に対して三四七六名と四、五倍の差を示しています。

日曜礼拝出席者数は二六八名に対して一〇三四名、祈禱会出席者数は九五名に対して三八〇名とほぼ四倍。教会の財政面においても大体同じような比重が示されております

一つの山をへだてたこの教区が陽と陰に分けられていることは、気候風土的、地理的差異にもとずく自然の産物とはいえ、心を向け、心をくだかねばならないことです。教区の歩みが単に力関係においてのみはかられるようなことがあってはなりません。

ところで教会が主より委ねられている使命と責任は、根本的には「時があってもなくても福音を宣べ伝える」ことであります。使徒パウロが――わたしが福音を宣べ伝えてもそれは誇にはならない。なぜなら、わたしはそうせずにはおられないからである。もし福音を宣べ伝えないなら、わたしはわざわいである――といっている通り、キリスト者にとって伝道をすることが責任であり、光栄であり、よろこびでさえあります。

そのことを思うとき、今春の教区定期総会において永田善治牧師が（鳥取教会）教区総会副議長のみならず、教区伝道部委員長に選出されたことはまことによろこぶべきことであります。

なぜならば教区の伝道に関する教務、及び企画の責任が鳥取県側において遂行され、又この「東中国」誌も前号より鳥取県側で編集発行されるようになったことは（倉吉市において滝口・村島両牧師により）暗黙のうちによこたわっていた陽と陰のへだての垣が破られるに至ったからであります。

今年実施中の集中伝道においても殆んど鳥取県全地域に亘る活動が企画され、新しく山陽と山陰との協力伝道が推進されつゝあります。

一概に重要な責務や事務が或いは伝道の拠点が山陰側に移され、になわれていくという事実のみをもってことを決することの危険であることは明らかであります。しかしそれにも拘わらず、困難な立地条件の中で福音宣教のために苦斗する山陰の諸教会に幾多の重要な業が着実に遂行されている事実を教区内の諸教会はあらためて認識したいものです。

社会的激変のたゞ中にある私共の時代は分裂と不一致の時代であるといわれます。ひとりのキリストを主と告白しつゝも、もし教会相互の不一致と非協力とが私共の現実であるならば、私共をつなぐものが何であるかをあらためて反省しなければなりません。

教区の青年伝道活動が、婦人伝道活動がこの年目標としていることは「連帯性」の確立であります。

しかし、教会における信徒の連帯性の確立も、教区における教会間の連帯性の確立も単に組織や経済の面で等しく連なり、支え語りあうことによってのみ確立しうるものとは考えられません。

姑息な人間的手段でととのえられる組織や協力は必ず破滅に至るものであります。

いうまでもなく、私共は、キリストの十字架を仰ぐとき弱さと破れをもつ私共の現実が、すでに主によって滅ぼされあがなわれていることを知ります。私共は「その時」主の愛に応答する責任を自覚し新しいつながりのもとに生きることを始めるのです。

教区の体制がいかに南から北にととのえられても、教会の首（かしら）であるイエス・キリストに真に私共が出会っていかないならば連帯性の確立はかけ声だけに終ってしまうのではないでしょうか。

み言にきびしく立つた教区の歩みが聖霊のたすけにより実現することを求めます。

（玉島教会牧師）

教說

主に従っているか

マルコ　八・三四

内藤留幸

最近つくづく思うことであるが、キリスト者の信仰生活に厳しさが見られなくなった。厳しさのないキリスト教信仰には人の魂を揺り動かす様な迫力があろう筈がない。牧師も信徒も何か微温的なものの中でこと足れりとしているように思えてならない。

先日教区青年部の集会の折、ある青年が「わたしの教会では聖書研究会をすると人が少ししか集まらないが、遊びを計画すると大勢集る」と言って現状を嘆いていたが、聖書の御言を聞くことはつまらなくて、遊ぶことだけが楽しいのだろうか。青年たちの信仰が消費ブームからくる上調子なムードに骨抜きにされてしまっているのは考えれば考える程大変な事である。

これは青年たち自身にも問題はあるが、私はその責任の大半は牧師にあると思う。

一言に云つて説教の貧困がその原因である。牧師はどれほど真剣に御言にきき、それに従うことの意味と在り方を探り求めているであろうか。毎日どれほど時間をかけて聖書研究に打込んでいるであろうか。牧師の信仰生活に人の心を打たずにおかない真実さがあるだろうか。

主イエスが信じる者に「自分の十字架を負うてわたしに従つて来なさい」といわれた言葉を本当にききいつているだろうか。主イエスの語る言葉を「あゝあれか、あれなら聖書のどこそこにある言だろう、あれはもう何回となく読んだし、それをテキストにした説教もきいている、もうわかつている」と思つてきき流していないか。御言に対してあまり解りがよすぎてはいないか。

聖書の御言に真剣にききそれに従つて文字通り十字架を負つて歩む牧師の牧する教会は、ただ青年だけでなく教会員全体が迫力のある活ける信仰生活を送るようになるのではあるまいか

（蒜山町教会牧師）

博愛会の病床伝道

更井良夫

明春三月　岡山市門田屋敷の岡山博愛会病院の増改築工事が七千万円余の経費で完成し、一五〇ベットを有する市内有数の総合病院になるが、その屋上（地上六階）に高さ五米の白色の十字架が燦然と輝く筈である。而もこの十字架は岡山の教会及び信徒達の献金で建てられ、夜間は照明され市内至る処より望見せられる。市民が仰ぎ見て「凡て疲れたる者、病める者我に来れ、我汝らを医さん」と主が宣言されているように、この十字架は基督教病院の存在を市民に明示する筈である。

聖書を正確に読んで欲しい基督は説教せよとは申されてない（マタイ一一・二ノ六）。救は心身共に完成される。

失われた人権の回復に精進するキリスト教会が失われた健康の回復に奉仕するのは当然であり乍らこの方面の努力が僅少であるのは申し訳ないことである。三日入院生活したら精神異常を起し、手術すると宣告されると普通の人は心痛し苦悶と焦燥と絶望に陥るものである。欧米の神学校では病床伝道の指導がなされるのに日本では無関心であるのが現状である。

肉体的病的の苦痛、病的変化、機能障害等々と戦う患者を見てキリストは私共にどんな命令をされるだろうか。特に精神的煩悶と焦燥と不安とにさいなまれている病人の友となつて慰め励ますことは主が御要求になることは明白である。深刻に罪の意識に泣き魂の苦難に同情し、それからの解放に助力すべきはクリスチヤンのつとめであります。

社会保障の進歩していない日本の今日、病気すると社会的、経済的に苦悶する人の多いことは勿論である。かゝる人々を援助するために医療社会事業が近来論じられているがキリスト教界にこの面での発展は遅れている。考えて欲しい。病気して経済的に心配しない人がどれ程あろうか。この心身共に疲れ、病み、困憊の極にある病床の人々に如何なるアプローチをするかを御一諸に考えたい。岡山博愛会病院は教区内の斯種の問題解決には最善をつくして当りたいし、病院付牧師は御用に喜こんで奉仕する用意をしている。

（博愛会教会牧師）

光明園のワーク・キャンプ

橘美代志

今年も八月十二日から一週間、関西学院大学学生によるワーク・キャンプが行われました。これは播磨牧師の御指導の下、既に四年間も続けられているもので、当園内の夏季行事の一つとなつています。

ライの伝染力は結核に比してはるかに弱く、又治療医学の進歩から、現在全入園者中菌陰性者（治癒した者）は七割に近いと云われています。

しかし、まだ社会はライ病を殊更に汚れた病気と思い、コレラかペストのようにすぐにでも伝染する病気だと考えているようです。

このような中に入り込んで来て、私達と共に汗して働きスポーツを楽しみ、キャンプ・フアイヤーを囲み、礼拝を守るなど、キリスト者としてまた人間として交わりを持つて下さるとは、何という有難いことでしょう。

「やっぱりキリスト教は違うナ、若い学生さんやによくやつてくれるワ。えらそうなことを云う宗教はあつても、こんなことをやつてくれるとこはあらへん……」とは、とある人達が木影で涼みながら話しあつているのを、たまたま聞いた言葉です。

人々は見ています。いや、神様は見て居給います。一見伝道ということから凡そ縁遠いと思われる炎天下でのワーク。しかし、主を知らぬ人々でさえ、そこにキリストの姿を感じているのです。それは私達の学びであり、また喜びです。

学生さん達もこの一週間の交わりから、自らの信仰を正され、バプテスマを受ける決心がついたという者、伝道者や教育者になる決心をした者など大きな恵みにあずかつています。

しかも、このようにして続けて来たワーク・キャンプは当教会を土台として次第に他の療養所教会に拡められつつあります。現に、今年は隣園の愛生園でも全国キリスト者学生ワーク・キャンプが行われました。

「しつかり勉強してヨ」、「また来てナ」、「また来年も来ます……」、口々に励まし合い、約束し合つて私達は別れを惜しみ、遠ざかつてゆく船に手を振りました。

「また来年もきつと来ます」、その言葉はお互の間にしつかりと結ばれた絆を物語るものの他何物でもありません。主がそこにいて下さるのです。

（光明園家族教会員）

燃え上る新見教会

井殿園

新見銀座をそれて、静かな奥まったところにある教会の二階座敷において、徳木牧師と、新見地区集中伝道会計の安達姉から現状をおうかがいした。

特別伝道集会など、今夏に集中された対外的伝道諸集会を終えて、いよいよこれから「関係者一人一人に確実に福音をつたえる」との意気に燃えておられることが、先ず強く私の心にひびいた。

七月九日、佐古氏による伝道会。会場は市立幼稚園を借りて、準備に力を注ぎ、ポスター六〇、チラシ一五〇〇、トラクト、心の友各二〇〇、有形無形万全を期した。

「市全体に教会が打つて出たことは画期的」であり、更に市教育委員会、市婦人会と協力できたこと、又新見機関区で働らく人達のための集会が持てたことなどから、一層教会の確信が強まつた。

八月十三日、田辺南鶴師による講談伝道。日時が旧盆と重なつたこと、会場が川そいの淋しいところにある労働会館であつたことが原因して「もつと集まると思つた」という結果であつた。

九月に入つて六日、七日とエルダー宣教師による映写伝道。唐松地区家庭会、井倉中学での婦人学級。そして教会での伝道会。何れも「非常に落ちついたよい集会」であつた。

新見教会にとつて今回の集中伝道の成果は、外側に於てよりも、むしろ内側に於ての方が大きいと言えよう。

第一に、教会自体が自分の小さい殻を破つて、市全体に働らきかけ、ひろく市民に教会の存在と活動を知らしめたこと。そして教会自体が大きな伝道の幻と確信を得たことである。

第二に、集中伝道委員会が十二名によつて組織され、十八回にわたつて準備会が開かれ、推進されて来たことは、この教会にとつて実に大きな力となつている。

第三には、対外的諸集会の会場をやむを得ず、教会外に苦労して求めて来たことから徹底的に教会堂を持たない不便さと不利を知り、これを機会として新会堂建築の意欲が燃え上つて来つつあることである。

新会堂の建つ日の近からんことを祈りつつ、夕暮迫る新見を後にした。

（高梁教会牧師）

教区をあげて伝道を

田井中純作

教区全体としては、青少年伝道とともに、各部委員会の綜合的協力を以て行われる信徒修養会や教職研修会などが予定されています。

未だその途上ですが、伝道の計画性と積極性の大切なこと、協力の必要性を強く示されました。あらゆる伝道計画の目標は、各個教会が真に強くなることにあると言えますが、異教社会に囲まれている私達には、堕性の壁を破る積極さと、各教会の個別的伝道ではなく長期にわたる充分な計画と協力がどうしても必要であります。困難な点を数えるよりは、牧穫の主の助けと導きのもと、私達のがわに、何をおいても伝道を！の意欲と、そのための協力体制がなくてはなりません。教区の存在は伝道をより強力に進めるためにあると言つては過言でしようか。そのための互助応援や協力連帯なしには、教区は単に地理的区画に過ぎぬものとなりましよう。

本年度は特にこのために教区内全教会から、集中伝道献金を頂き、深く感謝いたしますとともに、尚一層の御協力をお願い申上ます。

（教区集中伝道委員長）

教団の支援と祈りのもとに、教区を挙げてながい準備を重ねて、進められている集中伝道は、この秋の伝道活動を以てその峠を越えつつあると言えます。

最適任と思われる高塚主事の並々ならぬ活躍のもとに教団との接渉や各地区との連絡などに意外な労力を費したこともありましたが、予定の働きが活発に進められております。その具体的な活動については、裏面の中間報告をごらん下さい。

御承知の通り、この計画は教区全般にいわば散水式に行われる伝道方法ではなく、特に重要かつ必要な地域への集中的伝道であります。

重点的に選ばれた米子、倉吉上井、鳥取県東部、岡山県南部、新見の五地区において、綿密な計画と地区内諸教会協力のもとに、集中的な応援伝道がつづけられています。特に倉吉上井地区、新見地区では、かつて見なかつた新しい力と意欲にもえて、大きな盛上りが起りつつあり、両地区の開拓と革新的発展のために、良き機会となることでしよう。他の三地区でも、それぞれ積極的な伝道が進められております。

上井教会をたずねて

永田善治

秋分の日、倉吉の病院に入つている一姉妹を見舞いその足で上井教会を訪れる。

教会は上井駅の東方に在る住宅群の一角、教会員経営の編物教室を借りて集会所とし階下には村島牧師の御一家三人が住んでおられる。民家ではあるが屋上に白い十字架が立てられており遠くからも一目で教会とわかる。

間もなく近くに用意されている土地に会堂建築の予定とか、つい昨日まで教会員の宅廻りでささやかな集会をしていたのを思うと、まるで夢のようである。上井と言う所は山陰線の倉吉への分岐点であり三朝温泉、関金温泉への乗降口として最近とみににぎわい、急行、特急も停車する。ここには県立の保育専門学校をはじめ高校三つ、中規模の鉄工場があり、特に著しいことは最近住宅地として新しい家がどんど立ちはじめ倉吉方面から人口が移動していることである。現在郡部も含めて人口5、6千であろうか。

この教会は昭和25年、鳥取新生教会清水良太郎牧師の伝道所として倉吉市内に定期集会が持たれたのに発し、卅年には伝道所となり最盛時は廿名位の集会出席があつたとのこと、その后無牧時代が相つぎ、他よりの応援を受けつつ集会をつづけたが、三、四名の出席となり殆んど潰滅に瀕する状況であつたと言う。

昭和卅四年村島牧師来任、転々と間借りをしつつ集会を続けられたが集会は漸わず七八名、折から上井の地の発展に着目し、長い祈りの準備の後に卅七年十二月、いよいよ居を上井に移し、その名も倉吉東部改め上井教会と改称された。その后未だ一年にも満たないが、最近八月の統計では礼拝出席十四名と順調な進展を見ている。会堂敷地は一昨年すでに購入、現在百三十万円の予算をもつて会堂建築進行中、クリスマスまでには献堂の予定であると言う。

この夏には佐古純一郎師をはじめ、吉野丈夫、田辺南鶴師等により集中伝道地区として積極的な伝道を成し未開拓地域への福音の宣伝と教会の伝道態勢の強化につとめた。

現勢は現住陪餐会員廿二名月の献金総計、約一万五千円着実に進展の歩みを進めつつある。

（鳥取教会牧師）

1963年度　東中国教区集中伝道中間報告

（9月末現在　但し主要な行事のみ）

	鳥取地区	倉吉地区	米子地区	新見地区	岡山県南地区	備考	全教区
4		信徒修養会（7…35名）		信徒修養会			
5	訪問伝道研修会（14—19……447名 千葉伝道総幹事	巡回特別伝道	参加） （22—27……7教会	272名）			
6	映写伝道会				野町良夫氏特別伝道（8—13.6教会）327名	農村役員研修会（27……	職伝主事戸村政博氏来援（7—8）
7	松本広氏特別伝道	佐古純一郎氏特別伝道	（15—24 8教会）（303名）	（7—9 3教会）（361名）	益田泉氏特別伝道	こころの友テープライブラリー新設48番組	
8	鳥取県　中学生 鳥取県　クワイ KKS修養会	田辺南鶴氏特別 吉野文夫氏特別 キャンプ（5—7 ヤーキヤラバン（ （5—7　58名）	伝道 伝道 59名） 19—24　228名）	（11—18 7教会 353名）	県南地区高校生献身キャンプ		
9			伊藤栄一氏特別伝道（25—27）	映写伝道会	伊藤栄一氏特別伝道（12—16 5教会 244名）	映写伝道会（5天城66名） 青年連合協議会（24）	映写伝道研修会（4—6 14名）こころの友特別伝道（14—16 4教会　370名）
10	吉野丈夫氏特別伝道		長谷川初音氏特別伝道		中村敏夫氏特別伝道		
11	職伝　特別集会 太田俊雄氏特別	伝道（22—28）			吉野丈夫氏特別伝道（9—13）		岡山県信徒大会（23）
12		Xmas音楽の夕		Xmas求道者会			
1		新年修養会・協議会		信徒修養会（15）			信徒修養会（教区全委員会協同による）
2	役員研修会 特別伝道・協議 青年学級	会（病床）			高倉徹氏特別	伝道（2—5）	
3	信徒修養会			青年学級			
備考	鳥取、鳥取新生、鳥取信和、八頭、用瀬、智頭、青谷、鳥取西部、鳥取東部、鳥取西部（以上 7教会 2伝道所） 協力牧師　高塚　勝	倉吉、上井（以上 2教会） 協力牧師　壺井正夫	米子、米子錦町、西伯法勝寺、日野（以上 4教会） 協力牧師　永田善治	新見（以上 1教会） 協力牧師　長坂龍太郎	倉敷南、玉島、玉野、琴浦、児島（以上 5教会） 協力牧師　田井中純作		集中伝道委員長　田井中純作 担当主事　高塚　勝

たゞ今実施している集中伝道を上記のような表に現わしてみました。

主要な計画のみをしるしました。これらの集会の背後にある祈りと訪問、聖書への傾聴のあることを覚えて下さい

困難と思える状況の中で開かれゆく伝道の門戸のあることに感激している地区をどうぞ更に支えて下さることをお願い致します。

集中伝道献金を感謝いたします。

九月末現在（美作・虫明・寄島・倉敷西・美作落合・光明園家族・中国宇治・笠岡・天城・鴨方駅前・有漢・倉敷平和・新見・米子錦町総社・玉島・倉敷以上の諸教会・伝道所より献げられました）合計三七、二〇〇円

この計画がみのり多い成果を得るために御協力を切望いたします。

テープ・ライブラリーを活用しましょう。

教団電波伝道委員会が毎日曜朝六時三〇分から（東京放送九五〇KC）「心の友アワー」を放送しています。残念ながら東中国教区はサービス・エリヤ（聴取範囲）でありませんから、せっかくの好番組に接せられません。

毎週、大平透・水城蘭子の一流ナレーター（語り手）によりクリスチャンの体験記がドラマ形式で放送されています。

この度、放送いたしました録音テープを教区でも所有しお求めに応じてお貸しすることにしました。（テープ・ライブラリー）借出料無料。

テープには各四番組が収録されています。（各十五分）家庭集会・婦人会・青年会・夜の集会など広い範囲で好評をえています。

どしどし御利用下さい。各教会にはすでに教区所有の番組の解説をお送りしてありますから再読してくださり活用ねがいます。

申込先　玉島教会高塚まで

映写伝道を！

さきに教団及びAVACOの協力を得て、映写伝道研究会を開催し、教区内に十三名の映写機操作免許証をもつ方々が生れました。

エルダー宣教師も映写機をお持ちですから、それらの方々の協力を得て、新しい映写伝道を諸教会も試みて下さることを期待します。

映画会ではありません。映写伝道会を致しましょう。

（問い合せは、エルダー又は高塚まで）

ある所でのある話

十億献金〔1〕

「一体十億献金つて何だい。何度きいてもわかつたようでわからない」

「教団伝道資金並びに教団基金というのが正しい言い方で伝道資金は小教会の強化に、新しい階層への伝道のために青少年伝道に、海外伝道にあてられるものだよ。基金の方は貯めておいてその利息を教職謝恩制度の拡充と神学校の充実のために用いられるのさ」

こんな話があるよ——牧師さんが教会員に十億献金の説明をしてよろしくたのまれた。それでしばらくして牧師さんの所へ電話がかかつてきた。先生、やつと決心がつきました。は？何のことです。いつかの十億献金のことです、僕も一万円献げさせていただきます。妻も別にすると言つています。牧師さんはかなり日が経つていたので忘れかけていた。この人はあの日からずつと一日も忘れないで何ケ月も考えに考えて祈り続けた後に、やつと決心がつきよろこんで電話をされたそうだ。奥さんは内職をして献金されるとか。

この話をきいてから自分は献金はやつぱり信仰の深みから出て来るものだと反省した。僕はやるよ」。

委員長プロフィル



田井中純作

倉敷教会　牧師
集中伝道委員長

「集中伝道のねらいそのものは、各地区の強化なんだから、各地区が動かなくては」とあくまでそれぞれの主体性を重んずる態度。そして全体が強くなるようにとの配慮は十分。この委員長を援ける主事の献身的な労苦は、大いに認められなくてはならない。

昭和20年、陸軍特別操縦見習士官としてもう少しで特攻隊という時、熊谷で終戦。直ちに同志社神学校に復学。翌年秋、卒業して母教会尼崎教会の伝道師、中村敏夫牧師のもとで2年半ここ尼崎で身にしみこんだ庶民性は今だに抜けない。長浜教会で2年半、彦根教会で10年、そして36年春、倉敷へ。「倉敷教会はもつと教区のために責任の持てるように、教会自体が名実共に大教会にならなくては」と質的な面に重点をおいている。この人に教区は期待するところ大きい。

夫人は同志社神学部卒。「読んでみようかと言う気になる教区報を」となかなかきびしい。がつちり家庭とその周辺をおさめておられる。

信徒会だより

岡山県信徒理事会は八月二五日、倉敷教会で開かれ、次の事を協議決定いたしました

一、十一月二三日（土）岡山県信徒大会講師として太田俊雄、西村二郎両先生をお招きする。
（第六面を参照下さい）

二、教職夫人慰労招待の件
会場　岡山児童会館
日時　十月十五日午前十時

三、信徒伝道週間（十月二〇日—二六日）中は、教区伝道部と連絡協議の上相互教会立証会を持ち、且信徒会の事業活動の説明を充分なし、協力を訴え、会費の献金を願う。

四、信徒大会の準備祈禱会を九月倉敷、十月岡山、十一月倉敷と交互に持ち、理事は各々の祈禱会に出席する

五、結婚相談カードを作成、一部を各教会へ送付、残りは事務所に備付け希望に応じて郵送する
（詳細はカードに記載済）

六、次回理事会は十月五日（土）岡山児童会館にて、六時より

出席理事は、小川、桑内、船越（江口代理）。新見、阪本、大橋の六名であつた。
（大橋公天報）

× ×

オリーブ会

鳥取教会





教会の若夫婦がお互いに励まし合つて良いクリスチャンホームを造ろう。子供を育て家庭の基を築く一番大切な時期に教会にしつかり結びついていよう。と言つたような意図でオリーブ会は昭和三五年発会しました。

その動機となつたのは、昭和三十年のクリスマスにエルダー先生が自宅に若夫婦数組を招待して下さつた事に始まります。

以来先生御一家を中心に牧師先生御夫妻を顧問として、次第に新しい仲間を加え、今では十七家庭が月一回の例会を楽しみに集まつています。とは云え、幼い子供も加わつての集会ですからその賑やかなこと、始めての方は頭が痛くなる程ですが、年に何回かは主人の会・主婦の会と、どちらか一方が子供のお守をして静かな集会を持つようにしています。

環境もさまざま、職業も、会社員、商店の若主人、医師公務員、高校中学幼稚園の教師、主婦などさまざまですがお互の知識や経験を披瀝し合つて、どこえ行くより遠慮のない、満たされた会を守つています。

最近の集会をひろつてみますと、子供のしつけ、成長記録、クリスチャンホームの年中行事、教会の現状分析、医学よもやま話、政治経済問題、スキーと雪見の会、音楽の集い、愛餐会、子供衣類交換会、八ミリを見る会など、平均出席大人二一名です。

どうぞ写真によつてその賑やかさを御想像下さい。
（三上　晃）

教会だより

岡山信愛教会
かねて計画中の附属教育会館の新築工事が開始され、クリスマスまでには完成の予定。

玉野教会
十月六日主任担任教師阪西直和氏の就任式が教区総会議長の司式により挙行された。

旭東教会
かねて改築中の会堂、牧師館の工事はクリスマスまでには完成の由。

児島教会
念願の新会堂が竣工し、去る九月一五日、よろこびのうちに教区総会議長の司式により献堂式が挙行された尚所在地は児島市味野錦町二八二五番地と変更。

用瀬教会
九月一日主任担任教師吉岡ミツエ氏の就任式が教区総会議長の司式により挙行された。

鳥取教会
附属幼稚園を千三百万の予算でブロック鉄骨に改築される由。

岡山博愛会
（理事長　更井良夫）
四月より第二病院の増築工事を開始しているが、完成後地上六階の屋上に大十字架の建設を計画、（ステンレス製夜間照明）目下岡山のキリスト者により祈りをこめた献金を募っている。

個人消息

長坂竜太郎氏（岡山信愛教会牧師）
附属教育館の新築工事のため当分の間、教会附属館で居住されている。

山村好美氏（天城教会牧師）
かねて御療養中の病も快方に向いつゝあります。

尾熊利一氏（倉敷西教会牧師）
過般来咽喉に異状を来たし療養されていましたが快方に向いつゝあります。

田井中純作氏（倉敷教会牧師）
しばらくお疲れを覚え安静中。

宗宮　進氏（津山教会牧師）
この度三男を与えられ「学」と命名、御家庭の上に祝福を祈ります。

小島　勇氏（美作落合教会牧師）
この度次男を与えられ「生」と命名、御家庭の上に祝福を祈ります。

ゴルドン・イマイ氏
教区宣教師として八月一九日着任。当分の間教区内諸教会の問安をつづける予定尚　倉敷市福田町北畝三一六に居住。

清水良太郎氏（鳥取新生教会牧師）
足を痛め療養されていましたが快方に向いつゝあります。

天野宗明氏（倉敷教会長老）
この度玉島レーヨン工場長より倉敷レーヨン中条工場長に転任された。

河野通男氏（倉敷平和教会役員）
この度長女を与えられ「知子」と命名、御家庭の上に祝福を祈ります。

予告

鳥取県教会青年連合県大会
日時　十一月二三日午後六時—二三日（祭日）午後四時
場所　鳥取教会
主題　「我等をつなぐもの」
講師　同志社大学教授　藤代泰三先生
会費　五〇〇円
県レベルのテキストブックの作成にも力を入れ充分な準備をしています。県下全教職の協力のもとに行われます。
県連合委員会
青年伝道委員会

予告

第十八回岡山県信徒大会
日時　十一月二三日　午前十時—午後四時
場所　日本基督教団倉敷教会
説教及び講演者
「愛を持つて働く信仰」
北米ノースセントラル大学出身
日本聖書神学校教授
日本基督教団教育委員
イエスの友会中央委員
著書・訳書あり
〝賀川豊彦を巡る人々〟シリーズの「種子をまく人」の中にでてくる三田村俊一その人である
太田俊雄先生
「教会の体質改善」
大阪女学院長
十億献金募金副委員長
大阪南住吉教会役員
西村次郎先生
プログラム
一、開会礼拝　（聖餐式執行）
一、講演・質疑応答
一、信徒会の新事業発表とその説明会
尚　ポール・グリシイ宣教師指揮による聖歌合唱が予定されている
—岡山県信徒会—

教会青年会連合会

先に教区青年会連合協議会を倉敷教会で九月二三日二四日と開いた。五十余名の出席を見たが参加者のない教会も多いことに今後の会の歩みを考えさせられたことである。

予　告

連合協議会及び各教会青年会の活動を活発にするため、「青年学級」を開くことになつた。明年一月下旬から二月にかけて、教区の五・六箇所を単位にして青年会の在り方及び、今後の課題に取組む学習活動を始める。第一回には佐伯洋一郎牧師が予定されている。

農村伝道委員会

農村教会教職協議会
日時　十一月五、六、七日
場所　関西農村センター
主題　「日本人に通ずる説教と伝道」
会費　六〇〇円（農伝負担）
十月二五日まで委員会にお申込み下さい。

編集委員スケツチ

◆永田善治委員長
山陰地区の教会と伝道のため熱意を以て活躍配慮をされる名副議長。伝道委員長も兼ねつつ、幼稚園の大建築も進められるファイトマン。教区報東中国発足四年、はじめて山陰に移転した編集局の新陣容を永く善く治めて、躍進期待

◆滝口　勝主筆
西（中国）より東にカムバックして、大いにカンロクがついたとか。荒法師の風貌ながら、ちみつな配慮、不屈の熱意、機敏なタッチは主筆として適任。その実行力のもと教区報は生き生きして来た。

◆高塚　勝委員
教区のために今やなくてならぬ快男児。教区のことを一番よく知つてる男の一人。教区書記会計を兼ねつつ、本年は集中伝道主事の活躍振り。教区を見渡す目と遠近をいとわぬ足を以て、この人のすることに無駄はない。主筆にハツパをかける、どちらもマサル

◆井殿　園委員
歴史深く緑濃き高梁の町にふさわしい、落着きと温かさを兼ね備えた、近頃稀な人物。イ（昔はエ）デンのソノとはよくも名付けた。委員会白熱するも、少しも動ぜず意見をのべる。伝道部書記を兼任。みんな忙しいネ。ムリせずがんばろうネ。

◆村島　宏委員
黙つて祈つて、時折ピリツとまとをつく。静かな内に秘めた斗志とマジメな着想は貴重な存在。上井地区進出、教会建設の苦労と体験を以て主筆を助ければ心強い。その協力活動は集中伝道で実証済み。以上少々ほめすぎたかな

（田井中）

編集後記

「東中国」がお互いの励み学びの場として、教区内の連帯性を更に深め得る様願つています。御意見、ニュース等どし〳〵お聞かせ下さい。（編集事務所は倉吉教会気付）

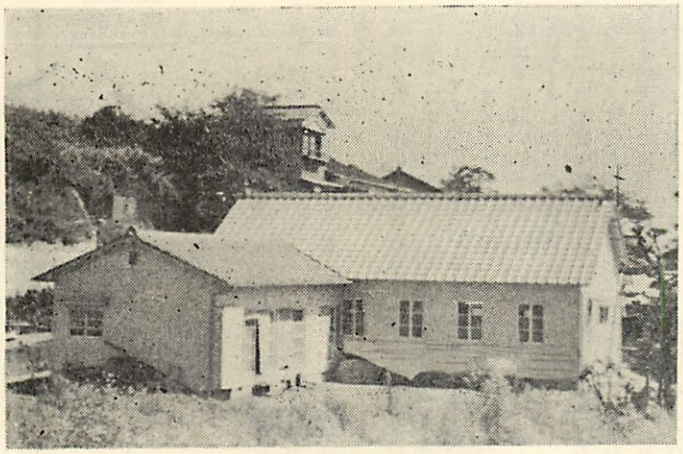
次号は一二月一〇日発行の予定です。

教区報

東中国

No.21

発行所　岡山市東中山下102　岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1963年12月15日



今年9月献堂式を行つた児島教会

私の馬小屋

ウイリアム・エルダー

この間私の車庫を久しぶりに片付けて掃除しました。いつの間にかたまつてきた物をしまつたり、いらない物を捨てたりしたので大分きれいに広くなりました。而しいくらきれいになつたといつてもお客を通すような所ではありません。油はあるし、色々な道具も置いてあります。きれいな時でも汚い所です。

昔のパレスチナの馬小屋もそういう所だつたと思われます。馬の飼つてある所はいくらきれいにしても汚い所です馬具や色々な道具が置いてあるし、餌も積んであります。臭い所です。そういう小屋の中で、神の御子、世の救主、イエス・キリストがお生れになりました。誠に何とも言えないはづかしいことです。

而し又何という有難いことでしよう。この世の汚い所は既に神に知られています。かくすことは出来ないばかりかくす必要もありません。神はそういう人間の実生活の汚い所をお拒みになりませんでした。その只中で御独子を生れさせられました。

以上「この世の汚い所」と申しましたが、問題はむしろ私の馬小屋です。（車庫はともかくとして私の心の「うまごや」が問題です。）そういう所があつていゝかわるいかが問題ではありません。現にあるのです。御ゆるしなければ神の御前に立たれないものです。而し主は始めからこういう有様の人間の所を御自分のすみかとなさいました。これは神のゆるしによる人間との交りの象徴を意味すると思います。又その交りを具体的に体験する所は神の家族（教会）の中での兄弟との関係に於てであります。一般に判つて貰えない為に遠慮せねばならないことでも、神のゆるしによつてお互に生かされていることを知つている兄弟には打ち明けて話すことが出来るものです。

そこで、この間、ある兄弟に話したことを興味深く聞き入れて下さつて、それをみなに聞かせたいと言われたので敢えてこの文章を書くことにしました。

「この前の聖日に二つの教会で礼拝説教をしたが出席者は合わせて十四名だつた。」と、なにげなく兄弟に話しました。始めはその言葉の背後にある自分の気持を自分でも意識していませんでしたが、話しているうちに段々とその意味が明らかになつてきました。先ず淋しかつた。九人と五人の出席者しかいなかつたから淋しかつたというよりも集るべき兄弟が集つていなかつたので淋しかつた。それも何の連絡なしに。集つた私達も、主をも忘れたかのように音さたもなく、主の讃美と家族の交りのひとときを忘れたようです。出席出来ないと一言でも他の兄弟に言つて下されば、葉書一本でも下されば大分ちがいますが。

小さい教会ほど問題を痛切に感じます。毎週、よろこびと感謝にあふれる筈である、主にささげる礼拝は何となく暗い淋しい雰囲気のうちに行われています。そういう人間的な要素が、主にさゝげる礼拝の心をそんなに影響することがあつてはならないとも云えるが、而し馬小屋である平凡な私の心は今の所では影響を受けます。

次は牧師という任務を持つて居られない方はお読みにならなくてもいゝですが先づこの間兄弟に話したように、少数の礼拝で説教したことは私にとつて別にめずらしい経験ではありません。むしろ毎週のように経験することです。而し自分の心を深く見つめてみると、いつの間にかそういう人数の少ない、出るべき兄弟の揃つていない礼拝に対してルーズな態度におちいつているではないかと反省させられます。特に説教の準備はいゝかげんになり勝ちなような気が致します。これは礼拝の人数と関係はないと言いたいが実際には関係があると認めずにおれません。暫くの期間なら帯をしめて力一ぱい頑張りますが何年も続くと心が少しづつゆるんでくるようです

神のみことばを語る使命を与えられている牧師、而も語る為に海を渡つて来た者は、そんな人間的な要素によつてみことばを語る使命をおろそかにすることは、いくら言いわけをつけようとしても、いけないことです。

之を書いたのは唯自分の罪をみんなの前に告白する為ではありません。唯同じ境遇におかれている同労者があると思います。そして同じ誘惑を感じられるかも分りません。同情致します。それに若し前の言葉にかゝわらず、こゝまでお読みになつた平信徒が居られゝば、牧師はやはり人間だからこういうことに影響されるかも知れないことを覚えて頂きたいと思います。自己弁明をするのではありませんが弱さは弱さ。罪は罪。而し皆さんは牧師や他の兄弟を助けて励ましたいなら先づ礼拝の交りに参加するところから始めるようおすゝめ致します。

人間的な要素によつて神にさゝげるものに影響を受ける心、聖なるものをいゝかげんにあつかうことが出来る心の持ち主だと分つて神の前にはづかしい。こんな心を主に見せたくないがもう見られてしまいました。主をこんな心におむかえするのはよろしくないが主はもう既にお出でになりました。

説教

心砕かれて

有田　実

クリスマスを迎えるに当り私共は悔改め心砕かれて天来の福音を仰ぎたいと思います。

一、あなたこそ生ける神の子キリストです。
（マタイ一八・一六）

ピリポ・カイザリヤへの途次イエスの問いにペテロはこう答えました。この信仰の上に主は教会を建てられたのです。世の人がイエスを宗教的天才と言うときに主は「あなた方は私を誰と言うか」と問われます。私共はペテロと同じ告白ができるでしょうか。キリストを信じる者の教会に主は御臨在になります。私共が教会で先づ何事よりも主を拝することは当然なことです礼拝が重視されない傾向は健康体でない証拠です。病める教会!!主はどんなに心痛めてい給うことか、ざんげし悔改めなければなりません。

二、愛を以て互に仕えなさい。
（ガラテヤ五・一三）

愛といい奉仕といい何という麗しいことばでしょう。しかし、その内実がきびしく省みられているでしょうか。主に在る兄弟姉妹といいますが正しくその通りです。私共はこの言にふさわしいでしょうか。実の伴わないむなしい言葉、それが教会の栄えを汚し、伝道の妨げとなつていないでしょうか。

三、神はその独子を賜わつた程にこの世を愛して下さつた。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の生命を得るためである。
（ヨハネ三・一六）

何というすばらしい天来の福音でしょう。神の絶大な愛と真実が全人類を蔽つています。

主は私共の小さな信仰をも嘉して下さいました。主は私共の不信にも拘らず、根底から私共を支えて下さいました。私共は御国に永遠に生きるものにしていただきました。

高らかに主のめぐみを讃えましょう。主を証しして生きぬきましょう。

（鳥取西部伝道所牧師）

喜びをわかち合うために

宮崎　進

今迄にも、教会やY市で、市民を対象にクリスマスを祝う会が持たれたことは数回あつた。

昨年、鳥取市キリスト教連合の音頭取りで、文化人と教会からなる市民クリスマス委員会が設けられ、県、市の教育委員会が主催し、新築の県庁ホールに満場の市民を集めて「市民クリスマス」が催された。

連合聖歌隊二十八名のクリスマス・カロル「いざいわえ」に始まつて、市内婦人会、大学、NHK、市民の各合唱団が、カロルや宗教曲を中心に歌い、会衆全員も「きよしこのよる」「もろびとこぞりて」を唱つたあと参加団体全員により「ハレルヤ・コーラス」を大合唱し幕を閉じた。

この席上、サンタクロースが募金し、厚生施設に市民クリスマスの記念品を送ることもできた。

早速この晩、委員長に感謝と喜びの電話をしてくれた市民もあつたという。

今年は、更にカトリツク教会の聖歌隊も参加してグレゴリアン聖歌を歌うという。

しかし、教会の中にも、このプログラムに対して信仰的な立場から不満があり、必ずしも足並みは揃わなかつた。

この催しの熱心な推進者の一人、エルダー先生を始め、積極的に参加している教会の人たちは、教会が、こういう市民の会に参加して、自分ばかりでなく他人を喜ばせるため、市民に主の降誕をつげしらせるために「地の塩」として働かねばならない。また、プログラムの内容は、今のものは不満であるが、性急に考えず、クリスマスにふさわしいものにして行く努力を年々積重ねて行かねばならないと考えている。

ともあれ、昨年の市民クリスマスは一応成功であつたと考えている。

そして、今年もよりよい「市民クリスマス」として、一人でも多くの市民の方々と共に、主の降誕を心からお祝いしたいと、参加者全員、努力し祈つている。

（鳥取教会聖歌隊長）

友をむかえ家族そろつて

田井中　純作

クリスマスのほんとうの喜びは、飾り立てたお祭り騒ぎの中にではなくて、教会での厳粛な礼拝と、家庭での静かな楽しい集いの中にこそあるものです。

倉敷教会の家庭クリスマスは、その心を以て、飯清牧師（現在霊南坂教会牧師）が赴任された翌年（一九五六年）から、教会全体のプログラムとして始められました。

クリスマスイヴの夕べ、全家庭一斉に、平素は忙しくしている両親も、子供達や招かれた友達と共に、家庭クリスマス（家庭礼拝並びに祝会）を守るのです。

それは大体次のようなプログラムで進められます。

クリスマス・キヤンドル点燭
机の上か床の間にローソクを一本立てゝ消灯点燭
聖書（ヨハネ一・一—五　又は九—一三）
讃美歌（一一一又は一〇九）
聖書（ルカ・二・一—一四）

最初の降誕の夜を告げる聖書を、一同の輪読か、子供の一人が読む。

クリスマス・メツセージを父か母が代つて読む。
祈禱（父か母がする）
讃美歌（一〇九又は一一三）

つづいて第二部は、食事かテイーパーテイの後、楽しい親睦と語り合い、また寄せ書きなどします。美しいカードに印刷したこのプログラムは、牧師のメツセージと共に、全家庭にとどけられる。

特にこの日には、クリスチヤンホームに属していない青年達や、故郷を離れてこの町で働き、学んでいる若い人達が、各家庭に数人ずつ招待されて、主を中心とする温かい家庭の団欒の中で、忘れられぬクリスマスを過すのです。

招待する家庭も招待される者も、申出を受けて全体の割当てがきめられますが、何れにとつても、忘れ得ぬ交わりと思出がつづられるようです。

記録に由れば、最初の四年（一九五六年—一九五九年）は、毎年約五〇の家庭で守られて来ました。一九六〇年以降はやや小規模になりましたが、また教会全体のもりあがりを以て、盛んにしたいもと願つております。

全家族がそろつてクリスマスを祝うクリスチヤンホームが更にふえなければ、クリスマスはいつまでも、忘年会と置換えられるのではないでしようか。

（倉敷教会牧師）

とぴらく　コーナー

クリスマスの集い

——紹介——

ミニスターとしての私を再確認

宗宮　進

教団の正規の手続きを経て正教師に認定されたからといって、とくに深い感慨にうたれたというのでもない。なんか決意を新たにしようとしてもそれがいまの自分にふさわしくないように思えてくる。たしかに、補教師と正教師とでは、職能の範囲がちがうわけだから、宣教の面で限定されていたことが、除かれたことはうれしい。

しかし、わたしにとつては補教師であれ、正教師であれ神の召しに対する自分は、少しも変つていないのである。十三年前に、伝道者として献身を志してから、吸い込まれるように、現在の時点まで保たれて来たというところに、使命観を客観的にしているものがあるように思える。これが、イエスから使命を与えられて遣わされた者としての私なのである。

また、イエスと共にあり、ともに歩む者であるという意味では、わたしもまた信徒である。イエスが弟子たちに語られた言葉に『あなたがたは先生と呼ばれてはならない。あなたがたの先生は、ただひとりであつてあなたがたはみな兄弟なのだから』（マタイ二三の八）『教師と呼ばれてはならない…仕える人でなければならない』（マタイ二三の一〇、一一）とある。わたしは、自分の心の中におきてくる教職意識をすてて、本当に仕える人になる心がまえを再確認させられる。教会のミニストリー（Ministry）は、イエス・キリストが本来もつておられるものである。そのキリストに仕える人としての教職でなければ、どんなに教師の権威や職能を行使しても無意味であると信ずる。

教会の宣教の業のために、神が特に召してくださつたという点で、わたしは正教師の任にあげられたものだという、このわかり切つたことを、そうでない事として、いま、考え直している。

（一九六三・一一・一四）

（津山教会牧師）



我等をつなぐもの

— 鳥取県青年大会におもう —

鳥取教会　花岡弘子

大会は雨も風もなく空には星さえ散る静かな夕べに迎えられた。

幼稚園の愛らしい種々の道具の取付けられた礼拝堂には開会前から和やかな気配が感じられていたが、六十数名を集めた七時からの開会祈禱会には格別興奮は見られなかつたけれど終始落着いた期待となされた様であるが、〝分れて話そう〟〈一分団十数名五分団〉に於て〝家庭〟〝職場〟〝教会〟〝友情と受洗〟〈KKS二分団〉それぞれの場でのキリスト者求道者の悩み問題が与えられたテーマを基にして次々と発展させられ相当熱心に交換出来、又掘下げられた事は、この世に在つて常に少数派であるキリスト青年に大きな励ましになつたと同時にこの大会が我等にとつて必要なものであつた事を示していた。おだてられ乍ら習つたエルダー先生の英語ソング。講師も交え跳んだりはねたりのフォークダンス。〝皆んなで話そう〟に用いられたスリルのある新方式たのしかつた。

この大会が終始一貫〝我等をつなぐもの〟をキリストと確信しつつ信仰による緊張がみなぎり藤代師に依る奨励に至つて早くも大会のムード、盛りあがりが感じられた。友の得られ難いこの時代に在つて生きるキリスト青年が相互を真実に結ぶ絆を見つめてゆこうとする意気であつた。

今年は二、三新しい試みが一致を求める事が出来たのは藤代師による平明淡々とした語りかけに依るものが誠に大であつたと思う。

キリストとの交わりは勿論キリスト者相互の交わりの必要を改めて考えさせられた意義深い二日間であつた。

× ×

本をおすすめします

キリスト教視聴覚シリーズ 3
『クリスマスのすべて』

教会で、また教会学校でのクリスマスの迎え方や守り方が最近形式に流れ、ほんとうの意味でのクリスマスの喜びにひたることが少なくなつたのに意を用いて、〝クリスマスのすべて〟を知つてもらいたいとの意図のもとに出版されたことがよくわかる。

「降誕に関する聖書研究」「クリスマスの由来」から「クリスマスの歌」アドベントからクリスマスまでの教会学校の「プログラムのたて方」デコレーション、プレゼントのヒント「祝会のゲーム」「劇」に至るまでクリスマスのことは何んでもよく理解できるように編集されている良書である。飯清牧師をはじめ十名の方々が執筆されている。

なおこのシリーズには「イースターのすべて」「夏期学校のすべて」の二冊が既に刊行されている。

（東京アバコ発行二〇〇円）

東京YWCA編
『クリスマスを楽しく』

東京YWCAが六〇年の長い間、何度もクリスマスをやつてきていろいろなことを覚え、学び、教えられてきたその生きた経験を通して、クリスマスの正しい心がまえや、楽しく意義のあるクリスマスのもち方を集めたのがこの書物である。

「クリスマスとは、二クリスマスの守り方、三クリスマスと奉仕の心、四クリスマス・ア・ラ・カルト、五みんなでできる飾りつけ、六クリスマス音楽、七クリスマス・カードのエチケット、八プレゼントのヒント、九クリスマスの料理、十クリスマス・パーティーの守り方、十一世界のクリスマスというのがこの書物の内容である。

上記アバコ発行のものと共にクリスマス、についての良書であるので推薦する。

この書物は教団出版部より〝女性と生活シリーズ〟十九冊目のものとして発行された二〇〇円である。

（壺井正夫）

集中伝道特報

高塚勝

ただ今実施している集中伝道は前号で中間報告をいたしました計画に従つて推進されています。

山陰地区はすでに今年初頭から準備期をもうけて、この伝道を積み上げてきましたので、クリスマスはいはば実りを主にささげる時となつています。

導かれ福音に触れ、教会の門をくぐられた求道の友たちが、み名に加えられるよろこびの各地区に溢れることを期待したいものです。

十月、鳥取地区は吉野丈夫先生を迎え特別集会を。米子地区は長谷川初音先生を迎えて特別集会を。岡山県南部地区は中村敏夫氏を迎えて各個教会の役員が鋭く召され選ばれている使命を反省しました。

十一月、鳥取、米子、倉吉地区は太田俊雄先生を迎えてこれまでの各集会を通して導かれた友たちに、み言に生きるよろこびを分ち。岡山県南部地区は吉野丈夫先生を迎えて特別集会を実施しました。

実施した計画のすべてが必ずしも盛会であり、成功であつたとは申せません。しかし教区をあげての協力体制と地区内諸教会の互助とがそれぞれの教会をどれ程励まし、全力を注いでの苦斗に押し出しているかを私共は率直に認めたいものです。

来り給うた主イエスが、十字架を負い給う主であることを深く偲び、さらにのこされた集中伝道計画の実現のために全教会があげて真剣に聖書の御言にきき、従うものであることを期待しています。

経済的支援と共に「聖書の御言に活かされるもの」の産れいずることを真剣に祈つて下さい。

集中伝道を実施している各個教会の教師と信徒のためにも祈つて下さい。

集中伝道実施地区以外にも講師が派遣されています。

前号で田井中集中伝道委員長が指摘されたように、たゞ今実施中の集中伝道は重点的にえらばれた教区内の五地区において実施されています。

しかし、五地区以外の地域にある諸教会にも講師が派遣され伝道計画のおたすけをさせていただいています。

十二月初旬、関西農村センターの岩塚富次郎先生が岡山県西北部を応援して下さいました。又、来春、奥羽教区より瀬谷重治伝道委員長が来援される予定です。

その他、二、三の来援講師も交渉中です。御期待ください。

綜合的、有機的スケールで信徒のための集いを企画中。

これまで婦人協議会、青年大会、……福音学校など多彩に実施してきました。今回、それらを綜合的、有機的に集約した集会をと願つて、只今企画がすゝめられています。

とくに知的な学びから、自分を加えた学びを〆をモットーに。みんなで学び、みんなで語る会を目標にして、全く新しい型の集会を考えています。ぜひいまから参加できるよう。祈つてお待ち下さい。

岡山県、一月十五日（水、成人の日）於岡山県立児童会館

鳥取県　三月（日時未定）於　上井商工厚生会館

同じスケール、同じ形式の集会を実施します。

集中伝道献金を感謝いたします。

前号に引つづいて十一月末現在（智頭・高梁・岡山・岡山信愛の諸教会より献げられました）合計三一、九〇〇円　累計六九、一〇〇円

教区内諸教会の後援と御加祷を得て、着実に計画の推進されていることを感謝いたします。さらに御協力を切望いたします。

テープ・ライブラリーは活用されています。

よろこんで利用されるだろうか。テープ・ライブラリーなどやつぱり駄目。こんな批評を案じていました。

しかし、設置以来三ケ月。延二十三本（十教会）の御利用を得ました。個々の番組に対しては、それぞれ利用される教会で試聴された上、青年会、婦人会、夜の集会などで活用されているようです。

これまで十二本（一本四番組収録）四十八番組を所有していました。——一番組十五分——

十一月末、新たに八番組追加所有しましたから、ふるに御利用下さい。

No.13　この聖書あげるわ。店は小さくとも。あの晩の祈り。人生シナリオ。強く生きます。ふるさとは。広美ねえちやん。遺された絵。——各番組の要旨は近く各教会におくりします——

No.14　教団アワー「こゝろの友」のテープをさらに御利用下さい。借用料はいりません。但し二週間以内にお返し下さいお申込みは玉島教会、高塚まで。

Tさんへのお便り

十億献金 (2)

（前略）先日T先生から、光明園家族教会が十億献金として一万円を献げられたことをお聞きしました。今年の春ご一緒に長島を訪れ病める体を療養していらつしやる方々にお目にかかつた時のことをありありと思い出しました。

家族教会にとつて一万円は毎年のクリスマス献金の総額に相当するそうです。けれども額より、その背後にあるものに考えさせられました。

自分の教会も、教団に属する教会であることが強く自覚されており、よろこびのあらわれとしての献金だと思います。そして又、療養所の「特殊な教会」としてこれまでの受ける側から、ささげる側に立とうとしていらつしやるお気持のあらわれだと思います私はその「前向き」のお姿に打たれました。

献金をして下さいと言われた時、あたりを見廻して自分の妥当な額を割り出したり、義務的になつたりしている私でした。

Tさん、あなたはどうお考えですか。

（後略）

岡山県信徒会で
結婚相談所
を左記の通り開設して居ります。何卒御利用下さい。
◉申込用紙 釣書用紙（50円）あり
岡山県信徒会結婚相談所
事務所 倉敷市新川三九三
担当 大橋公夫
〃 新見重雄

鳥取市西町三丁目五一一
ウイリアム・エルダー
すべてをあらたにする主にあつて新年を迎えられることを共におよろこび申し上げます。

メリー・クリスマス
宣教師 ゴールドン・今井愛子
倉敷市福田町北畝三一六
TEL六〇四六

東中国教区宣教師
ポール・V・グリーシイ
岡山市上伊福絵図町三七〇ノ三
電話④一〇九〇
心の清い人たちは、さいわいである。彼らは、神を見るであろう。

岡山教会の書籍取次部を御利用下さい
（聖書、さんびか、書籍、いろいろ取次いたします）

岡山教会
牧師 壷井正夫
役員一同
岡山市東中山下102 電②8074

美作伝道所
久宗壮
美加
岡山県久米郡久米町中北上
TEL五一

耳鼻咽喉科 （岡山）
徳田一孝
（鉄筋3階新築中3月完成）
岡山市天瀬58 電③5936

祝クリスマス併新年
キリスト新聞派遣講師
愛農学園講師
益田泉
「地の極までわが証人たれ」

大分
元気になつて来ました。皆様もお元気で。
佐敷重雄
道枝直美

クリスマスの祝福を送ります。新しき年に神の恵を祈ります。

米子市角盤町4丁目
沢タク観光バス営業所
TEL 米子 代②3131
沢タクハイヤー営業所
TEL 代②2105（駅前）②2283（角四）②5656（皆生）

鳥取新生教会
平田滋晴
鳥取市駅前本通
電五五八四

岡山YMCA英語学校
岡山YMCA
理事長 更井良夫
理事 一同
主事 鷲見昌太郎
〃これみな一つとならんためなり〃

主の御降誕をお祝い申上げ尚希望に充る新春を寿き奉
林内科医院
林昇
倉敷市藤戸町天城

（米子）
長谷川英雄
米子市日乃出町鉄道宿舎

新春を迎え、皆様の上に主の御恩寵を祈ります。
米子教会
新達治

耳鼻咽喉科 （高梁）
桑内成郎
高梁市松山2050

社会福祉法人岡山博愛会
（岡山市花畑）
更井
哲知美良
夫子子夫

日本基督教団
高梁教会
教会員一同

倉敷[illegible]教会々員
尾崎元親
その恵みを以て年の冠とされる。（詩篇六五の一一）

皆さまの暮しに奉仕する店 （岡山）
福屋
FUKUYA CHAIN
中之町店 婦人服地 洋品肌着 レディメード
栄町店 洋品雑貨
奉還町店 洋品寝具 食料品
倉敷市店（戒町）・西大寺市店（元町）
岡山・TEL
中之町店 ② 5514
栄町店 ② 4884
奉還町店 ③ 6496

信愛教会
牧師　長坂龍太郎
岡山市門田御成町
電②七二六一
光はやみの中に輝いている
ヨハネ一ノ五

（信愛）
関　幸子
岡山市大供表町一ノ一七三
電③一〇三三
神の国は実にあなたがたのただ中にあるのだ。

（信愛）
船越小児科
岡山市七軒町四
電②〇三六〇
神こそわが岩、わが教い、わが高きやぐらである。

新年おめでとうございます
本年もよろしくお願します
岡山市国富二六一
（電②四〇五四）
岡山信愛教会員
山崎尚士

（信愛）
江口毅
岡山市上西川二二六
希望の年、感謝の年、祈りの年、宣教の年。

（信愛）
不二屋薬舗
岡山市大供58
（電）（2）4385
大供十字路西へ100米
（国道筋）
キリストによる義の実に満たされて神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。

玉野工務所　（信愛）
橋本佐三
岡山市難波町七四
新生を乞い祈る。

（信愛）
押野きくゑ
岡山市門田一七二番地
この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。

食事・会合に
御利用下さい
禁酒会館
主事　今田吉助
岡山市城下
電②6297
（岡山）

時計、メガネ、貴金属
中井脩時計店
鳥取市若桜橋詰
TEL 3663

白銀山病院　（玉島）
瀬崎正夫
玉島市　乙島六〇七三
電玉島四一四八

（信愛）
古いものは過ぎ去つた、見よ、すべてが新しくなつたのである。
岡山市上伊福今町171
永沢歯科
TEL (3) 8342
（済生会病院前）

倉敷教会附属
竹中幼稚園
園長　竹中みつ
主任　神崎玉枝
倉敷市旭町六七九
電二二—〇二〇二

鳥取教会
牧師　永田善治
伝道師　北垣俊一

楽山学院　習字及珠算教授
（信愛）
桂華岡本慶夫
岡山市内田春日町六六

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。

（信愛）
小事に忠実な人は大事にも忠実である。
マサヤ化粧品店
岡山市栄町
TEL (2) 4787

貸ぶとん　寝具全般
尾熊製綿株式会社
尾熊俊夫
倉敷市石見町
電話 840 573

鳥取市西町一の二二六
電三〇四四
愛真幼稚園

洋品雑貨　（鳥取）
トミヤ雑貨店
鳥取市若桜街道筋川一
電二三二三

（信愛）
新建材専門店
岡山光田商店
岡山市柳川交又点角
光田ビル二階
電 (3) 6940

信用あり
耐久力（十五年以上）あり
チョークタッチ快適
日乃出黒板
スチール黒板（磁石）
木製、平面、曲面
木製磁気黒板其の他
倉敷市福田町古新田九七
日乃出黒板販売所
新見重雄

浮田信衛　（旭東）
西大寺市北之町

旭東教会
牧師　脇本寿
役員一同
主の恵みと、皆様の祈に支えられて会堂、牧師館の移築を完了いたしました。

家野猛之　（旭東）
西大寺市浜

栗原小児科
栗原正
西大寺市中村
TEL 362
（旭東）

第18回信徒大会に出席して

高梁教会　桑内成郎

信徒会は順調に育つている今年倉敷教会では出席二〇二名。快晴に恵まれ、良い集会だつた。

太田先生の礼拝説教は「愛を持つて働く信仰」を体験を通して語られた。言葉は仲々印象に残り難いものであるが、信仰に依る愛の働きは強く印象に残る。

教え子の一人が「私は一生他人の鉛筆を削る者と成りたい」と云つたので理由を聞いたら斯んな話をした。

私が手を仮傷して、然も些細な理由で、配属将校に叱られ、気がむしやくしやしていたとき、試験があつた。答案を書いていたが、次々と鉛筆が折れ、遂に全部折れて終つた。仮傷しているので後は書く事も出来ない。えーいどうでも成れと腕を組んだ儘、教壇をにらんでいると、監督に来ていた先生がつか〳〵と降りて来て、傍に来て鉛筆を一本づゝ削つてくれた。私はその先生がバイブルクラスを開くと聞いて、兎に角出かけて行つた。そして基督者に成つたが、その時の先生が太田先生である。

太田先生と太田先生に斯る信仰を与えた中学の教師柴田先生の話が「種子をまく人」（一麦舎）と成つて出て居る激的な本である。

西村次郎先生の話は痛快であつた。大阪で各地に教会を新しく作る事、既に六ケ所であると云う（教会員が六〇名に成ると新しい場所に移つて開拓される由）。

如何にして人を集めるか。その秘訣は四つ。

①教会のために金を惜しまない

②地域社会に対する奉仕

③努力

④信者の人間としての魅力

信徒は言葉で神を説く事は困難だが、行為を通して神を示すことが出来る。例えば、週報をケント紙にして色刷りにして見られてはどうですか、伝道は金魚掬い伝道で行け（金魚掬いでは一匹の金魚に狙いをつけたら、徹底的に追う事であるとか）私達は兄弟姉妹であると云うなら、実際に教会内でそれだけの事をやらねば成らぬ。だから教会内で相互扶助をやる。教会員で病人がでれば、教会でその費用を持つたり、学生達には学費を無期限貸与したりする等、伝道が面白くてならないと云う此の話をもう一度聞きたいものである。

扨信徒会も年一回の大会だけから、年一回の総会を加え更に牧師夫人慰労会、結婚相談所開設等逐次その活動を拡げて来た。ために年間予算も十万円以上と成り、有志会員の会費を年百円として（幾口でも可）各教会で纏めて貰う事にしました。宜しくお願します。

委員長プロフィル



永田善治

伝道部委員長
教区総会副議長
鳥取教会牧師

「幼稚園改築事業のために、充分な奉仕ができず申訳ないが、と前置きしつつ、教区の課題は教区独自の幻を持つて創造的活動をなすことと、血の通つた交わりを深める牧会的配慮が更に必要だ」。さすがにつぼをおさえた永田ヴィジョン。その情熱と実行力ある指導が期待される。

昭和7年同志社神学部卒業、群馬県渋川をふり出しに、弓町本郷、涌谷、天満、島之内教会を歴任、副牧師の豊富な経験も積み、徴用に2年、戦後は平安、尼崎教会に各7年を経て鳥取へ。「鳥取教会は創立70年を超え、宣教師方の尽力に負う所大きく、多くの伝道者を生んでいる。自分の力と責任で前進する教会となることだ」と着実な継承と飛躍への決意充分。

山陰地区強化への関心と使命感、誰にも負けず、「人口流出県の多い裏日本全体の微弱性を考える時、現状を破る画期的な力の集中とキリスト教学校、幼稚園の働きの上に、長い目でやることだ」ときびしく温かい親分の貫録。愛嬢は伝道者に嫁し、孫もあり、とは思えぬ若々しさ。

新たに倉敷水島に来任された ゴールドン・イマイ宣教師



（略　歴）

一九二八年九月十三日
カナダ・ヴアンクバーで出生
一九五一年
ブリテイツシユ・コロンビア（B・C）大学を卒業
バチエラー　オブ　サイエンス（B・Sc）を取得
一九五四年
モントリオールのマギル大学を卒業　バチエラー　オブ　デイヴィニティ（B、D）を取得
一九五四年
モントリオール日本人合同教会牧師として七年半在任
牧会に専念　この間モントリオール　オタワ総会において按手礼をうける。

尚御夫人アイコ・イマイ氏とは一九五二年御結婚され現在男二人、女二人の御子様を与えられています。

同宣教師は倉敷市福田町北畝三一六番地に居住され、岡山県南部地区の諸教会のために活動されます。（但し来春までは教区内の諸教会の問安をいたします）

尚さきに岡山博愛会病院で活躍されていたヒサコ・イマイ宣教師は御令妹です。

阪本義夫氏を悼み

教区会計監査委員、阪本義夫氏の病が重い。との報に接し、二三の教師、教友とその病床を訪れたときはすでにこの地上に於て走るべき道程のいくばくも残されていない時であつた。

とかく会計監査の重責が表面的配慮のみに始終しやすい時、数字の背後にかくされている諸教会の労苦と現情にいつも心をくばられた阪本氏。この世に生かされているキリスト者としての責任を自覚的に問いつづけ、平和の会のメンバーであつた阪本氏。

事業家としては幾多の苦斗を味いつづけた阪本氏。

しかし、いまは正義と愛を追い求めて生きることを得させ給うたみ手の導きのありしことを覚え、御遺族のみなさまの信仰生活えのおはげみを切にお祈りしている。

（教区会計　高塚）

教会だより

岡山教会

去る十一月二十二日、東京聖書神学校、太田俊雄教授を迎えて特別集会を開催した。

尚、同教授の半生を描いた「種まく人」——賀川豊彦をめぐるシリーズの一冊——は岡山教会書籍部において取扱中。みなさまに本書の購売を壺井牧師は推奨している。

蕃山町教会

十月二十六日高知教会吉田満穂牧師を迎えて特別集会を開催された。

玉野教会（阪西直和氏）

さきに献堂式を挙げられた同教会の住所は次の通り。玉野市宇野二〇一三

総社教会

今春購入された敷地に、新会堂を建設中、クリスマスまでに完工の予定。尚建築資金を三年計画で募金中、みなさまの御協力を期待している。

旭東教会

かねて会堂を移築改装中であつたが完成。また新築中の牧師館も完工し、十月から脇本牧師は同館に入居された。尚献堂式を来春三月一日に挙行する予定。

笠岡教会（中堀仁四郎氏）

電話開通　笠岡局四〇〇一

上井教会

かねて着工中の新会堂が近く完成し、来年一月献堂式を挙行の由。

個人消息

山村好美氏（天城教会牧師）
過日より東京・神田駿ケ台日本大学医学部病院に入院され御療養中、御全快を祈ります。

宗宮　進氏（津山教会牧師）
十一月二十三日倉敷教会に於て、壺井総会議長司式により按手礼を受けられた。

吉田輝子氏（青谷教会牧師）
緑内症のため入院手術をされた。御全快を祈ります。

実兼又八氏（旭東教会役員）
この度西大寺を去つて、東京に移られた。
東京都府中市武蔵台
三丁目十の四

今田吉助氏（岡山教会役員）
かねて病気加療中、快方に向われている由。

奥田本三氏（倉敷平和教会役員）
岡山、根岸病院に入院加療中の由。それぞれの上に一日も早く全快されることをお祈りします。

阪本義夫氏（倉敷西教会役員）
十月十六日、御永眠

大島捷六氏（児島教会役員）
十一月十六日、御永眠
御両氏の御遺族及び教会の上に天来のなぐさめをお祈りします。

アドベント・イブ　コンサート

岡山連合聖歌隊は十一月三十日夜七時より岡山信愛教会において待降節を迎えるに当つて演奏会を開催、参会者によき心ぞなへを与えた。

（指揮）ポール・グリーシー宣教師
（曲目）ベートーベン　戴冠ミサ曲

伝道部

教区巡回伝道教師の件

現在まで各教会よりの御希望が少ないですが、積極的に御利用下さい。

主眼とするところは問安使として各教会をたずね、教職や信徒の方々と懇談する事ですが、御希望によつては集会の講師として御利用下さつて結構です。

今年度は壺井正夫、永田善治、長坂龍太郎、田井中純作の四氏が巡回教師として働かれております。

希望の講師、日時などは教区事務所にお申出下さい。

婦人伝道委員会

一、婦人聖書学級開催

戸田先生のあとを内藤先生についでいたゞき毎月一回開いている。主題の「連帯性」について聖書のあちこちから学んでいるが、十一月から聖書概論をも加えて話して頂くのが、誠に興味深く聖書にとらえられてゆく思い感謝である。多数の御出席を望む。

二、働く基督者女性の夕

働く基督者女性の共通の問題をとらえて発題協議懇談をしまとめを当番教会の牧師にしていたゞいているこれは青年及職伝委員会と共催で毎月一回聖書学級も共に市内各教会まわりもちで開いている。時間が充分とれない事や、ずつと続けて出る人が少ない為とあつてこの集いはこれからと言う感じ。皆で大事に育てゝゆきたい。

三、「神学生にクリスマスプレゼント」をお贈りしたいと各教会に氏名と学校名をお問合せ中。お返事未だの教会は至急左記へ御知らせを乞う。

岡山市七軒町四　船越澄江

社会部

一、十二月一日は教団暦によると社会事業奨励日になります。例年の通りこの日の献金は教区社会部に御送金下さるようにお願い申し上げます。

御承知の如く本教区内には教団関係の保育所が七ケ所、養護施設一ケ所、母子寮一ケ所に約六十五名の従事者が日夜御用のために精進していますし、教区内に主の聖名によつて安否を問う必要のある教職家庭が（病気その他の理由で）数家族あります。

昨年度は教区内の十七教会より金壱万四千七十五円御献金賜わりましたが、今年度は弐万円頂きたいのです。そして出来得れば五十教会から応分の御献金下されば幸福です。よろしくお願い申し上げます。

二、今年度も教区内の社会施設を殆んど全部委員長が問安し主の愛の実践をしている従事者の祝福を祈りました。そして各施設から喜こばれました。

三、社会問題ゼミナールを西村代議士か長谷川代議士によつて開かう（岡山教会で）と計画しましたが。解散でその機会を失しましたが近く再検討して、三月末まで[illegible]す。多数御来会下さい。

日本の直面している政治的緊急問題の認識を得たいものです。

訪伝ニュース

第10回訪問伝道
全国講習会

日時　来年一月一四—一六日
場所　須磨荘（国民宿舎）
標語　「地のはてまでわたしの証人となるだろう」
会費　二〇〇〇円

参加御希望の方は係までお申込下さい。補助をいたします。

編集後記

▲クリスマス、おめでとうございます。

▲本号は八頁の内容豊かなものになりました。

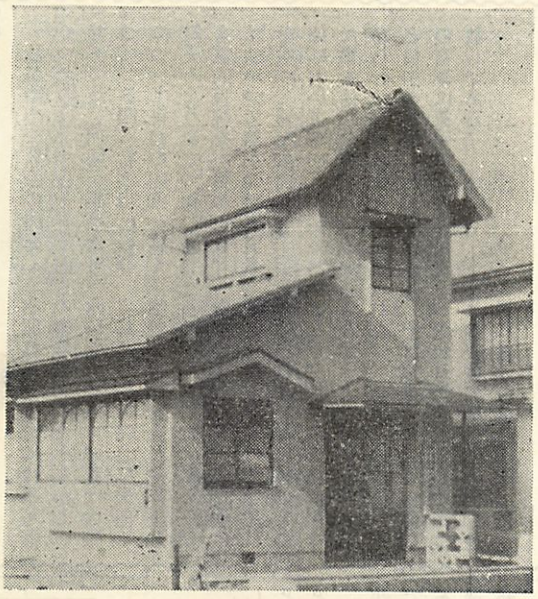
▲トピックコーナー（クリスマス特集）は、それ〴〵の持ち味が生かされており、教えられるところが多いです。

▲南の信徒大会、北の青年大会、いずれも一致と前進えの力が感じられて嬉しいです。

▲集中伝道も収穫期に入りました。集伝地区の更に力強い歩みと、各教会の祈り、支えを期待しています。

▲本誌を広く活用して下さる様願つています。（T）

教区報
東中国
No.22
発行所 岡山市東中山下102 岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日 1964年3月15日



今年1月献堂式を行い 開拓の意欲に燃える上井教会

私の姿勢

井殿園

この世にあつて正直なところ私たちキリスト者は少数者です。月曜日から土曜日まで接する人々の殆んど全部がキリストを知らない人達です。そういう中で、私たちの生活は必然的に斗いの様相を帯びているわけです。何が主のみ旨であるかをわきまえて生きようとする人には、日日の経験が新らしい問題となつて迫つて来るのではないでしょうか。世にあつて私たちのとる姿勢の一つはこうです。自分のための安全を守るために、自分の立場を確保するためにキリスト者として自分を固く武装する姿です。絶えず身の廻りのことに細かく心を配り自分の信仰を打ち出して生きる立派な姿です。けれどもその外へ向つての斗いは実は「自分のため」の斗になりがちな危険もあると思うのです。又逆に、自分を積極的に世に向つて押し出して行く姿勢がありますけれども考えなくてはならないことは、自分を社会の中に解消させてしまう危険もあることです。前者が自分を固く武装させるなら後者は自分をひろく解体させる姿です。あなたは外に対してどんな姿勢をとつているでしょう。キリストによつてキリストのために備えをする時に正しい強い斗いが可能なのです。それは教会の交りにおいて―聖日礼拝において―なされるものなのです。

教会において自分の意見をはつきり口にしない空気があることは事実です。聖日に久しぶりに信者同志が顔を合せても、短かい挨拶をかわす程度にとどまつていないでしょうか。又話しても自分とはあまり関係のない事柄が取りあげられます。教会に初めて来た人、求道者が隣りにいても声をかけることもしないし、その必要を感じないようならば、控え目な態度は教会にはなくもがなです。

信者と牧師との間にも、あまりものを言わない傾向があるようです。信者相互の間に又牧師と信者との間に不信の念があるからだとまでは言いたくありませんが……。これは偏見でしようか。そうなら幸です。

ほんとうに一人の主に召され、ゆるされた同じ僕ならばもつと大胆に自分を守るための武装を解いてもよいでしょうし、又相手に入り込んでもよいのではないでしょうか。不干渉主義が悪く働いているとするならば問題は深刻です。教会は一つの幹であるキリストにつながれた一つ一つの枝であるはずです。一つの枝の痛みはそこだけにとどまらないで全体に及んで行くものです。教会という全体の中に痛みを感じない自分を、先ず痛むことから出発しなくてはならないのが私たちのありのままの姿ではないでしょうか。不感症は不干渉主義からと言つては言いすぎでしょうか。キリストはそんな私たちのために、今日も痛みを御自身のものとして負つて下さつています。

教会は伝道をしなくては―求道者をしつかり固定させなくては―。これは切実な私たちの叫びです。教会のことを真面目に考える人は痛切に感ずることです。そこから「一人でも多くの人を」という真実の祈りが生れて来るのです。しかし考えてみようではありませんか。この祈りがほんとうに自分の言葉となつている時には、「一人でも多く」は必然的に特定の具体的なあの新しい人、この求道者の「一人」につながつて行くはずです。そしてその一人のために自分の力の限界を覚えつゝ、信仰の弱さにおそれおののきながら労苦して行くはずではないでしょうか。具体性が全く失われているところで「一人でも多く」とか「伝道をしなくては」と言われているとするならば、それこそ言葉は内容を失つています。「一人でも多く」は「多く」によりも「一人」に重点がおかれるものでなくてはなりません。

あなたはそういう「一人」を具体的にお持ちでしょうか。

主は多量を問題にされないで、常に特定の具体的な「一つ」を問題にされ、追求されたお方ではなかつたでしょうか。迷える羊の一匹を、失われた銀貨の一枚を。

私たちの信仰はキリストを信ずる信仰です。自分の信ずるキリストが過去の古い時代の、遠く離れたパレスチナのキリストであるならば、今の私に特別に何も語りかけて来ることはあり得ません。唯教会の中だけのキリストに限られていて、生活の中に日日に私の前に立たれることのないキリストならば、過去の信仰です。今、「見よ、わたしは戸の外に立つてたたいている、その声をきく」心の耳を持つているのが生きた信仰です。それは一度巻けばもはや一生の間巻かなくてもすむ時計のようなものではないのです。くり返し、くり返し巻き続けなくては、正しい時のしるしを指さすことは出来ません。私は古ぼけて来たけれども正しく動いてくれる柱時計のねじを巻く度にこのことを考えさせられるのです。

今、ここでこのことを語り要求されるのが「見よ世の終りまで汝と共にあり」給う主です。

レントにあつて私の姿勢と主の十字架のお姿とを鋭く対比することが意義あることではないでしょうか。

（高梁教会牧師）

説教

十字架

坂西直和

私が始めて教会の門をくぐつたのは今から十五年前であつた。何回か集会を守つている間に私は自己の罪について良心の痛みを強く覚えるようになつた。幾日も霊的反抗をかされた後、私はかつて無かつた真実さをもつて罪を告白し、十字架においてすべてが赦された事を信じた時、口で云いあらわす事の出来ない喜びと自由を経験した。十字架の言葉は第一に罪の完全な赦しである。

その後二、三年を経て、私は自分の信仰の不徹底さに悩むようになつた。やがて私はその原因が心の奥深くひそむ自我(自己中心)である事に気付きはじめた。その時示されたものは十字架であつた。私は日夜パウロと同じ経験——わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのはもはや、わたしではない。キリストがわたしのうちに生きておられるのである。(ガラテヤ二・一九、二〇)——が与えられるよう祈つた。或る時はこの戦いに倦み疲れて、自分には不可能の事に思われた。しかし、永い間求めた末、私は自分自身について完全に失望し唯弱い自己を全く主に委ねるのみであつた。私の一切を主に捧げ、すべてを明け渡した時、「私は十字架につけられた。私は彼のものとなり、彼は我が内に生きて在す」との確信が与えられた。

それ以来十年、この確信が失われた日はなかつた。この経験の結果私の信仰生活に大きな変化が起つた。祈りの自由、御言に対する信頼、聖旨を求める心等が与えられた。

十字架に徹する事は福音の奥義である。「十字架のみ」との決断はパウロに自由をもたらした。イエスと共に死ぬ事によつてのみ、イエスの復活の力は我らの内に働くのである。今年も受難週を控え、キリストの苦難をしのび、主のみ跡に従つて歩みたいものである。

(玉野教会牧師)

人間の悲劇を越えて

岡本加都夫

編集委員が、受難週を前にして、旧約聖書の「ホセア」と「ヨブ」について何か書けと注文しました。

ホセアとヨブは、両人とも悲痛な人生の経験と苦難の中で、神の御心を知つた人物である。こうした意味で、受難週を前に二人を学ぶのはふさわしいかも知れない。

人生とは、或る面で、悲痛な経験をする事であり、又それにどうぶつかるかによつてその人の道は決定し、そのぶつかりが人生の味とも言える。

ホセア

ホセアの予言の動機は、彼の家庭の悲劇から出発している。ホセアは神命により淫行の女ゴメルを妻とした。そして生れた男児をエズレルと名づけたが、次に生れた女児は既にホセアの子でなく、そして次に生れた男児もホセアの子ではなかつた。終にゴメルは、ホセアを棄てて愛人と共に異郷の地に放浪した。ゴメルはその愛人にも棄てられ娼婦となつていたらしい。

ホセアが神から最初に受け取つた言葉は、

「行つて、淫行の妻と、淫行によつて生れた子らを受け入れよ。」(ホセア書一章十二節)

と言うことであつた。神の最初の言葉が淫行の妻を再び愛せよとは、何と言う悲痛な言葉か。

しかしこの言葉の中に神の真理は証しされている。即ち神ヤーウエは夫であり、妻はイスラエルであり、夫ヤーウエを棄て、愛人たる偶像に頼つて生きている。しかしその神に背いているイスラエルを再び神御自身が愛し給うているということである。

淫行せし妻に対して夫のとる態度は怒りであり、不義に対する裁きである。愛ある所にのみ裏切があり、罪が生じる。真実に愛した者は、裏切つた相手に対して怒りと憎しみを持つのは当然である。しかるにその妻を怒りでなく愛せよと。このホセアの家庭の悲劇を通し、ホセアにこのように予言した神に、二つの存り方がある事が示される。怒り給う神が愛し給う。しかしながら怒りも、愛もあくまで固有性を持ち、二つは決してあいいれない存り方であつて同一の神である。

あたかも人間の罪に対して怒り裁き給う神が、そのままで罪人を赦し給う愛の神、即ちイエス・キリストによる十字架の裁きと赦しの福音を証ししているのである。

ヨブ

人生の悲劇、苦難は神の私達に対する恵の挑戦として受けとるべきです。ヨブはこうした面で代表的な人物であると思われる。

彼は神を信じきつていた人間である。しかし彼は、「自分の生まれた日をのろつた」人間である。ヨブはありとあらゆる悲劇を受けとめつつ神を求め、そのためますます自己の分裂を激しく経験せざるを得なかつた。

しかしこの経験を通し、自己の力の範囲内にはその答を見出し得ない。人間を越えた者のみが、人間存在そのものに答をおく事のできる者である事が解つたのである。ヨブはここで、はじめて神に出会うことを許されたのであり、それがヨブの回心であつた。

「見よ、彼はわたしを殺すであろう。わたしは絶望だ。しかしなおわたしはわたしの道を彼の前に守り抜こう。これこそわたしの救となる。神を信じない者は、神の前に出ることができないからだ。」

(ヨブ記十三章一五、一六節)

即ち神に出会うことによつて自己の真実の姿、その無知を徹底的に知らされたのである。

悲痛な経験を知ることが、神を知ることであり、神を知ることによつてこそ、真の人間を知ることができると言うものである。言うなれば、神は神であり、人間は人間であることを知る。

ヨブに代表されるわれわれ全ての人間が、罪の審きとして受けねばならぬ悲痛な経験を、神はその独り子救主イエス・キリストをつかわし、御自身の上に負うて、己を低くして、死に至る迄、しかも十字架の死に至る迄従順であられた。悲痛な苦難は神御自身受け給う。しかして十字架の死の後、復活し給いて死より勝ち給う。

人間の力で人間の問題を解決する事に絶望し、たゞ悲痛な経験の中で神を求めたヨブの信仰の如く、人間の悲痛な経験を自ら背いしイエス、そしてそれに勝ちし、主を信じきりたい。

両人が、その生き方によりイエス・キリストを証ししている事を感謝したい。

(琴浦教会副牧師)

座談会

……信徒のための集い……を めぐつて……

出席者

乾	哲朗	岡山信愛教会	
脇本	豊子	旭東教会	
林	福治	倉敷南教会	
三宅	孝之	児島教会	
尾島	英子	高梁教会	
吉田	訓子	倉敷教会	
江川	八重子	笠岡教会	
小川	政雄	岡山教会	
ル・ダ	一	教区宣教師	
中堀	仁四郎	笠岡教会	

司会者

高塚	勝	玉島教会

会に出席して

司会者　今日はお忙がしい中をお集り下さりありがとうございました。早速ですが「信徒のための集い」の全体についての御感想を……。

小川　期待した通り、満された会だつた。

脇本　とにかく居眠りをした人がいなかつた。話を聞くだけでなく、自分の頭を働かして考えなくてはならない会だつたですね。

乾　みんなが参加して、みんなが考えた会で魅力を感じました。

尾島　なごやかで、しかも今までの修養会とは違つて身近かな問題を与えられた会だつたと思います。時間がすぐにたつてしまつた……。

林　問題がはつきり浮きぼりにされましたね。

司会者　新しい試みでやられた会でしたが、一体どういう問題を、お感じになりましたか。

小川　その感じ方なんですがとらえた問題が「私たち」のことではなく、「私」のことなつていたかどうか。これが今の自分の問題だというように……。

脇本　私たちは八人顔を合せて「いたいわねー」

司会者　そのいたいということを感じてほしかつたのですその「いたさ」をあたため、解いていただくことがねらいだつたわけです。その「いたさ」がどの程度のものであり、どの程度持ち続けられたかは次の問題でしよう。あの会でアンケートをとりましたが、お答え下さつた百二十人の中、つまらなかつたというのがわづか四人で、あとは殆んど全部よかつたという御意見でした。

三宅　私は話し合いの中で、若い方が発言する機会が少なかつたのではないかと思います。年とつた方が自分の証しをしちやつて……。

連帯性ということは

司会者　お伺いしたところでは、今度の会は大体御満足いただけたようですが、確かに個々の面では考え直すべき点があつたことを認めます。ところであの会で、三つの寸劇がなされましたが、その二番目からはどんな問題をお感じになりましたか。大体のことをもう一度申し上げますと—或る教会学校で、次々と先生が転勤や仕事の忙がしさのために休みがち、さしあたつて次の日曜をどうするか心を痛めて話しあう若い牧師夫妻。結局「何とか今度は二人でやろう」というところで一応話は打切り。さて日曜の朝、生徒はたつた六人、それを知つた役員「もつと頑張つてもらわなくては」——続いて教会員「おや、CS今日は休みかな—」。この寸劇で意図されたものは何であつたと想像されましたか。ラジオのクイズみたいですが……。

林　教会の全体的協力が必要であることを呼びかけていたと感じました。

尾島　やはり、教会という全体的有機体を構成している一つの細胞であることを自覚する重要性をあの中からあらためて教えられました。一つの幹につながる枝であること—連帯性—を知るならばもつと強力なものに成長できるでしよう。

脇本　そうですね、CSだけでなくて教会全体の問題が含まれていましたよ。あの寸劇の中には、私も含まれていたと思いました。

司会者　最近、教団教区の婦人部、青年部あたりで連帯性ということを強調していますが、教会の内部にさえ、その連帯性が欠けていると思われます。CSはあの人がやつているんだからまかしとけばよいという形が出て来ちやう。

小川　卒直なところ、教会全体のことを考えるところまで行つてないですよ。とにかく自分の信仰を育てるのに勢一杯なんだから……。連帯性が乏しいのは覆えない事実でしよう。その乏しさが無関心となつて表れて来るのです。牧師先生の方でも連帯性を信徒に教育していらつしやらない……。これは両方に問題がありますね。

林　寸劇の中で、若い牧師さん夫妻に「又開拓伝道のつもりでやるか」と言つておられたのはたのもしかつた。それに仲もよかつたですよ。そこに役員が一人でも二人でもよいから協力して行つたらもつとやれるのにと思いました。

脇本　私はね、牧師夫妻が二人でやるかという、そのところが弱いと思うんですよ。

エルダー　寸劇の後の意見交換の時に「若い牧師がやるのだから、CSに子供が数人しか来ないなんて考えられないもつとやれる筈だ」という意見が出ていましたね、これはどうですか。



司会者　そういう意見の中に残念ながらズレが出ていたと思うんですよ。はからずも、今日の教会の偽らざる実状が出ちやつた。

小川　新聞で読んだんだけど日本人には「連帯性」ということはまだまだ理解できないことだと言うことです。自分がしつかりしていないにの連帯性は無理ですよ。

吉田　人まかせで消極的な教会の実状がよく表れていたと思います。もつと自分のこととして考える——そういう面での積極性がほしいと思います。

林　生徒が少ないと言つていたけど、子供が来ているのに先生が来ていないということもありますよ。

中堀　よくあることですけどCSについて一応よい意見や正しい批判をする人が、実際には何もしていない。それはね、やつぱり自分の問題になつていないことの表れでしよう。

生活の多忙さの中で

司会者　第三の寸劇で、準備委員達が意図した点は、私たちの生活に於ける多忙性ということだつたのですが、これはいかがでしたか。

日曜日の朝食後のY家。教会役員であり、町の婦人会の役員でもある母は、その日の役員会のことを父によろしく頼んで町の婦人会へ出かけて行く。息子は約束していた友達が誘いに来たので「教会はいつでも行けるわ」い言い残して飛び出して行く。教会へ出かける用意をしようとする父のところへ仕事の相談で来た急ぎの客があり、行けなくなる。結局娘は「ああ、今日も私だけだわ」とつぶやいて教会へ……という内容だつたですが、あの日、娘は教会へ行くには行つたけど、ほんとうに信仰が生き生きしていた

だろうか。そこにも問題がかくされていたのでしたが、皆さんどうお感じになりましたですか。

林　あの家庭にはまとまりがなかつたです。もつと父が戸主として指導性を持たなくては問題は解決しないと思いました。

小川　教会生活と忙がしい社会生活とが同列におかれている。なかなか解決はむづかしいですよ。比重をどこにおくかが大事でしよう。それはよくわかつていると言いながら実際にはわかつていないし、やつていない。問題はそこにありますよ。分団の時、或る高校生がエライこと言いましたよ。教会生活と社会生活をもつと調和させろと。私は驚きました。

林　教会はもつと魅力を持つ必要がありますね、そうしたら若い人たちはもう少し教会に出るようになるでしよう。

吉田　私は、クリスチヤンとして聖日厳守ということをどう受けとつているか、そこに問題があると思います。

乾　僕達、学生会で教会の大切さについて話し合つたんです。そして教会中心性をはつきりさせることが必要だとわかりました。その自覚が大事だと思うんです。

エルダー　実際に社会生活に於ける責任はみんな持つているからね。教会中心ということを考える時、社会生活とはどうしても緊張が生れて来るでしよう。そういう点が話し合いの中で出て来なかつたのは残念でしたよ。

司会者　そうなんです。実は三つの寸劇はみんな相互に緊張関係を持つていたと思うのですが、話し合いはつながりがなかつた。

小川　そういう大事なことは分団の話し合いの前に、みんな考えておくべきだつたですよ。意図した点はもつとはつきりわかるように話しておいた方がよかつた……。

司会者　あえてはつきりさせなかつたところにも意図があつたのですが……。

西江　先程の聖日礼拝の守り方とか考え方をもつと深く考えてみるべきだと思います。現実には行きたくても行けない場合だつてどうしてもあるわけでしよう。

聖日礼拝にいつも出席しているから、それで厳守しているということは、機械的には言えないと思うのです。生意気言うようですけど、要は信仰生活に対するきびしさがないということではないでしよう。

信仰生活における「きびしさ」

司会者　今おつしやつた信仰生活のきびしさとか、たたかいということなのですが、一応はみんなの頭の中に言葉としてあるのはあるけれど、実際の生活の場にどの程度生きているでしようか。

吉田　現実として、きびしさ以前のところでモタモタしていると思います。もつと真けんに深く励むことをしなくては……。

尾島　私たちはクリスチヤンとして、日々の生活においてはつきりと自分を示すべきだと思います。自分を明らかに表すことが今日では非常に大事ではないでしようか。

西江　私は信仰そのものに対する姿勢を考えるのです。その具体的なものとして聖日厳守も取り上げるわけです。

エルダー　それもきびしさの問題ですね。ほんとうに芯が入つているだろうか。



牧師さんから、きびしさが必要だと言われても、一応は頭に入るが、唯聞くだけでなく、人の前で自分の口で言つてみることが大事です。自分で言つたことは身につくし、責任を感ずるようになりますからね。

あの会でいろいろ話し合つたけどね、みんながこれから先、どう変つて行くか、それによつて会の成果が表れて来ると思う。

尾島　私もたしかに変りました。今日の会も、これまでの私たつたらお断りするところだつたでしよう。

エルダー　突然に会の案内をもらつて、全員が時間通りに揃つたのはほんとうに珍らしいと思いますよ。

乾　僕の母も変りました。今度先生から言われたら幼稚科の先生をやつぱりお引受けしようつて……。

司会者　準備会で「教会に行つていても行つていない」現実があるということを言つたらみんなから「それはどういう意味だ、もつとはつきり言え」と言われちやつたけれど他に適切な表現が見つからなくて困つているところです。おかしい言い方ですけど、実際に教会に行つていて行つていない状態というものがあるのではないでしようか。その壁を破つてそこから前進して下さることを期待したのでしたが……。行くなら行くで徹底して行く、そういうこともきびしさにつながつていると思います。

林　教会に行つていて、同じ椅子に座つていながら話しもしない。教会の中にほんとうに友達が何人いるだろうか。そういうことも行つていて行つていない状態の一つの表れでしようか。

吉田　みんなもつと人の話すことを上手に聞き、又話す。そしてもつともつと勉強しなくてはいけないと思うのです。それもきびしさの一つでしよう。

明日への希望　わたしの幻

司会者　いろいろと信仰生活を反省して、痛みや弱みを覚えるのは誰しも同じです。しかし、同時にそこに、そういう者が主によつて赦され、支えられつゝ前進する——そういう姿勢があると思います。そういうところからみなさんの明日への希望とか期待しているものを語つていただけるとうれしいですが。

林　若い私たちが、先生を囲んでこれからの教会はどうしたらよいかを話し合おうと思つています。

小川　ズバリ一言で……。教会へ行つていなくて行つているだけの信仰を持つている人よりも、教会へ行つているが行つていないと同じだと言う人の方が前進する可能性あり。

脇本　今度のような寸劇を是非私たちの教会でもやつて、話し合いたいと思います。

三宅　私は出席して、モノスゴク痛みを感じました。自分から信仰を深めて行くために聖書に日日親しんで、もつと主に近づいて行きたいと願つています。

尾島　ケネディ前大統領が、「国家は自分に何をしてくれるかということよりも、自分は国家に何ができるかを考えよう」と言つていますが、それと同じことが教会生活でも言えるわけです。教会は自分に何をしてくれるかを考えるのでなく、自分は教会に対して何ができるか、どのように仕えることができるかを考えて実行して行きたいと思います。神さまを受けるばかりでなくて、与えることをしたい……。

乾　これまで教会でいろいろやつて来て考えるのですが、どんなことをするにもよろこびを持つことが大事です。そのことだけで満足して、そして自分をきびしく見つめて行きたいと思います。

吉田　私は生活の中にホントに生きている信仰、それを求めて励みたいと思います。

西江　私は今教会学校を受け持つているのですが、奉仕していることがよろこびをもつてできるようになりたいと願つています。先生が足りないからとか、子供が待つているからとかいうことで奉仕をする——何となくそこに悲愴感があるでしよう——そうでなくて、奉仕することがほんとによろこびになるようになりたいのです。正直言うと今は重荷になつているんです。

司会者　ありがとうございました。全体として信仰生活にきびしさが欠けていることがお互いにはつきりして来ました。自分の中から出て来る信仰が欠けていることが不自由さを生み出していると思います。みんなそこで壁を感じ、見つめています。しかし、それにもかかわらず、それぞれが信仰生活の中に支えられているものを覚えつゝ、深いよろこびを確認しながら前進して行きたいと思います。許されるなら更に又、よりよい会を企てたいものです。どうぞみなさんの手によつて広く進めて行つて下さるように望んでやみません。

教職謝恩制度の拡充のために
十億献金(3)

先日礼拝後の交りの時に、当番のMさんがこんな話をみんなにしてくれました。

——私のつとめている会社では、中卒の学歴で（義務教育終了者）勤続三〇年の者が退職すると二八〇万円の手当が出ます。その上、毎月かけている厚生年金手当が六〇才で月額七四〇〇円支給されるそうです。もちろん中小企業に働く方、個人経営の方など実情はさまざまと思います。

この間、教会の役員でおききしたのですが、牧師は四〇年在職して謝恩金が年額六万八千円　八月額五七〇〇円足らず〉現在教団より支給されるんだそうです。

私共の会社の現状と比較して余りにも差が大きいので本当におどろきました。と同時にこういうことを少しも知らずにいて申訳なくさえ思っています。

日本の伝道を阻害しているものは多くあるでしょう。でも老会に達する先生方の生活についてすら、深い感謝の配慮をなしえていない私共のあり方にも反省がつくづく必要だと思いました。——

几帳面なMさんのお話をきいていて、この間君の話していた十億献金のことを思い出しました。

たしか十億献金の半分は教団の基金として、教職謝恩制度の拡充のために用いられるのでしたね。

君は月一杯のコーヒー代を礼拝に出席する全員がこのために献げれば目標は達成すると云っていましたね。僕も君の提案に従って好きなコーヒーを先週から節約していますよ。

信徒会だより

岡山県信徒会理事会は去る一月二六日、蕃山町教会に於いて開催された。協議事項は次の通り。

岡山県信徒総会を三月二〇日西大寺市旭東教会にて開催。

プログラム

九時半　登録

十時　開会礼拝

蕃山町教会内藤牧師

十一時　総会議事

一、庶務会計報告

二、三九年度予算案審議

三、その他

一時　協議会

一、教会の連帯性

二、伝道の苦心

三、信徒会の運営

四、十億献金募金の経過報告と其推進について

発題者、岡崎、水野、江口、大橋

三時　祈禱会

奨励、玉野教会阪西師

各教会からは、一人は必ず出席願う事、教職側の積極的協力を期待することを申合せて終る。

（大橋公夫記）

委員長プロフィル



小寺昌良

教育部委員長

高屋、井原教会牧師

「教会学校を牧師や教師だけに任せておくのではなく、教会全体のものにしなければ…」と教育委員長としての弁。

教会教育畑ではベテラン。米国ハートホォード大学で教会教育を専攻、前任地向日福島教会時代には九州教区教育委員、教団教育委員もやつた。

1963年度「教師の友」小学科一級教案執筆者、これで三回目と言う。多才で器用なところがあり音楽（同志社グリーOB）絵画、それにあまり知られていないが将棋と碁の腕は大したもの。碁は同志社時代同窓でアマ初段の実力があると言う有田実牧師（鳥取西部）より手ほどきをうけたとか。

兄弟が皆んな牧会に立つていると言う牧師一家で千葉温伝道総幹事は実兄にあたる。

「農村伝道を看板にかかげることはしないが都市の教会をよけて、田舎の教会で伝道して行きたい。田舎の教会に愛着をもつている」とその言葉の如く極く地味な人柄はでしやばらない。しかし持つているタラントは大いに生かしてもらいたい。和子夫人は医者で笠岡保健所の課長、牧師夫人として大いに夫君の牧会を助けておられる。2男2女、長女は聖和女子短大に在学中。

聖書を読む仲間たち
—玉島レイヨン—

とぴっくコーナー

山陽線を玉島で下車するとその町並の余りにも淋しく小さいのに先ず驚きます。因果なことにその昔、鉄道馬車を嫌つたとかで町よりも四キロも離れたところに駅がある始末。その町から更に四キロも海岸に下ると田の中に同一企画二階建コンクリート造りの社宅が、背後に巨大な工場と煙突を容して、工事中のものを含めてかれこれ十棟ほどみえてきます。

そこ、玉島レーヨンの社宅Mさん宅が、わたしたち聖書を読む仲間たちの砦なのです化繊工場は年間ひとときも停止することがありませんからわたしたちの仲間はみんな三勤制。朝番三日、夕番、夜番各二日、そして休日。

こんな勤務ですから教会の礼拝にも、一ケ月一度も出られない場合もしばしば。

わたしたちの聖書の集いも教会の定例集会のない夜、仲間の勤務とにらみ合せて、月曜又は木曜、時には土曜にと不特定ながら毎週集うことすでに七年経過しました。

この四年間、牧師によりマタイ福音書の解説を、そのあと働くみんなの問題を語り合つてきました。不規則な生活の中で、この短い時間が静かに「生きることの意味」を探求し、明日への希望をみい出す貴重な時間となつてきています。

わたしたちのこの集りにもいくつかの問題があります。先づ三勤制のために、同じ番のものしか集れないということ。十棟近い社宅にはずい分沢山、かつてはK市やS市の教会で独身時代熱心な信仰生活をしていたという人々がいると聞くのに、一家を構えたいまはこういう集りに出てこられないということ。

かえりみてこの数年、幾度か転勤、退社などで仲間が他出してしまい、Mさん夫婦になつても、つねに新しい仲間が加えられて中断せずに学びを続けてこられたことは感謝です。

それにつけても考えることは、わたしたちがもつと働くわたしたちの友を積極的に、徹底的に愛し、一人一人の魂への対話を試みるということです。

わたしたちの集いは小さくどこの教会にもある変りばえのない集りの一つかもしれません。でも、それだけに、わたしたちは、わたしたちの怠慢で自己充足的な集りになることをおそれています。

公告

教区規則第十五条及び第十六条の定めに従い、左記の通り教区定期総会を開催致します。

記

一、一九六四年度東中国教区定期総会
二、日　時　五月四日（月）午後六時三十分より
　　五月五日（火）午後五時まで
三、会　場　岡山市門田御成町一、一四九
　　於　岡山信愛教会

右取敢ず御通知致します

○議員の方々は任期中ですが御変更がありましたら至急教区事務所宛御通知下さい。
○議案並に総会開催に関する詳細事項は追てお知らせします。

一九六四年三月十五日

総会議長　壺井正夫

教会だより

上井教会（村島牧師）
念願の新会堂が竣工し、一月二六日、教区総会副議長の司式により献堂式を挙行された。

旭東教会（脇本牧師）
三月一日、朝礼拝に於て、創立六〇周年記念式を守り午後二時より、教区総会議長の司式により新会堂の献堂式を挙行された。

個人消息

長坂竜太郎氏（岡山信愛教会牧師）
去る一月一二日、信愛教会において、日赤病院長、喜多島博士御夫妻の御媒酌により、安藤淳子氏と結婚式を挙行された。

山村好美氏（天城教会牧師）
去る一二月二六日、東京日本大学駿河台病院において喉頭癌による声帯除去手術を受けられた。経過は極めて良好で、人工喉頭によって会話の出来る状態になつておられる由。

壺井正夫氏（岡山教会牧師）
過労のため病気静養されていましたが、全快されました。

絹田元吉氏（米子錦町教会牧師）
三月末をもつて、米子錦町教会を辞し、神戸山手教会副牧師として御転任になる由。

太田静湖氏（赤磐教会牧師夫人）
昨年末、「悪魔について」を出版された。

藤岡友幸氏（児島教会牧師）
去る一月一〇日、三女御出生「ゆり」と命名された。

中堀仁四郎氏（笠岡教会牧師）
二月二四日、長男を与えられ「謙」と命名された。

小沼滇氏（隠退牧師、元倉敷平和教会牧師）
夫人るい氏御永眠。告別式は一月二八日、倉敷教会で倉敷平和教会葬として執行された。

小山加字子氏（旭東教会役員）
三月一日、御永眠。三月三日旭東教会において告別式が執行された。

青年伝道委員会

一、岡山県KKS
　春季大会及総会
　三月二〇日　於　信愛教会
　題　「生きる」
　講師　琴浦教会　岡本先生
　（中三—新高一—の方は是非参加して下さい）

二、岡山県教会青年会連合
　地区集会
　岡山地区　三月一九日（木）
　　於　岡山教会
　講師　蕃山町　内藤先生
　倉敷地区　三月二二日
　　於　倉敷教会
　講師　倉敷　田井中先生
　主題は共に「教会青年会の望む方向、在り方」を中心に語り合いたいと思います

三、岡山県教会青年会連合総会
　四月二六日　午後二時
　場所は追つて連絡

婦人伝道委員会

全国婦人委員長会が去る一月二十八日から二十九日にかけて東京地方職員会館にて開催され、今年は委員長と書記出席（全国で二十五名）しました。

○協議決定事項
・教区婦人委員会の使命
・農村婦人、働く婦人の問題
・指導者の養成
・伝道委員会の中にある婦人委員会の働き
・教区婦人部と各教会婦人部とのむすびつきについての報告や意見の交換があり非常にはげまされ考えさせられ、又力づけられる集会でした。

○全国でも小さい教区でありますが、それ丈に一致した良い奉仕をキリストの使命として励むものでありたいと願います。

教育部

一、岡山県中学生大会
　時　三月三一日（火）
　　正午より
　　四月一日（水）
　　正午まで
　所　笠岡市　「青年の家」
　費用
・会費（宿泊費）二〇〇円
　旅費　半額補助の予定

二、常設C・S教師講習会
　（主催　倉敷教会）
　所　倉敷教会
　時　毎日曜午後
　　四月中開講
　※倉敷教会で計画中、教育部は後援いたします。

予告

クリスチャンの集い
—鳥取県下—
とき　三月二〇日（金曜日、春分の日）
　一〇時～三時半
ところ　倉吉市上井、上井商工厚生会館
会費　二〇〇円（うち一〇〇円は昼食代）、交通費を差上げます。
主題「信仰生活の問題」

倉敷及総社市内教会合同新年礼拝ニュース

倉敷市内五教会では、ここ数年来新年第一聖日に合同礼拝を行い、聖餐を守り、伝道献金をささげ、（一昨年は南教会建築に献げた）年賀を交換し懇親をなし、大層恵まれている。市内の教会にとつては、年頭に当り楽しく力強い恒例となつて来た感がある。

やや旧聞に属するが、本年は総社市内二教会も合同して去る一月五日（日）倉敷教会に於て、七教会連合の新年礼拝を守り、晴天に恵まれ、遠近より集う者一六二名。次のようなプログラムであつた。

司　会　倉敷教会田井中牧師
聖書祈禱　総社教会尾熊芳牧師
合唱　倉敷教会聖歌隊
説教　「前に向つて進もう」（ピリピ三・一三—一六）
　イマイ・ゴードン宣教師
聖餐式
司式　倉敷西教会尾熊利牧師
補佐　倉敷平和教会片岡教師
信仰告白及生活綱領朗読
　倉敷教会　広沢教師
祝禱　尾熊利一牧師

当日の席上献金は総社教会々堂建築のために九五七九円が献げられた。終つて各教会の紹介と挨拶の交換がなされたが、天城教会山村牧師が療養御入院中のため一同祈りを共にした。礼拝後第一回の地区連合婦人聖書研究会（本年より市内教会巡回にて使徒行伝を学び、各教会牧師の指導をうける）を行い三十名が熱心に学んだ。

本年は更に地区連合婦人会の交わりと勉強、役員の合同研修、C・S教師の研修など、地区活動を盛んにして、連帯性を強めつつ励まし合つて共に進みたいと願つている。

（田井中報）

編集後記

レントの季節、受難週を控え、私の信仰の問題は何であるかを、今一度きびしく見つめたい——そういう意図のもとに編集いたしました。

（T）

教区報

東中国

No.23

発行所　岡山市東中山下102 岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1964年6月10日



先月献堂式を行い宣教の姿勢を整えた総社教会

伝道の協力

永田善治

我々の信仰は極めて個人的なものである。信ずることによって救われると言うが、信仰とは誰の信仰でもなく自分自身の信仰である。全く単独者として神の前に立ち自分自身の罪責と、このため十字架にかけられ給うた主イエスの救いと赦しを見出し、主イエスによって神との間が和がしめられ、神を父と呼ぶことをゆるされる。

信仰は極めて個体的、主体的決断であるが、信仰によって神を父として見出すことは同時に人々を兄弟として発見することである。路傍の人々を隣人として覚えることである。信仰は個人的であるが信仰の実は共同社会的である。

信仰の決断は一面、世から選び別たれることである。世俗を隔絶することであり、天より生れることである。剣を投ぜんがために来り給える主は時にあつて子を親より、妻を夫より分ち給う。それと共に主のみ救いにあづかつた者は神の民とされ同信の人々と結ばれる。

代々の聖徒と、今共に在る主の僕達と兄弟姉妹たる新しい連帯性に生きる同じ幹につらなる肢々節々として、一の肢が苦しんだら他の肢も苦しむと言う生命の相互連関性に生きる者になる。

神への信仰は必然的に兄弟愛に展開する。

この神の民と言うのは神を礼拝することを主要な事とするが、歴史的世界に対して主の恵を證しし、み救いをもたらす重要な使命を有している。

主イエスは世の救いのために地上に降り十字架につき給うた。天より来たれる者であると共に地に結びつける者であつた。まさに人類の救主であり給うた。

神の民はこの主のみ業を継承し、世に在つて、世のために主を證しし、主の愛に生きる。世、および世の人々と愛のかかわりを持つことが神とのかかわりのしるしであると言うこともできよう。

ところが我々の問題は、自分の救いと言うこと、自分の祝福と平安と言うこと、自分の祝福と言うことには熱心であつても、世の救いと言うことにはそれ程一生懸命になれないと言うことではないでしようか。

歴史の中に使命を果すべき神の民の自覚と責任感に乏しいことではなかろうか。

パンを裂き、ブドー酒を盃に満たされる所まではついて行つても、十字架を前にしては主を捨てて逃げ去つた弟子達の様に主イエスから何かを得られる間は主に従つて行つても、主のみ救いの業のために、何らかの煩らい、何らかの犠牲が要請されると全く知らぬ顔をしていると言うような自己追求の心が問題ではないであろうか。

我々はキリストの血の贖いによつて神の敵であることから神の民とあるようにと造り変えられたのである。これまで世は自分のために、自分を中心として廻転していたが今は自分が世のために、世の救いのために存在する者であることを悟つた。今や世の問題と痛みは自分自身の問題となり痛みとなつた。我々は主によつて、世より選び別たれ救いに定められ、再び世に、その救いのためにつかわされている。世に在り、世のために生き、そして死ぬる者とされたのである。そして又神の民とは神を父とする同胞である

但し、単に同胞として存在するに止まらず、神に敵対する悪に対してたたかい、神の勝利と救いをもたらす戦友であり同志である。

人が弱つたらこれを助けねばならない、傷つき倒れたらこれを癒し起さねばならない戦力の手薄な所には増強せねばならない、夫には特色ある賜物をもつて互いに助け合はねばならない。

こんな時に、銘々が自分の勝手都合を言つていたらたたかいなどできるものでなく勝利など望むべきもない。

このことの反省と前進が、教団の言う体質改善であり伝道圏伝道であろうかと思う。

我々の教会は独立自給を建前として進んできた。それはそれなりに正しいことであり我が国の伝道は各個教会の必死の努力によつて今日に至つている。

けれども、それは自由経済体制の下の零細企業に似ていて、優勝劣敗、自然淘汰などの法則が支配する趣きが無いでもなかつた。経済社会に於てもこの様な傾向を修正しあるいは社会化する趨勢にあるのにひとり我々の教会が個々バラバラに、その独自性はよいが、何ら相互の連絡もなく助け合いも、賜物の頒ちあいもなく、伝道を行つていて良いものではない。

その働きは限界づけられ、開拓伝道にしても自然発生的に無秩序に、全日本伝道の戦略と言う観点からは乱雑なものになつて来たし、伝道対象にしても、中間の社会特定階層にかぎられると言う状況であつた。

このような事態を改革し、宣教の強力なる前進を見るために、どうしても我々は相互に協力し合う必要がある。

教会活動の目的は会員の獲得と献金の上昇にあるのではない、世の救いが目標である宣教がその使命である。

その強力な推進のために銘々その善い賜物を頒ち合おうではないか、せめて一定の地域の教会間だけでも、財力や時間や、賜物を出し合つて目ざましい伝道戦線の展開を試みたいと思う。

（鳥取教会牧師）

ペンテコステは聖霊と教会のお祝です。パウロが言っているようにこの二つは一緒です。教会は聖霊によって造られ教会の生命です祈る時には聖霊が私達の心に入り私達もキリストの体の生きた信者になりたいと祈ります。聖霊は霊の一致ですそして教会を一つにし私達に洗礼を授け神の家庭に入ります。聖霊は復活のために小さい教会を手伝って本当に聖霊の生きた教会を見ますと感謝です。又驚くべきところもありますそれは不在会員の多い事と近くに教会があっても遠くの教会まで通っている信者のいることです。理由はあると思いますが、本当に神の教会はどこまで行っても同じですからこれは人間関係の方が信仰よりも強いのだと思います。しかし伝道の生きた信者になりたいと祈ります。聖霊は霊の一致ですそして教会を一つにし私達に洗礼を授け神の家庭に入ります。聖霊は復活のために小さい教会を手伝う事は一つの好い理由です。

マタイ二八章一八—二〇節に書いてあるように、牧師の弟子としてゞなく、どこまで行つても神の弟子を造り父と子と聖霊との名によつて洗礼を受け、命じておいた一切の事を守るように、そうすれば私は世の終りまであなた方と共にいると書いてあります。

これをおぼえて伝道しましょう。

（倉敷南教会牧師）

教説　聖霊による一致

ゴードン・今井

なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によつて、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。

（コリント人への第一の手紙十二章十三節）

与え新しい道を教えて下さいます。聖霊は証しの霊です自分だけの事を思わず他の人の事もおぼえ世界に神の愛を与えます。聖霊は和解の霊です誤解又は神のこわれた体を一致して世界に平和の力となります。神の聖霊に喜びましょう。この変化する力を証ししましょう。神に栄光を与え聖霊の実を結ぶのを喜びましょう

私は日本に来て約一年余りになりますが教会をまわ

L方式夏期伝道実施さる

—時と宝とを捧げて—

高塚勝

今夏、教区内九教会をセンターにしてL方式夏期特別伝道が実施されます。

これは戦後まもない頃、トレラーに乗りこみ、全国津々浦々に音楽伝道を試み、その後、兵庫、東北各地に献身的な開拓伝道を推進したラクアー氏等の偉業を記念し、かつその働きの成長変化したためにL方式伝道と呼称されています。（ラクアー氏のLをとり）

どのような伝道かといいますと、(1)米国或いはカナダで現在牧会に従事している現任の牧師が(2)夏期五十日間、一定の教会に赴任し(3)その教会の牧師・信徒と協力して伝道にはげみ(4)かつ来日及び滞在に要する一切の費用を自己負担されるということに特長があります。

これまで関東、西日本、北海道においてこの伝道が実施されてきました。今夏は当教区と関西の二・三の団地で実施されることになつています

この教区では、米子、倉吉上井、用瀬（以上鳥取県）津山、高梁、玉島、倉敷南、児島（以上岡山県）の九教会に九名の外人牧師が赴任することに決定し、すでにそれぞれの準備が推進されております

これらの教会は(一)信徒の訓練(二)地域社会への福音の滲透などを主要な目標としてこの伝道がなされることになつています。

こゝでみんなでかんがえてみたいことは、みたことも、きいたこともない「キヨウカイ」に、じぶんの「ナツヤスミ」と、「ナツノテアテ」とをささげて、「デンドウ」にかれらがうみをこえてこられるということです。

—即ち、時と宝とを福音の宣教のために捧げて来日されるのです—

この伝道が実際に実施されるのは教区内の約二割の教会でしかありません。しかし実施する教会は当然のことながら、実施しない教会も、この伝道のために祈るだけでなく他の教会のために「時と宝」とをささげてはげむ姿勢が教区内にもわき起つてくることをねがい求めたいものです。

（L式伝道実務委員会書記）



訪問伝道奉仕者の集い

—倉吉教会—

訪問伝道は単に求道者を導いて信者として、教勢を盛んにするということがねらいではない。むしろ願うことは、すべてのキリスト者が主イエスの愛を感じ、それに生かされて主に讃美と栄光を捧げるとともに、主イエスの御精神をわが心として「キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、私の肉体をもつて補つている。」と申した使徒パウロと同じ心をキリストによつていたゞいて、その心をもつて求道者と新たな受洗者、長欠の信徒のために僕となつて仕え、その足を洗う心に満たされた教会を形成することである。

昨年の五月、清水ケ丘教会の倉持牧師、扇町教会の渡辺兄を講師に、上井教会と合同で三夜連続の「訪伝講習会」を開き、その後、役員会や各信徒の熱心な祈りと、倉吉という地域の持殊性等を熟慮の末、七月十四日に役員全員（一五名）と信徒四名が奉仕者となり一四名の求道者を対象にして発足。以後毎月一回会合を持ち、教団発行の「訪問伝道入門」の輪読、一月間の活動の話し合い、訪伝カードの提出等を行い、今日に至つています。その間、数名の受洗者を与えられはしましたが、やはり何といつても不慣れのため、訪問のコツも分らず、多少の戸惑いを感じたことは事実ですし、求道者自身の求めているものと、教会が与えようとしているものとの相違を発見することによつて壁に当り、「生涯この人を担当しても受洗に結びつけることは困難かも知れない」と悲観的になることもありました。

しかし、長い間の信仰生活がとかく内向きで自己本意であつた事を反省し、又キリストが一人の霊のために如何に心痛め、その救いのために祈り働かれたかを思う時、訪伝の動は私共に与えられた尊い生活として受けとめています

倉吉教会は、本年で創立七十五周年、去る定期総会においても今年の重要な伝道計画の一つと定めました。「エリコ」の町も信仰と祈りによつて占領したように「この町にわが魂あり」と我々は祈りと訪伝によつて刈り取ることが出来ると信じております。御加護を背後に、大いにハッスルしたいと思います。

（塩見章生）

教職への謝恩

十億献金(4)

先月開かれた教区総会で、昨年度の十億献金の募金現況報告がなされました。

―即ち三八年度は……つまり昨年は……教区の目標額五〇万円に対して五〇万二八五〇円であり、内四四万四〇五〇円の入金を得たと。とに角目標額を超えた予約賛同を得たことは嬉しいことです。

―しかし一昨年は準備期でもあり。この募金についての趣旨が不徹底でもあつた為か三〇万円の目標はその半にも達しない一三万七七五〇円に終りました。―

ですから今後四年間は一昨年の未達成分をも含めて共に励み当初の目標を完結させたいものです。

ところで昨年の十一月教団の謝恩金制度は大幅に改正され、新しく掛金による退職年金制度が誕生しました。

これまでの謝恩金は四十五年も在職された教職に月額五八〇〇円足らずを教団は呈していたにすぎません。

ところが制度の改正により四年後には、月額九〇〇〇円程度に増加されます。……増加シテモコノ程度デス。本当ニミナサン考ヘマショウ……また掛金による制度の新設により、毎月それぞれの教会と教師がうける報酬に従い負担掛金したものに対して、退職後死亡するまで年金が支給されるようになりました。

―コレモ謝恩ノ一方法トシテ考エラレタモノデス―

このように制度が改正されても、それで一切が解決していくのではありません。というのは、このための基金がいま私共の祈りのうちに捧げている十億献金によつているからです。

十億献金という大きな名称にひきずり廻されず、もつと地味に、そうです、〈あなたの信仰生活のために祈り、労し、励ましてくださつた教職への謝恩〉としての十億献金をこの年もみんなでさゝげていきましょう。

資金と基金

資金は年々の伝道の用に供し、基金は貯えてその利息を用いるものです。

使用目的

資金の目的

1 小教会強化
2 新しい階層への伝道
3 青少年への伝道
4 海外伝道

基金の使用目的

1 **教職謝恩制度の拡充**
2 神学校教育の充実

教区の第一期第一次募金目標

三七年度 **一三七、七五〇**
三八年度 **五〇二、八五〇**
三九年度 五四万
四〇年度 五四万
四一年度 五四万
四二年度 四八万八千
合計 二七四万八千六百

委員長プロフィル

更井良夫

社会部委員長
教団社会委員
博愛会教会牧師

〝更井良夫〟と云えば、いざと云う時親身になつて世話をする頼み甲斐のある岡山県に於ける基督教会随一の親分と云えよう。県庁市役所にも口の利ける唯一の顔である。

昭和8年同大神学部出身で、同期生に東方信吉がいる。卒業と同時に上海中日基督教会に赴任したが、アダムス女史の懇請に応じて僅か1年半足らずで故郷岡山のスラム街に飛び込み、貧しき者の友となつて基督のみ足の跡に従い、今日に至つて30年である。

一男二女の慈父であるが、夫人は天文学界の大御所であつた京大教授山本一清博士の姪である。

紹介すべき主なる役職は、岡山市社会福祉協議会長、共同募金委員長、県社協副会長、教団に於ては社会委員、保育専門委員又基督教社会事業同盟の理事でもある。

彼が会長、理事長として経営の任に当る博愛会病院は地下1階地上6階の増築を行い一大飛躍をなし、塔上に十字架を架げた事は最近のトツプニユースと云えよう。

基督の僕に祝福あれと祈るのは筆者と花畑界隈の薄幸な人々のみではない。名誉市民にとの呼声も高く、こんな人こそ国会に送りたい。

第12回 教区定期総会 報告

教区総会は五月四日・五日両日、岡山信愛教会を会場にして開催された。正議員九九名中六二名の出席であつた。

開会礼拝において教団副議長佐伯俟牧師は「十字架を負うて主に従う」と題して説教され、現時点において私共の負うべき使命と向うべき方向を示されたことは感謝であつた。

総会では、第十三回教団総会議員選挙の結果（教職）壺井正夫、田井中純作、永田善治、長坂龍太郎、高塚勝、永倉義雄（信徒）船越澄江、新達治、大橋公夫、小川政雄、山田直義、高橋ふみ、以上十二名が選出された。

昨年教区内諸教会の協力を得て実施した教団の集中伝道について詳細報告がなされ、一ケ年の互助伝道の歩みを回顧し感謝のうちに同報告を議場は承認した。

とくに教団の伝道十ケ年計画に基く伝道圏伝道への基盤が五地区・活動を通して固められたこと、並びに体質改善への試みとしての「信徒のための集い ―クリスチヤンの集い―」などが企画実施されたことは喜ぶべきことであつた。

今夏はL方式伝道が実施されるが ―別項をごらん下さい― これらの活動を通し諸教会の協力と前進とが期待されている。しかし同時に、集中伝道やL方式伝道が総花式な活動だけであつたり、諸教会を依存的にさせたりしないよう、とくに伝道へのフオロ・アツプに一段の考慮がなされねばならないことが強調された。

十億献金についても感謝のうちに一ケ年の募金成果が報告され、残された年度さらにこの献金を推進することの報告がされた。

尚、新年度の教区予算総額二三〇万円が承認され、諸教会の協力をえて、まことにみ栄えをあらわす年度活動が遂行されるようにとの祈りうちに閉会した。

（高塚書記報）

宣研だより

数々の苦心と多くの方々の協力のもとに、教区宣教研究委員会編、伝道用信仰問答がやがて生れようとしています。試案作成後、教区内教職有志及委員による検討審議補筆などを経て、実に三年近い時日を費して漸く最終脱稿を見ました。当初のお約束に対し予期以上の延引をしたことをおわびします。信徒及求道者のために、簡潔にして要を得た現代のキリスト教を知り伝える手引きとなるよう心掛けました。信徒伝道の武器として、信徒訓練のテキストとして、信仰入門の手引きとして、各教会で活用されるよう予告と共にお願いします。

東中国教区
宣教研究委員会編
キリスト教ー その問と答
（近日出版）

目　次

第一部　**人生と信仰**
問1より問9まで
第二部　**神と人間**
問10より問20まで
第三部　**救　い**
問21より問40まで
第四部　**聖書と教会**
問41より問60まで
第五部　**信仰生活**
問61より問91まで
（約一〇〇ページ予定）

教会だより



総社教会（尾熊芳子牧師）
念願の新会堂が竣工し、去る五月一六日、よろこびのうちに教区総会議長の司式により献堂式が挙行された。尚新住所は総社市本町北七八五ノ一二番地と変更。

琴浦教会
六月七日主任担任教師柏木和宣氏の就任式が教区総会議長の司式により挙行された。

旭東教会（脇本　寿牧師）
電話開通　西大寺局(2)二三六九番

高梁教会（井殿　園牧師）
電話開通　高梁局三二一一

岡山博愛会
かねてより工事中の第二病院の増築が完工し、感謝竣工式が去る六月一日挙行された。尚新館の室上には岡山県下の信徒の祈りによりささげられた大十字架が立てられている。

個人消息

山村好美氏（天城教会牧師）
お元気になられ、教区総会には出席になられ、入口明二ーフレット

喉をもってご挨拶されました。

小沼　濶氏（隠退牧師、元倉敷平和教会牧師）
病をえて五月上旬来、倉敷中央病院加療中です。

鎌谷庄平氏（八頭教会牧師）
御夫人、病気加療中。御全快を祈ります。

伝道部

教会役員研修会開催
六月二二日　鳥取倉吉地区（鳥取教会）
六月二三日　米子地区（米子教会）
六月二四日　新見高梁地区（高梁教会）
六月二五日　美作地区（津山教会）
六月二六日　岡山県西部地区（倉敷教会）
六月二七日　岡山県南部地区（児島教会）
六月二八日　岡山県東部地区（信愛教会）
講　師（二三日〜二四日）
日本基督教団伝道委員会副委員長　柿木坂教会牧師　小川貞昭氏
（二五日〜二八日）
日本基督教団伝道委員会常任委員。名古屋中央教会牧師　田島正人氏
キャスト　教団伝道委員会リ

「教会の計画」
「わたしの計画」
参加者　各教会牧師、伝道師役員、CS校長、各団体（婦人、壮年、青年等）幹事及びそれに準ずる方々
出席者には交通費の補助を考慮中。

青年伝道委員会

一、教区KKSキャンプ
主題「わたしたちの教会」
日時　八月一〇日（月）ー一二（水）
場所　岡山県高梁教会
指導者、教区青年部委員
プログラム　申込書は追つて各教会に発送します
二、全国KKSキャンプ
案内状は各教会に届いている事と思います。参加希望者は六月中に教区青年部委員長まで申込むこと。
資格　受洗者、又は受洗決心をしている人。
教区定員　五名

職域伝道委員会

五月二六日ー二八日、三日間、高石教会牧師、修学院クリスチャンアカデミー主任、村山盛敦先生を仰え、「この世に於ける対話」という主題のもとに、児島教会、鳥取教会、倉吉教会、倉敷教会（教職対象）において集会を持った。

農村伝道委員会

一、講師派遣巡回伝道
秋と来春の二回を予定しています。希望教会は申出下さい。
二、関西農村センターの諸集会
出席者には出席補助五百円を致します。
三、小教会強化を願い予算が取つてあります。
特伝、特集、バイク購入等の伝道活動に直接的、具体的に必要のある場合には相談して下さい。
四、教職研修を願い、その費用の一部を教職の図書購入のため考えております。

婦人伝道委員会

教区婦人指導者講習会
とき　六月二四日午後一時半ー二五日一一時半
会場　岡山県真庭郡湯原町ママの別荘
講師　教団婦人専門委員　森　和子
原田　正枝

社会部

一、去る四月二八日、長谷川保代議士を迎えて社会問題ゼミナールを開きました。
一、五月一〇日から藁山のレーシー館で開かれた平和問題講習会に本教区から更井瀬崎、中堀の三名出席しました。
一、保母（保育所）看護婦、準看護婦の奨学金制度があります。詳細は更井まで御照会下さい。
一、八月四日ー六日松山市でキリスト教保育夏季大学が開講されます。出席者には少額ですが補助金を差上げます。

教育部

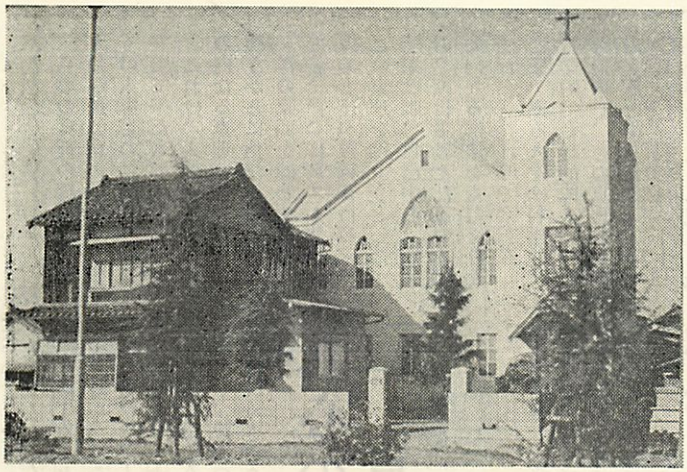
一、CS教師研修会
日時　八月二四日（月）ー二六日（水）
場所　香川県　豊島
講師　教団教育委員会より派遣予定

編集後記

▽体質改善、伝道圏伝道を軸にした伝道十カ年計画も三年目を迎えた。
▽夏を迎え、教会、地区、教区の請集会も活潑に行われて行く事だろう。
▽視野を拡げ、足並をそろえ一致と協力をとおして前進して行きたい。（T）

教区報
東中国
No.24

内所 会務所 日
教区事務所 102
岡山教会 国
中国教区 中
下山教団 年
中東教会 10月20日
山東督 1964
岡山基 発行日
日本市



移築改装された旭東教会と新築の牧師館

やればできる

滝口勝

昨年度の集中伝道に引続いて、今夏、教区内九教会に於いて、周到な伝道計画のもとL方式夏期特別伝道が実施された事は御存知の通りです。

福音宣教に使命と責任を持つ教会が、教勢の不振、伝道の停滞という厳しい現実に当面し、その打開のために様々な方策、戦略等が検討、樹立されて来ました。

しかし、それ等が、とかく机上の論に堕し易いなかにあって「とに角やる事だ」と壁を打ち破る一つの試みとして行動への主体的決断がなされました。加えて、諸教会の祈りと協力に支えられて、酷暑の五二日間、ダイナミックな伝道活動が展開された事は、意義深い事でした。

その成果は、この伝道を機会として、今後の姿勢にかかっているわけで、現時点で、必ずしも正当な評価はなされないでしょう。又、それをなす立場にもなく意図もありません。

しかし、実施教会の地域に適応した多彩な伝道活動のうち、共通した目標の一つが「信徒の訓練」であったという事は注目に価すると思うのです。

現代の教会は、とかく、微温的、守勢的な様相を呈しています。それには、日本という社会から来る外的要因もあるでしょう。しかし、福音の把握が、自己中心的、自己目的なものに堕して、他者のことについて顧りみる余地を失たない様な信仰形成がなされて来た事に、むしろ大きな原因が求められるでありましょう。

「信徒の訓練」といっても牧師が高踏的に、信徒を厳しく躾けるという事ではないのです。福音の正しい把握が出来ているかどうか、そして、それが現実の具体的な場で、生活化されているかどうかとの問いなのです。

キリストが「神と等しくあることを固守」せず「人間の姿」になられた事が、福音の真理であるならば、他者と共に、福音にあずかる事が、在るべき信仰の姿勢ではないでしょうか。

教会は、この世から選び出されると同時に、この世に派遣されることにおいて、はじめて存在理由を持つのです。集められ、み言を聞かない教会が真の教会でない様に、キリストと共に遣わされることのない教会は、大切なものを失っているという事が出来るでしょう。

そして、信徒は、現実の生活の中で日毎の生活を営んでいるのですから、神によってこの世の中に派遣されている教会の分身なのです。この事実をふまえての努力によってはじめて、信徒としての正しい位置が与えられるわけです。

その意味で、信徒は、生活の只中で、託された宣教の使命に益々思えて行かなければならないのではないでしょうか。

宝と時とを捧げ、不案内な異国で「物見遊山」に来たのではなく、「キリストを伝える」ためにと、宣教のために奉仕した具体的人格に学び、又、彼を送り出した教会を憶える事は、置かれている立場についての積極的反省の好機でした。

二ケ月間の礼拝出席者平均九教会で三七七名、前年度の同時期の出席者平均に比較して、一三六名の増で、各教会最低一〇名、最高二一名の増加を示しています。また、祈禱会は出席平均九教会で一一三名、前年度同時期の平均に比較して、五六名の増です。求道者は三二四名を与えられています。

「現住陪餐会員、殆んどが礼拝に出席した」という教会もありました。「消極的に過ぎた。他者に対する働きの怠慢の反省と、使命の重大さを確認させられた」とは四〇有年の信仰生活の中で最も積極的に新しい人を自宅の集会に誘つた一信徒の告白です。

とに角、自分の傷に気付き姿勢を正して、「やろうではないか」と行動へと駆り立てられ、「やれば自分にも出来るんだ」という、前進の意気が窺えた事は、斬新な出来事だつたと思うのです。

楽観は許されないでしょう福音が、急速に浸透して行く事は不可能かも知れません。

そして、その原因が如何に究明せられ、問題点が明らかになつたとしても、単にそれのみでは教会の病根は除去されるものではないのです。狂いのない診断だけでは人間の病いは癒されないように。

行動への決断が大切なのです。これを外にしては、現状打開の糸口はつかめないのです。そして、「やれば出来る」ということは、この伝道がその結果において示した、価値ある教訓だつたと思うのです。

同時に又、これが、ある夏の伝道の際になされた一時的な決意として終つて了うならば、何の果実も期待されないでしょう。この決断は何時、如何なる場所、状況のもとでも、日頃の当然の信徒の信仰の姿勢であり、変化すべき筈のものではないのです。

パウロは教えています。私たちの勝利は、すでに確実になつているのだから「愛する兄弟たちよ。堅く立つて動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあつては、あなたがたの労苦がむだになる事はないと、あなたがたは知つているからです」。

（倉吉教会牧師）

説教

心の内なる真理を求めて

詩編五一篇

ポール・グリーシイ

「心の真理の探究」ほど人類が長い歴史をかけ、多くの人をこの探究へと狩り立てて来たものはない。

これは、人間が、その心の内なる真理を知りたいと願うからに他ならない。

洋の東西を問わず、神秘主義、禅、ヒンズー教等の修業者達が難行苦行の末、この真理を得ようとしたが結果は唯、自己中心、無気力、厭世主義となるのみで如何なる解決をも与えなかつた。

又、或る人々は科学的、哲学的、合理的に人々の心を追求し、この真理が解明出来ると信じた。

しかし、科学はユートピアを与える代りに混乱と滅亡をもたらす。現代の実存主義者は、人間の現実の不安に直面することによつてこの真理が与えられるとし精神分析家は、人間のあらゆる行動を分析する事によつて解答を得ようとする。

しかし、彼等の終着点は人間の醜くさ、合理性ではなく不合理性、調和ではなく混乱を、秩序ではなく無秩序の発見であつた。

では、どの様にすれば真理が我らのものとなるのであろうか。

我々が追求しなければならないのは「砕けた、悔ゆる心である」と、詩編の記者は云つている。神の目から見るならば、人間等しく罪深く、堕落している事を意識し、それを告白すべき事を意味している。

予言者ナタンに「あなたこそ、その人だ」と告発されたダビデの様に、我々の魂が自己の罪に嘆き、砕ける時に真理が与えられる。

次に、我々一人〳〵が神に敵対する犯罪者である事を告白し、その罪の責任を取る瞬間に、真理が来る。

人間の年令や教育程度、社会的地位や環境等が、自らの弱さを、又、犯罪者がである事を認める妨げとなつている。

又、今日の教会の弱さがこの社会に受け入れられていない事に起因しているのではなく、自らの罪を認めて責任をとり、神から真理が与えられる時に、弱さは強さに変るのである。

人類は真理を求めて、色々な方法を試みたが、空しい失敗に終つた事を知つた唯、我々自身の誇りと、自己欺瞞、霊的盲目が洗い流される時に、心の内に真理が与えられるのである。

「主よ、罪人なる我を、あわれみ給え」（ルカ一八の一三）

（教区駐在宣教師）

小教会の強化

十億献金（5）

わたしたちの「日本基督教団」はその属する教会を第一種教会、第二種教会、伝道所に区分しています。

参考までに教団の教規を開いてみますと——第一種教会というのは現住陪餐会員四十名以上を有し、教会の諸経費その他を支弁し得る教会をいい、第二種教会は二十名以上の現住陪餐会員を有し——としるされています。

ところで今春の統計によりますと教団の教会総数は一六〇八——その内訳は第一種教会七五四、第二種教会五二二伝道所三三二——となつています。信徒総数は一〇五、六三六名と伝えられています。

わたしたちの「東中国教区」には五八の教会があります岡山県四一、鳥取県一七でその内訳は、第一種教会二八第二種教会一九伝道所一一となつています。この比率は教団全体の比率と大差なく、かえつて第一種教会は教区内の比率の方が高いくらいです。

しかし教団の礼拝出席全国平均は三五名である点に目を向けますと大いに考えるべきことに気付きます。

というのは教区内五八の教会のうち礼拝出席全国平均を上まわる教会は僅かに一二、全体の1/5にすぎません。

あえて別言すればこの世に仕えるはずの教会が、かえつて背負われて歩んでいるともいえそうなのです。

十億献金の使途は小教会の強化といいます。

わたしたちが主のご委託にその全生命をかけてこたえるべく「背負われる教会」から「背負う教会」へと前進していくならば、互に他を助ける業が実り豊かに捧げられはしないでしょうか。

（高塚　勝）

説教充実への願い

——鳥取県牧師会——

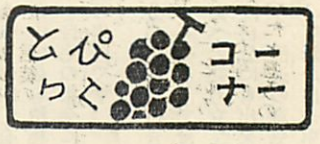
教団伝道委員会で作つて各教会に配つた体質改善と伝道圏伝道実現の為に「わたしの計画」と「教会の計画」と題したパンフレットがありますその教会の計画の第一項目に「説教の充実」とありますが最近鳥取県の牧師会で説教の勉強を始めました。去る二月に開かれた教区教師研修会の講師菊地先生からヒントを得て、その次の県教師会で「やろうではないか」と話がまとまつて早速始めました。当牧師会は二、三ケ月おきにしか集まらないので、二回ばかりこういう説教の勉強が出来ましたが、なかなか面白くて、ためになるような勉強なので今後大いに期待しています。

勉強方法としては、一人の牧師がテープに録音した自分の説教を持つて来て皆に聞かせます。それも、牧師会の為の説教とか、ふきなおして手を加えた説教ではなく、礼拝で実際に話された説教そのままでなければなりません。

皆テープレコーダーの前に座つて説教を聞きます。ノートを取ります。そして「御自由に御批評下さい。」「何を言つても自由です。勿論、いずれ自分の番も来るという意識もあるので自己抑制の傾向があるかも分りませんが而し今迄の様子を見るとかなり自由にザツクバランに話します。「この辺はくどい」、「そこのつながりがあまりよくない」「例話がほしい」「あのポイントを含めるとやゝこしくなる。それは別の説教にした方がいい」等。声の調子から説教の内容まで広い範囲にわたつて話が出ます。

牧師にとつて説教する事は自分の働の中心的な事なのでその批判を聞くことは容易なことではありません。自分の説教の足りなさをすでに感じているからこそ辛い。而し神の御栄になることであれば自分というものが批判されることを喜んで受入れるのは信仰ある者の態度だと云えましょう。エペソ第四章に教会のあり方をえがいた言葉の中で「愛にあつて真理を語り」という言葉がありますが、そういうつもりで勉強を続け、神の御栄、日本の伝道の為に説教の充実をはかりたいと願つております。

（ウイリアム・エルダー）



◁座談会▷

L方式伝道を終えて

出席者

司会者	教区総会議長　L方式伝道現地委員会委員長	壺井正夫
	教区総会副議長　教区伝道部委員長	永田善治
	教区宣教師	エルダー勝一
	倉吉教会牧師	滝口勝
	上井教会牧師	村島宏
	高梁教会牧師	井殿園
	玉島教会牧師、教区書記	高塚勝
	児島教会牧師	藤岡友幸
	津山教会牧師	宗宮進
	用瀬教会牧師	吉岡ミツエ
	倉敷南教会牧師	G・イマイ

壺井＝暑い真夏の五二日間、教区内の九つの教会に於てL方式伝道が実施されました。御承知のように米国及びカナダの現任牧師がその費用と休暇をささげて日本のそれぞれの教会にお働らき下さいました。これは多くを海外の力に負っていることですが、同時に教区に於ても、亦それぞれの教会に於ても相当の貴いたからが献げられて、この二つの側の力が一つに結集されて行われたものです。

いろいろとほんとうに御苦労さまでした。早速ですが、先ず各教会の報告からどうぞ

各教会よりの報告

高塚＝加藤先生がお見えになれませんでしたので代りに報告しますと、米子教会は、信徒訓練と教会形式を主眼とされ、外に向つての働きかけよりも、従来の諸集会の強化を図られました。伝道地、家庭集会にも力を入れられました。礼拝出席平均五九名と昨年度より二〇名の増で、その他の諸集会も非常に充実し特に青年会は活潑になつています。米子教会に適した外人牧師で信頼感をもつて指導を受ける事が出来たとのことです。現住会員八〇名、受洗者六名、信仰告白一名が加えられています。

滝口＝倉吉教会では三つの点を重視しました。先ず信徒訓練ですが、これには相当に力を入れました。役員研修会、訪問伝道者の集い、教会全体修養会、青年会修養会などはその主なものです。次に地域社会への浸透は、吉野伝道、映写伝道、文書伝道、家庭集会などを通して実施したわけです。第三の地域社会への奉仕という点は、講演会を七回開いて地域団体との連繋を深めるように努力しました。

特に地区集会が始められたことは教会にとつて意義深いことで、今後も続けたいと思つています。

教勢は現住会員五三名、受洗八名、転入会二名で十名の増加です。

村島＝上井では一泊修養会をして信徒訓練をはかり、地域社会への浸透は教会が新らしいので特に尽力しました。教会の周囲の家庭を前後三回にわたつて延二七九戸を訪ねました。そして特別伝道集会を五回。これらを通して、今迄に教会に一つの自信ができたことはうれしいことです。礼拝は平均二七名。受洗六名。でもこれでL方式伝道の成果のすべてを評価しちやうのでなくて、今後一年間を見て行くべきだと思います。

井殿＝高梁教会では先ず始めに外人牧師と伝道計画全体について話し合い、もつと一般伝道をやろうということになり、五二日間の最後の五日間連続の伝道集会をしました。これは教会員と求道者には非常に効果的で、信仰の覚醒、信徒としての喜びと責任を強く自覚することができました。平均三二名の出席で半分以上はいつも教会員でした。教勢は現在で会員が九八名、受洗者十三名、その殆んどが教会学校から育つた者でした。

高塚＝玉島では信徒訓練に重点をおいて、従来やつていた集会を充実するようにしました。外人牧師を迎えたから特別に計画をしたものはありません。礼拝は平均五八名、昨年に比べて二一名の増加、祈禱会は十名の増加です。これらの集会を通して、自分たちがやればできるのだということ、又自分たちが具体的に出席しようと思えばできるのだということをみんなが言葉でなく行動で表してしまつたという結果になりました。これまではいろんな理由で出にくいと見られた人々が時間をくり合せて、外人牧師に申訳ないから出ようという人もありました。

私たちの教会では過去五年間五十名の礼拝出席を続けることは殆んど不可能だつたのですが、それができたので今は元気を出しています。

これは反省になるのですが外人牧師が来たのでもの珍らしさで教会に来る人がふえると困ると思つたので、新しい人たちへの働きかけが少なかつた。もつと何か考えて外人牧師を用いて接触を深めておくべきだつたと思います。

藤岡＝児島は教会堂が新しいため、できるだけ地域社会へ宣伝することを努めました。玉島と反対に、もの珍らしさでもよいから教会に人を集めるようにしたのです。礼拝は平均二八名、受洗者四人です。家庭集会も多くやりました。

宗宮＝津山ではこの伝道によつて高校生と青年が非常に増



えて来ました。従来の夜の祈禱会を月水木の朝に変えてやり、これを通して伝道を盛り上げて行くことができました。信徒訓練のために毎週、教会教育講座を開き、教会の中によいリーダーを養成しようとし、或程度成功したと思います。更に信徒を加えたチームを作り、教会員や求道者の家庭訪問を徹底的にやりました。外人牧師は、訪問をされたら必ずそのお返しに教会に出て来ると言つていました。又若い人たちと教会のペンキ塗りや修理作業を一緒にやつて交りが深められ、聖歌隊が生れたこともよかつたです。礼拝は四五名、十一名の増加でした。今後は若い人たちを育てるように努力します。そのためには今迄のカラを破る必要もあるでしょう。

吉岡＝用瀬はできるだけ広い範囲に教会が進出したいと願つて努力しました。最初は不安でしたが、日を重ねるにつれて盛り上り、終りにはもう少し期間が長かつたらと痛感しました。これまでの夕拝が朝礼拝に切りかえられたのも成果の一つです。

イマイ＝倉敷南は平和教会と一緒にやりました。一番役に立つたのは週二回の家庭集会でした。足らなかつたのは役員研修会とCS教師研修会。ぜひやりたいと思つたけれど時間がとれなかつた。私のところの外人牧師は大変気楽な面があり、誰とでも親しくなれる方でした。数は増加していないけど、少数の人と特に親しくなりよい交りができました。そこから六人の受洗者が生れたわけです。私は考えてみるのですが、二千人を集めてひろくやるのがよいのか二十人でもよいから深くやるのがよいのかどうでしよう。

集中伝道との関れん

壺井＝今年のL方式伝道の成果は数字の上では過去に見られないすばらしいものと言われています。教区内で受洗者が五一名、その中信仰告白一名、転入会三名、幼児洗礼一

名。又礼拝出席は昨年の同時期に比較して最低十名、最高二一名の増加となつています。私はこれは昨年の集中伝道の成果が今年になつて表れて来たと見ています。この点について皆さんは、どうお考えでしょう。用瀬、津山、高梁は集中伝道を実施しませんでしたが、それ以外のところではー。

滝口＝倉吉は集伝の継続としてやつたわけで、たしかにその通りだと思います。

高塚＝上井、倉吉、米子では特にその点顕著ではないですか。私は去年集中伝道をやつていなかつたら今年はあれだけの受洗者が出なかつただろうと言いたい。高梁は教会学校の着実な積み上げの成果と言えるでしょう。

エルダー＝集中伝道をやつていなかつたらL方式伝道も受入れてなかつたのではないだろうか。去年やつてみて成果があがり、伝道に対する熱意が生れたし、冒険にふみ切ることができたと思います。

これからのこと

壺井＝それでは今後の伝道についての皆さんの希望を話して下さいませんか。例えば、伝えきくところでは教団はフオローアップの具体案を持つておられないようですが、その点については。

滝口＝、教団が考えていないのなら教区で何か計画されますか。

永田＝何らかの形で教区でやつて行かなくてはならないでしょう。

滝口＝私は特別伝道の形式をとるよりむしろ地味な方法を考えてやりたいと思つています。

村島＝訪問伝道に力を入れたいですね。今その手引を作つています。文書伝道の援けになるものを希望します。

エルダー＝地味にというのは牧師の側の意見だけど、信徒の側から見れば、これでやれやれということになつては心配です。これまで具体的な目標をもつて伝道して来たのでそれがなくなるといつの間にか伝道への熱意が失われないでしょうか。切角もり上つたものが消えないようにしたいです。

村島＝これからは信徒の人たちに働らいてもらう番だと思います。その意味で訪問伝道文書伝道に力を入れたい。

エルダー＝やろうという気のある時にやることを見つけ出して行くことが大事で、その方法はそれぞれの教会に応じた良いものを選ばれることと思います。

伝道はどんな方法で

話は変りますが、この夏のいろいろの活動を通して教えられたことですが、やはり今日の日本の社会で伝道するには金を使わなくてはいけないことがわかつたと思う。あまりケチな伝道をしたら、それに準じて小さい成果しかあがらないでしよう。今の社会は超特急で進んでいるのに教会はまだ自転車なんだからね。

高塚＝新聞折込をされたところが多いですが効果はどう。

宗宮＝あまり効果はない。そこで津山は地元新聞に公告を何回ものせました。

藤岡＝読まないで捨てる人が多いから、児島は注意をひき手に取つて見てもらえるように、上質の紙を使つてみました。

高塚＝ポスターやビラなどを見て果してどれだけの人が来るか。私は悲観的です。唯、教会が何か元気を出してやつていることを来ない人たちにも知らせる、そこに効果があると思つています。



イマイ＝私が一番感じたのはやはり知つている人が知つている人を誘うことがよいということでした。自分だけが教会に来るのではなくてー。

おたがいの協力は

壺井＝L方式伝道は内外の教会、牧師、信徒の協力伝道なのですが、実際におやりになつてみてこの点どうお考えでしようか。

イマイ＝外人牧師の側に日本の教会の悪い点、牧師の足りない点を聞いて、日本に行つて教えてあげるという気持や態度があつたとしたら困ることで、そんな人はいないでしよう。日本の教会に来て、私は何を手伝つたらよいでしようか、私にできることを言つて下さいというサーバントの気持が必要です。

井殿＝L方式伝道はすべてを外人牧師にまかせてやつてもらつたという感じをもつては困ります。本当の協力伝道なんだから。

高塚＝教えるという態度は見られなかつた。日本の実状に最も通じている日本人牧師がたてた計画は最善だからと認めて下さつた。

村島＝外人牧師には受洗者を一人でも多くという気持が強かつた。こちら側でまだ早すぎると考えてひきとめた場合もありました。この点に考え方の違いがありました。又キリスト教のキの字も知らない人たちが多い日本のことはどんなに言つても理解できない面があつた。

高塚＝説教は英語と日本語と交互にきくことになり、どれだけ理解されたか——それはみんながよくわかつていることでしよう。私のところではできるだけやさしく話してくれとたのみました。それでもキリストとか神が、初歩的な人にも同じように既知のことして話されるわけです。これはどこの教会でもあてはまる事実でしよう。

映写伝道

壺井＝映写伝道についてはいかがでしようか。「愛のあけぼの」はよかつたと聞いています。

エルダー＝一つ感じていることは、映画はホントの伝道ではないという考え方がありますね。どこかに遊び半分という気持がある、だから教会員が来ない。それに伝道のための宣伝でないと考えてる面がある。だからいくら牧師が走り廻つてもいけないので、先ず信者が価値ある集会だと見て、出席することが大事でしよう。伝道集会にさそつているつもりでなくては人は集まらないですね。

永田＝人を集めるにも方法が問題だと思うのですが、教会員が責任をもつて整理券を受け持ち、伝道に協力する方法がよい結果を生んでるようですね。

通訳について

壺井＝最後に通訳についてですが、これは大変責任の重い仕事でありながらいつも陰の存在で気毒だつたと思いますうまくできて普通というわけですね。この伝道が成功したことはこれらの方々の非常な努力に負うところが多いと思います。

イマイ＝通訳は疲れる仕事ですよ。

エルダー＝自分の経験では、通訳はいつも緊張していなくてはならないので疲れます。特に日本語を英語に変えるのはむづかしいですね。

高塚＝暑い最中の伝道なんだから相当の体力が必要です。

藤岡＝先ず健康であつてほしい。運転免許位もつていると働らきやすい。—注文が多いけど。

イマイ＝通訳はできるだけいろいろのことに心を配つてあげることが大事です。唯夏休みのアルバイトというのでなくて、教会のために自分も一生懸命にやつている自覚がほしいです。唯の仕事ではないのですから。

高塚＝要望になるけれど、教団所属の信徒から選んでほしい。唯英語がよくできるというだけでなく、人柄も考慮されるとよいですね。

壺井＝いろいろありがとうございました。私が心から希望することは、それぞれの教会がこれから外人牧師と教会との交りをこれで終らないで末永く続けて行つていただきたいことです。世界の教会は一つであり、キリストの教会であることを信じつゝ、相互に主のみ栄をあらわして下さいますよう祈つてやみません。海外の教会と日本の教会とが相呼応してなされたこのL方式伝道、送つた側も迎えた側も大きな恵みと感謝をいただくことができたわけです。

以上は去る九月十七日鳥取で約五時間話された中から適当と思つた部分を編集したものです。ずい分苦労しました。けれどもそれ以上に全部をここにおつたえできないことが更に苦しいことです。すべて責任は編集者にあります。（井殿）

牧師の日誌より

長坂竜太郎

九月十日（木曜）

四、五日前に受取つた通告によつて諸帳簿、一切の領収証、年末調整書類を抱えて岡山税務署に午後二時出頭。教会としては今から十年余りも前呼出された事がある。その時の話に依ると、毎年するのが立前であるが何分、数が多いので仲々そうはいかないのだとの事であつた。幼稚園としては今年が初めて。

応対の署員は感じのいゝ中年者でいとも慇懃、先ず年末調整書類に欠けたものはないか、計算誤りはないかと詳細に調べ、三十八年四月以降の会計簿に目を通す、その間約二十分。領収証綴りには目もくれなかつたが、隣の応対は会社の課長と同伴の女事務員に帳簿と領収書とを合せながら「此の領収証ないではないか此の領収には収入印紙がはつてない」と仲々に細かい。

無事にすんだ払は、庁舎を出て帰途ジャーマン・ベーカリーでケーキを買つて帰つた。

九月二十七日（日曜）

早くから予定されていた田井中牧師による信徒一日研修会のため教区デーを今日に延して倉敷南の今井師と交換講壇。要心深く八時半出発、倉敷駅からもハイヤーを用いたので九時半には到着、教会前の小学校では秋の運動会。私の処でも学区の運動会。来意を告げて答なし。仕方がないので玄関横の応接間に上り込んで瞑想、その中初めて礼拝に来たと言う二人連れの中学三年の女の子を上げて相手をする。やがてボツ〳〵来会、此の教会には旧知が多い。十時半からの礼拝を終つて役員方とお茶を飲んでいる処へ、今井師はマイ・カーに私の家内を乗せて帰着。少し離れた牧師館でミセスお手製のランチ、ゆつくり家族グルミの交り。運動会から帰つて来られた子供さん方の静かなのに感心。日本の家庭に於ける子供のように騒がず、親に甘えず無理を言わない。

今夕、東上との今井師に倉敷駅まで送られて夕拝一時間前に帰宅。牧師の家庭グルミの交りに長年うえて来た私にとつてはホーム・メードのアイス・クリームと共に実に快適なものであつた。教区も教会も信徒会なども今少し諸計画の中に家庭グルミ、夫婦単位と言う調味を発想、具体化したいものである。いつまで貧乏には肉のコマ切れがつきまとうのか。教職間、教職信徒間、信徒相互間にも家庭の交わりが重んぜられないと言う事もX教会の一つの大きな盲点ではなかろうか。

（岡山信愛教会牧師）

委員長プロフィル



大橋公夫

財務部委員長

倉敷教会役員

「負担金等、教区財政に対して一層の御協力を」と、先ずはぬかりなく財務委員長としこの弁。十億献金募金委員長も兼ね、「日本伝道の前途は十億献金の成否にかゝつています。信徒によるこの献金運動こそ肝要です」と全信徒の奮起に期待を寄せ、行動へのバイタリテイを求める。円満な人柄の中にも、伝道に対する激しい情熱が伺える。

大正13年、倉敷教会で田崎牧師より受洗し昭和6年慶応卒、爾来7代の牧師に仕え信仰歴は40年。特に東方牧師とは小学校以来の友人とか。

現在は上記の外、教区常置委員、岡山県信徒会長、ギデオン協会岡山支部副会長と巾広く奉仕の場を持つて活躍している。

登山、音楽、写真、野球を愛し楽しむ外、特に、若返り法として、英文聖書一日一章読続というファイトの持主。

次女和子姉は約10年間。倉敷教会オルガニストとして奉仕されたが、「顧りみて、信仰と音楽をモツトーにした子女教育に誤りはなかつた」と云う。以て範とすべし。

1男4女の父親。（倉レ勤務、56才）

第十三回 教団総会の開催

十月二十六日（火）より三十日（金）まで教団総会は東京に於て開催される。二十六日のみは渋谷の青山学院に於て午後一時半より開会大礼拝を以て始められるとのことで会場をあえて青山学院に変更されたようである。そしてその夜議員たちのために歓迎晩餐会が同学院の体育館に於て開かれるときいている。総会が単なる事務会に終始しないようにとの配慮であるらしく開会礼拝には、これまでなかつた教団総会議長の総会へのメッセージが伝えられる。このメッセージは総会を通して各個の教会・伝道所に伝えられるものと理解すべきであるそしてその第一日目に教団総会議長、副議長、書記の選挙が行なわれる。

今回の総会の主な議案は、議長、副議長、書記の改選、常議員、各常設委員の改選、総務局長及び伝道委員会総幹事の改選等があり、常議員の改選については、教規三十条及び三十四条の改正案が提出される模様で、常議員を三十七名に増加し、うち十四名を各教区より一名ずつ教職を優先的に選任し、残り二十三名のうち十名を教職、十三名を信徒とするという内容であるこの案は前総会に於て教区総会議長を常議員に挙げることが激しく論議された結果、特別委員会が設置された二ケ年間研究した結果の答申案である。また教団教規は多少不備な点もあるので改正案が提出されるが、教団総会議員の性格が教区代表の意味をもつようになるかも知れない。また第一回、第二回年度協議会に於て執行部の強化が議せられた結果、総務局再編成案も提出されるとするならば総幹事に関する教規を改正することとなろう。

その他過去二カ年間の決算の承認に次で予算案の審議、更に重要なことは一九六五年六六年の伝道計画案、また教育委員会長期計画案、社会活動基本方針案等の上程もある十億献金に関する建議案もあるし日本キリスト教会館の建設案もある。なかなか重要な議案が論議され且つ審議される。審議は四分科会方式が採用され、前記第二日目よりは富士見町教会が会場となる。

総会に望ましいことは——教区のためにも、各個教会のためにも——徒らな議論を排して「教団はこれで行こう、さあ前進しよう」という共感の灯と希望とが与えられ、更新されねばならない体制が更新されて、新らし出発をなすことができるよう、切に祈り望みたい。（M・T・B）

信徒会だより

岡山信徒大会のプログラムを決定した。

二、牧師夫人慰安招待日を、十月中旬、玉野渋川荘に交渉方依頼すること（玉野教会役員、三宅清氏）

三、教会員職業別名簿作成の為、常置委員会の了解を得た上で、各教会役員会に御協力を願うこと。

（大橋記）

岡山県信徒理事会は、九月六日午後二時半より、禁酒会館にて、江口、小川、桑内、西原、新見、大橋、丹波氏陪席で開催された。

協議事項

一、一一月二三日の第一九回

予告

日時　第一九回岡山県信徒大会
　　一一月二三日（祭日、午前一〇時—午後四時）
場所　岡山県遺族連盟
第一部　開会礼拝
　説教　「主と共に」　ウイリアム・エルダー宣教師
　　（マタイによる福音書二八の一六—二〇）
　聖餐式執行　壺井教区総会議長
第二部　立証及講演
　立証者　大川拡先生（住道一粒教会員）
　　大川呉服店、信愛不動産各社長、大阪クリスチヤン奉仕団副会長、イエスの友中央委員
　講演者　中野琳三先生
　演題　「信徒と霊的勝利」
　　旧大阪高工、玉川学園教育学部卒業、玉川学園外教育界に一〇年、中野薬品工業株式会社重役を経て、現在霊性生活研究所主事、大阪クリスチヤン奉仕団役員、四貫島教会員
　合唱　岡山市内教会連合聖歌隊
　　指揮　グリーシイ先生
　祈禱会　奨励　倉敷南教会牧師　ゴードン今井先生

教区宣教研究委員会編
「キリスト教—その問と答」新刊

内容　問と答　九四　一冊　八〇円

教区で、はじめての刊行書です。有益な内容ですから、お求め下さい。

教区の宣教研究委員会が三カ年の期間をかけて、編集したもので、主として信徒の伝道必携とも言うべきものとして準備され且つ完成されたものである。

「なかなかよくできている」と各方面の先生方より御批判と激励をいただいて教区当局は感激している。他教区の方々より注文を受けて喜びにたえないが、教区内の教会、伝道所がもっともっとこの「問と答」とを効果的に利用されるよう切望する。

集中伝道や、L方式伝道を実施された教会は特にそのフアローアップのために用いてほしい。注文は教区事務所へどうぞ。

九四問の内、第一部は「人生と信仰」第二部は「神と人間」第三部は「救い」第四部は「聖書と教会」第五部は「信仰生活」となつている。

教会だより

蕃山町教会
（内藤留幸牧師）

九月末会堂背後に小集会室（木造二階建）を増築。益々宣教の業に躍進中、尚、町名表示が岡山市蕃山町二番地一五号と変更。

岡山聖心教会
（永倉義雄牧師）

町名表示が岡山市番町一丁目十番地八号と変更。

倉敷教会
（田井中純作牧師）

創立六十年記念事業の一つとして会堂大修理に着工。

総社教会
（尾熊芳子牧師）

去る五月献堂式を挙げた同教会の住所は総社市総社七八五ノ一二番地。

三石教会・和気教会

久しく無牧中の両教会は十月以後相互協力して集会の再開に励んでいる。主のおみちびきを祈ります。

鳥取教会
（永田善治牧師）

聖歌隊員を中心とする伝道キャラバンが、今月、用瀬鳥取西部、八頭の三教会を応援された。

個人消息

徳木きみの氏（新見教会担任教師）
過日来関節リヨウマチ炎のため岡山博愛会病院に入院加療中、ご全快を祈ります

眼部愛子氏（岡山聖心教会担任教師）
六月三十日付茶屋町教会兼務担任教師に就任。

片岡健吉氏（倉敷平和教会主任担任教師）
九月三十日付倉敷南教会兼務担任教師を辞任。

P・グリーシー宣教師
十月より無牧中の三石、和気両教会の諸集会に定期的に応援をされている。

吉田輝子氏　旧姓「山田」に復名されました。

鈴木伝助氏（隠退牧師）
戦後、郷里の岡山県久米郡旭町江与味に帰られ、青少年、幼児教育に貢献されたが、江与味地区は多年の労に感謝して、御夫妻の胸像をたて、一〇月一五日除幕式を行つた。今年四月より東京地教藤沢市に在住されている。

青年伝道委員会

一、教区青年会連合協議会「教会の使命」を主題として、藤代泰三教授（同志社大学）を講師に迎え、九月二二、二三両日、倉敷教会に於いて持たれた。

出席者、延一〇四名。宿泊者五〇名。昨年より盛会であつた。

二、鳥取県教会青年連合大会
日時　十一月二二日（日）
　午後三時半—二三日（祭日）午後三時半
場所　鳥取教会
主題　「教会の使命」
講師　蕃山町教会
　内藤留幸牧師

婦人伝道委員会

教区婦人伝道委員会協議会を九月二四日午前十時より蕃山町教会にて開催。三〇教会八六名参加。

主題「連帯性に生きる—キリストの使者として—」。講師は婦人専門委員長、谷川和子先生。

和解の使者としてつかわされたキリスト者の使命を、世にあつていかに生くべきか。キリストと共に光栄にあづかる者は、キリストの苦しみにもあずかる者との自覚を新にして、三時半散会。

教区長も御出席下さつて感謝。小集会室の増築によつてはじめて協議会々場のお引受の出来た蕃山町教会婦人会のよろこびは実に大きかつた。近ずく台風のためか、申込より出席数はいさゝか少く遺憾だつた。

農村伝道委員会

一、講師派遣による巡回伝道
十一月中旬
希望教会は申出て下さい。

二、小教会強化援助、特伝、特集、バイク購入等の具体的伝道活動に対して援助しますから申込んで下さい。

三、教職研修のため図書贈呈「福音は土着出来るか」
伊藤恭治、相沢良一共著
希望者は申出て下さい（部数に制限あり）。
申込先　米子市久米町四六
　加藤俊行宛

財務部だより

近く教区負担金等の納入状況一覧表をお送りしたく準備中です。できますれば今月末までに納入ご協力いたゞきたくおねがい致します。

〝信徒の友〟をご存知ですか？

四月以来、教団の各種定期刊行物を統合して、信徒雑誌〝信徒の友〟が発刊していることはご存知と思います。

まだ生れて半年、よむものの意の如く成長してはいないかもしれません。しかし、この雑誌を育てるのはわたしたち信徒です。

勿論、この雑誌のために祈つていて下さるでしょう。でもこの雑誌の成長のために必要な糧は購読をして下さることです。

よんで下さい。足らざるところを指摘ください、さらにこの雑誌のために祈つて下さい。

まだ購読されていない方はご近所の書店にいますぐ申込み下さい。岡山教会の書籍部でも取扱つています——一冊五〇円です。——

後記

伝道の秋です。お互いに頑張りましょう。

予定より遅れましたが二四号をお届けします。次号はクリスマス。（T）



教区報 東中国 No.25

発行所 岡山市東中山下102岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日 1964年12月20日

待望の生活

高塚 勝

クリスマスが近づくと毎年のようにくり返して論議される問題があります。

今日クリスマスは日本人の生活の中で、特に商業主義とむすびついて完全に習俗化してしまいました。こういう現状に対して、キリスト者の間には、大ざつぱにいうとふた通りの態度があるようです。

ひとつはこような形でクリスマスがとりあげられることを苦々しく思う態度であり、クリスマスが特に商業主義に利用される現状を批判攻撃するという態度ですいまひとつの考え方は、どんな形にせよキリスト教に関心が向けられる機会なのだから、これを積極的に活用して伝道のチャンスとすべきだという態度です。

ところで最近、クリスマスを迎える準備として、アドヴエントを心をこめて守る教会が非常に多くなつてきましたアドヴエント・クランツやアドヴエント・リース（共に待降節の環）が飾られ、週ごとに増し加えられるローソクをみて、子供たちは近づくクリスマスを待ちこがれ、また大人たちには〝アドヴエントからクリスマスへ〟の特別な案内状が送られたり、などということをしばしばみ、きき、するようになりました。

私たちはいままで割にのんきに、アドヴエントもクリスマスもいつしよくたにして、十二月になるとクリスマスのことだけしか考えませんでした。教会やキリスト教団体などがコマーシヤリズムにあおられて、十二月に入るや否やクリスマスと称する催しや会合を行うのはけしからんとかいやいや、あれもこれも伝道のときだといつてきました。

ところで教会の一年間は、（教会暦）『主の期節と』『教会の期節』とに大きく分けられます。『主の期節』には救い主キリストの地上における生涯を中心に考え、学び、『教会の期節』では、教会につき、キリスト者の具体的生活につき学びます。

この『主の期節』はクリスマス・イースター・ペンテコステの三つのサークルに大別されます。またさらに、クリスマスはⒶ アドヴエント（待降節――準備の時期）Ⓑ クリスマス（降誕節――キリストの御降誕）Ⓒ エピファニー（顕現節――神の栄光の顕現）に三分されます。

教会の一年は、クリスマスの四つ前の日曜であるアドヴエントの第一主日から始まります。アドヴエントが守られるようになつたのは、六世紀の頃であるといわれます。この期間、私たちが心から主イエスの御降誕を迎えるために深く罪をざんげし、清い心をもつて祈りのうちに日々をすごすよう一般にはすゝめられています。

しかし、アドヴエントの主題は？ と問うならばそれは『おそれと歓喜』あるいは『悔改めと待望』といえます。主イエスはあがない主、救い主として来りたまいました。キリスト者は、この主を迎えるために、全き悔い改めと、渇くような待望をもつてこの時をすごすのです。

アドヴエントにクランツやリースが用意され、特別な案内状が配られたりすることのみが主イエスの御降誕を迎えるための準備ではありません全き悔改めと渇くような待望をもつてこの時をすごさねばなりません。

それでは『主を待つ』生活『待ちのぞむ』生活とは何を意味するのでしようか。

私たちの信仰生活においては、いくつかのことが教えられています。

先ず、使徒信条は『主は、生ける者と死ねる者を審きたまわん』と告白しています。すなわち私たちの信仰が終末と再臨を待つ信仰であることを告げています。

つぎに使徒書は『私共の住んでいる地上の幕屋がこわれると、神からいただく建物』としるしています。すなわち私たちの信仰は、地上の生命を終つたとき『天にある永遠の家』で主にまみえるよろこび、永遠の生命への期待に立つていることを告げています

さらに福音書は『つかわされる助け主、真理のみたま』についてしるしています。すなわち、私たちの信仰は主が来て『聖霊の宮』として私たちを用い、御霊によつて歩き聖霊の実を結べるようにとの待望（祈願）に立つていることを告げています。

再臨の主への待望、永遠の生命への期待、聖霊の内住への祈願はともにこのアドヴエントの期間に私たちがふかくしかも確実に求めなければならないものです。

しかもこれらの待望と期待と祈願のすべてが。あやふやな手形が、有力な保証人によつて裏書きされるように、キリストの受肉の事実により裏書されていることを私たちはすでに知つているはずです。

とくにこの年のアドヴエント・クリスマスに当り、私たちの日々のくらしが『聖霊の内住』を切なる思いで祈願するものでありたいものです。

伝道の不振がさけばれ、信仰生活のもたらす『よろこび』に対して不幸にも不感症になつていることは、どこにその原因があるのでしようか。

クリスマスを単に私たちのものだけにするか、この世のものとするかの論議よりも、先ず私たちが『主への待望』の生活に、『聖霊の内住』を真剣にもとめて、きびしく、心をこめて生きているかどうかを各自問い直してみたいものです。

（玉島教会牧師）

説教

大きな喜び

ルカ二ノ八—一四

柏木和宣

イエスの誕生の知らせを最初に受けたのは羊飼いであった。彼らは下層の民であり、夜までも労働を強いられた民であった。多くの羊を持つ主人に使われる道具にすぎない彼らであったが物として利用される人間関係は失われる。そして現代の人間疎外の問題もそこにあると云えよう。人が歯車の一つとなっていたり、計算機や複写機になつて働く職場においてのみでなく、人間関係の基本であるべき家庭においてさえもお互いに相手を利用する事によつて結ばれていることの多い現代である。

だが、そのような人間関係の失われている人々に対して『大きな喜び』が伝えられた。クリスマスの出来事、イエス・キリストのこの世への突入こそ、人間性を回復するものであつたからである。人間を人間たらしめるものは愛である。だが人間の持つ愛がいかに身勝手なものであることか。自分中心にしか他者を愛することのできない我々なのであり、そのためにこそ破れを感じ、悩まねばならぬ我々なのである。だがキリストによつて示された愛はそうではない。愛せないもの、許せないものを あえて愛する愛、十字架の上に自らをささげ出した愛である。この愛にふれる事によつて人間は真の人間関係をとりもどすことができる。ここに『大きな喜び』がある。しかも御使いは『あなたがたのために』救主が生れたと告げた。キリストの愛は他人事でなく、現在に生きるこの私にとつてのものなのである。

再び迎えたクリスマスが単なる教会行事として終るのでなく、私の人間性を回復して下さるために来て下さつたキリストを迎える時であると共に、人間関係の失われている現代に、イエスがキリストである事を声を大にして叫ばねばならない。

（琴浦教会牧師）

信仰告白　按手を受けて



このたび神の不思議な導きのもとに按手礼を受けることができたことは、私にとつて生涯忘れ得ない大きな感激です。

これより日本キリスト教団の正教師として正式に牧師としての歩みをはじめる訳ですが主の憐みを骨身にしみて感ずると共に、私をここまで導いて下さつた教区内の諸先生をはじめ多くの方々に、先ずお礼を申上げたい気持で一ぱいです。

『このようにわたしたちはあわれみをうけてこの務につ いているのだから……』（Ⅱコリント四の一）とパウロは言つていますが、信仰生活十年、伝道者として送つてきた過去六年余の才月をふりかえつて見るとき、今更のように思われてならないのがこの『あわれみをうけて』と言う言葉です。田舎者と言うと、うすのろでいつもウロウロしているような言葉の印象ですが東京の下町の空気を吸つて育ち一歩も他所へ出たことのない私、しかも高校卒後一年足らずで聖書学校に入り三年間の修養生活の後に、補教師の合格免状と共に送りだされてしまつた私に深い人生経験がある訳でなし、おまけに人の気持も習慣も気候も全く異る山陰の地は、ただただ困惑あるのみで、東下りの田舎物はただ途方にくれるばかりでした。

しかし乍ら神は一つ一つの困難の中で常に先立ち給い助けて下さいました。教会も六畳一間から出発し、十畳、二間つづきのアパートと出世しついに多大の方々の御援助の下に献堂にまでいたりましたこれ一つを考えてもただただ主のあわれみと言う他ありません。

倉吉に来て早々、教区の親心からの配慮でしよう、交換講壇の際、鳥取教会と言う県下一の教会に行くことになりました。あまり意気込んで準備したため翌朝の列車におくれ、次を待てば午後になると言う折、仕方なしに駅前タクシーに訳を話し、身分を証して信用を得鳥取まで借でとばした一時間、約三阡円の足代その頃の給料が四阡円余だつたから全く凄く高くついた説教でした。しかし時計とタクシーのメーターに気をもみ乍ら、幾らになつてもいいからとにかくおくれないで『今日の御言葉の聖用にあたらせて下さい』と祈り祈つた一図な気持を忘れることができません。神の憐みによつて牧師にしていただいた、この御恩顧に応える途はただ一つ一図に御言葉の役者としてこれからの生涯をささげて行くことにあると思つています。

（上井教会牧師）

あわれみをうけて

村島宏

入信以来十四年目、その間教会生活を離れることはなかつた。離れるどころか、次第に御言葉に近づかねばならない生活へと主は私を導いて下さつた。

先ず入信三年目、その頃私は病院勤務の多忙の中におかれて教会の集会に充分出席出来ない身であつたが、「神学校に行かねば」という考えが不意に私の脳裏に去来しはじめた。併しその年は私が家庭に必要であつたので進学できなかつた。翌年はと思つて、その道の開かれる様に猛烈に祈つた。その私が、いよいよ道が開かれた時一寸したことで、つまずきを感じ自ら気の毒な位、信仰に大地震が起つて、神学校を止めようと思つた。併し、そうすることは私にとつて信仰を捨てることと結びついてきたので、深刻な対決であり、そう簡単に捨てられなかつた。それかと云つて真直ぐに立つている基盤を失つていたので正しい信仰認識のために、神学校に行かなければならない—伝道者でなくても信仰を正しく把握しようとすれば神学校に行く必要が起つてくる—そう思つて入信四年目神学校に期限ぎりで入学手続きそして入学した。

福音に与るために

吉岡ミツエ

神学校という与えられた立場と環境が私をして、日曜日祈禱会は勿論その他の機会を通して御言葉に近づく生活として備えられたのである。その次に、伝道者とされて足掛け七年（その間一年半休んだ時があるが）聖書を読まないで仕事が出来る伝道者がない様に、私はこれまでの日に勝つて御言葉に聞き、主の御意志を探り求め、また助けを請わなければ生きられない場所に導かれた。そして最後に、牧師とされて、委ねられている教会のひとりひとりを思う時、そのための重責を痛感させられている。私は何一つ力のない事を知るのであるが、私は私を召して下つた方の前に、ありのままを暴して、主御自身により頼んで歩む事以外に動きがとれない所に今導かれているのである。勿論この様になる迄の人生の幾つかのまがり角で決断したのは、外面的には私であつたが、キリストを離れては人生が死の相のもとにあることを何時でも感じさせて下さつたのは主であつたと思われる。

そして、私の場合、牧師として罪深い私も共に福音にあずかるために、み言葉に近ずかねばならない生活へとかけがえのないこの世の時を歩ませて下さるのかもしれない。

（用瀬教会牧師）

教会の暦

永田善治

教会の暦はアドベント（待降節）から始まります。それが教会暦の中にとり入れられたのは古く六世紀からで、その期間はプロテスタント諸教会では西方教会と共に四週間としています。

この初日は一一月三〇日に最も近い聖日と定められていて、今年は一一月二九日であります。この日が教会の正月元旦であるわけです。

アドベントとは、接近又は到来の意でありまして、キリストの第一の来臨（降誕）を迎えること、第二の来臨（再臨）のために備えることがこの期間を守ることの意義であります。併せてキリストの霊的来臨を待ち望むことが特に奨励される様になりました。

ドイツを中心とする北欧諸国では、この時期にアドベント・クランツを飾ります。樅などの常緑樹の小枝で輪をつくり、それを天井や支柱の上から赤いリボンで吊します。これに四本のローソクが立てゝありまして、聖日毎に一本づゝ点火し加えてクリスマスの接近の様を象徴します。

教会の一年間の暦の[illegible]を申しますと、ドイツ福音教会によれば、右に述べたように待降節から始まり、これが四聖日あります。

それから降誕節、降誕節第二祝日、降誕後第一聖日、次に命名祭があり、続いて降誕後第二聖日。

次いで顕現祭、これは異邦への救主の顕現を記念して定められたものです。東方の博士が星に導かれてキリストを礼拝しに来た事が中心になつております。顕現後第一から第六までの聖日があります。

それが終ると受難節、即ち受難節前の聖日が三回あつてレントに入ります。その間六回の受難聖日、最後は棕櫚の聖日と云い受難週になります。

そして、復活節、復活節第二祝日、それから復活後聖日を五回守ります。

続いて、昇天祭、昇天後聖日、ペンテコステ、仝第二祝日。

それから三位一体聖日、引続き、三位一体後聖日を二七回守つて、教会の年末となるのであります。

（鳥取教会牧師）



教会歳時記

井殿園

歳時記とは一年の自然と人事を取集めて記したものを総称する。通例、春夏秋冬それに新年を加えて五つに大別される。教会は無色、無季節なところではない。

▼先ず冬、何といつてもキャロリング。寒い夜ふけの町のあちこち、並んだ燭火に紅いほゝ、白い息、輝く瞳が浮び上る。若さとムードがあふれるもの。バスを借切り、団地や病院、歳末の雑踏の中に向う数十の白衣。静寂そのものの山村、凍りついた道をたどる二つ三つの黒い影。キャロリングは都市にも山村にも。クリスマス祝会、故郷を離れて働らく青少年たちや施設の子供たちを招くなどは意義深くよろこびも倍加しよう。

雪遊び、礼拝後、鳥取、智頭西部伝道所合同でバスを借切り砂丘へ、半日を雪の中でたのしむ、永田牧師の見事な直滑降が見られる由。山陽側にはうらやましい限り。

▼新年親睦会。変つたところで岡山教会のもの。題して『新年名人大会』。荘重なファンファーレ、聖火ランナーは小川執事、壺井牧師の開会宣言、守屋長老の選手宣誓で始まる。珍芸、迷演技、迷セリフ、羽織袴で狂言まで、優勝はいつも壺井牧師と聞く。

▼やがて春、お花見、遠足、野外礼拝と戸外へ向う。花の日など買つて来た花を前に子供達を静かにさせての合同礼拝よりも野外でのびのび運動会—福引き、宝探しなど子供たちを中心に計画してみてはいかが。その方が子供の日らしい。

▼夏、キャンプは別として、変つたものでは玉島教会の『納涼祈禱会』。ゆかた姿で教会へ。共に祈つて西瓜をごちそうになる。いかにも涼しい風情。

帰省して来た学生たちから部会での活躍や生活ぶりを聞きはげます会なども意義深い。

▼秋。お月見の宴。婦人、青年合同でお団子たべたべ、愛宕の山に出ている筈の月を想い、俳句あそびをする教会もある。

▼季節に関係はないが—教会創立記念『にぎりめし会』は倉敷教会例年の行事。固く握られた手の中のおにぎり、『多様性に於ける統一』や中核に向つての結束を意味するのかおにぎりは何も言わないけれど、気持はわかるようである。ほおばりながら、長老の語る教会設立以来の歴史をかみしめ味う。

まだまだ紹介すべきものがあるがこの辺で。

この地方の風土と人間生活、教会生活の生き生きした対応の上にこの歳時記もあみなおされて行くことが願わしい。

新しい教団の姿

第十三[illegible]教団総会は去る十月二十六日より五日間、東京に於て開催され、その詳細な報告は既に十一月十四日号の『基督教新報』に於て報告されているので、ここでは二、三の重要な案件についてのべ現在の教団の姿を知つていただき度い。

教区より選出された議員は十二名であつたが永倉義雄牧師が欠席されたほかはみな出席してほとんど終りの日まで精励して議席についていた。唯今回は特に東中国教区の議員たちは発言しなかつた。壺井牧師は第三分科会の座長として『教規等改正案』という教規の逐条審議の取りまとめのため多くの時間をついやされたし、高塚牧師は総会補助書記として、田井中牧師は報告審査委員、大橋公夫氏は財務審査委員、永田牧師は教区記録審査委員として活躍されていたので、発言の機を逸した傾向もあつたしまた上程の各議案の内容をよく理解していたので特に発言の要もなかつたのかも知れない。

教団総会議長は第一日目に大村勇牧師が再び当選され、副議長は佐伯俔牧師、書記は飯清牧師が各々再選された。

数ある議案のうちで論議の焦点となつたのは『常議員に関する教規変更に関する件』で教規第三十条の改正の可、否である。この案件は前回の総会に於て奥羽、東海両教区より提案された『教区総会議長を常議員とする件』の建議案に基き特別研究委員会が設けられて二年間研究のうちの原案で、常議員の選挙にあたつてその候補者のうちに必ず各教区より教師二名を加え、得票順に各教区別に教師一名を当選させ常議員の定数を二十七名より三十七名にするという案であつたが教規改正のため三分の二の賛成を得ず更に次回まで研究をつづけることとなつた。

教規等改正案のうち第一条は教団総会議員の選出が教区代表の形をとり教区総会議員のうちから選出されるという内容であつて、常議員に教区代表を加えるというのとその精神に於て似ているものがあるが、これは教団の性格上、大きな問題であるので更に研究を重ねることゝなり第四十二条を除いて改正案は可決された。近く改訂の教規が出版される。伝道委員会は委員長鈴木正久牧師、常議員には新人も加わり、総務局長は改選期であつて新しい局長に佐伯副議長を依頼交渉することをきめ、また伝道総主事も人選を終つて目下交渉中である。

今回の総会に於て常設委員会の委員の選任には他教区より少なからず新進気鋭の士が選任されたが、わが教区よりは壺井牧師一名の選任とは少し考えさせられる。

終りに神奈川教区が新しく生れたことを報告する。

（M・T・B）

鳥取県青年大会

鳥取県下の教会青年、高校生が年に一度集まる私達の県大会は、十一月二二、二三日講師に蕃山町教会の内藤留幸牧師を迎えて、鳥取教会において開催された。主題は『教会の使命』。この主題のもとに青年の方は『証し』『奉仕』『交わり』、高校生の方は『私達と教会』というテーマをそれぞれ設け、分団を編成した。それぞれの分団は、話合いの中心に或は糸口として自分たちのテーマをもっていたのであるが、結果的には全部の分団がすべてのテーマについて話合うことになった。これは、教会の使命が、証し奉仕、交わりという個々の事柄に分けることのできないものであることを意味する。例えば、自分の教会は交わりの面だけはうまく行っているけれども、証しと奉仕の面がうまく行っていない、などということはあり得ない。それらの事柄が全く切り離して考えられないものであるということを話合いのうちに納得できたことは、一つの大きな成果であろう。

もう一つ重要なことは、他への配慮ということである。県下には、青年の全くいない或は非常に小人数で頑張っている教会がいくつもある。特に郡部に多い。高校生は高校を卒業すると、進学或は就職のために都会へ出ていく。それはむしろ当然のことであろう。その中には、また帰ってくる人も勿論いないわけではない。都市部の教会青年会も充分に強くはない。それでもなお、もつと積極的な配慮が求められている。伝道キャラバンという形で、他を応援している青年会があり、成果をあげている。さらに他の青年会においても何らかの具体的な他への配慮が求められている。他の為に祈ることもその一つであろう。青年会相互の協力ももつと必要なのではないか。

さらに今年の県大会で特筆すべきことは、上井教会村島牧師、用瀬教会吉岡牧師の按手礼の式典に、参加者全員が列席できたことである。何という大きな感動。何という大きな喜び。何という大きな希望。

最後に、指導に当っていただいた先生方、準備運営に全力を尽してくれた鳥取教育会青年会の友々、また県大会のために種々の配慮をしていただいた、他の多くの方々に紙面を借りてもう一度お礼を申上げたい。尚、参加者は、青年約四十名、高校生約三十名

（米子教会　益田紀志雄記）



北から南から

去る十一月廿三日は快晴に恵まれて今年も待望の信徒大会が岡山市下石井の遺族会館に於いて開催された。出席者約二百名、参加教会廿五、教職の先生方約二〇名であつた

大会の標語は『神による前進』である。

午前十時より礼拝が行われエルダー先生より『主と共に』と題されて『一人の人が欠けた時退いてはならない。イエスと共にある生活はどんな苦難の中にあつても常に励まして下さつているのである。この約束がある時恩寵を感じこの時こそ信仰をもつて前進せねばならない』と力強く教えられ続いて田井中先生の司式によつて聖餐の恵にあづかり主の御受難を偲びつゝ感謝の裡に礼拝を終つた。

十一時四十分より大会に移る。長坂先生より『或る時大売出しに行つてみると広告とは違つてサービス精神に乏しく、売つてやると云つた態度で、お客に接しているのを見た。私共の教会に於いても其の様な事が云えるのではなかろうか、迎える側に立ち奉仕すべきである』と。又霊南坂教会の飯先生からも御自身の療養生活の体験を通し基督者の体質改善を強調され両先生から多くを教えられた。

岡山県信徒大会

ン奉仕団、住道一粒教会員大川拡先生の立証があり『生活の総てに於いて嘘のない生活真実味のある信仰生活』の体験を話され又大阪の霊性生活研究所主事四貫島教会員であられる中野琳三先生の『信徒と霊的勝利』と題されての講演では『人間の罪の問題から説き起され魂についてじゆん〳〵と教えられ霊的生活の勝利者となる様私達一人〳〵に迫つて下さり多大の感銘を与えられた。こゝでグリーシイ先生の指揮による岡山クワイヤーの奉仕によつて美しい合唱を聞き会衆は恩々主に近づけられて行つた。

斯くして最後の聖別祈禱会を迎えイマイ先生の御奨励に心打たれ感激を新にし数名の方の熱祈が捧げられて再会を約して散会した。

今期大会の反省として主日と大会とが続いた為に参加者が少なかつたのも一因であろうが第二十回大会からはこの私達の大会を自覚してもつと〳〵多くの方に参加して頂き度い事と青年の人達が加わつて活躍出来る様な内容を盛つた大会としてほしいとの声が多かつた。

（岡山信愛教会　江口毅記）

次いで桑内理事より会計報告がなされてから大橋理事長より総会大会の他牧師夫人慰労会。結婚相談所開設。会員名簿作成着手。盲人信徒会への援助等の報告が行われて午前の行事を終了休憩に入る。

午後からは大阪クリスチヤ

『主は富んでおられたのにあなたがたのために貧しくなられた』コント第二書八章

（信愛）牧師　長坂龍太郎

クリスマスの祝福を
送ります。
新しき年に神の恵を
祈ります。

習字及珠算教授
楽山学院
TEL23—9419
桂華　岡本慶夫
岡山市内田春日町66

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。

クリスマスおめでとうございます
岡山信愛教会
山崎尚士

『御子イエスの血がすべての罪からわたしたちをきよめるのである』ヨハネ第一書
岡山市七軒町四
（信愛）船越澄江

キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている
岡山市駅前町二丁目五
江口毅
（信愛教会）

『愛は多くの罪をおおうものである』ペテロ第一ノ四章
岡山市上伊福今町一七一
（信愛）
永沢正矩
五二局三七五六
永沢歯科

玉野工務所　（信愛）
橋本佐三
岡山市弓之町一ノ二〇
我らは生きた聖なる供えもの（ロマ一二・一）

岡山県 牧師夫人会 鳥取県

信徒会招待による牧師夫人会は去る十月九日、玉野市渋川の三井造船の保養施設で、壺井、長坂、山村、佐敷、脇本、イマイ、内藤、高塚、井殿、中堀、藤岡、柏木の各夫人方、そして大橋、小川、船越、河田の信徒会理事の方々の御出席のもとに開かれました。

平素、牧師同志はいろいろの機会に会えるけれども、牧師夫人はなかなか出ることがむづかしく、顔を合せることは一年の中ほとんどない現状です。そういうわけで今度の信徒会の御招待は大変ありがたくうれしいものでした。

簡単に礼拝をして昼食、近くの水族館を見学して後、ゆつくり腰を落ちつけて今後の会の持ち方について意見を交換しました。一度は信徒会の招待によつて秋に、もう一度は自分たちの費用で、出にくい方の教会を会場にして春に少なくとも年に二回の会を持つことになりました。内容は修養的なものよりも、生活や教会の諸問題を心を割つて話し合うものにして行こう、苦労話をして終つてしまうのでなく、明日へのよき働らきのための話し合いを目ざして行こうとみんななかなか意欲的でした。その中から『体質改善』などについても協議できるようになると思います。

こうした話し合いの間、理事の方々が同伴の子供たちを庭へつれ出してお守役を引き受けて下さいました。何でも遊んでいる子供さんを見ていると、どこの牧師さんの子供かみんな当りましたとは小川理事のお話でした。みんなで顔を見合せたことでした。

『僕の株もあがるだろう』と三人の子供さんを一日中おもりされ、あたたかく御夫人を送り出された牧師さんもありました。きつと恵まれて帰宅された奥さんを見て大きくため息をはかれたことでしょう。今更、牧師夫人の仕事の大変なことを体得されお疲れになられたことでしょう。

今後の会の進め方ですが、ほんとうに永続きさせて行くためには適当なお世話をして下さる方を必要とします。それが決らなかつたのが一寸心配ですが来春には、次の会がきつとよい場所で開かれると信じて期待しています。そのためにはやはりそれぞれの主人である牧師の理解と協力が絶対に必要であると思います。

会の終りに、出席されなかつた方々ー御自分のおつとめや教会のお仕事のためにーにあてゝ、みんなで寄せ書をいたしました。

（I記）

何度か実現したいと思いながら、経費、その他の事情でのび〳〵になつていた牧師夫人会。念願かなつて、閏年のように四年ぶりに、婦人部負担金と地区負担金の助けを借りて、一〇月九日、県のほゞ中央、浜村温泉の『浜の家』（山田牧師の親戚）を会場として持たれました。

集つたもの、一〇人の牧師夫人の五割。柳沢、山田両牧師を加えて、計七名。ちよつと息抜きさせてもらいながら、同労者としての交わりを深めお互いに啓発され、牧師を援け教会の御用により役立ちたいとの気持は皆同じで気脈相通じ、談論風発、家庭的な楽しい会でした。

経費の出所に気兼ねしたわけではなく、折角の機会を苦労話や雑談だけに終らせず研鑽の場にとの意図から先ず永田夫人証言による礼拝を一〇時半より守りました。続いて、同姉によつて、田崎健作牧師著『捧身で生きる』が紹介され、お昼まで暫く座談。

午後は、ゆつくり時間をかけて入浴。『信徒の方々に申し訳ないわねえー。でも四年に一ぺんだから許してもらいましようよ』（A夫人、皆同調）。それからは、主題なしで、気の趣くまゝに自由な語り合い。五時に旅館を後にして帰途につきました。

断片的ではありましたが、色々話し合われたうちの一部を紹介しますと、①牧師家庭の子女教育の問題。②教会婦人会の活動の報告と在り方について。③若小教会婦人会への協力に重点を置いた、婦人会交流の問題。④御主人の説教については各人各様。採点の厳しいものあり、甘いものあり。しかし、そのために気を使い、祈つているのは皆同じこと。

『よく信徒の方から「先生御夫妻は年中一諸にいらしてよく話しがつきませんね」と言われるんですが、共通した話題をもつて、夫の働きに協力出来るのは感謝ですねー』（B夫人）。とかく井の中の蛙になり勝ちなものが、視野を広められ、置かれている立場の光栄を思い、日頃の苦労も忘れて元気づけられたことでした。

長くお互いに県下に住みながら『はじめまして』の初対面の挨拶の風景もあり。これを機会に定期的に牧師夫人会を持ちたいとの意見もあり。加えて、問題を絞つてこの会から更に積極的なものを生み出して行きたいとの希望もあり。『又いつ出来る事やら』と悲観的にならないで、よきパトロン（後援者）を募集するとか、気軽に手弁当でとか何とかして定期的に続けたいものです。

（T記）

十文字平和教会
布下耕読
吉備郡足守町吉

（岡山教会）
小川政雄
岡山市綱浜七三六

祝　御降誕迎新春
林内科医院
林　昇
倉敷市天城教会

高梁教会
井殿福基江園

（高梁）
尾島眼科医院
尾島英之
高梁市柿木町二〇

耳鼻咽喉科　（高梁）
桑内成郎
高梁市松山2050

『人間に喜ばれるためではなく、私達の心を見分ける神に喜ばれるように』
岡山市大供表町一ノ三三
（信愛）関幸子

『神が私達に下さつたのは臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである』テモテ第二ノ一章
岡山市大供五八
不二屋薬房
電話二二局四八五
（信愛）

『互に慰め合い、相互の徳を高めなさい』テサロニケ第一
岡山市門田一七二
岡紡内　押野きくゑ
（信愛）

イエスが彼らの中にお立ちになつた。そして『やすかれ』と言われた・ルカ二四・三六
岡山市山崎四一ノ一
（信愛）東原文子

主はめぐみをもつて、わたしを死の陰の谷より導き出し給いました。人工喉頭により毎週説教しています。よみがえりのラザロのように喜んで生活しています。
天城教会
山村好美

岡山市花畑三七
岡山博愛会
更井良知美子子夫

自立のために

十億献金（6）

高塚　勝

私たちの教団の一九六五年度（明年度）の財源は国内資金九三八五万円、協力資金一〇〇六二万円、総計一億九四四七万円であると報告されています。すなわち海外の諸教会よりの協力によりその大半が運営されていることをこれらの数字は示している。

また六五年度予算九千万円のうち四千万円は十億献金でまかなわれることになつており、十億献金によらなければ伝道できないことが明らかにされた。

十億献金と称しつゝ、実質目標が四億五千万円であることはごまかしである。

十億献金（正式には伝道資金並びに教団基金の募金と称する）の目標額が一〇〇％六五年度の伝道費に予定されていることは再考を要する。等々——第十三回教団総会において多角的に検討、論議されたことが基督教新報（私共の教団の機関紙で全教会、伝道所に毎週一部無料送達されている三四三四号）に報ぜられています——。

〝たしかに十億献金という名前がよくないと思います。自立のための献金と名前をかえて、五年間位に区切つて集めて五年でできなければ、さらに期間を延長するようにでもしたら……〟——前記、新報の座談会より——。

しかし、教団の自立のために……決して私たちはもう貧しくはないはずです……この献金はやはり、私たちの手によつて達成しなければなりません。

（玉島教会牧師）

教団アワー

〝心の友〟録音テープ〟

家庭集会に！
夕べの集いに！
ご利用ご活用を。

私たちの教団が毎日曜朝・東京放送よりおくる好評のラジオ番組の録音テープが多数用意されています。

一流の語り手によりドラマ化されたテープを諸集会で活用ください。

お申込みは玉島教会、高塚牧師までハガキで（貸出無料）

募金の目的と使途はもつともつと明瞭にされなければなりません。

委員長プロフィル



藤岡友幸

青年部委員長
児島教会牧師

『一般教会青年会の自主活動の盛上りによる両県青年会連合協議会、一部地区活動の充実は戸田牧師に負う所が大きい』と前委員長の努力を高く評価する。同時に、約2年の委員長としての経験を通して『今後の課題は、若小教会青年の積極化、地区活動の広がりが推進されること』と、大教会青年会偏向からの脱皮による前進に期待を寄せている。

更に『年少労働者の問題＜中学卒の勤労青年＞に婦人部、職伝部等と協調して取組んでみたい』と、新分野開拓への意欲十分。

32年、同志社を卒業し、最初の任地、1年半の南国土佐（教会）を後にして、現任地である県南、児島教会で満6年。昨年9月に念願の会堂を新築したが、温厚な人柄に加えその地味で着実な伝道牧会は地域社会の中に浸透しつゝある。

当教区では、教育部2期、職伝部の各書記を歴任した。

牧師には珍しく、スポーツは万能。特に登山は今も暇をみては続けている。健脚である

3女の父親で愛妻家。今後の活躍を期待する。

（高梁）
赤木恭平
高梁市鍛冶町
電話三〇五七番

玉島教会　牧師
高塚　勝

白銀山病院（玉島）
瀬崎正夫
玉島市乙島六〇七三
電玉島四一四八

玉島教会
池田純子
玉島市矢出町

旭東教会　牧師
脇本寿
西大寺市川崎町
電話二一二三六九

満九十二才　天寿を楽しみつつある
実兼又八（旭東）
東京都府中市武蔵台三丁目一〇ノ四

栗原小児科
栗原正（旭東）
西大寺市市役所前
TEL 362

倉敷南教会
峠田頼吉
倉敷市福田町

聖手のお導びきと皆様のお励ましによりまして新会堂で礼拝できますことを感謝しつつクリスマスと新年のご祝詞を申上げます
仕える教会として進展いたしますようご加護をお願い申上げます
総社教会一同
総社市本町北七八五ノ一二

倉敷南教会
金沢武彦
倉敷市水島春日町

地には平和　栄光は神に
岡山県
キリスト者平和の会
に御参加下さい
○毎月1回例会をもち学んでいます
○正会員（現在19名）
会費600円
○準会員募集（会誌通信等のため）
会費300円
○申込は脇本・内藤牧師迄

家野猛之（旭東）
西大寺市浜

浮田信衛（旭東）
西大寺市北之町

教会だより

児島教会
（藤岡友幸牧師）

十一月十五日故大島捷六長老の永眠一年を記念しての特別礼拝をまもられた。

旭東教会
（脇本　寿牧師）

脇本牧師就任五周年を感謝し、十月二五月記念礼拝を守り、婦人会特別集会、家庭集会を計画、また牧師御家族の慰安旅行（二泊三日）の費用を差上げた。

鳥取県東部諸教会

来年一月、相沢良一農伝委員長が伝道圏伝道の候補教会を巡回される。

各部ニュース

伝道委員会

○教区推薦の伝道圏

教団農村伝道専門委員会の要請に基づき、左の地区が教区の実験伝道圏として推薦されました。

鳥取県東部（仮称いなば）伝道圏

構成教会は、鳥取、全新生全信和、全東部、全西部、青谷、八頭、用瀬、智頭の九つの教会及伝道所

○信徒研修の集い

岡山県　一月十五日

鳥取県　四月廿九日

内容と方式は大体昨年の信徒の集いのやり方に準じて行います。

実行委員は、高塚勝、井殿園、小寺昌良

○教区巡回伝道

一月中約十日間、倉敷教会田井中純作牧師に委嘱して、応援していたゞきます。

希望の方は高梁教会、井殿園牧師（書記）までお申込み下さい。詳細は別便でお知らせいたします。

職域伝道委員会

○職域協議会

—新産業地域の教会の問題について—

二月の予定

岡山市津島　児童会舘

講師　職伝主事　戸村政博氏

教区内一七教会（のちほど連絡）より教職、信徒計二名の参加を希望する。

協議会後、戸村氏が数箇教会の問安、応援する。

個人消息

山村好美牧師（天城教会）

去る十一月二十三日開催された岡山県信徒大会に久し振りでお元気なお姿をみせられた。人工喉頭にもおなれになられた。日々感謝のご生活との由。

河野　進牧師（富田教会）

二年余に亘るインド救らい事業団でのお働きを一応終られ十一月末より富田での伝道に専念される由。

村島　宏牧師（上井教会）

吉岡ミツエ牧師（用瀬教会）

十一月二十二日、鳥取教会に於て、教区総会議長壺井牧師司式のもとに按手礼を受けられた。

教区宣教研究委員会編『キリスト教—その問と答』

信徒及求道者のために、簡潔にして要を得た手引です。信徒伝道の武器として、信徒訓練のテキストとして、信仰入門の手引として、利用され喜ばれています。

九四問を内容に盛つた、教区ではじめての刊行書です。

まだの方はお求め下さい。

注文は教区事務所へどうぞ。一冊八〇円（一二一ページ）

写眞紹介
（第一面）

昭和七年五月二〇日、伝道所として開設され満三二才を迎えた用瀬教会。六年前現在の建物を購入。昨年七月吉岡牧師を迎え躍進が期待されている。

メリークリスマス
宣教師　ゴールドン・今井愛子
倉敷市福田町北畝三一六
TEL㊹八〇七六

倉吉市上井町一丁目
上井教会
教会員一同

東中国教区宣教師
ポール・V・グリーシイ
岡山市上伊福絵図町三七〇ノ三
電話㊷一〇九〇
心の清い人達は、さいわいである。彼らは、神を見るであろう。

長谷川英雄（米子）
米子市日乃出町
鉄道宿舎

倉敷南教会々員
尾崎元親
その恵みを以て年の冠とされる。（詩篇六五の一一）

倉敷南教会
林福治
真備町市場

鳥取市西町一丁目四二五
鳥取教会
電話三〇四四番

時計・メガネ・貴金属
中井脩時計店
鳥取市若桜橋詰
TEL3663

鳥取市西町一丁目四二五
鳥取教会
永田善治
孝子

鳥取市西町一丁目二二六
鳥取教会附属
愛真幼稚園

耳鼻咽喉科
気管食道科
宇山医院
宇山芳郎
宇山昭尚
鳥取市南本寺町66
TEL 2013

ウィリアム・エルダー
鳥取市西町三丁目五一一

鳥取市上魚町三二
若桜街道市役所隣
山本無線
電話四〇六一番

鳥取市吉方町二丁目四五七
鳥取新生教会
牧師　清水良太郎
電話六〇七〇番

新春を迎え、皆様の上に主の御恩寵を祈ります。
米子教会
新達治

米子市角盤町4丁目
沢タク観光バス営業所
TEL米子代②3131
沢タクハイヤー営業所
TEL 代②2105（駅前）
②2283（角四）
②5656（皆生）

鳥取市若桜町三九
電話二一五八番
ロゴス音楽教室
ピアノ。オルガン

鳥取市若桜街道筋川端角
トミヤ雑貨店
電話二三二三

予告

みんなで学び、みんなで語る

信徒のための集い

とき　一月一五日（金、成人の日）
午前一〇時—午後四時
ところ　岡山市内山下　岡山市民会館
◉会場は全館暖房
◉会費　一五〇円　昼食代　一〇〇円
◉遠隔地は交通費を補助します
婦人も、青年も、働く人も、学生も
壮年も、そして老人も
みんなで集まりましょう
いまから
あなたが参加出来るよう
祈りましょう
主催　日本基督教団東中国教区

岡山県教師読書会発足!!

一〇月に行われた『教師研修会』での話し合いの中で平素の共同の学習の必要な事がとりあげられ、このほど『岡山県教師読書会』が発足した。第一回集会は十一月三〇日に持たれ、内藤牧師により、『ウエスレーの神学』（野呂芳男他訳）の紹介が行われた。今後、毎月最終月曜日に継続的に活動がなされる予定。

編集後記

▽心備え十分にクリスマスをお迎えの事とお喜び申します。
▽クリスマス特集、南と北の諸集会等季節色を出しました。
▽正教師になられた先生方のお働きのためにお祈り下さい。
▽名刺交換は一人でも多くの方にと願つておりました。御協力感謝いたします。
▽次号は三月末の予定です。各教会ニュース、個人消息等お寄せ下さい。

鳥取市正蓮寺一一六ノ一四
鳥取東部伝道所
牧師　今村源三郎

鳥取市吉方三二五
鳥取信和教会
牧師　柳沢菊代
祝降誕謹賀新年
今年も宣しく願上げます

鳥取市本通り
ベニヤ化粧品店
平田滋晴
鳥取新生教会員
電話五五八四番

岡山教会
牧師　壷井正夫
役員　一同
岡山市東中山下102
電㉒8074

岡山教会の
書籍取次部を
御利用下さい
（聖書、さんびか、書籍、いろいろ取次いたします）

食事・会合に
御利用下さい
禁酒会館
主事　今田吉助
（岡山）　岡山市城下
電㉒6297

これみな一つとならんためなり
岡山YMCA
理事長　更井良夫
理事　一同
主事　鷲見昌太郎
岡山YMCA　英語学校　タイプ教室

倉敷教会（電㉒〇二〇二）
牧師　田井中純作
伝道師　広沢和人

倉敷教会
林源十郎
倉敷市本町九九九
（電㉒〇〇三三）

ヤコブ四・一五むしろあなたがたは『主のみこころであればわたしは生きながらもしあの事この事もしよう』と言うべきである
倉敷教会　大橋公夫

倉敷教会
三並弘文
芙蓉子
珪
倶子
真
倉敷市旭町七五七

（倉敷教会）
片山快平
倉敷市老松町

倉敷教会附属
竹中幼稚園
園長　竹中みつ
主任　神崎玉枝
（電㉒二八二七）

美作伝道所
久宗美加壮
岡山県久米郡
久米町中北上
TEL　五一

信用あり
耐久力（十五年以上）あり
チョークタツチ快適
日乃出黒板
スチール黒板（磁石）
木製、平面、曲面
木製磁気黒板其の他
倉敷市福田町古新田九七
日乃出黒板販売所
新見重雄

倉吉市仲之町七四二
滝口勝
日出子

倉吉教会
山田直義
倉吉市巌城

（倉吉）
塩見章生
倉吉市福吉町

倉吉教会
松田輝子
倉吉市西倉吉町

皆さまの暮しに奉仕する店
（岡山）
福屋
FUKUYA CHAIN
中之町店　婦人服地　洋品肌着　レディメード
栄町店　洋品雑貨
奉還町店　洋品寝具　食料品
倉敷市店（戒町）・西大寺市店（元町）
岡山・TEL
中之町店㉔4131
栄町店㉔3769
奉還町店㊷5101

教区報
東中国
No.26

発行所　岡山市東中山下102岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1965年3月28日



『今日の禁欲』について
―期待される基督者像―

脇本　寿

わたしたちは今レントを守つている。

主の御受難を記念するこの期間が守られるようになつたのは非常に古くからで、教皇グレゴリウス（六〇〇年頃）は「我々はこの三十六日（日曜日を除いて）すなわち一年間の十分の一を全く神にささげて、己をおさえ、神に仕えるべきだ……」といつているレントの日数が四〇日と定められたのは初めからのことではなかつたが、この期間には断食、祈禱、克己生活などが守られた。

しかし、断食や祈禱や克己の生活はキリスト教の専売特許ではなくて、旧約の時代から宗教的動機によつて守られてきた。即ち悲嘆や懺悔や切願や精進に際して行われた。新約時代にはパリサイ人の週二度の断食は有名である。主は断食する時には偽善者がするように陰気な顔つきをするなと警告しておられる。克己とか禁欲は律法的な表現である場合もあるが、必ずしもそうでなく、主の御受難の中で福音との関わりにおいて、初代教会やのちの教会が守ろうとして来たことを否定することは出来ない。

ところが、今日の教会やキリスト者にとつては、克己とか禁欲はもはや解消して過去の遺物となりむしろ、キリスト教と禁欲とは本質的には何の関係もないのだと考えているように思われる。しかし果してそうであろうか。

克己禁欲の意味

禁欲という言葉は消極的な否定的な響きを持つているが、原語のアスケーシスは新約ではただ一ケ所、動詞形で用いられている（行伝二四・一六）。パウロが総督の前で「わたしはまた、神に対しまた人に対して良心に責められることのないように、常に努めています」と弁明する中の、この「努める」と訳される語です。パウロは用語こそ違え、ほかの個所でも何度か語つていることです。即ち「自分のからだを打ちたたいて服従させ」（Ⅰコリント九）また「信心のために自分を訓練しなさい」（Ⅰテモテ四・七）と。

このように禁欲の意味するものは訓練であり、一つの目的に向つていつさいを集中する精進のことです。禁欲は否定ではなくて、肯定の意味で持ち続けなければならない。

受身の姿勢

隅谷三喜男氏が大平と消費ムードの現代を診断して、テレビのチャンネルをグルグルまわして一番おもしろそうで抵抗の少ないものを求めるような全くの受身の姿勢であると警告している（キリスト三月号）。

私たちキリスト者の姿勢は果してどうであろうか。こうした時代の風潮の中で、キリスト者は自らの姿を悔改め自覚的、積極的に生きてゆかなければならない。

それには、社会や人々の生活を外側から簡単に審いて拒絶したり、又反対に逃避したりするのではなく、正しく問題や矛盾や苦悩を把えて人々と共に生きる道を見出して行かなければならない。

予言者は警告者（目覚めたもの）勧告者、説教者、牧会者であることをもつて任務としたが、キリスト者はこの国では先に召された者たちであり、目覚めて語り、共に背負い、現実を変革してゆくという責任が託されている。

教会の保守性

従来、キリスト者がハツスルする時、信仰の領域の中丈で内向きに精進し、霊的昂揚を求めてきたのではないか。それのみが信仰的に熱心な生き方であり、社会や政治のことを口にすることは信仰から逸脱した邪道であるといつた考え方が相当に根強くはびこつているように見える。そこでは、キリストの愛も、個人的な範囲に狭められていると思う。

社会や政治の問題は信仰とは別の次元に属するという観念的な、無神経な割り切り方をしてはならない。というのは、わたしたちは社会のことも、政治のことも、一切の主である神の前に立つて決断し服従することであると思うからである。わたしに力がなくても、わたしたちは不利であつても神に従うほかないということを覚悟しなければならないからである。

信仰はこの世の生活からの脱出ではなくて、神の愛の故に、この世に連帯的な責任を負うことである。

あのいまわしい太平洋戦争の教訓を今日どれだけ真剣に受け取つているといえるだろうか。国家主義的なサタンの跳梁に再び黙することがないように真に勇気のある、明確な信仰と共に、歴史、政治、社会の正しい理解と批判の精神を身につけたいと思う。

期待されるキリスト者像

喉頭の手術から再起して、不自由の中から御用に励んでおられる山村牧師から教師会欠席のおはがきを頂いた文中に、わたしはこの度盲人に目を捧げることとし手続きをした。これまで禁酒禁煙がクリスチャンのレツテルになつていたが、今後は献血とアイバンクへの献眼ということにしたい、とあつた。山村先生の提案はいつてみれば愉快な提案に過ぎないともいえるが、更に重大な提案につながつていると思う。

わたしたちキリスト者は、キリストに従うという根本的な課題をもつて、自由に大きく変革されたいものである。

（旭東教会牧師）

写真紹介

昭和三十年一月十六日創立された鳥取信和教会。第一期工事を終え、今年会堂の新築が予定されている。現任牧師は柳沢菊代先生。

説教

ウジ虫と激しく襲う者

広沢和人

何という頽廃！町にも村にも頽廃現象が充満している。キラツと光る意味の閃光がないのだ。新聞、週刊紙、月刊雑誌、テレビ、何を見てもぼくの感じるのは「頽廃」だ。無関心と焦燥。ぼくには何かウジ虫がうごめくような感じが伝わって来る。実にイヤだ。俺自身の生は、このような頽廃とは訣別してしまっているのである。俺自身の生は独自の意味の中を歩んでいるのである。だからこそイヤなのだ。これは、日本という国がだいぶ重症なのだワイと思う。おもわざるをえない。金という価値の大名行列とすべて人間的な諸価値の色あせた土下座、そこから発する何ともいえぬけだるい空気。もうほとんど人間は仮死状態に陥っているのではないかとおもう。

救いようのないような無意味さなんだ。これはきっとどこか手のこんだ罠があつて、現実を見せなく、巨大な目隠しがほどこされているにちがいない。

これはぼくの友人からの便り。真実を語つてくれる友はありがたい。だが、ぼくは、真実を語ろうとしない。何故なのか。自分がいい子になりたいのか。あの人を傷つけたくない。教会の徳をたてない。いくらでも弁解できよう。しかし、つまるところボクは……したくない。かゝわりあいになるのを恐れているのだ。誰と。

ハムレツト曰く、「太陽は神だ。太陽が死体にあたるとウジがわく。なるべく太陽をさけて家を出るな」と。

イエス曰く、「あなたがたは、何を見に荒野に出て来たのか。風に揺らぐ葦であるか。では、何を見に出てきたのか。柔らかい着物をまとつた人か。柔らかい着物をまとつた人々なら、王の家にいる。では、なんのために出てきたのか。予言者を見るためか。そうだあなたたに言うが、予言者以上の者である。バプテスマのヨハネの時から今に至るまで、天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取つている」。

イエスの責めをぼくは、あなたはどう受けとめるのか。それが問題だ。

（倉敷教会担任教師）

連帯性の理解

永田善治

私達の教会は、会員数も少なく淋しい思いをし勝ちです。困難に失望することもあります。

けれども、教会は決して孤立して存在するのではなく、諸教会との関連の中にあります。もとより、キリストの名に於て、時間と地域を超えた聖徒の交りを持つています。

ただ外にあらわれた面について云うと、先ず教職です。伝道師、牧師は教団立或は認可の神学校を卒え、又独学でも試験に合格して、その職に任じられます。それには教区の推薦も要請されますし、教職の在る所、教団とのかゝわりがあると云わねばなりません。

次に、いわゆる十億献金です。昭和四十年度は四、一二五万円の収入を期待して居ります。支出予定の内、伝道費に繰り入れるものが、二、二九〇万円、あとは神学大学、謝恩金、教職退職年金の立替金等に一、四三一万円、基金繰入れが四〇四万円となつて居ります。

教団の伝道費は、右の繰入金にペンテコステ総員献金その他を加えて、三、九四〇万円とし、これを開拓伝道、小教会強化、巡回伝道、集中伝道、講師派遣、教区伝道、青年、婦人伝道、其他の諸費用に充当します。これらは、教区並に各教会の伝道に還元されるものであります。教区負担金は、約半額を伝道費として用います。教団負担金は、教団の運営、経常費に用いられます。

教会によつては、多くの援助を受けるものもあれば、あまり受けないところもあります。比較的実力のある教会は負担は重く、献金は多いようです。昭和三十九年度に於て教区内には教団負担金、教区負担金、ペンテコステ献金、互助伝道献金合計約十三万円十億献金で六万円、合計約二十万を献じている教会が数個あります。特にこれらの教会は、教団教区の援助を受けることは皆無と云つてよいのでありますが、敢えて重きを負うて居るのであります。

それは教会の連帯関係の必然でありましょう。但、それは強いものが弱いものを助けるという形に止まつてはならないので、どの教会も、精一杯、力いつぱいの働きをしてお互いに貢献し合い、賜物を頒ち合うのでありたいと思います。

更に、海外からの援助があります。昨夏の米人牧師の来援は特別なことでしたが、わが教団には、関係宣教師二六七名が登録され、伝道に、学校に、社会事業に協力を得ております。これらの方々には母国をはなれ、一切を抛つて異域であるわが国の宣教のために生涯を賭けて居られます。

協力資金については、伝道費に三、五五七万、会堂建築その他に五、〇六六万、合計約八、六〇〇万ものものが年に海外教会から援けられています。その他、学校、社会事業等に援助されるものを合算すると、その額は莫大なものになります。

我々の教会は、この様な支援を与えられ、教団及び世界の諸教会との関連の下にその活動を進めて居るのであります。

この様な教会の実態を認識して、淋しい思いを克服すると共に、進んで奉仕と献財を強化して、ひとり立ちになり外国教会の援助を辞退し、今よりもつと海外の教会の援助ができるまでに成長し得るよう願つています。

（伝道部委員長　鳥取教会牧師）

公告

教区規則第十五条及び第十六条の定めに従い左記の通り教区定期総会を開催いたします。

記

一、一九六五年度　東中国教区定期総会

二、日　時　五月四日（火）午後一時三十分より
五月五日（水）午後五時〇〇分まで

三、会　場　倉敷市旭町六七九ノ一
於倉敷教会

右とりあえずご通知致します。

●規則にもとずいて各教会より代議員の出席をお願い致します。

●議案並に総会開催に関してのくわしいことは後便致します。

一九六五年三月二十五日

日本基督教団東中国教区
総会議長　壺井正夫

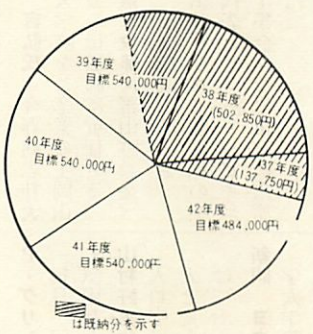
協力しましょう

十億献金（7）

高塚　勝

ご存知のようにたゞ今、私たちの教団は教団基金と伝道資金とを五ケ年計画で募金しています。……いわゆる十億献金と呼称しています。……このため私たちの教区は一昨年臨時総会を開催し、期待されている総額二七四万八千円の献金にこたえることを決議しました。

ところでこの募金はどのような計画で、どの程度進んでいるかは次の図表のようになります。



40年2月末現在

たとえば……一三七一名が現在主日礼拝（朝）につらなっています。△三九年三月末現在教区内五八教会・伝道所において▽

もし、礼拝にのぞむ全会衆の1/3が毎月五〇円このために献げるならばこの計画の半分は遂成されます。

また月額二〇〇円の献金者が一二〇名‼これは全会衆の一割です‼私たちの間に生れるならば残りの半分も遂成されるのです。

以上は…たとえば…のことで、この献金が決して無理なことでないことを考えてみたかったからです。

或る婦人がこの一年間手内職をしてこの献金のために貯えましたと一万円をI牧師のもとに差出されたということを最近おききしました。

私たちの間にはこういう兄姉もおられるのですから、みんなが、このためにさらに協力することが祈り励まれたいものです。

（玉島教会牧師）

また、次のような協力を得ますとこの募金は完遂できます。

委員長プロフィル



加藤俊行

農伝部委員長
米子教会牧師

『くちを開けば農村伝道は困難という、しかしそれを言う前に各教会がもつと伝道意慾を燃やす事の方が先ではないか』と言うのが委員長就任以来の主張、『やる気があるところには大いに助けよう』とここ2年間、農伝が今までになくユニークな働きをしたことは周知のとおり。これみな委員長の意慾の反映であろう。

にこやかな人柄はいかにも牧師の2世らしく温厚そのもの、然し満州の航空隊で終戦を迎え捕虜生活2年、その後職業を転々と変え乍ら日本聖書神学校を卒業、単身北九州市へ赴任したあたりは筋金の入つた根性が感じられる。

『密室の祈りこそ牧会伝道の生命線』と雨の日も雪の日も聖書片手に城山へ登りつづけた。31年米子赴任以来苦禱9年、19名だつた礼拝が60をこえ16万余の会計が75万になつたと言う。はじめは米子教会のためだけだつた祈りが、米子市をこえて全山陰の責任を感じての祈りと働きになつていると言う。

もつとのびて、大きくなり山陰伝道の要となり、活きた農村伝道の典型となつてほしいもの。

二男一女の父、　牧会者として一年先輩である基子夫人の献身的な働きは特記されてよい。

鳥取県下

農村教会を巡回して

斉藤文明

私は三月十一日から一週間鳥取県下の七つの教会を巡回訪問安することが出来、色々な感慨にあふれている。私がそもそも鳥取県に対し、特別の心持ちを抱いている理由は、私が鳥取県の人間であるところにある。鳥取県はやむを得ない自然的条件によるものとは言え、経済的にも文化的にもあまりにも貧しい。従つて主の教会の活動も決して力強いとは言えず、教会はあまりにも貧しすぎる。私は鳥取人として、成程現在は京都に御用をしている伝道者であるけれど、この故郷の教会の進展と確立に責任を感ぜずにはおられない。そしてそのことが我が身の不信不学不徳をも省みず、あえて巡回伝道もさせて頂いた理由でもある。弱く貧しく単立では十分立ち得ない教会が、協力体制を整え、伝道圏を設定して、相互に助けあつてのみ立ち得る道が開かれることは確かであつて、次第にそのような動きが、県下の各地で動きつつあるを知つて本当にうれしく思つた。しかし同時に、鳥取県下からは私などと違つて仲々に有力な伝道者か相当数輩出しているのである。由木康先生は境の出身である。都田先生も確かにそうである。北海道の岸本牧師は用瀬出身である。鎌谷巌先生亦然りである。このような方々の外他にまだまだある筈である。こういつた有力な先生方が一年に三日でも四日でも郷土の福音化のために御用にあたつて下さつたらどんなに有力であろうか。私はどうかそうあつてほしいと祈る。鳥取県の教師会も人物を調べお願いしたらどうであろう。主の御用なれば遠慮する必要はないではないか。実際私のような者でもお役に立つなら、せめて一年に一週間は自分の郷土の伝道のため、よろこんで御用にあたりたいと念願している。十分準備して、郷土出身の有力な先生方にお願いすればおことわりになる理由はないではないか。今回の私の巡回でも、農村地の教会の現状に私の心はうずくのを覚えるのである。積極的に先生方に呼びかけて、鳥取県の伝道が一躍進するようつまらぬ遠慮をかなぐりすてて、やろうではないか。

（京都洛北教会牧師）

信徒会だより

第七回信徒総会

三月廿一日の児島教会の礼拝に十三教会二十名の代議員出席して開会さる三十九年度決算、四十年度予算案承認、新役員（理事）選挙については新年度理事を各教会から推薦して頂く事に決定。児島教会の御世話で昼食を頂いて、続いて協議会に入り教会予算の編成方法について各教会の資料報告を受け高塚先生の御指導の下貴重な話合いに熱を帯びる熱心な討議がなされ今迄にない果実をおぼえた。続いて信徒会の運営方法については各層の代表者を企画から実行に移す迄スタッフに入れて運営することが必要であるとの結論に達す。終りに高塚先生より十億献金の現状報告（三十九年度目標額の約半額）あと一層の理解と協力を御願いするとの発言があり終つて高塚先生の奨励ヨハネ伝二十一章一五—一八をテキストとして我々によき反省と精進する様にとの御奨めを頂きみのり多い集会であつたことを心におぼえながら家路についたのであつた。

（大橋記）

プログラムは次の通りでした。

第七回岡山県信徒総会及協議会次第

一、開会之辞　司会　大橋公夫
一、庶務会計報告　理事長　大橋公夫
一、四十年度予算案審議　桑内理事
一、役員選挙　大橋理事長
一、閉会

◆協議会　自一時　至三時三十分　議長　小川理事
カウンセラー　玉島教会牧師　高塚勝
一、教会予算の編成方法について　発題者　桑内理事
一、信徒会運営について　発題者　大橋理事長
一、其の他
一、祈禱会　自三時三十分　至四時　司会　西原理事

一、昼食　自十二時　至一時　卓主　琴浦教会
一、奨励　玉島教会牧師　高塚勝
一、閉会　児島教会へ感謝の言葉　江口副理事長

個人消息

坂口　吉弘氏　今春同志社大学大学院をご卒業の上岡山教会の伝道師に就任さる。

内藤留幸牧師（蕃山町教会）

瀬崎　正夫氏（玉島教会）
岡山県キリスト者平和の会を代表して、三・一ビキニデー集会（焼津市）に出席した。

更井良夫牧師（博愛会教会）
一月三一日並に二月二一日岡山県青年連合会の要請にこたえ「岡山県におけるキリスト教会の歩み」と題して、岡山教会及び倉敷南教会において講演された。

三月一七日倉敷平和教会の教会全体修養会に講師として来援された。

P・グリシイ宣教師
毎月一回無牧中の三石、和気両教会を応援されている

山村好美牧師（天城教会）
人口喉頭を用いて、通常の人と変らないご活躍をつづけておられる。

新岡　ヨコ氏　今春同志社大学大学院をご卒業の上、倉敷南教会の伝道師として就任さる。

河野　進牧師（富田教会）
インド救ライ事業団での働きを昨秋終えられ、玉島市富田地区の伝道保育事業に専念されている。

徳木きみの教師（新見教会）
なお関節リヨウマチス疾患により岡山博愛会病院に入院中。

柏木和宣牧師（琴浦教会）
一月五日父君柏木隼雄牧師をうしなわれた。

藤井　俊夫氏　今春同志社大学大学院をご卒業の上、鳥取教会伝道師に就任される

稲垣　馨氏　今春関西学院大学大学院をご卒業の上、西伯法勝寺教会主任伝道師として就任される。

溝手　和成氏　今春農村伝道神学校をご卒業の上、父君溝手十七八牧師の設立にかゝる十文字平和教会の主任伝道師として就任され、足守町において開拓伝道に従事される予定。

壺井正夫牧師（岡山教会）
邑久光明園における春季合同慰霊祭（三月二二日キリスト教の礼式による）の司式者として奉仕された。

教会だより

岡山教会

壺井牧師夫妻の誕生日を祝して、教会員有志が北九州に四泊の慰安旅行を計画され、同牧師夫妻は教会員の厚意にこたえて、二月二八日より主として長崎方面の見学旅行をされた。なお、同教会は八五周年を迎えて今春伝道師を招聘される。

高梁教会

今春念願のクロダトーン（電子オルガン）を設置された。

職域伝道委員会

職伝協議会　二月一四日、岡山市龍正堂において、職域伝道委員会主事、戸村政博牧師を迎え、「産業社会にある教会の問題」を主題として行われた。一二教会より一七名の参加であつた。

引続き同牧師により、倉敷南、児島、鳥取、米子教会の問安応援が行われた。

社会委員会

一、予算をとつていて鳥取地区で開く社会問題ゼミナールは西村、長谷川両代議士多忙のために日時未定で、小生往生しています。来年度になつてからでも是非開きます。

二、クリスマス献金を多額に御送金下さいまして感謝し教区内の社会事業施設（保育所七ケ所、母子寮一ケ所養護施設一ケ所）と四教職にお見舞金を送りました。御送金下さいました十九教会（二一、九一〇円）に改めてお礼申し上げます。

鳥取県東部伝道圏伝道協議会

三月二一日（日）午後二時—八時、鳥取教会に於て、鳥取、新生、信和、西部、青谷、八頭、用瀬、智頭の八教会伝道所、三二名の参加者によつて持たれた。その内容は

一、オリエンテーション。永田牧師による各教会の実態、地図による教会所在地の説明等。

二、伝道圏伝道についての意見交換。

三、証言。四、分団（教育、交わり、伝道）。五、食事。六、全体協議会。各分団の報告を中心として話し合われた主な問題は、

教育—教師の養成、連合教師会、教師のいない教会の応援。

伝道—高校生の聖研、文書伝道、家庭集会、キヤラバンの実施。

交わり—復数的教会としての各部活動、合同集会年二回、信徒による証しの交流。七、清水牧師による閉会礼拝。

編集後記

この二年間、一貫した編集方針のもとに発行したが、御期待に添わなかつた点も多々あつたと思われる。お許しを乞う。御意見、御批判を今後は積極的にしていただき、更に充実していくことが望まれる

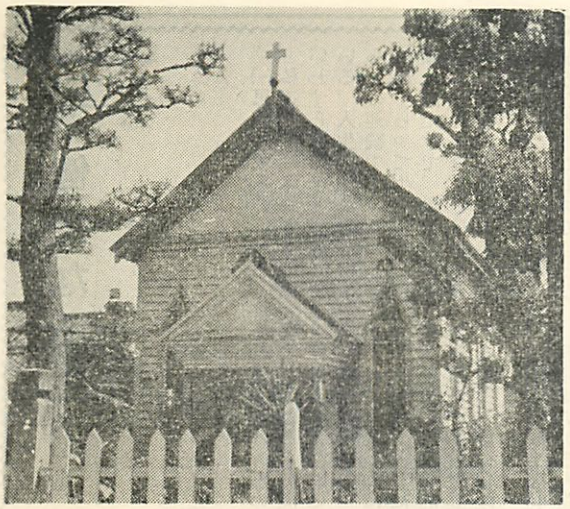
（T）

東中国

教区報

No.27

内務所　教会事務所　102 岡山市下中山教会
発行所　岡山教区東中国教団
発行日　1965年6月20日



天城教会　（写真説明参照）

『知ってはいるが』

―信徒であること・信徒となること―

井殿園

教会の規則には信徒とは、「教会又は伝道所に所属し、その教会名簿に登録された者をいい」「信仰を告白してバプテスマを領した者を陪餐会員という」と記されています。

信徒の中で理由なく三年以上教会に出席せず、献金その他の義務を怠たると会員別帳に移されることになります。

信徒をわざわざ陪餐会員と規定しているのはなぜか？この言葉は実に大切な内容を持っています。ともにあらためて考えてみましょう。

（註）――聖餐式でパンとブドウの汁にあずかることを陪餐といいます――

一般に世間では「同じ釜の飯をくった仲」という言葉がよく用いられます。これは非常に親密で、喜びも悲しみも一緒に味わい、助けられたり助けたりという特別な関係を表しています。義理人情を重んずる私達の間ではかなりの力をもっている言葉です。

ところで、教会員は「同じキリストのからだ、をいただいている仲」なのですから、この仲間意識は世間のそれよりもっと強い筈です。「わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血にあずかることではないか。わたしたちがさくパン、それはキリストのからだにあずかることではないか。パンが一つであるから、わたしたちは多くいても、一つのからだなのである。」（コリント前一の手紙一〇章・一六章・一七章）と陪餐による一体性が告げられ証しせられています。

聖餐にあづかる時、私達は誰しも、ふさわしい備えをするために真剣になります。聖なる神の前に直接立たしめられるのですから罪と汚れにみちた自分を知り、恐れをもちおののきつゝ主の十字架の贖いを示すパンと杯とに手をさしのべ、取って食します。そのとき主は私達を罪もとがもあるまゝに招いて、豊かな恵みにあづからせ、ご自身に結び合せて下さるのですから感激に満ちたよろこびと感謝へ導かれるのです。

しかしここで考えさせられるのは私達が正しい信仰と新しい思いをもって主の前にぬかずく時、自分のことで勢一杯ではないかということです。陪餐にふさわしくない自分を思うとき、主の食卓に近づくべきか去るべきか。己のことのみに懸命で、共に聖餐にあずかる友のあることを考えるゆとりはありません。

ところで、聖餐式の始めにいつも語られる言葉はこうです。「かえりみておのおのの罪を悔い改めなければなりません。このようにして信仰と真実とをもって聖餐にあづかりましょう。」これはきびしい言葉です。自分の罪の悔改め、自分の信仰と真実にすべてを集中します。いわば陪餐における「私」が主要なものになって来ます。

しかしそれに続く言葉を聞き逃してはなりません。「キリストのからだと血とにあづかる時、キリストはわたしたちのうちに親しく臨んでおられます。またこの恵みのしるしは、わたしたちすべてを、主において一つにします。」

陪餐による私のよろこびは、キリストによって神につながれていることによるものであると共に、キリストによって主にある友ともつながれているものです。そこで私のよろこびは私達のよろこびに拡がるのです。この二つの面の一つ丈に止まっているとすればその信仰は狭いと言うことにならないでしょうか。

主が恵みの食卓に私達を招かれる時、人種、性別、年令職業、生活などのあらゆる相違、区別は消滅します。私達は真に一つになるのです。むしろ考えなくてはならないのは、私達の間に残存している対立でしょう。キリストが仲たがいし対立したまゝで献物をする人に先づ行って和解することを求められたことを考え合せて下さい。

聖餐によって生けるキリストと私との交りが確立されると共に、私とあなたとの交りも確立されるのです。陪餐会員とはこういう意味で縦の関係では神に、横の関係では会員相互に結合されている者です。こう考えて来る時に、陪餐会員という言葉の持っている内容の深さ、広さ、重さを知らされるわけです。ここにおいて教会が神の家族であり兄弟姉妹であるということが自分の信仰のあり方や感情に左右されないで、客観性をもってくるのです。キリストによってあの友この友がかけがえのない存在としてかゝわりを持って来るのです。

教会員であることは私にとって大切であると共に、他の会員にとっても大切であり、更にキリストにとって決定的に大切なことゝなっているのです。教会に所属する者としての自覚はあなたの場合いかがでしょうか。責任を負うことはあなたの場合いかがでしょうか。このことは教会内についてのみならず教会間の関係についても真理であると信じています。

教会の籍を永い間残したまま都市の教会や遠隔地に行っている人々が、どこの教会でも何人かはいらっしゃるでしょう。自分を永い間生み育ててくれた母教会との縁を絶ちがたいその美しい気持はよくわかります。遠くにあって母教会をよく支えている人に心うたれることもしばしばです。けれども、キリストに喜ばれる道を歩むにはその住むところの「キリストの教会」に属し現在陪餐会員としての働きがなされる方が更にふさわしいのではないでしょうか。

今春都市へ移っていった人々が何人かはいらっしゃるでしょう。どうなされているでしょう。伝道圏伝道はこれらの面からも考えられ、進められるようにと望むのです。

（高梁教会牧師）

写真説明

天城教会会堂。明治二三年三月に建立。（全教会の創立は明治一七年十一月）当時の金額で八〇〇円を要し四年間の祈りと募金によった。

説教

健全なる生

—マタイ　六・二五、三二—

草刈孝昭

㈠思いわずらい

私達人間はさまざまの思いわずらいの中で生活している。人生は正に思いわずらいの連続です。しかし思いわずらって生きているのは人間だけで、動植物においてはそんなことはありません。彼らはただ本能のおもむくまま自然法則に隷属して生きているが、人間は意志や努力によって自らの住む世界を変革する可能性を持っている。いわば動植物が必然の世界に棲息しているのに対し、人間は必然と偶然の中間の世界に生きている。従って私達が本当に人間らしく生きたいと欲するならば、意志的に生きねばならない。意志的に生きるということは、常に決断と責任を持って生きることです。

㈡危機的状況

私達が意志的に生きようと努力しても、人生は思い通りには行きません。最初の思いに反した、思いがけない結果に終ることもしばしばです。そこに不安や迷いの生れる原因がある。即ち不安は、自分がそうであらねばならぬと信じているもの（本来的自己）と現実にそれであるところのもの（現実的自己）との間のずれと緊張の中で生れるのです。全体的に統一され、健全に送られねばならぬはずの私達の生活は、不安によって亀裂を生じ、意識的欲求と無意識的恐怖を対立させ、人を自己崩壊の危険にさらしている。

㈢信仰における生

信仰はかかる人間の自己崩壊を救い、人の生の内部を再統一するものです。キリスト教信仰によると、人間は自己を神の被造物と理解し、その自覚に従って生活する責任を持った存在であると言う。この世で健全で分裂のない生活は、私達が常に私達より大きなあるものによって保たれ、包まれているという事実を確認することによって営まれる。常に私達と共にある神が、そこにいて、私達の生活が神の前に意味ある場所を占めるということを知り自らが神へ向う存在、即ち他の人と共に、他の人のために生きるべく求められていることを知ることによって、私達の生の一切の脅威は克服されるのです。

（八頭教会伝道師）

教区あちらこちら

岡山県の南端にコブのように突き出た半島がある。この瀬戸内海浴いに細長く、児島玉野の両市が横たわっておりここに児島、琴浦、玉野の三教会がある。初夏の一日、これらの教会を訪問してみた。

児島教会、児島市味野、学生服の主産地、小工場の点在するこの町の山の手、いわば住宅地にこじんまりとした美しい会堂と牧師館が建っている。庭には芝生がよく手入れされているところなどいかにも藤岡友幸牧師を思わせる。

藤岡牧師に教会の近況を尋ねてみたら、近くの聖約教会からよい意味の刺戟を受け一同張り切っており、みんなの中に〝自分が積極的に働らかねば〟という気風が生れてきましたとのこと。

日曜夜の伝道礼拝、毎週どこかの信徒の家庭が開放されてもたれる伝道集会と大いに外向きである。新しい来会者はなかなかなじみ難いものであるが、ここでは、一度でも集会に出席した人には毎週会員のだれかが手紙を出す、ということも行われている。

又あちこちで祈祷会の低調がいわれている今日、毎週木曜日の祈祷会も盛んで、月一回伝道懇談会があわせもたれみんなが心を一つにして伝道のために祈り考えている。この教会の活気も、この辺に源泉があるのではないだろうか

この夏には御殿場で十日間にわたって開かれる「教会生活研修会」に藤岡牧師を送り出すとのこと、ともすれば忘れがちになる牧師の研修のためにも教会が大いに心を用いている様子がうかがえた。

琴浦教会、戦後の開拓教会の中でも特に目ざましい発展を遂げた教会である。初代佐敷重雄牧師をはじめ会員の奮斗がしのばれる。佐敷牧師は数年前、その激務のためおれたが現在、健康も回復し担任教師として柏木和宣牧師を支えておられる。

この教会の特色はなんと云っても組会組織が徹底していることであろう。毎日のように組会集会がもたれている。六月十六日には創立十三年を迎えたが、これを記念して、五つの組会を拠点に一日おきに地域別野外伝道が行われるとのこと。

その組の会員が近くの公園、小学校の入口等で通行人、近所の人に証しをし、牧師が説教をするという。このこころみはなんといっても勇気のいることで、教会の意気がうかがえる。

この教会では、会員同志の結婚が非常に多い。この三、四年に七組が結ばれ、五組が現住だそうである。教会青年会などでクリスチャンホームを作ることの必要性と、その難かしさが云われているがうらやましい限りである。

若い家庭が主にある生活を実践して行く時、それは何よりも強力な証し伝道になる。教区内の青年諸君、大いに見倣って下さい。

玉野教会、児島が繊維工業を中心とした、女子の町とすれば、この玉野は造船重工業の男の町である。区画整理のなされている一角に、新しい会堂を与えられ、坂西卓和牧師を中心に、力にあふれた伝道を展開しているのが玉野教会である。坂西牧師が、開口一番、云われたことは、「今迄集会に百名の線を破れなかったが、五月の総員礼拝には百二十七名の出席があった。礼拝も今年一月には六十名を越え、四、五月は七十名を越えだした。宣教には壁はない。宣教の機会はみち溢れている。」と云うことであった。今年の聖句としてピリピ二章、六節—十一節を与えられ、「教会に来たことによって、社会で尊敬され、よろこばれる者となる」ことをモットーに教会が一弾となって前進している。

（Z）

私たち信徒で完遂へ

十億献金（8）

桑内成郎

十億献金の募金成績が余り良くないようですが、これは全く信徒の責任とも考えます最初集めようと云い出したのは、信徒の有志であったと聞いてますし、教団に必要な金が不足しているから（教区も足りないのですから）出せる者が少数でも良い、とにかく集めようと云うことだったのではないでしょうか。ところが多くの人が参加すべきだという意見や、多人数になれば一人の金額が少くても、多額になるではないかという意見等で現在のようになったのでしょう。だから教区としても両方の方法でやれば良いのではないでしょうか。そのためには信徒会も大いに協力せねばなりません。

また各教会でも十億献金は負担金でもなく、教会の維持献金でもないのですから　教会の一般会計と全く切り離して考える必要がありましょうそのためには別個に集めることが大切で、会計を別にするか、集める人も別にしたらどうでしょうか。

高梁教会では、会計は同一人ですが別会計にしています献金袋の上部に月定献金他、下部に十億献金の欄を作り、（特別の献金袋を作りました）一口五〇円以上として、皆さんに毎月お願いしています。

とにかく、私達信徒で考え祈りの中に完遂しようではありませんか。

（高梁教会員）

—教区総会を終って—

教区総会が五月四日・五日の両日、久方ぶりに倉敷教会を会場にして開催された。

今回は開期中に伝道協議会がもたれ、須磨教会役員大城俊彦氏をゲストスピーカーに迎え、いわゆる事務的総会の汚名返上につとめた。

然し〝一切がスムーズに無益の議論をくりかえさない成人した教区である〟と教団代表森文次郎牧師（教団副議長・安藤記念教会）は批評して下さったが、事実は低調な事務的総会に終始した。このことはきわめて残念なことである。

総会では、教区総会議長に壺井正夫牧師が、副議長に永田善治牧師が、また教区書記に高塚牧師がそれぞれ重選された。

教区常置委員には議長、副議長、書記のほか、田井中純作、長坂竜太郎、内藤留幸、W・エルダーの七牧師および新達治、小川政雄、桑田成郎の三氏が選挙された。

また教区伝道部委員には過去二ケ年の歩みを謙虚に反省検討の末、委員十名のうち八名を議場で、他の二名は選出されたものに委任する方法が採択された。これは四伝道委員会が、さらに綜合的に緊密な連繋を保ち、伝道活動を推進していくことを期待してとられた方法である。

選任された伝道部委員は、永田善治（委員長）、滝口勝（書記）、脇本寿（職域）、井殿園（農村）、内藤留幸（青年）船越澄江（婦人）、田井中純作（各種）、大橋公夫、江口毅、正保文男の以上十氏。

なお教育部委員。長坂竜太郎、柏木和宣　小寺昌良、滝口勝、吉岡ミツエ、山崎尚士松田晃幸、田井中純作、蔵知武。　社会部委員。更井良夫藤野とり、瀬崎正夫、脇本寿藤原正夫。　財務部委員。大橋公夫、新達治、江口毅、桑内成郎、藤岡友幸、高塚勝。

宣教研究委員。田井中純作内藤留幸、中堀仁四郎　永田善治、幡磨醇、小寺昌良の各氏がそれぞれ選任された。

総会においては、教区の教勢および各部委員会活動など

現住陪餐会員

1名～	19名の教会	21
20名～	39名	16
40名～	59名	8
60名～	79名	1
80名～	99名	5
100名～	119名	1
120名～	149名	1
150名～	199名	1
200名～	以上	4

受洗者数（大人のみ）

0	—26教会
1名—	8
2名—	5
3名—	3
4名—	2
7名—	2
8名—	3
10名—	2
11名—	2
15名—	1
17名—	1
21名—	1
23名—	1
26名—	1
平均	3.8名

礼拝出席者（朝）

朝の礼拝のない教会		17
5名～	9名の教会	4
10名～	14名	8
15名～	19名	7
20名～	24名	6
25名～	29名	2
30名～	34名	1
40名～	49名	4
50名～	59名	2
60名～	69名	1
70名～	79名	2
80名～	89名	1
90名～	99名	1
100名～	129名	1
130名	以上	1
平均	24名	

が型通り報告された。参考までにその一部を別表のようにお知らせする。

教区内にある教会、伝道所は現在五八を数えている。しかしその過半数は三九名以下の現住陪餐会員を有する教会である。（六三%が三九名以下。全体の三六%が一九名以下である）↘

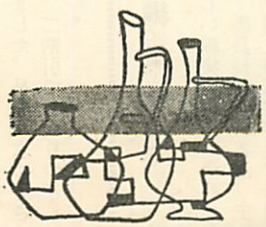
またこの一年間、一名の受洗者も得なかった教会は全体の四四%に及んでいる。

尊い苦斗にみちた一年の歩みを数字のみで評価することは許されないかも知れない。しかし同時に具体的な歩みを知るすべを数字にたよることも許されるのではなかろうか。

素直に現われている事実に目を向け「思いつきの」「口先だけの」伝道でなく、全身全霊を主の栄光のために捧げつくす、教職と信徒でありたい。

単に企てられる計画に「賛成」や「反対」をのみ語るのでなく、なぜ反対するかをきき、どうして賛成なのかを語る真実に「対話する成人した教区」となり、ともに教勢不振の原因をさぐりながら、協調前進することがいま、求められているのではなかろうか

（高塚）



プロフィル



壺井正夫

教区総会議長
岡山教会牧師

「教区の仕事は、単なる事務ではなく、教区といういわば大きな教会の牧会だと考えている。」一全国最古参、五選教区総会議長の信念と根性がひらめく。いまさら紹介でもないが、案外知られていない面も多いようだ。

明治41年京都に生れ、昭和10年同志社神学部卒業後、神戸雲内教会応援、摂津三田教会主任、大阪教会伝道師、倉吉教会4年、京都洛北教会8年を経て、戦後40才にて米国アンドヴァ・ニュートン神学校に留学2年、そしてこの夏岡山教会赴任満14年を迎えられる。昭和32年以来総会議長に重任、ただ一生懸命に信仰と健康と体験を以てやって来たと述懐されるが、教団でも聞こえた事務的敏腕とタフな奉仕に教区はどれだけ負うていることか。しかも教会の教勢は堅実に発展の由、並々ならぬ牧会の労苦に敬服すると共に、教区の奉仕に牧師を送り支えている岡山教会に感謝せねばならぬと思う。牧師夫妻の労をねぎらい、その銀婚式と誕生日を祝って先般九州旅行の有志カヘバがなされたこともほほえましい。ひたむきな仕事熱心と几帳面さの反面、狂言や物真似などの隠し芸ありとは知る人ぞ知る

雅子夫人は常に動ぜず、黙々と内助の功に励まれること周知の通り。終りに議長としての所信と願いを…①一つ一つの教会が真剣に聖言に取組むきびしい姿勢の確立②援助金交付だけでなく本当の意味での小教会の強化③教区の宣教面に於ける総合的な企画と推進。

信徒会だより

五月二三日岡山県信徒会の理事会が禁酒会館で開催されました。

大橋公夫理事長は六ケ年に亘り忠実にその職責を全うされてきましたが新理事長の出馬を強く要請、同氏は辞意を固執されたので今後顧問としてご活躍ねがうことを懇望の上、同理事長の辞任をみとめました。

新しい理事長は現在選任過程にあります。

信徒大会の企画運営については、教区内各団体と協議の上さらに壺井正夫教区総会議長及び田井中純作牧師を助信者として立案することになりました。

新しい理事として次の諸氏が活躍します。

原野清男（琴浦）、伊丹千代志（玉野）、河野通男（倉敷平和）、諸岡　茂（倉敷南）三上長一（玉野）、斉藤武彦（倉敷）、山田信男（蕃山町）丹波基八（津山）

以上

教会だより

個人消息

平田　操子氏　今春同志社大学大学院を卒業され、去る四月二七日美作落合教会伝道師に就任された。

小島　勇氏　美作落合教会を辞し、大阪扇町教会の伝道師として、尼崎市に於て開拓伝道に当られる。住所は、尼崎市築地中通三の六〇、福井方。

竹中　みつ氏（倉敷教会）四三年に亘り幼児教育に尽した功労により、藍綬褒章を受けられた。なお六月一九日には倉敷教会、竹中幼稚園、全PTA、同窓会共催で祝賀会が行なわれた。

G・イマイ宣教師（倉敷南教会）　倉敷南教会の裏隣りに宣教師館を新築　四月一五日に移られた。倉敷市福田町北畝三三七、

児島教会（藤岡友幸牧師）六月下旬　電話開通、児島(72)局五七七九番。

各部・委員会報告

教育部　—年内計画の中より—

目標＝教区内個々の教会学校を強化することに協力、援助したい。

▼まず教師陣の育成強化のために、地区別研究会を開催する。六月二十七日（日）鳥取県東部、全夜鳥取県中部。二十八日、鳥取県西部　二十九日、倉敷地区。三十日、児島地区。七月一日、岡山地区。二日、津山地区講師、教団教育委員会主事白川達正氏。主題、教師論

▼従来、教会は大方、子供への伝道を果たしてこなかったうらみがある。各教会教会学校では意欲を燃し、努力を傾けて頂きたく、希望に応じて委員会は、子供のための集会に、指導の出来る委員を派遣したい。又有志教会の伝道キャラヴァンと提携協力したい。エルダ、宣教師の協力により、子供むき映写伝道も可能であるから申込んでほしい。

▼教師見学（視察）。苦戦している教会学校教師が、比較的整っている教会から招かれて、教会学校を中心に教会の礼拝その他に亘って見学する　招く側はなるべく旅費を受け持ち、一同で心をくだいて温かく迎えるのである。（旅費が無理の場合は委員会支給）すでに用瀬教会より信愛教会の見学が実施されたのを手始めに、新見教会→倉敷教会、上井教会→鳥取教会が計画中。次々に申込んでほしい。

▼中学生大会は県別にて、春休みに予定している。

青年伝道委員会

青年伝道委員会は今年二つの目標をもって活動していく　その㈠は、青年、KKSの自主的活動を育てること（既に青年は自主的にやっておりKKSも自主的に計画立案、連絡、実行などしている）であり、その㈡は、大学生伝道を推進していくことである。この二つはなんとかして結実させたいと思っている。

その他年少労働者問題にもとり組むつもりである。

具体的な計画として現在決定している主なものは、

KKS関係

◎夏期修養会八月二日～四日　主題「高校生々活と信仰」　於高梁市松原小学校

青年関係

◎岡山県青年連合協議会　九月二二日～二三日、於岡山信愛教会、主題「歴史を担う教会」

◎鳥取県青年大会、一一月二日～三日、於米子、

尚青年伝道委員長は内藤牧師（大学生担当兼ねる）、KKS担当は坂口伝道師、青年担当は藤岡牧師、鳥取県側担当者は村島牧師である。

婦人伝道委員会

新しい委員会が次の様に組織された。委員長、船越澄江　書記、河田文子、会計、湯村セツ子、委員、柳沢菊代、池田純子、尾熊芳子。

又地区委員として、柳沢菊代（鳥取）、橋本　民（高梁）青木正子（津山）、梶谷佾代（倉敷）、池田純子（玉島）、三宅八千代（児島）、船越澄江、河田文子、湯村セツ子（岡山）が決定した。

六月九日十日の五教区連合委員講習会には二十名のものが出席。主題「わたしも地域の証人」今後の各地区活動に大いに役立つことと思われる

各々が教会で、家庭でじっくりと、真面目に「証し人」として生活し、かったたかって、九月の協議会にその経験をもちよりたいと願っています。

教区レベルの働きが、各教会の中で生かされ、用いられるよう願うものですが、各教会の牧師、婦人会責任者の方々の心からの御協力をお願い致します。

職伝ニュース

或る教区での話であるが、教会員はみんな何らかの職業をもっているから、教会はみな職伝をしていると。

しかしそこでは本当に現代の職業の問題とそこで「働いている人」が問題としてとり扱われているのでしょうか。

前記の教会では現実から抽象された罪人だけが取り扱われていると言ったらいい過ぎでしょうか。

職伝は資本主義機構の中で働いている労働者の問題、特に人権を守る、という共通の場に宣教の接点を見出し、働きかけようとしているのです

職伝は或特別な教会（産業地帯にある）丈が採用する戦略、戦術ではなくすべての教会のあるべき姿であり、教会の体質改善の一つの大きなキイポイントになるのではないでしょうか。

すでに労働者の中にはいって活動しているとかいないとかを云っているのではなく、教会の考え方、姿勢の問題なのです。そういう意味では、教会はみな職伝をしているというようになりたいものです

今年は

㈠ 協議会を玉島—水島—倉敷。児島—琴浦—玉野。岡山。鳥取。倉吉。米子等の地域単位で重ねて行きたい。七月上旬に岡山県側の三地区で、九月は各地区で会合を開きたい。

㈡ 労働福音学校は、一月中（信徒のため）。

㈢ 職伝ゼミナー（教職のため）を二月中に予定。

㈣ 職伝関係のテープ（講演）を備えて希望教会に貸し出します。詳細は追ってお知らせします。



農村伝道委員会

▽全国農村教会青年協議会
日時　七月二七日～三十日
会場　兵庫県北条町段下
主題　関西農村センター「伝道圏伝道とわれら」
講師　秋田県秋南教会　瀬谷重治牧師他
費用　一、三〇〇円

当教区より四名の代表を送ります。自由参加もできます。申込は六月三十日までに委員長井殿まで。

▽このたび中央農村教化研究所から「伝道圏の現地診断」—現地取材と座談会—（定価三〇〇円）が発行されました。是非お求め下さい。二割引でお取りつぎします。

○編○集○後○記○

▼新しい編集委員会が決りました。委員長、永田善治、主筆、中堀仁四郎、委員、藤岡友幸、井殿　園　滝口　勝、高塚　勝。

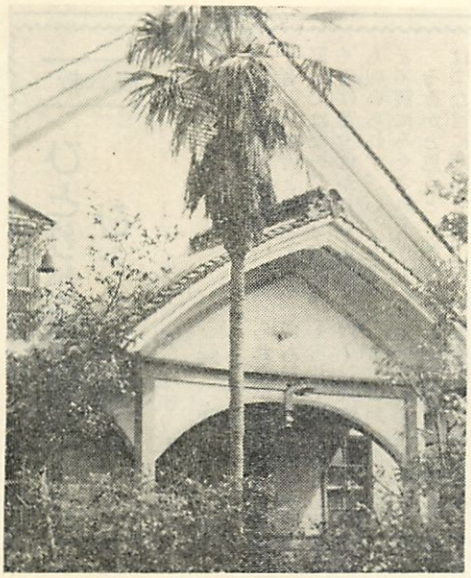
▼東中国が更に充実する様に努力します。御意見、御批判を、大いにして下さい。投稿歓迎します。

▼第一面の—知ってはいるが—に提出されている問題、これを手がかりに、各教会で論じ、掘り下げて下されば幸いです。

（Z）

教区報
東中国
No.28

発行所　岡山市東中山下102岡山教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1965年9月20日



高屋教会（写真説明参照）

主張
〃私たちの訓練〃

「あなたは教会で訓練されていますか？」。もしこう問われたならばあなたはどう答えられますか。答える前に少し考えてみよう。

最近よく訓練が強調されます。そしてしばしば行きすぎて問題が起ります。学校での訓練、会社での新入社員訓練など、あたかも訓練されるとよい人間が生れるように言われる昨今です。

訓練には通常苦痛が伴います。それに打克って一層強い体力、精神力が培われるものです。しかしそれは「しんどい」ことであり、悲愴感を覚えるものです。

教会で信仰生活にもっと激しい訓練が必要だという声を聞きます。正当な叫びだと思います。或る牧師は「もっと教会員を訓練しなくては」と言われます。その場合の訓練とは具体的に何を意味しているでしょうか。聖日礼拝を厳守する、祈祷会に出席する、献金をより多くするということも意味しています。たしかにそれらは重要なことです。この点についてもっとお互いに強くなるよう自覚し努めなければなりませんし、どんなに強調されてもされすぎることはありません。その意味するところは直ちに教会の力の伸びを表すものですし大切なことです。しかし注意しなければならないのは、訓練とはそれらだけを意味しているのかどうかという点です。もし訓練が教勢を伸展させるための手段だけになってしまうならばほんとうに悲しいことです。

いわゆる教会生活に徹底できる熱心と奉仕に時間を用うれば、一応訓練は目指すところへ到達したと思われる危険があります。訓練が教会の自己目的化することになりかねないわけです。

これに反して、ある信徒は「訓練する者としての牧師がもっと訓練されなくては」と言われます。また「牧師がもっときびしく訓練して下さらないから」とも言われます。

牧師によって信徒が訓練されるーこれまでの教会はそうでしたーと同様に牧師も信徒によって訓練される面もあります。すべて牧師は絶えず信徒から教えられ、はげまされています。若い牧師が教会生活の永い立派な信徒によって育てられることも事実です。同時に又、経験豊かな牧師も信徒から多くを学ぶものです。

訓練という概念の中には学校という言葉のもつ意味も含まれていると言われます。教える立場と教えられる立場があるのです。がしかし信仰生活における訓練はどんな場合でも、牧師が常に信徒を訓練するものである。又信徒はいつも訓練されるものであるという形をとり、それぞれの立場が固定化してしまってはならないのです。牧師が「訓練しなくては」と言い、信徒が「訓練して下さらなくては」と言うのは固定化の表れでしょう。

教会において信仰生活の訓練をなすものは徹頭徹尾主キリストなのです。又神の言としての聖書なのです。牧師は神の言を負う者として、最もきびしく訓練されなくてはなりません。主なるキリストに僕として従う者です。そしてキリストにあってその務めの故に特にきびしく信徒を訓練して行かなくてはならないのです。自分の教会の成長のためを超えてキリストのために訓練をする責任を負うているのです。信徒は牧師から訓練を受ける時、それはキリストによって訓練されることであることを覚えることが重要です。

教会の首なるキリストに牧師も信徒も共に訓練される者であり、「神の言の生徒」なのです。キリストに啓示されている神の言に導かれる者たち、その働きの区別はあっても共に同じく「信徒」なのです。キリストの前で信徒は一日たりとも訓練の必要外のところに立つことは許されていません。誰も主の訓練を軽んずることはできないのです。

主の愛は休むことなく、時にきびしく、時にあたたかく私共の上に注がれているのです。

こういうわけで私共の訓練が教会の自己目的化の手段となることや、訓練の立場の固定化などの危険を除かなくてはなりません。

「信徒」が共にキリストによる訓練を受けるところに当然信徒一人一人が相互いに訓練し訓練されるようになって来るのです。私共は更に今やっている以上に、大胆におそれることなく主キリストにあって相互訓練をしつゝ生きる者となるわけです。

信仰の自己訓練も大切です。このことを怠ってどうして互いの訓練が真実のものとなるでしょうか。そして更に大切なことは、各々不完全ではありつゝも、キリストの求めに従って、互いに訓練しながら進み行くことなのです。そこに教会の生命がかかっていると信じます。

それによって教会の交りは一層深くされ、強くされるのです。きびしさの中にも、真実の愛をもって互いに励まし、互いに慰めを分ち合うのです。そして新しく教会の責任を負う者となるのです。訓練される苦痛はキリストに向っての訓練であり、隣人に向う訓練である時よろこびに変るのです。

「あなたは教会で訓練されていますか？」。その答はあなたの場合どうなるでしょうか。

写真説明

高屋教会会堂、一九一三年（大正二年）建立、初代相馬祐次牧師着任三年目。教会学校生徒たちも薪拾いなどして献金した。その後一九五三年（昭和二八年）台風で床上浸水、大修理。

説教

ひとりが播き ひとりが刈る

—ヨハネ伝 四・三五～三八—

播磨 醇

この現実の世界では、播く者と刈る者とは必ずしも同じではない。むしろ、播く者は苦労ばかりして少しも報いられず、いつも不平と不満にみたされる。

そうかと思うと、刈る者は楽な目にばかり会って、いつの間にか、自分の幸運に思い上ってしまう。どちらも一方だけしか見ることが出来ない。

このように、「ひとりが播き、ひとりが刈る」という諺は、本来苦労する者は苦労するだけであるという悲劇的な意味に用いられたものである。

しかし、信仰の目をもって見る時に、種播きは必ず刈入れをともない、刈入れは種播きを予想して、これら二つのものが神によって統一されるのである。

たとえ、自分が刈入れなくとも、真実に苦労して播いた種は、誰かが何処かで刈取ってくれることを信じ苦労しながらも希望をもって播くことが出来る。

また、刈る者も今喜んで刈取っている実は、誰かが苦労して播いたものであることを知って感謝することができるのである。

そう思うと、たとえ報いられない伝道の労苦であっても、その労苦は希望に変えられて行くのである（三六～三八節）。

日本の地方の教会は、折角、そこで生まれた信者や求道者を、いつでも都会の教会に送り出す。そして、自分たちは種播きだけをしていると不平を洩らす。

事実、都会の教会の中には、地方からの転会者で支えられているような教会もないではない。

しかし、公平にもっと大きな目で見る時に、あらゆる教会は、他の播いたものを自分で刈入れ、自分の播いたものを他が刈取っているのである。

いや、活気ある教会であればある程、他の教会との交わりや協力が強いし、教会相互の血の繋がりが深いことは事実である。

その反面、自分の教会さえ……と考える教会個人主義は、そのことによって、自ら教会がその審きを刈取っているのである。

「ひとりが播き、ひとりが刈る」、たゆまないで播こう。いつか、どこかで神が豊かに刈取って下さることを信じ、神の国のために希望をもって。

教区あちらこちら

〃因播伝道圏〃これが今回訪れた教区あちらこちらの地域である。〃因播〃を山陽側の方で、特に若い方でどれくらい正しくお読みいただけるだろう。教区伝道計画によると、鳥取県東部の智頭、用瀬、八頭、鳥取西部、鳥取東部、信和、新生、青谷、鳥取の九教会伝道所がその伝道圏内の教会として連帯して伝道しようとすることが挙げられている。実際には今年一月にその準備会をはじめ、既に発足して八ケ月になる。八ケ月の歩みと今後の課題とを各教会を通してのぞいてみた。

わずかに二日間での教会訪問ゆえに要を得ないところをお許し願いたい。

教会は因美線（鳥取～津山）沿線に三つ、鳥取市内に五つ山陰線に一つと分れている。

× × ×

智頭伝道所…鳥取から汽車で約四〇分の木材の町、智頭町にある。専任の牧者の無い伝道所であるが、今夏は特に夏期伝道師を迎えて青年層に動きの見えることは頼もしい。キャラバン伝道によって一四〇名を集めた努力は尊い。今後の課題を充分考えて欲しいものだ。

用瀬教会…鳥取より約三十五分、人口二千の町の横には千代川が流れ「鮎」の町として有名である。駅から見える対岸には「鮎の町用瀬」の宣伝文字が大きく見えた。

しかし、人の魂は鮎釣りのようにはいかないのが悩みである。二種教会乍ら吉岡ミツエ牧師を迎えて苦闘されている。PL教団、創価学会が強い町とのこと。「町の殆んどの方を知りすぎていて反って伝道しにくい」とは役員のKさんの言葉である。

八頭教会…因美線では一番鳥取に近く、十五分のところ。三つ目の駅に郡家（こうげ）町があるが、教会はその町はずれにある。駅前の商店で教会を聞くと、そこの老主人は「鎌谷先生のところですか」と答えてくれた。鎌谷庄平牧師の三〇年の牧会が地域に深く土着しているのを思わせられた。現在新進の草刈孝昭伝道師を迎えて保育所活動と共に新しい伝道戦線がしかれつつある。

鳥取教会…伝道圏のセンターの役割を占め又市内教会の中心ともなっているのが鳥取教会である。エネルギッシュに活躍される永田善治牧師には「親衛隊」よろしく青年会、高校生会が牧師のよき手足として藤井俊夫伝道師と共に、実によく働いている。

鳥取信和教会…は会堂の増築を昨年終り、続いて隣りに会堂の本建築が祈りのうちに備えられており、柳沢菊代牧師の賜物を生かしたユニークな教会形成がなされつゝある。

鳥取東部伝道所…信和教会との合併が望まれつゝ実現しないで独自の伝道をされている今村源三郎牧師の家庭を中心に拓けつゝある市部周辺の伝道に幻を持っている。

鳥取新生教会…は信和教会に比較的近くにあり、創立明治四二年と云う伝統の味を清水良太郎牧師によって受継がれている。

同じ市内でも

鳥取西部伝道所…は市の西部に拓けた湖山町に保育所を地盤として伝道が進められている。鳥取大学の移転地として脚光を浴びている処であるがここも専任牧者と若い働き人の少いことが大きな悩みである。

鳥取から西へ三五分のところに

青谷教会…ここも以前は保育所を開いていたが現在は伝道一本槍の背水の陣で進みつゝある。特に七月には伝道圏の合同礼拝が青谷で持たれ、京都丸太町教会の青年伝道キャラバンを中心に路傍伝道や特別伝道集会が守られた。又鳥取教会青年のワークキャンプによって教会の内外が一新しつゝある。

× × ×

伝道圏伝道は未だ始まったばかりである。こゝらで色々外から見たままで論じても当を得ないかもしれないが、鳥取教会を除いて平均二三名の現住陪餐、一二名の礼拝出席の教会伝道所の課題は大きいと思う。

一般的に足りないものに「若さ」があると思う。然し幸いなことには鳥取教会にはそれがある。二～三の教会ではその若さをプラスして数千枚のチラシを戸別に配布したとのこと。だから次に挙げられるものは組織の充実ではないだろうか。

教職と信徒各一名よりなっているこの委員会がもっと生かされた時に働きは倍加して行くことだろう。

最後にこの地域の活動に欠くことの出来ない人材、エルダー宣教師の意見を紹介しよう。「自分本位の姿勢を各教会が破らなければ、新しい考えや精神的な弱小教会からの脱皮が望めない」新しい幻としての伝道圏伝道の前途に教区全体の祈りの加えられることを望んでやまない。

（F）

プロフィル



江口毅

岡山県
信徒会理事長

今春大橋公夫氏の後をうけ岡山県信徒会理事長となった。「眼が見えないという肉体的な障害を持った私がこの務めに当ることができるかと、躊躇したが「体が悪いから」とお断りすることは不信仰だと思ってお受けしました。積極的にやって行きたいと思っています」と…。話していると「実直さ、暖さ、安心感」が伝わって来る。江口さんの周りにはそんな雰囲気が満ちている。県立盲学校中等部、高等部主事、県下の盲人教育に当っておられる。主事の職は、縲め役として大変である。「信仰者として聖書に導かれ、難問題に打克って行くことができ感謝です。」と全生活が信仰の上にあるくらしのよろこびを語られる。盲人関係、教会関係と多忙である。学校ではバイブルクラスをしておられるが、いつの間にか問題ある生徒の補導までまかされるようになった。キリストの福音にふさわしく生きようと努める人に自然と集った人々の信頼を示しているようだ。

昭和14年長坂竜太郎牧師に受洗、以来26年戦中戦後を通じ長坂牧師の片腕として岡山信愛教会を盛り立てて来た。教会会計歴も20年である。「責任感強く、兄弟の徳を建て、和解の労をとる、バルナバの様な人」とは長坂牧師の評。

家族は愛子夫人、長女博子さん（二葉幼稚園教諭）、次女晴恵さん。信徒会がこの人を中心に更に活発になることを祈る。

私たちの夏の行事

倉吉教会
僻地保育所ワークキャンプから

（鳥取県東伯郡関金町明高保育所にて）

僻地、それにしてもバスは通っている。くらしとてさして不便ではあるまいに、と思われる生活に、暗いかげがさし、幾重もの厚い壁の中たることを感じさせられた。

貧しさ、無知などが、保育施設をも旧態依然のままにしそこに働らく人々にまで、はや希望を失いかけさせているたとえば、奥地にこそ求められねばならない視聴覚ライブラリーの車は、要請しても来てくれないで、子供たちは幻燈など見たことがないという貧しいがゆえに地元の人々は、経費負担に懸念して、いっさいの改善に気おくれの様子を見せるという。

我々奉仕団にお礼を、ということで、最終日に来られた町長、議員方による保育所用地拡張の即日決定が、ふだんは全くのそっけない不可思議な政治に変わるという、などなど。我々十三名の二日半の奉仕は、人形劇、幻燈、保育の手助け、所内器具のペンキ塗り花壇整備、清掃などのごくささやかなことしかなし得なかったが、その中で先に挙げたような問題点を具さに感じ、ことし始めたこのキャンプを少しでも多くの人々に神のめぐみがあるようにいつまでももち続けなければならないものと、改めて強く思いを致したことだった。

（青年会長　矢田隆壽）

蕃山町教会
教会全体修養会

八月二十一日～二十二日（一泊二日）吉備の青年の家で第十三回教会全体修養会を開きました。毎年夏の修養会は、私たち教会にとっては聖書の研鑽の時であり、祈りの時であり、伝道のエネルギーをたくわえる時であります。今年の主題は「福音にふさわしい生活」（ピリピ一の二七）出席者は約六十名でした。

「福音にふさわしい生活」という主題から受ける感じからいうと、この主題はキリスト者個人に重点をおいているように思えますが、実際にはキリスト者の集いである教会にも焦点をあわせて考えてみました。即ち、福音にふさわしく生きている教会の姿を、具体的に可成り突込んで考えあい、話しあったわけです。

今年の修養会の特徴は主題講演がなく、パネルディスカッションに力を入れたことでしょう。壮年、婦人、青年、学生の四団体から一人づつ代表者が出て、主題についての発題をしてもらい、司会を牧師がしました。各層から夫々特徴のある発題があり、そこで出た問題を分団（四分団、司会は各団体から一人づつ出てもらった。）で討議をしました。全体討議では各分団の報告にもとづいて、更に重要な問題を掘り下げました。

修養会で明確にされた点のいくつかを記してみますと、①福音にふさわしい生活とは礼拝中心の生活であって、教会生活に自分のスケジュールを合わせること。決して自分のスケジュールの余暇に教会生活をすることではない。②福音宣教のために力を合わせて戦う生活こそ福音にふさわしい生活である。ここでは家庭集会の充実ということが具体的に話しあわれたし、教会の求道者会、伝道集会などに反省が加えられた。③文字通り兄弟姉妹の交わりをなす教会世に奉仕する教会であることここでは各団体間の交流を深めることや、遠のいている人や求道者に対する配慮、態度などが話し合われ、又心配事相談所についての意見などが出た。

修養会を通して互の一体感が強められ、信徒一人一人が伝道に励もうとの思いを与えられた。

（内藤留幸）

さらに一段と！

十億献金（9）

去る七月教団の第三回年度協議会が開催されました。そこで「教団財政の自立」をめざし〝協力資金漸減の方針〟が確認され〝教団の財政基本構想〟が明確にされました。

私たちの教団は戦後多大の協力資金を海外の諸教会より受けてきました。これはまことに感謝です。然しいつまでもこの姿勢に安住すべきでなく、できるだけ速やかに海外よりの援助を（十年程度で）漸減し、財政においても自立の方向に進むべきです。

ご承知の通り十億献金の使途は小教会の強化援助　謝恩金制度の拡充　神学校援助などいろいろあげられていますしかしその目標とするところは「教団財政の自立」ということにあります。

教団の財政構造は少数者をのぞいては理解し難い程、複雑はんさなものでしたが　幅奏した予算構成を単純合理化し、通常会計面では総務職制部門と宣教活動部門に二分し献金はすべて宣教活動に用いるべきとの基本的方向が明確化されました。

ところで過去三ケ年の十億献金募金の成果は各教区によりかなりの差があります。概して十五教区のうち小教区はほとんど目標額を達成し、大教区は困難に直面しています。

その理由は教区別目標額が教区負担金査定率に準じたものでなく、大教区に、より多く期待されているためです。そこで明年以後は段階的考慮を払いつゝ修正されることになりました。

私たちの教区は臨時総会を三年前開催してこの献金と本格的に取り組み今日に至りました。いくらかの目標額の増加はありますが「教団財政の自立」のため、いろいろの困難をのりこえて目標達成に努力しましょう。

（高塚　勝）

教会だより

個人消息

片岡健吉氏（倉敷平和教会主任担任教師）八月十日次女誕生、「光」と命名された。

掘磨　醇氏（光明園家族教会牧師）七月下旬～八月上旬にかけ、大島青松園の学生キリスト者第一回ワークキャンプ、並びに、光明園における関学大SCA第六回ワークキャンプの責任者として奉仕された。なお、夏以来、眼病のため約一ケ月間西宮市の自宅で御静養の由。

有田　実氏（鳥取西部伝道所主任担任教師）ウォール病症状により鳥取日赤病院に入院加療中です。

坂口吉弘氏（岡山教会担任教師）来る十月十七日、京都丸太町教会に於て北村和美氏と結婚式を挙行される。

太田静湖氏（太田琢次郎牧師夫人）去る七月「来世の希望」と題する書物を出版された。（一冊一五〇円）、教区事務所で取扱っています

原田季夫氏（虫明伝道所主任担任教師）御病気のため、御静養の由。

徳木きみの氏（新見教会担任教師）かねて博愛会病院に入院中のところ、退院され自宅で引続き療養されている。

村島　宏氏（上井教会主任担任教師）五月二七日、長男誕生、「義成」と命名された

吉田輝子氏（青谷教会主任担任教師）今般山田姓に復された。

智頭伝道所　夏期伝道師として、同志社大学神学部より三浦修氏を迎え充実したプログラムを推進、教勢いちじるしく伸展し伝道への意気大いにあがっている。

青谷教会（山田輝子牧師）教団の伝道計画にもとづく夏期長期応援が八月二十八日～九月二日まで実施され原野駿雄牧師（御影教会）が来援された。（これは応援する教会より、牧師の滞在費、伝道費その他一切を負担しての来援である。）この伝道を通し新しく教会の前進が期待されている。

岡山博愛会（更井良夫牧師）去る八月新保育園舎が落成し、地域社会への積極的な奉仕活動が推進されているなお九月二十二日教区伝道部より田井中牧師が保育園伝道のため派遣された。

笠岡教会（中堀仁四郎牧師）去る三月七日創立八十一年を迎えたが、十月を記念伝道月間として、家庭伝道集会、キリスト教講演会実施を計画。

玉島教会（高塚勝牧師）教会員一老姉より信仰による献げものとして、土地八〇坪が寄贈され、教会墓地がつくられる。

高梁教会（井殿園牧師）「盲人信徒の集い」発足一周年を記念し、江口毅氏を迎えて集会を行う。

富田教会（河野進牧師）教会附属富田保育園の建物を新築工事中。

天城教会　近く会堂の小修理を実施される。

三石教会、和気教会　月一回ポールグリーシィー先生が応援を続けておられる。

岡山教会　大学生伝道キャラヴァン十月三〇日～三一日、高梁、新見、日野の各教会を子供会、伝道集会等をもって応援される。なお十月十日に創立八五周年記念総員礼拝を執行される。

住居標示変更

琴浦教会『児島市下之町八丁目五ノ三一』

鳥取東部伝道所『鳥取市正蓮寺、一一六の一四』

信徒会だより

去る八月十五日岡山信愛教会に於て理事会を開催、十月四日に行われる、牧師夫人慰安行事、と信徒大会について話合われた。

第二十回 岡山県信徒大会予告

日時　一九六五年十一月二十三日午前十時開会

場所　日本基督教団　高梁教会

大会標語　「現代に生きるキリスト者」

礼拝説教者　南大阪教会　上野光隆牧師

プログラム概略

一、開会礼拝（聖餐式執行）

一、講演

一、分科会（青年、婦人、壮年の三部に分れる）

なお全大会準備のための祈祷会が九、十、十一月と岡山津山、倉敷、高梁の四地区に於て夫々三回づつもたれることになっています。

各部・委員会報告

教育部

キリスト教教育週間（九月十九日～二十六日）を迎えて、教区内の各教会学校生徒が互いにペンフレンドになれるようお世話する計画をしている。各教会学校生徒が手紙を書いて委員会（児島市下之町、琴浦教会、柏木和宣委員宛）に送れば学年、性別等考慮の上、それぞれ相手に届く様にします。〆切は十月三日。

社会部

社会奉仕委員講習会

社会部では、さきに、各個教会がその内外に持っている病人　生活困窮者のお世話をよりよく行うために、各教会に於て社会奉仕委員を選出されることを要請していたが、去る七月六日、鳥取県側に於て社会奉仕委員講習会を開催、三十数名の参加者があった。

なお、岡山県側に於ては次の如く、同講習会が開かれる。

日時・十月十日（日）　午后一時半～五時

場所・岡山教会

講師・教区社会部委員長　更井良夫牧師

〃　福祉六法

奉仕活動の手引き〃

各教会、牧師、信徒委員一名以上をお送り下さい。

社会問題ゼミナール

西村関一牧師（衆議院議員）を迎え、近く鳥取に於て開催の予定。

社会事業奨励日について

十二月の第一聖日（五日）は社会事業奨励日です。各教会に於ても、社会事業のために祈り、その日の礼拝献金を、教区社会部委員会にお送り下さい。

婦人伝道委員会

教区別婦人委員会協議会を次の如く開催します。

日時・九月二十三日午前十時～午后四時

主題・「わたしも地域のあかし人」

講師・岩井健作牧師（岩国教会牧師）

青年伝道委員会

教会青年連合協議会を次の如く開催します。

日時・九月二十三日午后六時半～二十三日午后二時半

主題・「歴史を担う教会」

講師・杉原助牧師（岩国東教会）

職域伝道委員会

九月十七日～二十二日にかけ、岩本二郎牧師（姫路和光教会）を迎え、笠岡、児島・琴浦、倉敷南、青谷、倉吉の各教会に於て、「働く者の集い」「職伝協議会」を開催した。

◎編◎集◎後◎記◎

▼前号にひきつづき、第一面の「主張」では教会（牧師も含めての）信徒の問題をとり上げました。各教会で更に話し合って下さい。

▼「東中国」はみんなのものです。各教会、信徒の方の投稿をお待ちしています。

▼「秋は運動会その他教会外の行事が多くて…」と云う声をききます。これが（言い分け）になることのないように全教会心を合せて「みのり豊かな伝道の秋」としましょう

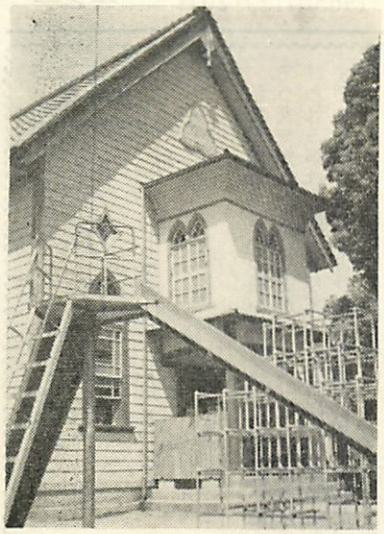
（Z）

教区報

東中国

No.29

発行所　内山教会事務所
岡山教区教団東中国教区
岡山市下中山102
日本基督教団
発行日　1965年12月20日



津山教会

主張

〃前進のために〃

〃初めての試みとして行った文化祭展示会は、ほとんど全部のおとしよりが出品されるという盛況で、予想もしなかったほどの大盛況〃……

これはわが国最初の特別養護老人ホーム「十字の園」での文化の日の一景。

そこでは脳卒中などの後遺症で常時介護を必要とする六五才以上の老人一〇〇名が、ディアコニッセ（キリスト教奉仕女）やその他の方々の献身的な看護をうけている。

十字の園の機関紙は〃文化祭は、各新聞やNHKテレビなどにも取り上げられ、やればできるという自信を与えられた。〃としるしている。

後遺症をもつ不自由なおとしよりを迎えて四年。食べさせてあげ、着せかへてあげることすら容易でないのに、明日の回復を信じて残された機能の回復訓練に激しくいどんでいこうとする老人ホーム。

〃やればできる〃というのは文化祭という全体的な企画のことではない。食べさせてもらい、着せかへてもらうのを当然とし、やってもらはなければ何もできないと思いこんでいた老人達が〃やってみなけりゃわかんないもんだナァー・やればこの私にもできるんだ〃との目覚めを得たことを告げるのである。

脳卒中のあと、うた一つ歌わなくなつた老人が半年に亘る苦斗の末、文化祭への出品物の製作を完成、園の誕生日会で僚友のために美声を披露したとか。

年の終りの「回顧ものシーズン」に入っている。決して右にならへというのではないが、〃やればできる・知ってはいるが・私たちの訓練〃などはこの一年間にのせられた教区報の巻頭言である。

教団の訪問伝道委員会より倉持芳雄牧師、岡田実牧師を迎え先般、岡山、鳥取両県でそれぞれいくつかの集会がもたれた。

当り前のことが当り前のこととして語られているのに、大いに考へさせられ、反省させられたのはナゼだらうか。結局私たちの現実が当り前のようになつていないからであり、うたを失ってしまっているからではないだろうか。

――もっとも集りのたびに大声で〃さんびか〃がうたわれてはいるが――

最近、身辺に教師の移動がおこり「日本のような異教社会では、一ケ所に十年定住してはじめて地域の人々と対等に心を打ちあけて対話できるので…」という声をきいた。確かに日本の精神風土の中にはそのようなものもあるだろう。然し顔見知りになり、夕飯の内容までが近隣につゝぬけになれば伝道は出来るというのであろうか。

もしそうであるならば、教会とは、伝道するとは、どういうことなのであろうか。また主のからだなる教会に連らなっているとはどんなことなのだろうか。

パウロが「人に知られていないようで認められ、悲しんでいるようで、常に喜び、貧しいようでありつゝ、多くの人を富ませ、何も持たないようで、すべての物を持つ」といったあの力は、今日の私どもにはないのであろうか。

「否」主なるキリスト・イエスは、私どもそれぞれにパウロの得たと同じ力を与へたもうているのである。

教師も、信徒も、もっと謙虚に主の前に従順なものとなり、与へられる実力をもつものとして生きなければならない。

キリストに連るすべてのしもべがふさわしく生きてこそ伝道は推進され、前進するのである。教師がその土地に土着すること――もちろん大切なことであり、パウロもユダヤ人にはユダヤ人の如くにと教へている――だけが伝道を成果あらしめるのではない。

教師はキリストのしもべなる羊の群の牧者として「真実に実力」のある羊の養育に専念しなければならない。

信徒は、自分に代って伝道をしてくれる者として牧師に期待をするのでなく、自分の魂への配慮をよせ、祈りを加えている人として牧師への期待と感謝をもつべきである。

期待も感謝もよせられぬ教師は、その不明を素直に反省しなければならない。

私たちがキリストにあって真実に生きるならば、伝道はおのずと前進していくはずである。新らしい年を眼前にして――もっとも教会の一年はアドヴエントからはじまるからこれは年のはじめの決意ということでもあろうが――実力のあるキリスト者とさせたまへと祈ると共に、何を教会のためになしうるか教へたまへと祈るお互いでありたい

更にこの祈りは各個教会で組織的に実りあるものとされねばならない。なぜならば私共は過去一年何もしなかったのでは決してない。多くのことがいろいろと行われ試みられてきたはずである。にも拘わらず……現実は沈滞と銷沈の気配をみせている。

三矢研究とはいうまい。然し、行き当りばったりのロスの多い、おそらく企業体ならばとうに倒産してしまっただろういまの体制は、脱皮しなければならない。

キリストは私のキリストであるとともに、あなたのキリストでいまし、また彼のキリストでもいましたもうのである。わたしたちのキリストの前でわたしたちは共働・協調の交響曲を奏ねばならない。

声高いよろこびのソプラノと、ひくいひくい悲しみのバスがばらばらにうたわれてはならない。ソプラノがバスを、バスがソプラノを、互いにささえ合っていることを理解しあいつゝ、主へのさんびの「まことのうたを」ささげる私たちでありたい。

写真説明

津山教会堂、明治三七年五月二四日献堂。建築費一、六〇〇円、大正時代に増築現在の規模となる。昭和二四年四月より会堂を使用して保育所を開設。

説教

暗から光へ

——ルカ伝　二・八～十二——

稲垣馨

私たちにとって心の通いあう友や知人から言葉をかけられる事は喜びであります。ことに、今日のようにとかく一人一人ばらばらの生き方を強いられるような生活の中では、それはひとつの大きな慰めと云えます。

ところが、クリスマスの夜、天使から喜びとして呼びかけられたはずのあの羊飼達が感じた経験は、喜びでなくむしろ恐れであった「主の栄光が彼らをめぐり照らしたので彼らは非常に恐れた」と云うのです。

処女マリヤが、御使ガブリエルから、その胎に神の子イエスを宿すと語りかけられた時も、マリヤはひどく胸騒ぎし恐れております。

神の呼びかけは本来恐れなのでしょうか。確かに無批判に自分が受け入れられるような、ただ楽しく受け取れ従えるような呼びかけではないと言えます。

それは　私達が日毎に脱ぎたく願っている古い世界と、そこにつける古い私が最後的にあらわにされる時です。しかしこの神の言に自分を裸にされた時、初めて「恐れるな、見よ」と云う言葉がこの上ない慰めとして受け取る事が出来ます。

それは、「恐れるな、古きは総て私が滅した、見よ新しい生命の誕生と共に総てを生かす大きな喜びが今や表わされている。」

私達はこの羊飼と同じように心ひくくされ、見すごしてしまいそうな御子の小さな動きの中に、古きを新しきにする救いの現実を見い出して行くよう呼びかけられています。

あの小さなイエスの生命の中に、私達が自分の力ではどうする事も出来ないでいた滅びの力が打ち負かされているのです。それこそが恐れを取りのぞく喜びなのです。

私達が、イエスの誕生をあかず見つめ、その事実に捕えられている時、パウロと共に、「生きているのはもはや、わたしではない、キリストがわたしのうちに生きておられるのである。」（ガラテヤ二・二〇）と云う新しい自分を見い出し、深い讃美と感謝がこのクリスマスの夜、私達の中に送りこまれようとしています。

神に栄光、地には人々に平和があるように。

山間を縫って、美作国（岡山県北部）の諸教会を訪ねた一市五郡のこの地域中、真庭郡に三、久米郡に一、津山市に三と計七教会伝道所が、宣教の砦となっている。

訪ねた順に紹介して行こう

× × ×

美作落合教会（平田教師）は、目下五名の受洗志願者の準備講座が持たれている。

そして、これら新しい人々の受入態勢確立のため、今年六月赴任の若き牧者のもと「キリストに在る一致」と、伝道に遣わされるという「使徒的役務」を二本の柱として、教会形成に参与する姿勢が困難を克服して培われつゝある。

車で約一五分。**久世教会**（土井教師）は、現教師在任六年。経済的に教会の独立不能という事情もあったが、壁を破るには、町の人になる事だと、久世中学の教諭、教会塾での奉仕等の働きが最近顕著な成果を生んでいる。一万四千のこの町で、教え子の高校生達が加わり、礼拝出席約三〇名。先月は六名の受洗者を与えられている。

高校生の都市流出の問題については、生み、育て、送り出す教会でありたいと、地方教会の苦脳に対して積極的な構えを持たれ、教団教会の連帯という面から教えられる。

農村地帯に於ける伝道の優れたケースとして注目されてしかるべきだろう。二川村、八束村で月一回の定期集会が持たれている。

約一五分の所にある。**勝山教会**は、元町長の高井氏をはじめ、信仰歴の長い信徒に恵まれており、若い求道者も加えられている。

湯原町、新庄村に伝道地があり、土井教師のマイカーが伝道の武器として、兼牧のこの教会、伝道地に、久世教会の伝道地にと精力的に走り廻っている。

約三〇分、久世と津山の中間、「久宗農場前」というバス停留所の側に、**美作伝道所**の主、篤農家、久宗壮氏の邸宅がある。〃農民に福音を〃との願いのもと、農民福音学校も昭和二四年来一〇回を数え、又現在の離農青年の多い困難な状況の中で、月一回、農業の研究を兼ねての聖書研究の集いが持たれている。

津山城西教会（中島牧師）は、祈る教会、暖かい交わりのある教会に成長すること、児童伝道の推進を当面の目標にし、外に向っては、美作地域への働きの第一歩として、現在、苫田郡、勝田郡内で基地としての家庭集会が持たれている。更に、地域に奉仕するために何を為すべきかを祈りの中に模索しておられる。

永倉牧師が、年三回来援され、前回の総員礼拝には、七七名の出席者があったとのこと。

高倉教会は、約一五分、毎週火曜日の礼拝、金曜日の祈祷会に中島牧師、隔月に永倉牧師が来援されている。

シカゴ在住の金谷夫妻の郷土伝道により生れ、夫妻による土地、会堂の提供をはじめ今尚連続的に援助が続けられている。目下高倉町四百戸中百戸に教会との関係を持とう



教区あちらこちら

—津山・美作地区—

同時に父母を伝道の対象としてアプローチがなされている。

あらゆる機会を捕えるが、特に、高校生を中心とした学生伝道の推進が重点的な課題であるとし、このための計画が立案されつゝある。

× × × ×

特筆すべき事は、教区伝道部の発意が、この地区で主体的に受けとめられ、今年度、津山美作地区集中伝道が為されているという事である。

立案された地区年間計画に基いて、教会単位の講師による役員研修会が一回、応援伝道が二回、数回に亘る牧師伝道懇談会等が既に持たれ、地区連合役員研修会、教職講壇交換等が今後実施されようとしている。

初の試みで、全教会の足並は揃わなかったが、とかく孤立し勝ちだったこの地区の教会が、今年、先ず四教会の総意で協力態勢を確立された事は注目に値する。

年と共に、その輪を拡げ、全教会が美作国への伝道を協力して遂行される様に期待したい。

加えて、教区内諸教会の極めて高い関心と協力が、この地域に注がれる必要を痛感せしめられる。

按手礼

——信仰告白——

十一月二十八日(日)午后二時、倉敷教会に於て、壷井教区総会議長の司式により、二名の正教師、一名の補教師の按手礼式、准允式が執り行われた。列席者一同深い感銘と喜びのうちに新な献身の決意を与えられた。受按された教師の前途に神の御導きを祈りつゝ、その信仰告白を携載させて頂く。

按手礼をうけて

片岡健吉

去月二八日(日)倉敷教会で壷井教区長司式のもとに按手礼をうけた感激は私の生涯で忘れ得ぬ出来事です。

陰には教会員の祈りと声援先輩諸師の御教導、兄弟姉妹の支えの数々がありました

「わたしの声にききしたがいなさい。」エレミヤ・7・23のみ声は生涯を通じてのものです。

生まれるとすぐ大病に罹りその度に病弱の身に語りかけたものは死の宣告でした。

それだけに「生」への執着と意味の探求は緊急事でした

一九才の春、坂井権一牧師より受洗し、「み子イエスの血が凡ての罪からあなたを潔む」とは生涯を一変しました

伝染病に罹り、六人が入院した中で村人五人迄が他界し残った私も棺を用意しても無駄でなかったという病態、死の間際で、青年イザヤの対決した事柄「私をおつかわし下さい」もし私の生命が助けられるならば生涯を捧げますと献身という具体的服従の応答の生活を誓いました。

神の前での誓約は時を経るに従って忘却へと流れ去り、世の悦楽を求め続けようとする罪人に誓いを果すように再び神のみ声をきいたのです。

決断、伝道者としての召命の決断は無条件な即時の決断を要し、人間的な欲望は第二義的なものとなって神学校入学迄導かれました。昼働き、夜学ぶ生活は過労で入院、復学、入院をくり返し乍ら卒業に至らせて頂き、卒業と同時に開拓伝道三年十ケ月そして今は倉敷平和教会で三年間の御奉仕をいたしております。

牧会者とは魂をみ言に結びつけることであって、自分自身に結びつけることではないと常に献身者としての課題に反省を加え乍らの生活です。

私の召命が、自らの決断と使命感であるのならば、数々の試練の中で崩れ去っていたでしょう。今後もそうした数々の試練の中で崩れることでしょう。しかし「あなたが私を選んだのでなく、私があなたを選んだ」神の招きはキリストの血による赦された者への感謝と喜びの応答なのです

今召されている教会はキリストの教会であり、その教会でバルナバとサウロの受けた按手を通し、私もまた聖霊をうけ聖なる業を全うさせて頂きたいと祈るものです。

伝道者の妻とし、四児の母としてたゞ従ってまいりました妻公子と今日の喜びを共に分かち合いたいのです。

今倉敷平和教会が新しい希望と喜びをもって神に御栄光を帰す教会として導かれたいと祈っております。

その実現のため教区諸教会の御教導を心よりねがうものであります。

信仰告白

広沢和人



内村鑑三先生は、終生無教会主義で一貫した人です。キリスト教会が多くの流派に別れ、教会間に反目嫉視の絶えないのをみて、先生は純粋に「我ただイエス・キリストと偕にのみ在らん」と決心し、昭和五年、七十才で亡くなるまで、これを貫いたいのですが、この簡明な唯一つの決心から多くの戦いが生じました

私自身が変っていなくて、私自身をいつも変える努力をしないで、伝道、説教などおよそナンセンスです。一体、何を伝えるというのでしょうか。私自身を変えつゝあるキリストこそ伝えねばなりません。生きて働かれるキリストこそ伝えねばなりません。しかし、そのキリストを伝えるためには、私自身が、伝道者自身がいつも変わりつゝある自分を提示し表現する以外に道はありません。

私は教会に雇われて伝道しているのではありません。私の召しは、教会にも、教会員にもありはしません。福音の宣教をするように私を召して下さったのはキリストです。キリストの召しが変らぬ以上私はこの職務を放棄してはならないのです。

しかし、晩年の小塩力牧師が回想されたように、今も昔も神学校入学とか、牧師試験には、伝道者としての特別召命感の有無を問うのがふつうです。教会の責任として、ある意味では、当然だともいえましょう。しかし召命感をただすことが、私の責任感を固定化してしまわぬでしょうか。いずれにしても、私は、召命感を問われることに、潔癖な反発をおぼえます。しかも、正直にいえば、自己内心に、召命事実はないといわざるを得ないのです。牧師になりますなどとは、おこがましく言えた義理ではないのですこの気持が今心中で渦巻いています。

私は、この仕事を選びました。しかし選ぶということがすべてを決定するのではありません。人生に於けるすべての人間関係と同じ様に、私は自分が選んだ人によって苦しまされたり、相手との対立で自分を少しずつ発見していくのと同じだと思います。

わずか三年有余の伝道師としての生活も、先輩諸先生、皆様との交わりに支えられて来ました。だが、とくに敬愛する牧師、田井中純作先生の身にあまる御配慮と励ましを深謝すると同時に、私が垣間見た事実は、伝道者というものゝ胸中は、つねに淋しく孤独なものだということです。

よき伝道者でありたいと純真に考え、真剣に闘うものほど淋しく孤独なのです。何故なら、毎日、命をワサビおろしで、すり減らしてゆくような不惜身命な努力も、多くの方にそのまゝに理解されることは至難のことであるし、多くの人々と交わりながら、自分自身の心はしばしば抜け出して孤独の中をさまよい歩き、伝道者の態度が真実であればあるほど、この運命はさけられぬという事実です。

アブラハムがカルデヤのウルを出発したように、私は出発出来るだろうか、私には何も言うことが出来ません。それは自信などというものが何の役にも立たない世界だからです。行く所を知らずに出発するには、「歩く」ということだけが問題となりましょう

私は自分の責務、負債、それは限りなくありますが、それをとにかく果すだけでも数年かかるでしょう。しかし、私はそれを仕遂げます。自分が憐むべき存在に墜さない道はこれしかありません。この道を歩いて行くより仕方がないのです。そのための時間を惜んではなりますまい。何故なら私の前途に展がるのは永遠の世界なのですから。私は歩きつづけます。どういう空の下にか死ぬ日まで歩きつづけます。今日の日にあたって家族が送ってくれた聖句、マタイ伝十五章三四節～三九節を朗読して終ります。

栗原小児科

栗　原　正

（旭　東）

西大寺市川崎町
TEL2—2362

旭東教会
脇　本　寿
西大寺市川崎町
（電②2369）

旭東教会
家　野　猛　之
西大寺市　浜

岡山信愛教会
岡山県信徒会理事長
江　口　毅
駅前町二丁目五ノ一三
電二二局二〇四〇

愛する兄弟たちよ堅く立って動かされずいつも全力を注いで主のわざに励みなさい

岡山信愛教会
押　野　きくゑ
門田一七二岡山紡績内
電七二局一二一七

彼らのため私自身を聖別いたします

岡山信愛教会
東　原　文　子
山崎四一ノ一
電二三局七四四八

神に育てられて成長していく

☆
を
し
を祈ります
☆

岡山信愛教会
関　幸　子
大供表町一ノ一七三
電二三局一〇三三

神の信任を受けて福音を託された者

岡山信愛教会
山　崎　尚　士
国富二六一番地
電七二局〇一八三

神の恵みをいたずらに受けず

岡山信愛教会
牧師　長　坂　龍　太　郎
電七二局一三四四

あなた方の熱心は多くの人を奮起させたのである

岡山信愛教会
橋　本　佐　三
難波町七四番地

主イエスの恵みがあなた方と共にあるように

習字及珠算教授
楽　山　学　院
岡山市内田春日町66
（信愛）桂華　岡本慶夫
TEL 23—9419

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたがたに求めて求めておられることである。
（テサロニケ第一書 5:17—18）

地には平和　栄光は神に

山県キリスト者
平　和　の　会
に御参加下さい

、二十年　の後に私たちはっなかったということは許さない。基督者は歴史に対しても深い責任を負う者なので

岡山信愛教会
船　越　澄　江
七軒町四番地
電二二局〇三六〇

聖句
キリストの苦難が私たちに満ちあふれているようにまた私たちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれている

（岡山信愛）
永沢歯科医院
永　沢　正　矩
奉還町一丁目10の6
TEL（52）3756

私に従って来る者はやみのうちを歩く事がなく命の光をもつであろう

日本基督教団富田教会牧師
社会福祉法人富田保育園長
河　野　進
電話玉島二—二七六五

岡山博愛会理事長
更　井　良　夫
美　知　子
哲　夫

玉島教会
前　田　栄　一　郎
玉島市乙島玉レブロック社宅Dの一六

倉敷教会（電㉒〇二〇二）
牧師　田　井　中　純

白銀山病院（玉島）
瀬　崎　正　夫
玉島市乙島六〇七三
電②四一四八

玉島教会
池　田　純　子
玉島市矢出町

玉島教会
牧師　高　塚　勝
玉島市西末広町

あなたがたは、わたしの証人となるであろう。

鳥取新生教会
平　田　滋　晴
鳥取市立川一の九四
TEL 五五八四

祝聖誕賀新年
諸兄姉の上に主の祝福祈り上げます。

鳥取新生教会
清　水　良　太　郎
鳥取市吉方町二の四五七
TEL 六〇七〇

ウイリアム・エルダー
鳥取市西町三丁目五一一

みな一つとならんためなり

岡　山　YMCA
理事長　更　井　良　夫
理　事　一　同
岡山YMCA　英語教室
タイプ教室

岡山教会
書籍取次部を
御利用下さい
（聖書 さんびか 信仰書籍 いろいろ）

岡　山　教　会
師牧　壺　井　正　夫
伝道師　阪　口　吉　弘
役　員　一　同
岡山市東中山下102
電㉒8074

（岡山教会）
小　川　政　雄
岡山市網浜七三六

食事・会合に
御利用下さい
禁　酒　会　館
主事　今　田　吉　助（岡山）
岡山市城下
電㉒6297

皆さまの暮しに奉仕する店
（岡　山）
福　屋
FUKUYA CHAIN
中之町店　地品 服洋 婦人 肌着 メード レディ
栄町店　洋品雑貨
奉還町店　洋品寝具
倉敷市店　食料品
（戒町）・西大寺市店（元町）
岡山・TEL
中之町店 ㉔4131
栄町店 ㉔3769
奉還町店 ㊷5101

浮田信衛
西大寺市北乙町

米子教会
新達治
米子市角盤町一の一五〇
電話米子②九〇〇三番

山陰観光地御旅行には
4段式リクライニングシート
冷暖房付長距離用デラツクス
バスを御利用下さい。
沢タク観光米子営業所
米子市角盤町4の90
TEL米子②3131～3133

耳鼻咽喉科 (高梁)
桑田成郎
高梁市松山2050

—婦人服地 洋装の店—
(笠岡)
マルバン
小林房雄
笠岡本町
(08656) (2) 2017

クリスマス
お
新しき年

日野教会
柴田八壽郎
鳥取県日野郡日野町黒坂

尾島眼科医院
尾島英之
高梁市柿木町20番地
TEL 2249

高梁教会
井殿福
準基江園

わらぢ屋釣具店
赤木恭平
高梁市銀治町69
TEL 3057
小鳥と餌、器具も取扱っています

シゲ子
児島市味野錦町
電(七二)五七七九

「信心のために自分を訓練しなさい」
テモテ第一・四・七
倉敷教会
大橋公夫

みなさまに心からの敬意を表します。私は今日まで信仰と牧師職をらぬいてきたことを、つくずくよかったと思います。
天城教会
山村好美
倉敷市天城
電二八—一一八五

中国宇治伝道所一同
高梁市宇治町字治
「とこしえのみことは今ぞ人となりたもう」

メリークリスマス
宣教師
ゴードン・今井愛子
倉敷市福田町北畝
TEL(58)八〇七六

倉敷南教会
尾崎元親
神は独り子を遣わし私達を生きる様にして下さった。
(ヨハネ第一、四の九)

林源十郎
倉敷市本町九九九

倉敷教会
三並弘文
芙蓉子
佳子
真珪

倉敷教会
片山快平
倉敷市老松町

倉敷教会附属
竹中幼稚園
園長 竹中みつ
主任 神崎玉枝
電(22)二八二七

倉敷南教会
峠田頼吉
倉敷市福田町

倉敷南教会
金沢武彦
倉敷市水島春日町

倉敷南教会
林福治
真備町市場

滝口勝
日出子

倉吉教会
松田輝子
倉吉市西倉吉町

(倉吉)
塩見章生
倉吉市福吉町

倉吉教会
山田直義
倉吉市巌城

(倉吉教会)
矢田隆寿
倉吉市巌城

倉敷教会
吉田訓子
倉敷市旭町七五二
私たちはキリストの使者なのである。

コリント第二・五・十七
倉敷教会
河手清子
正夫
正樹
恂子
純子
倉敷市旭町六六一

永田善治
鳥取市西町一の四二五の一
(電三〇四四)

鳥取教会附属
愛信幼稚園
鳥取市西町一丁目二二六

高屋教会 井原教会
小寺昌良
和子
(玉島保健所勤務)
井原市西方町八一八

笠岡教会(光愛児園)
松平光
笠岡市浜田

笠岡教会
笠岡教会
笠岡市笠岡二〇〇〇
TEL②四〇〇一

紙・事務用品・結納のし
(笠岡)
佐藤紙文具店
佐藤仁之
笠岡市本町
電②2433

笠岡教会
中堀仁四郎
美光
和枝
謙世
世

この時を生かすべく

高橋　脩

毎年、私は待降節に入るにあたって、今年こそ生きたクリスマスをと考えるのですが降誕日近くになると、祝会ムードに酔ってずるずると年を越してしまっておりました。

そこで失敗をくり返さないため今一度、私のクリスマスを反省してみたいと思います私は先日子供に「クリスマスて何をする日。」と聞かれ無造作に「キリストの誕生を祝う日。」と答えました。

しかし後で本当かなと考えました。というのは無造作に答えた「祝い」の中に今までの自分が埋没し、救い主をたまわったという祝福された心から出た「祝う」ではなかったからです。

最初にキリストに祝福されたのは王ヘロデはなく羊飼いだったにもかゝわらず、私は実際はその羊飼いの中に自分を見出すことが出来なかったのです。

ですから、結局のところ、私のクリスマスは酒をコーヒーに、流行歌を讃美歌に変えたただけで、マスコミで言われる町々のそれと内容はまったく違わないものでありました。

そのくせ、聖書を読み讃美歌を歌うことによって、自分と同じ病める人々を非傍することしかしなかった自分を、はずかしく思います。

私は二度とこのような失敗をくり返さない為にも、祝福された羊飼いとの自覚を、キリストの誕生と十字架の死に出合うことにより高め、この時にバプテスマを受けられる兄弟を始め、主にあって一つであるすべての兄弟と共に我らの主、イエス・キリストの御降誕の日を神の恵みに答えるべく、まだ御言葉にふれていない兄弟への伝道の力をあたえられ新しき年への決断の時としたいと考えます。

そして何よりも祈りの中にクリスマスを迎えたいと思います。

（鳥取教会　大学生）

クリスマスに思う

田辺史子

〝クリスマス〟という言葉を聞くだけで心がうきうきしてきます。小さい時は、教会で劇をするのが楽しみでしたセリフを忘れて困ったこと、先生の話も聞かないで会堂の中の走り回ったこと、一つのケーキをみんなで分けて食べたこと、すべて楽しい思い出として心に残っています。でも残念なことに牧師先生の話を一つも覚えていませんただクリスマスは神の子キリストの誕生日だということだけ知識として残っているにすぎなかったのです。

中学二年生の時初めてキャロルに参加しました。これは市内連合キャロルで駅前から讃美歌を歌いながら歩くのです。病院の前に立ち止って声をはり上げて歌った時、神の偉大さを感じたのを覚えています。しかし間もなくそんな私の心を何か大きなもので握りつぶされたような気分になってしまいました。

というのは、商店街を通っていると、ケーキの包みをさげて酒に酔ってフラフラしている人、頭に三角帽子をかぶって大声を上げて騒いでいる人たち、とっくみ合いをしている人たち、クリスマスを利用して商売をしている人たちに出合ったからでした。その時の私は小さな憤りを感じました。クリスマスを迎えるごとにこの体験がハッキリと思い出されます。私たちは教会で自分たちだけのクリスマスを楽しく過ごすのではなくて、もっと多くの人々にクリスマスの本当の意味を知ってもらい、神のすばらしい恵みを知らせなければならないと思います。

そしてクリスマスがどんなに貧しい人にも、不幸な人にも喜びとなり、恵みの訪れとなるように。クリスマスの夜を〝聖夜〟の名にふさわしく過したいものです。

（蕃山町教会　高校生）



クリスマスの思い出

柴田八寿郎

お互クリスチャンは誰でも年毎に迎えるクリスマスに際して云い知れない歓びと感謝と希望にみたされます。そのクリスマスが本年も近づきました。

私が経験しました数多いクリスマスの中で二回のクリスマスは深く私の心に印象づけられて忘れることの出来ないものです。

昭和三年のクリスマスです元来私は宗教には関心をもちませず、無論キリスト教とは全然無関係な者でした。ところが病気のため自宅で療養中昭和三年十一月の始め、私の身の上に突然驚くべき大異変が起りました。それは例えようのない不安の苦しみであって、しかも断続的に三日にわたる出来事でした。これは霊なる神様と私の魂との問題で私の魂の眼を開いて私を新生させてやらうとなさる神様の愛と恵みによるものであることを後で知りました。

三日目に其の三回目の不安の苦しみに耐えようとしてあえぎ苦しんでいる時、突如天の一部が裂けて天体があをむけに寝ている私の上に崩れ落ちるのを見た瞬間（後で聖書によって世の終りの光影であることを知りました。）身近に感じている神様に向かって、それは丁度幼児が母の膝に取りすがるように、救いを求めて神様にとびついたまでは覚えております。私はそれなり気を失ったのでした。時がたって意識がだんだん恢復した時、私は歓喜に胸が踊って静かにねていることが出来ないほどでした。天地万物を創造しこれ等を永遠に支配なさる真の神様に触れて霊的に新生した私は精神の革命によって人生観も世界観も一変して、時としては違った世界に居るように思いました。※

日本に来て感じたこと

今井愛子

日本に来ていそがしい日を送っていますが、特にクリスマスが近づいて来ますと一層いそがしくなります。これはカナダにいた時と同じです。特にこの大事な時にこうしていそがしいのは好いことではないと思います。それは信仰的に考えて、心の準備をし神様の送って下さったイエス様を迎えなければならないと思うからです。

カナダと日本のクリスマスには違った点があります。それは主に外見的なものです。第一、水島には雪がふりませんのでクリスマスの感じがしません。若し鳥取か北海道にでも住んでいれば雪が見られるでしょうが……。でも考えてみますと、雪だけの違いではありません雰囲気も違います。日本ではクリスマスは休日ではありません。皆仕事をしています。それは丁度日本でお正月に仕事をしているのを見るのと同じ感じです。皆さんが働いておられるのをみると、クリスマスの感じがしません。それにデパート等ではクリスマスの飾りをかざっていますが、これは商業化され、営利的にされたものであって、宗教的なクリスマスでないことを強く感じさせられます。丁度キリストのいないクリスマスの感じです。

でも教会に入ればクリスマスの精神が感じられます。それはツリーとかローソク等の飾りだけでありません。矢張り信仰者同志の温かいクリスマスの交わりを与えられるからです。日本ではアドヴェントから個人的に心の準備をする事の努力がむつかしいと思います。しかし私は日本に来て、今までに出来なかった静かな家庭でのクリスマスをすごしています。カナダでは家にお客様が大勢で、私はいつも台所で仕事をしていました。

終りに、感じたことは、カナダの教会では、クリスマスに、老人や困っておられる方の家へ、食料品や衣料品を箱に入れて二十四日の夜に配っていました。丁度神様が私たちにイエス様を送って下さったように…日本の教会でもこのような事をとり入れてほしいと思います。

様々の問題のある社会ですが一人でも多くの人が神の祝福をいただくことが出来ますよう祈っています。

（倉敷南教会、宣教師夫人）

訪問伝道講習会に出て

編集係

去る十月、教団の訪問伝道委員会より、岡山県側は倉持芳雄牧師、鳥取県側は岡田実牧師を迎えて各々数ケ所で講習会が持たれた。我々の教区でも琴浦教会などは訪問伝道を行っていたときく、殊更新しいものではない。しかし大いに考えさせられ、啓発された。今こゝにすでに訪問伝道を実施している教会と、新しく意気にもえてこれから試みようとしている教会の信徒に手記を寄せて頂いた。

琴浦教会

波戸一郎

十一月十一日夜児島教会に於て訪問伝道講習会が持たれ児島琴浦両教会から二十名程の使命を感じる信徒が出席した。訪問伝道により無から今の素晴しい大教会を生み出した講師の一言一句は私達の救霊の使命の重大さと、主に従う献身の喜びを一層確かなものとしてくれた。

神は必要な時に、必要な場と機会を備えて下さったことを感謝している。琴浦教会も佐敷牧師の開拓伝道により琴浦の地に打立てられた教会である。

そして琴浦教会の歩んだ道も、三十名に余るボランテヤ、個伝決心者の活発な訪問伝道えのひたむきな活動と主の導きに他ならない。

福音宣教の使命に応えて救霊の聖業に全身全霊を捧げて立上った牧師と信徒の文字通り呼吸のあったチームワークが困難な開拓伝道を驚異的な成果によって飾った。人には出来ないことも神には出来るのである。

而し牧師の病気によってこの聖業は一時中断された。けれども今又教会は若い優秀な後継牧師を与えられたのである。何時迄も怠惰は許さるべきではない。

最近急速に柏木牧師を助け、活潑な伝道を再開すべしとの気運と祈りが高まり、個伝態勢が調えられつゝある。その矢先の訪伝講習会は正に神の導によるものと感謝の他ない。

主は常に私達に先立ち行き給う。私達は遅れてはならない。主の命に応えて、教会の中に福音の証し人が続々とおこされて行くことを希っている。

鳥取西部伝道所

安村君子

イエス様は弟子達の足を洗われました。イエス様が足を洗われたということは私達の罪を許して下さったことなのです。イエス様は何一つ悪いことはしていないのに何の為に十字架にかからなければならなかったのでしょう。私の、私達すべての人間の罪の為です。

私達も教会の中に於てお互の足を洗いあわなければ本当の兄弟姉妹になれません。足を洗うということは愛することです。自分が伝道したいと思う人をまず決めてその人の足を洗いその人の為に日々祈り（祈る時間を決めておくとよい）教会の人達にも祈って頂くと心強いと思います。そして記録をつくることも大切です。

私は真剣に日々しかも忍耐強く人の為に祈ったことはありません。ということは私の信仰が自分だけの信仰であって人の為の信仰でなくなってしまっていたことを思いました。神の御栄えの為の信仰でなかったのです。いつも自分が主になった信仰であることを思い知らされました。

今迄自分のことばかり考えて信仰していました。岡田先生はその盲点をはっきりと云って下さいました。その時はっと思い恥しい気持でいっぱいでした。だから空しい気持になったこともしばしばあったのはすべてのことに於て自分が第一となった考えで信仰していたからだと思いました。先生のお話の後で私も先生や教会員の前で訪問伝道者になることを決意しました。

「神様又ここでこのペンを通して読者の皆様の前であなたの御栄えの為に少しでも役立つことのできる者として働くことをお許し下さい。」

しかし一人の人の為に祈るということはとても忍耐のいることだと思います。

エルダー先生がお父さんの為に七年も祈り続けられてやっと教会に導びかれたことを思うと本当に忍耐強く祈らなければならないことを思いました。

途中で逃げだしたくなるかもしれませんがとにかくやってみたいと思います。すぐ結果はでないと思いますが、一年、二年あるいはそれ以上かゝるかも知れません。でも一人の人の為に、主の為に自分にできる限りのことは尽くさなければならないと思っています。

※その翌月クリスマスの直前の聖日に洗礼を受け、引続いてはじめてのクリスマスを迎えた感激は一生忘れることは出来ません。

今一つの思い出は、昭和二十一年、日野教会の所在地黒坂町で開拓伝道を開始した年のクリスマスを劇場を借りて公開的にやったことです。大人子供を合せて、凡そ四百人程集り場内は殆ど満員でした。

講演後の余興には幸なことに求道者の中に劇作の上手な青年がおりましたので、御降誕にちなんだ劇が青年たちによって演じられました。この催しが営利を目的としない点を理解して無料で劇場を使用させてくれたことは感謝でした。一般の会衆が帰ったあと教会関係者に生姜二ケづつ分配し、会食致しました。今日から考えますとなんのこっちゃと云うような貧弱さでありますが、終戦直後物資が極度に不足していた当時としては貴いものでした。この時のクリスマスはその後の伝道に大きなプラスになっております

（日野教会　役員）

プロフィル



高塚　勝

東中国
教区書記

静岡の焼跡で終戦、商業学校を卒業して銀行マンになった。こゝで神は彼のコースを全く変え伝道者たるべく24年同志社大学へ。当時ホームシックで泣いたと云うのが信じられない程に今では決して弱音を吐かない。

大学会計課でアルバイトをしながら30年神学部を卒業、霊南坂教会の小崎道雄牧師のもとで伝道師、副牧師として4年、34年に玉島教会に迎えられた。翌年にはその手腕を買われ教区書記と会計実務を担当、以来5年余教会にとっても教区にとってもなくてならぬ存在となった。

関西人にない歯切れの良さ、ソツのないところは教区行政に稀少価値、壺井教区長の良き片腕である。事務的に敏腕である反面、非常に苦労人であることは案外知られていない

学生時代、結核療養中の友を三年余にわたって毎週訪ねて励ました。彼に世話になった寮生は少くない。そうした彼を一番よく知り抜いているのが節子夫人であろう。

同志社での6年間をかけてその夫人を得たことを最大の収穫？と云えばお叱りを受けるだろうか。

「思いつきや口先だけの伝道でなく真実に対話する教会を」と云われる言葉は7年の玉島教会でうなずける。35才の油ののったところで飛躍を祈りたい。一粒種の「のぞみ」ちゃちんとは「オイ・コラ」の仲。

「信徒大会を終って」

小川政雄

十一月廿三日高梁教会を会場に、岡山県下各地から汽車バスを連ねて来集すしづめとなって十時二十分礼拝が初められた。正面には墨こん鮮かに「現代に生きる基督者」と主題が掲げられていた。南大坂教会上野牧師の説教は、この主題を強調されて信徒の現代への認識を深められた。

昼食時に地元の御厚意により松山踊りを楽しんだ。

午后は十一の分団に別れてこの主題のもとに活溌な意見が交わされ、あっという間に一時間が過ぎてしまった。一堂に集って各分団からの報告を綜合して、私が特に感じたことを申しあげよう。

主題の性質上思想的観念的論議が多いと思っていたが、信仰の実践と実生活に即した内容であったのは先ず注目してよいことであった。家庭に職域に、各自の地域に、学校に、もっともっと勇気を出したい。例へば、家庭集会をもっと再々とか、知人に積極的に話しかけるとか、文書を利用するとか、求道者をひとりぼっちにしておかない、など熱意溢れる発言が多く聞かれた。次に一般社会は、奉仕の精神に乏しく、幸福を物質の豊かさに求め、科学に最終的に頼る傾向が強いことに対し、敢然として信仰を基盤とする人間形成をめざし、愛と奉仕の生活に重点をおき、人にもそうなって頂く心掛こそ現代のクリスチャンだと強調する。第三に、教会員は、他の教会員との交流をもっと密にし、互に援けあうことが大切である。信徒の力はそれによって倍加する。今までも教会が共同して募金をして社会事業に奉仕し、研修し、小教会や伝道所を援けている。現にこの日の聖歌合唱は数箇の教会の方々がグリーシー先生の指揮で、単独教会では聞かれない立派なものだった。今後更に強化したいものだ。第四に、こうした機会に平素おつきあいの少い方々と親密に語りあい、大勢の牧師先生の指導を頂き、盲人や身体の不自由な方々やインドネシヤの青年とも席を同くしたことは誠に嬉しいことだった。地元の方々は心から楽しげに御接待下さり、朝も帰りも両側に列んでにこにこ顔で挨拶をなさって迎送して頂き、ほんとに心温まる思いでこの一日を過した。

出席総数二八九名昨年より二三十人多く　献金も予定の三万円を越えること数千円、誠に恵まれた大会であった。

この日の話し合いはお持ち帰り頂き（後送）各自の教会でみのらせて頂きたい。

教会だより

個人消息

阿部礼治氏（光明園家族教会名誉教会長）
去る十一月十一日、脳動脈硬化症のため永眠された。享年八十二才。十一月十五日邑久光明園の自治会葬をもって葬儀が執行された。司式、河野進牧師。教区より教区総会議長が弔辞を呈せられた。

播磨　醇氏（光明園家族教会牧師）
眼病その後全快された。感謝。

原田季夫氏（虫明伝道所牧師）
御病気のためなを御静養中

広沢和人氏（倉敷教会副牧師）

片岡健吉氏（倉敷平和教会牧師）
去る十一月二十八日、倉敷教会に於て壺井教区総会議長の司式をもって按手礼を領された。

溝手和成氏（十文字平和教会担任教師）
去る十一月二十八日、倉敷教会に於て、壺井教区総会議長の司式をもって准允を受けられた。

鎌谷よし子氏（鎌谷庄平牧師夫人）
十月十六日、御永眠された。

津山教会（宗宮進牧師）
十二月十九日、岡山市内教会連合聖歌隊と合同でクリスマスコンサートを開催される。

高梁教会（井殿園牧師）
去る十一月二十三日、岡山県信徒会第二十回大会の会場として盛んな大会を持つことが出来たことを感謝しておられる。

総社教会（尾熊芳子牧師）
昨春会堂を献堂されたがなを建築費の不足額を募金中であったが近く完了の由。

十文字平和教会（溝手十七八教師）
同教会の伝道地である足守町に会堂建築を計画、募金中である。吉備郡一円の伝道圏伝道の計画推進が期待されている。

児島・琴浦両教会
児島聖約教会と連合で十二月二十五日、児島市民クリスマスを実施される。

鳥取信和教会（柳沢菊代牧師）
会堂建築第二次計画実施のため募金中。

倉吉教会・上井教会
十二月二十一日、市内アドベント教会、カトリック教会と連合で、市民クリスマスをされる。

玉野教会（阪西直和牧師）
玉野局　四三一〇番

玉島教会、笠岡教会、従来の電話番号の上に局番②局が付けられた。

倉敷西教会
倉敷市石見町三番一号

各部・委員会報告

社会部

今年もクリスマスにあたり教区内の教会関係保育園、母子寮、よう護施設に働いておられる職員約七十名、病気の教職に、わづかであるがおくり物をする。なをこれは十二月五日の社会事業奨励聖日に各教会で献げられ、社会部に送って下さった献金によるものである

職域伝道委員会

来年二月十五日、倉敷教会において、「職域伝道セミナー」を開催する。講師、長坂羊一氏、平田哲氏、各教会よりの教職と信徒の参加を期待している。

讃美歌委員会

去る十一月二十五日～二十六日の両日、小林望氏を迎え鳥取教会、岡山信愛教会で、オルガニスト講習会を開いた。それぞれ十数名の参加者があった。なをこの会のために岡山信愛教会信徒の江口毅氏より五千円の特別献金がささげられたことを感謝いたします。

電話開通

住居標示変更

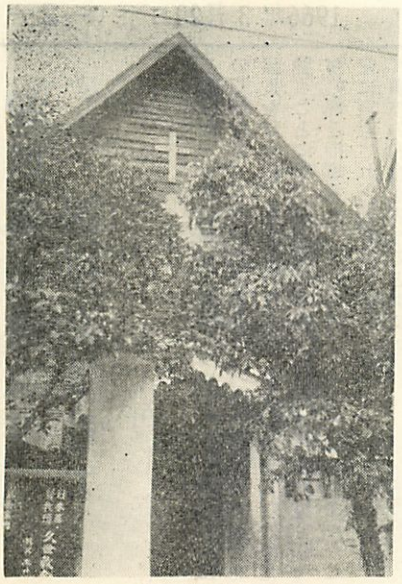
編集後記

▽クリスマス誌上交換参加下さって感謝します。

▽心のちりをはらい、イエス様をお迎えするよきクリスマスでありますように…。

教区報
東中国
No.30

内所　教会山岡102
務　教区事務所
所　岡山市東山下町3番20号
発行人　岡山基督教団中東中国教区
発行日　1966年3月20日


久世教会

「みなさま ありがとう ございました」

壺井正夫

主イエス・キリストへの忠誠の故に「わたしはどんな事でもする」この気持が今の私の心です。

×　×

十五年前、昭和二十六年八月、私は北米のアンドヴァ・ニュートン神学校の留学をおえ、帰国早々岡山教会へ迎えられて、この「岡山」に着任し、全く夢の如く歳月が過ぎました。

昭和二十六年十月、岡山教会の牧師就任式をおえ、次で昭和二十七年三月いまだ東・西に分れていなかった中国教区の定期総会が宮島に於て開催され、その総会に出席したのは昨日のようです。

昭和三十年三月、東中国教区第一回定期総会が津山教会に於て開催され長坂竜太郎先生の議長のもとに副議長に選任され、次で昭和三十二年四月、倉敷教会に於ける教区総会に於て議長に選出されて五期、よくも、そんなに長く、私のようなものを議長として、みなさまが御信任下さったものであると、ほんとに感謝にたえません。去る二月二日教区臨時総会に於て満場起立のうちに祈祷を以て、私の議長の辞任を御承認下さいました。みなさまの御厚意は私の終生忘れることの出来ないものです。

五期、任期なかばにして教団よりの御招聘を受諾しましたことは、教団よりの今回の御招聘が違例のものであり、且つまた過去十五年間の私の岡山教会牧会中に実は再三、教団より御招聘を受け乍らその度毎に御辞退をなしつづけてきたという事実で、今回は教団自体の体質改善のために、その体質が改善されることによって各教区を通し、各地方の教会に血のかよう教団となることが出来る、その一助として、この私が、お役に立つことが出来るならば、とようやく決断が出来たわけです。「先生、東京におかわりになるので、御栄転ですね」と御挨拶下さる方々がありますが、決して栄転とは考えていませんし、私は「僕」として教団に参ります。私は長い間の祈りののち「主よ、私を教団へおつかわし下さい」との応答を以て今回教団の総務主事の仕事についたのです。私は牧師としての召命を受けていますので、私は生涯「牧師」であり度いと念願し、借越ですが、恐れおののきを以て一、六〇〇の教会に牧会者の姿を以て仕え度いと念願しています。どうか私のこの思いを諒として下さい。そして今後も、いろいろと御用を仰せつけ下さい。

×　×

それから、かえりみて、私はよく「おこりましたね。」どうか、みなさまお許し下さい。しかし、それは私が仕事熱心であった結果だと自答し、どうか御理解を願います。それはまことに忙しかった十五年でした。私は岡山教会の牧会を思うて、教区の仕事はいつも夜おそく深更けにの発送のために午前二時頃に郵便局に行ったことは度々でした。また、来訪者が多かった故に、打合せなく御来訪下さいました方々に不機嫌な応待をしましたことをお許し下さい。どうも不徳の致す処で、御勘弁を願います。

しかし私は裸と裸で、ぶつかって、みなさまの教会の御ために、また、みなさまの御ためを考えて議長としての職責をはたしてきたつもりです。岡山教会も現在六〇〇の会員を容し、その牧会は繁忙をきわめました。殊に私の在任中、教会創立七十五周年、八十周年、それから八十五周年と、記念すべき年をすごし、会堂の改築、牧師館の建築、附属館の大修理も、その間に於て行なわれ、その心労のため、随分私の心も荒れたこともあり、教会と教区と両方で、まことにお粗末な振舞をしたこともあります。かえりみて恥かしく、おゆるし下さい。幸いにして四十年度は創立八十五周年の記念の年で合計六十三名の受洗者と転入会者が与えられ、三月六日を以て私は岡山教会の牧師を辞し、新任米倉義一牧師に岡山教会を引きついでいただいて三月十一日に離岡致します。感、無量なるものがあります。私は最後まで聖霊の御助けにより教会に対してもまた教区に対しても牧師としての姿勢をくずすことなく岡山を離れることが出来ますことを幸せと存じます。

×　×

「おばちゃん（家内のこと）を大切にしてね」と教会のみなさまも教区のみなさまも私に言うて下さいます。どおも多忙な十五年間で私は私の家内を優遇せず、家庭をかえりみなかったとのことです。これから心して「おばちゃん」を大切にします。

×

私は教団に参ります。そのわけは繰返して申します。それは地方の各個教会が更に強く、更に大きく、更に発展することを願ってそのお役に立ちたいためです。

みなさまの教会が更に健実に強くなり繁栄しますように。恵みを受けられますように、心より祈念致します。

私たちは旅人です。またお会い致しましょう。みなさまお元気で。

ありがとうございました。

（三月七日記）

写真説明

久世教会は落合教会聖書講義所として久世町に発足　明治三十八年に教会となる。大正十四年十一月五日にこの会堂が建立された。

教区総会議長の選任を受けて

永田善治

この度、壷井牧師が、教団の懇請に応ずるため教区総会議長を辞され、私がその後を襲うことになった。練達の事務処理と指導をもって教区運営に貢献された前議長に対して満腔の謝意を表すると共にこれを継承するのは容易ならぬことと思われる。欠けることのみ多いと思うが、私は私なりの力と考えで事を運ぶより他はないであろう。かって我々が京都に在った時　長く教区書記をつとめられた壷井牧師が辞され、私がその後任になったその際、全師のやって来られた仕事を三つに分け二つのものは夫々に人を立て、書記の本来的な仕事だけを引受けたことを憶い出す。今次もそれに似たようなことになろう。

最近教団では、教区の執行部の強化ということを云っている。それには二つの方向があって、一つは事務陣容の強化、いま一つは伝道幹事を置くというようなことである。いずれも予算を伴うことであって財源も限られている現状では、簡単に実現できないであろうが、せめて事務処理には専任者を置いて役職は教区牧会に、即ち各個教会の実情に即して、常に配慮し、話し合う、と云うようなことに力を致すべきではあるまいかと思っている。

教区運営については、なるべく委員の数と、委員会数を減らし、又片寄らないように、各個教会の牧会伝道に支障のないようにし、同時に全信徒、全教職が夫々の賜物を生かして教区の働きを進めて行くようにしたい。隣国でいう百家争鳴、百花斉放というようなことが行われて、各自の天分特質が教区のエネルギーになるようにと願っている。このことは云うべくして行われ難いことであろうが取組まねばならない一つの課題である。

わが教団は、本年六月二十四日をもって創立二十五周年を迎える。この秋の教団総会は大阪で開かれ、伝道、財政世界宣教の三つの目標を掲げて前進態勢を整えんとしている。教団の現状は必ずしも強力であるとは云えない。最近の年鑑によると、一六一一の教会等の内、八五五が第二種教会及び伝道所であり、礼拝会衆二〇名以下の教会、伝道所が全体の四五%であり、年間受洗者皆無の所が二九%である。当教区のことを云えば五八の教会等の内、第二種教会一九、伝道所一一であり、礼拝会衆二〇名以下の所が六三・八%、年間受洗者皆無の所が四六%。全国平均に比して、又他教区と比べて弱いことを認めねばならない。中には伝道に財政に著しい伸びを示している教会もあるが多くの弱い教会の問題を痛みをもって覚えねばならない。数字が必ずしも教会の実態をあらわし尽すものではないが、大体の様子は知ることができよう。

この実状の上で何にもましてせねばならないことは云うまでもなく伝道である。都市や新興地帯に較べて困窮は強く、青少年は流出する地域の教会を強めるのは簡単な事ではない。けれども我々は官教以外の何物のためにも遣わされたのではない。更に祈り、更に工夫をこらし、更に助け合い、更に努力を重ねて各教会の聊かなりとも前進を見たい。教区はこのことのために最善を尽すものでありたいと願っている。

次は教職の謝儀基準の問題である。生活が保証されればそれで自動的に伝道ができるというものではないが、伝道意欲に燃えた教職が生活のために存分の伝道活動ができないのでは主の前に相済まぬことである。教区では基準の研究は懸案になっており、既に委員も挙げられている。

この研究を更に進めて基準を打出すようにしたい。各教会に於てこれを達するよう努力し、どうしてもできない教会のためには教団教区でなんとか必要経費を調達するよう努めねばならない。四国、東海、の教区ではこれを始めたと聞く、我々にとっても重要な仕事の一つである。

以上は私見である。大方の叱正を乞い、意見を容れて適正な、伸展する教区運営をしたいと願っている次第である。

畏友壷井牧師を送別するに当り

長坂竜太郎

「栄転」

信徒の中には称して彼の教団総務局入りを栄転と言う。教会人にとっては嫌な言葉であり、どこの週報でも意識的に用いない。しかし私が敢て茲に用いたのは、或る意味で本当にそう思うからである。壁にぶつかり、曲り角に来ている教団の幹部諸氏が白羽の矢をたて三顧の礼を尽した事を見て来たからであり、魔の都東京、クレムリン的要素をもつ教団入りをするのであるから彼は迷いにまよったが、結局、自己の安易のために神の栄光を第二にする事が出来なかったのである。神の栄光のため一層キリストの労苦を負う任務へ道を選んだのである。これこそ真の栄転ではなかろうか。

「時間不厳守の人」

彼は時間が守れなかった感心な人である。筆者は時間が守れない人間を体質的にまで嫌悪するが、よく考えてみると、彼の不厳守の奥底からは意欲を示すものであるが、彼はどんな小事にも現在自分にゆだねられている事に魂心の努力を注いで貫徹する事に私はその位でありたいと彼か次の時間を忘れる人である。消えなかった。そして彼は翌夜明けまで彼の部屋は電気が

「彼が口にしなかった事」

人はほめ過ぎない方がいゝと言う事はよく弁えているが彼の在任十五年間、特に総会議長の九年間、終始感心して来た事が今一つある。それは彼が「やめる」とか「やめたい」とか公言したり、つぶやいたりしたのを一度も耳にしたことがないと言う一事である。

信仰の筋金が通っていない者や召命観のない者は一旦引き受けておきながら、自分の都合が悪くなって来たり、自分の思うようにならないと、すぐ「やめたい」と言い勝ちであるが、私の知れる限り、教区総会議長在任九年の長い間一度も耳にした事がなかった。随分腹が立つような事も多かったろう。親身も及ばない世話をしても尚うらみがましい言葉を叩きつけられて悔し涙を呑んだ事も此の私は知っている。しかし、どんな時でも主イエスのために、やめるとは言わなかった彼である。主イエスの故に忍耐し赦せたのである。全国レベルでデビュウした今日、いつまでもそうあって欲しい。

長坂竜太郎

長や書記やファインデイング・コンミティにいつも挙げられる彼は、その日の議案整理のためであろう深夜に帰り、礼拝会衆二〇名以下の所が六三・八%、年間受洗者皆無の所が四六%。全国平均に比して、又他教区と比べて弱いことを認めねばならない。中には伝道に財政に著しい伸びを示している教会もあるが多くの弱い教会の問題を痛みをもって覚えねばならない。数字が必ずしも教会の実態をあらわし尽すものではないが、大体の様子は知ることができよう。

この実状の上で何にもましてせねばならないことは云うまでもなく伝道である。都市や新興地帯に較べて困窮は強く、青少年は流出する地域の教会を強めるのは簡単な事ではない。けれども我々は官教以外の何物のためにも遣わされたのではない。更に祈り、更に工夫をこらし、更に助け合い、更に努力を重ねて各教会の聊かなりとも前進を見たい。教区はこのことのために最善を尽すものでありたいと願っている。

次は教職の謝儀基準の問題である。生活が保証されればそれで自動的に伝道ができるというものではないが、伝道意欲に燃えた教職が生活のために存分の伝道活動ができないのでは主の前に相済まぬことである。教区では基準の研究は懸案になっており、既に委員も挙げられている。

この研究を更に進めて基準を打出すようにしたい。各教会に於てこれを達するよう努力し、どうしてもできない教会のためには教団教区でなんとか必要経費を調達するよう努めねばならない。四国、東海、の教区ではこれを始めたと聞く、我々にとっても重要な仕事の一つである。

以上は私見である。大方の叱正を乞い、意見を容れて適正な、伸展する教区運営をしたいと願っている次第である。

小説教

「信仰の姿勢」

（ルカ　二十二・三—六）

平田操子

信仰の姿勢を考える時、イスカリオテのユダの行動が最も示唆的である。

どんな状況でユダはイエスを裏切ったか。

祭司長や律法学者達は、イエスの殺害計画を進めていたが、民衆の人気のために手出しができず困っていた。その時ユダが現われ、イエスを裏切る事を申出て、歓迎された。彼らはユダに金を支払う事を取決め「ユダはそれを承諾した。」承諾するというギリシャ語エクソモロゲオーは、元来ある人が何かを実行するのを「公言する」の意味である。ユダが金を受取る約束をしてはじめて、裏切りの実行を「公言した」わけである。ユダのこの行為に対しては、幾多の推測がなされるが、マタイによる福音書はその事情を明瞭にするために、金が支払われた「その時から」ユダの裏切りが実行されたと記している。（二六・十六）

ユダの裏切りは、単に感情的に前後を忘れ、怒りに任せてやったというようなものではなく、自己の行為を正当化する手段として、金で換算した上で行っているのである。この点に空恐しい合理性が感じられ、その信仰が知性的合理性を中心にしたものであった事がみられる。このような信仰態度には、知性の本性として、対象に対する「背反」が含まれており、ユダの場合はその現実化した一例である。これは知性の抽象性に依るのであるが、人間は、信仰とは何かを知的に探求する事の中にのみ、喜びを見出す事はできない。「人は前方に向って生き、後方に向って理解する。」という言葉があるが、私達の信仰が根本的姿勢において、前方に向って「走り抜こう」としているそれであるか、或いは判断知性のみに終っているのか、どうか反省して見る必要がある。最近、近代仏教界の巨匠、沢木興道老師の伝記を読んだが、この仏教者の生涯は、「ただ向う向いて行くばかり」であったと記されてあるのを見て、更めて信仰の根本的姿勢について考えさせられた。信仰は勿論、知性や合理性の段階以前の出来事であってはならない。が、しかし、今指摘したように単に知性や合理性に停るものでもない。知性や合理性の誠実な批判、懐疑をも通過した後の深い意味での積極性をもたねばならない。これが真の信仰の姿勢であろう。

美作落合教会

教区あちらこちら

井原教会
高屋教会

世でいう還暦を迎える**高屋教会**（井原市高屋）創立五十周年記念には会堂の大改修、オルガンの新設など具体的な行事も多く、それだけ意気盛んであったがいまは五六名の集り。笠岡につぐ岡山県西部第二の旧家。こゝもひどい流出市。中小紡績に働く者でひときは教会も賑わっていたがいまは景気の変動と、指導者連の帰郷で。…往年高屋の重鎮はと問えば「教会に行っている」と云う位人材を容し、それ丈町への感化も大きかった。

いまはその後継者と年若いもの達とで苗床教会としての使命の達成に労苦している。創立五年目に建てたという会堂は今尚美しく、町民の心のふる里として輝いている。創立以来、不思議とこゝの主日礼拝はヨル。商店主や働き人らへの配慮のゆえという。同じ市内をバスで約十分。**井原教会**（井原市井原）高屋の分身。こちらは創立以来つねに主日礼拝はアサ。平均十五～六名の集りとのこと。こゝも中間層がなく、上下とも層の薄いことが悩みという。激変する社会機構の余波をうけ苦斗する両教会が往年の如く力を合せて井原市全体の伝道へのビジョンを内に描きつゝあることはよろこばしい。黙々と新しい時代の夜あけを待望する小寺牧師の牧会が信じ期待されている。

笠岡教会

中堀仁四郎牧師を迎えて四年。創立記念日を覚え、特別伝道月間を定めての集中的な企画の推進などと仲々意欲的。しかしご多分にもれず、こゝも人口流出市。その上、市内に大小三十余の離島をもち、格別の生産企業もなく、天然記念物のカブトガニではないが、じっとおとなしく世の動きの中で堪えているかの横顔をみせている笠岡の町。

二十年余り前と現住陪餐会員も記録では大差なく、おそらく礼拝なども当時の方が活発ではなかったか？などと少々悲歓的な発言もある。だが創立八十二年を迎えたこの地域屈指の旧家？会堂も仁王堂町と名もいかめしい寺町の一隅に明治二十六年建立の偉風を誇っている。倉づくりの隣家を両翼に容し、教会建築の美しさをかくしていることはまことに残念シゴク。不思議にそれが数回も訪れるとさして気にならなくなってしまうほど古く町に溶けこんでしまっている教会。こんな情況からの脱皮が目下の悲願。継続的な地域別家庭集会の強化とみ言への謙虚な服従を通して溶けこんだ教会から町を揺り動かし、変革する教会へと転換することがのぞみ。「小さくても主が用い給うから」という歩みが近づいてきている。

玉島教会
富田教会

玉島駅を北に十分、亀山の**富田教会**、富田保育園、河野医院とこの地域に欠くことの出来ない精神と肉体の相談役兼看護者が河野進牧師ご夫妻。久しい玉島での牧会を離れ救らい事業にご苦斗数年。いまは保育園の子らに囲まれ、自ら童顔をほこらばせ、天父の声をきき、詩作に託してみ言を伝え、凡て自然が単純なるものの内にこそ真実は保たれることを語っている。聖書の隣人愛を身をもって実践しその生活を通しての新しい教会形成をこゝろみていられることへの期待は大きい。**玉島教会**。河野牧師多年の牧会を引きついで高塚牧師七年。聖書を学ぶことと従うこと、信仰について知ることと信じることは決して同じでない、たゞひたすら信じ、従う教会となるよう励む気迫が高まっている。会堂の内外が美しく保たれ、互いの心くばりが感ぜられる反面、安易に小さい群に満足しがちな欠陥を平和運動の士S兄が揺ぶるなどしてまことに神を愛し隣人を愛する姿勢がととのえられていきつゝあることはよろこばしい。高塚牧師の辞任により新しい時代の展開と一段の前進が更に岡山県西部地区の諸教会のために骨身をけずることが期待されている。

鴨方駅前教会
寄島伝道所

東洋一の天文台で名高い遙照山の入口、山陽線鴨方駅のすぐ近く。洋裁学校を借りての集会。創立以来十一年、黙々と週二回倉敷より尾熊利一牧師が往復。主日の午后集会がもたれ、牧師が兼務のためか、西部地区の諸教会との交流がうすいことはまことに残念。最近、集会所の借用が困難となり「小さくても専用の会堂を!!」との祈りが熱くなっている。その折り、教団の援助金が廃止されるとのニュース。このような状況にある教会への支援が地域内教会の今後の課題。交流のうすい教会を交わりの中に引きこもうとするのでなく、ともに交わっていくことにより地域全体への伝道の使命は果されるというもの。　地域内唯一の、**寄島伝道所**。行政区劃その他一切は玉島管内。ゆえに久しく高塚牧師の兼務だが、最近中堀牧師にバレンタッチ。寄島出身のS兄が神戸で受洗、渡米、戦后一時帰郷のさい「ふる里に教会を」との祈りにより開設。S兄の縁者M姉が三十年も祈られていたことに感激、主の招きに応答して自宅を開放。七～八名の婦人を中心とした集会が地味に絶えずつゞけられている。播かれた種が芽生えるため会員が外向きになることがのぞまれている。

考えて下さい

高塚勝

すでに来年度の予算編成を終了された教会も多いであろう。いささか後手の感なきにしもあらずだが一～二考えてみてほしいことを。

教団全体が苦悩し、各教区で具体的な模策のなされている教職謝儀基準について。

昨年十一月臨時総会を開催して四国教区は次のような謝儀規定を決定しました。

基本給①初任給（准允時）一六〇〇〇円、二五才まで一率、二五才を超える時は一年につき二〇〇円加算。②勤続給（基本給に加算）五〇才迄一年に付七〇〇円、五五才以上一年に付五〇〇円、五五才以上は勤続給停止。③配偶者手当　三〇〇〇円。④扶養家族手当　一人に付二〇〇〇円。（扶養家族とは本人と同一世帯に属し、本人が扶養の責任を負うもの）

住宅　教会にて責任をもつことを原則とする。

教会附属施設およびその他から受ける収入がある場合、その八割相当額を前記金額から差引いた金額を基準額とする。

子女教育手当①大学生　自宅通学二〇〇〇円、寮・下宿四〇〇〇円、②高校生一五〇〇円、③中学生一〇〇〇円。

期末手当　年間基本給相当額の二ケ月以上。

ところで四国教区は「この規定は最低基準的考えから出発し、順次理想的基準線に近づけていくよう努力することとし、各個教会では極力本規定の実行に努め、教会単独にて不可能の場合には、教区全体の力によって実現せしめていくよう努力することを建前とする。」と規定の前文にその精神を明確にしています。

五年前、東中国教区の定期総会に「教職の生活に関する建議案」が提出され、当時教職の生活についての実態調査および各教会の教職の謝儀の実態が調査され、考究された謝儀最低基準が翌年の総会に報告されたことがあります。

或る人が「いまどき謝儀などと称して世の中からみるとけた外れのものを差し出しているから教会は時代おくれになる」とかいっていました。

今更字源でもありませんが謝儀（世話になりし礼）給料（あてがい）俸給（職務に対する給料）などさまざまの呼称があります。

新しい生命に目覚めさせられ、憂いが喜びにかえられ、生きていてよかったといえるような生涯を可能になさしめる教会への連り。生命のみことばの与えられることへのお世話へのお礼。ならば最低基準などとお寒いことは申していられません。

職務に対して、となると？自らが学び、祈り、聴き、訪れ、語り、伝えるという多様な働き、不規則、不明確な労働時間と公私不分離の生活を自らの錦の御旗にして安易な非能率、非生産的な現実が牧師の中にないかと痛切に苦うたれます。

要は受ける者も、呈するものも、もう一度主イエスを仰いで謙虚に現実をかえりみることではないでしょうか。難しい神学論議の牧師会やイエースマンや重役型の教会役員会を脱皮し「キリストの前に裸になって自らをみる」ことが必要ではないでしょうか。

私どもの間に健康な人と病弱の人とがいるように、大きい教会と小さい教会が現実に存在しています。頑丈にみえても弱く、痩せていても強いのが私共と同じようにあります。最近「伝道圏伝道」ということが強調され、各個教会主義でなく、広い地域全体に亘って連帯的な伝道への責任遂行ということが主張されています。

主キリストが我らの主であることからすれば、教会のおかれている全地域へのみことばの伝達は当然のことです。

それと共に、私どもは隣りの教会が窮乏に面していること、神は人をかたよりみないこと、を承知しつゝ同じ神の働き人として選ばれ召されたものの生活権が甚だしい格差の中に置かれている現実に目を閉ざしてはなりません。

格一的な対策の樹立は、ときには安易なあり方をするものを助長するという悪弊もおこり得ます。しかし、それよりも、私ども主に在って兄姉と称し、キリストにある一致を主張し、信じているともがらであることに目を向けましょう。

十億献金は小教会援助強化のために用いられていますから、さらに本腰を入れて協力されなければなりません。と同時に、教区は真剣に互助体制の確立を、各個教会は〝自らのひとりよがり〟を検討しまことに血の通った連帯ある教区、教会にならなければならないでしょう。

予算編成の時期、もう一度各個教会のご予算を、各自の献金と奉仕の質量を検討してみて下さい。



十億献金　毎月五十円を

倉敷教会々員　大橋公夫

十億献金の起りは一九六〇年主として関西の信徒有志の発案になるもので、其主旨は日本宣教第二世紀に際し教団の伝道を一層積極的に推進せしめると云うものでありまして、一九六二年第十二回教団総会に於て伝道資金並教団基金募集案として採択決定されました。此十億献金は第一次募金期間を一九六三年から一九七二年の十ケ年に四億五千万円の目標で募金するものでありまして、二億五千万円を伝道資金に当て二億円を基金とする内容であります。伝道資金の用途は、㈠小教会強化㈡新階層への伝道、㈢青少年補導、㈣海外伝道〇〇基金の用途は、㈠教職謝恩金、㈡神学校教育に使用されるものであります。

教団財政と十億献金の関係。教団の収入源は一九六一年度は海外教会からの協力資金の割合は六一、二%国内資金（十億総員献金、其他）三・八八%であったものが一九六六年度は協力資金三六、九%国内資金六三、一%となり、今後十年間で海外援助金をなくする方針が確定しました。

次に東中国教区の目標は三七年から四二年度迄で二七四万八千円で募金して来ましたが今迄の目標では六大教区の目標の過重が大きいので訂正方の申出が一九六五年七月に受理され全教区の目標訂正がなされ本教区の目標が三二一万三千円に訂正されました。従って之迄より二割増となったのであります。今日迄大部分の教会員の御協力を頂いている事を感謝致しますと全時に一層の御援助を御願い致し度い次第であります。

然し考えて見ますと本教区現住陪餐会員三千余名の半分の会員が毎月五十円二年間献金して頂けば四一年、四二年度で一八〇万円、即ち目標の三二一万三千円が余裕を以って達成出来るのですからやる気になれば出来ない事はない献金です。現に四国教区は教区内礼拝出席者の半数が毎日聖書を読み祈りをなし五円献金を三年間実行して目標の三倍を達成し五ケ年間の目標を達成したのがよい例であります。此運動は信徒有志が提唱し始めたものですので信徒運動として是非共成功さし度いものと願って居りますので、皆様方の御協力を切に御願いする次第であります。

（教区十億献金募金委員長）

信徒会だより

信徒会 本年度の課題

江口毅

岡山県信徒会では来る三月二十一日津山教会に於て第八回総会を開くが、ここで協議されるであろう二～三の点をあげてみたい。㈠信徒会を構成する会員を明確にすること。信徒会と云えば壮年層のみの集りであるかの様な印象が強く、全信徒の会としての意識に欠けているのではなかろうか。会則に不備な点があれば改正し、本会の性格を明確にしたい。㈡、教会相互の交りについて。私たちがキリストのよき証人として教会を守り隣人の伝道に励むと共に更に大きく視野を転じ、百七十万県民の救われる為には個々の教会が互いに交りを深め共通の問題に共に導かれ教えられねばならない。㈢、物心両面にわたり捧げるものでありたい。只自分自身の救われることだけを願うのではなく小教会に対する応援、又県下の宣教活動、或は社会への奉仕の為にも捧げて行ける有志献金制が設けられることを願っている。㈣、壮年層の活動方法について。各教会すでに婦人会、青年会等はよく活躍しているが、壮年会は充分と云えない。この点教区伝道部に於ても研究がなされているが、これと呼応し、各教会の壮年会の充実、相互の交流を通し、育成強化を図りたい。㈤、教職御家族の慰安行事について。㈥、教区の伝道活動全般に更に連繋を密にし本会が独走することのない様にして行きたい。

昨秋の高梁での信徒大会、特にその協議会に於ては、私達の在り方について評価がなされた。その時の記録は各教会に配り、各教会の諸グループで見討して頂く様におねがいをしているが、大いに悔改めて、示された諸点について主のお助けをあおぎ、聖旨のまゝに用いられたいと願っているものです。

（岡山県信徒会理事長）



プロフィル



長坂竜太郎

教区伝道部委員長
常置委員

『この度、三年ぶりに伝道部委員長に返り咲き（狂い咲きかもしれない）変な気持ですが』と先生らしからぬ前置きがあって、「決まったからには生命をかけて、熱情を傾けて事に当りたいと思います」と王将ばかりの力強い決意を披歴される。

「教区の伝道体制の確立には教職と教会員の再教育が先決です。今一つは教会教育に土台をおいた伝道方策が必要です。ただし魂の追求の熱情を重視したい。」と教区と教会教育のベテランらしく適確に問題を指適される

昭和7年関西学院神学部卒、播州赤穂教会、大阪築港教会を歴任、昭和12年日本メソジスト岡山教会（岡山信愛）に赴任現左に至る。岡山在住30年、名実ともに教区の実力者元老。と云っても50代の働き盛り、しかも最近はお若くなられたとの声をしばしば耳にする。福々しい容貌の中に折目の正しい節度と何ものにもたじろがない斗志をひそめている。上州人らしい型にはまらないビジョンを描き決断と実行力のある働きに教区が期待するところは大きい。最近岡山に墓地を求められたと聞く。伝道者の生きざまを身をもって示しておられる思いがする。二葉幼稚園長、岡山県宗教連盟理事長、関西学院評議員等。役職は数え切れないほど、このあたり力量と人望と貫録がそなわった人柄を示す。

高血圧・要注意と医者に云われている体だとか。ご自愛のうえ存分のご活躍を期して止まない。（Y）

こんにちは、エデイットです

シスター・エデイット



景色の美しい岡山に来てからもうそろ／＼三ケ月になります。よくあっちこっち行きますけれども東中国の兄弟姉妹のみなさまにお逢いする事が出来ませんのでこの新聞をかりて「こんにちは」と御あいさつ申し上げます。

私はドイツのルーデル教会から日本基督教団に派遣されたディアコニッセです。「ディアコニッセ」と言うのはギリシャ語で「奉仕女」又は「神さまのはしため」と言う意味です。その奉仕を日本の教会の兄弟姉妹のためにしようと思って今から四年前日本にやってまいりました。はじめ一年位は東京日本語学校で日本語を習いましたけれども最初の任地である埼玉県加須へ行った時はまだ話すことも聞くこともむずかしかったのでとても淋しい思いをいたしました。でもそこの職員や老人ホームの人達の親切な助けでだん／＼言葉にもなれてまいりました。その働いていたところは「愛の泉」と言って子供達と老人達の世話をしている施設でとてもいゝところです。

私はそこで二年半程働きましたが、だん／＼日本での仕事にもなれて来ましたので東京から遠く離れた所へ行ってもいゝと言われ教団の紹介で去年の暮れ「岡山博愛会」にまいりました。ここでは毎日楽しく病院と保育園と教会で働いております。

東中国教区の教会を出来るだけ多く訪ねたいと思って居りますのでその時したしく「教会奉仕」について話しあう事にいたしましょう。

この「教会奉仕」とは新しい仕事ではありません。かえって古くからある仕事です。教会が出来てからすぐ十二使徒はこの「教会奉仕」の仕事が必要と見て御霊と知恵とにみちた評判のよい人七人を選び出してその仕事をまかせました。

むかしの愛ぶかい教会でさえこの奉仕をする人が必要であったのなら現在のように複雑な教会にこそ奉仕をする人が必要なのです。「互に愛し合いなさい」と言う私達の主イエスのいましめに従うなら私達はみなこの「奉仕」についてもっともっと深く考えなければなりません。愛は決して言葉だけでなく愛は実際に行うことです。

ヨハネ伝十三章十四～十五に「主でありまた教師であるわたしがあなた方の足を洗ったからにはあなた方もまた互に足を洗い合うべきである。わたしがあなた方にしたとおりにあなたがたもするようにわたしは手本を示したのだ」とあるように私達の罪のあがないのために十字架にかかって下さった主イエスの愛に応えるものとなりましょう。



伝道部通信

教団伝道一〇ケ年計画の四年目を迎えて（前進期）、一九六五年度は、伝道圏伝道、信徒伝道、家の教会を教区伝道活動の重点施策として推進して参りました。

積極的に推進されたものもあり、不十分で次年度に期待しているものもあります。

一、鳥取県東部地区に在る七教会、二伝道所は「いなば伝道圏」伝道活動推進のため、委員会を組織し、役員部、信徒部、婦人部、青年部、CS部が設けられて協力伝道を実施して参りました。

各個教会主義から脱皮して他の教会を顧み、地域への責任を協同で担う姿勢確立のため堅実な努力が傾注されています。三月には、地区内高校生による用瀬地区へのトラクト配布、地区内講壇交換等が計画されています。

一、前号の「教区あちらこちら」で紹介しましたが、今年度は、美作地区内四教会が協力して集中伝道を実施し、役員研修会、応援伝道牧師伝道懇談協議会等の積重ねをして参りました。

この年の成果を土台として次年度は、更に前進がなされて行く事と思われます。

一、今年度始めて伝道部の企画のもとに、組織化して実施された。信徒伝道週間、信徒立証相互応援は、教会相互の交わりを深め、教会の宣教の業を信徒によって担っていただく事を狙いとして行われたものです。

過半数の三三教会（岡山側二一教会、鳥取側一二教会）が参加され、朝礼拝、夕礼拝、伝道集会、懇談会の奉仕等、各教会に適応した集会が持たれました。

この企画は非常に歓迎されており、見送られた教会にも次年度は加わっていただいて、信徒伝道の実を挙げたいと願っています。

一、信徒伝道の大切なこの時代に、信徒伝道要員の働きは、私共の教区の独自な活動として、教団や、他の教区からも注目されているものです。

過去五年間、活動して参りましたが、卒直に云って、十分な御活用は願えませんでした。理解し、活用していただくための努力も足りなかったと思っています。

現在、陣容を整えて、要員一九名。各教会が諸種の集会を計画され、要員の方々の賜物が広く用いられるよう期待しています。

各教会に備付としてお送りしてあります「伝道委員会ハンドブック」に詳しい要員の紹介表が記載してあります。

一、教団伝道委員会作製の伝道的家庭集会のスライド（南大阪教会の実際）を近日中に送って来ますし、教区でも、この種のスライドを次年度、作製する計画がありますので、十分御利用いただいて、「家の教会」に対する解解と実践を願いたいと望んでいます。

以上、伝道活動のうち、皆さんに理解、協力いただき度いものを記しました。

尚、永田委員長の教区総会議長就任に伴い、長坂牧師が伝道部委員長の任に当られる事になりました。

伝道部の諸活動が、各個教会の教会形成、宣教の業に寄与する事を願っています。

（伝道部書記滝口記）

〃教区組織の移動〃

去る二月二日教区臨時総会が開催され、壺井教区総会議長辞任が承認され、それに伴い教区の組織が次の如く変った。

教区総会議長、永田善治氏（鳥取教会牧師）

教区総会副議長、田井中純作氏（倉敷教会牧師）

常置委員、井殿園氏（高梁教会牧師）

伝道部委員、長坂竜太郎氏（岡山信愛教会牧師）

伝道部委員長、永田善治牧師が教区総会議長に選任されたので、新たに長坂竜太郎牧師が伝道部委員長に選任された。

教区会計、高塚教区会計の辞任藤岡友幸牧師が就任した。

CEC委員会、会堂建築委員会、人事部委員会の委員長に永田善治牧師が選任された。

教区事務所の移転

玉島市阿賀崎四三四ノ一

玉島教会に決定

公告

教区規則十五条及び十六条の定めに従い左記の如く教区定期総会を開催します。

記

一九六六年度教区定期総会

日時＝四月二八日～二九日

会場＝岡山教会・児童会館

詳しくは後便致します。

日本基督教団東中国教区

総会議長　永田善治

予告

〃クリスチャンの集い〃

鳥取県の教会信徒によって持たれて来たクリスチャンの集いも今年で三回目をむかえます。今回のテーマは〃伝道する信徒〃、教会の全階層にわたる信徒の参加を期待しています。

とき　三月二十一日　午前十時～午后三時半

ところ　鳥取教会

会費　一〇〇円、昼食代　一五〇円

〃岡山県中学生大会〃（教育部主催）

とき　三月二十八日～二十九日

ところ　岡山信愛教会

講師　前関西学院高等部長河辺満甕先生

申込は岡山信愛教会へ〆切は三月二十四日

〃岡山県KKS大会〃

とき　三月三十一日　午前十時ヨリ

ところ　岡山教会

主題「信仰の確信を求めて」

会費　一五〇円

申込みは岡山教会内KKS連盟宛、〆切三月二十六日

〃社会部ゼミナール〃

とき　四月二日(土)　午后一時

ところ　岡山教会

主題「最近国際情勢と教会の責任」―ベトナム問題―

衆議院議員　西村関一先生

教会だより

個人消息

壺井正夫氏（教団）

二月三日より教団総務主事に就任され総務局長を補佐されることとなった。三月六日岡山教会新旧両牧師の歓送迎会があり、十一日岡山教会を御出発。新住所は東京都小平市花小金井南町三丁目九一四の教団所有の住宅である。

米倉義一氏（岡山教会牧師）

三月六日壺井牧師の後任として岡山教会へ就任なさった。

高塚　勝氏

三月末を以って玉島教会を辞任され、一年余にわたって海外で研修の予定、なお教区の事務処理と定期総会の責務を完遂ののち離日れる予定。

ポール・グリーシイ氏（宣教師）

三月二十一日、神戸ユニオン教会に於て、天野久世姉との結婚式を挙げられる。

ウイリアム・エルダー氏

今般、教団宣教師在籍のまゝ向う三年間沖縄IBC主事として出向されることになった。出発の日時は未定

稲垣　馨氏

昨年十二月二〇日、男児誕生、「剛」と名づけられた

岡山聖心教会

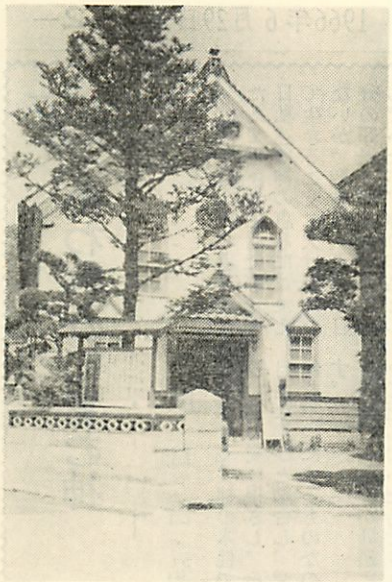
岡山市福島地区に六百坪の土地を購入、一千万円の予算で幼稚園を建設、四月より開園される。園名は岡山聖心教会附属「ひかり幼稚園」。

なお全教会は五月に韓国より金基植牧師を招いて春季総員礼拝を行う予定。

編集後記

▽教区の陣容に大移動があったので、本紙も少々異例の編集を致しました。▽永年の激務についてこられた壺井牧師に重ねて感謝します▽議長を支えて三期に亘って教区書記、教区会計の責務を課し下さった高塚勝牧師へ心からの謝意を呈したいと思います。

教区報
東中国
No.31
発行所　玉島市阿賀崎　玉島教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1966年6月29日



井原教会（1920年建立）

主張

考えてみたいこと
―教会・教区―

皆さんとご一緒にしばらく私たちの東中国教区のことを考えてみたいと存じます。教区総会の様子を一つのきっかけとして問題をさぐって行きます。色々と御意見があると思います。この教区報がその意見の交換の場として用いられ、教区の歩みの前進に役立つことを願っているのです。

× × ×

聞くところによれば、東中国教区の総会―今年度だけではない―は、他教区の総会に比べて「模範的」だと云うことであります。何をさしてそういわれるのか。議事の運営がスムースにゆくこと、しごく静かでめったに荒れたことがない、と云う様な点で模範的といわれているのだとすれば大いに問題があるように思うのです。と云うのはこのスムースさや静かさは、必らずしも教区のまとまりとか協力一致して事に当ると云うことを現わしているとは云えないからです。むしろ沈滞、無責任と云ったことの現われの様にとれることもあります。一つ二つ例をあげてみます。

今年の二月に臨時総会が開催され、「十億献金―正式には教団伝道資金並に教団基金募金―の件」が上程されました。これは十億献金の全国募金状況からして当教区に対する募金予想分担額が当初より二割方上るので、各教会もそれに応じて献金増額をしてほしい、と云う主旨のものであったわけです。大した質疑もなく、三十分位いで大変スムースに原案が承認可決されました。このことは各教会がそれに応じて自主的に献金額を増すことを承認し合ったことであるわけです。ところが、一九六六年度四月の定期教区総会に報告された十億献金の募金状況をみますと、前年度は教会、伝道所、その他で四六口の献金があったのに今年度（六五年度）は三一口、その口数に於て十五口も減少しているのです。（教区内の教会、伝道所数は五八）この中には納入予定が遅れているものも含まれているでしょう。それにしてもこの十億献金については二月に教区総会で重要案件として審議し　その増額が一致承認されたはずなのです。とすればこの減少と臨時総会のスムースな承認ぶりとはどう関係するのでしょうか。「意見なし」「協力もなし」では無関心と云うことにはならないでしょうか。

もう一つ、それは教区伝道計画案の審議の様子にあらわれていることです。教区の伝道計画と云うものは、各個教会にとっても又最大の関心がよせられなくてはならないものだと思います。が今年もそうでしたが、総会での伝道案審議の様子はそう活発だとは云えません。色々と意見は出ますがもう一つ自分たちのものを生み出そうという姿勢に欠けてはいないでしょうか。

ところで教区内で幾つの教会が教区伝道計画案と協調した伝道計画を立て、実施しているか省みるのも価値あることだと思います。勿論、各個の教会は、そのつかわされている処によって、それぞれにふさわしい各自の伝道計画案を立て、実施してゆくべきです。がこれは教区の伝道計画と関係のないもう一つ別の伝道計画ではないはずです。本来教区の伝道計画とは、各個教会の伝道計画、その姿勢が集結、反映して作成され実施されてゆくべきものであります。でないと教区伝道計画は生きたものにはならないでしょう。そしてこのことがなされる場は、常々の互いの協力の上に積重ね立案された教区伝道計画案を、各個教会が自からのものとして、深く論じ合う総会にあるのです。ところが、総会では充分な意見の交換もなされずにすぎ、あとになって「教区伝道計画は具体性がない」と気付いたり、「私の教会は又別のやり方で進む」と云う様では連帯性もなにもあったものではありません。一寸云いすぎたかもしれませんが、こんな風に互いがなっていなければ幸いです

× × ×

今まで、数区総会の様子に関して考えて来ました。が、これはなにも総会の運営がどうこうとだけ云っているのではありません。総会にあらわれている私たちの教区の問題性、お互いのもっている問題性と云うことに目を向け、考えてみたかったのです。

私たちの日本基督教団も今年で二五才を迎えます。この教区も組織上では西中国教区と一緒だった時などありますが、二五才になります。色々な伝統と背景をもった諸教派が戦時と云う特殊な事情のもとで合同教会としての一致に入っていったのです。海外の合同教会の例では数十年乃至百年近くの合同準備期をもっています。それだけに私たちの二五年の歩みの中には困難なこともあり、又今もあるでしょう。「教会観の問題」「教区の教会性」などと云ったむつかしい大切なこともあるでしょう。しかし私たちは神の恵みに支え導かれて二五年共に歩んで来ました。この辺で更に一そう連帯に生きる各々として共に前進したいと思うのです。そのために大いに各個が反省しなければなりません。

そこで教区総会の中で現われているのではないかと思われる問題点ですが、その㈠は私達は自分の教会のことしか考えていなかったのではなかったか。㈡教会間で、又教区に対して主体的に、しかも信頼の姿勢をもち合って来たかまずこの二つの点について各自省みて下さい。もしかするとその結果はスムースな教区総会が出来なくなるかもしれません。でも、スムースに決議され運営されて「消極的」な「無関心」な動きしか生れて来ないより、少々荒れても互いに意見をぶっづけ合っても、互いが主体的に責任をもち合って協力し合う関係が生れる方がよいと思うのです。

模範的教区総会をする教区と云われるより　みんなが大いにものを云い、本気で聴き、正し合い、助け合って行く教区を、教会を目指したいものです。

説教

あわれみに富む神

——エペソ　二・一—一〇——

阪口吉弘

信仰生活は神の恵みにこたえて生きる生活です。今日私達は神の恵みにこたえて生きることに欠けてはいないか。聖書は「人間は自分の罪過と罪とによって死んでいたが、神の作品として生かされている」といっています。ここに神の恵みがあります。

パウロは神の恵みを二つの点から語っている。第一は異邦人もユダヤ人も先には死んでいた者であり、真の生命の源なる神から離れてなされた彼らの生活は「この世の慣しに従い、肉の欲に従って日を過ごしていた」のである。このような生活は神の前に永遠の死に定められた怒りの子の生活である。

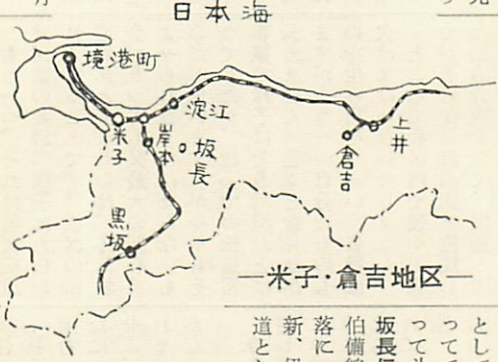
しかし、神は独り子イエスによって審きに耐え得ない人間にたった一つの道を開かれた。神の人間に対する御旨は審きではなく、救いなのです。この救いの神をパウロは〈あわれみに富む神〉といいます。あわれみとは旧約では神の契約に基いたいつくしみを表わし、新約では人間の救いの約束に対する神の真実な愛を指します。神のあわれみとは単に同情深いという意味ではなく、神の本性であり、神の愛に根ざし、その自由な選びと結合し、愛と源を一つにするものなのです。

即ち、「我々が罪過によって死んでいた時でさえキリストと共に生かし、共に甦えらせ、共に天上の座につかせて下さった」のです。孤独な人間がキリストと生を共にすることを与えられたという事実こそ、「あなた方の救われたのは恵みによるのである」の意味です。

パウロはこの罪にみちた人間の現実に対する救いのわざについて「あわれみに富む神は死んでいた者をキリストと共に生かすことによって、神の作品として下さるのである」と結論しています。

私達は日常生活に於て不平不満ばかり口にしていつも物欲しい顔をしていないか、有名父主の譬に於て、一日一デナリの生活は神のあわれみとゆるしによって与えられる恵みとして語られています。私達は日常生活において〈主よ、一デナリはまことにあなたの恵みでした〉という告白と感謝の生活こそ必要なのであります。

教区あちらこちら



日野教会　信徒の友四月号グラビヤで既に紹介された。日野川沿いに伯備線を下ると黒坂駅、下車して徒歩五分で道路に面した二階建の家の教会に着く。家庭的な礼拝室がある。この教会を守る信徒伝道者の柴田さんは「ポーロさんが天幕作りしながら伝道したように私も」農村に定着し、あせらず浮き上らず余世のすべてを捧げて教会の礎を据えたいと語る。八四才で益々元気。にこやかにその言葉にうなづく奥さんは七六才。柴田さんが敗戦翌年から疎開先の自宅で聖書研究会を始めて以来二十一年。その間救われた者は三十六人を数える。その殆んどはこの山間から巣立って行った。残った十数人が堅実に集会を守る。米子から加藤牧師が月二回応援される。

西伯法勝寺教会　米子から南へバスで三十分。昭和二十一年矢田貝氏らによって始められ六年前に会堂を建てた。今年まで三十人の受洗者、財政面で自信を持っている点は頼もしい。昨春関学神学部卒の稲垣牧師を迎え「ほりの深い信仰」を確立し、正統的キリスト教生活を送りたいと望んでいる。家族伝道　特に夫婦共に救われることを目指しての家庭集会が始まったのは昨年、月二回定期的に続けられている。教会学校も強化されつゝある。

境港町伝道所　夜見ケ浜の先端人口三万五千の境港は山陰屈指の漁港で、鳥取県の数少ない市の一つ。米子からバスで一時間、市内の岩本姉宅で十五年前から集会が始まって最近はエルダー、加藤両師の定期的応援を得て毎月曜日夜集会が持たれていた。今春木村牧師の応援で日曜午後礼拝、木曜夜にも集会をしている。男子が少ないこと、わけても若い人が少ないことが問題であったが次第に解決されるであろう。特に教区との連絡が強くなることを伝道所としても望んでいる。

米子教会　十年一筋に牧会される加藤牧師は「日本伝道ということの中で、山陰地方、その山陰の鳥取県西部の中心米子市にある私たちの教会の使命は何か。交通、産業、文化、教育のセンター米子市に於ける教会の責任は何か」を考えなくてはいけないと語る。黒坂、淀江、坂長などの集会は米子教会の使命とつながっている。礼拝出席八十名を祈祷目標とし、地域集会を増強することに努める。先づ教会自身が伸びて、その事実としての証しが他の地域に向ってできるようにと希望をもって斗っている教会である。

坂長伝道所　大山のふもと、伯備線「岸本」下車、坂長部落に四年前から米子教会の新、伊藤両氏によって開拓伝道として始まり、現在、子供と大人のための集会が続けられている。昨年夏、しばらく米国より帰郷された西村氏の力ぞえで集会所が整えられた。

米子錦町教会　米子市の中心に位置する教会。大正末期に富士見町の木村牧師の生家で始まった家庭集会が育って昭和四年米子キリスト伝道館となり、今日まで満三十七年。絹田牧師九年牧会　大阪へ去られて後二年の無牧期間、永く苦労が多かったがよく教会を守った。今春木村牧師を迎え喜びは格別。三十万余で会堂改修にふみ切ったが、次々と献げられ百二十万を越える献金で礼拝堂を新装し応接室、炊事室その他必要なところを着々と改築されて行きつゝあるのは目に見える信仰の力のあかしである。一信徒が献げた身の丈程のクローム装十字架が国道九号線を往来する人々の目に輝く日は間近かい。

倉吉教会　予期しなかった滝口牧師の転任。しかし思いを新たに樽川牧師を迎えて就任式を過日執行。創立七十七年歴史の古い割に教会員の年令層は若い。役員七名中四名が三十代と聞く。この教会の中心となっている。訪問伝道を始めて三年目、着実に続けられているのは教区内でも注目される。信徒が一人の魂のためにその生活の中で配慮しようとの姿勢は今後の教会形成の大きな力。併設されているめぐみ保育園は十一年目を迎えた。

上井教会　山陰線上井駅下車駅前大通を左へ折れて静かな住宅地の中の新会堂（六年前建築）まで歩いて数分。倉吉東部教会はここに新しく生れかわった。三十八年以来集中伝道、D方式伝道を実施し、教会をあげて伝道できる体制を作りあげる努力は着々続けられる。全教会員が証しと奉仕を目指している。村島牧師は「戦うにも弾丸がない」と言う。教会の悩みは財政の自給確立である。現在教会員は二十六名、礼拝出席十七名　老人と高校生が多い。この教会も相変らず転出者が多い。

期待されている献金（十億献金 11）

「教団の伝道資金並に教団基金募金」これが通常十億献金と呼ばれているものの正しい呼び名です。これには過去四年間に亘って色々の変遷がありましたが、その名の示すことは今日私共の教会にとって伝道のための資金としても必要欠くことのできないものであることを示しています。

毎年各個教会からは教団に対して、負担金、献金と呼ばれるものが予算に従って捧げられています。主として「教団負担金」と「ペンテコステ献金」の二つがあげられます。

教団の活動はすべてこの二つで充分ではないのか？との疑問をお持ちの方もあるかも知れません。ですが実際にはそうではなく、教区よりの教団に対する負担金はその殆んどを教団経常費勘定に当てられています。即ち総務、財務、職制等の直接伝道に当る働きでない面に用いられているのです。従って、伝道に必要な資金はその大半をこの「伝道資金」—（十億献金）—によっているのです。これにペンテコステ献金を加え又外国よりの協力資金も一部頼ってはじめてまかなわれているのが現状です。

然し、御承知のように外国よりの協力資金と国内の「伝道資金」との比率は大巾に改められ、協力資金は漸減されて来ましたし、近い将来国内資金一本になる予定です。

今年度昭和四十一年度は先の臨時総会で可決されましたように当教区としては七五万円（昨年度五四万円）が目標とされています。これは昨年度より約四割増が期待されています。よく論議されることですが「伝道資金並に基金」は献金であって負担金ではありません。確かにそのとおりですが、同時に今日あくまで伝道資金としても予定され、期待されているものなのです。

今年度は新しく桑内成郎氏（高梁教会）が募金委員長になられました。これを機会に募金活動が本来の信徒活動として進められようとしています。

お互いに教団の新しい「伝道資金及び基金」の使途に深い理解をよせて下さり、主の教会としての責任を果す教会、教団と前進したいものです。

（藤岡友幸）

新任教師紹介

木村八郎氏（米子錦町教会）

明治三十九年生れだから丁度還暦。堂々二十一貫の体には若さとエネルギーが一杯。米子で育ち昭和三年献身して東京落合のキリスト伝道隊へ昭和五年最初の任地は設立直後の米子錦町教会。二年間の郷里伝道の後、平塚で副牧師清水で開拓伝道。昭和十六年飯田知久町教会へ。そこで牧会二十五年。

無牧で苦斗する母教会の招きは辞し難く、郷里伝道の使命は押え難く今春錦町へ来任米子の伝道について—「人は山陰は福音不毛の地と云うが、たしかにキリスト教の色はうすい。これからは伝道は第一だがもっと社会的影響力のある教会とならなくては：…」。

東海教区南信分区長としての永い経験から教区教団への思いはあつい。法政卒で勤める長男、信州大で医学を修める次男、法政で哲学を学ぶ三男のやさしい父でもある。

（I）

◎ ◎ ◎

三浦修氏（鳥取西部伝道所智頭伝道所伝道師）

本年三月、同志社神学部を御卒業になり、同時に鳥取県で、西部伝道所並に智頭伝道所に着任。一にも二にも押しの一手で歩んできたのはさすが長州出身だけある。最近は多少心境に変化を来たし伝道者として熟慮断行型になったとの由。

同氏と智頭伝道所との関係は昨年八月、夏期伝道師として赴任された時に始まる。

長州は萩の出身であられる由、萩は夏みかんとやきもので有名。夏みかんのような酢っぱい味と萩焼の光沢を身につけられて伝道者として働かれんことを期待する。

（Y・S）

◎ ◎ ◎

堀恭次氏（岡山西部伝道所伝道師）

一昨年東京神学大学を卒業宇都宮四条教会で一年伝道師をしておられた。

今年の五月より岡山駅西口の近くの自宅で岡山西部伝道所を開設、新しい教会づくりにファイトを燃している。

玉島市出身、三才の時ハシカのため両眼失明、十四才で岡山盲学校入学、盲学校時代に岡山信愛教会で受洗。

大きな体格から受ける感じはさっぱりとしていて暖かい。

伝道所開設の時には教会関係者以外に、盲学校時代の友人たちが「堀がやるなら！」とかけつけたそうである。その後もこれらの人が集会に出ているとか、その人徳のなしめるところであろう。夫人は秋田県出身、父さん似のかわいいお嬢さんが一人ある。

（Z）

第15回 東中国教区 定期総会報告

四月二十八日は岡山教会、翌日は県立児童会館に会場を移して二日間開催された。

㈠ 今年度「伝道案」については活発な意見が開陳された「壮年会活動の育成強化」「家の教会」「伝道部委員会ハンドブック」「委員会開催数の減少と能率化」等が審議の大半を占めた。

㈡ 前教区総会議長、壷井牧師が教団を代表して来岡。別紙「教団総会議長の挨拶」によって、創立二十五周年を迎えた教団の当面している諸問題。「教団財政の確立」「現代世界の諸問題と教会の責任」等について説明され、引継いで「教団総会に関する協議会」が持たれた。

議論は「教団財政の確立」に関する〃十億献金〃の問題に集中し、伝道のために不可欠の財源（資金）は負担金化し基金部分は自由献金にせよとの説強く、又、この献金に対する協力について意見の交換がなされた。

㈢ 教団総会は本年秋、東京を離れて、大阪女学院を会場として開催されるが、教区選出議員十四名が次の通り選ばれた。

○教職

永田善治、田井中純作、長坂竜太郎、米倉義一、内藤留幸、滝口勝、井殿園（次）永倉義雄、加藤俊行

○信徒

船越澄江　小川政雄、桑内成郎、新達治、河野通男、松本純郎、大橋公夫（次）西原勇、井上秋忠

㈣ 会期中、岡山教会婦人会の厚意による晩餐の招待を受け、又、教師の歓送迎昼食会を持った。壷井牧師、高塚牧師、エルダー宣教師を送り、米倉牧師、木村牧師、樽川教師、堀教師、三浦教師、梅野教育主事と多くの方々を教区に迎えた。

写真説明（一面）

礎石にA.D.一九二〇と刻んである。当時は高屋教会の分教会。田中久彦牧師牧会中。暮近い十二月二十八日に海老名弾正牧師を迎えて献堂式が挙げられた。

伝道部通信

教区の伝道基本方針は、(一)伝道圏伝道、(二)信徒伝道、(三)家の教会、この三つを推進することです。各個教会におかれましても、研究しつつ独自の方法をもって活潑な伝道活動を展開していただくことを願っています。

今年度の事業のうち早急に御連絡したい事項に次の様なことがあります。

(1)教会役員研修会（全教区）
日時　八月二三日(火)午后四時—二四日(水)午后一時(一泊二日)
場所　岡山県立児童会館
主題　「教会役員の担う役割」
講師　教団常議員、中部教区伝道部委員長御器所教会牧師土岐林三先生

教会役員（及び準役員）の方は今から予定に組んでおいて下さい。

(2)夏期長期応援
今年は倉敷水島教会（南改名）に姫路和光教会、魚住せつ牧師、総社教会に南大阪教会、上野光隆牧師が応援くださることに決定、準備を進めています。

(3)信徒伝道要員
当教区の独創的な組織であり、信徒の働きの重要さが説れております時、要員を覚えて積極的に活用して下さい。

(4)壮年会活動
現在の教会には壮年会活動の弱いことが指摘されています。数にとらわれないで組織を持ち、壮年層への宣教を活潑に展開して行かれることを願っています。

(5)「こころの友」テープの貸出し係が、脇本委員（西大寺市西大寺、旭東教会）に変りました。皆様の御活用をお待ちしています。
貸出料無料（但し返送料はご負担下さい。）貸出期間は二週間以内。

(6)「伝道ハンドブック」の作成を急いでいます。七月の初めにはお届け出来る予定です。

(7)伝道部委員の中に変動がありました。委員長長坂竜太郎氏(前号出)書記に脇本寿氏、山田直義氏が委員に補充されました。（脇本）

教会だより

個人消息

倉敷南教会
教会名称を「倉敷水島教会」に変更されました。

岡山聖心教会
附属「ひかり幼稚園」に県下十万台目の電話がついたのを記念して、電電公社の記念電話贈呈のつどいが開かれ、園児たちに記念の電話器セットが贈られた。

高梁教会
宗教教育主事として梅野成子姉を迎えられた。

岡山西部伝道所
五月八日に開所式が執行され、主任者として堀恭次教師が就任された。岡山市寿町二ノ一〇電話岡山五二局五九七四番

岡山県西部伝道協議会（玉島富田、鴨方、寄島、笠岡、井原、高屋の各教会伝道所）
去る六月五日、高屋教会と芳井天神に於て合同の集いを行い、大いに恵まれた。出席者大人八五名、教会学校は一〇三名。

小沼　邁氏（前倉敷平和教会牧師）
去る五月二十四日岡山博愛会病院にて死去された。二十六日倉敷教会に於て片岡健吉牧師の司式により告別式が執行された。

山村好美氏（天城教会牧師）
今度斗病記を出版。書名「喉頭癌にかった人たち斗病日記」山村好美撰著。

桑内成郎氏（高梁教会役員）
教区財務委員長、十億献金募金委員長に選任された。

三並弘文氏（倉敷教会役員）
教区財務委員に選任された

山田直義氏（倉吉教会役員）
教区伝道部委員に補充された。

久宗　壮氏（美作伝道所役員）
御夫妻で、一ケ月の予定をもってヨーロッパ各国の視察に発れた。（六月十四日）

三浦　修氏
鳥取西部伝道所担任教師、智頭伝道所兼務担任者として就任された。

樽川　潤氏
倉吉教会主任担任教師として就任された。

滝口　勝氏
倉吉教会を辞任され、玉島教会主任担任教師として御就任。なお仝氏は前高塚書記のあとをうけ教区書記に選任された。

木村八郎氏
米子錦町教会主任担任教師として就任された。

堀　恭次氏　前出
山教会まで。

各部・委員会報告

教育部委員会

中学生キャンプ（鳥取県側）
八月上旬
於青谷教会
鳥取県側の教会中学生の参加をおまちしています。

讃美歌委員会

教団主催、キリスト教音楽講習会が八月二十二日(月)～二十七日(土)、青山学院大学を会場として開かれます。
教区推薦扱いも出来ます。(一名)旅費の一部補助、登録料免除。希望者は教区讃美歌委員会まで。

青年伝道委員会

第十七回全国KKS修養会
七月二十七日～三十日
場所　山中湖YMCAキャンプ場
主題　「聖書と生活」
当教区から五名推薦の上参加して頂きます。参加希望の方は至急お申込み下さい

第十二回教区KKS夏期修養会
岡山県側、八月九日～十一日
場所　岡山市立青年の家
主題　「信仰の確信を求めて」
講師　阪口吉弘先生
申込〆切　七月二十日、岡山教会まで。

岡山県青年会連合研修会
九月二十二日～二十三日
於、倉敷教会
主題　「歴史を担う教会」
講師　国安敬二先生（教団青年専門委員長）

婦人伝道委員会

全国婦人集会が準備されています。（明年度）
とき　一九六七年五月五日～六日
ところ　東京、青山学院
参加者　一五〇〇名
これは教会婦人が今日の日本伝道の一翼をになうために、全国の教会婦人が一堂に集り、交りと研修をはかろうとするものです。このために、一七〇万円を募金し、「わたしの訴え」を原稿募集しています。四百字詰六～七枚程度、〆切一〇月一日、当教区教会婦人会に於てもこの募金と、原稿募集に協力が望まれています。

教区婦人大会
九月に鳥取県側、岡山県側の二ケ所で開催が予定されています。

職域伝道委員会

今年の活動の主なものは、
(一)倉敷水島教会が教区の職域伝道のセンター教会として成長するように支援する。
(二)今年水島で行われる、夏期長期応援伝道に協力する。
(三)「働く人」の集いなどを支援する。
(四)巡回教師の派遣、今年十一月中に適当な講師による巡回講演会(又は講座)を開く予定。御希望、御意見がありましたら、当委員会までお申越し下さい。

編集後記

▽発行が予定よりおくれました、おわびします。

▽今岡山県南部地方は田植の最中、一本づつ念入りに植えられた苗が秋には豊かな実を結ぶことでしょう。長くかかるようでも秋まではすぐです。伝道の種播きと収獲も同じではないでしょうか。一日一日を大切にしたいものです。

▽互いが連帯に生きる教会、教区をつくり出したいものです。そのために「東中国」が声の広場、交わりの場となることを願っています。

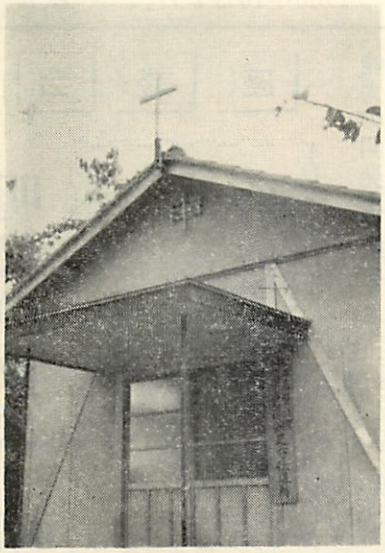
教区報

東中国

No.32

内会務所　日　東中国教区
教事区島　玉　崎賀阿市基本　教団督
島教区玉　国中東　年　月　日
1966　10　2

発行所
発行日



十文字平和教会　足守会堂

主張

もっと話し合いを

前回は二、三の具体的な事柄を手がかりにして現在当教区・教会の当面している問題を提起して共に考えてみました。そしてこの〝主張〟に対する積極的な御意見を数名の方々からいただきました。

最近、各教区間の差異が大きくなり、それぞれの特色が出て来たと云われています。当教区も独自な性格を帯びてきました。特色として他教区に類を見ない働きもなされて来ており、又同時に前進のために互いに深く考え合わなければならない問題も内包しているようです。

〝教区はどこに〟

教会の場合、自分が教会の一員だとの自覚をもって、キリストを基いとした助け合い、分に応じた働きがなされて行くときに教会がとゝのえられて行くのです。日本基督教団教憲は「教区は本教団所属の地域共同体であって…」と規定していますが、教区もどこか自分の関係のないところにあるのでなく、各自が教区の一員としてその業に主体的に参与して行くときに教区としてとゝのえられ、地域共同体としての内容を形成して行くことができると思います。ですから　今教区のことを他人ごとゝ考えないで、自分にとって必要不可欠の事として考えてほしいのです。

〝座談会で〟

さて、先日「明日の教会・教区」のテーマでもたれた本紙の座談会でも教区の現状をふまえつゝ、その前進についていくつかの具体的なことが話題になりました。

その一つは、「人材の開発、潜在力の発掘」と云うことでした。教会でも同じことが云われておるのですが、教区の現状は役職についているもの又は関心を持っている一部の人々によってその歩みが考えられたり、問題が負われたりしています。人材が開発され、登用されて、その業がとゝのえられることは教区の成長のために欠くことができない事でしょう。

教区主事（専任者）の設置と云うことも云われました。教区内五八の教会、伝道所のため専任で働く人がいないという事は種々の点で停滞をまねいています。現に専任者を置くことによって、執行部が強化され教区が各個教会にとってあたゝかい血の通ったものとなり成果をあげている教区もあるときいています。当教区でも専任者が置かれ、人材が適所に有効的に活用される様になれば教区は地域共同体としての機能を十分に発揮して行くことができるようになるでしょう。これを機会にみんなの共同の問題として考えていただきたいものです。

〝それ以前の問題〟

ただしかし、教区の実状をかえりみるとき、これらのことを実施する以前に積み重ねを要する課題が残されていると思います。

考えてみると、広く人材―教職だけを云っているのではありません―を見つけ出し、育てゝと云っても、現状ではその場所がないのではないでしょうか。又専任者にしても今のまゝでは適切な働きができるかどうかにかなりの疑問も残るわけです。既にある信徒伝道要員の制度に例をとってみても、その活動の巾は必ずしも大きいとは云えません。これは本来、教区の連帯を強め信徒活動により教会の体質を改めるために生み出されたものですが、これなども〝教区より教会へ〟、〝上から下へ〟と云う意識でしか受けとめられなかったと云うところに問題がありそうです。このような状況の中で専任者がおかれても固定化の危険は当然出て来るわけです。要はそれ以前の問題が残されていると云うことではないでしょうか。

〝話し合おう〟

孤立の中からは決して生産的なものは生れて来ません。現在まで教区の問題を主体的に受けとめ、その対話がなされて来たでしょうか。座談会出席者の一人が、「これまでの話し合いの欠如からの無関心さ」「それから脱皮して近隣教会間での対話」が急務である事を指摘したのには大いに共感を憶えます。

話そうにも場所がないのです。先ず各地域で場所を作ることが肝要ではないでしょうか。地域別協議会を自発的に生み出したいものです。

又既にある場所は大いに利用してほしいものです。伝道圏活動を展開している鳥取県東部　美作、岡山県西部でも更に前向きに討議が重ねられて行くことが大切でしょう。両県の教師会・教区教職研修会は定期的に開催されています。こゝで何故話し合われることが少なかったかと云うこともこの際反省しなければならないでしょう。

〝とにかくやること〟

これまでにもさまざまな問題に対して解決への診断的試みがなされてきました。更に又治療するための実行力が欠如している事も問われてきました。だが実際に具体的に持続して推進されたものは少ない様に思われます。〝とにかくやること〟です。具体的な仕事の中から生み出されて来るものでなければ受肉しないと云う事は繰返すまでもないでしょう。

〝下から上へ〟

それぞれの場所での対話はやがて教区的な広がりに発展するでしょう。みんなが知り合うところに人材も発掘されましょう。大いにものを云い、本気で聴くときに、専任者の問題も下からのもり上りとして共通の地盤に立って受けとめられる可能性も出て来ましょう。その他ゆたかな内容を盛った地域共同体になるための様々の建設的な方策も生れて来る事は期待出来ると思うのです。予期しない困難もあるかも知れません。しかしこのことのための労苦は実りへの過程であれば越えることの出来ない障害でない事を、その歩みの中で体得したいものです。

座談会

明日の教会・明日の教区

出席者　柏木　和宣（琴浦教会牧師）
尾熊　芳子（総社教会牧師）
松本　純郎（蒜山町教会信徒）
桑内　成郎（高梁教会信徒）
石井多賀恵（鴨方駅前教会信徒）
脇本　豊子（旭東教会信徒）
河野　通男（倉敷平和教会信徒）
前田栄一郎（玉島教会信徒）
（以下編集委員）
長坂龍太郎（岡山信愛教会牧師）
滝口　勝（玉島教会牧師）
井殿　園（高梁教会牧師）
藤岡　友幸（児島教会牧師）
（司会）
中堀仁四郎（笠岡教会牧師・教区報編集主筆）

能力の開発・育成を

I　今の教会は、いろんな社会の団体にくらべてみても、非常に弱体だと思います。組織の面でも経済面に於ても人材面に於ても弱いと言えますね。何が原因なのか。一つには教会が教会に求めているものを与えていないことだと思うんです。先づ教会員が教会へ集ることに喜びを持つことが一番大事じゃないか。教会がもっと本来の働きをなすために全力を注げる体制を整えなければ何にもならない。根本的なことですが　教師が講壇で神の言を十分に語れるように教会が万全の体制をとゝのえることです。教師が雑務に追われるとか経済面の心配をしなければならないとかは信徒の側で注意しなければいけないですね。

J　私のところは農村地帯を控えていますが、野良着のまゝで教会に出られるようにしたいと願ってます。しかし実際にはみんな教会に行きにくいと言います。そう言われると信者の態度が悪いのかと思うし、話がわかりにくいのではないかとも思います。いろんな教会関係の出版物を読んでもーこの教区報もですがー頭の上をすーっと通り過ぎちゃうんです。このことをあの人に話してあげようという身近かなことが見つからないんです。先に選ばれた私たちが神に愛された体験をもっと話して周囲の方にぶつかって行かなくちゃと考えるのです。

I　誰でもみんなそういう体験があるのは確かです。私のところでは毎月誕生祝会をして、その月の誕生者が一言づつ話をします。わあーっと驚くような話がいろいろあるんです。どうしてその話をもっと早くして下さらなかったのだろうかと思うし、よい話を聞いたという体験をみんな持っている筈ですよ。どうしてもっと話さないんだろうかと不思議に思うんです。

J　遠慮もあるんでしょう。それと、伝えずには居れないというものがないんじゃないかしら。



I　それにそういう話せる機会を教会が与えていない面もある。たしかにこんな話は言うのが恥かしいという気持も強いでしょう。

J　ほんとうに恵まれたら伝えずには居れない筈でしょう

H　教会の中には、そういう素晴らしい人が居るのではないですか。それに、自分自身がどんな才能を持っているかを知らない人が多いんじゃないか。教会でも一般の会社でも同じでしょうが。しかし、その人が持って生れているものを自分の思う方向へ開発して、その人に力一杯の仕事をさせようと努力している点では、卒直に言って、会社の方が一生懸命やっている。そうしないと会社はもうからないからです。一人一人の能力を見つめて開発する。いわゆる能力開発ということを非常に強く実施してるわけです。教会でもみんな私は駄目だ、駄目だと言ってばかりいないでじっと周囲の仲間を見ていたら、ほんとにいゝことを言ったり、わからないことをたづねたりしている。そういう時をすかさず捉えて、いゝ所は大いにのばし、わからないところは適切に教えてあげて行く、そうすれば教会は見違えるようになるんじゃないですか。

ビジョンを持って

私の教会では、教会のビジョンー長老会でまとめてプリントしたーをみんなに討議してもらい、みんなの意見を生かして、五年先の教会はどうなるかということなども考えるわけです。例えば現住会員の六割が礼拝出席するなども含まれている。こんな礼拝出席率の高い教会は都市の教会には見出せない、しかし地方の教会ではできると思います。その点を会員が互いに気をつけ合ったらよいですね。

F　そういうビジョンがあることは素晴らしいですね。私は、この夏全国教師研修会に出て感じたんですが、教団の教会は牧師自身がどういう教会を作り、どういう信徒を育てるか、はっきりわかっていない面がありはしないか。わかっていないと教会形成はできないでしょう。今のビジョンの内容を聞いてすばらしいと思うけど、心配することは、教会形成の内容が不明確であること、教会の自己目的的な面ができはしないかということです。

信徒訓練の必要

教会に集って来ることは考えるが、どんな信徒になればよいかゞはっきりしない。昔は教派によりそれぞれの信徒像、教会像があったが、教団になって以来それがはっきりしなくなった。私は各教会でこそ作り出して行くものだと思うんです。

それからもう一つ、今の教会があまりに牧師中心になり過ぎてはいないか。何でも牧師が口出しをし、牧師の許しがないと動かないことが多い。もっと信徒がほんとに生き生きとみことばによって生活しなくてはならない、それだから信徒訓練が大切なんです。

M　その信徒訓練と関連して考えるのですがー。日常の実際生活での自分をふりかえってみる時、理論的に頭の中では、わかっているが、実際には神中心の生活をしていないと思われる。基本的な神中心が守られないから、信者らしくない生活すら出て来るんですね。ほんとに基本的な生活がわかって実行できたら、みんなもっと力が出てくると思うんです。

こんなことを言ったら叱られるでしょうが、もう一つ言わせて下さい。岡山県の人は非常に頭がよろしいですね。しかし、実際にはやらないですね。ざっくばらんな話ですが、こうしようあゝしようと案は出されるけれど、実際にはそれが実行されていないところが問題だと思います。もう一つ前の段階で、実行できないことを決めるとか、その場逃れのことを決めるとかするところに原因があるのでしょう。もっとカッチリとマイペースで行けることを決めて行く、そうすれば成長するんですが、どうですか。

G　いろいろ聞いていて、「明日の教会」にはビジョンも必要だと思います。礼拝出席何割とか具体的な数字が出ましたが、私のところでは、まだそこまで行きません。しかしみんなが教会の外に向って出て行き、証し人にならなくてはいけないことがわかって来ました。そこで家庭集会を始めたわけです。身近かな人達との話し合いによって成長できると思います。そこから「明日の教会」は形成される

んではないでしょうか。

L　私のところは小さな教会なんですが、いつまでも小さいまゝでとゞまっていては駄目だと思います。私はCSの校長もし、オルガンも弾いてるんですが、一人の能力には限度があると感じます。みんなで分担してやらなくちゃいけないし、能力のある人を見つけ出し、育てゝ用いて行きたいと思っています。

G　私のところでも、牧師まかせのことが多いですね。「先生はプロだから」という考えが強いんです。Lさんが言われたように一人が何役も持ってたり、信徒会はあの役員さんときめてその人がプロになっちゃったり、みんなが教区のことを考えることは少ないんです。もっと小さいブロックで話し合えると意識も高まるんじゃないでしょうか。

H　そうですね、一般社会の組織では仕事をする時、十年先にどうやるかという目標を考えないでは、ほんとうによい仕事はできないんです。目標があるからそこに積極性が生れて来るんです。教会でも目標を持って、みんなで考え合い、話し合うのがよいんでそこから交りが作られる。献金でも目標がないと、これ位でやって行けるんだからということになっちゃうですよ。

M　能力開発のことですが、この人はこの仕事に適しているることを見抜いて育てゝ行くのには、ほんとうに忍耐がいりますね。牧師が何もかもさせると、牧師がして下さるんだからということになっちゃう、下手であっても時間をかけて育てゝ行くには忍耐がいるのではないでしょうか。特に教会では。

J　教会でしなくてはならないいろんな仕事や役割を列挙して、みんなで分担すれば、努力すると思いますが——。

M　しかし、その役割をうまくやって伸びて行く人と逆にそれを重荷に感じて教会から去って行く人とがあるんじゃないですか。

H　その落ちて去って行く人をできるだけ少くすることが大切ですね。

M　重荷に感ずる場合、その仕事の重要さを、その人がどれ程信仰的に受けとっているかが問題なんでしょう。教会で永い信仰生活をしている人でも、この世のことゝ、教会のことゝの重さの違いがわかっていないことがあるんじゃないかと思うことがある。

F　僕は教会で人材や能力を開発し、奉仕に取り組む点はかなり考えられてると思うんです。もっと大事なことは、教会の外で信徒がどんな生き方をしてるかという点です。斗いがあれば破れもあるんで、それをみ言で医されなくてはとみんなはほんとうに考えてるんだろうか。

G　職場でも家庭の中でも問題はいっぱいあると思うんです。その問題を教会に持って来ないで外へ持って行くのかそれとも全く問題としようとしないのか。そこに信仰の伸びない原因があるんではないですか。み言にほんとうに聞くことは実際問題とのぶつかり合いにおいてだと思いますが——。

教区の問題
—教区主事について—

司　では教区の問題に目を向けましょうか。

J　これは希望なのですが、先程のような問題を各教会間の話し合いで取組めるように教区が配慮していただけないでしょうか。

I　むつかしいことですね。教区の仕事を担当している先生方は、それぞれ教会を持っていらっしゃるのだから、やはり度々言われている専任の教区主事がほしいです。

H　私もたしかにそういうことは専任で二四時間を使える人でないと駄目だと思います。教区のことを専任にしている牧師はいないんです。先づその裏づけになる財政面を補うことです。それには献金をすればよい。これから先は、その土台を築いて行く必要がありますよ。協力ということには、協力する側と、自主的な努力をして受ける側の調整がむつかしい。協力してもそれに応えるものがないと頼ることになっちゃう。その調整は実際にあたってその中でやって行くことですね。

L　私の教会では、受けるよりも与える教会に早くなりたいと考えています。相互援助必要を痛感しています。

I　今の時代には単独教会だけでやりにくいことが多くなっていると思う。例えば夏のキャンプなどもその一つでしょう。伝道圏伝道はこういう面でも必要です。教団よりも教区が推進させるもので、それには教区長や巡回教師が教区内の全教会の実状をよく知ってほしい。



先程Hさんが言われた専任主事はほんとうに必要ですね財政面で困難ならば、もっと我々は献げるべきですよ。自分の信仰のことなんだから、自分の子供の教育のことにはずいぶん投資していることを考えてみるならば——。

I　献金の倍増ということは決して不可能なことではないと思う。むしろ、それを出来なくしている私たちお互いの垣がある。社会はものすごく動いている。激しい入口の流動の現在、小さな自分の教会のことだけを考えていてはいけないですね。他住会員のことになりますが、多いですね出て行った先々で、教会を自分で探す努力をしてほしい。

いつまでもかかえ込んでいる母教会にも責任があるわけです。だから、結局砂の中にかくれてしまうことになる。私は「教会を探せ」「かくれクリスチャンをなくしょう」と言いたい。

J　どうして教籍を移すことができないのでしょうか。その辺は私たちにはわからないことらしいですね。

—伝道の手引—

話は変りますが、実際に人に伝道をする場合、この人にはこれ、あの人にはあれをと言うような程度に応じた適切な手引きのようなものがあればよいのですが、教区にはないのですか。

F　私自身の反省なんですがそういう手引きは教団や教区が何とかしてくれるようにと望むよりも、自分たちが活動して行く必要に応じて、貧しいものでも作り出そうとして行くことが大切だと思うんです。それが結局はお互いに教区、教団を豊かにして行くことになると思います。例えば「キリスト教、その問と答」が私たちの教区で作られたことは教区だけにとゞまらず教団も恵まれることだと思います。

M　私の意見では、自分の中に人に与えられるものがないのに、いくら道具がそろっても仕方がないのではないか。

—教区とわたし—

司　大分活潑に話されましたが、こゝで教区自体のことについて他に何かありませんか。

E　先号の「東中国」にも出てたことなんですが、私は「教区の所在」を問わなくてはならないと思います、教区と言う時、その所在はどこなのかということです。教区がどこかにあって、自分がそれと別なところで向いあっている気持がどことなくあるんです。自分が実は教区の主体なんですね。

H　教区の精神的な面はそうでしょうが、私は逆にもっと組織の実体としての教区を考えなくてはいけないと思うんです。自分の教会と他の教会との間で何かしてつながっていることを教区だと言うのでは混乱しちゃう。私のところが小教会援助をする場合、教区という組織を通してやらなくてはと思っています。

B　先程の自分が教区だとか教会だとか言う面はもっと教育する必要がある。観念的にでなく肌で感ずるようになる

教育は何としても必要です。

H　そういう意味で教団の信仰告白を各教会が大切にしたらよいのではないか。生活綱領をほんとうに守ったら、キリスト者像も自ずとはっきりして来るのでないか。

F　具体的な注文ですが「東中国」をもっと活用したらよいですね。各教会の現状をみんながよく知るようにしたらよい。そのためにもっと発行回数を増やし、各教会のニュースや要望も出せるようにしてほしい。

I　それはむつかしいし大変ですよ。財政的にも労力的にも。

H　私は前から教区の教会員の名簿を作ったらよいと言ってるんです。自分の職場でも信者を見出せるかも知れないそういう人が二人、三人でも集ると力が出て来るものですよ。

I　信徒会でも名簿は問題になりましたね。話は変りますが、教区総会が教会総会の後で行われていますが、それでは切角の教区の伝道計画が各教会で生かされない面があります。もっと教区総会を早くするとよいですが——。

H　その逆も考えられます。教会が要望を出してそれを討議し、取り入れて教区伝道計画を作ることもできるわけです。

I　それには時間が少ないですね。

J　教会員の名簿も必要ですが、それよりも先に近くの教会の所在地をよく知りたいのです。出張した時どこの教会へ行けばよいかわからない。それから姉妹都市のように教会の縁組みたいなものができると、もっと互いに励みになると思います。

伝道圏伝道
—中核教会をめぐって—

I　遠い親戚よりも近い他人とか言うでしょう。近くの教会との交り、伝道圏が必要ですね。

A　互いによくわかり合うところから「われらの」という意識が生れてくるし、肌で感じる教会もできるのではないですか。

E　その伝道圏なんですが、その圏内で「中核になる教会」を育てることが大切ですねB　そのことは昔から考えてたことだった。中核教会を全体の教会へ仕えしめるために育成することです。特定の一つの教会だけを教区が援助するということではない点をわかっていただきたい。

A　大きい教会におんぶされるにとゞまらないで、互いがどんなに小さくても支え合う姿勢になりたいです。

教職の問題

B　それには先づ教職の洗脳が必要ですね。いろんな教区の動きや教区の組織の実態も伝えないし把握していない場合がある。

I　そういうことはブロック別の研修などで互いに話し合う中であらためられるものでしょうね。

B　牧師は、自分の教会は自分で牧会するのだという自覚を持たなくてはならないが、「自分でなくてはどうにもならない」という過信は捨てなくてはいけない。牧師による相互協力、交流はもっとやって行くことです。巡回教師や伝徒伝道要員の制度もあるんだから。とにかく人材は豊かなんだから、ひろく用いることですよ。

最後に一言ずつ
—徹底的にやり抜こう—

司　明日の教会、明日の教区という主題で言い残したことがあればそれぞれ一言ずつ。

M　やはり私は、一度教区や教会がビジョンを立てたらそれを徹底的にやってみるものが欲しいんです。ハイ。永続きしないで途中でやめるからよいものが出て来ないのですしつこい位にやってほしい。私はそう思うんです。

G　現代の教会のあり方として、切迫した時代にどういう宣教をしたらよいのか。それをもっと真剣に追求してみたいし、話し合いたい。

F　それを教会の中で先づ話し合いたいものですね。

H　私はやはり教区についても一つの目標を定めてそれに向って着実に進んで行く意気込みが必要だと思います。今一体何が一番必要なのか。それがわかっていないとするならば先ずそれをはっきりするまで話し合うべきだと思います。そうすればみんながこれをやろうということになる。協力をしていない人があればそういう人と徹底的に話し合ったらよい。最後は一つになれる。なれなければこちら側にも問題があると反省をすることが大切です。

—徹底的に話し合おう—

I　その徹底的に話し合う場所はどこなんでしょう。

H　それは教区の中で準備されなくてはならないですね。

L　先程「かくれクリスチャン」が居ると言われたが、もっと教会が連絡をとり合い、人の移動をよく知ることが大切だと思います。

I　私としては、教区又は教会自体が、この世の中のいろんな団体にくらべて、組織化かずい分遅れているので、それを教区として考えてほしいのです。やはり専任の教区主事をおくことは大賛成です。

F　私は信徒訓練が一番大切だと思います。教団が宣教基礎理論を出しているが、これを教会の中で話し合い、教会の進むべき方向を見定めて行きたい。どのように実施して行くかまで進めたいと思っています。

K　私も信徒訓練が大事だと思います。教職が相互に応援して信徒の信仰の確立と訓練をしてほしいです。

I　それには牧師と信徒との人間信頼関係が必要ですね。

D　先程も話し合いの場が問題になったけれど、それが今の教区には一番必要なことです。これまでは形として作り出され、その機会も与えられて来たが、実際にはなされていなかったと言ってもよい。話し合いを恐れてはいけない。恐れるから教区と教会とが互いに通じ合わなくなってくる。すると上から下へ通そうと無理をする。もっと別な形の話し合いの場が作られる必要を感じます。例えば伝道圏の中など……。

A　今の教会や教区では「ほんとうのこと」が語られていないんじゃないか。きれいごとではなしに「ほんとうのこと」が本気で話し合える触れあいがほしいです。

I　特に教会の中にですね。

B　一番言いたいことは教区内の小教会をほんとうにみんなで助けるということです。こゝでは詳しいことが言えませんが、心から考えてほしいと望みます。

それから説教のはねかえりが少ないという意見がありましたが、又その逆もあることを申しあげたい。みことばに生かされて、すばらしい生活をしている立派な信徒もあるんです。各教会に必ずいるものです。口に出して言う人もあるが言わない人もあるんですよ。又うれしいことですがクリスチャンとして社会で認められひろく起用されている婦人達もあるのです。教会はすばらしい面を持っていることを我々は知っていて語り合わなくてはいけない。

司　どうもありがとうございました。

予告

第二十一回
岡山県信徒大会

時・十一月二十三日　午前十時
所・岡山県立岡山盲学校体育館
（岡山市原尾島大砂場）
講師・菊地吉弥先生（東京下谷教会）
主題・「主にある交りと一致」

なをこのために準備の祈祷会が各地でもたれます。各教会でも時を定めて準備祈祷会をお待ち下さい。お求めがあれば理事が出向いて奨励をさせて頂きます。

（綴）江口　岡山県信徒会理事長

説教

主の助けをかりて

——使徒行伝 17章 32節～34節——

堀　恭次

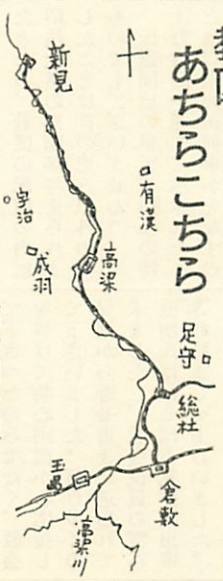
これはパウロがアテネに行った時の出来事です。当時アテネはまだ、キリスト教が、全然入っていない異邦の地でした。この意味でパウロがアレオパゴスの評議所でした話は興味があります。初めの内、パウロの話しに関心を示していたアテネの人達は話しが死人の復活に及ぶと突然パウロを嘲笑しはじめます。アテネの人々は、その話しは又いづれ聞くことにしようと言うのです。そして31節ではパウロはこれに耐えかねて、この場所を淋しく去って行ったと記されてあります。

我々がイエスの復活について語ろうとする時、世間の人からは、そのことについてはいづれ又聞くことにすると言って嘲笑されるのではないでしょうか。我々は今日あの場所でパウロが味わったと同じ悲哀をなめるのであります。信仰を伝える者は、人から軽蔑されて生きる以外にないような感じにさえ受け取られます。しかし、私は34節に注目したいと思うのです。パウロはこの場所を淋しく出て行き、彼が語ったことに何の報いもないように見えました。しかしここで見落してならないのは、彼に従って信じた者が幾人かあったということです。そしてそれに続いてアレオパゴスの裁判人であるデオヌシオとダマリスという女性の名前が記されていることです。パウロの語った言葉が冷たい嘲笑の形を取ってはね返って来たとしてもそれを聞いて信じた者が幾人かあったということ、それは伝道というものを主が助けて下さるということではないかと思うのです。主の助けのない伝道は全く空しいことだと思います。私は自分の無力を痛感しながらも現在自分がしようとしている仕事に主の助けがあることをここから教えられるのです。そうでなければ伝道などという大それた仕事はとうてい出来るものではありません。私は開拓伝道をしながら主の助けをかりることを忘れて、いつの間にか、自分の力によって伝道をしようとしている自分に気付くことがあります。そしてその誘惑は私にとって案外大きいものであることを今頃感じているのです。私はもっともっと主の助けをかりて、人から「その話しは又いずれ聞くことにしよう」といわれてもあざわらわれても勇気を持って伝道したいと思います。

新見教会　伯備線、姫新線、芸備線の集まる新見市に教会堂のないことは大きな損失である。現在の借家に25年、徳木牧師夫妻を中心に教会は活動して来た。さきの会堂建築計画は、教団の建築援助打切りに出会ったが、その頓挫に屈せず会員一同祈りを以て、建坪28坪、総額一八〇万円の会堂建築を新しく決断。既に教会員其他の予約八十万円（現住会員二十九名）に到り、近々一〇〇万円の募金を開始する由。信徒の友誌上日毎の糧での祈りを通して、見知らぬ東京の柳川氏、三次市の医師小川氏から思いも及ばぬ献金が寄せられた。祈りは奇跡を生むのだ。新見教会の明日は、町のための会堂建築にあると言える。

高梁教会　教会堂は岡山県重要文化財に指定。有名な迫害石はこの教会の歴史と先輩信徒の苦斗を語る。年々若者を送り出すが教会を挙げて教会教育に力を入れている。校長歴二十年の桑内氏を中心に、役員九名の中六名はC・S教師である。新たにD・C・E梅野姉を迎えた。子供暗誦問答C・S・親と子の会など独特である。地方教会の形成は、長い年月教会学校を本気で続けるか否かにかゝっている。礼拝出席平均四十名。金曜夜祈祷会には役員、婦人会員など多く集い土曜日に翌日の週報を配布している。井殿牧師の堅実な牧会のもと、地域の中核教会としての躍進を期待したい。

中国宇治伝道所　高梁から五里（バス五十分）、夏でも涼しい山間の町で終戦後診療所医師の田中氏を中心に集り、定住伝道者なしに二十年間集会が続けられて来た。歴代高梁教会の応援と共に、地許少数信徒の熱意と根気は大したもの。昭和二十六年伝道所開設現在隔週日曜夜井殿牧師が応援され、その他は信徒交代にて礼拝を守り、出席平均五名



殿牧師の応援を受け約十名の出席、ながい信仰の遺産は恵まれた家庭と温かい人格を生み、郷党の敬愛を集めている。やはり青年は都会に去る。高梁より四里（バス四十五分）。年に一度新年には、中国宇治と共に、高梁教会に集い合同礼拝を守っている。

総社教会　戦後二十年の働きを経て一昨年五月新会堂竣工を見た。会堂建築のための苦労と祈りは永く忘れられないであろう。教会員二十名で実に三二五万円（内援助七十万円）の土地と会堂を献げたのである。教会の庭の三十数種の樹や花は、この棕梠は誰、あのヒマラヤ杉は彼と、会員各自の労力奉仕によるもの、その着想に敬服。この夏八日間南大阪教会上野光隆牧師による夏期長期応援伝道が行われ、酷暑の中講師の熱心な導きにより教会は燃えた。最大の収穫は、伝道は牧師だけでなく信徒全体がになうものだという教会全体の伝道体制と意欲が残されたこと。天の時、地の利、人の和を得て、総社教会よ飛躍してほしい。

吉備伝道所　伝道所と保育園と牧師館とは仲良く同居。周囲の景色はのどかだが現実はきびしい。新しい県道がこの建物を貫き、近々施設の移転が迫られているのだ。永田実牧師夫妻は相扶けつつ、十二年この働きに没頭して来た。賑やかな子供達の声に囲まれながら研鑽、福音追求の書斎もまた道場である。教育ブームの中に、なくてならぬ魂の養育を目指し、教会学校と保育園母の会に力を入れている。礼拝出席は七～八人。形式的打算的信仰を排して真実の福音信仰の確立と形成が牧者の願と課題である。そこから真に世に生きる教会が生まれる。

十文字平和教会足守伝道所　溝手十七八先生が心魂を傾けて奉仕され、布下耕読先生来って協力された山上の十文字平和教会は、教団教区の助けを受け、地許信徒の協力奉仕により足守町に新しい会堂を建築した。静かな田園に濃紺の屋根と正面の十字架が鮮やかである。この秋献堂式が行われる予定。新婚の令息溝手和成教師がここを根拠として周辺に伝道を進める構えである。既に五月から大人の集会八月から子供の集会が守られ去る教区デーには大人十一名子供十二名が出席した。農村伝道に急激な進展は望めないが、新しい希望と共に、この教会が人々の足の守り、心の灯台とならんことを。

夏期長期応援伝道を終えて

教団は都市の教会が地方の小教会を応援する夏期長期応援伝道を今年も実施した。当教区には、姫路和光教会から魚住せつ牧師が倉敷水島教会に、南大阪教会から上野光隆牧師が総社教会に、それぞれ来援された。来援下さった両牧師及び牧師を送り出して下さった両教会に深謝し、受入教会の前進を祈るものである。

道ぞなえのつもりで

魚住せつ

七月十二日から十九日まで倉敷水島教会に寄せていただいた。

数年前、教区職伝委員会のお招きでこの辺りの諸教会を訪れたことがあり、全然はじめてというわけではない。その頃から見ると一段と工業開発がすすんで、広い埋立地に大工場が並んでいる。

ごみ〳〵した姫路、飾磨の自分のところと比べると、新しい工場、広い道路、そしてキチンととのったこぼう畑と芋畑、澄んだ空、万事きれいである。——ただし有名な水島の公害、ありゅうさんガスは無色とうめいだからゆだんがならない。

教会堂がまた、きれいだこと。新しいせいもあるが手入れもいいのだろう。——反面わんぱく小僧や若い衆が、気楽に遊べる庭、ドタバタ動ける建物でないことは、問題といえば問題かもしれない。

八日間に十四回の集会、二日ほどは訪問もした。C・Sの母の会から各グループの研修会まで、各種類の集会総あたり、大変な精動である。こちらも精勤だが教会員諸君も大精勤だ。ああ、うちの教会でもこれくらい牧師がよく働らいたらナ。まあ〳〵これは八日間だから出来たこと。

牧師、伝道師両先生はじめ教会員の多くのかたがたからたいへん行届いた心尽しをいただいて、楽しく働らくことができた。この機会にお礼を申し上げておく。


（魚住牧師）

数回、主任牧師の今井先生と水島のことを話し合った。

とにかく地域の性格から言っても、ここはいわゆる「職域伝道」の地であるらしい。それも大規模な「新」産業地帯で、自動車でも駆けずり廻らなければ間に合わない。伝道に大きなスケールとエネルギーとが要求される。何か従来の日本の町の伝道と違った趣きがある。

しかし、じつはそういう断定だけではこの町の伝道はできないだろう。見かけの規模の大きさにもかかわらず、そこの大づかみな把握だけでは一人の人間の心の中にすらも入って行けないのが伝道というものなのだから。

この地の人々の心にふれ、人々の問題を自分の問題として、大衆と共に喜び共に悲しむことは、口でいうほど簡単ではない。土地には複雑な問題がある。工場に働らく——主によその地から移ってきた——人たちと土地の人たち、工場の中の経営者と労働者たち。そのどういう人々を目ざして教会は働らきかけて行ったらいいのか。そこには労働問題、組合活動、生活のことや子供の教育のこと、公害から福祉施設から地方政治の問題……まだ〳〵挙げればきりもなく問題がある。水島の問題は全日本の問題に通じる。そしてそれは日本のどこでもまだ一向に解決されていない問題である。

来年は正規の専任牧師を迎えたい、と今井先生は言われる。同師は教区に所属する宣教師であって、他に本来の仕事をたくさん持ちながら水島を兼務して居られるのだ。わたくしもまた水島の職伝はそれが第一歩だと思う。どうか適任の先生が与えられますように。今夏の応援伝道はその道ぞなえのつもりで、教会論をひそかなテーマとした。職域伝道にしろその他のどんな伝道にしろ、まず、しっかりした教会があってこそ行なえるものであろうと思ったからである。

（姫路和光教会牧師）

感謝しつつ

尾熊芳子

八月末のうだるような暑さの一週間、総社教会では南大阪教会の上野光隆牧師の応援をいただき感謝でございました。

会堂が与えられてより満二年を迎え、今年こそ伝道の年でありたいと祈っておりましたところ、教区の配慮の内に応援伝道の期間が与えられましたことは神の恵み以外の何ものでもございません。

伝道開始の早天祈祷会の時上野牧師を通して示されたことは、私共が何事かをなすのでなく、何よりも大切なことは主イエスとの活き〳〵とした絶えざる交わりであると云うことでした。毎朝先づみことばによって深く養われ、共に祈って伝道のため遣わされました。

戸別訪問し、又毎晩の家庭集会には新しい方々をお迎えするために懸命につとめました。かくして礼拝に、伝道講演に個人面接によきお導きを頂き教会に新しい方々を加えられましたことは大きなよろこびでございます。

暑さの中にも誰一人疲れる者もなく聖業のために労させて頂くことができましたのは背後での熱き祈りに支えられていたからでしょう。特に南大阪教会では牧師を送り出して下さったのみでなく、教会を挙げて物心両面から応援して下さいました。毎日多くの兄姉から寄せ書きが送られて来ましたし、教会役員の宮谷直樹氏ははるばる礼拝に出席され励まして下さいました。


（上野牧師）

私共はこの伝道を通して主にある交わりの喜びを与えられ福音のために共に戦わせて頂きました。一人〳〵が信仰の深みに導かれ、訓練され、伝道の自覚に立つことが出来ましたことを何より感謝しております。

（総社教会牧師）

沖にこぎ出せ

佐藤幸子

上野先生を迎えてのこの伝道を通し総社教会の信徒一同は神様の深い恵みを心から感謝し、その尊い収穫をもって今一度沖へこぎ出す決意を新たにしています。

私共が今だかってない感銘をうけましたのは、体験から滲み出す先生の信仰のすゝめ、立証でした。牧師への献身のための勤当、軍隊での体験その他一つ一つのお話しは先生御自身のキリストへの全き服従からのものでした。

口先きばかりの上手な説教では人の心の奥深くふれ悔改めに致らせる力は湧いてこない。自分の肉をキリストに従わせるキリストへの信仰の力によって勝ち抜く以外にこの力はあふれてこないことを知らされました。

次に「神を愛するか」「自分を愛するか」と云うことに対決させられていること。神のみことばに照し合わせることなしに自分の主張をなし事を行っている私たちの姿を明らかに示されたことです。生やさしいことではありません、が然し表面だけでなく、全てをもって神に従わねばなりません。

更に、私共信徒は教職の無力を、教職は信徒の不熱心をつぶやくことがあります。現在の教会の行きづまりは此処にあるのではないでしょうか上野先生を通して教えられたのは人を頼るな人を見るなと云うことです。十人の乙女の物語の如く、信仰の油は他人に貸し与えられるものではない、一人一人が自からを

十億献金のこと

玉島教会役員　前田栄一郎

十億献金について一言、書けとの事ですので、私共の教会での体験とその中で感じた事又希望等について述べさせて頂きます。

私共の教会では、最初十億献金は一応全員に向って協力を求めたように記憶しているが、実際求めに応じた人は極一部の人々であった。そして昨年度に至っては唯の五人によって、捧げられただけであって目標額も遂に達成出来ない状態であった。

此の様な末細りの結果を招くに至るには、いろ〳〵な原因が考えられるが、その二、三を取り上げて見たい。

先づ第一に考えられることは趣旨が徹底していなかったことだ。此は教団に於ても、二転三転して来たようだが、呼び名や形はどう変ろうと問題ではない。窮極に於て真に福音の宣教に役立つものであるかどうかである。此の事が明かであるなれば、此に関係する者は自信を持って捉進に努力すれば良いのである。

次の点は奨励であるが、それは丁度〝線香花火〟のようなもので、私共の教会での体験とその中で感じた事又希望等について述べさせて頂きます。

私共の教会では、最初十億献金は一応全員に向って協力を求めたように記憶しているが、実際求めに応じた人は極一部の人々であった。そして昨年度に至っては唯の五人によって、捧げられただけであって目標額も遂に達成出来ない状態であった。

此の様な末細りの結果を招くに至るには、いろ〳〵な原因が考えられるが、その二、三を取り上げて見たい。

先づ第一に考えられることは趣旨が徹底していなかったことだ。此は教団に於ても、二転三転して来たようだが、呼び名や形はどう変ろうと問題ではない。窮極に於て真に福音の宣教に役立つものであるかどうかである。此の事が明かであるなれば、此に関係する者は自信を持って捉進に努力すれば良いのである。

次の点は奨励であるが、そ

↖反みて信仰に真剣に生きるとき、その生活を通してみことばが伝えられ、又導くこともできるのです。この忙しい時代に如何にして教会に人を集めるかと云うことより、私たちが日常の生活を通して伝道する努力を積まねばならないことです。神様は私共が既に頭で知っていることを、上野先生を中心とした夏の生活を通しても一度明らかにし確実に悟るものにして下さいました。

（総社教会員）

新任教師紹介

樽川濶（ひろし）氏

（倉吉教会）

昭和十二年、東京は神田の生まれ、生粋の江戸っ子である。

父君は救世軍東京連隊長の樽川朝美氏、父君の前橋在任中高校生活を送り、その間、前橋教会に出席して、献身の志を立て、同志社大学神学部に学ぶ。順序は前後するようだが、神学勉強中に洛北教会で斎藤牧師より受洗。

音楽の賜物に恵まれ、学生聖歌隊の指揮者などもやった。

現夫人は、当時女子大英文学科に在学、そのメンバーの一人、あざやかな指揮に魅せられ、魂も奪われたという所であったのかも知れぬ。

尤も夫人の父君はクルーセードで著名な本田弘慈牧師の神戸中央教会の役員であるから宣教の熱意に於て共鳴し、共感する所であったのであろう。

お二人の間には、〇才の赤ちゃんがある。

神学部を卒業と同時に西宮教会伝道師として四年間奉仕の後、現在に至っている。「山陰の伝道は、ゆっくり、ぼつ〳〵やる」のだそうである。

「N」

米倉義一牧師

（岡山教会）

岡山県婦人大会での閉会礼拝説教を聞いた一信徒がその素晴しい声に「讃美歌もきっと上手なんでしょうね」と。

米倉牧師への印象の一つであるが、まさにそのとおりで牧師にしておくのが惜しい？美声と音楽的センスの持主である。昭和二十八年同志社神学部卒業後井原、高屋両教会に伝道者としてのスタートを切った。その後昭和三十三年大阪教会副牧師に迎えられた、かたわら大阪教区では青年伝道委員長、教育部委員長として腕をふるった。昭和三十八年シカゴ日本人組合教会牧師として招かれたため大阪教会を辞任、今春岡山教会に迎えられるまでシカゴで牧会に立たれていた。

牧会に立つまでに七年間と云う長い闘病生活があり、そのことで献身への志を一層強くされた由。又牧会での深い配慮として生かされている。

同志社では霊南坂教会の飯清牧師と同窓であったこともある一方、高梁教会井殿園牧師らと寮生活を同じくしたこともある。

牧会十三年目大いにこれからが望めるところ。年令的にも大正生れの四十六才は教区では稀少価値的存在、教区内教職の中堅として活躍されることを祈りたい。

婦人伝道委員会ニュース

岡山県婦人大会

九月二十三日（金）、岡山信愛教会を会場にして開かれました。主題「わたしも地域の証し人」。講師・教団婦人専門委員、渡辺紀子先生。参加教会十九、出席者八三名。

昨年と同じ主題であるが、過去一年の歩みの上に立って更に深く学び前進する意味と願いをこめてもたれた大会にふさわしく、渡辺先生の主題講演は、今後の一年を導かれて余りある実に力にみちたものであった。

講演要旨

一、世との連帯・教会の独善から世と教会との分離があるのでないか。マルコ九・三八〜三九。

二、証人・①殉教者、マタイ一〇・三四〜三六。

②証人とは人間の側の資格によるのでなく神の恵みの選びである。

三、奉仕活動・ルカ七・一八〜二三。社会のひずみにある人へ教会が奉仕することこれは我らの責任である。

四、教会と私。日曜日だけの教会でなく、全生活が教会に生かされ、教会は又個人の戦いに協力する。

分団は小さく十にわかれて皆が発言出来てよかったが、内容、話し方、など尚訓練されなくてはならないと思った。

（河田文子）

〃より実りあるものに〃

—教区・教会役員研修会報告—

八月二十二日、二十三日、岡山県立児童会館に於て、土岐林三牧師（名古屋御器所教会・中部教区伝道委員長）を講師として役員研修会が開かれました。出席者七十数名。

教区単位の役員研修会は久しぶりでした。短期間でしたが互いに研修し恵みを分ち合うことが出来たことは感謝です。数ケの教会では参加した方々が、教会に帰っての報告会などによって各教会単位の研修の場をもっているときいています。ねがわくは、更に多くの教会でその様な機会を持ち、研修会の恵みが分ち合われ、教会の前進のための努力がなされゝば、と思います。二名の方から参加の感想を頂きました。

役員研修会に出席して

宇山　綾

八月に開かれた研修会に出席して「教会役員の担う役割」について土岐先生の御講演又礼拝に於て長坂、内藤両先生のお奨め、分団協議の話合い等み言を通して各方面に亘り心に泌み透るお励ましをいたゞき又新たに根底になるものゝ反省をさせられ義務使命を覚え感謝でございました。

世に仕える教会その中にある信徒がキリストに仕える事に徹底したよき僕であるかを反省する時「いつの間にか私達の心のまわりには余分な脂肪や垢が凝りかたまってしまっている」と、ある牧師のお言を思いおこし研修会等に進んで出席して新たにされ常に脂肪や垢のつかぬ器であり度いと祈って居ります。

（鳥取教会）　小林房雄

東中国教区夏期教会役員研修会に出席出来たことを心より感謝致します。

開会礼拝後、主題講演は土岐林三先生より教会について、教会の礎は「復活の主イエス・キリストであり、我々信者は福音の核心を掴めよ」と御奨め有り、又役員と云う教会の機能について、又財政問題について誠に適切な助言を戴きました事を感謝致します。

分団協議は四分団に分れ①役員自身の訓練②教会形成への寄与③財政の問題、其の他について話し合う。役員としてでなく教会員として正しく信仰生活をする事に努めたいと思う。

次に「教師謝儀規定」が示され、又「十億献金」についての発題が有りましたが、この問題は前向きの姿勢で各個教会に於て実現に到達する様に努力し又、教区全体の問題として充分に考え、実行したいと思います。主に有る皆様の御健闘を祈ります。

（笠岡教会）

教会だより

個人消息

鳥取西部伝道所（三浦修教師）第二種教会を設立され、名称を「湖山教会」に変更された。

境港伝道所　兼務主任者として米子錦町教会木村八郎牧師を迎えられた。

新見教会（徳木武二牧師）長年の祈りであった会堂建築が具体化し、近日中に募金を開始される。

倉敷水島教会（今井・ゴードン牧師）姫路和光教会・魚住せつ牧師を迎え夏期長期応援伝道を実施された。

総社教会（尾熊芳子牧師）南大阪教会上野光隆牧師を迎え夏期長期応援を実施。

倉敷平和教会（片岡健吉牧師）八月十五日よりいよいよ会堂増改築工事が急ピッチで進められています。尚十一月二十七日（日）午后一時より落成感謝会を行う予定。

倉敷教会（田井中純作牧師）教会創立六十周年記念の年を迎え、十一月に連続伝道集会を行い、二十日（日）午后二時記念式典を行う予定

十文字平和教会足守伝道所（溝手和成教師）九月二十三日最終の玄関工事も完成し、来る十月三十日（日）午后、献堂式を行う予定。

津山教会（宗宮進牧師）教会付属田町保育園の建物を増設されている。

いなば伝道圏活動

▽聖歌伝道キャラヴァンを編成し九月四日～十四日にかけ、鳥取、青谷、鳥取新生智頭、用瀬、の各教会で合唱と証言伝道の集いを催した。

▽湖山教会の鳥取大学の移転にともなう住宅増加等の地域の発展に即しての伝道強化をなすためトラクト配布に全キャラバンが全面的に協力した。

▽いなば伝道圏信徒の会十月十日、鳥取教会に於て一日研修会を開く予定。

主題「生きて働く教会」

講師　田井中純作牧師

岡山県盲人信徒総会　十月二十三日（日）・光明園家族教会に於て開かれる。

説教者　堀　恭次牧師

三浦　修氏（湖山教会教師）来る十一月六（月）午后二時より湖山教会に於て臼井和子姉と結婚式を挙げられる

草刈孝昭氏　八月限りで八頭教会を辞し、京都紫野教会伝道師に就任された。

新岡ヨコ氏　九月末を以って倉敷水島教会伝道師を辞された。

小川政雄氏（岡山教会役員）教区教職謝儀研究委員長に選任された。なお全委員会は第一次答申案を今夏の教区役員研修会等に資料として提出された。

W・エルダー宣教師（沖縄任留）鳥取離任に際し教区会堂建築基金十八万円、教区経常会計に二万円、計二十万円の指定献金をされた。

脇本寿氏・柏木和宣氏　東京神学大学で開催された教団信仰職制委員会・伝道委員会主催の夏期教師講習会に出席された。

各部・委員会報告

教育部委員会

▽教会学校生徒の手紙交換、十月十五日までに各教会学校生徒に自己紹介の手紙を書いてもらい教育部委員長宛（琴浦教会）お送り下さい。手紙を交換して各教会学校にお送りします。氏名学年の記入お忘れなく。

▽地区別連合教会学校生徒大会、教会学校の連帯感を強め、お互いの励ましとなるために近隣の教会学校が連合して生徒大会、運動会等をもつよう計画して下さい必要あれば講師を教育部より派遣します。

▽キリスト教々育者（キリスト教主義学校教師、キリスト者教師、教育主事、幼稚園教諭等）を教区内各教会より生み出しましょう。大学生、高校生に奨励して下さい。尚その方面に献身される方がありましたら教育部にその氏名お知らせ下さい。

▽辺地の教会学校にオルガンを贈る運動に御協力下さい今年のクリスマス献金（毎年教団教育委員会へ送るもの）も当教区内四教会を含む四十教会にオルガンを贈ります。御協力下さい。

御利用下さい

教区事務所に「心の友」九月号が千部余り送られて来ております。伝道集会などでお用い下さい。送料のみ負担下さればけっこうです

編集後記

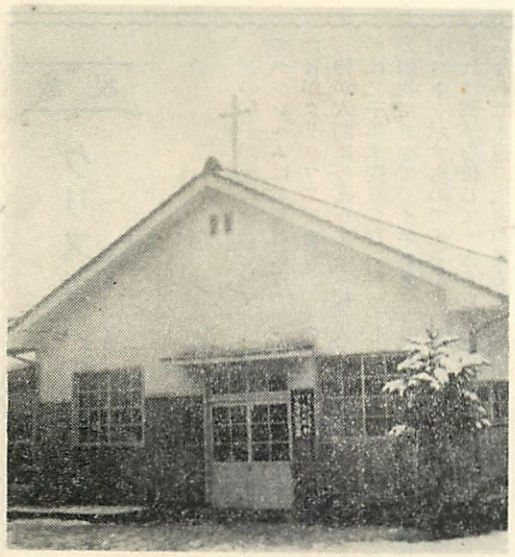
▽二面の座談会は去る九月十二日に開いたものです。場所は倉敷教会でした。忙しい中を参加下さった方々に感謝します。▽「もっとこの様な場を」とは座談会出席者の一致した声でした。心がけ、語り合う場を教会の中で又教会間でもつくって下さい。▽「東中国」への御意見おまちしています。

教区報

東中国

No.33

発行所　玉島市阿賀崎　玉島教会内
日本基督教団東中国教区事務所
発行日　1966年12月20日



湖山教会　(説明8頁)

主張

教団はわたしたちのもの

第十四回教団総会が十月二十一日から六日間大阪で開かれました。この教区からも選ばれた十四名が参加しました「明日の教団―自立・総合・進展」、これが主題だったのです。どんな内容だったのでしょう。先づ「自立」について。

――十億献金から自立連帯資金に――

ご存知の通り教団は二十五周年を迎えました。自分で立つべき年令になったのです。これまでは親の力を借りて成長して来たのですが、今こそ自力で歩むときになったのです。教団はごく最近まで海外諸教会からの献金(協力資金)を受けて来ました。数年前までは経常費の半分までが海外援助だったのです。おんぶとまでではなくても、半身を支えてもらって歩いていたのです。二十五才になった教団はいつまでもこのままでよいのだろうか。きびしい反省に立って、日本の伝道は日本の私たちの手で、日本の献金でという強い願いから、海外資金を漸次減らして自立を目指したのです。この表れが十億献金運動でした。始まってから約四年。多くの宝が献げられました。がしかし全体としては目標が達成できませんでした。六五年度は五〇%という有様でした。生ずる資金の不足をどうするか。大きな問題として教団総会で取りあげられたのです。

この運動が「当初の計画と推進にいろいろ不備な点があって混乱した」ことは事実でした。そして十億献金は今年度限りで終了することになり、新しく「自立連帯資金」が生れたのです。この資金の来年度目標額は二千八百万円(この内千二百万が伝道資金に、一千万が神学教育に)と決定され、年々漸増されることになったのです。

各教区に負担責任額が割当てられるのです。この教区では負担金化されることになるでしょう。桑内さんの言葉をごらん下さい。

やれやれ終ったのかー、おやもう打切りなのかー、いよいよこれからと思っていたのにー、教会での声はいろいろでしょう。しかしどうか皆さん、なお果すべき最後の今年度の十億献金に、そして新しく始まる「自立連帯資金」に関心を持って下さい。よく理解して協力をして下さい。私たちの教団が外国資金に頼らないで、自立し活動できる日が一日でも早く来るように、そして進んで世界宣教の一翼を担うことができるように祈って、力を尽そうではありませんか。

――機構改正を目ざして――

次に「総合」についてです。或る教職が言われました。「教団は八十名もの人が働いているのにその仕事をさばき切れない」。教団の機構や制度に問題があるのでしょうか。

教団は永い間委員会制で進んで来ました。多くの必要な委員会が組織され、みんなの意見がとり入れられ、話し合いで進められたのですから民主的です。このやり方で合同成立以来教団内のいろいろの相違が克服されて来たのに極めて有効でした。この点は決して忘れられてはならないのです。しかしやゝもすれば、決定から実施に移されるまで多くの手を経て、費用を要しがちなのが委員会制です。時には重複するものも出て来るでしょう。

教区でも同じことです。或は各教会に於てもそうかも知れません。この解決として専任主事をおく方法や少数精鋭方針が考えられるでしょう。しかしそうすれば又、主観的になったり、権威主義的になったりのおそれありということになるでしょう。

どうしたらよいのでしょう。とにかく高度の合理化と強い総合化が求められているのです。これは費用がかゝり過ぎる、時間がかゝり過ぎる だから改正されるべきなのです。それは勿論ですが、唯それだけのものではないのです。ほんとうに「明日の教団」を育てるにはふさわしい新しい機構が必要なのです。そのために今度の総会で「機構改正研究委員会」が設置され、具体的に検討、研究されることになったことは喜ばしいことです。

今後教団は教区に合理的に権限を大巾に委譲することになるようです。全国十五教区が過去二十五年間に自主的に活動できるまで成長したことがこれを実現化させる根拠だとも言えます。この私たちの教区も責任をもって綜合的な計画と推進をはかり、執行部の強化をし、各教会に奉仕できるようにならねばなりません。終りに「進展」についてです。

――明日を担う私たち――

鈴木新議長は「明日の教団―自立・総合・進展、このすべてを一言で表せば前進です」と言っています。これから更に自立を、更に活動の総合化を、そしてより一層に福音の真理の進展に向って前進する教団です。自立、総合は進展のためと言ってもよいでしょう。伝道が自分の教会だけにとどまらず日本全体のすみずみまで、ひろくひろく進められる前進です。又一面、伝道がそれぞれの社会の中で、日常生活の中で深く深くおし進められる前進なのです。ですから「明日の教団、教区」は一つ一つの教会の働きに、ひとりひとりの教職信徒の生き方にかかっているのです。

――この他に――

キリスト教出版活動の綜合強化、文書伝道の推進のため教団内に出版局が設置されました。今後の働きに期待がもてます。

教団総会議員の性格が問題になっていましたが「教団全体に対して責任を負うものであって教区教会を代表するものでない」ことが明示されました。しかし「地域的共同体としての教区の意志を体して行動することは妨げない」ことも認められたのです。

又日本基督教団の名称がカナ書きでキリストと改められる方向に向うことも決定しました。手続完了までは正式の公文書は従来通りです。

説教

クリスマスの奥義

ヨハネ　三・一六

木村八郎

神の御子が天の栄光を捨てベツレヘムにお産れになった日がクリスマスである。

神が人間に与えられる幸福とは二千年来変りのない唯一の贈物であって、イエス・キリストを示すものであるが、それは御子を信じて一人も亡びないで永遠の生命を得るためである。之こそ万人の欲求している真の幸福であり又人生の目標でもある。

ルカ二・八—二十、マタイ二・一—一二、この二つの記事はクリスマスと離すことの出来ないものであって、羊飼達はユダヤ民族の代表であり三人の博士は異教の人の代表の如く思われる。選民も異邦人も主イエスの御降誕に接し、馬槽に臥したる嬰児を探し当て人間の求める幸福とは救主に会うことだと知ったのであった。そして持物（羊）や世の富、栄え（黄金、乳香、没薬）に勝るみ恵の故に、それらのものを主の御前に献げ平伏して拝した。この態度こそクリスマス礼拝である。

その夜天の軍勢は御使と一緒になって「いと高きところは神に栄光があるように地の上ではみこゝろに適う人々に平和があるように」と神を讃美した。この天上の讃美がそのまゝ地上の凡てのものゝさんびとはならないで今日に至った。人間は罪のまゝでは天の讃美に合唱することは不可能である。「イエスとは己が民をその罪より救わんとの意なり」人間が罪から救われないかぎり真のクリスマスも平和のさんびもない解である。「御子を信ずる者は一人も亡びないで」我々は罪の悔改めと共に信仰の告白をもってこの救いを各自のうちに受け入れねばならない。クリスマスは二千年前の記念ではなくて今日我々のうちになされるみわざである。

馬小屋のキリストのもとに行き真の幸福を採し当てる人は誰でしょうか？「彼を受け入れその名を信じた人々には神の子となる力を与えたのである」ヨハネ一・一二地にある者が天の恵みを探し当て御子を信じて永遠の幸福をつかむことができるが、更に神秘と言うか奥義と言うか、ヨハネ一・一四に記されてあるのは聖霊によって言が具体化して私達のうちに宿ることである。その栄光は父のひとり子としての栄光であって恵みと真実に満ちている。処女マリヤのうちに宿られた神の御子を罪に汚れた賤が伏屋にも迎え、聖霊によって心のうちに宿らせ栄光を見ることが出来る。使徒パウロもそれを見て「私達はこの宝を土の器の中に持っている」と言った。こゝに真のクリスマスの意義がある。

（米子錦町教会）

クリスマスの讃美歌紹介

みんなでうたおう

小寺昌良

クリスマスのさんびかは、どれも美しい、なつかしいものばかりです。それも感激に満ちた体験や、美しい記憶がともないますから、なおさらです。しかしそれだけにまた古いものだけが繰返し歌われていて、新しいものはいつまでも歌われない、ということも起りがちです。教会によって差がありますが、全体としてあまり歌われていないものの中から、一、二、とりあげて見ましょう。古い同じ歌がうたわれることの意義もありそのよさも疑うものではありませんが、せっかく豊富にある良い美しい歌が、埋もれたままにほうってあるのは惜しい限りと思いますので、大いに用て、クリスマスを豊かにしていただきたいものです。

一〇〇　いけるものすべて

歌詞は五世紀頃のものと言われる古いものです。ギリシヤ教会の式文の中にある「天使の歌」と言われたもので、聖餐式に歌われていたものです。わたしたちはふつうクリスマスだけにしか用いませんが、いつ用いてもいいと思います。その美しい詞にまことにふさわしい、古いフランスのカロルの曲（一七世紀ごろ）が、いよいよこの歌に生命を与えています。最初の二行は一音階以上の移行を含まないなだらかな動きですが、三行目「かみのみ子はくだりたも」うというところへ来ると、静けさは劇的にやぶられて、神の御業とその恵みのはげしさが迫るようです。そして終りへ向って短調に似た和音が澗のような深さをたたえます。全体に、クリスマスにしては沈んだ暗い感じを受けられるかも知れませんが、神の恵みと愛の御業に圧倒されながら御子を受けとめるのがこの地上のみにくさと、わたくしたちのけがれた心であることをおのおのきつつ告白しているような歌だとお気付きになるでしょう。一〇七番もこれによく似た内容のうたです。

一二四　みくにをもみくらをも

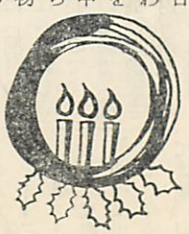
これは讃美歌の中の分類ではキリストの「生涯」に入れられているのですが、クリスマスに歌われてもよい歌です。

一九世紀の後半、英国で生れた歌ですが、もともと青少年のためにつくられたのでしょう。短い、どちらかといえば単純な中に、劇的な盛り上りをもって歌われ、「すみたまえ、きみよ、ここにこの胸」にというくり返しが印象的です。半音階の動きにさえ慣れていただけばリズミカルで活潑なうたは子供たちにも親しめるでしょう。訳詞が大部分古いままなので、子供向きでないのが惜しまれます。礼拝用よりも伝道的な集会に向くと思います。（讃美歌略解を参照）（教区讃美歌委員長）

クリスマス近づけり

広沢和人

▼キャプテン・クックがむかし豪州を探検したとき、後脚で跳ねる奇妙な動物を発見しておどろいた。そこで「あれは何という動物か」と土人にきくと「カンガルー」と答えた。クックは大喜びで世界に知らせた。ところが後年、カンガルーとは土人語で「わしゃ知らん」という意味だったとわかった。先日動物園にその「わしゃ知らん」君を訪ねたら、袋の中の子供が「おっちゃん何ていう動物なの」ときくから「わしゃ知らん」と答えると「それはぼくの名だよ。おっちゃんはキョロキョロ類という動物なんだろう」といったクリスマスのきびしさと明るさ。何に基調するのだろうか。砂塵にまみれ、疲れきった東方の博士達。早朝から深夜にいたる残業連続の羊を飼う人々。幼児イエスの誕生につづくエジプトへの逃避行。



かたや物資のゆたかな、ほしいものはなんでも手にはいる現代。以前は寒ければふるえ、暑ければタラタラ汗を流し、三十分くらいのところは何とも思わずに歩いたし、スイッチをひねれば勝手に用がたりるものなんてなかった。僕達は流動食にたよって判断力の背骨を退化させたキョロキョロ類になってしまったらしい。

でも、嘆くには及ばない。聖書も語っている。「彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かもた。客間には彼らのいる余地がなかったからである」。当時すでに充満していた「クリスマス？わしゃ知らん」族達。今日もクリスマスが近づくにしたがいキョロキョロと忙がしい毎日ではある。あなたはいかがですか。「カンガルー」では返事になりません。

信仰告白

受按にあたり

倉吉教会 樽川潤

此度受按にあたり一言申し述べさせていただきたく存じます。過般日本基督教団教師検定委員会により教団の正教師たるに適さわしいとの認定をうけたのですが、むしろ大切なことは、これからの自分の信仰生活が神と人とからキリストの贖いによって許された牧者の一人としての責任が与えられていることです。私は一人の信仰者にすぎません。でも同時に神の言に仕えるものとして選び用いられていることを確信いたします。私は「自分のことと教のこととに気をつけ、それらを常に努めよ」(テモテI四・一六)「義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求め(テモテI六・十一)〜真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるよう努めはげみ(テモテII二・十五)たく願っております。



聖霊が私を導いて誤りなく神の言を語り証言し、ゆだねられている倉吉教会に充分仕えてゆけるよう御加祷下さいますようお願い申上げます。

今、私は主の命を新たな想で聞いております。「家へ帰って神があなたにどんなに大きなことをして下さったか、語り聞せなさい。(ルカ八・三九)」

私は、伝道者として生涯を主キリストの御旨のままに捧げた者でありますし、又それが受入れられ用いられていると信じているのですが、又同時にそれに最も適さわしくないものであることも充分承知しているのです。それだけに私にとって伝道とは自らが証人としての信仰生活を日々完うし得るよう祈りつゝ歩みつゞけることになります。

しかし、感謝すべきことは、こうした者をも召して祝福し、福音のため用いて主の

教区あちらこちら

倉敷教会 倉敷の町は近年美しくなった。殊に国際ホテルの窓越しに観る美しさには心ひかれるものがある。此の町は京都の陰に育ち活発でなかった大津の町の様に、岡山の陰に物静かな町であったが、今や両翼を玉島と児島に伸して一大飛躍をみようとしている。さて此の将来性のある町の中心に近く六十年の歴史を持ち、教区随一の華麗な会堂を擁して立つのが倉敷教会である。「教えの在る処に風を生じ、風在る処に業を生む」とは国学者菅原兵治の言であるが、福音深透して此の教会には風格がある。日本の教会にあり勝ちな粗野さや、きざさがない。信徒は役員を初めとして優雅で、いんぎんである。先頃、創立六十周年の記念集会を一ケ月に亘って緻密な計画のもとに展開されたがやる事は前向で結実的である。その記念式典に出席して教区内諸教会の教職や代表的信徒が実に多数参加されておる事に心撃たれた。愛され敬されている教会なのだ。それは倉敷教会が常日頃 虔譲に他を愛し仕えて来た事を如実に語っていたのではなかろうか

倉敷西教会 国鉄倉敷駅西南伯備線踏切りの前にあるこの教会の歴史を詳知する人は少いのではないか。現尾熊利一牧師が大正15年綿工場を建てられたのが初めである。昭和2年より10年迄自宅 家庭集会、小山義高丸師と協力、昭和10年8月現会堂建設、同17年教団補教師任命、20年3月家業一切を家族に委ね伝道専心を決意、かくて21年9月倉敷西教会設立、27年第一種教会となった。矢掛伝道は止んだが、十数年前より総社、鴨方駅前に出張伝道 いずれも教会設立、総社教会は愛嬢芳子師が力強く継承している。ここに至る先生の労苦と良き家族の支えは忘れられない。また香登出身武用志芸師は、定住伝道師として昭和10年より25年間良き奉仕をして生涯をささげられた。この教会の特色は、伝道一本の牧師を中心とする教会の一致と和にある。現在の礼拝26名、祈祷会8名毎月一回家庭集会は大切な交わりの場である。克明に記された召天者記念アルバム(故人写真及経歴追憶など)には、実に貴重なすぐれた牧会記録であり教会史である。教会の歴史は、伝道者の労苦なしにはあり得ないのだ。

天城教会 倉敷より児島行バスにて約20分 歴史をとどめる古い街道に立つこの教会は明治17年創立、新島襄先生と縁故深く、地域の先覚教会である。数々の人物を送り出した歩みを経て、昭和26年山村好美牧師赴任。田舎伝道にふみとどまる決意でエリヤの労苦を重ね、農村人への伝道が着々結実を見た。二人の伝道者を送り出し、令息お二人もまた献身研鑽中である。礼拝は夜守られ、終ってお茶と懇談の楽しい交わりは名物だ祈祷会も毎週家庭廻り。若者は次々出て行くが、母教会との祈りのつながり深く、殆んど信仰が生きている。母なる教会は毎集会に祈りを忘れない。三年前教会に試練が来た。クリスマス礼拝後 先生は口頭癌のため声帯摘出手術を受け、以来一年血みどろの修練を重ね遂に自ら口頭癌に勝ち、人工声帯食道発声を以て再び礼拝説教、聖書講義をなすと共に各地の病院見舞や講演、全国の患者との交通、時の足らぬ忙しさの中、自費で奉仕する奇跡の人となった。「さようなら私の声帯よ、ありがとう私の声帯よ」全国の友を励ました放送は、そのまゝ信仰の勝利の告白である。教会の前進を祈る。

倉敷平和教会 昭和2年市内平和町に発足したが、船倉町渡辺栄一長老がその住居を教会に献げ、ここに移った。創立者、初代小沼道牧師は高潔な祈りの人、御夫人るい先生と共に各地に伝道の後、二十数年をこの教会にささげられた。昭和38年片岡健吉牧師赴任後、今この教会は感謝と希望に燃えている。本年四月予算50万円にて教会堂増改築事業を発足、過労に倒れる迄募金旅行に打込んだ牧師を先頭に、会員一同熱心な祈りと協力、更に教区内諸教会、内外有志の応援を得て、86万円の大工事を完成したのである。畳敷きであった礼拝堂は見違える程立派になり、牧師室、浴室も出来た。大工を職とする奥田長老が献身的に工事に当った。塗装、電気工事、講壇は青年会、内助は婦人会と全員の一致協力が奇跡を生んだ。更に教会納骨堂も完成、倉敷に骨を埋める念願にこたえ、第一に小沼師御夫妻の納骨がなされた。屑のこらない家庭的な、祈りの教会である

日曜礼拝17名、夕拝10名、祈会8名、この恵みの時、近隣地域へ働きかけ、更に前進と飛躍を期してほしい。

倉敷水島教会 倉敷南教会は戦後水島地区信徒家庭集会を中心に発足 その後主に倉敷教会の応援をうけ歩んで来た

水島臨海工業地域の発展と共に、教団教区の開拓伝道指定により土地購入、昭和37年現会堂竣工を見た。今井ゴードン宣教師がこの教会のために並々ならぬ努力を傾け、着々自立教会への歩みを進めている。毎月発行の月報は牧会的計画と配慮豊かだ。11月20日教会初めてのバザーを行った。婦人会を中心に全教会員一致協力、思いにまさる純益を得た奉仕と協力による恵みの体験は貴重である。最近急激に周辺の建築がふえ、教会学校生徒も増加しつつある由、地域への教会の働きと使命は今後益々大きい。水島教会と改称されたのは その幻と祈りの反映であろう。来春今井師は休暇研修のためカナダへ帰られるが、教会はいよいよこの地に仕える主任牧師招聘の決断をせねばならぬ。試練の時はまた将来への飛躍の時であろう。現情を超えて神は必ずみわざを進められるのである。礼拝25名、毎月一回男女勤労青年の「若い芽の会」は異色ある集会だ。水島道伝のために奉仕する教会として堅立と成長を祈りたい。

倉吉教会
樽川潤
倉吉市仲ノ町七四二

西高教諭（倉吉教会）
矢田隆寿
倉吉市東町　教員住宅

倉吉教会
執事　山田直義
倉吉市三明寺

神鋼（倉吉教会）
山田邦久
倉吉市三明寺

県立図書館（倉吉教会）
塩見章生
倉吉市福吉町　県住

倉吉教会
中本良枝
倉吉市西町

めぐみ保育園（倉吉教会）
松田輝子
倉吉市岡田

倉吉教会
岸本一男

主の御降誕を祝し
更に新たなる力を得ん
鳥取新生教会員
日本国際ギデオン協会員
平田滋晴
鳥取市本通り　TEL 5584

祝聖誕
謹賀新年
鳥取新生教会
清水良太郎
鳥取市吉方町二ノ四五七
電話(二二)六〇七〇番

日野教会
柴田八寿郎
鳥取県日野郡黒坂
わが神の家の門守とならん（詩篇八四）

年末年始のご旅行は
トイレ付暖房車で
（三段式リクライニングデラックス）
日本交通(株)米子営業所
TEL ②2103～6

信愛教会牧師
二葉幼稚園長
長坂龍太郎
「神の慈愛と峻厳とを見よ」ロマ十一ノ二二

岡山信愛教会
押野きくゑ
岡山市門田岡山紡績内
「わが魂はあなたをかわき望む」詩六三ノ一

岡山信愛教会
沼田正治
岡山市浜野六五六ノ一
「耐え忍んで善を行って、光栄とほまれと朽ちぬものとを求める人に」永遠の命が与えられる　ロマ二章

岡山信愛教会
橋本佐三
岡山市弓之町一の二〇
静かに夜露の下るごとく恵みの賜物世にのぞみぬ

岡山信愛教会
永沢歯科
永沢正矩
岡山市奉還町一丁目十番
電話五二局三七五六
「いためられた葦を折ることがなく、煙っている燈心を消すこともない。」マタイ十二章

岡山信愛教会
江口毅
岡山市駅前町二丁目五
電話二二局二〇四〇番
「彼は争わず、叫ばず、またその声を大路で聞く者はない」マタイ十二章

岡山信愛教会
関幸子
岡山市大供表町一ノ一七三
電話二三局一〇三三番

岡山教会
牧師　米倉義一
伝道師　阪口吉弘

岡山教会
小川政雄
教区内はみなうちの教会

岡山教会
湯村セツ子
岡山市学南町一の八

ベニヤ板と新建材
兼松建材株式会社
兼松稔
岡山市中央町三の三二
電話㉓九七六四番

総社教会一同
総社市本町北七八五の一二
TEL②一六六三

中国宇治伝道所
（中国宇治伝道所）
福井幸治
高梁市宇治町

琴浦教会
柏木和宣
耿子

信州四国各種味噌代理店
日本胚芽、ハウザー胚芽
ハウザー青汁の素健康食
ハウザーローヤルゼリー
ハウザー食普及会
津山事務所
代表　丹波甚八
岡山県津山市山下八一
電話津山〇八六八二一
五三六二番

天城教会
山村好美
たいへん元気です

外なる人は滅びても
内なる人は日ごとに
新らしくされていく

倉敷西教会
鴨方駅前教会
牧師　尾熊利一
倉敷市石見町

倉敷水島教会
尾崎元親
新しい霊によって仕えているのである（ロマ七ノ六）
メリークリスマス
倉敷水島教会
宣教師　今井ゴードン愛子

児島教会
藤岡友幸
児島市味野二八二五

イズン薬局（児島）
出石操平
児島市味野三九〇二

大島耳鼻科（児島）
大島昭夫
児島市味野三七四〇

西郷衣料有限会社（児島）
難波徹
児島市赤崎九五

児島教会
西原勇
児島市味野三〇三四

富田教会
富田保育園
河野進

玉島教会
牧師　滝口勝
玉島市西末広町

玉島教会
池田純子

三菱家庭用電気品
(有)太平電機商事
鳥取市智頭街道中央
電話 2734番
鳥取教会 圓山寿雄

鳥取教会
トミヤ雑貨店
鳥取市川端一丁目角
電話二三二三番

鳥取No.1! サービスの店
中井 脩時計店
鳥取市若桜橋詰
TEL 3663・5938

鳥取教会附属
愛信幼稚園
鳥取市西町一丁目二二六

鳥取教会
牧師 永田善治
鳥取市西町一ノ四二五の一
TEL三〇四四

井尾幸江
倉吉市越殿町一五六〇

栗原小児科(旭 東)
栗原 正
西大寺市西大寺450の5
TEL (08694)2—2362・3265

旭東教会
脇本寿
西大寺市川崎町四四三
(電②2369番)

耳鼻咽喉 気管 食道科
宇山医院
鳥取市南本寺町66
TEL 2013

米子教会
新達治
米子市角盤町一の一五〇
全地よ、主にむかってうたえ(詩九六)

クリスマス
お
新しき

旭東教会
浮田信衛
西大寺市北之町

旭東教会
家野猛之
西大寺市浜

岡山博愛会教会
篠原貞雄
せつ
幸子

岡山博愛会教会
更井良夫
美子
知た子

岡山信愛教会
船越澄江
岡山市七軒町四
電話二二局〇三六〇
「私は歌をもって、神の名をほめたたえ感謝をもって神をあがめます」

習字 及 珠算教授
楽山学院
(信愛)桂華 岡本慶夫
岡山市内田春日町66
TEL 23—9419
いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい(テサロニケ第一書5:17—18)

岡山市山崎四
電話七七局八三二三番
「光はやみの中に輝いている。そしてやみは之に勝たなかった」ヨハネ一章

倉敷教会
牧師 田井中純作
副牧師 広沢和人
電話㉒〇二〇二番

耳鼻咽喉科 (高梁)
桑内成郎
高梁市松山2050

わらぢ屋釣具店
赤木恭平
高梁市鍛冶町69
TEL 3057
小鳥と餌、器具も取扱っています

尾島眼科医院
尾島英之
高梁市柿木町20
TEL 2249

福
準基

倉敷教会
三並弘文
芙蓉子
倶珪
直子
倉敷市旭町七五七

倉敷教会
林源十郎
倉敷市本町九九九

コリント第二・五ノ十七
倉敷教会
河手正夫
清子
正恂
純子
倉敷市旭町六六一

倉敷教会
吉田訓子

社交ダンス教授
水島舞踏クラブ
金沢武
(水島)
倉敷市水島南春日町5—
TEL (44) 563

笠岡教会 電話②四〇〇二
中堀仁四郎
美光和
世世謙枝

紙・事務用品・結納のし
(笠岡)
佐藤紙文具店
佐藤仁之
笠岡市本町
電話 ② 2433

—婦人服地 洋装の店—
(笠岡)
マルバン
小林房雄
笠岡市本町
TEL ②2017

倉敷教会附属 竹中幼稚園
園長 竹中みつ
主任 神崎玉枝
電話㉒二八二七番

玉島教会
オノトヨ
玉島市港町
TEL②2012番

前田栄一郎
玉島市乙島
倉レ北社宅一ノ二

岡山県信徒大会報告

恒例の十一月二十三日、岡山県信徒大会が開かれた。東中国教区岡山県内各教会伝道所の信徒の交わりと協力を目標とし、これにふさわしい菊地吉弥牧師を東京からお迎えすること、教区と連絡を密にすること、教区内教職者の全員に御後援を依頼すること、伝道と証しをかねて七つの教会で準備祈祷会を役員又は信徒が二、三名以上出張し合って開くことと準備及び当日大会の役割を信徒が交流しながら受持つこと、若年層の信徒に出席をP・Rすること、等々に力を注いで当日を迎えた。前日までの寒波もどこえやら当日は快晴に恵まれ、杉木立に包まれ柿が枝もたわゝに実った岡山市原尾島の県立岡山盲学校の新築の体育館は又絶好の会場でもあった。――

信徒大会に参加して

仲田隆子

二十一回岡山県信徒大会は岡山郊外に静かに建つ県盲学校体育館で開かれた会する者二百余名「主にある交りと一致」と云う主題の下に菊地先生の御説教を伺う。日本へ北米からキリスト教が教派のまゝで伝えられてから現在の日本基督教団が出来るまでの変遷と、キリスト教の分烈は基督教の本旨に反するし無力なものとなるので、「主にある交りと一致」をもって一つになるように一人々々が努力して行く様この主題の取り上げられた事を話された。又隣人とどう交ったらよいかについて、私達の和解の為に死んで下さった十字架の主イエスを感動をもって力強く語られるのを聞きながら私はふと自分の身近かな人を完全に愛し得ない心のいたみを十字架の主イエスによって今こそ取払う事が出来ると思った。これを完全に取去った時、力強く人に訴える事が出来るのだ。

罪の意識の薄い私なのに、主の苦しみを苦しみとする事が悦びにかへられようとしているひそかな喜びを味わった。世界の人達は主の十字架によって和解が成立し一つになって行く事が出来るのだと思う

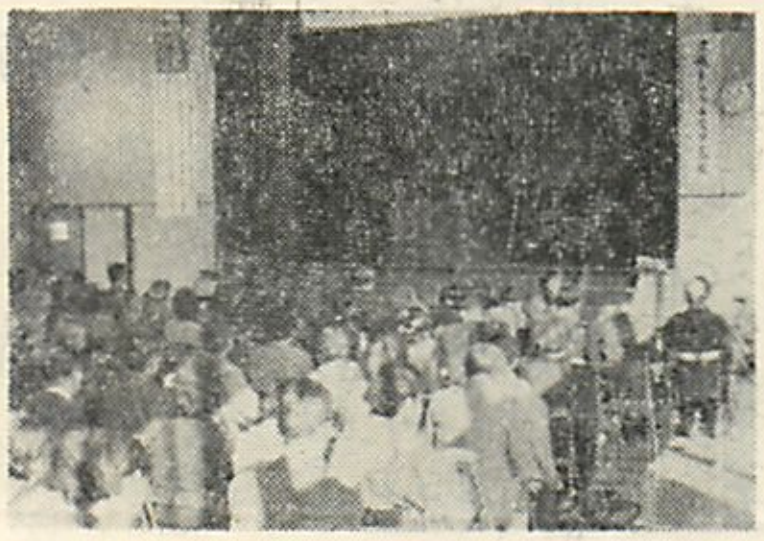
其後一同聖餐に預かり心身を新らたにせられた。永田教区長が祝詞を述べられ、此会が開かれたのには多くの蔭の努力がなされているのですよと諭す様におっしゃった。此会の為努力して下さった方達に感謝しつゝ、校庭にでゝ、小春日和の陽の下で盲学校生徒さんの野球を見ながら久々で会った方々と楽しい語らいの中に昼食をいただいた。此度は盲人の方達を多く見かけた。光明園からも数名の方々が参加されているのを見て大きな主の御恵みの中にある事を感じた。午後の購演の終る頃は会場を脱け出て駅まで急がないと高梁発の最終バスに間に合わない。電車がなかかなか来ない、遂にタクシーに乗る。いつも此時情なく思う。今日も折角皆さんと会ったのだからもっと交りの時が持ちたかったと。恵まれた岡山周辺の方々がどうしてもっと多く参加しないのだろうか。次回は会場溢れる程の信徒大会にしたいものである。

中国宇治伝道所

信徒大会に参加して

沼田正治

信徒大会における教団伝道部委員長、菊地吉弥先生の「今日の宣教の主題としての教会」と題する講演に、私は多くのことを教えられました。



そして今日の教会即ちキリストを中心としての和解の共同体である教会を考えながらの教会形成、あるいはキリスト者として地域社会に対して負い目を負うという生き方について、考えることの余りに少なく、また自分のために祈ることのみ多くして隣人のために祈ることの少ないこと等、大いに反省させられました。

私達は、お互いを兄弟姉妹といゝ主による交りと一致の必要なことを口にしますが、己が教会の現状はどうなのだろうか。教会における教会員相互の関係はどうだろうか。お互いが余りにも自己本位で他者への配慮が足らないのではなかろうか。また地域の教会のつながり、さらには県下教区、教団に連なる公同教会としての連帯性はどうなのであろうか。主イエス・キリストを主体とする教会が、お互いにもっと交りを深め、他教会のために祈り、助け合って行く連帯責任を感ずる教会となっているであろうか。そのためにキリストを中心とする和解と一致が必要なのであると私達に一つの課題を与えられたのだと感じております。

信仰も、年令も若い私にとって、この課題は余りにも大きな問題ですが、菊地先生が語られた「イエス・キリストが十字架におかゝりにならねばならぬ程、自分の罪は大きいのだ、という罪意識を持ちキリストに対する恐れの心をもって、お互いが仕え合い、キリストを通して、お互いが相愛する時に、家庭に、職場に、和解の共同体が生まれるのである。世の人々は、この様な教会を、そしてキリスト者を注目しておる。」という言葉を確認しつゝ、祈り、考え、真剣に取り組んで行きたいものと、信徒大会に参加して、決意を新たにしております。

(岡山信愛教会)

教職謝儀基準について

殆んどの教区が教職謝儀基準を持っているのが現状であるが、当教区でもこれについての研究委員会（委員長・小川政雄）を設置しその研究成案の作成を委嘱していた。このほど同委員会は、他教区謝儀基準、他教団謝儀基準並びに岡山県教育職給料等を参考とし、当教区の実状を十分に考慮しながら長期に亘って検討し、今夏の役員研修会等に於ても世論をききながら最終成案を作成し、常置委員会に提出した。常置委員会はこれを審議した結果妥当として承認、長らく懸案であった「教職謝儀基準」が生れたのである。

この基準は現時点では教規第八七条に云っているような教会種別を定める基準とする程に決定的なものではない。又この基準は社会の他のものに比して決して充分なものと云えないが、すくなくともこの基準を参考にして教職の生活が保証され、このことを通して伝道が更に強力く推進され、教会の前進に寄与することを願っているものである。

この基準の特色の一つは今後三年間の目標として各教会で試用してもらうことを建前としていることである。したがって実状と大きく隔たりのある教会では三年間に亘って漸次格差を縮少して頂く様に努力していただきたい。又最大の努力にもかかわらず、この基準に到達し得ない教会に対しては地域共同体である教区全体の課題として、すべての教会で重荷を負う方策を生み出す必要もある。おそまきながらの感するあるが、各教会に於ても充分配慮、目標に向っての前進を望むものです

東中国教区教職謝儀基準

摘要	金額	附記
(1)本人給		
1）初任給	18,000円〜20,000円	准允時。但し25才を越えている場合は1年 500円加算
2）勤続給	1,000円	50才迄 1年に付
	500円	55才迄 1年に付
(2)家族手当		
1）配偶者	3,000円	
2）子供	2,000円	1人につき18才まで収入のないもの
3）両親	2,000円	1人につき60才を越え収入のないもの
(3)子女教育手当		
1）大学生	2,000円	自宅通学
	4,000円	寮、下宿
2）高校生	1,500円	
3）中学生	1,000円	
(4)期末手当	3ケ月	家族手当を含む
(5)住居費	教会負担	
(6)光熱費	事情に応じて教会で配慮する。	

自立連帯資金のことなど

——問と答——

桑内成郎（教区財務委員長）

——教団総会で十億献金が大きな問題と成ったとの事ですが。——

今度の教団総会で一番問題になったのが、十億献金です。昭和三十七年度から始められましたが、充分論議を尽さないまゝで、実行にふみ切ったゝめ、最初から色々と問題を含んで居った様です。そのため計画通りにいかないで目標を離かに下廻り、殊に昨年度は五〇パーセントしか集まりませんでした。募金の主力である東京、大阪、京都、兵庫等の大教区でのびなやんだゝめです。そして目標に達しないばかりか、自由献金でありながら、次第に負担金化せざるを得ない状態になって来ましたので、献金してる教会と、していない教会（夫々理由がありますので）との間の一致を遮げる結果となっているのが現状でした。

——東中国教区では現在迄どうだったのですか。——

此の教区でも献金してる教会、していない教会がありますが。聖心教会の様に最初から反対であるはっきりした理由をもって出されなかった教会もあり、又、無関心のまゝ出されなかった教会、経済的に出せなかった教会と色々ありましたが、此の教区への教団の期待額が他の大教区に比べて、比較的低かったので、現在迄、幾つかの教会が協力して目標額は全部完納しています。然し十億献金についての検討、意見の交換も中途半端な儘で、PR、その他の運動も不充分だった訳です。

——今度から自立連帯資金と名称が変ると云う事ですが。——

その通りです。最初は教団の伝道資金並に教団基金募金（通称十億献金）と云う名称だったのですが、十億も集めないのに十億献金とは間違ってる事、基金を無くし、（その利子では事をすると云うのでなく）必要なものだけ献金して貰おうと云う訳です。

そして以前は教区別目標額となっていたものが、教区別責任額と改められ、その責任額の達成には、教区が責任を持ち、教区はこれを負担金として各教会にお願いしても、四国教区の様に献金としても募金しても良い事に成っています。

——東中国教区としては、どうするおつもりですか。——

現在の教団は、協力資金と称される外国からの援助金が年々減少し、その分を国内資金で補うと云う状態です。従って伝道資金は勿論、謝恩金については、一千万円の借入金、その利子だけでも昨年度は七五万三千円になっています。此の際、出来得れば凡ての教会に御協力して頂く方法を取ると同時に、教区、教団の在り方について、関心を持ち、検討して頂きたいのです。

——今年度の十億献金はどうなっていますか。——

一月の臨時総会で大体前年度の四割増と云う線が承認されていますので、先日各教会宛にお願いの手紙を書きました。十億献金は今年度で打切りなのです。来年度は今年度より少くなる筈です。どうぞ期待額だけはお願いします。

——財務委員長として何か。——

お願いがあるのですが。四国教区は十億献金を信仰復興運動として取り上げ、成功しました。信仰をもってと云う事は基本です。教団、教区よりの負担金であっても、それを献金として、受取る姿勢を取って欲しいのですが。毎年の負担金も月割りにして、四月から毎月納めて貰いたいのです。役員会でお考え下さいませんか。

教育部通信

荒野に種を播こう

米倉義一

岡山教会牧師として赴任して来て日も浅く、まして東中国教区の諸教会の実情など知るべきもないが、最近、此の教区に「教会学校」を閉鎖している教会があるのを耳にして愕然としました。

「働き手」がないのだろうか。若いはつらつとした、お話しの上手な、歌の出来る、よく気のつくお嬢さんがいないからなのだろうか。併しそう云う働き手だけが所謂C・Sの教師ではないと思うのです。信徒であるお母さんが、自分の子供を膝の上にのっけて静かに祈り、イエスさまのお話しを聞かせるところに、真実の教会教育が始まるのだと私は思っています。アメリカの田舎の日曜学校はそんな人々によって教育が極めて着実になされている教会が多いのです。これらの主婦達は週に一度牧師のところに集って来て日曜日のために準備をし祈っています。

「子供達への伝道」の奉仕が省略されている教会は、全体的にも「手を抜いている」教会ではないでしょうか。

かって私は大阪教会で二百数十名の礼拝出席者から「教会へ来た動機」についてアンケートを取ったことがありましたが、その六十%は「子供の時に日曜学校に行った」人々でありました。「教会学校」に働き給う神の見えざる御手を見つめるべきではないでしょうか。

教会学校の建て直しは、行きづまった教会の伝道活動の壁を破る有力な道であることは云うまでもありません。教会全体が本腰を入れて、五年十年の教育伝道計画に徹しなくてはならないのではないでしょうか。教会経営的先入観から脱皮して、恵みへの応答としての伝道に教会全体が集中したいものです。

既に他の教会でも実施されているでしょうが、岡山教会では今年最初の試みとして、C・S生徒のプレゼントを教会員（大人）の方々に引受けてもらう事にしました。この中にプレゼントする大人が名前と「メッセーヂ」を書いてカードを入れます。クリスマス一週間前にC・S教師が集めて包装をします。大人と子供の主にある交わりが生れるでしょう。「神の家族」である教会が実現します。中学生や高校生達はこうした「教会の配慮」の中で育ち、受洗に導かれるでしょう。こゝでは若い人達だけがC・Sの働きをしているのでなくて、教会全体がこれに参加しています。

私はこのごろ思うのですが「子供への伝導」だけに凡てを集中して全教会の態勢を切り変へる教会が、この教区に一つ位あってもよいのではないかと。「よき地に播かれた種は、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ」のですから……。

「教会学校」とか「C・S教師」とかから来る先入観を捨て本当に現状に即して、「幼児の一人」になす福音への応答としての伝道がもっと勇敢に而も謙きよになされてよいのではないかと思います。

「教会学校」のない教会が此の教区からなくなることを祈っています。（教育部委員）

教職研修会開催御案内

今年度の研修会を次の通り開きますので御参加下さい

日時　一月三十日（月）午後一時～二月一日（水）正午

会場　岡山市。県立岡山児童会館

主題　「教会岡山の前進」——教団・教区・各個教会の連帯と責任——

講師　東京神大教授、阿佐谷東教会牧師　高崎毅先生

会費　一、〇〇〇円（各教会で御支出下さい）

なお詳しくは別紙で御知らせいたします。

教区牧師夫人会に出て

湖山教会　三浦和子

牧師夫人会に仲間入り出来るようになってやっと二週間まだ西も東も全然わからない私は、鳥取教会の永田先生の奥様に連られて岡山迄まいりました。岡山県信徒会と教区婦人委員会の御好意による牧師夫人会に出席する為でした

今冬最も寒いというその日高台にある石井十次記念館の松風の音の中で会は始められました。遠州教会長老の長谷川保先生の講演、全くの開拓伝道から今日の会員五百名余の大教会になるまで、四十年間の牧師と長谷川氏との並々ならぬ御苦労、又その陰の力となられた奥様のことなど唯々感心させられることばかりでした。心尽しの昼食を頂きながら自己紹介が始まり、今迄に一番うれしかったことなど披露されて、和やかな雰囲気、二十名程の参加なさった奥様方の喜びや苦心談を聞きながら、大変な生活だな！と思わされました。けれど苦しみも辛さもきっと喜びに変えられる日が必らず来ることを教えられました。これだけ多くの先輩が立派にやり抜き、又やり続けていらっしゃる事を知って、「私も見習い、励まされてやらなければ…」と勇気づけられました。三時頃話は尽きず名残を惜みつつ散会。この様に同じ地域にあって働いているものが一つ所に集って力づけ合い、慰め合い、勉強し合って行けることはほんとうに心強いと思いました。お互いに持場〳〵で得たものを話し合える場が今後共持ち続けられる事を願いつつ帰途につきました。

教会だより

個人消息

倉敷教会（田井中純作牧師）
創立六十周年記念式典を十一月二十日、飯清牧師を迎えて行われた。

倉敷平和教会（片岡健吉牧師）
十一月二十七日、教会増改築を完了、感謝献堂式を行われた。教区内諸教会の支えを感謝しておられる。

岡山博愛会（更井良夫理事長）
創立七十五周年を祝い、十一月二十五～二十七日、記念式ならびに、教区伝道部の協力のもとに特別伝道集会を行われた。

新見教会（徳木武二牧師）
百八十万円の予算で会堂建築をされる。そのため百万円の募金をはじめられた。

鳥取信和教会（柳沢菊代牧師）
会堂建築のため、教団より六十万円の援助を受けられた。

津山城西教会（中島幸一郎牧師）
会堂改築の際に教団より援助を受けたことを感謝し、教団会堂建築委員会に五万円献金された。

原田季夫牧師（虫明伝道所）
胆のう炎のため、岡山国立病院に入院、手術をうけられた。当分療養が必要とのこと、御加祷下さい。

溝手和成牧師（十文字平和教会）
肝臓炎のため岡山国立病院に入院しておられたが、今月上旬退院された。

田井中純作牧師（倉敷教会）
教団総会に於て教団会堂建築委員に選任された。

米倉義一牧師（岡山教会）
教団総会に於て、教団讃美歌委員に選任された。

樽川　潤牧師（倉吉教会）
十二月五日、岡山教会に於て按手礼を了された。

久宗　壮氏（美作伝道所）
韓国東西実業大学より立体農業の講師として招かれ十二月六日、二週間の予定で渡韓された。

各部・委員会報告

宣教研究委員会

さきに当教区宣教研究委員会で編集出版された伝道用信仰問答「**キリスト教—その問と答**」は、教会内外に好評を以て迎えられ、既に第一版は売切れ、本年定期総会の際に修正第二版を発行したが、各地より註文が相次いでいる。第二版についての特徴は、教区内教会の註文が少く、教区外諸教会や遠方教区から、どんどん註文があることだ。このような企画と出版は全教団内でも、東中国教区だけのユニークなもので、喜ぶべきことではあるが、私達としては、更に教区内諸教会からの註文や御意見を大いに待っている。青年会、婦人会のテキスト、求道者会、洗礼準備会などに活用している教会では、ひじょうに喜ばれている。伝道用にも、信徒訓練のためにも、更に活用して頂きたいと願っている。

キリスト教—その問と答
重版第二版（一一九頁）
一部　百円

尚来年二月十六日～十七日当教区宣研会場主催にて、西日本宣教研究合同委員会（連絡協議及研修）が行われる。

職域伝道委員会

○教職ゼミナー
県教職読書会の午后の時間を頂き、御多忙の蕃山町教会員松本純郎氏の御奉仕によって次のような集りを持ちます
一月十九日（木）一時半
於　蕃山町教会
題「現代の公業の中での人間」
講師　山陽新聞常務取締役　松本純郎氏
これは激変する今日の社会の実態を教職も十分に把握しつつ、伝道牧会にたずさわることは大変大切なことと考え計画しました。是非ご参加ください。

○松本美実牧師による倉敷水島教会応援を計画中
六十七年一月下旬頃
またこの機会に「働く信徒の集」を開催予定です。

農村伝道委員会

(1)関西農村センターの岩塚富次郎牧師に来年二月二十七日（月）から三月四日まで農村教会を巡回応援をしていただきます。御希望の教会は委員長まで御相談下さい。
(2)農村教会役員協議会が二月七日から九日まで関西農村センターで開かれます。御出席の予定を今から立てておいて下さい。詳しい案内は後日お送りいたします。

倉敷市内教会合同新年礼拝

（準約教会合同参加）
（日時）一九六七年一月八日（日）午前一〇・一五
（場所）旭町　倉敷教会
（説教）日本聖約キリスト教団議長G・クリスチャンソン牧師（聖餐式）
司式　片岡健吉　牧師
広沢和人　牧師
礼拝司式　田井中純作牧師
聖書・祈祷　小橋護　牧師
祝祷　尾熊利一　牧師
▼今回は聖約キリスト教会も参加して合同新年礼拝を行います。
▼当日の席上献金は新見教会鴨方駅前教会の会堂建築献金にささげます。

編集後記

▽クリスマス、新年祝詞交換に御協力ありがとうございました。諸物価の上りにともない出版会計も火の車です今後ともよろしく。
▽先日も東京のある教師より当教区報への意見を頂きました。教区の内よりも外から反応がよせられるのですが……。皆様の御意見をお待ちしています。
▽よきクリスマスをお迎え下さい。
（Z）

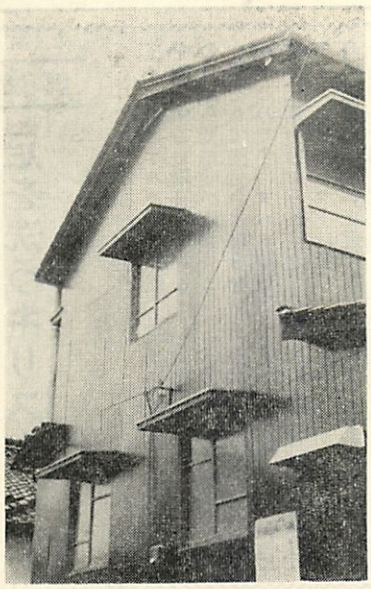
湖山教会

鳥取西部伝道所として昭和三十年三月二十九日設立昭和四十一年七月十七日二種教会に昇格、教会附属ひかり保育園をもって地域に奉仕をなしております。鳥取大学の湖山総合移転に伴い、若い青年が教会に与えられつつあります。

東中国教区報

No.34

内会務所日　教区事務所
教区　島教区　玉教区
玉島教会　崎中国
阿賀東団
倉敷市基督教団
発行所　日本基督教団東中国教区
発行日　1967年3月26日



倉敷平和教会

主張　自立

――お金のこと？　それとも数のこと？――

昨年来の新しい教団の動きの中で、教区も新しい年度を迎えようとしています。

ここで再度私達の教区の問題点を考えてみたいと思います。

∧教区は小さすぎるか∨

一月末にもたれた教師研修会で教区の現状を色々と話し合った際に「教区らしい働きをするには　東中教区は小さすぎるのではないか」と云う意見が出ました。教区内の諸教会が互いに助け合い励まし合って立つには弱い教会が多すぎると云うのです。事実、教区内五九の教会伝道所のうちその四分の一に当るものが援助を受けており、それも決して充分なものではありません。又援助を必要とする教会は他にもあるようです。

∧半永久的被援助教会∨

少し前に教職研修会の中で或る教師から弱い教会のことを「半永久的被援助教会」と表現されたことがある。聞いた者の耳にいつまでも残っている言葉です。これは主として経済的な被援助の状態を続けなければならない農村教会等のことを云ったものです（例えば若い信徒の流出等で）こうした教会の場合に本当に半永久的に「自立」することが不可能なのでしょうか。小さくても小さいなりに立ち上ることを考えなければなりません。

∧自　立∨

最近、「自立」と云うことがよく云われます、小さい教会であっても自から立っている教会になれば、教区が「小さすぎる」と云うことも問題にならなくなるでしょう。

「自立」と云うことが考えられるとき、経済的な被援助の状態から脱することだけで自立出来たとする考え方が強くなりがちですが、きおい教会が自己目的的になる誤りを犯してしまう危険もあります

小教会と呼ばれている「被援助教会」が目立し、又しようとする姿勢は単に経済的な面だけでなく、もっと別な面にもあるようです。

∧負うことから自立を∨

「自立」の問題が考えられるとき当然のこと乍ら、自立のための条件が色々とあげられます。その基本的なことの一つは、「み言」に立って「負う」と云うことです。「ただキリスト・イエスを宣べ伝える。私たち自身はただイエスのために働くあなた方の僕にすぎない」―コリント二・四ノ五―、とパウロが云っているように、主イエスのために私達の教会も他を負う教会となることが大切なのです。たとえ大教会と呼ばれていても「負う」ことがなくては「自立」していないのです。丁度肥満児のような「弱大教会」となる恐れが多分にあります

一方、小教会と呼ばれている教会も「小さくても負う教会」となるとき、自立への方向にあるのです。ある伝道所では信徒は少数ではあるが、町の一軒〳〵を訪問して聖書の分冊を配付しているときいて　周囲の教会が大いに励ましを受けたと云うことです。「負う」とは経済的なことだけではないのです。

小さな教会がいつも与えられ助けられてばかりで何も出来ないと思っているとき、大きい教会が他を配慮しなかったり、たとえしていても「負ってやっているぞ」と気張っているとき、大小を問わずそれ〳〵「非自立」教会となってしまっているのです。

力あるものはその恵まれている力を他のために用いることによって益々強くされ、小さい教会は助けられ乍らも、負う姿勢をもつことによって強められると云う関係ができないでしょうか。

援助、被援助が経済的なことだけでなく「み言」に立ってなされるならば可能とされることだと思います。

∧自から生み出し　他を生かす∨

従って教会が「自立」できたとき無為無策の教会はあり得ません。必らず何かを自から生み出し、同時にそれを分ち合って他をも生かして行く教会となっているはずです。真剣に戦って〝生みの苦しみ〟をしっている教会をそれがたとえ経済的被援助教会であっても誰れも「弱小教会」とは呼べないでしょう。柄の大小が教会のすべてを決めるものではないのです。

要は祈り求め、真剣に生み出そうとすることです。教会総会も近くにせまっています。大も小も、生きた、しんの強い創造的な教会になるよう共に励みましょう。



公　告

教区規則第十五条及び第十六条の定めに従い、左記の通り教区定期総会を開催致します。

記

一、一九六七年度東中国教区定期総会
二、日時、四月二十六日（水）―二十七日（木）
三、会場　高梁市柿木町　日本基督教団、高梁教会々堂

右　取敢ず御通知致します。

★議案並に総会開催に関する詳細事項は追ってお知らせ致します。

一九六七年　三月二十六日

日本基督教団東中国教区
総会議長　永田善治

説教

足を洗うキリスト

〈ヨハネ十三章一節～十一節〉

三月十九日は棕梠の主日主イエスのエルサレム入城を記念する日曜日でありこの日から聖週間が始まります。そして洗足の木曜日を迎えるのです。ヨハネ福音書十三章一節をみますと、主イエス・キリストは御自身の最後がいよいよ近くなったことを御自覚になったと記しています。弟子達にも背かれ、裏切られて十字架上に殺されることを予期されたのです。しかし「世にある自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された」とあるように、自分に背き自分を裏切る人間に対する愛には変化なく何処までも、あくまでも愛されたのです。その愛がこの足洗いの出来事として起ったのですが主のこの行為は計り知れなく深い象徴的な意味を包含しています。自らを殺すものをあくまで愛し通される主の御心が深く示されています。

四節に「上着を脱ぎ」たもうたとありますが、これは生命を棄てることのしるしとされています。「足を洗う」とありますが、たらいは汚れた水に充たされ何度も変えなければなりません。ペテロの順番になったときにペテロはたまりかねて「私の足を決して洗わないで下さい」と叫びましたこのペテロとの問答の中に主イエスはまことに意味深い言を申されています。

六節にペテロが「主よ、あなたが足を洗いたもうのですか」との問に、「私のしていることは今あなたには分らないがあとで分るようになるであろう」と仰せになっています。確かに弟子達は後になって主イエスが十字架の上に生命をすてるまでも自分達を愛したことを知り、あの主イエスの足洗いがいかなる意味を持つかを知ったのであります。

八節にあるペテロの叫びに対して主イエスは「もし私があなたの足を洗わないなら、私とあなたとはなんの係りもなくなる」と仰せになりました。主の足洗いは罪のきよめを象徴する行為です。そのことを私達にも語りかけられ、罪の贖いをなして下さるのです。そのために主イエスは自らを与えられたのです。主イエスとペテロの関係は単なる倫理的関係ではなくペテロは罪よりの救いを必要とするのです。主イエスはその救いを与えるためにこの世界に来られたのです。

十字架につき、私達の罪のために死にたもうキリストは今も私達罪人のために足を洗って下さるのであります。

（湖山教会三浦修）

A牧師の車にガイド役のB牧師と同乗、和気教会に赴く処此は数年来三石教会と共に無牧時代が続き、会堂には留守番もないので役員の田中恒夫氏を訪ねる。時余に亘り旧交を温めつゝ語り合う。全氏は神戸盲学校御出身の鍼灸マッサージの権威。昭和五年神戸雲内教会にて故入江源次郎牧師より受洗、昭和七年より和気教会に所属奉仕。此の教会は大正十四年に設立され高梁の井殿牧師の父君、故寿春師が昭和八年鳥取教会伝道師より赴任されて伝道された処。その後、令息園牧師も高梁教会に赴任されるまで数年三石より兼牧された。昨年より移管されたが、救霊上最近も実を結びつゝあるとの話に感動する。現在は和気全様、今井師が月二回、第一、第三日曜夕来援されて、教会学校と礼拝と英会話に奉仕されて、教勢の上昇を見た処で、先生を送る事は真に残念との事であった。今後はリカード師が教区より応援、主力を注がれる予定。和気教会の要望は専任の教職であるに対し、此処

教区あちらこちら



岡山県東部

虫明伝道所

うすら寒さを覚える曇り日の午後、車は南下して虫明伝道所に着く。旧家を買い取り原田、播磨両牧師が此処を根じろに邑久郡一帯に宣教の駒を進められた処である。先般永眠された原田先生の未亡人から短かい時間に伝道所の現況を承わる。伝道は三十六年に開始され、愛生園の医官橋爪氏夫妻、会計の三川静子姉らが中心。集会は昨今八、九名のよし、転出者が相次ぎ、C・S教師の如きも跡をたち休校のやむなきに至っているとの事。主日朝拝は播磨牧師は光明園家族教会へ。原田夫人は愛生園曙教会へ赴かれる由。此処での要望は原田先生なき今日、特に今一人教職を与えられたいとの事であった。

此の時、愛生園の聖書学舎に集中講義にみえる関学大の松木教授を岡山に迎えに赴れていた播磨牧師が帰宅され、光明園家族教会の近況を承わる。昭和三十三年四月まで三十年間に亘り無牧であった此の教会は今は天上にある故阿部礼治氏が中心になって主に在る教会の営みを続けられた処。播磨牧師は三十三年四月殆んど全時に原田牧師と此の島に来て伝道を開始されたのである。礼拝は六十名余り集る由。内藤留幸牧師が隔週一度聖書学舎を岡山より応援。此処での願いは教区内諸教会の教職、信徒のもっと強い関心と交わりが願わしいとの事であった。原田夫人の上に主の御慰めと御励ましと祈って此処を辞し山路を越えて漁港牛窓に赴き夕刻旅館川源に投宿。D牧師、E牧師参加して東中国三十四号の編集会議を深更まで開く。疲れ切って熟睡し港町の快朝を迎える。二台の車を駆って設立六四年の旭東教会に着く。幅員二十二米の道路に面する未だ新しい教会堂の牧者は十五代目の脇本寿師、赴任以来早七年半。此の教会は明治十二年に伝道開始。教会の中心であった関繁三、小山義太郎、実兼又八の三氏は上寺にこもって五日間の断食祈祷をなし、三十六年に教会の設立をみる。此の教会は土地の人に深く喰い込んで、町の有力者が中心である。医師会長であった浮田氏元市長家野氏、医博栗原氏等々。脇本牧師の幻は土着人への宣教である。教会は週三日英数教室をもち三、四十人の青少年が集っているが此の中から救われ将来町と教会の中心となる人々の輩出を牧者は願っておられるのであろう。教会は借家をもち教会員の住宅に供しておられる。又、下阿知、邑久町並に市内二ケ所の家庭集会を宣教の布石としておられる。幻ある教会は必ず栄えるであろう、脇本師の長男は目下東京医科歯科大学に在学中。夫人のホーム・メイドのケーキを絶讃して、赤磐教会に正午前つく。十五才は若くみえる八十四才の太田琢治郎牧師夫妻が歓待して下さる。此の教会の設立は昭和十六年、全師は東京より二十年四月に帰郷、十二月より伝道開始。会堂が献堂されたのが二十八年、伝道が仲々苦戦だが祈と訪問に邁進すると仲々の闘志。令孫が今春大阪音大にパスされた由にて御一家は明るい表情であった。此処を辞して二日間の旅を無事に終った。

（R・N）

故 原田季夫牧師を偲ぶ

永倉義雄

昭和三十二年のある日、私は、突然原田牧師の来訪をうけた。来意をきくと、〃永年の願いであった、癩園に聖書学校を開き、病者の中から献身者を募って伝道者として養成する働きを始める事になったので挨拶に参上した。〃との事である。その時、第一に心にかゝったのは、原田牧師の生活の問題であったので、その事を問うと、極めて明るい表情で、〃その問題は私が長島分校で教える約束ができたので解決している。〃との事であったので、私も安心して、一年後の再会を約して別れたのであった。万事に慎重な彼は準備期間を一年おいて調布教会主管者としての責任を果して辞任し、夫人とともに新しい使命に対して希望に燃えて来岡したのであったがそこには思いがけない困難が待ち構えていたのであった。今にして思えば、愛生園の当局者も、原田牧師も、世事にうとすぎたようである。〃島の事は島で自由にできる〃と考えていたところに大違算があったようで、園当局も、原田牧師も、すでに決定、と考えていた、分校教師の問題が本校側の校長の反対で一瞬にして御破算になってしまったのである。しかし、原田牧師の面目はこの時遺憾なく発揮された。彼は園当局者の軽卒を責めず、本校校長の反対を非難せず、黙々として彼のために備えられた十字架を、夫人とともに負い通したのである。彼は初一念を曲げる事なく聖書教師の道を進み、夫人は、島の医官、職員達のお手伝さんをしながら夫を支えたのである。

かくて三年間、好善社の手が差しのべられるまで、原田夫妻の苦難の道がつゞいたのである。彼は、たたかいにつかれやつれた姿で私を訪れた事はあったが、その裏なる人は平安と確信に満されていてその現状に同情なぞできるような弱々しいものではなかった。

私は、彼の姿の中に、使命の道に立った使者の崇高なものを見た。私もまた使命のために十字架の道を歩んで来たものとして、同志的な親しみと尊敬を感じたのである。

彼が、学舎の二期生を送り出す直前に仆れた事についていろ々な考え方、思い方はあるであろうが、その臨終の時まで、学舎を思い、学生を思いつゝ、死を見る事なく、使命に目を注いで離れなかった彼を知る私は、彼こそは、美ましい程に使命に捕われた神の人であり、最善の道を歩んで凱旋した勇者である、と思う。

教師研修会報告

教会の前進

D兄

その後お変りありませんか今回の教師研修会に欠席されたのは残念でした。そこで少し会の内容と私の感じた点をお知らせしましょう。

一月三十日から二月一日まで三日間、岡山県立児童会館を会場として約三十名の参加で開かれました。児童会館での研修会はこれで四回目です。やはり交通の便利がよいこと、経費が安いことによるのでしょう。

主題は「教会の前進—教団、教区、各個教会の連帯と責任」講師は東京神大教授、阿佐ケ谷東教会の高崎毅牧師最近「日本の教会のゆくえ」を出版され、近く神大学長に就任されることは御存知でしょう。その主題講演は熱のこもったものでした。

講師は、現代日本社会の急速な工業化、都市化は、都市農村のいづれにも著しい変容を来らしめている事実を指摘されました。こういう現実社会の中にある教会が著しい変容に耐えるものでなければならない、そのために教会の体質改善が必然となることを説かれたのです。教会が仲間だけで楽しく過そうという箱庭的なものから「開かれた教会」「他のためにある教会」となることでした。

キリスト教教育の第一人者である先生が「ゆりかごから墓場までの人間教育のできるところは教会以外には見出せない」と言われたのは印象的で、忘れられません。

教会はもっとよく時代の動きを見きわめ、教会の働らきを機能的に進めることの重要性を先生は語られました。この機能的にということは、一つのものがあるものに対して正当なあり方（関り方）をしているかどうかを意味する考えのようです。わかって下さいますか。

そこで私たちの教会が機能的に考えてしなければならないことは、第一に基本的な姿勢として「甘え」を克服すること—「甘さ」でなく「甘え」です—言いかえると自分でやれることを自分でやる決意を持つことです。次に、他の責任を負うことによって自分を強くすることです。教会中心主義につながる自己強化ではありません。聖書的な表現では、自分のことだけを考えていては強くなれないということです。そして自分の力を知り、自分のできる仕事を限定して行くことです。このように先生は教会の直面している問題を明示されました。

協議の時間には、主として教区と各個教会の関係について意見が交されました。教区が教会の必要に応えて来たか。教会は教区に自らの必要を提出して来たか。両者の間にほんとうに生きたかみ合いが乏しかった点が反省されました。もっと教区が指導性を持つべし、教区機構の簡素合理化を大胆に実施すべしとの声も出ました。新年度の教区活動や機構に非常に役立つものが多かったと思います。

これから教区と教会の間のコミュニケーションが十分になされ、信頼感が確立されて行けば自づと解決されると思い希望を持っています。無関心というのは最もいけませんね。今にして、研修会はいよいよ大切なものだと感じています。

教会も教職の研修には関心と理解を持ってほしいと思います。教会の前進に大きな力を持っているのは先づ教職です。長くなりますのでこの位にとゞめます。どうか四月の教師研修会には共に出席いたしましょう。では、その日をたのしみに。（I）

婦人部だより

全国婦人集会を前にして

河田文子

従来教団の婦人集会はとかく出席者が限られ勝ちであったが、一昨年秋米国から帰られた渡辺紀子先生の発案が全国各教区のもり上りとなり、昨年の委員長会で教団教会婦人であれば全国津々浦々から誰れでもが参加出来る全国集会を開くことに決定した。時は一九六七年五月五、六両日参加人員一五〇〇名、予算は一七〇万（この中参加者の旅費片道負担額一五八万）仮予算を立てゝ全国に募金をよびかけられたのは昨年五月であった。中央への募金四万円と当教区割当の五〇名分の片道旅費十三万計十七万の募金を教区地区別に分担して各教会それぞれに祈りと工夫をもって集めて来た。日本全土の各地から集められた婦人が一堂に会して各地での信仰の戦いを語りあい、共に祈って力を与えられ度いとの願いは大きく、かつてなかったこのような集会を何とかして実りあらしめたいとの祈りは友から友へと伝わって参加希望者の予想は始めの一五〇〇名をはるかに超える見通しとなった。

そこで会場も新しく青山学院記念館（二〇〇〇人収容）を借り受け、予算を更に三〇万と大巾にひろげて積極的に内容充実へとふみ切る事となった。すでに一〇三万という多額の募金を引き受けている神奈川と東京教区を除く十三教区で二万五千円ずつの募金を更に感謝をもって捧げようという事になった。今年の全国婦人委員長会での話合いである。さて各地区ではすでに精一杯の捧げ物をしていて下さるその上にどの様な方法でと教区、地区の委員たち額を集めて相談し合った折柄委員会に出席していて下さった伝道委員長長坂先生は教区から五〇余名もの婦人達が参加する画期的な集会を全教区が応援する意味で各教会が一回の礼拝献金を捧げたらと提案して下さった。思いもかけなかった御提案!!何という感謝感激教区の皆様方の深い祈りに具体的に支えられて遣わされる五十余名。二日間の集りに豊かに養われ今後、各々の教会での御奉仕が御期待に添うものでありたいと願う。

沖縄から岡山に来て

—着任挨拶—

C・H・リカード

私達はようやく三月一日、岡山に着き、この宣教師館に入りました。東中国教区の暖かい交わりに受入れて頂き、感謝しながらこの挨拶を述べさせて頂きます。ここに来る前に多くの方々から、この教区の良い評判をきいていましたが、やっぱり皆さんの暖い歓迎を頂きましたことは、リカード家にとって本当に感謝の次第です。

実は家内と私は十五年前に内地に伝道に来る予定でしたが、一九五一年頃の沖縄には沖縄キリスト教団と協力する宣教師がベル先生御夫妻だけでしたので、私たちはアメリカの本部に頼まれたように、沖縄に行くことにしました。

この十五年間の伝道と交わりは私達にとっては非常に有益な期間でしたので感謝しております。勿論終戦後の沖縄には色々な問題がありましたが、十五年の経験が私たちのよい準備になり、私たちがその体験によって皆さんの役に立つ協力者になることが出来るようにと願っています。

「私たち」と申してきましたが、家族は全部で七人になります。私、家内マーガレット、長女雪子(カサリン)、次女清子(ジーニー)、長男善雄(バービー)、三女愛子(モリン)、四女八重子(ルイス)です。上三人はアメリカに居ます。雪子は昨年大学を卒業して八月に結婚もしました。清子と善雄は大学の二年と一年に在学しています。ですから今度は四人だけが内地に引越して来たわけです。



私たちは農村向きですからなるべく農村伝道をさせて頂きたい希望なのですが、勿論全教区の兄弟姉妹と共に神の国のために働きたい気持をもっています。「私たちは神の同労者…」(コリント第一・三章九節)とありますが、その気持で私たちは皆様と協力しながら神様の同労者として働かせて頂きたいのです。私は八重山から内地に引越して来て、丁度幼稚園児が大学に入った様な感じがしています。と申しますのは判らないことがまだ〳〵多いのです。ですから皆さんの忍耐や、ご理解ご協力、ご意見、指導を切にお願いしたいのです。

宣教師になるに際して私と家内とは、日本基督教団のような「合同教会」と協力したいと願っていました。ことに戦争中私たちは日本の兄弟姉妹のために祈っていましたから、日本基督教団と協力したいと思っていたのです。

アメリカでは私たちは農村のある合同教会(ユニオンチャーチ)や、組合教会 メソジスト教会の牧会をしておりました。更に琉球では沖縄キリスト教団と協力させて頂き八重山群島に行ってからは戦前の長老教会とホリネス教会がやりはじめた伝道を、現地の兄弟姉妹と共に進めましたこんどは内地に引越して皆様と共に数年間の伝道が出来ますように心から祈っています。

出来るだけ教区の各教会、伝道所、教会のないところも廻って、皆さんの教会や、社会の状況が判り、皆さんと親しくなりたいと思っています

皆さんもリカード家に遠慮なくいらして下さい。手伝うことがありましたらそのことを是非おっしやって下さい。私たちの力、時間、能力のかぎり喜んで協力いたします。

神の国が増々強くなり、教団の伝道がもっと〳〵広まって行きますように力を合せてイエス様の愛のうちに共に働くことが出来ますように切に祈っています。主イエス・キリストにあってよろしくお願い致します。

予告

(教区教育部)

岡山県中学生大会

日時　三月三十日(木)—三十一日(金)

場所　笠岡青年の家

主題　「み言に従う」

会費　三五〇円(交通費、往復二〇〇円以上補助)

教会だより

個人消息

鳥取信和教会(柳沢菊代牧師)
念願の会堂建築を完了された。

岡山県西部伝道協議会に属する玉島、鴨方駅前、寄島、笠岡、井原、高屋の各教会では去る三月十二日相互交換講壇をして礼拝を守って交わりを深めた。

又来る三月二十四日には玉島教会を会場として讃美歌委員会後援により受難週讃美礼拝を守ることになっている。

住所標示変更

旧児島、玉島、倉敷の各市は合併して倉敷市となった従ってそれぞれ、倉敷市児島、倉敷市玉島、倉敷市倉敷になる。

阪口吉弘氏(岡山教会伝道師)
二月十二日長男ご誕生。「真」と名づけられた。

原田季夫氏(虫明伝道所牧師)
一月四日、国立岡山病院に於て召天、享年五八才。
長島聖書学舎(癩者神学校)を設立され、癩者伝道のために大きな貢献をされた。

広沢和人氏
三月をもって倉敷教会を辞され、同志社教会副牧師に就任された。在倉五年

高塚 勝氏(留学)
一年間に亘るカナダ・アメリカに於ける牧会研修を終えられ去る二月に帰朝、倉敷水島教会に主任担任教師として着任された。

鎌谷庄平氏(八頭教会)
八頭教会主任担任教師を辞され、隠退教師となられた

鎌谷幸一氏 明石教会を辞し四月より八頭教会主任担任教師として赴任される。

今井ゴードン氏(宣教師)
倉敷水島教会を辞され、二ケ年の休暇で四月カナダに帰国される。

C・H・リカード氏(宣教師)
岡山市駐在宣教師として三月一日着任された。
来岡前十五年間沖縄宣教に当っておられた。

岡山県信徒会

第九回定期総会を三月二一日(火)倉敷平和教会で開催しました。十四の教会から三四名の理事、代議員が出席。各個教会の強化、東中国教区援助のための有志献金について、(特に小教会の牧師謝儀援助のための)など話し合われた。夜は証し会三名の方の証しをきき恵みのうちに終了した。

児童福祉法による保母奨学金

教団社会委員会は児童福祉法による保母になろうとする者で法によって設立された養成機関に勉学する者に対し選考の結果適当と認める者に月額三千円をIBCの好意により支給します。
希望者は教区事務所まで。

教職子女奨学金

新規にこの奨学金を希望される方は教区事務所に申し出下さい。申込〆切四月二〇日。

編集後記

▽この号のために岡山県信徒会・桑田成郎氏、三並弘文氏、江口毅氏、永沢正矩氏長坂竜太郎氏より寄付を頂きました心より感謝します

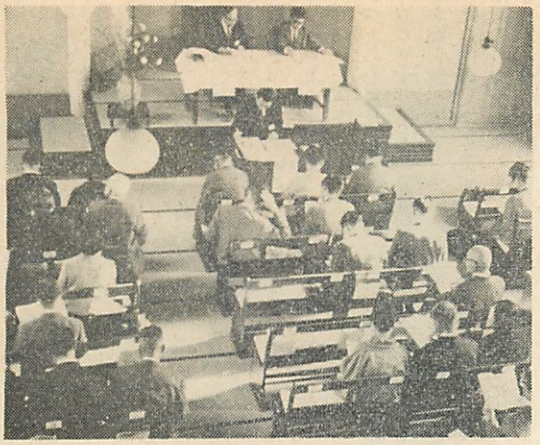
▽次号よりは新しい委員によって編集がなされるわけです。この二年間の御支援を感謝致します。

東中国

No.35

教区報

内会務所　日
教区事所　島
国教区　玉
中教督　崎
東教団　賀
基教区　阿
市教会　島
敷玉教会　玉
倉日基督　岡
発行所　敷
発行日　倉
1967年7月26日



第16回東中国教区定期総会
（於高梁教会）

主張

「機構備整を生かそう」

―新しい動き―

去る四月末、高梁教会で開かれた教区定期総会に於て教区機構整備案が原案のまま可決されました。教区はすでに新しい機構によって動き出したのであります。しかしこの機構を生かし、主より与えられている宣教の使命を充分に果すことは私たち全教職信徒の上にかかっています。理解を深め積極的に参与する中で討議、実践して行かねばなりません。

―どの様に整備されたか―

(イ)各委員会の整備

教団の中にあって私たちの教区の伝道活動が各個教会の存在する地域にあって最も適切に推進され、各個教会が連帯を深め、強化されることを目ざして」地区活動が推進されることになりました。

この東中国教区は、地域的広がりから云っても、又教会数から云っても小教区に属します。ところが従来の教区機構は教団機構をそのまま縮少した様なものでした。あたかも広い地域にわたって、多数の教会より成っている教区の如く、委員会数も、又委員の定員も多かったのです。その結果、ある人には数々の委員会委員として兼任してもらわねばなりませんでした。このことは、全ての人が分担し合って責任をもって重点的に事にあたるためと云う委員会制度の意義を半減、一部の人への過負担を来たしていました。

そこで、「出来るだけ委員の重複をさけ、各委員会の役割を明確にし、その独自の働きを推進して教区の綜合的活動を図る」ために、常置委員と伝道部委員の重複を出来るだけさけ、又各部委員会も委員数を少なくして、重点的な活動を推進することがねらわれたのであります。

(ロ)地区活動

ところで各委員会組織の面だけの変更で教区が活潑になるかと云えば決してそうではありません。これだけでは反って活動の低下を来す危険の方が大きいのです。そこで「、

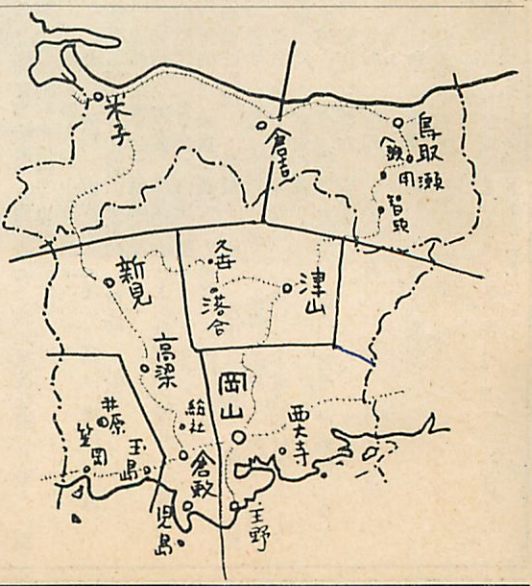
鳥取県東部、鳥取県西部、岡山県東部、岡山県北部、岡山県中部　岡山県西部の六地区が決められたのであります。これらの中には鳥取東部のいなば伝道圏　岡山県北部、岡山県西部などはすでに一昨年より活動をはじめている地区もあったわけです。

更にこの地区制にともない伝道部委員会の構成でも考慮がなされました。従来は総会議場に於て選挙された教職五、信徒三、推せん二、の計十名が伝道部委員を構成していました。

選出に当っては地域的な考慮はなされなかったのです。

しかし今回からは、教区総会に於て各地区一名の地区委員六名と選挙による教職委員二名、信徒委員二名、計十名が選出されることとなりました。各地区から一名づつの伝道委員が出て現地の各個教会と直結した教区の伝道活動の推進がねらわれているわけです。教育部委員会も地域性を考慮して各地区からの委員をもって構成されています。

この様にして青年、婦人、農伝、職域と云った各種伝道委員会の活動も地区に於てそれぞれに適合した形で執行されることになりました。



―宣教の務めを果すために―

新しいものが生み出され、育てて行く過程では、それに対する色々の受け取り方、考え方が存在するものですが、私たちの中にもそれがあることと思います。この各々の受け取り方、考え方、意見が充分に交換され理解され合ってはじめて教区の新しい動きも成長に向うことでしょう。

すでに機構整備による各地区活動が開始されています。それは第一歩です。決して完成し固まってしまったものではありません。大きい可能性をもった柔軟な幼な児の様なものです。どう育って行くかは私たちがそれをどう受けとめるか、その中でどう責任と自覚をもって働いて行くかにかかっています。

各個教会がその地域社会から孤立しているところに今日の教会の問題があります。各個教会の強化が叫ばれるのもこの点でありましょう。

しかしこの強化は同じ地域にある各教会がばら/\でなしうるものではありません。勿論他のだれかにおんぶして強化してもらうことでもありません。自立の努力がなくてはなりません。

しかし自立は孤立ではありません。真に連帯にあってこそ自立強化が生れるのです。主キリストより与えられている世に対する宣教の使命を果すために共々に励みましょう。

教区の充実

永田善治

はからずも再度教区総会議長に選任されました。もとより微力その任でないことは自らよく承知して居りますが、任ぜられた以上は、誠実にそのつとめを果たしたいと願って居ります。よろしく御協力をお願い致します。

此の度の総会に於て教区は機構の整備をいたしました。もとより機構を変えるたゞそれだけで万事が好転するとは思って居りません。

それは試行錯誤的でありまして、今の所これが良いと判断して行ったものであります。

そのねらいとする所は、教区の伝道が地区を主体として行われるということにありましょう。そして各個教会が積極的にこれに参与し、それが又教区運営に反映するということが望ましく思われます。

それと共に教会並教職に対して懇切な配慮がなされ教区が身近かにあるように覚えられたいと思います。

但、地区の主体性、自発性が閉鎖的、排他的とならないで教区の全一的総合性をもって行きたいものであります。

夫々の地区、夫々の教会に特色があり、問題もありましょうが又よい賜物も与えられています。賜物は頒ち合い、足りない所は補い合い、一体となって、み栄えをあらわし宣教の任務を果して行きたく思います。

教区の懸案に教職謝儀基準があります。目下試用期間にありまして、各教会はこの基準に近づけるよう努力していたゞくことになって居ります。

もし時期が来て基準に達し得ない教会のために、その不足分のいくらかでも教区全体で配慮せねばならないと思って居ります。

教会は何と云っても教職であります。教職の強化はやがて教会の強化であります。教職の研修向上のために意を用い、その働きの存分になされるように後顧の憂いを絶ち、老後の保障もなされねばなりません。

それと共に信徒の自覚と責任的奉仕の活動であります。我が国の信徒は教会の凍結資産であると云った人がありますが、み霊の火に溶かされて生き生きと働き、歴史的世界に対する救いの摂理の担い手の一人〳〵であるようにと願っています。

第一六回 東中国教区定期総会報告

第十六回教区定期総会は、四月二十六、二十七両日、創立八十五周年記念日を迎えた高梁教会を会場として開催された。

正議員一〇一名中七十三名准議員二〇名中九名、計八十二名の出席であった。

開会礼拝における教団総会議長の「自立」という説教に始まった今総会は、機構、財務等における従来の欠陥を補い正すことも含めて、諸案件を意欲的な姿勢で審議し、前向きの歩みのための方向づけをなして、新議長の説教をもって閉会した。

以下主な点のみを記す。

一、**教区機構整備案**が可決された。（別頁参照のこと）

単なる機構いじりではなくねらうところは、連帯的体制が更に強められることであり、又、各個教会の強化に奉仕するために、教区活動、伝道計画が重点的、有効的に推進されて行くことにある。

二、機構整備及び教団の教規変更（第十四回教団総会）にともなって、教区規則の変更が可決された。

三、**三役は再選**され、新伝道部委員長は投票によって、**米倉義一氏**（岡山）が選任された。

四、財政面においては、**緊縮重点主義**がつらぬかれた。即ち、自立連帯資金を除き昨年度とほゞ同額の収入を見込み（負担金の加重をさける）支出面では、不必要と思われる経費は、大担に削減し、教職研修会費、地区活動育成費等の増額を図るなど、実質的な予算案が可決された。

五、**自立連帯資金**は、論議の末、負担金として、各教会に賦課されることに決定したが、賦課額については、特に若小教会に対する深い配慮がなされている。（五十九の教会伝道所中、年額二〇〇〇円以下が三十二教会伝道所）

六、虫明伝道所を牧しつゝ、長島愛生園に癩者の聖書学舎を開設し、志半ばにして倒れた原田季夫氏ならびに倉敷市船倉に於て伝道された小沼遵氏（隠退教師）の追悼式が執り行われ、深い感銘と新たな決意を与えられた。

（書記　滝口　勝）

教区役員・委員一覧

総会議長　永田善治
同副議長　田井中純作
同書記（兼、主事）　滝口勝
会計　藤岡友幸
常置委員　○長坂竜太郎　○米倉義一　内藤留幸　永倉義雄　△桑内成郎　△新達治　△江口毅
伝道部（長）米倉義一
（書）井殿園
△岡山県東部∨内藤留幸　△岡山県中部∨高塚勝　△岡山県北部∨中島幸一郎　△岡山県西部∨中堀仁四郎　△鳥取県東部∨吉岡ミツエ　△鳥取県西部∨加藤俊行　△山田直義　△正保文男
〔農村伝道〕加藤俊行
〔婦人伝道〕〔職域伝道〕脇本寿子
〔青年伝道〕（長）△河田文子（書）尾熊芳子　（会）△宇山綾
〔各種伝道〕（長）高塚勝（書・会）阪口吉弘　樽川潤
〔讃美歌伝道〕小寺昌良
〔盲人伝道〕△江口毅
〔訪問文書伝道〕阪西直和　〔映画電波伝道〕井殿園
〔病床刑務所伝道〕長坂竜太郎
教育部（長）柏木宗宮　（書・会）小寺昌良　阪西直和　三浦修　樽川潤
社会部（未組織）更井良夫　△藤原正夫　村島宏
財務部（長）△桑内成郎　（書・会）藤岡友幸　△新達治　△三並弘文　△井上秋忠　滝口勝
宣教研究委員会（長）田井中純作　（書・会）内藤留幸　永田善治　米倉義一　播磨醇
教区報編集委員会長・書・△中堀仁四郎　井殿園　永田実　滝口勝
人事部（長）永田善治　（書）滝口勝　永倉義雄　内藤留幸
CEC委員会（長）永田善治　（邦文書記）滝口勝　（英文書記）H・リカード
長坂竜太郎　米倉義一
会堂建築委員会（長）田井中純作　（書）藤岡友幸　永田善治　米倉義一
教職謝儀基準研究委員会（長）△桑内成郎　永倉義雄　△江口毅　滝口勝　内藤留幸
社会保険委員会（長）藤岡友幸　米倉義一　内藤留幸
会計監査委員会（長）滝口勝　△波戸一郎　△河野通男
小寺昌良

（註）
○印は常任　△印は信徒
伝道部中∧∨委員は当該地区より選出された委員。地区長を兼ねる。
教育部委員は六地区より一名宛選出されている。

3　2　1

教区あちらこちら

——岡山市内教会——

岡山西部伝道所

昨年五月開設された教区内で最も新しい伝道所。岡山駅西口より歩いて七分、寿町の真中。「この地域は昔からの人達が住んでいるところ。創価学会はかなり広く入り込んでいる。岡山市内でも貧しい停滞した地域で、今まで教会がなかった理由も或はこの辺にあるのかも知れない」とは堀牧師の言。伝道範囲は三門から津島一帯、かなり広い。

伝道所を先づ町の人に知ってもらおうとチラシの配布、訪問伝道。昨年は約三万、今年は既に一万枚、週報作り、特別集会看板作り、ポスター貼り、集会案内配布、すべて手足となって労力奉仕をするのは堀牧師の友人たち、よい友をお持ちである。今後着実に伝道を「続けて行く」ことそして来た人を逃さないようにすること。更にこれからは説教で勝負をすること。これが課題ですと決意を示される。

この二、三年間に集中的に伝道活動が展開され軌道に乗ることを目指すこの伝道所に各方面からの協力がなされたらとねがう。

岡山教会

創立八十七年、伝統ある教会。米倉牧師は着々と教会形成に励まれる。今年度の教会標語は「教会の徳を建てるため」—教会の肢体である私達—である。信仰生活の中心は教会であり、礼拝である。そこでみ言に養われ、神の恵みに応答する信徒の群となることを目ざしている教会。あたり前のことであるけれど、あたり前として通じなくなっていることを正して行くことから…と米倉牧師は語られる。

岡山博愛会教会

「スラム街は石地みたいだ生え出ても根がないので枯れる。洗礼を受けた地域の者はみんな出て行く、花畑の人は一人前になると出て行く」。土地に定住し、家を構える者の少ないところにある。「送り出す教会」。家庭集会のできる家を持つ人は少ない。アダムス宣教師の働きによって始まった博愛会、歴史は古く七十五年、昨秋「みわざのあと」を発刊され、記念集会を持たれた。教会は更井牧師一家と職員たちを中心に設立された。更井牧師はこの仕事に既に三十四年、今は会長、理事長として内外多忙、市や県の社会福祉協議会、PTA連合会の役員など永く、ひろく社会的つながりを持ちつゝ各方面にキリスト教の挑戦を意識的に続けて来られたことは大きい。注目のディアコニッセシスターエデットは黙々と六月一日から働きを続けておられる。六ケ月の休暇を終えて

岡山聖心教会

昭和二十年、五世帯九名の信徒を中心に四畳半の集会所で始められて以来、数年間に六回場所が変ったが現在地に落ちついてはや十六年、今は会員四二〇名　礼拝出席一六八名、月定献金五四〇万、十一ケ所に伝道地を、十四ケ所にCS分校をそして生徒出席一千名を越える教会。最近網浜で八百坪の土地に見事なひかり幼稚園を開設された。決して結果を追ってはならないが、結果の伴わない働きはないと言われる永倉牧師。一今の日本では千名の牧会が可能ではないか」の間に自ら答えとされる。教会、CS、幼稚園を通して一万人にキリストの感化を及ぼしている。信徒の育成には「先づ何よりも明確な救いと召命の体験を与えること」に始まり、教会が信徒のために仕えること、そして社会生活に疲れない信徒にすることを鉄則として進む教会である。

岡山信愛教会

月刊キリスト誌四月号に詳しくのった。創立五十七年、第十代目の牧師長坂先生は三十一年目を迎えてますます元気、「わたしもキリストの証し人」を教会標語として、教会をあげて「証する。伝道する信徒になる」ことに励んで二年目、「変わりばえのない伝道を」と言われる長坂牧師、やっているようだけど実際は何もできてないことが多い。そういう点をあらためて、具体的に自分はこの人に伝道するという目標を持つことが大切と強調される。ふたば幼稚園　CSと教育にも力を注ぐ教会である。最近野田市朗牧師を迎えて少年少女大会、出席者四二〇名　腹話術によるキリストの教えをたのしまれた。

蕃山町教会

明年六十周年を迎えるが、教会設立までの十七年間を加えると歴史はかなり古い。内藤牧師は「あたりまえのことをやっている平凡な教会ですよ」と語られる。十名によって構成される長老会、六名によって毎月開かれる伝道委員会、かなりレベルは高く活発である。その組織化は見るべきものがある。「教会のビジョン—五年後の蕃山町教会—」を打ち出し着々と進む。教会全体のねらいをはっきりさせること、そして実現可能なところから教会の伝統を生かして線に乗せること。そうすればみんなの意欲は自然に盛り上ってくることをこの教会はよく知り、強く信じている。

最近庭瀬に開拓伝道を始められた。五年後に自立を目ざして……。

（S・I）

指標

「幻」（ビジョン）

米倉義一

明日の教会形成のために、教会は「新しい幻」を持たなくてはならないと云われている。しかし、それは「教会」のためと云うことよりも、「教会と社会」の関係のための「新しい幻」でなくては無意味となるだろう。

従来「教会の強化」は、殆ど所謂「教会」のためのプログラムの強化或はプログラムの推進の工夫の繰返しにすぎない場合が多かった。併し「強化」とは本質的には「教会の外側に対する使命」を担うこと以外にないのではなかろうか

「教会と社会」の関係を直接的に担うものは教職よりもむしろ信徒であると云えよう

一教会で一人の教職よりも十人の教会員が、それ〴〵の場で「新しい幻」に生き得るならば文字通り「教会の強化」となるのである。「教職と信徒」が一体となって「信徒伝道」に取組むことが「教会の強化」なのである。

「信徒論」を云々することは単に信徒の奉仕活動、伝道をプッシュすることなのではない。より深い教会論的基礎づけが必要なのである。何よりも　教職、信徒が共に「教会の本質と使命」への聖書的な不動の確信と、理解の一致を新たにすることである。

「教会の弱体」を教区活動の責任に転嫁しても何ら新しい道は開かれまい。「教会の自己疎外」—教会が本来的に教会でなくなっている—の回復には「教職と信徒の一体的覚醒」が現実的な急務である。

「信徒とは何か」此の問は、今日の教会で、適切に把握されているだろうか。私にとって「教会の強化」はいつも此の疑問を伴って迫って来る。これは教職にとっても、信徒にとっても重大な責任を意味する。この課題に真実に立ち向わない限り「共に福音にあずかる恵み」を見失ってしまうのではあるまいか。

「私は日本のため、日本は世界のため、世界はキリストのため、キリストは神のため！」あの内村鑑三の幻を想う

今日の時代に、私は「教会論的基礎」をふんまえ乍ら、日本の教会は啓発されなければならないと思う。

「教会のしるし」に主イエスキリストにあって、此の世に対する「僕」に徹することにある。「教会」は、首らなる主に「今、私達は何をなすべきか」と真剣に問うとき、こゝから切実な「幻」が与えられるであろう。

〔伝〕〔道〕〔部〕〔通〕〔信〕

▼地区伝道活動を通じて各個教会の強化を目指し、各地区での動きが活発に推進されつつある一方、教区伝道部として、十月中下旬に講師を派遣して、岡山、津山、鳥取、米子、倉敷、笠岡に於て、「教区役員研修会」を開くことになっている。主題は「教会の中に於ける役員の責任と自覚」です。詳しいことは後日決定してから連絡します。

▼「教会役員ノート」（一部五十円）が出版されます。全教会役員に常に手許において活用していただきたいものです。教区事務所に申込んで下さい。

次に各地区の近況をおしらせ致します。

鳥取県西部地区

五月二日と七月四日に地区協議会を開催し、教会活動について話し合い、大体順調な滑り出しをしている。自立、連帯、進展と題目をあげての論議はしないが、各教会の実情に沿って真面目に考えている。夏から秋にかけて合同の中、高生修養会、CS教師研修会、役員研修会をすることにした。

上井教会は四月より保育事業を始め目下会堂増築中である。倉吉教会は苗床的な春の会員移動の影響より立ち直り健闘中である。

米子錦町教会は七月二十四日より皆生の海岸で皆浜聖会を催し祈りに集中する由。西伯法勝寺教会は信徒の友記載の様に教職信徒一体となり意欲的な牧会伝道に励んでいる日野、境港、坂長の兼牧教会伝道所は、この地区活動を通して更に強められたい。

米子教会は五月下旬より数日間、中路嶋雄先生を迎えて特集をし信徒求道者共に恵まれた。又各地に出張伝道を盛んにした。（加藤）

鳥取県東部地区

八頭にご赴任の三先生を迎えて東部地区は力が増し加えられ、今年度教区総会後、五月一日ただちに、新年度地区委員会を開き、その組織をつくった。組織の責任分担は大幅に新しくなり、それぞれの新しい方々による各部活動が活発になされる事が期待されている。

四月ー七月七日現在の時点で　㈠今までに行なわれた事　㈡これからなされようとして既に決定している活動について　お知らせする。

㈠(1)　五月二十六日夜信徒研修会「教会の本質」中路嶋雄牧師、於鳥取（以下全部集会場所鳥取教会）

(2)　教職と信徒各別々の組合せによる相互応援

(3)　六月十三日「こども讃美歌歌唱指導講習会」講師長坂淳子姉、小寺昌良牧師

(4)　七月四日夜第二回「こどもさんびか講習会」講師樽川潤牧師

(5)　七月五日午後「全国婦人集会報告協議会」

㈡(1)　七月九日午後壮年部を新しく組織し弱かった部を強めようというねらい。

(2)　県下東西合同のキャンプ中学は七月三十一日ー八月二日青谷高校は八月七ー九日未恒でそれぞれ行う。

(3)　C・Hリカード宣教師東部地区問安、奉仕七月二十五日ー八月三日すでに予定がくまれている。（吉岡）

岡山県北部地区

各個教会の自主性を重んじ他から号令をかけられなくとも主体的に宣教活動を進めてゆける教会となれるように。との教区機構改革の精神に則り、夫々の教会に今芽生えている芽を伸ばす意図で、牧師会を始めました。

或教会は、「先ず地区への奉仕の一部門である保育園の運営を軌道に乗せて」と云う目標を立て、或教会は地区の青少年へのアプローチに非常に意欲的であり、又或牧師は「兎にも角にも正教師試験に合格しなくては」と意気込むなど、夫々頑張っておりますので、隔月の牧師会でその成果、或は過程を持ち寄っては語り合い、慰め合い、励まし合いつゝ効果的な伝道と牧会の業を進めて行き度く願っております。

また、津山市内の教団の三教会が中心となり、信徒活動として、超教派の美作信徒会の働きがやゝに活発化しつゝあることも、嬉しいことです（中島）

岡山県西部地区

六月十一日(日)笠岡市の青年の家に於て「合同の集い」を持った。午前中は礼拝、午后は分団にて「信徒として何をすべきか」のテーマのもとで話し合った。又この日「教会学校生徒大会も一緒に開かれた。参加者大人約八十名、子供約一〇〇名。

教会学校教師研修会　七月九日(日)午后二時ー五時、玉島教会にて開かれた。講師米倉義一牧師、十九名の参加者があった。

青年・高校生夏期修養会が八月十三日(日)ー十五(日)火に笠岡市真鍋島にてもたれる予定。

岡山県西部地区は一昨年度よりの活動の下地があり、まとまり易い。役員研修会、信徒相互応援、交換講壇、などが秋に計画実施されようとしている。（中堀）

岡山県中部地区

小さき群と嘆くなかれ。礼拝出席　名。総工費二百余万円。今秋会堂成る新見教会を最北端に細く長く、南は児島、琴浦に及ぶ岡山県中部地区。迫害の歴史今なお山肌にけぶるが如き高梁。由緒深い名刹を背后に、木の香も残る会堂の総社、激変する社会に教会よ開眼せよと地区教会へ語るが如く都計移転で苦悶する吉備、いはずもがなの倉敷市内、数多くの教会。

教師のみで相会すること再度。近く信徒も交えて積極的な地区活動へと前進の兆し充分　地区連合高校生キャンプ（八月七ー九日於六口島）連合中学生修養会（八月二十一ー二十三日於蒜溪）七、八月中地区内三グループ別による教会役員交流研修会、働く人の集い等々。

スローガンだけでは生れてこない血の通いが真剣な伝道への祈りの内から生れつつあることはうれしいことです。（高塚）

岡山県東部地区

六月十九日(月)午后七時より蕃山町教会にて第一回の地区内教会協議会を開く。牧師と信徒一名の出席を願い、十七名集まった。米倉牧師より教区伝道委員会の今年度の活動方針をきき、ひきつゞき出席者の自己紹介と属する教会の現状の報告をしあった。

岡山県東部地区は大きな教会と小さな教会（それも信徒が数名という微弱な教会）が約半分ずつ。それぞれが自分の教会にふさわしい教会活動をプランを立てて実行していることが解り、互の理解を深めあうことが出たのは幸だった。

地区全体としてはどのような形で活動して行くかの話しあいは次回(七月三十一日)にゆだねられたが、大きな教会が小さな教会と組になって、それを助けて行きながら強化するという方法がとられるのが適当なのではないかと思う

すべての教会がそうであるが特に十文字平和、岡山西部茶屋町、三石、和気、虫明などの教会の強化がこの地区の緊急な課題である。そのためのよい協力をどのようにしてするか考えている。（中藤）

個人消息

鎌倉きよ氏　八頭教会担任教師に就任された。

荒川義治氏　八頭教会担任教師に就任された。（前任地函館千歳教会）

中堀仁四郎氏（笠岡教会）寄島伝道所の兼務主任者にならられた。

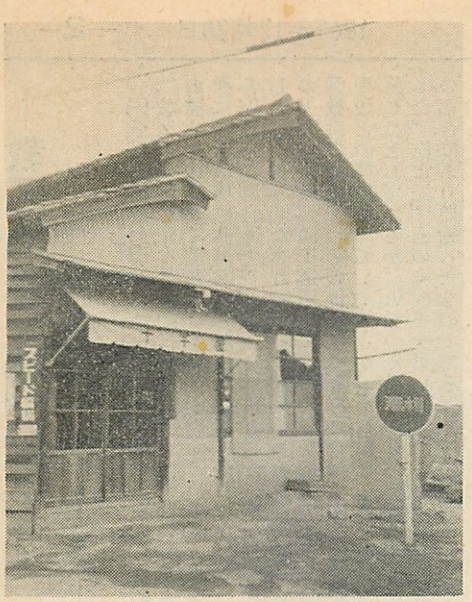
溝手十七八氏（五月に隠退）腹膜炎のため五月十八日、済生会病院に入院。二度の手術を受けられたが、余病も併発されており、六月十一日召天された。享年七八才

小野元子氏（玉島教会）引続き教区事務を手伝われることになった。

山西和恵氏（岡山教会）四月から教職社会保険事務を扱っておられる。

内藤留幸氏（蕃山町教会牧師）七月四日三女御誕生。母子ともお元気。オメデトウ。

教区報
東中国
No.36
発行所　倉敷市玉島阿賀崎　玉島教会内
日本基督教団　東中国教区事務所
発行日　1967年12月20日



寄島伝道所　（説明2頁）

主張
地区活動を生かそう

一般的に、組織はそれが出来あがるとそのまゝ固定化してしまう性格をもっているものです。職場でも教会でもそうなのです。既成の組織に固執してなかなかその固定化は破れないのが現実です。

それぞれの教会には何らかの固定化しているしきたりがあり永年の伝道方法が受けつがれて生きています。「例年通りやりましょう」「これまでの方法でいいのではないですか」こうした意見が役員会や婦人会、教師会、青年会などで結論的に出ることがしばしばではないでしょうか。いわゆるキリスト教会的常識というものがかなり勢力をもっています。ほんとうに急速に流動し変化している今日の社会の中に教会が存在する限り、その状況に即応した伝道を目指しているのならば教会は勇気をもって決断し、固定化した組織や方法を適宜に打破して行く弾力性、柔軟性を持たなければなりません。

たちの教区は、ご承知のように今年度、思い切って機構の整備を実施し、委員会数や委員数を減らしたのです。それぞれの役割が明確にされ重点的な活動が推進されることになったのです。そして同時に各々の教会が相互に連帯を深めながら強化されるように目指し、地区活動が始まったのです。

このようにして半年以上を経過して来たのですが、六地区でそれぞれに特色を生かした活動が積み重ねられていることは卒直によろこばしいことです。その進み方や内容にはそれぞれ違いがあるのは当然です。その中で教会間のつながりや対話がこれまでとは異なった形で生れて来て次々と実際的活動となって行っている事実は大いに評価したいと思います。

今の時点で「地区活動はこれでよいのか」という問は退けられなくてはなりません。綜合的評価はもっと先でこそなされてよいのです。

既に今秋実施された役員研修会は各地区単位で受けとめられて計画実行されたから、関心も深く、二百名余の参加があったと言えるでしょう。従来通り県単位で行われた場合とは違った成果です。その他夏期諸集会、CS教師講習会など、地域内諸教会の協力によって単独教会でできない内容が盛られています。近隣の他教会をよりよく知ることにより新しい刺戟が各々の教会に持ち帰られているのはうれしいことです。

しかしながら、この地区活動の中に共通理解の不十分さから生じる混乱が感じられます。又地区活動の目ざすところは何かを再び問わなければならない面も感じられます。それらはいずれ今後解消されるものでしょう。しかし地区活動において、「できること」を「できるところ」だけでやっているということで固定化してしまう危険性はないでしょうか、勿論「できること」を「できるところ」から始めなければなりませんが、できることをできるところだけでやって満足してしまうとなれば問題です。「地区がそれぞれ小さく固まるという形を取らせないように注意しなくてはならない」とのアンケートの意見は考えさせられます。

各々の教会にとって又その置かれている地域社会にとってほんとうに必要なことは何か、教会がしなければならないことは何か、を探り出し、共同で責任を負って果して行かなければならないのです。そのための「いたみ」はさけられません。さけるべきではないのです。「伝道の前進が連帯協力から生れて来ることの使命を覚えて実践しなければと思うが、忙がしい日々にとって時間を生み出すことが問題」であるとアンケートに答えられているのは注目すべきです。忙がしさの中からいかに責任を負う者となるか、それはあなたの、わたしの解決すべき課題です。各々の教会が単独では力に限度があるから共同してやりましょうというのでは根本的には自己保存的であり、自己防衛的です。各自が自分のところに吸収することばかり急いではならないのです。他者と共に主の前に生きる、それが私たちの姿です。

地区活動の意図は各個教会が連帯を深め、強化されることにあるのです。各個教会の強化とはほんとうにどんなことなのでしょうか。礼拝出席者数、受洗者数、教会財政額などの数量的な面から強化されているかどうかは問われるでしょう。問われなくてはならないと思います。しかしそれだけでしょうか。「教会のおかれている地域に対して共同の宣教責任を負うこと」によってその教会の強化がはかられると言われます。強化とは具体的にどういう内容でしょうか。

教区宣教研究委員会ではこの各個教会の強化とは何かを取りあげて行こうとしています。だからと言ってまかせて時を過すのでなく、各々で考えなくてはならない課題でしょう。

地区連帯活動の推進はいろいろの考え方ややり方があります。そして危険性や問題点が感じられます。しかしながら「評価を急ぐことなく」多くの「声を集約して建設的な対話と協力を積み重ねたい」とのアンケートの意見はもっともです。「過渡期として実践しつゝ目標を定めて行く時期が必要」なのです。

実践しつゝ目標を定めて行く、いわば試行錯誤しつゝ目標へ向うことが今は大切なのです。思考しつゝよりも試行しつゝが先だとあえて言いたいのです。

始まった地区連帯活動を今はやり続けて行くために努力が集中されることが大切です。

続けることは集会を多くすることではありません。ほんとうに必要なことを、そしてしなければならないことを各教会の実状の中から探し出して持ち寄ることです。対話することです。

組織化や制度化が地区活動の中にも必要になって来る時がやがて来るでしょう。その時には、各個教会の主体性を生かし、あくまで実際活動を進めるための組織を作って行くべきでしょう。しばしば組織は非人間化する危険を伴っています。地区活動は、各個教会を真に生かすものなのです。

（S・I）

—教区機構整備に関するアンケート—

(一)教区の実状に即して教区活動を機能的重点的に進める (二)教区の伝道計画の具体的推進と実行を図る。(三)各個教会の強化に結びつく教区の連帯体制を図る。以上の三点を目標に教区機構整備が実施されてから半年余りを経過した。各委員会の運営面で、又地区を単位とした伝道活動等々新しいこころみがなされている。編集委員会では今度一八名の方々に(イ)教区の伝道活動について、(ロ)地域の連帯、(ハ)各個教会の強化、(ニ)その他、についてどの様に変って来たか今後どの様に進めて行くべきか、それにどの様に関わって行こうとしているか。と云った点についてアンケートを出した。次に記すものは回答を頂いた方々のご意見を、紙面の都合により要約したものである。

原野清男
（琴浦教会、岡山県中）

(イ) 六地区に分かれて身軽な体勢で伝道活動が出来るとの事で大いに期待していたが、教職の方々は毎月回を重ねて協議されている様であるが各個教会の具体的活動をするまでには時間がかかりすぎる感じ。伝道が戦いであるならば速やかに戦斗体勢を整え具体的な実践活動を指導して欲しい。

(ロ) 岡山県中部地区は南北に長すぎ具体的な連帯活動が困難に思う。しかし先般各教会より教職、信徒一名の代表が出て協議会が開かれた。この教職と教会代表とが先頭に立って連帯活動も指導して欲しい。

(ハ) 十月十八日の教会役員研修会で教団も教区も各個教会強化のためときかされ意外に感じた。総本山をもつ他の宗教団体とは対照的な民主的組織に有難味を感じるが、これで統一のとれた、悪魔との戦いが出来るかといささか不安。教団教区は権威をもって各個教会の強化のために指導してほしい。

稲垣馨
（西伯法勝寺教会牧師鳥取西）

(イ) 役員研修会その他の計画がなされたが、また前年度計画の様で新しい意図は生れかねる状態。宮島での三教区合同教職研修会は有意義、教区規範のものが実施されることを希望する。

(ロ) 当地区は隔月に各教会教職役員一名の代表による協議会をもち、信徒会形成、教育活動の連帯強化等をしつつ順調なスタートをしている。二、三年のちに何か見るべきものがと期待している。

(ハ) 協議会を通し各教会の現状を知り励みになっている。ここで刺激をうけた役員が教会の役員会議事内容の強化高揚に努力、好傾向を生んでいる。

(ニ) 将来は事務的連絡のみならず教会の本質論にも触れる対話がなされ、互いに地域にある教会として責任を問い合うまでに成長をしたい。

木村八郎
（米子錦町教会牧師、鳥取西）

(イ) 六地区の端にあって感じることは教区報や地区伝道委員によって教区活動が示されそれによって進むが、兎角事務的に流れはしないか。末端の者まで伝道委員長を交えて忌憚なく語り合う時が欲しい

(ロ) 小数な地域ではまとまりよく気心も知れて動き易いが全体的には見えなくなる恐れがある。

(ハ) 各個教会としては教区の中の個としての自覚と自立的に強化を図り信徒活動に力を入れたい。

河野通男
（倉敷平和教会、岡山県中）

(イ) 地区活動のかげにかくれて姿をみせなかった様だ。地区間の交流等教区単位の高度の計画は立たないか。人材が地区に分散されて地区活動のみに役立っていると云うことにならないように。

(ロ) 地区活動は活発になって来た。具体的には今後に期待

宗官進
（津山教会牧師、岡山県北）

(イ) 地区単位の活動に切換られつつあるわけだが全体を掌握して行くべき伝道部が機構整備の主旨を生かすような働きをしているかどうか？

(ロ) 地区活動としてやれるものを企画、協力実施しなければならない。今のままでは地域的なまとまりを失ったまゝである。

(ハ) 地域的連帯のもとで各個教会が強化されて行くことが大切。

(ニ) 教区内教会のセクショナリズムを排除して行くことが必要、それが不可能ならば地区制よりセクトによる均衡をとるのも一つの方法。

田井中純作
（倉敷教会牧師、岡山県中）

(イ) 伝道部が全教会のためのプログラムを立案実施することが必らずしも教区活動ではない。地区別活動のねらいは各個教会強化になにが必要かを見つけ出すこと。今は過渡期、実践しつつ目標を定めて行くこと。全教会が責任をもってこれにあたるべきである

(ロ) 岡山県中部では従来全く見られなかった協力活動が行われ追々連帯への心構えと体制が生み出されて来ている。信徒活動、役員協議会は心強い。

(ハ) 各個教会の主体と賜物を生かさねばならないが、地区内の連帯協力を通してこのために奉仕すること、尚しばらく時をかけねば……。

(ニ) 各個教会強化とは、具体的には何が必要か、これらを求めるため神学的、実際的対話と労苦が地区をこえて必要地区間の閉鎖的競合を生まぬよう全体的配慮が必要、各委員会と地区活動の有機的協力の道を生み出すべきだ。

宇山綾
（鳥取教会、鳥取東）

(イ) 引続きいなば伝道圏伝道が進められている。

(ロ) 役員、青年、中高生、研修会、婦人講演会等に相集っている。伝道の前進は連帯協力から生れて来ることの使命を覚えて実践しなければと思うが忙しい日々に時間を生み出すことが問題である。

(ハ) 鳥取教会では六ケ所同時に家庭集会を開き信徒も奉仕している。

山田正子
（高倉教会、岡山県北）

(イ) 個々の教会のリバイバルを祈ります。

(ロ) 春秋二回美作キリスト連合大会があります。世界祈祷日は合同します。共に集うのは楽しいです。

(ハ) 一人一人主の愛にみたされ、内より出る力によって身近な人にキリストを証しすれば。

山田直義
（倉吉教会、鳥取県西）

(イ) 各種研修会が活発に行われているが、述道者一般信徒対象の伝道集会も推進して欲しい。小教会は経費の面でつい消極的になりがちだから。

(ロ) 地区の交りを通し地方で一握りの感があったが急に心強く賑やかになった。各々喜びや悩みを語り合う中で理解もまし友情も支えられる。これによって遠かった教区も大層近くなった感じがする。

(ハ) 人口流出地域の教会の悩みをどれだけこの点恵まれた都会の教会が理解出来るか。個々が弱くても連帯により相助け合うこと。地区をよせ教区、教区をよせ教団と全国の恵まれた地域と恵まれない地域の教会が愛によって一致することによって各個教会強化も出来る。

吉岡ミツエ
（用瀬教会牧師、鳥取東）

(イ) 特筆すべきことなし。

(ロ) 連帯とよく云われる割には実際の連帯は生れていない。或線までは協力してもやはり壁がある。つまり安易なことだけは連帯意識でなされるがむつかしいことは又が立たない。本当の連帯は容易でない。

(ハ) 〃強化〃と云う言葉は聞きあきた。律法の響きがし、なくさめをうけないから。

(ニ) 六地区に分れたのはよいと思う。じっくり話し合って将来の地区活動の在り方を考えねばと思っている。

一面写真説明
寄島伝道所が礼拝を守っている村上一代姉宅である。窓を開ければそこは港である。仝姉は「十字屋」文具店を経営しながら、伝道に励んでおられる。

まず何をなすべきか

岡山県信徒大会開かる

岡山県信徒大会も数えて今年で二十二回。秋晴れのもと十一月二十三日、岡山教会に於て約一八〇名の各地の教会信徒の参加者で「私もキリストの証し人」との主題を掲げて開催された。講師は教団全国信徒会副会長の西村次郎先生。「まづ何をなすべきか」と題して説教。わかりやすく実際的で心を打つものであった。印象的な内容の二、三を記すと—、信徒の姿勢は傍観者的であってはならない、スポーツの観衆の立場からプレイする者になれ、距離を設けて見ているだけであってはならない。又、伝道には二つの方法がある。吸収と浸透。牧師は吸収の面を、浸透は信徒がやることである。そして浸透は家庭集会を通して行われるのであり、話は信徒がするように、懇親よりも伝道を目指すことが重要である。等々

一同聖餐にあづかり主に結ばれ、互いに結び合わされる喜びに満された。諸報告の後昼食、午后は二会場に於て六分団で協議を二時間、綜合協議、閉会祈祷会で感謝のうちにすべてを終った。

当日会場で幾人かに大会をおたづねした。その中から先づ講演について。

「講師の熱のこもった講演に一同証し人としての自覚が与えられ、実践のためによい導きを頂き恵まれた。」わかりやすく大変よかったというのが一致した感想であった。



次に午後の分団協議についてであるが、感想、意見は次の通りさまざまであった。分団は「形としてはよかったがもっと十分に話し合える工夫がほしかった。」「テキストをあらかじめ作っておいて話し合った方がよい。」又「分団の方法にも問題があり、準備不足のためか当事者の方々の努力にもかかわらず信徒の交りと共に教会間の協力態勢を作ることを目指すにはあまり役立たなかった。」という声は分団協議への期待の大きかったことを示している。

「分団協議に於てこの大会の運営にもいろいろと問題のあることを知らされました」と熱心な婦人が話された通り、この分団協議は信徒会そのものの在り方—性格、目的、組織、運営方法など—が問われた時であった「その性格をより鮮明にすべきである」、「信徒会は基本を明らかに合理的にすべきである」、「規約をはっきりさせ、それにより運営されるよう」「メンバーは個人申込みにより会員意識をはっきりさせるように」などかなり要望が強い。

信徒大会の持ち方についての意見の一つに「いつも考えていることだが、唯形式的な会合に終ってしまうのでなくて、もっと内容のある交りを持てるように。信徒会運営の方法も問題だが、神を信じて生きる事実を声を大にして証しできるように目指してほしい。ハイクラスの信徒だけのレクリエーションの場としてだけの会でなくて、下層—経済的に、社会的に—の者たちのにじみ出るようなものを自由に話せる雰囲気の会であってほしい」というのがあったが聞き逃せない。

当日の講師の西村先生の大会終了直後の卒直な感想を最後に。「岡山県信徒会だけの問題ではないが、日本の信徒会は交りの群として以外に、もっと戦う信徒の群となり切っていないと思う。信徒の働く時代だと言われているが、教団、教区の伝道方針に従って活動することが望ましい。『伝道する信徒』を目指す歩みが今後進められるようにねがっている。いろいろ信徒会の性格が問題となったが、早急にはっきりとさせ、方向を打ち出されるように。そしてムーブメントになるように。そうしないと教職の孤軍奮斗に終ってしまう。

今日うれしかったことは、どこの信徒会でもこういう場合にありがちなのだが、今日の大会では教職に対する不満や注文がなかったことであるその点非常にさわやかだった。一日も早く信徒会の停迷を乗りこえて進んで行かれるように祈ります。」

「靖国神社国家護持の動きは氷山の一角」

靖国神社国家護持の問題はもうすでに信徒の友（11月号）やその他のものでよくご承知のことと思います。そこで繰返えすことは省きます。

ただ老婆心ながら、次のようなことを訴えたいのです。

わたしたちはとかくおかみに従順すぎるところがあり、権力に弱い体質をもっていて政治とか憲法の問題は専門家にまかすべきで素人の宗教者が口出しできないとか、「政教分離」の大原則を間違って理解し、宗教は政治に関わるべきでないと考える人が今も少くないのです。

いや、わたしたちは教会の使命に忠実であればよい、伝道一本槍でゆくべきだという声を聞きます。

わたしたちは霊的な救いを目指しているのだから、この世の中はどうあろうとかまわない、いや神が最善をなしてくださる筈、また審き給うであろうと現実を超越した考えとか、教会が使命を果して行くことによってこの世はキリスト教化されてゆくという楽天的な考えは共に怠慢を意味するでありましょう。

政治と宗教、国家と教会、この世と信仰とを無関係と見ることは悪しき二元論で、世界の主なるキリストを信ずる正しい信仰の在り方ではないと思います。

信仰のゆえに、この世の重荷を負い、政治を正してゆくためにも力を尽さなければならないと思います。

靖国神社の問題はただ単に宗教の問題ではなく、政治と深くからんでいるのであってわたしたちが政治と無関係に生きてはならないということを教えてくれます。

わたしたちが政治に目をつむるとき、信教の自由だけでなく、あらゆる市民の自由まで奪われるということは過去に経験したはずです。

靖国神社の問題は建国記念日の問題、教科書検定の問題、小選挙区制の問題、憲法改悪の問題、自衛隊増強の問題、自衛隊適格者名簿の問題、日米安保条約とどこまでもずそ野が拡がっているのです。たぐってもたぐっても切れないつながりをもっているのです。今は平和だといっているうちに、戦争は着々と準備されているのです。（この世の子らは光の子らよりも利口なのです。）

「戦争は絶対反対です」という言葉が祈りっぱなしにならないように、また泣きごとにならないようにみ言に聴き従いましょう。

靖国神社問題に時のしるしを読みとりましょう。（W）

琴浦教会
柏木和宣
耿子
電話㉓一九〇四番
（教会専用）

湖山教会
有田実
鳥取市西町四ノ四二一
電話㉒五四二一番

岡山博愛会
更井良夫
美知子
哲夫

日野教会
柴田八寿郎
鳥取県日野郡日野町黒坂

天城教会
牧師 山村好美
浦和東教会の会堂建築にご協力ありがとうございました。

吉備伝道所
土木請負
原嘉男
総社市新本

吉備伝道所
総社保育園
永田実
総社市溝口
電話②〇九一六番

吉備伝道所
堀江薬局
総社市総社一〇二
電話②〇五六三番

吉備伝道所
軽印刷の店
三巧社
三村淳
総社市西大寺

〝みこころが天に行われるとおり地にも行われますように〟
総社教会一同
総社市本町北七八五の一二
電話②一六六三番

倉敷西教会
鴨方教会
尾熊利一
倉敷市石見町三の一
電話㉒〇八四〇番

岡山信愛教会
橋本佐三
〝ほむべきかなみなによりてうくればものなよからざるなし〟
岡山市弓之町一の二〇

玉島教会
牧師 滝口勝
倉敷市玉島西末広町
電話②四〇〇九番

玉島教会
前田栄一郎
倉敷市玉島乙島倉レ北社宅一ノ二

玉島教会
池田純子
倉敷市玉島矢出町

玉島教会
西増子
倉敷市玉島新樋上町

祝 聖誕賀新年
鳥取信和教会
柳沢菊代
鳥取市吉方三二五
電話㉓三〇五八番

中国宇治伝道所
福井幸治郎

中国宇治伝道所
高梁市宇治町

米子教会
新達治

クリスマスおめでとう

富田教会
岡山県宗教者平和協議会
代表委員 瀬崎正夫

富田教会　富田保育園
河野進
倉敷市玉島八島

パスのご旅行には
冷暖房・トイレ付
三段式リクライニングシート
超デラックス車のご用命を
日本交通（株）米子営業所
電話米子②2103～2106番

桑内耳鼻科医院
桑内成郎
（高梁教会）

習字・珠算教授
楽山学院（信愛）
岡山市内田春田町66
TEL㉓—9419
桂華 岡本慶夫
絶にキなでいつもよろこんでいなさい、事がすべてのえず祈りなさい。ついて感謝しなさい。これがあなたがたに求めておられることである（テサロニケ第15:16—18）

岡山教会
小川政雄
〝証しとは自分の失敗談也〟

高梁教会
井殿福江園
準基

尾島眼科医院
尾島英之
高梁市柿木町20
TEL 2249

順正短期大学
保健科・保育科
推薦入学制度が有ります
詳細は 送料100円
高梁市伊賀町8
順正短期大学 庶務課
電話 3517番

「主の御降誕と新年のお喜びを申上げます」
倉吉教会
牧師 樽川潤
執事 山田直義
塩見章生
岸本一男
松田輝子
山田邦子
矢田隆寿
井上美津恵
鳥取市倉吉市仲ノ町七四二
電話三四八八番

岡山信愛教会教会壮年会
会長 橋本佐三
書記 永沢正矩
会計
岡山市御成町十二番十六号

岡山信愛教会
牧師 長坂龍太郎
書記 橋本佐三毅
会計 江口
岡山市御成町十二番十六号
電話㉒二三四四番

岡山信愛教会教会婦人会
会長 船越澄江
副会長 関幸子
書記 東原文子
会計 井上知子

岡山信愛教会教会青年会
会長 井神竹彦
書記 佐々木恵子
会計 滝口善子

岡山信愛教会教会学校
校長 押野きくゑ

御栄光のために正しく健康で懐けず、怠らず、忠実に働けるよう、皆様の御加祷をお願い致します。
津山教会
丹波甚八（83才）
岡山県津山市山下八一
電話 五三六一番
振替岡山一二九七番
信州・河波・讃岐各種味噌
日本胚芽・ハウザー栄養食
ローヤル・青汁の素・小麦胚芽 代理店

旭東教会
栗原小児科
栗原正
西大寺市西大寺450の5
TEL②—2362（医院）
②—3265（自宅）

標指

甘え

高塚勝

プロテスタンティズムは天に宝を積むという禁欲主義を媒体とした合理的精神をもっていたが、これと近代資本主義のもつ合理的精神とが親和関係に立ち、日本の近代化の歩みの中でも生命力をもつ支柱となって導入されたといわれる。しかしこれは土着化することなく、きわめて流動的な様相を呈し、具体的には今日「教会生活をつづけている者も、自らの信念をその働きの場で貫徹することが出来ず職場の習慣、習慣、教会生活は教会生活という風に人格分裂を起さねばやっていけないようになっている」などと批判されている。

信仰生活は、みことばに聴従することであり、みことばに聞くべく礼拝に集い、みことばに従って生きるべく各人の生活に押し出されていく。この収縮と膨脹の反復のうちに育成されると教えられている。

しかり。確かに。

しかしこゝで、私共は教会の生活の吸引面のみに強い関心を示すあまり、その浸透面をなおざりにしていることがないであろうか。

具体的な信仰生活がいつの間にか「人を見るのではなく神を見、人に従うのではなく神に従え」という錦の御旗をかくれみのとして「私のように信仰のうすい、弱い者をみないで下さい」と公言し、自らの信仰生活をあいまいに処理してしまう甘えが私共のなかにないであろうか。

私共の間で「証し人としてのキリスト者」がスローガン倒れとなってはいまいか。私共がその生活の場で浸透力を失っていたとしたらどうして証し人などといえようか。十字架を負っているなどと称しながら、与えられている時間のすべてを自分のためにだけ用い、世間の批評に迎合し、自分の一生をキリスト信仰で貫くということがあいまいにされているようなことはあるまいか。

環境が変ると——学生から社会人に……独身時代から結婚生活へ……地方から都会へ——信仰生活が継続できなくなるかもしれないとの自らの不安を、自ら認め少しの驚愕も痛みも覚えないなどということがないであろうか。

私共の生活の指導原理が、聖書を真剣に学び、切なる思いでみことばを信じ、ゆだねることの上に確立されていようか。人間の弱さを勝手に解釈し、自らを甘やかしていることがないであろうか。

教職相互応援報告

教職相互応援は、教区内各教会、教師間の相互理解を深め、主にある交わりを強くする事を願いつゝ実施されました。次の三教会から、その報告をお寄せいただきました。

岡山信愛教会

十一月四日、倉吉から来援の樽川牧師を迎え、三好野で夕食を共にして帰宅、ゆっくり歓談、私たちは初めて話し合い、親しくなり、歓びを感ずる。

五日の主日には、CSにて児童説教、礼拝説教、月例愛餐会におけるメイン・ゲストとしてのスピーチと、たて続けにご用に当っていただく。

彼は説教の準備にこの一週間は本当に充実した毎日を過し得て嬉しかったと熟懐された。お互いに準備のあるところ悔いはなく、歓びがあると話し合った事である。

教区内相互応援の意義はもち方次第であると信ずる。

（長坂牧師報）

西伯法勝寺教会

応援教師　湖山教会三浦師

集会内容　夕拝と懇談会

今回は、お互いに教会の規模も、教師の経験年数も同程度であり、日頃より親しくしている関係で、お互いに励まし合うよき機会となった。

夕拝後の懇談の時、同じ地区の問題にも触れ得、理解を深めたものと思う。

また、教師達だけで、互いの教会の問題点を話し、教区政治についてもつっこんで話し合った。

願わくば、更に、教師・信徒が共々に教会前進のために話し合えるまでになればと思う。

（稲垣牧師報）

笠岡教会

十二月三日、師走の空は晴れ、冷たい乍らも気持のいい聖日の朝である。今日は、中堀牧師は児島教会へ御奉仕。笠岡へは用瀬教会の吉岡牧師がお出で下さる筈。初めてお目にかゝる先生、若い方かしら、それとも中年の方かな、会員それ〴〵期待に胸をふくらませてお待ちする。

昨夜こちらにお着きになり牧師館にお泊りいただいている。午前八時五〇分、CS定刻前にこ〳〵とはち切れそうな笑顔を見せて下さる。早速CSの説教をして頂く。

礼拝の説教題は「永遠を思いつゝ」。明朗で熱のこもった説教に深い感銘を与えられ新たな決意をうながされた。

礼拝後、先生を中心に有志がストーブを囲み、婦人会員奉仕のあたたかいタキコミごはんにおつゆを頂きながら和やかな時を過しました。

吉岡牧師は午後三時から、寄島伝道所の礼拝に奉仕されるので三名の会員が同行しました。

交換講壇により、他教会の牧師と親しくお話しする機会を与えられ、ただに牧師のみならず、また見ぬその教会の方々に何となく親しみを感じまるで教会の親類が出来た様に思われ、感激を一層深くしました。

（松平氏報）

旭東教会
脇本寿
西大寺市川崎町四四三
電話②二三六九番

旭東教会
家野猛之
西大寺市浜
電話②二二一三番

旭東教会
浮田信衛
西大寺市北之町
電話②四五四三番

高屋教会・井原教会
小寺昌良
和子
井原市西方町八一八

鳥取教会
牧師 永田善治
鳥取市西町一丁目四二五
電話㉓一三八八番

鳥取教会附属
愛真幼稚園
鳥取市西町一丁目二二六
電話㉒三〇四四番

倉敷教会
田井中純作
（住所表示変更）
（教会）倉敷市鶴形一丁目五—一五
（牧師館）同 七—三四

倉敷教会
三並弘文
英蓉子
珪子
倶子
真
倉敷市鶴形二丁目六—一七

鳥取No.1 サービスの店
（鳥取教会員）
株式会社 中井脩時計店
鳥取市若桜橋詰
TEL ㉒3663・㉒5614

鳥取教会
宇山綾
鳥取市南本寺町六六
電話㉓三一八〇番

倉敷教会
林源十郎
幹子
倉敷市阿知二丁目二三の九

倉敷教会附属 竹中幼稚園
園長 竹中みつ
主任 神崎玉枝
倉敷市鶴形二丁目五—一五

—青年会連合研修会に出席して—

玉島教会　多賀美栄

去る十月九日～十日倉敷教会を会場に、「今日の信仰告白に於ける斗い」を主題に四竈揚牧師を講師にお迎えして研修会が開かれました。六三名の友と考える時を与えられ感謝でした。

火の無い所に煙はたたない—何となくこんな考えが私をかすめました。つまり現在の私達はあまりに考えることを忘れてはいないかしらと。私自身毎日の目まぐるしさに時間に追かけられ、流れにながされてしまっていることを感じたのです。総てインスタントに物はかき集められ、何とか「様」になり、社会生活にくっついて生きている……。火の無い所にマッチをもって行き、紙くずを集め、ポッポッと煙をあげて火をたこうじゃないか。

右を向いても左を向いても青白いクリスチャンばかり、初めて研修会に出席した時私はこう思いました。理屈ばかりで実生活はどんなのかしらと。それが三回目の研修会に出て、一体皆んな何を考え何に動かされているのかしら、と内心自分の消極さに恥じながらあたりを見廻しました。

講演の中に「香部屋の信者になるな」と云うのがありました。つまりこの世の中でたくましく生きないで教会の中だけに生きてはいけない。職場で愛される人になれ、ダイナミックな戦いに生きよ、と云う話しでした。

熱心に教会生活に生きて行けばゆく程現実生活からかけ離れ、日曜日だけのクリスチャンになる危険性につきあたりかけていた私にはガクンとぶたれた気持でした。

日本社会にあってはクリスチャンは数少い。その少数の一人として自分は何をすべき何がイエスは主であると云い得るものなのか。

現実の生活にともすれば足を引っぱられ転んでしまう私にはイエスは主であると告白する兄弟姉妹と共に一時をすごし、ここにもこれだけの同志がいると云う確信は力強いものを残してくれました。

研修会の帰り道、八輩面をして、今年が初めての後輩に「どうだった?」と聞きました。彼女は「良かった」と答えました。

—教区婦人集会所感—

九月二十五日～二十六日湯ノ郷国民宿舎に二十六教会、八〇名が参加して開かれた。鳥取教会民崎末米姉に参加の所感を頂いた。

「ここに私が居ります、私をおつかわし下さい」。この主題に対し私共はもっと一人一人確固たる決心を持ってたゝねばと痛感しました。委員の方が一方ならぬ御苦労であったと存じますが会はスムースに進められ講師の先生方はじめ主にある姉妹らしく懇談和気藹々たるものでした。分団協議でのよき発言も次々に出、誠に楽しい話し合いでした。

しかし助言の先生の申されますには、皆んな感謝～～と云っているがもっと深刻な問題がおありでないでしょうかもっと積極性ある諸問題を話し合われることを希望する、と。もっと真に困っている身近な問題について話合うべきだと感じました。

とかく私共は本音は心の奥ふかく収めておく習慣があり皆さんの意見をきくことをはばかるものです。大いに反省すべきです。閉会礼拝ルカ五章一節—十一節、主イエスとペテロとの問答は私共の学ぶべき個所であると思います。

私共は常に自分の小さい経験を重視して神の御言葉に従わない場合が度々あるのではないか。人の力には限度がありますが神の力は無限であることを感じ、反省し賢く日常生活を送りたいものです。

筋の通った信仰、賢い信者となりたいと感じました。

伝道部ニュース

▼去る十月十六日から二十日まで五日間、六地区に於て教会役員研修会が開かれた。主題は「教会の中における役員の責任と自覚」、講師は教団伝道委員、大阪城北教会牧師の船本坂男先生、延出席者数一九七名。地区ごとに行われたために得られた成果であろう。

▼夏期長期応援伝道が今年度は倉敷平和教会と湖山教会で実施されたが、更に明年度の実施希望教会を当教区で二教会選ぶことになっている。受入希望の教会は一月中旬までに各地区委員にお申出下さい。

▼教団伝道委員、大島元町教会牧師、相沢良一先生が二月上旬、一週間の予定で主として鳥取県下を巡回されます。岡山県下でご希望があれば二三教会を計画に入れ得るので至急お申出下さい。

▼農伝の小教会強化援助金を一教会五千円までで具体的な計画があれば支出できます。いづれも担当者加藤牧師までご連絡下さい。

▼讃美歌第二編が発行されました。さんびか委員会はこれの紹介と活用を期待しています。既に岡山県下で紹介と練習の会が開かれましたが、鳥取県でも二月十八日に開かれる予定です。それぞれの教会で紹介指導をご希望であれば小寺委員までご相談下さい。

▼婦人伝道委員会では各地区に一名宛、連絡協力員をもうけて地区との密接なつながりのもとに今後の活動を目ざしています。

—教区会堂建築貸出金について—

会堂建築、修理、増築のために貸出金制度ができましたこれはエルダー宣教師が献金して行かれた一八万円、十億献金剰余金一六万円余、指定献金九千円余り、合計三五万円余りで運営されています。

貸出しを希望する教会は教区会堂建築委員長田井中純作氏までお申出下さい。

なおこのために玉島教会、高梁教会より指定献金がささげられています。この基金を増すために献金下さることを期待しています。

教会だより



個人消息

倉敷水島教会（高塚勝牧師）牧師館の増築工事にかかれ、近日中に完成予定。

児島教会（藤岡友幸牧師）二十周年記念事業として会堂に二階を増設、集会室五部屋が出来た。工費一四〇余万円。

玉島教会（滝口勝牧師）六十周年記念事業として、集会室二部屋と市内を見下すめぐみの丘納骨堂を完成された。工費二百余万円。

鳥取教会（永田善治牧師）平和霊園納骨堂を完成された。工費百余万円。

鴨方駅前教会（尾熊利一牧師）名称を変更。鴨方教会となった。なお会堂建築のため募金されている。

倉敷教会（田井中純作牧師）蘇翁竹中記念館を完成され田崎健作牧師を迎えて落成感謝の諸集会を開かれた。

高梁教会（井殿園牧師）八十五周年記念を迎えて記念礼拝を守られた。

荒川義治氏（八頭教会）
平田操子氏（美作落合教会）
三村勉氏（岡山聖心教会）
阪口吉弘氏（岡山教会）
十月に実施された教団正教師検定試験に合格された。

鎌谷幸一氏（八頭教会牧師）園長をされている郡家母子寮の改築工事のため外部に六〇〇万円の募金中。

住所名変更
岡山信愛教会
岡山市御成町十二番十六号
岡山博愛会教会
岡山市御幸町四番二五号
倉敷教会
倉敷市鶴形一丁目五番一五号

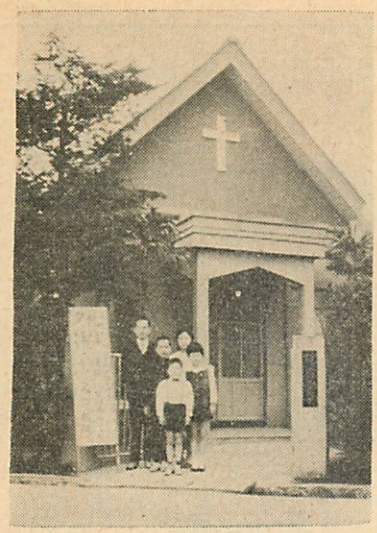
電話開通
倉敷平和教会（片岡健吉牧師）〇八六四—二三—一二一九番
総社教会（尾熊芳子牧師）〇八六六九—二—一六六三番
倉敷水島教会（高塚勝牧師）〇八六四—五五—三五七七番
琴浦教会（柏木和宣牧師）〇八六四—七三—一九〇四番

教区報

東中国

No.37

内会教島玉崎賀阿島玉市敷倉
内務事区教国東中国教団日本基督教
所行発
日行発 1968年 6月20日



津山城西教会

主張

教会の強化

一六二〇。これは全国にある教団の教会と伝道所の数です。信徒数は約二十万、その中、現住陪餐会員は十万人となっています。日曜礼拝に出席する人は五万四千人です。

一教会平均では現住会員が六九、礼拝出席三五、経常収入（月定、礼拝、特別、自立連帯資金などの献金による）は六六万四千円となります。

私たちの東中国教区には教会・伝道所は五九あります。平均数字は、現住会員五七名礼拝出席二四名、経常収入五四万円です。全国平均以下の教会は七〇％になります。

礼拝出席を例にとると、教区の平均二四名以上の教会は五九教会のうち十九教会、残り四十教会が平均以下です。

私たちの教区には小さな教会が多いということになります。「弱小教会」が多い教区なのです。

「教会の強化」が叫ばれるのは誰が見ても当然のことではないでしょうか。

×　×

ところで「強化」という内容はどういうことでしょうか。各教会が存在しているそれぞれの地域社会の状況を無視して強化がなされるとは考えられません。唯「強化、強化」と叫ぶことは律法的な感じを与え、かえって地方の小教会を萎縮させる懼れもあることを忘れてはならないと思います。

×　×

先般、岡山県中部地区で役員研修会が開かれました。その中である教職が地区内の十三の教会の教勢を五年前と比較し、分析し、いろいろの問題を提出されました。その中の一つに――

教区が示している教職謝儀最低基準に達するには、大体八十万円の経常収入が必要であろうとの推計がありました。教区内で経常収入八十万以上の教会は十一、残りの四八教会は最低基準を満すにかなり困難ということになるわけです。教規によると「第一種教会とは現住陪餐会員おおむね五十名以上を有し、教区の定めた教師謝儀の基準額、その他教会の経費および教区への負担金の全額を支弁し、教会的機能を遂行する教会をいう」とあります。これに適合する第一種教会はいくつあるでしょう。

×　×

各個教会の自給独立には教勢の伸展が先づ第一です。財政の増強と信徒の増加が真けんに考えられなければなりません。会員数の少ない教会が財政的に大きくのびるにはこれまで以上の重荷を負う覚悟が必要です。地方から都市への人口流出の著しい昨今、地方小教会は将来性のある青年信徒を送り出しつゝも、更にそれを上廻る多くの受洗者を得て行かなくては会員数は減少する一方です。自給独立には並大低の伝道活動では追いつかないのです。爆発的信徒増加がない限り数年間で数十万の財政増は望めないでしょう。

一人の教職を三十名で支える教会、同じく一人の教職を百名の信徒で支える教会、一方は生命がけ、他方は悠々、財的負担は前者の二倍、三倍。相互援助がなされなくてもよいのでしょうか。

教区には「教会強化費」があります。年五十万円、これをもっと重点的に用いよとの声があります。少額づつ分けて教師生活援助に用いて来たがそれは効果的でないという反省からなのでしょうか。

教区内には援助を必要とする教会は十指をもってしても足りないのです。「半永久的被援助教会」は多く、強化費は年々漸減するのです。

こういう自立できない弱小教会を「劣等生」のように見なしたり、思い込んだりすることは許されません。「やっかいな面倒をかける」教会と見るのでなく「なくてならぬ」教会として援け育てるのがほんとうです。

×　×

教会の強化とはどういうことなのでしょうか。数量の多少、スケールの大小ということだけではない筈です。

地方の小教会で数名の礼拝が守られ、そこでほんとうに生けるキリストを拝し、わたしの主キリストと告白するのであれば、教会は強く立っているのです。質も量も大切です。

強化は強いられるものではない筈です。小教会は強化を圧迫感をもって受けとるのでなく切迫感をもって受けとるのです。他から強いられる感じが律法的な感じになるのです。

真にキリストの教会として世に向って立ち、キリストに押し出されて伝道する、その戦列に共に立つ教会が強いのではないでしょうか。

経済的に援助の必要なところへは可能な限り援助を、伝道的に援助すべきところへは惜しみなく綜合的な援助を続けようとしている教区です。小教会強化のための額はわづかでしょう。しかし、それだけでなく、それ以上に生み出して援助して行く相互の協力――大教会が小教会を支えながら――はわづかではない筈なのです。

無方策、無関心こそ強化の最大の敵なのです。あなたの教会は、あなた自身はどうですか。

（S・Z）



津山城西教会

津山聖教会として昭和十四年三月献堂、清水良太郎牧師の指導のもとに宣教を開始。

清水師を始め、小林信夫、前田栄蔵などの祈りの人によって指導された。

第一七回 東中国教区定期総会報告

一泊二日の「教会の強化について」を主題として持たれた教区教師研修会に引続き、五月二、三両日、数年ぶりに鳥取県において、鳥取教会を会場として、第一七回東中国教区定期総会が開催された。

正議員一〇〇名中七四名、准議員二三名中一二名、計八六名の出席であった。

まず、開会礼拝における田井中副議長の「更に大いなるわざ」と題する説教によって養われ、礼拝中、永田議長司式により按手礼式が執行された。

（受按者）
荒川義治氏（八頭教会担任）
三村勉氏（岡山聖心教会担任）

引続いて、准允式が執行され左記の如き若き教職を当教区に迎えた。

（受允者）
稲垣壬午氏（倉敷教会担任）
伊藤端男氏（蕃山町教会担任）
信田　智氏（米子教会担任）
宇山　進氏（岡山教会担任）
山本　聖氏（鳥取教会担任）

今総会は、教区機構整備（昨年度総会において可決）による教区活動、伝道計画が実施推進されて一ケ年を迎えての総会であり、更に、連帯的体制、各個教会の強化に奉仕する事を目指しながら、加えて、「教団機構改正」の説明討議等も含めて、諸案件の審議をなし、永倉牧師による礼拝をもって閉会した。

よき準備のもとに議員を迎え　終始暖かいもてなしを下さった鳥取教会ならびに、地元の諸教会、教職に心よりの感謝を捧げたい。

以下主要な点を記す。

一、総会議長により「一九六八年度教区活動の方向」と題する方針が述べられた　これは今回がはじめてのことであり、教区の姿勢と方向づけを明確にするものとして注目に価する。骨子は

(1)伝道の前進（教職の研修　信徒伝道、霊的高揚）
(2)信仰告白（内実化、交わり、対話、一致）
(3)謝儀基準（教職の生活への配慮　自立への助け、互助体制）
(4)教区機構の整備（簡素化　伝道の協力、教会の強化　教区活動の機能的、重点的推進）



二、教区伝道計画案が承認可決された。

伝道部から提案された「伝道部伝道計画案」について「教会強化費の性格　使途と教職援助との関れん」、「地区の性格」、「伝道圏と地区との関れん」、「役員研修会」等の問題を中心に、活潑な論議がなされたのち、満場一致で、教区伝道計画として採択した。

（別頁「教区伝道活動について」を参照のこと）

三、教団総会は、本年秋、東京において開催されるが、教区選出議員が次の通り選ばれた。

○教職（八名）
藤俊行（次）井殿園
○信徒（八名）
桑内成郎（高梁）、新達治（米子）、兼松稔（蕃山町）、三並弘文（倉敷）、（宇山綾（鳥取）、山田直義（倉吉）、河野通男（倉敷）、前田栄一郎（玉島）、（次）小谷英雄（岡山）

四、教団機構改正の問題については、木村教団書記から印刷物にしたがって、「教団・教区・教会の関係」、「人事の適正化」、「教団および教区の機構」、「教団・教区の財政」等に関して説明があり、討議がなされた。

今秋の教団総会において、公同教会としての体制を整え、宣教を強化することを目的としたこの改正案は、修正の上、最終的に可決される予定である。

五、財政面においては、昨年同様に、緊縮、重点主義がつらぬかれた。

本年度予算は三九八、八万円で、前年度に比して、二六、五万円増（七%アップ）にとどめた。

教職研修会費が昨年度の倍額二〇万円に大巾増額され又小教会強化費が伝道費の中に移された事等は、宣教力強化のための重点的姿勢の反映として評価されてよいであろう。

六、自立連帯資金は、昨年度より、各教会に負担金として賦課されているが、今年度より、割当方法を一般負担金同様の扱いをする事が可決された。

七、「靖国神社国家護持法案立法化反対の建議」が上程されたが、審議時間不足のため、常置委員会の審議結果が総会の決議となるという前提で、常置委員会に付託することを決議した。

（五月十四日の常置委員会は、この建議案を全員一致で可決した）

八、長年、十文字平和教会を牧し、老令のため隠退されていた溝手十七八氏ならびに常置委員、教職謝議基準研究委員等教区に多大の貢献をされた小川政雄氏（岡山教会）の追悼式が長坂牧師の説教により行われ、一同慎んで哀悼の意を表した。

（書記　滝口　勝　報）

靖国神社国家護持法案立法化反対決議

靖国神社国家護持と称さる一連の立法化の動きに対して、東中国教区総会は、信教の自由を守る立場から絶対反対する。

右決議する。

一九六八年五月十四日

日本基督教団東中国教区
第十七回定期総会

教区伝道活動について

―伝道部の立場と課題

去る五月二、三の両日行われました東中国第一七回教区総会で、教団書記木村知己牧師によってなされました「教団機構改正」の御説明がありました。その中で教団と教区との活動分野改正に関する基本原則として、「教区は各個教会に直接関係する活動を取扱い、「教団」は全国的規模で行わねばならない事業及び教団段階でなければ出来ないことを取扱うものとするとあります。

更に具体的には教団段階の活動であったものゝうち、教区段階の活動となるものは、小教会強化、会堂建築小額援助、教会学校教師資格認定等があげられております。その中で教区の自主的宣教体制への機構が改正されるが、現在でも生じつゝある教区間の格差の調整は信仰告白の一致と宣教の連帯責任において努されねばならないとあります。

以上のような表現にはいさゝか官庁的な印象をお受けになる方々もおありと思われますが、やがて「教団機構改正」において起って来る現実であります。

さて、私達の属する東中国教区には五九の教会（伝道所を含む）があり、主から宣教の御委託をうけております。一九六七年度に於てこれらの教会の中、現住陪餐会員二〇名以下の教会が一〇教会、朝礼拝出席平均二〇名以下の教会が二七教会、月定献金二〇万円以下の教会が二二教会と云う統計が教区総会で報告されております。

もし教団がこれらの教会を「小教会」と指摘するならば東中国教区に於ては全教会の約半数が小教会であると云うことになります。

教区伝道部活動は一九六七年度から、教区の伝道体制は六地区を通して活動がなされております。その過去一年間の実施報告は教区総会報告に御覧いたゞく通りでありますが一言で申し上げるならば、地区内の諸教会に地区的な連帯性の自覚が生れたと云う段階でありましょう。

今年度は先づ此の地区的連帯性に於て「小教会の強化」と「地区としての宣教の責任の具体化」が推進されなくてはならないと思います。この教会の連帯的課題（地区伝道活動の課題）は教職だけでなく特に役員の方々の協力なくしてはとうてい担い切れるものではないことを強調したいと思います。伝道部の「役員研修会」の一つの焦点がこゝにあります。

「教会が強化される」と云うことは「教会の宣教力――教会の凡ゆる力――」が強化されることであります。この「宣教力」の強化は小教会だけの問題ではありません。全教会の問題であります。各個教会が夫々の教会の現実に即して取組むべき本質的な問題であると全時に、「全教会」として連帯的にその課題を担い合う事柄でもあります。

さて、伝道計画は以上のようなことを考へ乍ら今年目標として取組むべき諸活動を次のようにまとめまして、教区伝道計画として推進することになりました。

一、小教会支援対策として、小教会の援助又は強化をはかる。

イ、教区内長期応援教会（四組・八教会）

ロ、教団からの小教会強化費の配分（八教会）

ハ、各個教会の要請に応じて教区内からの講師派遣又は長期応援（集中応援）

ニ、地区の要請にて、教団教区からの講師派遣

二、地区活動の充実に伴い、地区相互の連帯協力体制の配慮

イ、地区の特性に即じた地区宣教計画と実施

ロ、地区内の小教会強化のための凡ゆる協力

ハ、地区相互連帯による右二つの目的への協力

ニ、以上の活動のための伝道部各種委員会の参加協力

ホ、更に此のための教育部社会部の協力

ヘ、諸教会の壮年層への地区、教区レベルの働きかけ

三、役員研修を実施する。

イ、出来れば役員研修委員会を設け、「信仰告白」「教会宣教体制」を軸とする研修を計画実施したい。

ロ、教職と役員の協同の〝宣教の今日に於けるメッセージ〟の問題について の懇談研究をする

四、教団による長期応援伝道を当教区に於ても実施する（今年度は、和気、三石の二教会）

（米倉義一）

指標

当然の事に責任を

一世代前まで、禁酒禁煙は日本のキリスト者の旗印であった。今日ではこれに対する批判はある。しかし、キリスト者であろうとする時、好きな酒やたばこも断つきびしさが求められていた。今日のキリスト者は教会の集会を守り献金する事を除いては、教会に来ていない人々とあまり変ったところがないように見える。信仰生活に対するきびしさが見えないように思われる。

礼拝出席にしても、仕事やつき合いやレジャーが第一になり、礼拝は「ご用とお急ぎでない方」のものとなろうとしている。だから、礼拝におくれて来ても、出て来るだけでもよい方だ、などと思い込む者も出て来る。礼拝が始まる時間には、パラ〳〵と数名いるだけ、やっと説教前に席がうずまるといったところである。時には説教が終った頃出て来る信徒もある。たしかに今日の時代は忙しいから、ふだんしなければならなくてしかもできない事が日曜日にたまって来るわけだろうし、この日ぐらいゆっくりしたい気もあるだろう。だが禁酒禁煙をしてキリストを信じたきびしさはやはり欠けているようにしてはとうてい担い切れるものではないことを強調したいと思います。伝道部の「役員研修会」の一つの焦点がこゝにあります。

「教会が強化される」と云うことは「教会の宣教力――教会の凡ゆる力――」が強化されることであります。この「宣教力」の強化は小教会だけの問題ではありません。全教会の問題であります。各個教会が夫々の教会の現実に即して取組むべき本質的な問題であると全時に、「全教会」として連帯的にその課題を担い合う事柄でもあります。

さて、伝道計画は以上のようなことを考へ乍ら今年目標として取組むべき諸活動を次のようにまとめまして、教区伝道計画として推進することになりました。

一、小教会支援対策として、小教会の援助又は強化をはかる。

イ、教区内長期応援教会（四組・八教会）

ロ、教団からの小教会強化費の配分（八教会）

ハ、各個教会の要請に応じて教区内からの講師派遣又は長期応援（集中応援）

ニ、地区の要請にて、教団教区からの講師派遣

二、地区活動の充実に伴い、地区相互の連帯協力体制の配慮

イ、地区の特性に即じた地区宣教計画と実施

ロ、地区内の小教会強化のための凡ゆる協力

ハ、地区相互連帯による右二つの目的への協力

ニ、以上の活動のための伝道部各種委員会の参加協力

ホ、更に此のための教育部社会部の協力

ヘ、諸教会の壮年層への地区、教区レベルの働きかけ

三、役員研修を実施する。

イ、出来れば役員研修委員会を設け、「信仰告白」「教会宣教体制」を軸とする研修を計画実施したい。

ロ、教職と役員の協同の〝宣教の今日に於けるメッセージ〟の問題について の懇談研究をする

四、教団による長期応援伝道を当教区に於ても実施する（今年度は、和気、三石の二教会）

（米倉義一）

短章

○ペンでつりあげた魚よピチピチとした真理に跳梁せよ。

○人世の要所〳〵に配置された斥候こそ聖なるもの。

○苦難の盃のにがさも時を得れば快楽の酒よりも甘くなる。

○愛の最高の省署を我終に十字架に見出せり。

遠藤盛子

教区会堂建築貸出資金（増改築其他を含む）造成のために—

教団は自立と連帯を柱として、諸活動を教区の主体性のもとに推進しようとしている今日迄全国教会の会堂建築には、海外諸教会の多大な援助を受けて来たが、感謝と共に今後は国内献金によって進められねばならない。これはまた教区の重要な課題である。

現在教区会堂建築委員会では、35万余円の資金を以て、一教会10万円迄（期間一年、年利三分）のわくで建築貸出を行なっている。小教区とはいえ、建築の貸出が10万円ではお粗末に過ぎる。何とかこの資金を大幅に増額して、更に必要な援助をしたいものである。

資金造成方法

①戦後より今日までに、教団より援助を受けた教会は、自立の精神を以て、出来る限り同額程度の長期献金運動を起こし、これをもって、一九六八年度より教区会堂建築貸出資金を拡充造成する。

（出来るならば、これらの教会はその赴旨を以て、新年度会計予算において配慮していただくことを願っている）。

②もとより右に限らず、全教会が連帯協力の精神を以て、このために指定献金をささげていただく。（教団会堂建築委員会の行っている教会創立記念日献金とは重複しないこと）

③その他自由なる指定献金

（教区会堂建築委員長　田井中純作）

青年伝道委員会報告

昨年実施された教区の機構改革に従い、在来あった岡山鳥取両県の県青年会連合を解散して各地区ごとに青年代表を選出し、教区青年伝道委員と青年代表とが合議の機会をもつことにより、今後の活動を推進していくこととしている。来る六月二十四日、夜、倉敷教会において最初の会合をもつこととしている。なお今年は「現代に生きる教会」なるテーマにより、すでにテキストも出版され各教会に送布されているので本格的にテーマととりくみ研鑽・前進されることを期待している。また明年十一月東京において青年宣教会議を全国より三〇〇〇名以上の青年の参加を得て開催することが企画、推進されつつある。

教区教師研修会報告

去る三月十一日～十三日、岡山市まきび荘に於て主題「宣教と信仰告白」のもと、柏井忠夫教師を講師として開かれた。又教区総会の前日五月一日～二日には鳥取市いなば荘に於て主題「教会の強化」として開かれた。

教会だより

個人消息

児島教会（藤岡友幸牧師）三月二十四日、教会創立二十周年記念礼拝と祝会をもたれた。

蕃山町教会（内藤留幸牧師）五月十九日、教会創立六十周年記念会を行われた。

倉敷水島教会（高塚勝牧師）六月二日、教会創立十周年記念と牧師舘竣工感謝の集いをもたれた。

新見教会（徳木武二牧師）来る六月三十日(日)、新会堂竣工し献堂式を行われる

名称変更

鴨方駅前教会を**鴨方教会**に変更。

電話開通・変更

倉敷水島教会　倉敷(〇八六四)五五局九二〇五番に変更

鳥取教会牧師舘・鳥取二三局一三八八番・新設

湖山教会・鳥取二八局〇五五九番・新設

住所変更

倉敷西教会・倉敷市石見町三番一号

倉敷水島教会・倉敷市北畝三丁目五番十三号

新見教会・新見市西方五五ノ一

就任・辞任

井上　勲氏　岡山信愛教会担任教師に就任された。なお、岡山旭川学園副園長を兼ねておられる。

稲垣壬午氏　今春同志社大学大学院神学研究科を卒業され、倉敷教会担任教師に就任された。

伊藤瑞男氏　今春東京神学大学大学院を卒業され、蕃山町教会担任教師に就任された。

山本　聖氏　今春同志社大学大学院神学研究科を院業され、鳥取教会担任教師に就任された。

信田　智氏　今春日本聖書神学校を卒業され米子教会担任教師に就任された。

宇山　進氏　今春同志社大学大学院神学研究科を卒業、岡山教会担任教師に就任された。

なお、右記の稲垣、伊藤、信田、宇山、山本の五氏は去る五月三日教区総会礼拝に於て准允をうけられた。

有田　実氏　智頭伝道所の兼務主任者を辞任された。

三浦　修氏　智頭伝道所の兼務担任者を辞任された。

阪口吉弘氏　岡山教会担任教師を辞し、摂津三田教会主任担任教師に就任された。

平田　操氏　美作落合教会主任担任教師を辞任された。

個人消息

荒川義治氏（八頭教会担任教師）

三村　勉氏（岡山聖心教会担任教師）

両師は五月二日、教区総会開会礼拝に於て按手礼を頒された。

小川政雄氏（岡教会役員）去る二月二十七日死去された。なお、全氏は教区常置委員、教区教職謝儀基準研究委員会委員長等、教区の働きのために多大の貢献をされた。

播磨　醇氏（光明園家族教会牧師）五月三日、黒田弘子姉と結婚式を挙げられた。なお故原田季夫氏の後任として長島聖書学舎校長としてお働きになる。

山村好美氏（天城教会牧師）来る七月二十二日より二週間、米国オレゴン州立ポートランド大学で開かれる国際喉頭摘出者協会主催の第八回発声リハビリテーションに招かれて出席される。八月末まで米加両国をまわられる。

木村八郎氏（米子錦町教会牧師）奥様がご病気で松江市の病院に入院しておられたが帰宅を許され目下自宅療養中。

◎第十七回教区定期総会の議案報告書のご入用の方は送料共二〇〇円でおわけします。

◎「キリスト教—問と答え—」好評のうちに三版印刷が出来ました。一部百五十円。ご入用の方は岡山市蕃山町二番十五号　内藤留幸牧師まで

後記

▽四月発行予定がおくれましたことおわびします。

▽教区も地区ごとの活動がそれぞれ特徴をもって活発になりつつあります。教区にある全ての教会が連帯の中で活動するために教区報が用いられるようねがっています。まず互いに実情を知り合い理解するために。

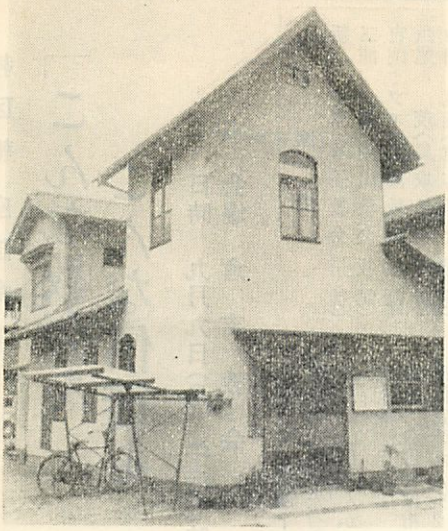
▽教会教区の活動その他について長文のご意見を頂くことがありますが、何分全体の紙面に限りがありますので短かくまとめたものを頂ければ幸です。

教区報

東中国

No.38

内会教島玉教区教師会事務所　賀崎阿島玉教団東中国教区基督教団　倉敷市日本基督教団
発行所　1968年10月20日
発行日



新見教会

主張

靖国神社問題について

靖国神社法案がいよ〳〵国会に出される見通しが強くなって来ました。教団は「靖国神社問題特別委員会」を作り超教派的に取組んでいますし信徒の友、心の友などでも特集を出しましたので、この問題が日本の教会にとって重大な課題になっていることはご存知と思います。

事は重大であり、さしせまっている故に、下からの盛上りも強く、全国各地で反対声明（各教区、教会、諸団体で五四）が出され、署名、街頭行進、講演会など巾広い運動が展開されています。当教区でも五日の教区総会の名に於て「靖国神社国家護持法案立法化反対」を決議しました。

ところでこの決議は果して各教会に主体的自覚的に受けとめられているでしょうか。靖国問題特別委員会の集計によりますと、東中国での反対署名は一六四七しか出ていません（全国十五万）。全国で最低です。他の教区のことですが、会員五〇名位いの教会ですでに千五百の署名をとり第二陣に千五百を目標に街頭署名に入っているとのことです。数字によって全てを断ずる訳ではありませんが、十五万中千六百余りと云うのは私たちの関心の薄さ、取組みの弱さを物語っているようです

「教会は伝道一本で行くべきだ。個々の魂が大切、政治社会問題に気をとられてはならない」と云う考え方があります。今その当否を論ずるのではありませんが、もしこの様な考え方から靖国問題が避けられているとしたら今一度考え直さなければならないと思います。それとも教会はこれに取組むことも出来ない程に無気力になってしまったと云うのでしょうか。「教会強化」が叫ばれています。それは集会出席者、献金の増加や立派な会堂が建つところにのみあるのではなく、この世にあって「地の塩」として発言し仂いていくことの中にこそあるのではないでしょうか。

なぜ反対するか。靖国神社国営化は戦争への道に逆もどりの危険があるから。

この法案の目的には「戦歿者及び国事に殉じた者をまつりその英霊を尊崇すべきであると云う国民感情にかんがみこれらの人々に対する敬意と感謝の念を表わすため、その遺徳をしのび、これを慰めその功績をたたえ……」とうたっています。第二次大戦では関係国で五千万人が死んだと云われます。この犠牲者に対して私たちは大きな痛みを覚えます。「お国のために」と純粋な気持で戦場に散った人たちを粗末にしてはなりません。遺族の悲しみ痛みを無視してはなりません。この死を無駄にしてはならないのです

しかしそれは戦死そのものを直接的にたたえることによってはなしえないのです。

「戦死―無意味であったことを認めてそれを無意味でないものへ転換することによって意味づける。そのためには二度と戦争をくりかえさないという風に弁証法的に考えることが必要、戦死自体をそのまま意義づけようとすると結局戦争讃美になる」（家永三郎教授「働く人」）「あやまちは再びくりかえしません」と云う決意によってのみ戦歿者の死は生きて来るのではないでしょうか。ところが靖国神社法はその目的にもあるように直接的に戦歿者を尊崇しようとしています。

靖国神社は明治政府が官軍の戦死者のために建てた招魂社にはじまるものです。以後日清日露、満州、日中、大平洋戦争とそのたびごとにまつられる戦死者はふえ、又その祭儀も盛大になって来ましたそれは死者の霊を慰めるよりも生きている兵士、国民の士気を鼓舞し喜んで死ねる者をつくり出す役割を果して来たことはご存知の通りです。

ところが今この性格が清算されずに又そろ靖国神社が国によって持出されて来たのです

事実上の強力な再軍備、国防意識の高揚、神話教育の復活、建国記念日、など最近の様々な復古調傾向をみる時、ここに戦争への道につらなる危険を感ずるのです。

第二は、この法案が「信教の自由」を犯すものであるからです。憲法はどんな宗教を信じてもよい自由と、それ故に国が特定の宗教に公金を使用してはならないことを規定しています。ところがこの法案は靖国神社を宗教法人より外して国費で管理しようとするもので、これは経済的問題ばかりでなく、国民の宗教心を混乱させ、戦前の様な思想統制をもたらす危険があるのです。明治憲法も一応「信仰の自由」をうたっていましたしかし国はあの「神社は宗教でない」と云う詭弁のもと天皇礼拝、神社参拝を強要したのです。それは戦争遂行のための国論統一の強力な道具でした。あの時私達は自分の良心、信仰によって行動する自由を一切失ってしまったことを忘れてはなりません。ところが今これと同じ論法で靖国神社を国が管理運営しようとしているのです。もし今これを見過しにするなら、この一角から次々と信仰の自由、思想良心の自由は犯されて行くことになるでしょう。

全ての人にとって「信仰、思想、良心の自由」はその生存権とともに保障されなくてはならないものです。信じもしない信仰が力でもって強いられると云うことは魂の殺人であります。

ところがこの法案は最も大切な人間の、この内面的自由を犯す危険を持っているのです。私たちは隣人がその魂を犯される危険にさらされていくのを座視するならば、隣人を愛せよとの主の言葉に従っていないことになります。今すぐに、又は直接関係がないとたかをくくっていてはならないのです。犯されたことが判った時には手遅れです。手のつけようのないものになっていることは私たちの経験したところではないでしょうか

教会が本当に主の業を行い地の塩、世の光として宣教の本来の使命を果すことを願うならばこの問題はなおざりに出来ないはずです。皆さんの奮起を期するものです（T Z）

教区報座談会

「こんな教会をこんな信徒を」

日時　九月九日(月)午后七時
会場　倉吉教会

出席者
新三浦　達治(米子教会信徒)
吉岡ミツエ(用瀬教会牧師)
西尾　修(湖山教会牧師)
山田　茂(鳥取教会信徒)
加藤　俊行(米子教会牧師)
垣屋　幸子(境港町伝道所信徒)
編集委員　義美(用瀬教会信徒)
滝口　勝(玉島教会牧師)
永田　仁四郎(笠岡教会牧師)
井殿　実(吉備伝道所牧師)
　　園(高梁教会牧師)

——三つの発題——

司会者　では先づ倉吉教会の山田さんから御意見を。

山田　倉吉では市内の四教会がカトリックも含めて合同行事をやっています。牧師会の発案から、信徒会が生れ数年来、毎年四、五回集っていますが、この中から次第に教会相互の交り、信徒相互の交りが生れて来て、大変よい結果が与えられ感謝しています。この経験と共に、教区の機構改正を受け入れました。私が感じていることは先づ、地区に於てもそれぞれ伝統の違った教会ばかりで心配でしたが、始まってみると非常にいいですね。宣教のためには何といっても協力一致が大切です。旧教派の違いは越えるべきでみ名による一致と宣教のために結束すること。これが一番重要だと思っています。それからもう一つ、機構改正でよかったことは、鳥取県側から教区役員に伝道委員、教育部委員にそれぞれ二名づつ、計四名が従来より多く参加できるようになって、教区との結びつきが強化されたことです。

司会者　ありがとうございました。続いて鳥取教会の西尾さん、どうぞ。

西尾　私は受洗してまだ四年教会生活が浅いのですが、現在会計を担当している者です

——はじめに——

中堀　教区の機構改正の後、新しい活潑な動きを示し、人口流出地域で困難な状況の中にありながら、教会形成にはげんでいらっしゃる鳥取県下の諸教会から、みなさん方に集っていただきました。これから「どんな教会を作ったらよいか——どんなところへ教会形成のねらいをおいているのか——期待される信徒像」という点について、現実に立って具体的に話しあっていただきたいと思います。どうぞよろしく。

私共の教会ではノンビリムードがあります。何とかこれを打破して教勢をのばそうということで、次のようなことを努力しているのです。先づ「聖日礼拝を守ろう」。次に「グループの充実を」婦人部、青年会、高校生会、オリーブ会、壮年会、それぞれの中で交りを強くしようとしています。みんなが必らずどれかのグループに属するよう目指しているわけです。それから、「家庭集会を重んじよう。」祈りの大切なことを覚え、毎週グループ別に奨励者をきめてやっています。この他に伝道礼拝を第三聖日に行ない説教を求道者向にするなどしています。

ところで「どのような教会を作ったらよいか」ですが、私どもとしては現代社会に奉仕する教会になりたいと願っています。新興宗教に人々が入るのは、求めいるものを与えているからでしょう。私共の教会でホントウのものを与えること、よろこびを与えるものであることをしっかりと話して行く。今の社会も人に何が最も大切であるかを伝えて行く、そういう教会になりたいと思います。



どういう信徒であるべきかそれは社会に出て働らく信徒ホントウのクリスチャンとなることでしょう。毎日自分を聖書で砕かれ、変えて行くが大切です。その身をもって実際の社会に働らく信徒になることだと信じます。

司会者　では湖山教会の三浦先生お願いします。

三浦　私達の教会は新しくできた教会で湖山という名称になったのは二年前のことです今から十年前に上山姉の家庭を解放していただいて集会が始まり、昭和三十年に教区の開拓伝道地として指定されたわけです。エルダー宣教師、有田先生によって支えられて来ました。よく危機の時に、ジャンダークが現れると言いますが、私共のところも同じで、ピンチになると女性信徒が現れ、支えて働いて来た実績があるのは感謝です。

私が来任して三年その間に聖日礼拝の守り方、献金のとらえ方が変って来たと感じています。

「どんな教会形成をしているか」ですが、私のところでは第一に教会生活の姿勢を受身から能動へ変えて行くことに努力しています。その一つが五キロ離れた賀露への出張伝道となっています。

第二に、教会の年間標語を今年から定めて「教会はあなたを必要としている」としました。そして教会内に五つの部を設け、四十人が必らずどれかに属するようにしました

広報部——週報やチラシ、ポスターを作る。伝道部——、音楽部——毎週の奏楽の他に音楽を通しての伝道を計画する。厚生部——いちご、ジャム、卵などを販売して利益を教会にささげる。そして会計部とです。

何故こうしたのか、それは湖山教会に沢山の人が集まることは望めないが、ギデオンとその部下のように、少数の精鋭が十分に働らき、都会の十人分に相当する働らき人になりたいと思うからなのです

第三に、一人一人が種まき伝道をするようにしています「こころの友」を信徒各自で何部かを費用自分持ちで配布するわけです。

それから、学生伝道の使命を負う教会となることです。二年前に鳥取大学が湖山に綜合移転して来てから、十数名の大学生が来ています。知識に傾むきがちな信仰生活を考えたすえ、ワークキャンプをして体で覚える信仰を目ざしました。体を通してキリストの苦しみを負うようにしたのです。その結果よく働らく信徒が与えられました。

更に、地域伝道の根幹は教会学校による伝道だと思います。これに力を注いで行きたいのです。

私の教会の置かれている地

域の中に、古いものと新しいものがあり、この間に立って教会がいろんな形でとりなしを行う使命があると思いますいずれ時が来たら、会堂と幼稚園を建築し、チャイムを備えつけキリストの招きをひろく行ないたいと夢みています

最後に、私共の教会は他の方々の祈りと支えによって成長して来ましたが、更に今後は困難の中にある他の教会のために労する教会となる使命があると思っています。長くなりましたが以上です。

司会者 それぞれ三人の方々から教会の現実の中から問題点を話して下さいました。ありがとうございました。では残る時間をみんなで話し合いたいと思います

——他教会とのふれあいの中で——

新 倉吉では市内四教会で合同行事を行っていらっしゃるようですが、その効果はいかがですか。自立という点では問題はありませんか。

山田 他教派の教会との交流によって、それぞれの特徴を学ぶことができます。

新 どんな教会を作るかという主題ですが、先づ、各個教会の自立強化をどのようにしたらよいかという問題が大切だと思います。この点参考になることはありませんか。

山田 各個の「個」を強調して行くことは勿論大切ですがその反面、市全体という大きな方向から考えることも大切で、それを求められていると思います。



いうことも重要です。今、教団内の教会はキリスト教の根本精神に立ちかえっているのだろうか。政治や国際問題に対する関心は強いけれども、教会が内部で、社会に対する姿勢がどうあるべきか、私は先づ何といっても伝道だと思います。その伝道ができているかどうか反省してみることが大切です

私共のところでは宣教の困難なところであり、人口流出地域ですか、市の周辺への伝道を重視しています。

山田 根本とおっしゃいましたが、それははっきりしています。日本のクリスチャンは少数ですが、少数者はわづかの差異を超えて一致することが大切だと思います。

司会者 垣屋さんどうぞ。

垣屋 私は先づ第一に、個人個人の信仰を強くすることだと思います。クリスチャンはもっとはっきりした態度を持つことです。

司会者 新さんのお考えはどうなのでしょうか。

新 教会の中の各部が強くなることが大切です。勿論一人一人の信徒が強くなることも大切です。

——社会の問題に対して——

もう一つ、現代社会に対して教会はいかにあるべきかと

——伝道への信徒の参与——

西尾 私は教会が、持っているものをよく知り、その必要性を世に向って主張することが大切だと思います。教会は何のためにあるのか、それを信徒はよく考えて、伝道に参加することが重要です。

新 そうですね。聖日礼拝や祈祷会を守るにしても、信徒の意欲的な参加こそが問題なのです。

西尾 信徒の中、せめて二十人程でも、本気になって結束して行くと大きな力が出てくるのですが——。

——聖書に聞く信徒——

吉岡 私は、信仰生活をしていてもどこか弱さがあるのは聖書がほんとうに一人一人の生命になっていないからだと思います。聖書を読む姿勢が問題です。聖書に聞き、聖書から判断する人になり、聖書に養われていないと思う。聖書をほんとうに読んでいる人からは力が出て来ます。教会形成のねらいの一つはその辺にあると思います。本気でみことばに取り組む訓練がなされて行くことが基本だと言えます。

加藤 私のところは境港市内にある教団の小さな伝道所ですが、鳥取県西部地区の諸教会の協力を受けて、いつか専任の牧師を迎えて伝道できる日の来ることを望みながら進んでいます。

キリスト教はわかりにくいとか教会は敷居が高いとかいう印象を一般に与えてはいけません。集りやすく、親しみを持たれる教会になりたいとねがっています。信者が一般の人とは違っているのは当然ですが、あまり変った印象を与えないようにして、ホントウのキリスト教信仰のよさを身をもって表わして行くようにしたいものです。

——他の地域への関心を——

司会者 今、地区の協力ということが言われましたが、加藤先生、教会の強化と地区活動という観点から御意見を。

加藤 日本伝道の観点に立ち米子は山陰の中心として、他の地方の教会にも貢献したいとねがい、その使命を信じてやって来ています。信徒にもこの使命と幻を持ってほしいと訴えています。地区活動はこういう考えにそったものだと思います。

私たちの教会では、日野や坂長、淀江など六、七ケ所へ足を伸ばして周辺の地域へ伝道をしたいと願っているのです。西部地区としては互いに協力して、各個教会を強化して行きたいものです。

信徒も自分の家庭の問題だけにとどまらないで、ひろく地域社会の問題にも目を向けその解決に励むことが大切だと思います。

その力はどこから生れるのか——それは祈りからだと信じています。聖書と密室の祈り、それが個人の信仰を確立させるもので、他を負って立つことになるわけです。教会として祈祷会がもっともっと強力になるべきです。

社会問題への関心も持たなくてはなりませんが、それよりももっと本来の宣教の業に徹しなくてはならないと感じます。そして信徒はそれぞれ与えられている現場においてキリスト者としての見識を持って主体的に生きることだと思います。

垣屋 いろいろお聞きしていて私は三つの点を示されました。①自分の信仰の確立②伝道意欲の強化③献金の増強です。

自己の信仰の確立は、先ず自分で聖書を読み、自分で祈る、自分からすすんで聖日礼拝と祈祷会に出席することです。いつも唯、人から聞くだけしていては駄目です。自分で自分の姿勢を作り上げる。それでなくては「身についた信仰」とはなりません。キリストのあがないによって救われた感謝と喜び、それを思うならそれぞれが自分のものを生かすことです。

次に伝道のことですが、自分に与えられている得意なものは何か、その得意なものをもって働いて行くことが伝道になると信じます。岩村昇先生が「外向きになればなるほど、自分の内なる信仰が強まる」といっておられる。その通りだと思います。死にものぐるいになることが大切です

——献げる——

第三に献金のことですが。十分の一献金をすれば必らず祝福が与えられると聖書にあ

りますよ。私はやってみようと始めたわけです。確かに恵まれました。聖書に間違いはありませんでした。今もやっています。そうすると生活自体は豊かにならなくても自分の信仰は恵まれ、祝福されて来ます。これだけしたらこれだけ自分に返ってくるという打算的なものではいけませんね。

吉岡　それを教会に帰って言って下さい……(笑)

垣屋　私は毎日の売り上げの中から一定額を別にしておいて教会のためだけに用いるようにつとめています。

山田　献金はやはりおっしゃるように技術の問題ではありません。信仰の問題です。私の教会は収入の多い信者はいませんが誰かが次々に増額して、自然に増加して来て恵まれています。

――青少年への伝道を――

加藤　私たちの教会で足りないのは青少年伝道です。そこで中、高生伝道を強くしたいと願って伝道師を迎えました育てても流出して行く年令層ですが、必らずどこかで成長して行くものです。

各部の活動はやはり自主的にやることが大切だと思います。

司会者　湖山教会から先程学生伝道に使命を与えられていることが話され、又今、青少年伝道へ力を注ごうということでした。ほかにはありませんか。こういう町のこういう教会としてこの辺に具体的に力を入れたいということはありませんか。

吉岡　私は就任して二年位たってから今まで、ずっと考えていることがあります。それはもし許されるならば子供たちへの伝道に専念できないだろうかということです。用瀬の教会は子供を育成する教会となりたい。

日頃子供がよく来ますがなかなか十分な相手ができないのです。私が忙しいと思うからです。教会に一緒に宿泊したり、話し合ったり、体をぶつつけ合ったりする中で共に成長して行きたいと思うんです。中学生などには特にそれを強く感じるのです。それに教会にはよい図書をそろえて利用させたい。本気になったらこれ位のことはできるでしょう。

中堀　子供伝道の教会を作りたいということ、これは農村地方では特に大切だと思います。子供たちが受洗するかしないか、それは別として、それをやっている教会は非常に強くなると私は思います。

――地域の中へ、人々の中へ――

三浦　他の教会でやっていらっしゃることかも知れませんが、私は教会が「よろず相談所」のようなものを持ちたいですね。そして信徒がクリスチャンである自分を隠すのでなくて、人ごみの中にキリスト者として生き、人々のよい相談相手となれるように願いそのために互いに訓練をしていきたいと思います。

それから黙々と捨石になって労苦してゆく信徒、ほんとうにその人の姿を見るとはげまされるような信徒を育成したいと思います。

そして最後に自分が教職でありながらこんなことを言うのはおかしいでしょうが――ほんとうに教職を大切にする教会となってほしい。その中で牧師は物心両面のエネルギーを与えられるものでしょう。「先生には私の生活以上をしてほしい」、例えば自分はサンマを食べるが牧師にはヒラメをというようにです。こんなことは自分の教会では言ったことがないんですが――。

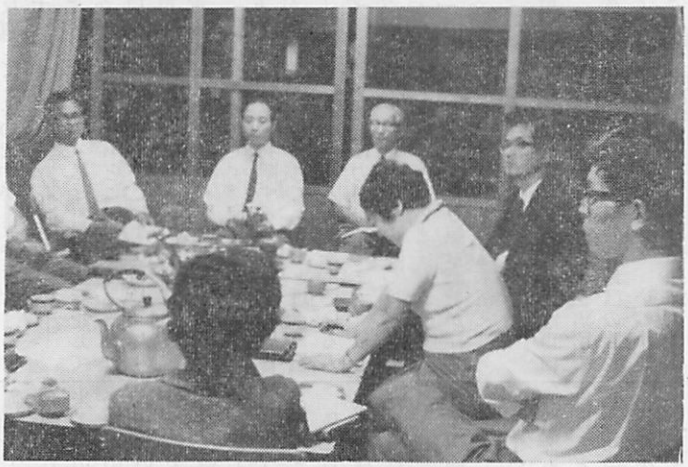
(一同笑)

それからもう一つ信徒から教えられたことですが、教会は何かが手許に用意されてから事を始めるのでなく、いつも零から始めるものですね。一五〇万円かかった牧師館も零から生れたものです。

私のところでは「教会銀行」を設けていますが、これは信徒がそれぞれの貯金を教会へ集めて、三万、五万とまとめて資金を作りました。そして信徒の必要に役立てゝ貸出して行くようにしています。大変よろこばれています。

司会者　鳥取教会は何か地域社会に対して働きかけていらっしゃるでしょうか。

西尾　私の教会は今話されたようなことでも同じです。何か一つを責任をもってやって行けば、牧師先生の苦労も他の信徒の苦労もよくわかって来るものです。



ような形での働きかけはまだ行っていない気がします。

――自分をあらわすキリスト者――

信徒が職場において、自分をできるだけ隠してこそこそしていて、そして日曜日になるとやっとの思いで教会へ出席しているという現状ではいけませんね。

新　それは会計や献金だけのことではないですよ。教会のすべてのことでも同じです。

西尾　それから生活の中での伝道ということですが、家庭の中でキリスト教的実践が大切だと思います。又職場でもクリスチャンとしての自分をはっきりさせる時に共鳴者も現れてくるのです。そろっと教会へ行って、帰って来たら黙って地域の中へ同化し、埋没しちゃっている……。

――おわりに――

司会者　残り時間も少なくなりましたが、それではみなさんに言い残したことや、これだけはということだけをどうぞおっしゃって下さい。

三浦　大切なことは「私はほんとうにキリストにあって造り変えられた信徒です」という自覚であると思います。私の教会へ転入会して来て旧牧師館に下宿していただいている一人の姉妹が生花を習っていて、そこで自分はクリスチャンだと言ったところ、その先生が「私は前から教会へ行ってみたかったが機会がなかった。一緒につれて行ってほしい」ということで礼拝に来られるようになりました。今では孫達に信仰を是非持たせたいと言われる迄になりました。自分がキリスト者であることを明らかにして交りをもって行く時に、次々とキリスト者が作られて行くよい実例ではないでしょうか。

垣屋　私も同じように「自分がキリスト者であるとの確信をもって生活する」これが一番大切だと思います。そして教会員が協力して和気あいあいのうちに伝道するのでなければ効果はあがらないと思います。

山田　正々堂々と自分がキリスト者であることを言いあらわすことですね。

司会者　最後に井殿先生どうぞ。

井殿　すべて言いつくされた感じです。地域社会への働きかけは、教会としてなされる場合と信徒各自がする場合があると思います。例えばPTA役員、民生委員、市

—夏期長期応援報告—

教団主催の夏期長期応援を受け入れた三石、和気両教会（リカード牧師）は兵庫教区山崎教会の嶺重知牧師を迎えて多種にわたる集中伝道活動を行った以下ご奉仕下さった嶺重牧師と教会側から実施後の感想文を頂いた。

応援伝道雑感

嶺　重　知

東中国教区に遣わされ、温かい交わりのうちに奉仕の機会を与えられた事を深く感謝している。他教区から応援して特に感じた事を率直に申し上げたい。

数十年の歴史ある三石、和気両教会は長い間、見捨てられていたのではないか。最近宣教師による集会活動が復活して新しく幻をもち伝道を活潑にしようとしている。教区伝道部や分区が眼を向けて動き出しておられることは嬉しいことである。

応援して感じることは、リカード宣教師がよき働きをしておられることである。しかし、やはり日本人牧師が早く定住することが適当でないかと思う。宣教師はもっと広く教区内全教会の為に奉仕すべきではないか。勿論、自力で教職を迎えることが望ましいが、両教会の場合はそれが出来るのはいつの日であろうか

やはり、教区や岡山市内教会が経済的にも支えるのでなければ、早急には実現しないであろう。多くの地方教会をかかえている教区としては無理な面もあるが、重点的に支援できたらと思う。それと共に岡山市内教会で特に「兄弟教会」として全教会的な交わりをする教会があってほしいと思う。少数である教会員は孤立感に陥り易い。従って例えば、高校生、CS教師、役員等の合同の研修や集会のプログラムをもち、良き交わりと協力が出来たらと思う。或る教会と教会の共同牧会のような在り方も出来るのではないか。又、都市教会の副牧師がそこに定住し乍ら協力するのも一方法であろう。

主イエスは「誰が隣り人になったか」と問いかけておられる。信仰生活において自己の信仰を守ることだけを考えが自己閉鎖や福音の射程を狭めることであってはならない。隣り人になろうとしない者は成長しない。教会も自己の維持と発展のみを願い、隣にある教会の窮状を見捨てるなら主の祝福によって前進する教会とはならないであろう。

現在兵庫教区播州地区では色々な形で協力伝道の試みがなされている。山崎教会では隣りの播磨新宮教会が教職を求め乍らも自力では難しい状態をみて、経済的にも幾分の応援をし教職を迎えて、互いに宣教の為に重荷を負い合いつつ共同牧会のような試みを始めている。

応援伝道によって、山崎教会も主の恵みに与かり感謝している。これで終ったのでなく今後もよき交わりと協力ができたらと思う。最後に、教区が血の通った教区となる為によき協力を願うものである

妄言多謝



指標「自己閉鎖」

最近「今日の教会」という機関紙が送られてきた。お読みになった方も多いと思うが念のためその主張の一部を引用すると、「人はキリストの福音を聞き、これを受けいれて救われる。このきわめて初歩の原理を忘れているかのごとく、教会が福音宣教以外の他のことに興味をもちすぎるとしたら、それは明らかに間違いである。」教会はあくまで福音宣教を中心使命としなくてはならない。教会が政治発言を強め説得力をもつこともよい、教会がどうしても社会行動をしなくてはならない時のあることは事実であるといいつつ、全体の立張は或人々が考え、活動していることは福音宣教ではなく他のことが考えられているといっている。

今日の教会の編集委員の人たちは「戦争責任の告白」にも反対してきた人たちであるようであるが、このように有能な人々がどうして「大衆の生活に対して共同の責任を負う」ということが承認できないのであろうか。福音とは本来この世のものでないのであるが、それにもかかわらず、この世と連帯となるものでなければ福音の名に値しないのではないか。

福音宣教が中心的使命でなければならないということは確かに正しい。しかし中心的使命というとき、それは宣教一本槍という意味にしか発音されないで、きわめて狭い意味のケリユグマの宣教に限定される。

「教会は純然と教会内の問題、個人の悔改めやキリスト者生活の革新、神学問題や礼典問題だけにかかわりあっていればよいのか。世の問題、社会や政治の問題は世間人に任せて、教会は世に起ったことは何でも既成事実として承認し、肯定し、支持し、こうして世の後を追って忍苦したり反抗したりしながらついて行けばいいのか。こうした世からの逃亡と自己閉鎖、〈政治からの自由〉は楽しき昔日の自由、十九世紀的ブルジョアジーの自由にすぎない。」（山本和著「現代教会論」二〇九頁）

教会が政治問題に取組む時それは単なる社会的関心や、福音とは別の華々しい社会的活によって英雄を気取っているのではない。福音は政治の問題にまで射程を持つ、政治にまで責任を負うものである

戦時中の教会が陥ったあやまちの原因はその権力に弱い体質や社会的認識の欠除よりももっと深いところにあったといわれる。それは宗教と政治を分けて考えた二元論に立っていたということである。福音宣教に徹するということが自己閉鎖や福音の射程を狭めることであってはならない。隣り人になろうとしない者は成長しない。教会も自己の維持と発展のみを願い、隣にあ

※町村の婦人会委員などをしている信徒の方々がかなりいると思います。そういう人達のよい働らきが教会の中では殆んど語られないし知られていないのではないか。逆に考えるとそれぞれの場で自分がキリスト者であると語られているのだろうか。もっと自分が語られてよいと思います自信をもって自分を世にあらわして行くことが大切です。

聖日礼拝も大切、祈祷会も大切、そして教会での奉仕もできる限りする、そしてあれもこれもと責任を持ち、模範的な信徒であるということは理想だと思いますが、その中で家庭が犠牲になったり、一番弱いところにしわ寄せがされることになる、それではいけないと思います。何か一つのことを責任を持ちながら、自分がキリスト者としてふれ合う中で、いつも問題を持ちながら生きること、それが日常生活での期待される信徒の姿だと思うのです。

——以上——

長期応援伝道を省りみて

遠藤純三

五月頃和気、三石両教会のために長期応援伝道の計画が進められて居る話を聞きました。七月の始めに三石教会で伝道委員長の米倉先生と応援伝道に来て戴く山崎教会の嶺重先生と伝道方法その他に付

（以下六頁★印に続く）

伝道部ニュース

地区活動が始まってから一年半が経過し、次第に自主的な地区活動が育てられて来ていますが、その中で新しい変化が出て来たように思われます。

第一に、地区活動が単に集って気勢をあげることだけではなく、何かを生み出そうとしている動きがみられること

第二に、共同で特定の地域又は教会に対して集中的な伝道を目ざしている地区が出て来たこと、又無牧の教会伝道所に具体的な配慮をし始めたことなどでこれらは地区活動の前進であり、これからの地区活動の一つの方向の芽生えであると云えます。こうした現状をふまえて前回(九月)の伝道委員会では、伝道部が今後全体的、長期的に取り組み推進しなくてはならないこととして次の様なことがあげられた。

(一) 地区活動の内容の検討、地区内の小教会、伝道所、無牧教会に目を向け、地区としてどのように考え取り組んで行くか、伝道部として考えるべきである。

(二) 信徒活動のプログラム、信徒、役員の研修、婦人活動、財政と伝道(教会形成)スチワードシップの問題などこれらは伝道部として取り組むべきものである。

(三) 全教会的展望の啓蒙、地区内のことはかなり考えられて来たが、更に、地区間、教区全体の視野に立って働きがなされて行くべきである。

(四) 以上のことを強力に推進して行くために、伝道部の中に常任委員会の様なものおき、執行部の強化がはかられねばならない。

各地区活動のいろいろ

鳥取県東部地区

▽夏期修養会が鳥取県西部地区と合同で開かれた。中学生‖七月二九日より二泊三日、(参加六五名)高校生‖八月五日より二泊三日、(参加五三名)

▽教職研修会(鳥取東西西地区合同)六月十一日・一泊、湖畔荘にて。主題「鳥取県下の伝道推進のために」。参加十五名。

▽相互応援が、智頭、新生、信和、鳥取の各教会で行われ、今後も続行される。

▽集中応援伝道、用瀬教会を対象として実施されている

鳥取県西部地区

▽米子地区CS教師合同教師会。地区婦人会代表者会、地区青年部代表者会などが実施された。

▽各研修会については東部の項参照。

境港市伝道所に対する応援が地区として始められている。

岡山県西部地区

▽地区委員会の組織が整備され、又地区に婦人委員会、青年委員会が組織された。

▽研修会、青年・高校生‖八月四日より二泊三日参加二三名。中学生‖八月二一日二泊三日、参加十一名。

▽靖国神社問題を知る会九月二七日、参加一四名。

▽なを明年三月に地区「合同の集い」を計画している。講師は山下万里氏の予定。

岡山県中部地区

▽牧師会が隔月に開かれている。

▽CS教師研修会、六月二三日、於倉敷、参加四五名。

▽地区婦人の集い、七月一二日、於総社、参加三八名。

▽研修会、高校生‖八月一二日より二泊三日、於豊島、参加二七名。中学生‖八月一九日より二泊三日、参加二二名。

▽CS生徒大会を一二月一日倉敷教会で開催の予定。

岡山県東部地区

▽牧師会を六、七、九月に開催。

▽三石、和気教会の強化を地区として取上げ、地区内教職による毎月一回の応援が行われている。

▽CS教師講習会が十月に二回開催された。

岡山県北部地区

現在のところ具体的な活動は行われていないが、今後諸教会の実状の交換、教区伝道部の協力のもとに地区活動の推進が期待されている。

各委員会の活動

職域伝道(担当脇木寿牧師)

▽牧師労働ゼミナール、十一月十日～十六日まで倉敷水島教会に合宿し、昼間は、川鉄その他の現場で労働し、夜に都市産業伝道についての共同研究を行う、と云う新しい試みを実施した。参加牧師六名、又このプログラムの中で「労ゼミ牧師と信徒の集い」を一夜もうけ、教団以外の近くの教会からの参加者もあり、今後の産業地帯での伝道の重大さが確認された。

婦人伝道委員会報告

全国教区婦人委員講習会が六月十八日―六月二十日まで伊豆天城山荘で開かれ各地区から一名ずつと委員長と合せて七名が出席した主題は〝平和をつくりだす教会婦人〟で各自が様々な理解を以って集ったが、二回の聖研と二日間にわたる講演ゞ懇談で、平和について

★ いて打合せをしました。その時始めて長期応援伝道がどのような事で有るかを知り、平素三、四人の信者で日曜礼拝を守ることがせい一杯である両教会に取りましては実に驚きでありお受け出来るかが心配でした。

八月下旬山崎教会をお訪ねして最後の打合せで日程やらプログラムが決定した時は追つめられた気持でまあ何んとかなるだろうと心を決めて帰りました。

伝道の第一は家庭訪問でこれに主力をそゝぐとのことで訪問先のリストを作るのに一苦労でした。古い教会員やCS関係の写真など出して約三十軒ばかりの訪問予定先を作りました。いよいよ第一週木曜日山崎先生は早朝から約百キロの道をオートバイでやって来られました。

早速家庭訪問、教会員で今は或る新興宗教に入っておられる姉を訪ねました。姉は泣きながら嶺重先生に私の不親切なことを話され、教会員は頼りにならないので新興宗教に入ったら皆んなが親切で自分を慰めて呉れると言うのです。私はずかしくて顔も上げられませんでしたが、私の頭の中には汝の隣人を愛せよと云うキリスト教信仰の第一条とも言うべき聖句が思い出されて一人苦しみました。然し、このことは私一人の問題ではなく、苦しむ者と共に苦しみ泣く者と共に泣く隣人愛の足りなさがキリスト教がのびない原因をしているのではないでしょうか。又個人だけではなく教会間でも言えるのではないでしょうか。

子供の集い、学生の集い、青年の集い、特別伝道集会と予定のプログラムを終了致しましたが、予想以上の盛会で感謝しております。

今回の長期応援伝道に当りまして、兵庫教区から多額の経費の援助を得ました。印刷物の新聞折込やチラシの配付等を致しましてキリスト教を多くの人達の目にふれさした事も成功を招いた一助かと思います。私共の心配しております問題は嶺重先生によって播かれた種を如何にして育てゝ行くかと言うことです。

教区間の諸教会と信者の皆様方の御援助と御加禱をお願い申上げる次第です。関係者の皆様方に厚く感謝致します

の新しい次元を示され、とにかく今年はこの問題と真剣にとりくんでゆこうとの意味をもやされて帰って来た。そして報告会は各地区で或は二地区合同でなされた。

地区別婦人研修会開催

東・北部連合、十月十五日　岡山教会

中、西部連合　十月十六日　倉敷教会

鳥取県東西連合　十月十八日　鳥取教会

主題は各地区とも〝平和をつくりだす教会婦人〟

講師　婦人専門委員会　谷川和子氏

教区牧師夫人に〝牧師夫人生活実態調査報告書〟を(婦人専門委員会が全国の牧師夫人からアンケートをとってまとめたもので、これまで明るみに出なかった諸問題が提供されていて、有益なので)委員会からお贈りする事にした。教会役員の方々にも是非一読をおすゝめする。(教団総務局婦人専門委員会発行　価一部六〇円)

長期応援伝道

和気、三石の両教会は教団伝道委員会の行った長期応援伝道の計画を受入れて実施した。(この項については本紙五頁参照)